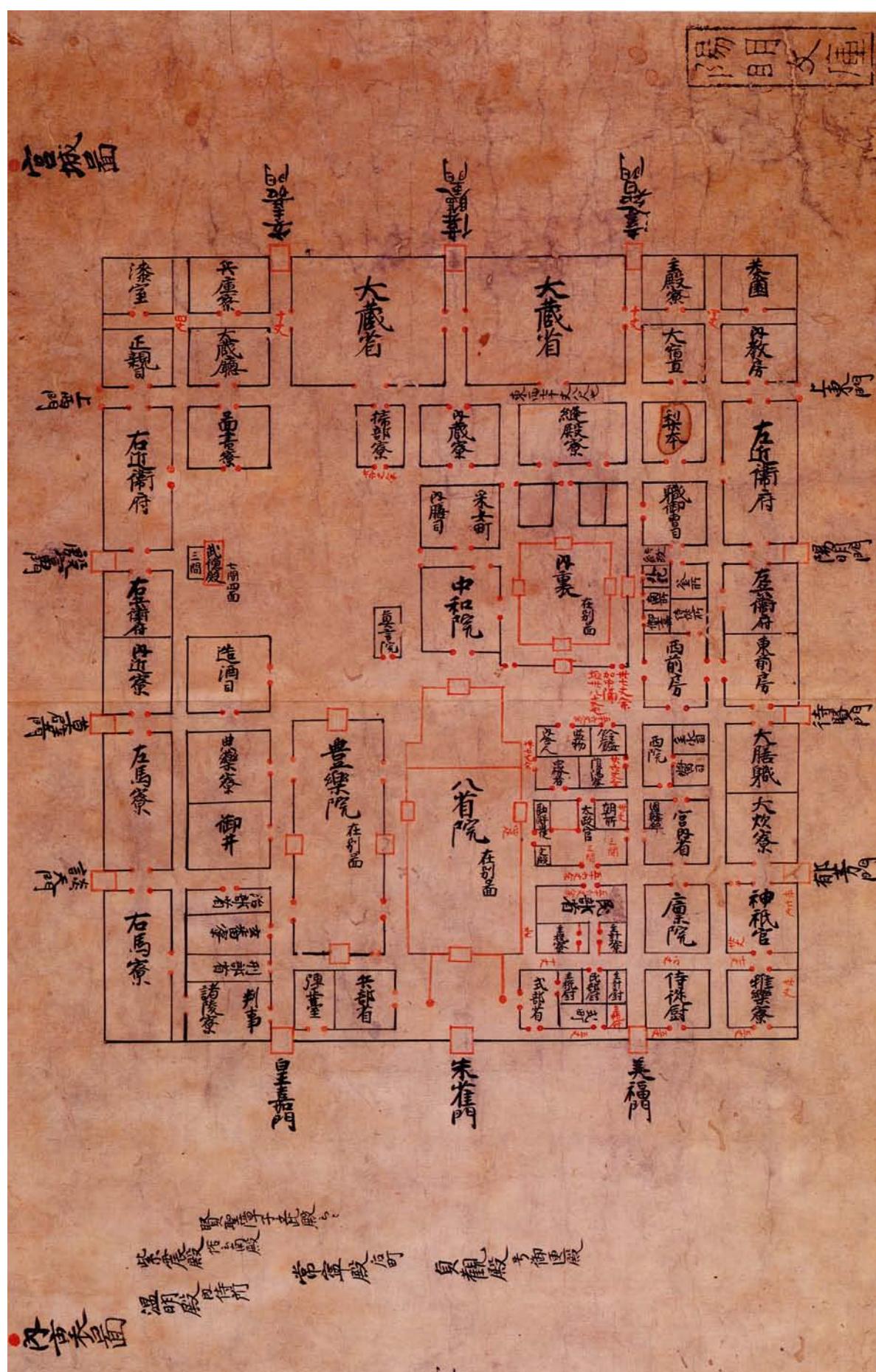


平安宮 I

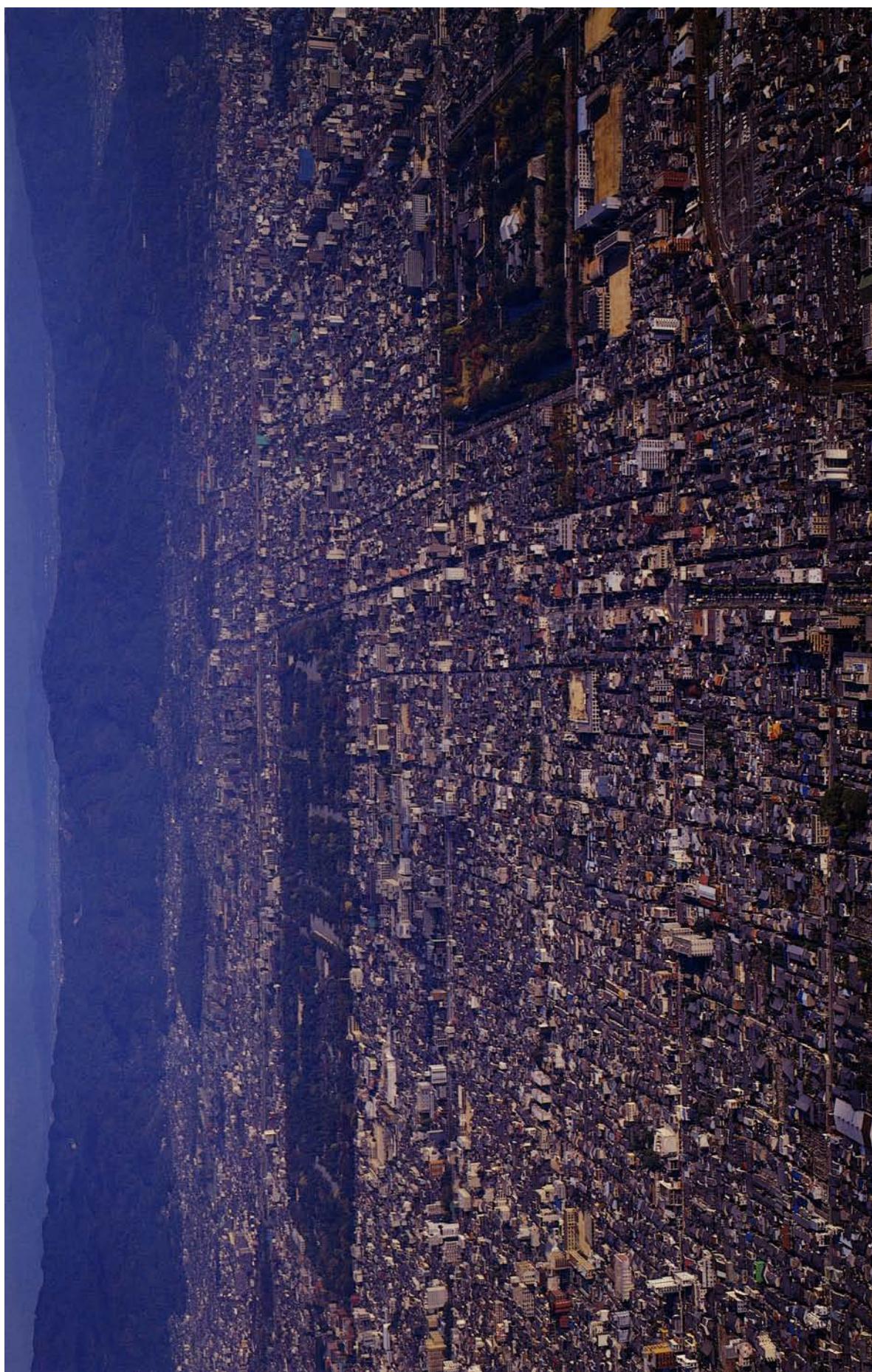
京都市埋蔵文化財研究所調査報告第 13 冊

1995

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



陽明文庫本「宮城図」



平安宮上空より東を望む（1987年撮影）



豊楽院基壇北西部の検出状況（北西から、礎石据付穴は一辺約 2.5 m ある。基壇北縁には中央・西階段が取り付く。豊楽院院調査 1）



1 大極殿院北面回廊の基壇検出状況（北東から、凝灰岩を使用した壇上積基壇、朝堂院調査 24）



2 内裏内郭西面回廊の基壇・雨落溝（北東から、地覆石は凝灰岩、雨落溝は川原石を用いる。内裏調査 7）

序

今年度は平安京に遷都されてから 1200 年を迎える、京都府・市を挙げて数多くの遷都に関わる事業が催されています。当研究所ではこの記念すべき年に、都城の変遷ならびに比較研究史についてのシンポジウム、市民と共に京都市域に展開する文化財をさらに深く親しむべくウォークラリーなどの事業を実施いたしました。さらに市民に対する埋蔵文化財の普及啓発活動として当研究所がこれまで関わってきました講座「文化財講座」や刊行物「リーフレット京都」では都城についての特集を組み、多くの关心を集めています。

この記念すべき年の棹尾を飾る事業としまして、ここに平安宮跡の調査報告書「平安宮 I」を刊行するものであります。

周知のように、平安宮跡は稠密な市街地の下に遺存しております。従いまして、個別単位の開発に対して各調査地点の調査面積は自ずと狭小なものが大半であり、溝や建物など、一つの遺構を追求するにも複数の調査を待たなければならない状況にあります。また、調査成果が蓄積されるに従って、各遺構の有機的な位置づけが急務となり、それまでの遺構復原の方法の一つでありました地図上の復原ではなく座標数値によって復原することを主要な目的とする平面直角座標系の導入を図りました。それによって遺構の正確な位置がわかり、遺構相互を有機的に捉えることができ、遺跡から平安宮を復原する土台を整えることが可能となりました。

「平安宮 I」では昭和 51 年 (1976) の発足以来、当研究所が実施いたしました平安宮跡の調査成果を網羅しており、研究成果の一端を示すものであります。現在も平安宮の調査は継続されており、近年におきましても大極殿、豊楽院、内裏内郭回廊など平安宮の中核的施設に伴う遺構を検出するなど、次々と新たな調査成果を挙げております。これら最新の調査成果につきましてもできるかぎり当報告書に盛り込み、高まりつつある都城研究に対してさらに充実した考古資料を提示できるものと考えております。この報告書の刊行が平安宮研究の一助になれば誠に幸いに存じます。

なお、この機会に日頃本研究所の埋蔵文化財の調査、研究などに対して多大なる協力を頂いています京都市ならびに関係諸機関、および市民の方々に厚くお礼申し上げますと同時に、今後も当研究所の活動にさらなるご理解、ご協力頂きますようお願い申し上げます。

1995 年 3 月 31 日

財団法人京都市埋蔵文化財研究所
所長 川上貢

例　　言

- 1 本書は、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が平安宮跡において昭和51年(1976)から平成7年(1995)3月までに実施した発掘・試掘・立会調査のうち、遺構を中心に編集した調査報告書である。
- 2 図中の方位・座標値は、平面直角座標系VIによる。ただし、単位(m)を省略している。
座標および標高は、京都市遺跡測量基準点と京都市水準点を使用した。なお、昭和59年(1979)以前の調査には京都市遺跡測量基準点に取り付けていないものもある。
- 3 本書で使用した地図は、京都市長の承認を得て同市発行の都市計画基本図(1/2,500)「聚楽廻」・「壬生」を複製して調整したものである。
- 4 本書中の写真は、遺構の大半と遺物を牛嶋 茂(現奈良国立文化財研究所)・村井伸也・幸明綾子が撮影し、遺構の一部は調査担当者が撮影した。
- 5 本書の原稿執筆者は以下のとおりである。(章-節-項)
永田信一(1-II、2-I)　辻 純一(1-III、3-I、4-I、4-II)
高橋 潔(2-II、4-III、付章32)　鈴木久男(3-II、付章41)　丸川義広(3-III)
辻 裕司(3-IV-1、3-IV-2、3-IV-5、付章15・24)
木下保明(3-IV-3、3-IV-7、付章1・3・18・33・35)
本 弥八郎(3-IV-4、付章2・40・42・43)
鈴木廣司(3-IV-6、3-IV-8、付章4・6・8・10)
平田 泰(付章5・7・14・17・23・26・27・28・31・39)　磯部 勝(付章9)
吉村正親(付章11・34・37)　堀内明博(付章12・25)　上村和直(付章13・29・30)
前田義明(付章16)　近藤知子(付章19・20)　伊藤 潔(付章21・44・45)
菅田 薫(付章22)　久世康博(付章36)　百瀬正恒(付章38)
英文要旨はモンペティ恭代が作成し、京都外国语大学助教授スチュワート・A・ワックス氏に協力頂いた。
- 6 本書の作成には以下の職員が協力した。
製図 出水みゆき 桜井みどり 田中利津子
製図協力 多田清治 村上 勉
資料作成 端美和子
- 7 本書の編集・調整は、辻 純一が中心を行い、辻 裕司と丸川義広が実務を分担し、鈴木久男・永田信一・本弥八郎・中村 敦・鈴木廣司・木下保明・高橋 潔が作業協力した。
- 8 平安宮跡の調査ならびに本書の作成には研究所職員全員の参加があった。また、本書作成に至る18年間にはさらに多くの人々の参加・協力があったことを記して感謝したい。
- 9 本書の作成にあたっては、財団法人陽明文庫より『宮城図』の撮影ならびに掲載にあたり多大な協力を頂き、また、以下の方々の協力、助言を得たことを記し、あわせて感謝したい。
財団法人古代学協会・古代学研究所 家崎孝治 梶川敏夫 橋本清一 名和 修(敬称略)

目 次

第1章 平安宮跡調査の沿革	1
I 『平安宮 I』の作成について	1
II 研究所発足前の調査	2
III 研究所発足後の調査	5
第2章 平安宮跡の立地と造営以前の遺跡	7
I 平安宮跡の立地	7
II 平安宮造営以前の遺跡	11
第3章 平安宮跡の調査	26
I 朝堂院跡	26
II 豊楽院跡	36
III 内裏跡	48
IV 諸官衙跡	64
1 太政官跡	64
2 中務省跡	76
3 民部省跡	93
4 造酒司跡	97
5 中央官衙群跡	113
6 北方官衙群跡	117
7 東方官衙群跡	120
8 西方官衙群跡	125
第4章 考 察	129
I 平安宮の復原	129
II 平安宮の変遷	134
III 地形断面からみた省庁の占地	138
付章 未報告調査の概要	141
I 発掘調査	141
1 縫殿寮跡	141
2 造酒司跡	141
3 西院跡	142
4 漆室跡	143

5	正親司跡	143	14	朝堂院跡	151
6	主殿寮跡	145	15	中務省跡	152
7	図書寮跡	145	16	太政官跡	153
8	茶園跡	146	17	朝堂院跡	155
9	御井跡	147	18	中務省 - 大炊寮跡	156
10	豊楽院跡	148	19	左馬寮跡	159
11	内蔵寮跡	148	20	中務省跡	160
12	朝堂院跡	149	21	豊楽院跡	161
13	大蔵省跡	151			
II 試掘・立会調査					162
22	宮南東部	162	34	中務省跡	169
23	典薬寮跡	162	35	治部省 - 判事跡	170
24	縫殿寮跡	163	36	内匠寮・造酒司跡	170
25	大蔵省跡	163	37	内裏跡	171
26	宮南東部	164	38	朝堂院 - 式部省跡	172
27	御井跡	164	39	二条大路跡	172
28	内裏跡	165	40	中和院 - 内蔵寮跡	173
29	宴松原・造酒司跡	166	41	朝堂院跡	176
30	豊楽院跡	166	42	朝堂院 - 内膳司跡	176
31	宮内省 - 主水司跡	167	43	大蔵省跡	177
32	朝堂院・太政官・中務省跡	167	44	豊楽院 - 治部省跡	177
33	東雅院・大膳職跡	169	45	朝堂院 - 内蔵寮跡	178
付 表					180
英文要旨					223

図版目次

- カラー図版 1 陽明文庫本「宮城図」
- カラー図版 2 平安宮上空より東を望む(1987年撮影)
- カラー図版 3 豊楽殿基壇北西部の検出状況
- カラー図版 4 1 大極殿院北面回廊の基壇検出状況
2 内裏内郭西面回廊の基壇・雨落溝
- 図版 1 調査地点位置図 1
- 図版 2 調査地点位置図 2
- 図版 3 調査地点位置図 3
- 図版 4 調査地点位置図 4
- 図版 5 調査地点位置図 5
- 図版 6 調査地点位置図 6
- 図版 7 朝堂院跡遺構配置図 1
- 図版 8 朝堂院跡遺構配置図 2
- 図版 9 朝堂院跡遺構配置図 3
- 図版 10 豊楽院跡遺構配置図
- 図版 11 内裏跡遺構配置図 1
- 図版 12 内裏跡遺構配置図 2
- 図版 13 内裏跡遺構配置図 3
- 図版 14 太政官跡遺構配置図
- 図版 15 中務省跡遺構配置図
- 図版 16 航空写真 1 平安宮跡の垂直写真(1990年撮影)
- 図版 17 航空写真 2 平安宮跡上空から南を望む(1978年撮影)
- 図版 18 朝堂院跡 1 1 調査 1 全景(北西から)
2 同 朝堂院北面・東面回廊隅部(南から)
- 図版 19 朝堂院跡 2 1 調査 5 全景(東から)
2 同 宣政門東階段検出状況(東から)
3 同 宣政門西縁(北東から)
- 図版 20 朝堂院跡 3 1 調査 17 全景(東から)
2 同 集石部近景(東から)
- 図版 21 朝堂院跡 4 1 調査 24 大極殿院北面回廊の基壇北縁・壇上積基壇(北西から)
2 同 全景(西から)
- 図版 22 朝堂院跡 5 1 調査 25 全景(西から)

- 2 同 大極殿院北面回廊の基壇南縁近景（南から）
- 図版 23 朝堂院跡 6 1 調査 27 全景（北から）
2 同 大極殿東軒廊基壇北縁近景（北から）
- 図版 24 朝堂院跡 7 1 調査 31 大極殿院北面回廊基壇北縁（北から）
2 同 大極殿基壇南縁（東から）
- 図版 25 豊楽院跡 1 1 調査 1 全景（北西から）
2 同 豊楽殿北側の検出状況（北西から）
- 図版 26 豊楽院跡 2 1 調査 1 北廊（西から）
2 同 土壙 3 と甃敷（北西から）
- 図版 27 豊楽院跡 3 1 調査 1 豊楽殿北縁西階段（北から）
2 同 豊楽殿北縁中央間階段（北から）
- 図版 28 豊楽院跡 4 1 調査 1 豊楽殿北縁基壇化粧（北東から）
2 同 豊楽殿北縁基壇化粧（西から）
- 図版 29 豊楽院跡 5 1 調査 1 豊楽殿礎石根固め（ハ）（北から）
2 同 豊楽殿礎石根固め（ロ）の版築（北から）
3 同 豊楽殿礎石根固め（イ）（南東から）
- 図版 30 豊楽院跡 6 1 調査 1 豊楽殿北縁西階段の版築（西から）
2 同 豊楽殿基壇の版築（北東から）
3 同 北廊基壇の版築（南西から）
- 図版 31 豊楽院跡 7 1 調査 1 豊楽殿北縁中央間階段の化粧石抜き取り状況（北西から）
2 同 豊楽殿北縁中央間階段取り壊し後の整地（北西から）
- 図版 32 豊楽院跡 8 1 緑釉鶴尾
2 鬼瓦
- 図版 33 豊楽院跡 9 1 調査 2 全景（北から）
2 調査 3 豊楽院東面築地内溝（南西から）
- 図版 34 豊楽院跡 10 1 調査 7 全景（北東から）
2 同 延石検出状況（北東から）
3 調査 9 調査風景（東から）
4 同 凝灰岩切石列検出状況（北から）
- 図版 35 内裏跡 1 1 調査 1 全景（北から）
2 調査 3 全景（北から）
- 図版 36 内裏跡 2 1 調査 4 登華殿東雨落溝と土壙（北から）
2 調査 5 全景（南から）
3 同 SK01 土器出土状況（西から）
- 図版 37 内裏跡 3 調査 7 内裏内郭西面回廊の基壇地覆石と東雨落溝（北から）

- 図版 38 内裏跡 4 1 調査 7 東雨落溝の断割（南から）
 2 同 基壇地覆石と東雨落溝（南東から）
 3 調査 10 全景（北から）
- 図版 39 内裏跡 5 1 調査 8 全景（東から）
 2 同 内裏内郭南面回廊下の暗渠（南東から）
- 図版 40 内裏跡 6 調査 9 藏人町屋の建物と南雨落溝（南から）
- 図版 41 内裏跡 7 1 調査 9 南雨落溝（北西から）
 2 同 建物基壇と南雨落溝（北から）
 3 同 南雨落溝と東雨落溝の交差状況（西から）
- 図版 42 内裏跡 8 1 調査 11 全景（北から）
 2 同 承明門の北雨落溝（北西から）
- 図版 43 内裏跡 9 1 調査 11 地鎮遺構 76(北から)
 2 同 地鎮遺構 78(東から)
 3 同 地鎮遺構 83(北西から)
 4 同 地鎮遺構 87(東から)
- 図版 44 内裏跡 10 1 調査 17 全景（北から）
 2 調査 18 全景（東から）
- 図版 45 内裏跡 11 1 調査 19 全景（西から）
 2 調査 20 全景（東から）
- 図版 46 内裏跡 12 1 調査 22 全景（北から）
 2 調査 27 全景（南から）
- 図版 47 内裏跡 13 1 調査 27 掘込地業（南東から）
 2 調査 6 調査風景（東から）
 3 調査 6-2 石敷遺構検出状況（東から）
 4 調査 6-3 凝灰岩検出状況（南から 9）
 5 調査 6-11 石敷遺構検出状況（東から）
- 図版 48 内裏跡 14 1 調査 12 調査風景（東から）
 2 調査 12-4 凝灰岩検出状況（北西から）
 3 調査 12-6 石組遺構検出状況（南東から）
 4 調査 12-7 石組遺構検出状況（南東から）
 5 調査 13 調査風景（南東から）
 6 調査 13-1 凝灰岩検出状況 8 北から
 7 調査 28 調査風景（西から）
 8 調査 28-1 凝灰岩検出状況（北から）
- 図版 49 太政官跡 1 1 調査 1 全景（西から）

- 2 調査2 全景(南東から)
- 図版50 太政官跡2 1 調査3 東調査区全景(南から)
2 同 西調査区全景(東から)
- 図版51 太政官跡3 1 調査4 全景(東から)
2 同 溝SD05近景(東から)
- 図版52 太政官跡4 1 調査5 全景(北から)
2 同 落込SX2瓦出土状況(北東から)
- 図版53 太政官跡5 1 調査8 全景(北から)
2 同 溝14 完掘状況(北東から)
3 同 路面2検出状況(北東から)
- 図版54 太政官跡6 1 調査9 全景(北から)
2 同 築地1近景(西から)
- 図版55 太政官跡7 1 調査11 全景(北から)
2 同 溝SD69遺物出土状況(北東から)
- 図版56 中務省跡1 1 調査1 全景(南から)
2 調査2 全景(南から)
- 図版57 中務省跡2 調査3 全景(南から)
- 図版58 中務省跡3 1 調査5 全景(南から)
2 調査7 全景(北から)
- 図版59 中務省跡4 1 調査8 全景(北から)
2 同 瓦出土状況(北から)
- 図版60 中務省跡5 1 調査9 全景(北から)
2 同 調査区西部近景(北東から)
3 同 瓦溜SK4検出状況(北西から)
- 図版61 中務省跡6 1 調査10 監物-鈴鑰間の築地全景(北から)
2 同 築地および溝2・3(南東から)
- 図版62 中務省跡7 1 調査11 全景(北から)
2 同 瓦出土状況(北東から)
3 同 土壙SK12土器出土状況(北から)
- 図版63 中務省跡8 1 調査12 監物西面築地全景(北から)
2 同 下層築地全景(北から)
- 図版64 中務省跡9 1 調査12 暗渠SX6上層(北東から)
2 同 暗渠SX6下層(南から)
- 図版65 中務省跡10 1 調査13 全景(北から)
2 調査14 全景(北から)

- 図版 66 中務省跡 11 1 調査 15 1面全景（西から）
2 同 溝4および柱穴（北東から）
3 同 溝1・2検出状況（南東から）
- 図版 67 中務省跡 12 1 調査 16 全景（西から）
2 調査 17 第2遺構面全景（南から）
- 図版 68 中務省跡 13 1 調査 18 全景（北から）
2 調査 19 全景（北から）
- 図版 69 民部省跡 1 調査 2 全景（東から）
- 図版 70 民部省跡 2 1 調査 2 民部省の南西隅部（北西から）
2 同 南面築地の西端部と暗渠（東から）
- 図版 71 民部省跡 3 1 調査 2 南面築地全景（西から）
2 同 南面築地外の瓦出土状況（東から）
3 同 西面築地外溝断面（南から）
- 図版 72 造酒司跡 1 1 調査 1 南西部全景（北から）
2 調査 2 西半部全景（北から）
- 図版 73 造酒司跡 2 1 調査 3 全景（北西から）
2 同 西半部（東から）
- 図版 74 造酒司跡 3 1 調査 3 道路 SF1 検出状況（北東から）
2 同 溝 SD2 検出状況（北東から）
- 図版 75 造酒司跡 4 1 調査 4 1区全景（北東から）
2 同 2区東半全景（南から）
- 図版 76 造酒司跡 5 1 調査 4 2区北東部全景（南から）
2 同 2区北部全景（東から）
- 図版 77 造酒司跡 6 1 調査 4 1区西部全景（北から）
2 同 1区中央部全景（西から）
- 図版 78 造酒司跡 7 1 調査 4 建物 SB1（北から）
2 同 建物 SB1 の柱穴（ロ、東から）
3 同 建物 SB1 の柱穴（ハ、北から）
- 図版 79 造酒司跡 8 1 調査 4 道路 SF1 東半（東から）
2 同 道路 SF1 西半（東から）
- 図版 80 造酒司跡 9 1 調査 4 杭列（東から）
2 同 溝 SD2（北東から）
- 図版 81 造酒司跡 10 1 調査 5 全景（東から）
2 同 建物 SB3（東から）
- 図版 82 造酒司跡 11 1 調査 5 建物 SB4・5（東から）

- 2 同 溝 SD4(南から)
- 図版 83 造酒司跡 12 1 調査 5 土壙 SK22 遺物出土状況(北から)
2 同 土壙 SK23(南から)
- 図版 84 造酒司跡 13 1 調査 6 1区溝 SD4(南から)
2 同 2区溝 SD2(北から)
- 図版 85 東方官衙群跡 1 1 調査 4 全景(北から)
2 調査 11 全景(東から)
- 図版 86 西方官衙群跡 1 1 調査 1 全景(東から)
2 調査 2 全景(東から)
- 図版 87 西方官衙群跡 2 1 調査 3 全景(東から)
2 調査 11 全景(西から)
- 図版 88 付章 1 1 正親司跡 全景(付章 5、西から)
2 図書寮跡 全景(付章 7、北西から)
- 図版 89 付章 2 1 御井跡 2区全景(付章 9、北から)
2 豊楽院跡 全景(付章 10、北東から)
- 図版 90 付章 3 1 中務省跡 全景(付章 15、南から)
2 同 土壙 12(南東から)
3 同 南拡張区(東から)
- 図版 91 付章 4 1 太政官跡 全景(付章 16、東から)
2 同 土壙 47 瓦出土状況(北東から)
- 図版 92 付章 5 太政官跡(付章 16) 土壙 47 出土軒瓦
- 図版 93 付章 6 1 中務省 - 大炊寮跡 1区全景(付章 18、東から)
2 同 瓦溜(北東から)
- 図版 94 付章 7 1 中務省 - 大炊寮跡 7区全景(付章 18、東から)
2 同 2区全景(西から)
3 同 4区全景(東から)
- 図版 95 付章 8 1 中務省跡 東面築地 全景(付章 20、北から)
2 内蔵寮跡 南面築地(付章 45 の 18・19 トレンチ、北から)
3 朝堂院跡 北面回廊南縁の溝(付章 45 の 6 トレンチ、北から)
- 図版 96 宮城図 1 陽明文庫本「八省院図」
- 図版 97 宮城図 2 陽明文庫本「豊楽院図」
- 図版 98 宮城図 3 陽明文庫本「内裏図」
- 図版 99 宮城図 4 陽明文庫本「中和院」

図 目 次

図 1 平安宮区分概念図	1	図 33 調査 5 調査区実測図	29
図 2 京城現地形等高線図	7	図 34 調査 24 調査区実測図	30
図 3 宮城現地形等高線図	8	図 35 調査 24 基壇縁実測図	30
図 4 宮城旧地形等高線図	9	図 36 調査 25 調査区実測図	31
図 5 下層遺跡調査位置図	11	図 37 調査 27 調査区実測図	32
図 6 調査 2 調査区実測図	12	図 38 調査 31-7 調査区平面図	32
図 7 調査 2 溝出土土器	12	図 39 調査 31-1 調査区平面図	32
図 8 調査 3 調査区平面図	13	図 40 調査 24 基壇整地層出土土器	33
図 9 調査 4 調査区平面図	13	図 41 大極殿院北面回廊遺構配置図	35
図 10 調査 4 SK29 出土土器	14	図 42 豊楽殿の復原と調査区配置図	37
図 11 調査 5 出土土器	14	図 43 調査 1 壇上積基壇実測図	38
図 12 調査 6 2・4 区実測図	14	図 44 調査 1 壇上積基壇部材拓影	38
図 13 調査 7 SX1 断面図	15	図 45 調査 1 北廊西側甄敷実測図	39
図 14 調査 7 SX1 出土土器	15	図 46 調査 1 調査区実測図	40
図 15 調査 8 古墳時代溝断面図	15	図 47 調査 1 豊楽殿基壇断面図	41
図 16 調査 9 SK60 出土土器	15	図 48 調査 1 豊楽殿・北廊断面図	42
図 17 調査 10 調査区平面図	15	図 49 調査 1 土壙 3 出土土器	43
図 18 調査 10 住居 88 出土土器	16	図 50 調査 2 調査区実測図	43
図 19 調査 11 調査区平面図	16	図 51 調査 3 調査区実測図	43
図 20 調査 13 調査区実測図	16	図 52 調査 9 凝灰岩略測図	45
図 21 調査 14 住居 37 平面図	17	図 53 調査 1 出土土器	45
図 22 調査 14 住居 37 出土土器	17	図 54 調査 1 出土鬼瓦	46
図 23 調査 17 壁穴住居平面図	17	図 55 調査 1 出土鷦尾	46
図 24 調査 19 調査区平面図	18	図 56 A 地点出土垂木先金具	47
図 25 調査 20 SD36 実測図	18	図 57 内裏内郭調査区実測図(1)	49
図 26 調査 21 調査区平面図	18	図 58 内裏内郭調査区実測図(2)	51
図 27 調査 23 調査区平面図	19	図 59 中和院調査区実測図(1)	53
図 28 調査 25 調査区平面図	19	図 60 中和院調査区実測図(2)	54
図 29 調査 26 溝状落込断面図	20	図 61 遺構の遺存状況	58
図 30 調査 27 調査区平面図	20	図 62 内裏南西部復原図	59
図 31 遺構・遺物検出地点分布図	22	図 63 石敷雨落溝の集成	60
図 32 調査 1 調査区実測図	27	図 64 調査 1 調査区実測図	65

図 65	調査 2 調査区実測図	65	図 100	調査 2 SD11 出土土器	95
図 66	調査 3 調査区平面図	65	図 101	民部省跡遺構配置図	96
図 67	調査 4 調査区実測図	66	図 102	調査 1 調査区平面図	98
図 68	調査 5 調査区実測図	66	図 103	調査 2 調査区平面図	98
図 69	調査 8 調査区実測図	67	図 104	調査 3 調査区平面図	99
図 70	調査 9 調査区実測図	68	図 105	調査 4 調査区平面図	100
図 71	調査 11 調査区実測図	68	図 106	調査 5 調査区平面図	101
図 72	調査 3 出土土器	71	図 107	調査 6 調査区平面図	101
図 73	太政官復原模式図	74	図 108	建物 SB1 実測図	102
図 74	調査 1 調査区実測図	77	図 109	建物 SB3 実測図	102
図 75	調査 2 調査区平面図	77	図 110	建物 SB4・5 実測図	103
図 76	調査 3 調査区実測図	78	図 111	柵 SA2 実測図	103
図 77	調査 5 調査区実測図	78	図 112	溝 SD2 と杭列平面図	104
図 78	調査 7 調査区実測図	79	図 113	溝 SD2 断面図	104
図 79	調査 8 調査区実測図	79	図 114	溝 SD4 断面図	105
図 80	調査 9 調査区実測図	80	図 115	調査 5 土壙・溝実測図	106
図 81	調査 10 調査区平面図	80	図 116	出土瓦拓影	106
図 82	調査 11 調査区実測図	81	図 117	土壙 SK5 出土土器	107
図 83	調査 12 調査区実測図	82	図 118	溝 SD2 出土土器	108
図 84	調査 13 調査区実測図	83	図 119	土壙 SK12・22・23 出土土器	109
図 85	調査 14 調査区実測図	83	図 120	造酒司跡遺構配置図	111
図 86	調査 15 調査区実測図	83	図 121	調査 1 調査区実測図	113
図 87	調査 16 調査区実測図	84	図 122	調査 2 調査区実測図	113
図 88	調査 17 調査区実測図	84	図 123	調査 3 調査区実測図	114
図 89	調査 18 調査区実測図	85	図 124	内蔵寮跡遺構配置図	116
図 90	調査 19 調査区実測図	85	図 125	調査 8 調査区平面図	119
図 91	調査 21 調査区平面図	86	図 126	調査 9 調査区平面図	119
図 92	中務省復原模式図	90	図 127	調査 4 調査区実測図	121
図 93	建物 1	91	図 128	調査 7 遺構配置図	122
図 94	建物 8	91	図 129	調査 11 調査区平面図	122
図 95	建物 7	91	図 130	東方官衙群跡南部遺構配置図	124
図 96	建物 2	91	図 131	調査 1 調査区平面図	125
図 97	建物 5・6	91	図 132	調査 2 調査区平面図	125
図 98	調査 1 調査区実測図	93	図 133	調査 3 調査区平面図	126
図 99	調査 2 調査区実測図	94	図 134	調査 11 調査区平面図	127

図 135	朝堂院復原図	130
図 136	平安時代遺構検出地点分布図	134
図 137	遺構検出地点分布図（前期）	135
図 138	遺構検出地点分布図（中期）	136
図 139	遺構検出地点分布図（後期）	137
図 140	平安宮地形断面図	139
図 141	付章 2 調査位置図	142
図 142	付章 3 調査区平面図	143
図 143	付章 4 調査区平面図	143
図 144	付章 5 調査区平面図	144
図 145	付章 6 調査区平面図	145
図 146	付章 7 調査区平面図	145
図 147	付章 8 1区平面図	146
図 148	付章 9 調査区平面図	147
図 149	付章 10 調査区平面図	148
図 150	付章 11 調査区平面図	148
図 151	付章 12 調査区実測図	149
図 152	付章 12 SK06 実測図	150
図 153	付章 14 調査区平面図	151
図 154	付章 15 調査区実測図	152
図 155	付章 15 土壙 12 平面図	152
図 156	付章 16 調査区平面図	153
図 157	付章 16 土壙 47 出土軒瓦	154
図 158	付章 17 調査区平面図	155
図 159	付章 18 1区平面図	156
図 160	付章 18 2区平面図	156
図 161	付章 18 3区平面図	157
図 162	付章 18 5区平面図	157
図 163	付章 18 4区平面図	157
図 164	付章 18 6区平面図	158
図 165	付章 18 7区平面図	158
図 166	付章 18 7区溝出土土器	158
図 167	付章 19 遺構配置図	159
図 168	付章 20 調査区実測図	160
図 169	付章 21 調査区平面図	161
図 170	付章 22 調査位置図	162
図 171	付章 26 調査位置図	164
図 172	付章 27 調査区配置図	164
図 173	付章 28 調査位置図	165
図 174	付章 29 調査位置図	166
図 175	付章 30 調査位置図	166
図 176	付章 31 調査位置図	167
図 177	付章 32 調査位置図	168
図 178	付章 33 調査位置図	169
図 179	付章 34 調査位置図	169
図 180	付章 35 調査位置図	170
図 181	付章 36 調査位置図	170
図 182	付章 37 調査位置図	171
図 183	付章 38 調査位置図	172
図 184	付章 39 調査位置図	172
図 185	付章 40 調査位置図	173
図 186	付章 40 西壁断面模式図	174
図 187	付章 41 調査位置図	176
図 188	付章 42 調査位置図	176
図 189	付章 43 調査位置図	177
図 190	付章 44 調査位置図	177
図 191	付章 45 調査位置図	179
図 192	付章 45 遺構配置図	179
図 193	平安宮図	222
Fig. 194	Location of the Heian Capital	239
Fig. 195	Map of the Heian Imperial Palace	242
Fig. 196	Kidan (Foundation Platform) Illustration	244

写 真 目 次

写真 1 調査 3 明礼堂階段部検出状況（西から）	28
写真 2 調査 1 調査風景（西から）	37
写真 3 調査 1 土壌 3 検出状況（南西から）	43
写真 4 調査 2 凝灰岩検出状況（西から）	49
写真 5 調査 14 全景（北東から）	52
写真 6 調査 21 全景（東から）	54
写真 7 調査 26 調査風景（北から）	55
写真 8 朝堂院北東隅部の書き込み（陽明文庫本）	131

表 目 次

表 1 平安宮域における試掘・立会調査年度別件数	6
表 2 平安宮周辺の遺構・遺物検出地点一覧表	23
表 3 朝堂院検出遺構一覧表	34
表 4 調査 12 主要遺構検出地点	70
表 5 調査 22 主要遺構検出地点	86

付 表 目 次

付表 I 調査一覧表	180
付表 II 文献一覧表	208
付表 III 省庁の名称と職掌	220

第1章 平安宮跡調査の沿革

I 『平安宮 I』の作成について

1 報告書作成の経緯

都城研究の上で平安京跡の考古学的成果は、今日欠くことのできないものとなっている。文献史料が豊富な平安京跡にあっても、埋蔵文化財調査からは貴重な知見が多数得られるからである。当研究所は昭和51年(1976)11月の設立以来、京都市街地に重複する平安宮・京跡を中心に調査してきた。中でも平安宮跡では、朝堂院、豊楽院、内裏、その他諸官衙の配置が復原可能となるほど資料が増加しつつある。

おりしも、平成6年(1994)は平安京遷都1200年目の年にあたる。当研究所はこれまでに平安宮跡で実施した調査成果を集約し、一冊の報告書として刊行することが節目のこの年にふさわしい事業内容であると考えた。報告書という形で、豊富な考古学的資料を提示することが、平安宮・京の研究を進展させるとともに、当研究所設立の趣意にも沿う事業であると考えたためである。

報告書の作成にあたっては、内部に編集委員会を設け、以下の点に留意して編集を進めた。

- ① 当研究所が過去平安宮跡で実施したすべての調査成果を網羅すること。
- ② 遺構を中心として編集し、報告すること。
- ③ 整理にあたっては発掘・試

- 掘・立会調査の成果を相互に
関連させること。
- ④ 遺構の時期、変遷が追える形
で整理すること。
 - ⑤ 調査データから旧地形を復原
し、平安宮の立地を理解する
こと。

2 作成経過

作成にあたっては、まず平安宮内を朝堂院跡、豊楽院跡、内裏跡、その他諸官衙跡として、太政官跡・中務省跡・民部省跡・造酒司跡・中央官衙群跡・北方官衙群跡・東方官衙群跡・西方官衙群跡の11区域に分割した。分割した各区域には各自に担当者を置き、担当者が整理作業を通



図1 平安宮区分概念図

じて、原稿執筆・図版作成を行うこととした。ただし、過去18年間には多数の職員が調査に関係してきたため、調査関係者との意見集約の場を持った。また、過去の未報告調査、ならびに最新の調査成果に関しては、本書の付章に収録することとし、調査担当者が原稿執筆と製図を行った。

編集委員会は平成6年(1994)秋以降、定期的に開催し、作業の進捗状況を検討した。特に平成7年(1995)2月以降は専従者をおいて実務作業の進展に努め、5月中にすべての作業が終了した。

3 報告書の構成

- ① 記述にあたっては、既報告のものは詳述を避けた。過去ならびに最近の未報告調査は付章に収録した。ただし、造酒司跡は大半が未報告であり、重複を避けるため第3章で扱った。
- ② 出土遺物の扱いは、既報告のものは必要最小限にとどめた。
- ③ 土器の年代観に関しては、『平安京右京三条三坊』(京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 1990年)、『平安京提要』「土器と陶磁器」(財団法人古代学協会・古代学研究所 1994年)によった。
- ④ 調査地点の表記は、各区域ごとに通し番号で示し、付表I調査一覧表・付表II文献一覧表の番号と対応させた。例:調査○(付表Iの番号 付表IIの番号 図版の番号)
- ⑤ 掲載した遺構実測図のうち既報告のものはそのまま製図し、遺構番号もそのまま用いた。
- ⑥ 卷末の付表I調査一覧表、ならびに付表II文献一覧表は年代順に示し、平成6年(1994)12月までのものを収録した。

II 研究所発足前の調査

1 昭和20年(1945)まで

遺跡が平安宮を研究する上で欠かすことのできないという認識は、『考古学会雑誌』が発刊される明治29年(1896)頃にはすでに生まれており、この学会の「考古学会趣意書」に認められる。しかし、実際に発掘調査が行われるのは遅く、組織的、かつ継続的に発掘調査が行われるようになるのは、60年余り後の昭和34年(1959)以後のことである。その間の宮跡調査は、遺物採集、もしくは工事途中で発見された遺構を臨時に発掘調査し、記録にとどめる程度であった。

しかし、宮跡の調査・研究を進める上で先駆的な役割を果たした研究が皆無であったということではない。まず、明治28年(1895)に刊行された『平安通志^{文4}』をあげることができる。宮の構成、配置を定めるには、正確な位置復原図を作成する必要があり、すでに指図と文献史料の解釈から平安宮・京の復原は、裏松固禪によって江戸時代の後期頃にはなされていたが、造営尺を割り出し、近代的な測量に基づいた地図上に平安宮・京の位置を復原したのは『平安通志』が初めてである。地図上に平安宮・京跡の位置を復原する方法は、それ以後、平安宮・京復原の基本になっている。

先駆的な発掘調査としては、昭和3年(1928)に上京区千本丸太町西入聚楽廻西町で、丸太町通りの拡幅工事のおり凝灰岩がみつかり基壇が調査され、多量の瓦が出土した事例がある。^{文66} この基壇は豊樂院に関する基壇と推定されたが、院内の建物名まで推定するには至らなかった。どちら

かといえば瓦の採集に力点が置かれていた感がする。

明治後半以後、平安宮跡の古瓦採集が注目され、『考古界』や『考古学雑誌』などの紙面上に紹介されるようになる。昭和になってもこの傾向は続き、瓦の採集が盛んに行われている。左京区の岩倉盆地を踏査し、幡枝の瓦窯を発見されたのは故木村捷三郎氏である。後に『延喜式』木工寮の記載内容と照らし合わせることにより、窯跡が、「栗栖野瓦屋」であることを証明された。^{文22} この研究成果に基づき、栗栖野瓦屋の発掘調査が昭和3年(1928)から昭和8年(1933)にかけて実施され、^{註1} 発掘調査によって出土した瓦が宮跡出土のものと一致し、平安宮所用瓦であることが確定した。また、同時にそれは、生産地と消費地との位置関係が証明されたことになり、平安宮の所用瓦の理解を一歩進めることになった。このことは、1945年以後の瓦研究と宮発掘の進展に影響を与えた。いずれにしても、1945年以前は文献史料や指図に基づく研究が中心で、平安宮・京跡とも発掘調査がほとんど行われておらず、考古学的方法による宮跡の研究は進展がみられない段階であった。

2 昭和20年(1945)から昭和44年(1969)まで

戦後の空白期を経て、昭和26年(1951)に財団法人古代学協会(以後、古代学協会とする)が設立される。古代学協会の活動の一貫としてようやく昭和32年(1957)に平安京跡の発掘調査が着手され、昭和34年(1959)に初めて平安宮大極殿跡の発掘調査が行われた。^{文69～71} この調査では瓦の出土はみたが、大極殿と直接関係する遺構の検出はなかった。昭和35年(1960)にも引き続き大極殿に関連して調査が行われている。^{文72} 昭和37年(1962)には朝堂院跡の発掘調査が古代学協会によって実施され、同様に瓦の出土はみたが、この時も直接朝堂院に関係する遺構は検出されていない。^{文80}

昭和38年(1963)9月から始められた下水道工事に際しては内裏跡で立会調査が実施され、内裏に關係する凝灰岩の化粧石を伴った基壇が検出された。立会調査ではあったが、宮跡の調査で、戦後初めて内裏と直接関連する遺構の検出をみたのであった。^{文88} この発見に基づき、昭和44年(1969)2月から古代学協会によって内裏跡の発掘調査が行われた。調査によって基壇は内裏内郭南西部の回廊跡であることが判明し、平安宮内裏の位置復原を行う上で一つの定点が得られることになった。

その他にも古代学協会が中心になり、宮跡の調査が実施されるが、全般的に瓦や土器などの遺物は出土したが、内裏跡を除けば、宮跡に直接関連する遺構の発見はなかった。既存の建物の基礎や江戸時代の土壤によって、宮跡の遺構は搅乱されていることがしばしばみられた。

しかし、出土した宮跡の瓦は『古代文化』の誌上で頻繁に資料紹介されるようになり、宮跡出土瓦の増加により瓦の研究は一歩進むことになる。故木村捷三郎氏によって昭和44年(1969)には「平安中期の瓦についての私見」が発表されている。^{註2}

造営尺の論議は『平安通志』以来なされてきたが、発掘に基づく資料がほとんどなく、考古学のデータを基準に造営尺が論議されることはない。昭和35年(1960)から始まった西寺跡の発掘調査により西寺の伽藍中軸線が明らかになると、東寺の伽藍中軸線との距離を実測することによって、平安京の造営尺と方位を求めることが可能となった。昭和39年(1964)、杉山信三氏は京の造営尺を0.987現尺とする京の条坊復原案を提示された。^{註3} それ以後、京の条坊復原がより精度の高いものとなり宮域の四周も自ら確定的となった。したがって、以降は宮城図に描かれた官

衙配置の具体像を検証することが課題となった。

3 昭和45年(1970)から昭和51年(1976)まで

京都市文化観光局文化財保護課（以下、保護課とする）に昭和45年(1970)、埋蔵文化財の担当者が配置され、平安宮・京跡の調査が行政的にも本格的に扱い始められる。それ以後、開発に伴う市内の発掘調査が飛躍的に増加するとともに、平安宮・京跡の発掘調査も盛んになり、文化庁国庫補助事業による宮跡の発掘調査が実施されるようになる。1970年には西賀茂鎮守庵瓦窯跡の発掘調査が行われた。^{註4} 昭和46年(1971)には古代学協会によって朝堂院跡の調査が行われた。1件は下水道敷設に伴う立会調査で、朝堂院の延禄堂、修式堂の延石列が確認され、朝堂院に関連する遺構も残存していることが判明した。^{文113} 朝堂院の遺構が発見されたのはこれが最初である。また、朝堂院跡の別の地点では、発掘調査によって緑釉瓦を多量に含む瓦溜が検出された。^{文112}

昭和48年(1973)から昭和49年(1974)にかけて、保護課は国庫補助事業により内膳司跡、中和院跡、長殿跡、大宿直跡、平安宮東・南限跡の発掘調査を行っている。^{文131-1~4} 平安宮東・南限の調査では、宮の東限を示す溝、南限を示す溝の検出をみたが、その他の調査では顕著な遺構は検出されなかった。一方、古代学協会は昭和48年(1973)、内裏内郭回廊の第二次調査を行い、昭和44年(1969)に調査された回廊の基壇を27mにわたって検出した。^{文148} また、民部省跡の調査では民部省の南限を示す築地跡が検出されている。^{文149} ^{文141} 1973年8月からは、内裏蘭林坊跡の発掘調査が実施され、蘭林坊に関係する溝が検出されている。この溝からは平安時代前期の遺物がまとまって出土した。この一連の古代学協会の調査は、宮跡内において良好に遺構が残存していることを証明したことになり、発掘調査を行うことによって宮跡研究が進展するという期待と確信が持てる内容であった。

昭和47年(1972)、西賀茂・東幡枝両瓦窯跡より出土する文字瓦と、宮跡出土の文字瓦を取り上げ、近藤喬一氏によって文字瓦研究が発表されている。^{文118} また、伊藤玄三氏によって、宮跡出土の奈良時代型式の瓦研究も発表され、宮における搬入瓦の存在が指摘された。^{文117} 宮所用瓦窯跡の発掘調査が進み、宮跡の発掘調査も一定程度進んだ結果、この頃には宮跡出土瓦も増え、窯跡出土の瓦との比較研究ができる状況下にあった。

同じ1972年、大石良材氏は豊樂殿跡、内裏内郭回廊跡、朝堂院十二堂跡三箇所の遺構検出地点の成果に基づいて、朝堂院の位置復原案を発表している。^{文120} 復原するにはまだ定点になる遺構検出例は少なかったが、検出した遺構を根拠に復原されたのはこれが初めてであり、画期的なものであった。大石氏は開発に対処するために遺跡保存や予備調査の参考資料になるという観点から、検出例が少ないことを承知の上であえて復原案を出されたのであった。

昭和49年(1974)から昭和50年(1975)、引き続き国庫補助事業による宮跡の発掘調査が保護課によって進められ、中和院跡、内裏跡、朝堂院跡、造酒司跡が調査された。^{文139-1~6} 遺物の出土はみたが、これらの調査は調査面積が狭く、建物や基壇、溝など宮に関連する遺構は確認できなかった。平安京跡の発掘調査が研究者を代表とする任意団体によって活発になるのは、この頃である。宮・京跡のような市街地に重複した遺跡調査では、市街地に適した調査方法が必要であるという認識が出てくる。点や線のような調査面積が限られ、しかも遺構の残存度が良くない宮・京跡では、

丹念に資料を集め記録して、量から質に転換できる調査方法の確立が重要であるという指摘がなされている。^{註5}

遺物では瓦以外の遺物も注目され始め、1974年には宮跡出土の土師器が『土師式土器集成本編4』^{文138}で扱われている。

昭和50年(1975)から昭和51年(1976)にかけて、調査面積の狭小な宮跡の発掘調査が頻繁に行われている。古代学協会によって大極殿跡が^{文154}、保護課によって太政官跡、小安殿跡、会昌門跡、真言院跡、朝堂院跡などが調査される。他にも古代学協会によって1976年には豊楽院跡や中和院跡の立会調査^{文168-3}が実施されている。^{文147-1～6}しかし、この年は遺物の出土はみられたが、目立った遺構の検出はなかった。

1976年度も同様に、国庫補助事業による調査が進められる。平安宮東限推定地、内藏寮跡、西院跡、朝堂院暉章堂跡、朝堂院永寧堂跡、豊楽殿跡などが調査され、平安宮東限推定地では宮東限の外溝が検出されている。豊楽殿跡の調査は、立会調査中に基壇の一部が確認され、遺跡の重要度を配慮して発掘調査に切り換えられ実施された。版築で造られた基壇、一辺約2.5mの礎石根固め跡が検出され、平安宮の主要建物の一つである豊楽殿跡の基壇が良好に残存することが判明した。

昭和34年(1959)から昭和51年(1976)までの宮跡調査を通覧すると、局部的ではあるが、残存状態が良く復原の定点になる遺構が検出されている。この定点になる遺構の検出には、下水道などの敷設工事に伴う立会調査が大きな役割を果たした。宮跡においても遺構を面向に把握する発掘調査が基本となることは変わりないが、市街地の制約からして宮跡の位置復原の定点を得るには、立会調査を積極的に評価する必要があった。しかし1959年から1976年までは、立会・試掘・発掘調査がまだ有機的に結び付くには至らない試行錯誤の段階であった。

一方、昭和51年(1976)頃になると、開発に伴う京都市内の発掘調査の増加には、目を見張るものがあり、宮跡調査もその例外ではなかった。このような状況下、1976年11月には平安京跡を中心として、京都市内の遺跡を総合的に調査・研究することを目的に当研究所が発足する。設立された研究所にとって、平安宮跡の調査・研究は最重要課題の一つとして位置付けられた。

註

- 註1 西田直二郎・梅原未治「栗栖野瓦窯址調査報告」『京都府史蹟名勝天然紀念物調査報告』第15冊
京都府1934年
- 註2 木村捷三郎「平安中期の瓦についての私見」『延喜天暦時代の研究』吉川弘文館1969年
- 註3 杉山信三「平安京の造営尺について」『史跡と美術』第34卷第2号史跡美術同攷会1964年
- 註4 吉本堯俊「西賀茂鎮守庵瓦窯跡発掘調査報告」『京都市埋蔵文化財年次報告』1971京都市文化観光局
1972年
- 註5 永田信一「平安京関係遺跡の調査に関する二・三の提言」『平安京研究』No.1 平安京調査会1974年

III 研究所発足後の調査

昭和51年(1976)11月に財團法人京都市埋蔵文化財研究所が設立され、京都市域で行われる埋蔵文化財の発掘調査の大半を担当することとなった。また、昭和59年(1979)からは、小規模な試掘調査や立会調査においても国庫補助事業により全面的に調査を開始した。調査は発掘調査を始

め、各種配管敷設工事における広域の立会調査や、さらに小規模開発における試掘調査や立会調査も組織的に取り組み、できる限り広範囲において埋蔵文化財の確認に努めた。

昭和52年(1977)には調査位置の表記における標準化が提唱され^{註1}、京都市は、昭和53・54年(1978・79)の2年間で遺跡調査における公共測量基準点の設置を行った。これを受けた遺跡測量の徹底化を行い、調査における国土地標の導入による記録法の改善をも進め、各調査を有機的に結合することを容易にした。その結果、各調査における点としての成

果を集約し、面的に展開することもできるようになり、徐々にではあるが平安宮の中央地域を中心発掘調査成果における復原が可能となってきた。

このような調査の進展により、研究所設立以後に明らかになった遺構には、朝堂院の東面回廊、承光堂北縁・東縁基壇、宣政門、大極殿院の北面回廊・東軒廊、大極殿南縁、内裏外郭築地、内郭回廊、承明門、内裏内建物、太政官西面築地・官内築地、民部省南面・西面築地と省内建物、中務省北面・西面・東面築地および省内の築地や建物、豊楽殿北西部および東面築地、造酒司東面・南面築地内溝および建物、内匠寮東面築地溝、宮西限溝、宮内道路などがある。その中で特に注目すべき調査は、昭和58年(1983)度の大極殿院北面回廊基壇と昭和62年(1987)度の豊楽殿基壇の発見であろう。大極殿院北面回廊は、各宮図において様々な位置で表記されていた場所である。この発見において大極殿院の規模および位置を確定することができたことは平安宮復原を大きく前進させた。豊楽殿基壇の検出は、平安宮においてはじめての本格的な建物基壇の発見であった。同時に調査終了後、この豊楽殿跡が関係者の努力により当地に史跡として現状保存できたことは重要な成果といえよう。

なお、当研究所が行ってきた国庫補助事業による試掘調査は、平成3年(1991)度からは京都市埋蔵文化財調査センターによって実施されている。

平成6年(1994)12月末日現在、当研究所で実施した調査は、発掘調査110件、試掘調査206件、立会調査(広域を含む)1248件を数える。その間に、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターで2件の発掘調査(文203、278)が、京都市埋蔵文化財調査センターで40件の試掘調査(文280・283・299・309)が実施されている。

註

註1 田中琢・田辺昭三「平安京を中心とした京都市域埋蔵文化財発掘調査記録方法の改善について」『京都市文化観光資源調査会報告書』京都市文化観光局 1977年

第2章 平安宮跡の立地と造営以前の遺跡

I 平安宮跡の立地

1 京都盆地の形成と平安京

平城京が立地する奈良盆地と同様に京都盆地は、地質時代第三紀終末の断層運動の結果、陥没によって生じた地溝盆地である。その後の河川による扇状地堆積と山地の隆起によってほぼ現状の地形が形成された。盆地北東部では林野付近を谷口とした賀茂川の扇状地が南東方面へ広がり、賀茂川と高野川が合流してできた鴨川扇状地が南西方向へ広がっている。また東半部では白川扇状地が、北部から西半部にかけては天神川や御室川の扇状地が南方向に広がるという、複雑な扇状地形成が京都盆地の地形の特色になっている。

地形学的にみると、平安京跡の南西部は桂川左岸の氾濫原の地帯で、桂川が形成した自然堤防が点在する地帯となっている。東縁部は鴨川扇状地の谷口に近く、氾濫が直接およぶところであるといわれる。^{註1} 京城地形を全体を通してみると、北東側が高く、南西側が低いが、これは京城の北東部付近で、高野川と賀茂川が合流してできた優勢な鴨川扇状地が堆積を繰り返した結果である。これに比べると、桂川は保津峡を経ることで堆積能力が著しく低くなり、結果として両岸に広い氾濫平野が形成された。また、盆地内には堀川や紙屋川以外にも小河川が発達しており、その下刻によってかなりの凹凸が生じたと思われる。このように京城の立地条件は、南西部では桂川の氾濫の影響が大きい低湿地で、反対に北東部では扇状地性の地形によつて直接洪水がお

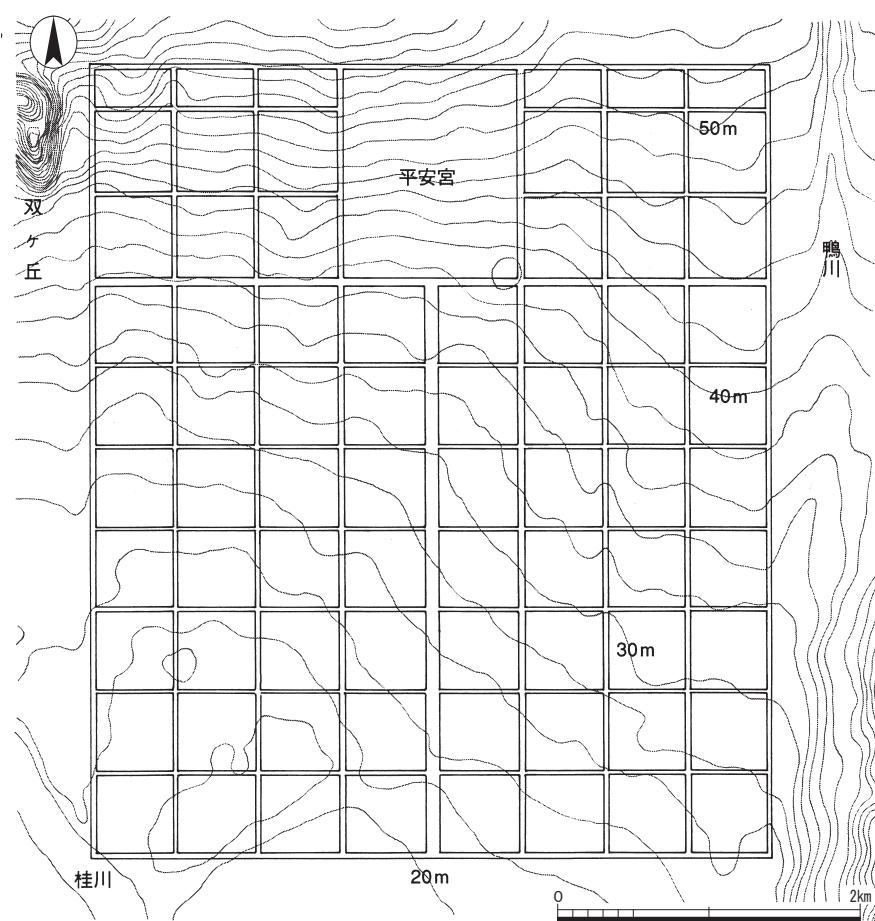


図2 京城現地形等高線図(1:50,000)

よりやすく、盆地中央部北寄りがもっとも安定した地域になっている。

一方、平安宮域の地形をみると、宮域西限の西側に紙屋川が南北方向に流れ、この紙屋川の下刻によって、宮域の西側には深い谷が形成されている。また宮域東限近くは、浅い堀川の谷に限られている。このことは宮域が、洪水の危険の少ないところに立地していることを示している。宮域が占地された場所は、船岡山から延びる安定した丘陵地の先端部に位置していた。このことは地形学上確認されている。^{註2}

京城現地形等高線図（図2）をみると、宮域の現状地形の標高は37～58mであり、緩やかな傾斜地であるが、京城の南西部のもっとも低い場所は、標高18m前後であり、比較すると、20～

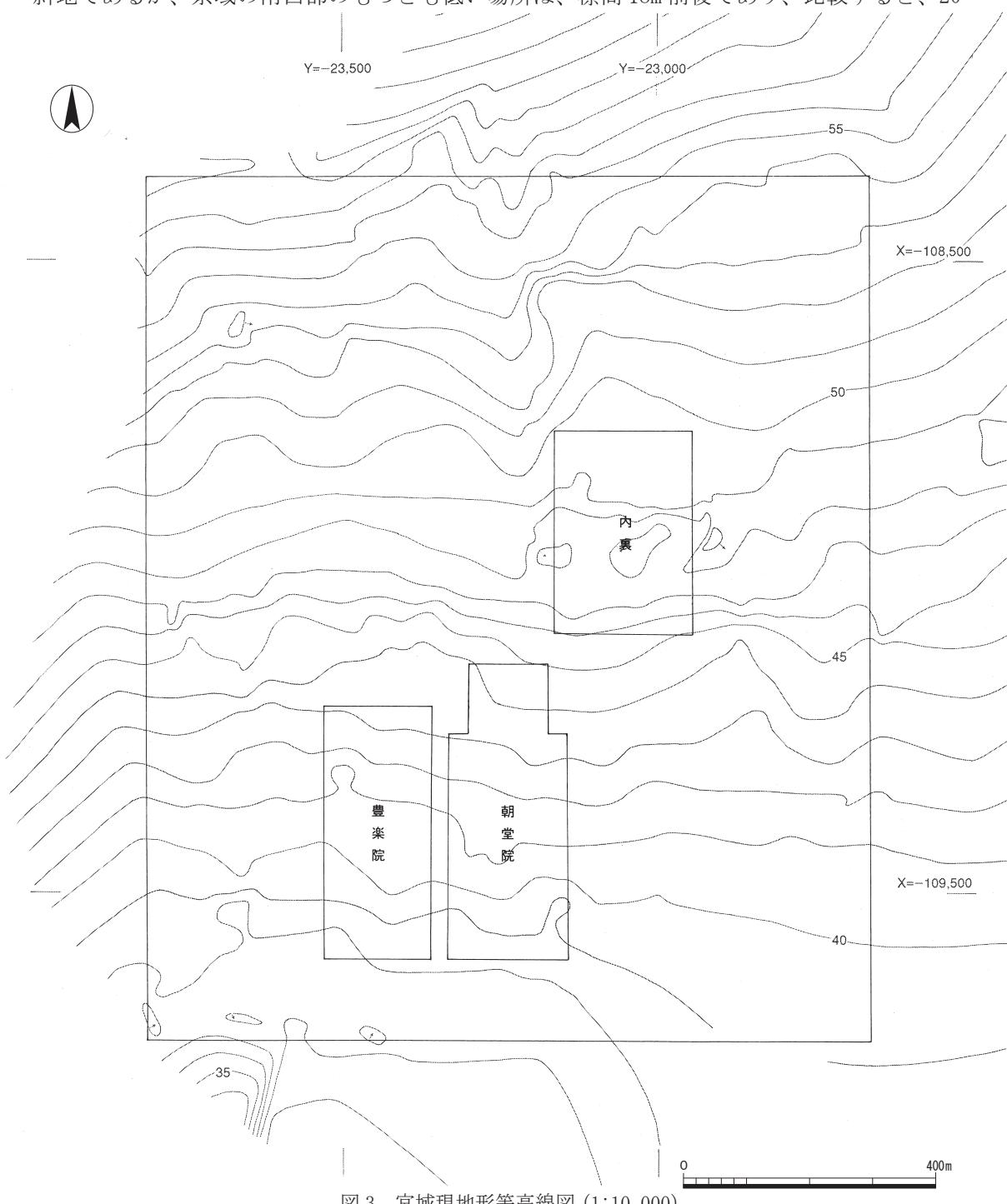


図3 宮域現地形等高線図 (1:10,000)

30mの高低差がある。宮域が洪水の恐れが少ないところに立地していることを標高の観点からも証明している。この高低差は宮域の排水機能を果たす上でも有効であったと思われる。

2 旧地形の復原と平安宮跡の立地

当研究所がこれまで平安宮跡で行った発掘・試掘・立会調査のデータは、1,560件余りである。これらの調査成果から地山（いわゆる無遺物層）^{註3}上面の標高データを整理し、コンピュータを利用して等高線を描き、旧地形を復原してみた（図4）。同様に現地表の等高線図も作成した（図3）。

現地表の等高線図と比較することによって、宮域の微地形が現状より詳しく判ると考えたからである。結果として、両者の等高線図に地形の著しい差は認められなかつたが、両者には宮の造営や聚楽第の造営によって、土地の改変が行われた歴史的経過が表れている。

見比べると、現地表の等高線図の方が旧地形の等高線図より、聚楽第による土地の改変は読み取りやすい。これは旧地形の等高線図の場合、工事掘削が地山に達しないところは空白域として

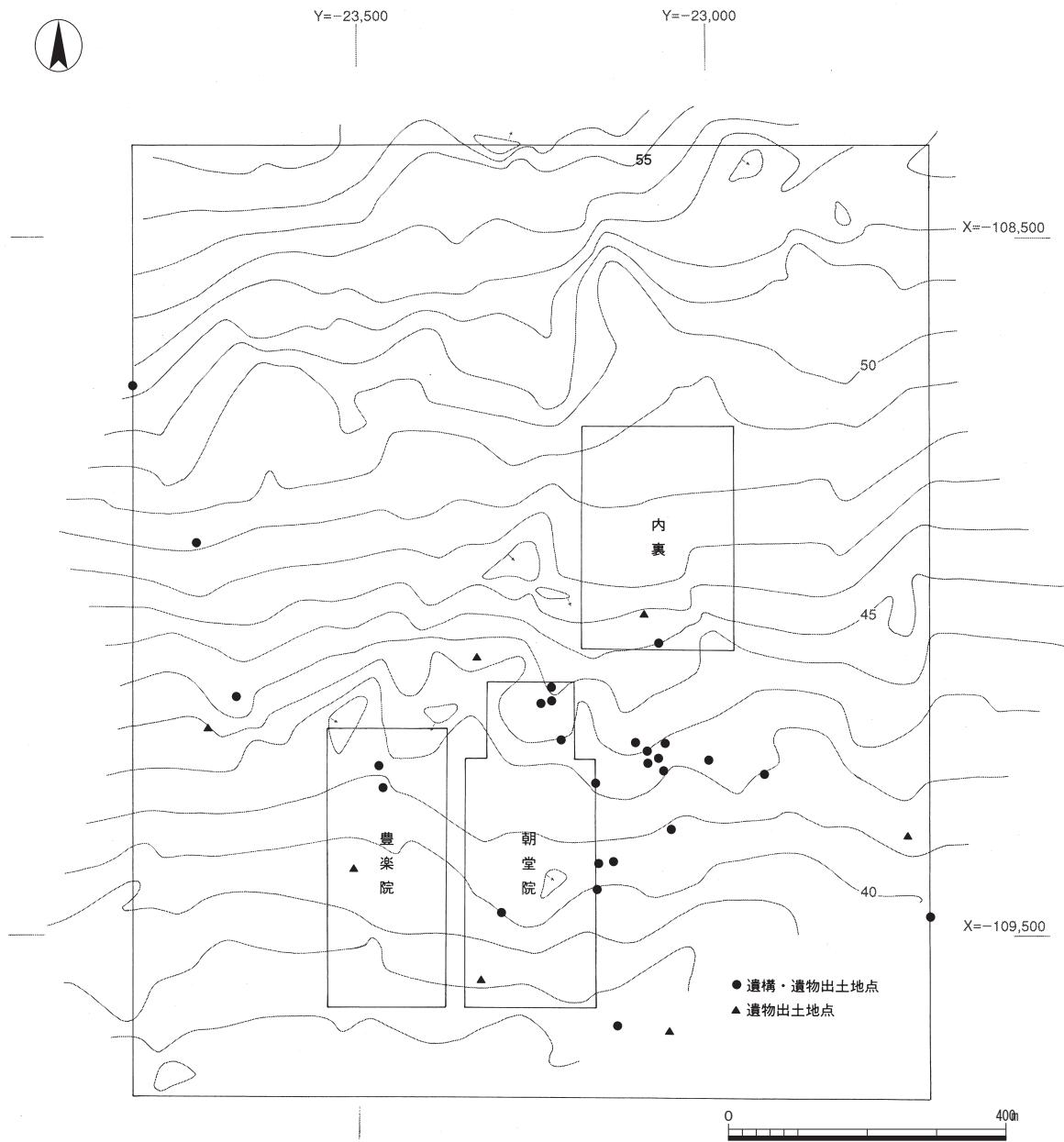


図4 宮域旧地形等高線図（宮造営以前の遺構・遺物出土地点を含む）(1 : 10,000)

図化されるためである。内裏北方に、標高 50～55m の等高線が乱れ、崖状を呈する場所があり、また内裏中央部に連続して、東西方向に凹部が認められるが、これらは聚楽第の堀の方向を反映しているものと考えられる。

一方、朝堂院・豊楽院・内裏の立地は、現状の等高線図より旧地形の等高線図の方が、読み取りやすい。宮域の主要部分であるこれら三者の標高は、38～49m であるが、旧地形の等高線図を詳しくみると、大極殿院における標高 43m の等高線は、大極殿院の範囲とほぼ重なって南に張り出している。これは大極殿院を造営する際の造作の痕跡が表れていると考えたい。同様の観点で内裏をみると、標高 45～47m の等高線の張り出す部分がある。この等高線の張り出しも同様に、内裏の主要殿舎造作の痕跡と理解することも可能である。また、標高 42m の等高線が豊楽院の北部で張り出しているが、この部分も同じく、豊楽院正殿の造作の痕跡が表れていると考えておきたい。

また、旧地形の等高線図に宮造営前の遺構検出地点、遺物出土地点を重ねると、弥生時代から奈良時代の遺構・遺物は、宮域南半部の標高 40～47m 前後を中心に、南に張り出す丘陵地の縁辺から発見されているのが判る。このことは宮域の立地する場所が宮造営前から安定した区域であったことを物語っている。

宮域北西部には、標高 50m の地山の等高線上に浅い谷地形が認められるが、この成因については明確にできなかった。しかし、この谷地形の南方に位置する造酒司跡や御井跡では湧水帯が確認されているので、それらとの関連で注意を要する。宮域の南東端は二条城によって調査データが少なく、造営時の地形を類推することは困難であった。

以上、宮域は、丘陵地先端の安定した台地上に立地しており、宮域の主要殿舎を造営するにあたって、無遺物層を作成した痕跡が、旧地形の等高線図に表れていると考えられる。

船岡山から南に延びる丘陵地の先端に宮域を占地したことは、都城を造営するにあたって大極殿の位置をここに想定し、宮域、京城の平面プランが地形とうまく合致することを前提に計画されたと思われる。平安遷都以前の長岡京においても、宮域は向日丘陵の先端に造営されており、同様の基準で平安京も宮域の占地が行われたことを示している。桓武天皇による都城の立地には、共通した意識が働いていたと考えられよう。

律令制度に基づく平安京の景観は、『日本紀略』延暦 13 年(794)11 月の詔が示す「山河襟帶にして自然に城を作す」という表現によく表れている。等高線図を検討することによって、宮域の立地の特色を明らかにしたが、上記した詔の内容にはこのことも含まれている。

註

註 1 石田志朗「京都盆地北部の扇状地」『古代文化』第 12 卷第 34 号財団法人古代学協会 1982 年

註 2 横山卓雄「京都盆地の自然環境」『平安京提要』角川書店 1994 年

註 3 本報告で記述する地山とは、人為的な移動を伴わない遺跡の基盤土層をいう。平安宮の立地する地山は黄色から褐色を呈する粘土ないし砂泥層が主体である。いわゆる聚楽土と呼称されている。当該地域における地山はこれまでのところ無遺物層と認識している。

註 4 コンピュータによる地形復原にはウイルド BC-2 解析図化機で動く CIP ソフトウェアを使用。

II 平安宮造営以前の遺跡

1 宮域の下層遺跡

平安宮域において造営以前の遺跡として周知されているものには、聚楽遺跡と二条城北遺跡^{註1}がある。前者は、宮域の南東部に位置する古墳時代後期を中心とした集落遺跡である。後者は、宮域の東部から左京二条二坊域に位置する縄文時代から弥生時代の遺物散布地とされている。

これまで当研究所が平安宮跡を対象として行った 1,560 余件の調査のうち、造営以前の遺構・遺物を検出した調査は 29 件あり、研究所以外の機関による調査では 3 件が確認されている（図 5）。これら宮域内の調査については、第 2 項で個別に調査成果を述べる。

また、宮造営以前の遺構・遺物を考えて行く上では、後世の遺跡である平安宮跡の範囲で下層遺跡を括ってしまうわけには行かない。そこで第 3 項では、対象とする範囲をやや拡げ、平安宮跡周辺部の調査で検出した遺構・遺物についても検討を加える。

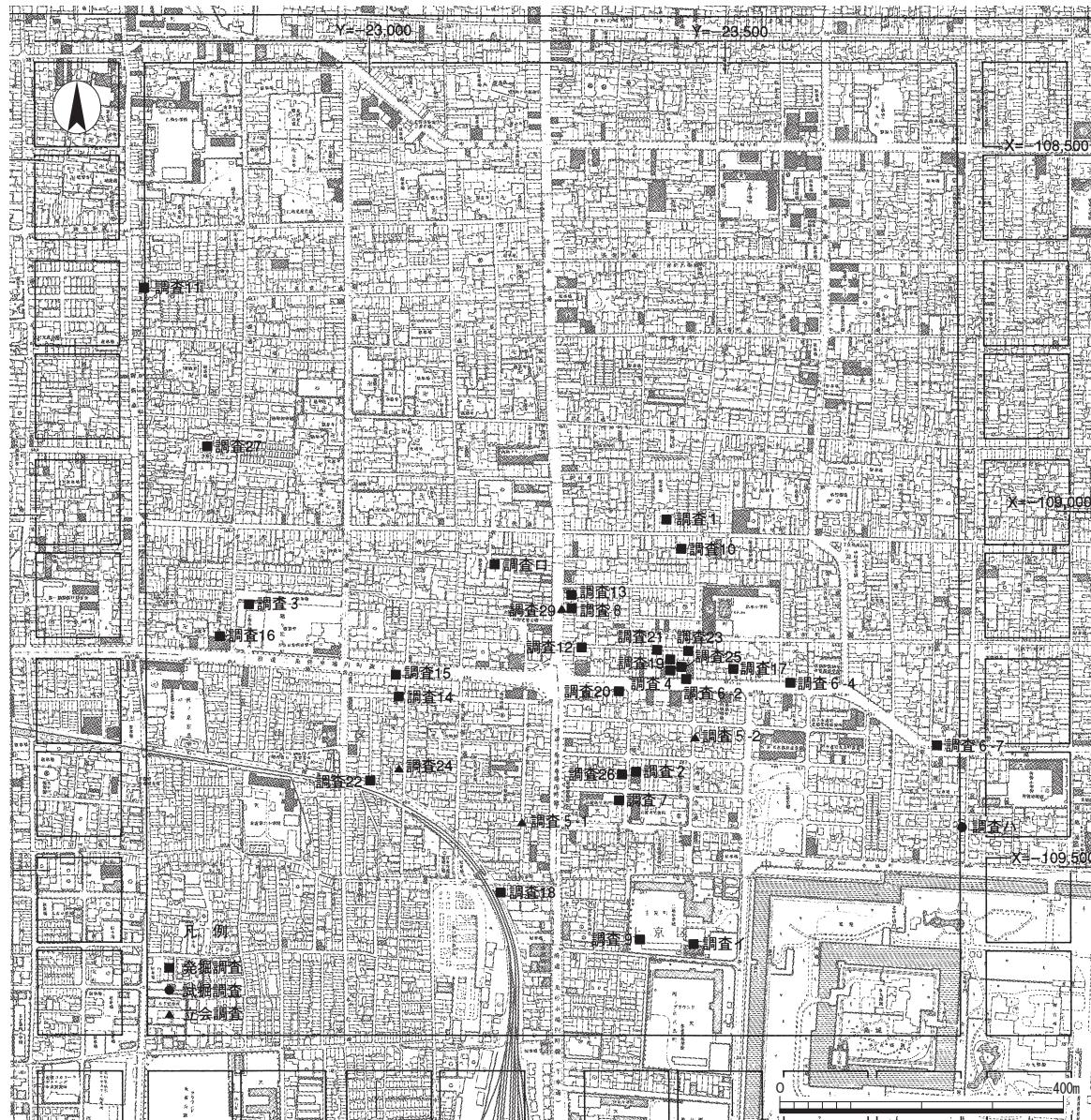


図 5 下層遺跡調査位置図 (1:10,000)

2 下層遺跡の調査

本項では、宮城内の調査で検出した造営以前の遺構・遺物について、当研究所の調査を中心取り上げ、各調査ごとに記述していくこととする。各調査の概要については、後述する各章に示してあるのでここでは触れない。図5中に示した番号と文中の調査番号は符合しており、各調査における遺構名は、既報告の調査についてはその報告書に、未報告の調査については付章での呼称に従うこととする。また、文中で特に記述しない限り、遺構の規模は検出面での規模を示す。

調査1 (14 文 167-7) 昭和52年(1977)、内裏跡中央南寄りで行った発掘調査(内裏調査10)である。現地表下1.0~1.1mにおいて厚さ0.15~0.2mの黒灰色泥砂層を検出した。

黒灰色泥砂層から飛鳥時代の須恵器杯身、奈良時代の土師器杯・須恵器杯蓋などが出土し、飛鳥時代から奈良時代にかけての遺物包含層が当該地周辺に広がるものと考えられる。

調査2 (33 文 175-4) 昭和53年(1978)に太政官跡の西端で行った発掘調査(太政官調査3)である。この調査では調査区の中央部で、古墳時代の溝を1条検出した。

溝は幅3.7m前後、深さ0.9m、北東から南

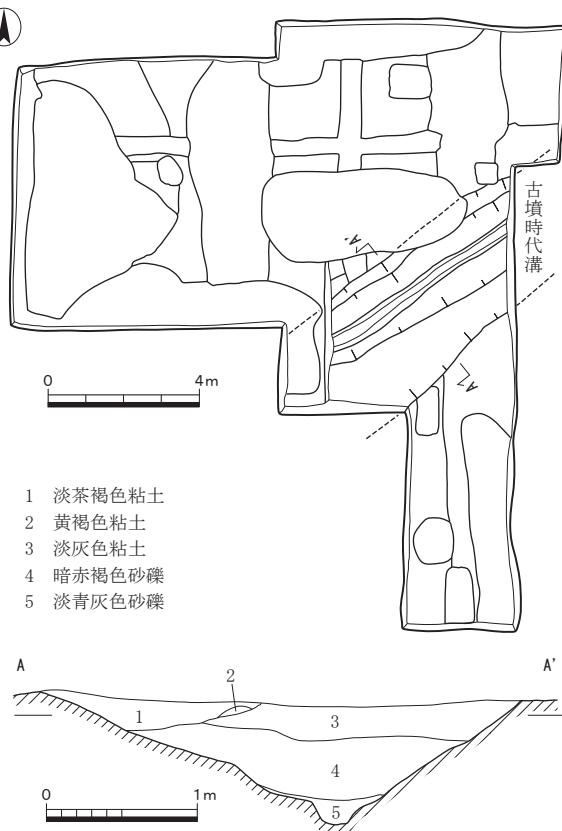


図6 調査2 調査区実測図(1:200)(1:50)

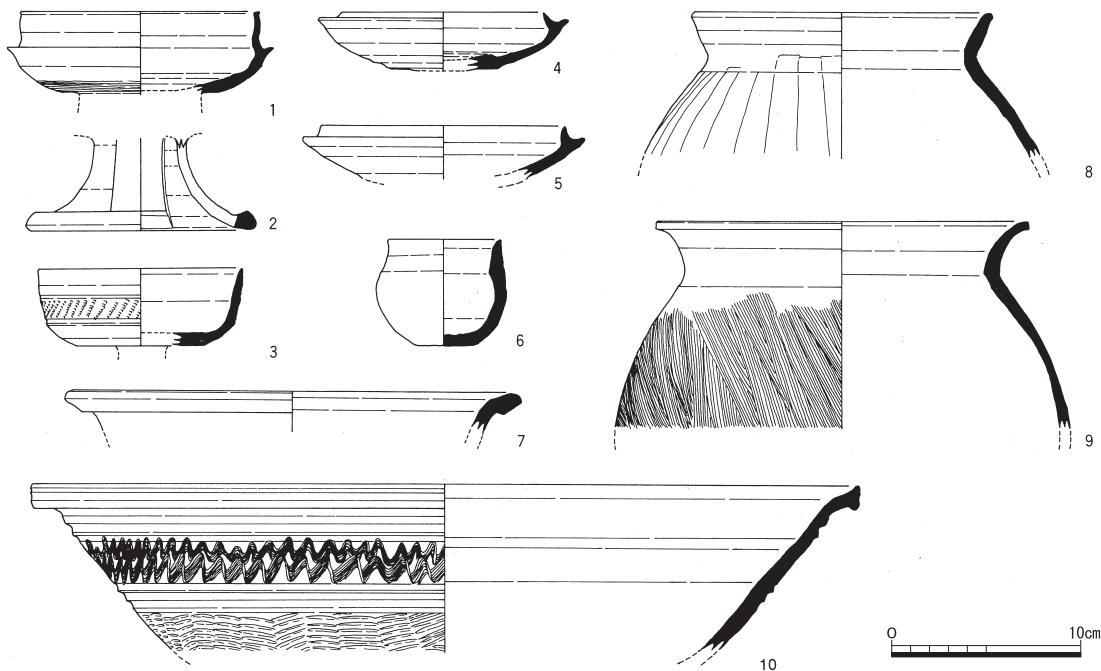


図7 調査2 溝出土土器(6・8・9 土師器 1~5・7・10 須恵器)(1:4)

西方向に延長し、5m 分確認した。断面形はV字状を呈し、中央部は0.4～0.5mの幅でさらに深くなる。埋土は下層が砂礫層、上層が粘土層である。遺物（図7）は、下層の砂礫層から土師器甕（8・9）・高杯・ミニチュア土器（6）、須恵器杯身・有蓋高杯（1）・高杯脚（2）・器台（10）・甕などが、上層の粘土層から土師器甕、須恵器杯身（4・5）・無蓋高杯（3）・甕（7）などが出土した。出土遺物から、この溝は5世紀末ごろに掘削され、7世紀初頭までには廃絶していたと考えられる。

調査3（34 付章2）

昭和58年（1978）に造酒司跡西部で行った発掘調査（造酒司跡調査5）である。平安時代以前の溝3条（SD7・8・9）を検出した。

SD7は幅1.5m、深さ0.3m、北東から南西方向に延長する溝で、調査区内では約23m分を確認した。SD8は幅1.2～1.6m、深さ0.3m、同様に北東から南西に延長する溝で約20m分を検出した。南西部では

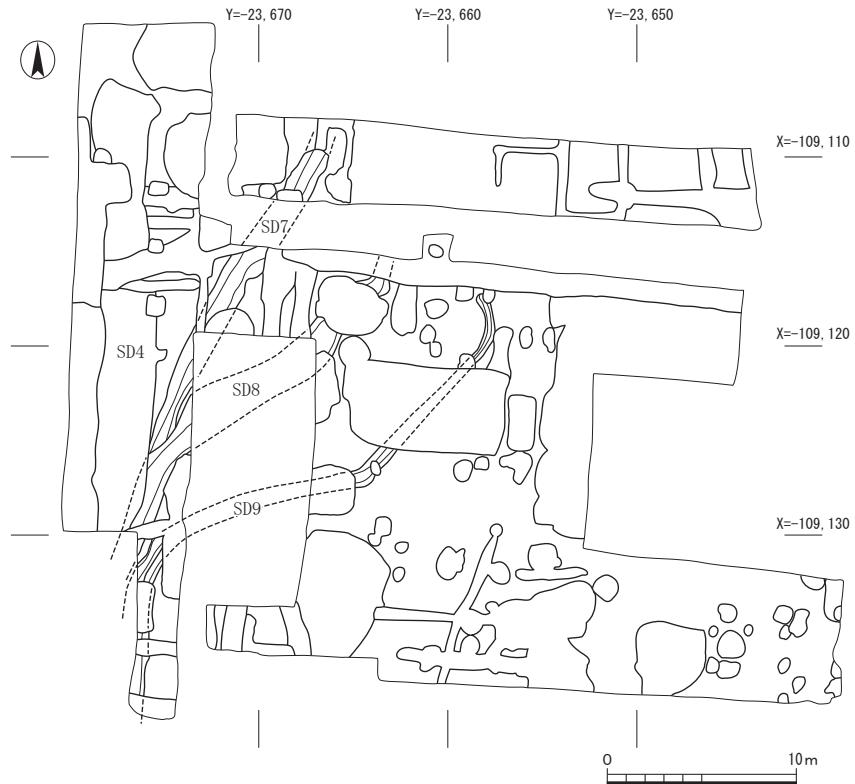


図8 調査3 調査区平面図(1:400)

南方に方向を変え、SD7と重複する。SD7・8は両者とも、断面形が扁平なU字状を呈する。下層には黒ボク層が堆積しており、上層は砂礫で埋まっている。SD9は幅0.8m前後、深さ0.2m、北東から南西へ蛇行する溝で、延長24m分を検出した。断面形はV字状に近い形態を示し、砂礫によって埋没している。これら3条の溝は、いずれも土師器・須恵器の小片がわずかに出土したに過ぎず時期を限定しがたいが、平安時代以前の遺構と考えられる。

また、平安時代の造酒司西面築地の内溝と考えられるSD4の底面はかなり凹凸状を呈しており、その凹部堆積土からは古墳時代から奈良時代の遺物が出土している。

調査4（119 付章15 図版90）昭和55年（1980）、中務省跡で行った発掘調査（中務省調査4）

である。この調査では、古墳時代後期の土壙3基（SK25・26・29）を検出した。

SK25は東西1.3m以上、南北1.2m以上、深さ0.06mの土壙で、大半は調査区外に広がる。SK26は平面形が長楕円形を呈し、東西0.8m、南北1.6m、深さ0.06m前後の土壙である。SK29は東西1.7m以上、南北2.9m以上、深さ0.2mの土

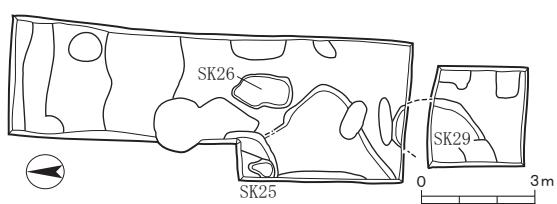


図9 調査4 調査区平面図(1:200)

壙である。(図版 90-3)。SK29 からは図 10 に示した土師器甕(3)、須恵器杯身(1)・高杯(2)・壺など 6 世紀後半の土器および鉄製品が出土している。

調査 5 (81 ~ 83・89 付章 32) 昭和59年(1979)、朝堂院・太政官・中務省跡一帯と左京二条二坊域でガス管敷設替工事に伴い行った立会調査である。朝堂院域および太政官・中務省間で古墳時代後期の溝を各々 1 条検出した。

千本通から一筋西の通り、丸太町通から約 200m 南の地点で、溝状遺構と考えられる土層を確認した(調査 5-1)。浄福寺通と丸太町通の交差点から南へ約 70m の地点で、現地表下 0.7m で平安時代の太政官・中務省間の道路敷を検出しているが、道路敷下面で幅 2.5m の溝状遺構の埋土と考えられる茶褐色砂土を検出した(調査 5-2)。遺物(図 11)は 5-1 地点では須恵器杯身(1)が、5-2 地点で須恵器甕(2)が出土している。

調査 6 (235 付章 18 図版 94) 昭和56年(1981)、丸太町通の千本通以東、松屋町通以西で 7 箇所の調査区(1 区~7 区)を設けて行った発掘調査である。2 区は中務省跡のほぼ中央、4 区は中務省跡の東辺、7 区は大膳職跡と大炊寮跡間の境界にあたる。

2 区(調査 6-2)では、竪穴住居の北西辺と北東辺の一部を検出した。床面までの深さは 0.1m、床土として淡茶褐色砂泥を厚さ 0.1m 前後入れる。北西辺は約 5m あり、方形の住居であろう。主柱穴は三箇所検出しており、柱間は北 - 西間が 3.0m、北 - 東間が 2.3m ある。壁溝は北西辺の一部と北東辺で検出し、幅 0.2m 前後ある。出土遺物には土師器甕・須恵器甕小片などがある。

4 区(調査 6-4)では、幅 3.0m、深さ 0.5m の北東から南西方向に延長する溝を 7m 分検出した。最下層の暗灰褐色砂礫から土師器・須恵器小片が出土した。

7 区(調査 6-7)では、平安時代の東西方向を示す溝の下層に暗褐色砂泥混礫層が広がることを確認、同層からは弥生時代後期から古墳時代前期の土器片が出土した。周辺に遺物包含層が広がるものと考えられる。

調査 7 (300 文 214-2) 昭和57年(1982)、朝堂院跡東端で行った発掘調査(朝堂院調査 8)である。調査区は近世以降の土取りによりほぼ全域が削平を受け、遺構の遺存状況は良好ではな

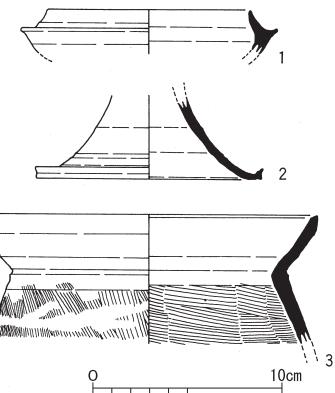


図 10 調査 4 SK29 出土土器(1:4)

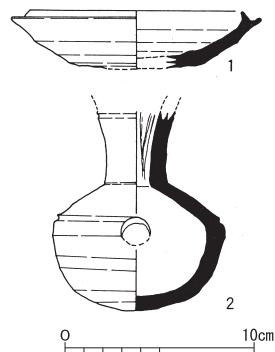


図 11 調査 5 出土土器(1:4)

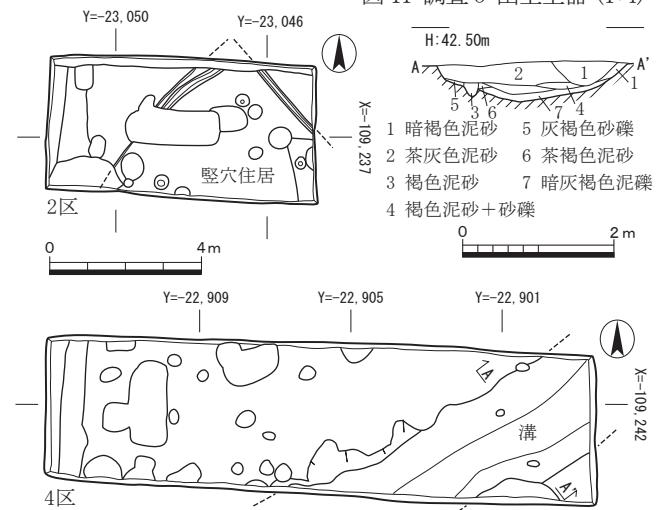


図12 調査6 2・4区実測図(1:200、1:100)

かった。調査区北半で部分的に古墳時代後期の溝状遺構 (SX1) を検出した。

SX1 は幅 3.0m、深さ 0.5m で、ほぼ北から南へ延長する。断面形は扁平な U 字状を呈し、約 18m 分を検出した。遺物 (図 14) には、土師器高杯・甕、須恵器杯身 (1)・壺 (2)・甕 (3) などがある。

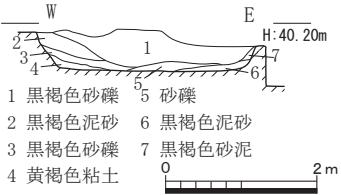


図13 調査7 SX1断面図(1:100)

調査8 (489 文 236-1)

昭和54年(1984)、大極殿院跡北端で行った発掘調査(朝堂院調査24)である。調査では大極殿院北面回廊の基壇北縁を検出

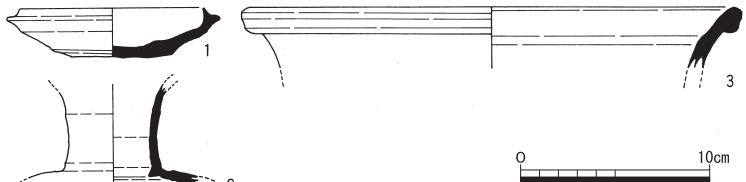


図14 調査7 SX1出土土器(1:4)

した。基壇の現地保存のため下層遺構は調査できなかったが、基壇の構築状況を確認する目的で搅乱壙を利用して南北方向の断ち割りを行った。その結果、断割断面で基壇下層に古墳時代後期の溝を確認した。

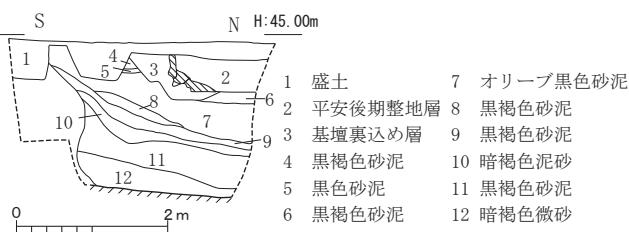


図15 調査8 古墳時代溝断面図(1:100)

溝は南肩部以北が検出でき、幅 2.8m 以上、深さ 1.23m 以上の比較的規模の大きな溝である(図 15-4～8)。溝は平面では確認できなかったが、延長方向は断面の状況などから東西に近い方向であると考えられる。出土遺物には土師器・須恵器がある。

調査9 (471 文 235-2) 昭和58年(1983)、民部省跡の南西部で行った発掘調査(民部省調査2)である。弥生時代中期、古墳時代前・後期の遺物包含層と古墳時代後期の土壙1基(SK60)を検出した。

SK60 は東西・南北ともに幅 1.1m 前後の台形に近い平面形を呈する土壙で、深さは 0.2m ある。遺物(図 16) は土師器甕 (1・2)、須恵器杯身 (3) などが出正在している。

調査10 (581 文 244-5) 昭和54年(1984)、内裏内郭回廊跡の南面中央に位置する承明門跡で行った発掘調査(内裏調査11)である。調査区南半で承明門跡を検出したため、下層遺構については北半部での部分的な調査となった。奈良時代の竪穴住居1戸(竪穴88)、土壙2基(SK79・93)のほか、遺構保存のため掘削できず詳細は不明である

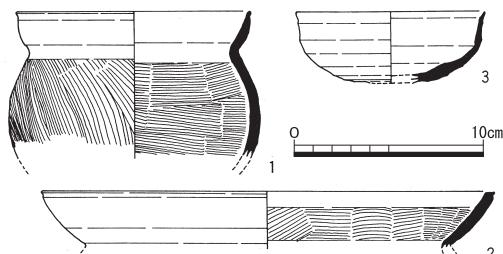


図16 調査9 SK60出土土器(1:4)

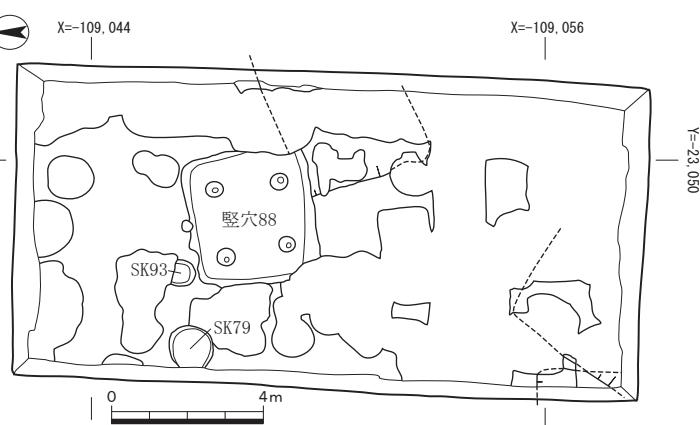


図17 調査10 調査区平面図(1:200)

が堅穴住居と考えられる落込を三箇所で確認している。^{註2}

堅穴 88 は東西 3.6m、南北 3.3m の隅丸方形を呈し、深さは 0.6m

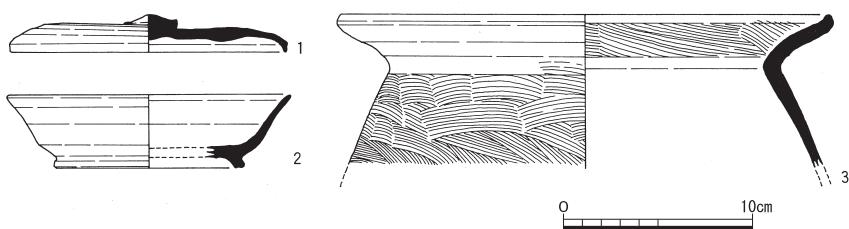


図18 調査10 堅穴住居88出土土器(1:4)

前後と比較的遺存状況は良好であった。主柱穴は4箇所、柱間は東西 1.85m、南北 1.8m である。北壁上端中央には煙道の痕跡があり、その下方の壁面と床面が焼けて赤変していることから、当箇所にカマドが想定できる。遺物(図18)には土師器杯・甕(3)、須恵器杯身(2)・杯蓋(1)などがあり、多くは覆土から出土した。SK79は調査区西端で検出した径 1.2m、深さ 0.2m の円形の土壙である。SK93は堅穴 88 の北で検出した。北半は搅乱により削平を受けるが、東西 0.7m、南北 0.5m 以上、深さ 0.4m の楕円形の土壙である。これら土壙からは土師器・須恵器の破片が少量出土している。

調査11 (608 文244-1) 昭和60年(1985)、宮域西端、右近衛府跡西端で行った発掘調査(西方調査1)である。調査区の西半部で奈良時代の溝1条(SD34)を検出した。幅 1.8m、深さ 0.65m、東方へ緩やかな弧を描いて北から南へ延長する溝である。溝底部で、土師器杯が1点出土している。

調査12 (684 文244-3) 昭和60年(1985)、朝堂院東軒廊跡北端で行った発掘調査(朝堂院調査27)である。調査区の西端で飛鳥時代もしくは奈良時代と考えられる土壙2基(SK35・37)を検出した。SK35は南北 1.0m、東西 0.4m 以上の円形の土壙で、深さは 0.2m ある。SK37は南北 0.4m、東西 0.3m の楕円形の土壙で、深さは 0.1 ~ 0.15m ある。いずれも埋土は黒褐色土で土師器細片が出土した。

調査13 (822 文255-1) 昭和62年(1987)、中和院 - 大極殿院跡間で行った発掘調査(内裏調査19)である。調査区のほぼ全域で飛鳥時代には埋没したと考えられる溝を検出した。^{註3}溝は調査区の東寄りで東肩口を検出したものの、調査区南壁沿いに設けた東西方向の断ち割りによる土層観察にとどめた。図20に示した断面図は溝の方向に直交しないが、幅 10m 以上、深さ 2m の規模を有する溝である。溝の方向は北西から南東方向に延長し、溝の西肩口は調査区内では検出していない。この溝は調査8に示した溝と同様、比較的規模の大きな溝で、規模や埋土の状態

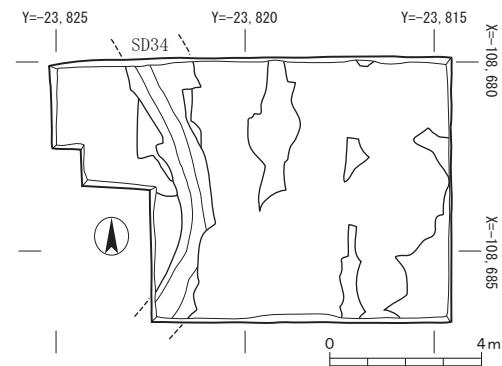


図19 調査11 調査区平面図(1:200)

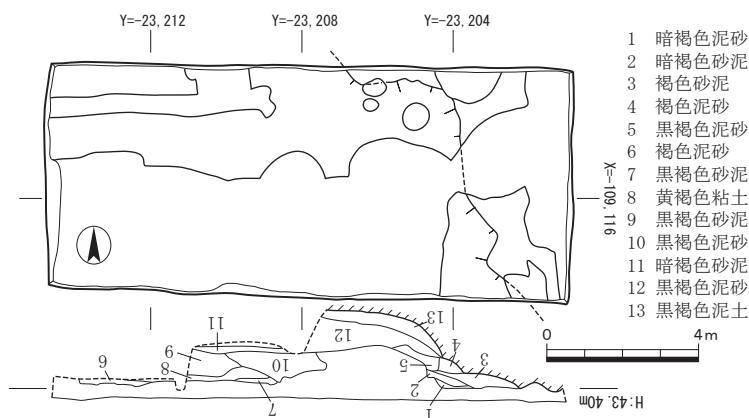


図20 調査13 調査区実測図(1:200)

などから両者は同一の溝と考えられる。

調査14 (882 文 261-5) 昭和62年(1987)、豊楽院の正殿である豊楽殿の基壇北西部で行った発掘調査（豊楽院調査1）である。検出した豊楽殿基壇が保存されたため、下層遺構は未調査である。しかし、基壇構造の解明のため基壇および礎石根固め部分に設けた、幅0.4mの断割トレーニチの底と断面で、弥生時代末期の竪穴住居（住居37）が基壇の下層に遺存していることを確認した。

住居37は北辺の一部1.3m分を検出した。大半は断割トレーニチの南側に広がり、主柱穴・炉などの施設は検出できなかった。深さ0.08mで住居床面に達し、検出した範囲に壁溝は設けられていなかった。遺物（図22）には、甕（1）・器台（2）があり、いずれも床面で検出している。

他に、同じ断割トレーニチの東方（Y=-23,452付近）の断面で竪穴住居と考えられる褐色粘質土層の落込を確認した。

調査15 (926 文 261-6) 昭和63年(1988)、豊楽院清暑堂跡で行った発掘調査（豊楽院調査2）である。下層で土壙を検出している。遺物は、土師器・須恵器の小片が少量出土したに過ぎないが、古墳時代後期頃と考えられる。

調査16 (995 文 261-3) 昭和63年(1988)、内匠寮跡南西部で行った発掘調査（西方調査11）である。この調査では内匠寮の東面築地内溝と考えられる、平安時代前期の南北方向を示す溝30を検出した。溝30の底面は土壙が南北に連結したような状況を呈して凹凸が著しく、本調査地点東で行った造酒司調査5で検出した造酒司西面築地の内溝（SD4）と同じ状況を示す。その凹部から古墳時代後期から奈良時代の遺物が出土している。遺物は磨滅しておらず、調査3と共に周辺に当該期の集落などが存在することを示唆する。

調査17 (1067 文 304-2) 平成元年(1989)、中務省跡の北半東寄りで行った発掘調査（中務省調査10）である。調査区の南東隅で古墳時代後期の竪穴住居を検出した。住居は北辺と西辺の一部を検出し、西辺は平安時代の溝（SD3）に削平を受ける。現存長は東西1.3m、南北は3.3mある。大半は調査区外に広がる。主柱穴は1箇所検出している。検出した範囲に

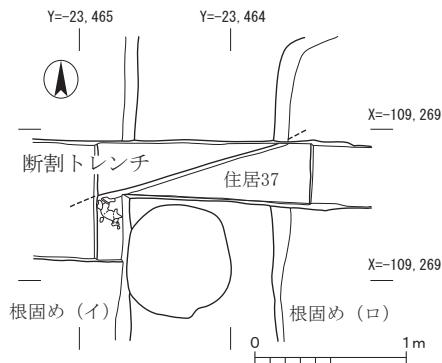


図21 調査14 住居37平面図(1:50)

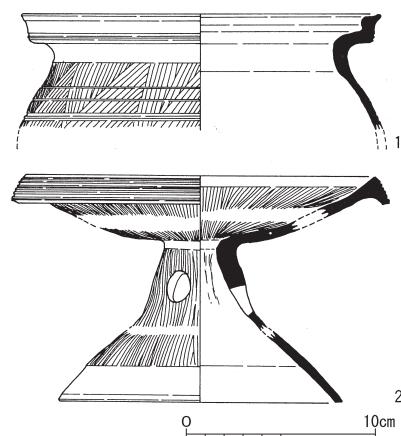


図22 調査14 住居37出土遺物(1:4)

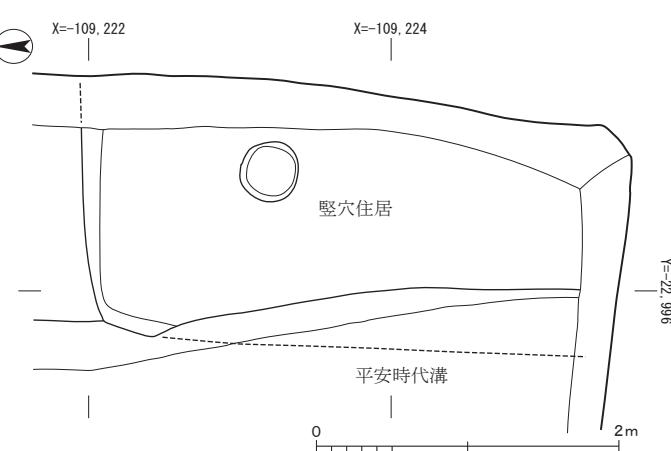


図23 調査17 竪穴住居平面図(1:50)

は壁溝は設けられていない。平面形は方形になると思われ、いずれかの辺にカマドが想定できる。遺物には土師器・須恵器がある。

また、住居上面で検出したSD3の埋土からも古墳時代後期の土師器・須恵器が混入して出土している。

調査18 (1166 文 306-5) 平成2年(1990)、朝堂院跡南西部で行った試掘調査（朝堂院調査15）である。江戸時代以降の土取穴に混入して古墳時代後期の土師器・須恵器が出土した。

調査19 (1136 文 270-3) 平成2年(1990)、中務省跡北半ほど中央で行った発掘調査（中務省調査12）である。浅い窪み(SX9)と掘立柱列(SB8)を検出している。

SX9は調査区北端で検出した深さ

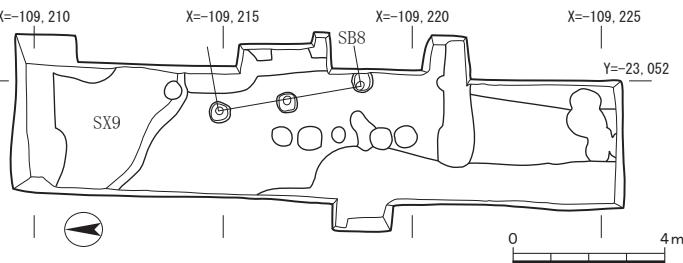


図24 調査19 調査区平面図(1:200)

0.3mの浅い窪みで、大半は調査区外にあるものと考えられ、南西辺のみを確認した。下層からは古墳時代末期の土器片が、上層からは平安時代前期の土器片が出土しており、平安宮造営時に窪んでいた箇所が埋め立てられ整地された遺構と考えられる。SB8は調査区東端で検出した南北2間分の掘立柱列である。柱穴は一辺0.6mの方形を呈し、柱痕跡は径0.2mある。出土遺物が少なく時期を決め難いが、主軸方向は座標北に対して西に振れること、柱間は北から1.8m、2.0mと不定であることなどから、平安時代以前の掘立柱列と考えられる。

調査20 (1172 文 269-1) 平成2年(1990)、朝堂院跡北東端で行った発掘調査（朝堂院調査1）である。調査区東端で奈良時代に埋没した北東から南西方向に延長する溝(SD36)の一部を検出した。

SD36の北東は調査区外へ延び、南西は平安時代溝によって削平を受けているが、6m分を検出した。幅0.6m、深さ0.2～0.35mある。断面形はU字状を呈する。土師器甕、須恵器杯蓋・鉢・甕などが出土した。

調査21 (1223 文 282-2) 平成3年(1991)、中務省跡北辺西寄りで行った発掘調査（中務省調査13）である。古墳時代後期と考えられる比較的大型の土壙5基（土壙5～9）を検出している。

土壙5は東西0.9m以上、南北2.2m以上、深さ0.9m。土壙6は東西1.2m以上、南北2.4m以上、深さ0.4m。土壙7は東西2.0m以上、南北1.2m以上、深さ0.2m。土壙8は東西1.5m以上、南北1.2m以上、深さ0.2m。土壙9は東西3.0m以上、南北1.6m以上、深さ0.1～0.2m

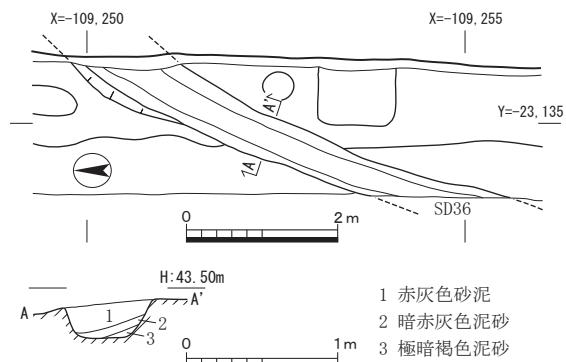


図25 調査20 SD36実測図(1:100, 1:50)

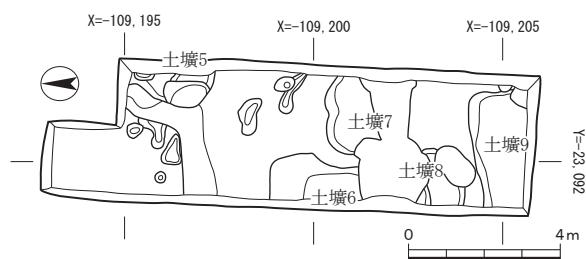


図26 調査21 調査区平面図(1:200)

ある。

5基とも、いずれも調査区外に広がるか、後世の遺構によって削平を受けており、全容は確認できなかった。遺物はいずれからも土師器・須恵器の破片が出土しており、古墳時代後期と考えられる。

また、このほかに古墳時代後期の土器小片を少量出土する小土壙も検出したが、いずれも不整形であり、いくつかは遺構ではなく木の根などによる壅みの可能性もある。

調査22 (1240 文307-4) 平成3年(1991)、
JR西日本山陰本線高架に伴う発掘調査である。
豊楽院跡西端中央にあたる調査区（豊楽院調査
5）では、近代の遺構埋土から弥生土器、古墳時
代前期の土師器などが出土している。

調査23 (1257 文282-3) 平成3年(1991)、
中務省跡北辺中央で行った発掘調査（中務省調査14）である。古墳時代末期から飛鳥時代の溝4
条・柱穴7基を検出した。

溝には幅0.5～0.8m、深さ0.2m前後の東西方向を示す溝3条と、幅0.5mの不定方向の溝1
条がある。柱穴は不整形な円形のもので径0.3～0.6mあり、いずれも柱痕跡は径0.1m程度の少
型の柱穴である。柵や建物としてのまとまりは確認できなかった。

調査24 (1259 文281) 平成3年(1991)、豊楽院跡中央北寄りで行った立会調査である。現
地表下0.28m以下で古墳時代の遺物包含層を
検出している。

調査25 (1343 文285-1) 平成4年(1992)、
中務省跡北部西寄りで行った発掘調査（中務
省調査17）である。古墳時代後期の竪穴住居
のカマド(SK20)、掘立柱列、溝(SD24)、土
壙群などを検出した。

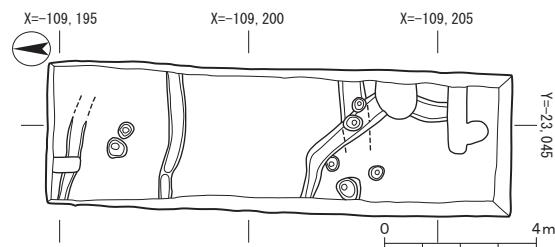


図27 調査23 調査区平面図(1:200)

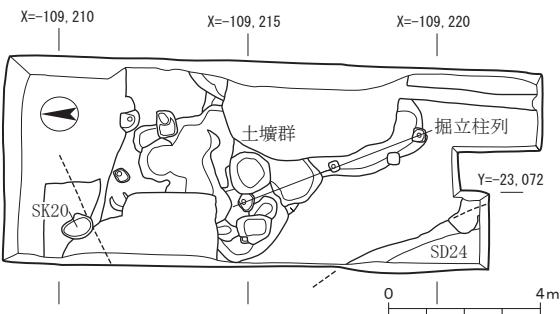


図28 調査25 調査区平面図(1:200)

SK20は調査区北部で検出した長径0.8m、短径0.55mの橢円形の土壙である。底面は平坦であるが南東部が高く北西に低い。底面中央南東寄りには支柱と考えられる石が据えられており、その覆土には焼土や炭・灰を含むこと、SK20北側で竪穴住居の床面と考えられる硬く締まった土層を確認していることなどから、上部構造はすでに削平されて失われているものの、竪穴住居のカマドの底部跡と考えられる。掘立柱列は、座標北に対して西に振れる南北2間分の柱穴を検出した。柱間は2.5m、柱穴は一辺0.5～0.7mの方形を呈し、柱痕跡は径0.1m程度である。SD24は調査区南西隅でその東肩部分を検出した。幅は1.3m以上、深さは0.45m、溝の東肩部の方向は北西から南東を示しており、ほぼ掘立柱列と同様に座標北に対し西に振れる。須恵器杯身・甕などが出土した。

これらのほかに、調査区中央から北にかけての範囲で、多数重複する不整形の土壙群を検出し

ている。

調査26 (1462 文308-2) 平成6年(1994)、朝堂院東面回廊跡中央付近で行った発掘調査（朝堂院調査5）である。この調査では朝堂院東面回廊に取り付く宣政門の基壇を検出した。基壇保存のため下層遺構は調査できなかったが、基壇東端にある搅乱壙の壁面では、基壇積土層下で古墳時代後期の溝状の落込を検出した。観察できた断面は流路方向に直交しないと考えられるが、断面観察では東西幅2.5m以上、深さ0.5mで、溝の北西肩口を確認した。調査2の溝の南西延長部にあたるものと考えられ、北東から南西方向の溝であると推測できる。

調査27 (1483 文308-3) 平成6年(1994)、武徳殿跡の西、右近衛府・右兵衛府跡間で行った発掘調査である。飛鳥時代の土壙（土壙2）、掘立柱建物（建物15・16）、掘立柱列（柵24）を検出した。

土壙2は調査区南端で検出した東西2.5m、南北3.0m、深さ0.5mの歪な橢円形の土壙である。土壙内からは土師器・須恵器の破片多数のほか、焼土や炭・粘土塊などが出土しており、廃棄坑として機能したと考えられる。掘立柱建物は2棟、いずれも調査区東端で検出した。建物15は座標北に対し西に振れ、南北2間、東西1間分を検出した。柱間は1.7m、柱穴は0.3～0.4mの橢円形を呈し、柱痕跡は径0.15mの円形である。建物16は同様に座標北に対して西に振れ、南北1間、東西1間分を検出した。柱間は南北が2.1m、東西が1.5m、柱穴は0.5m前後の方形を呈し、柱痕跡は径0.2mの円形である。これら2棟は位置関係から前後して建てられた建物と考えられる。柵24は上記掘立柱建物とほぼ同じ振れを持つ東西2間分を検出した。柱間は1.7～1.8m、柱穴は一辺0.4m前後の方形に近い掘形で、柱痕跡は径0.15m前後である。

調査28 (1476 付章40) 平成6年(1994)、千本通の西側、上長者町通以南、下立売通以北で行った立会調査である。内藏寮・内膳司・中和院跡のほぼ中央を南北に貫通する。調査では、数箇所で現地表下0.2～1.0mにおいて厚さ0.2～0.3mの平安時代以前の遺物包含層と考えられる黒色砂泥層や黒褐色土層を確認した。

調査29 (1539・1546 付章45) 平成6年(1994)、調査28と同様、千本通東側で行った試掘・立会調査である。この一連の調査のうち、調査8の西で行った6トレンチの調査では大極殿院北面回廊の基壇北縁化粧である凝灰岩の一部を検出した。この基壇の下層に調査8で検出した溝と同一溝と考えられる遺構埋土（褐色泥砂層）を確認した。基壇化粧の保存のため、下層については未調査であるが、遺物は土師器などが出土地している。

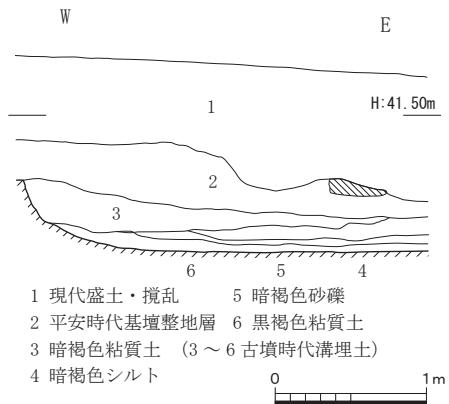


図29 調査26 溝状落込断面図(1:50)

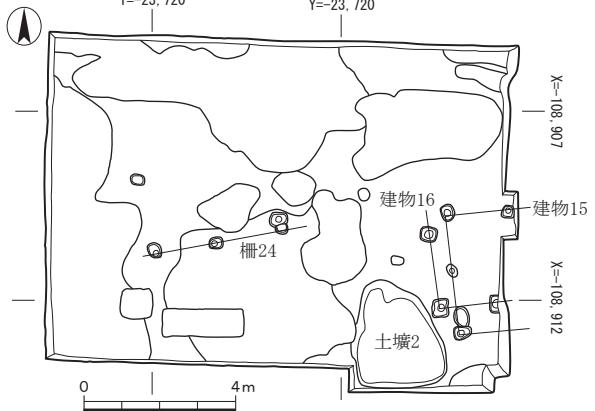


図30 調査27 調査区平面図(1:200)

以上が当研究所が行った調査であるが、その他の機関で行われた3件の調査についても、ここで簡単に触れておくこととする。

昭和48年(1973)、古代学協会が上京区竹屋町通千本東入主税町911番地二条中学校内で行った
^{文149}発掘調査(図5の調査イ)である。民部省跡に想定され、古墳時代の須恵器甕・壺が出土した。

昭和50年(1975)、保護課が上京区下立売通千本西入稻葉町455番地で行った発掘調査(図5の調査ロ)^{文147-4}である。中和院跡南西端および真言院南東端に想定できる。平安時代以前の土器が出土した。

平成3年(1991)、京都市埋蔵文化財調査センターが上京区竹屋町通猪熊西入糞屋町536で行つた試掘調査(図5・31の調査ハ)^{文280}である。宮城東限、大炊寮跡南東部に想定できる。現地表下0.66mで弥生時代の南北方向を示す溝を検出した。

3 分布と変遷

以上、宮城の調査のうち、造営以前の遺構・遺物を検出した調査の概要について記した。ここでは、表2に示した、平安宮周辺、すなわち左京と右京の北辺・一条・二条の二坊および三条の一・二坊域における造営以前の遺構・遺物を検出した調査についてもその概要を示し、あわせて遺構・遺物の分布と変遷について考察することにしたい。

(1) 分布の概要 平安宮跡の立地する丘陵周囲は東西に流路、南に湿地が確認でき、集落の立地を考える上である程度独立した小地域といえる。この範囲内では、宮城で前項の32件、左京城で14件、右京城で12件の調査において造営以前の遺構・遺物を何らかの形で検出している。これらの分布は、宮城の南半部に片寄る傾向があるが、これは宮跡北東部に該当する地域に造営された桃山時代の聚楽第の堀による掘削が、地山深くまでおよんだことから、遺跡が破壊されたとも考えられる。また、造営以前の遺構検出面である黄褐色系の砂泥層、いわゆる聚楽土が壁土に適することから、近世以降には土取りの対象となっていたことも、宮跡南半に比べて同北半では遺構・遺物の検出がこれまであまりみられない要因の一つであろう。しかし、左・右京城においても北半に遺構・遺物の検出例がほとんどないという事例を含めて、宮内における遺構・遺物の検出例をみると、宮跡北半は南半に比べて元来遺構密度が希薄であったとも考えられる。

(2) 時期別の変遷 これらの遺構・遺物は、縄文時代から弥生時代前期、弥生時代中期から古墳時代前期、古墳時代後期から飛鳥時代^{註4}、奈良時代の四つの時期に大きく分けることができる。以下、その各時期について主要な遺構とその分布について記す。

縄文時代晚期から弥生時代前期 この時期の明確な遺構は、これまでの調査において検出されていない。いずれも河川や沼沢と考えられる規模の大きな湿地状の堆積が確認されており、平安時代や鎌倉・室町時代にまで存続している例が多い。分布域は主として宮城の外周部分、東部から南西部にみられる。

もっとも顕著な例は、南東部の左京三条一・二坊での調査yであろう。この調査のうち、現二条城南濠の南道路部分東端の調査箇所(調査y-②・③)で、東西幅70m以上におよぶ北東から南西方向を示す流路跡を検出した。この箇所は丘陵の南東辺にあたり、古堀川に相当する河川の一部であると考えられる。この流路跡は縄文時代晚期を上限とし、規模を縮小しながら古墳時代

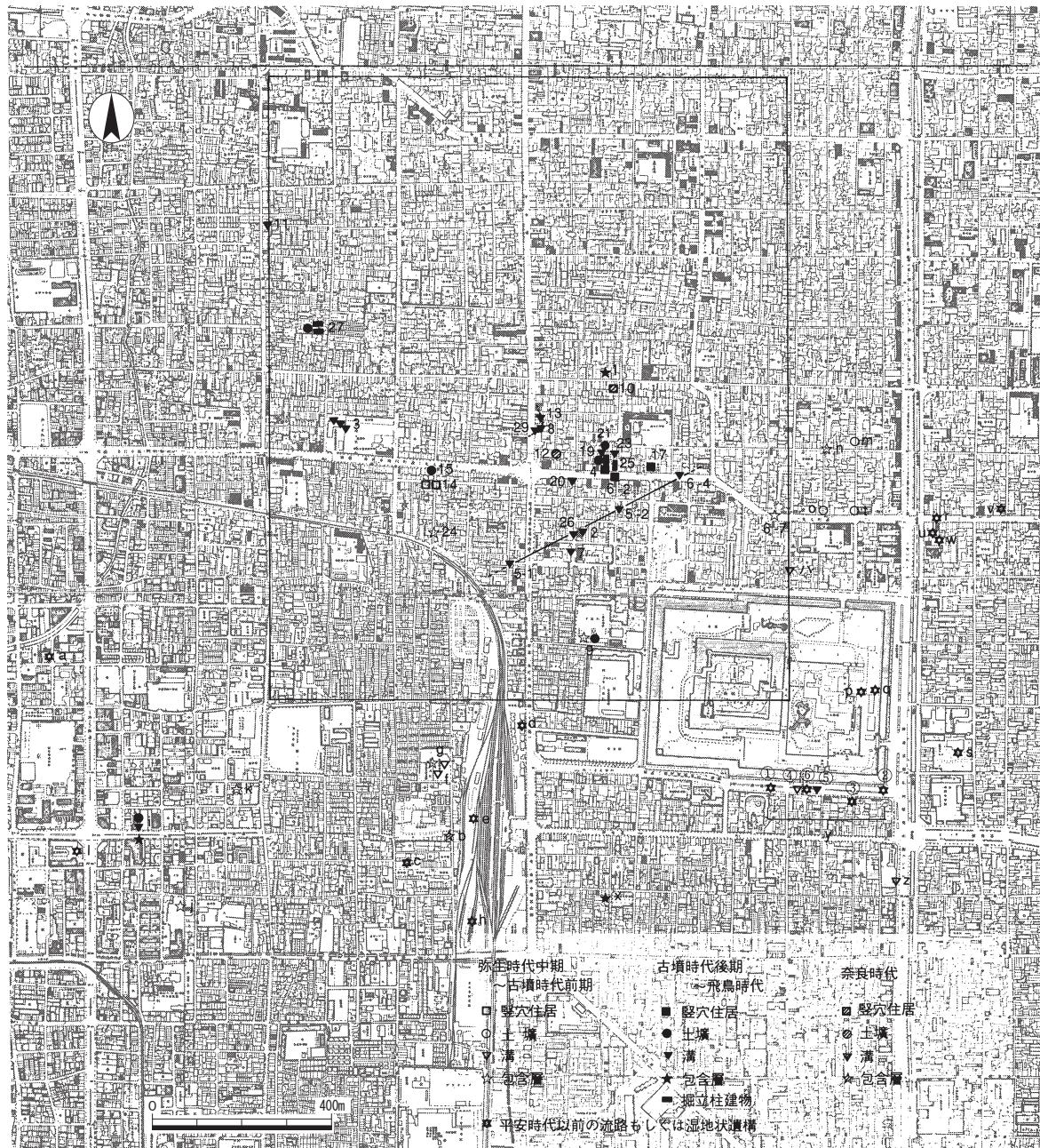


図31 遺構・遺物検出地点分布図(1:15,000)

後期まで存続したものと考えられる。同様の流路状の堆積はこの北東で行った調査 s や二条城内の調査 p・q などで確認している。また調査 y のうち、現在の神泉苑の北側部分（調査 y-①）では、平安時代神泉苑の苑池の一部を検出し、下層でその前身となる沼沢状遺構の北縁部分を検出した。この沼沢状遺構からも縄文時代晚期を上限とする遺物が出土している。

また、東部の左京二条二坊域（高陽院跡）周辺の調査においては、小規模ながら弥生時代前期から中期の流路状の遺構を検出している（調査 r・u・w）。この一帯では高陽院の池が検出されており、その堆積土層内に弥生時代から古墳時代の土器が混入していることがあり（調査 v）、周辺に集落跡が存在する可能性が高い。

さらに南部から西部にかけての地域、主に現 JR 二条駅周辺、右京三条一坊域においても南西方向を示す流路跡（調査 d・e・h）や湿地状の堆積（調査 c）を確認している。これらについても、

表2 平安宮周辺の遺構・遺物検出地点一覧表

調査	条坊	調査記号	方法	住所	遺構・遺物
a	右京二条二坊	88BB-HR16	立会	中京区西ノ京南上合町4 文213	縄文早期：包含層（現地表下0.4～0.5m、暗茶褐色砂泥層）
b	右京三条一坊	82BB-HR34	立会	中京区星池町 文215	奈良～平安中期：包含層（現地表下0.7m）
c		82BB-HR52	立会	中京区西ノ京小倉町10 文215	古墳～平安：池あるいは湿地状堆積（現地表下1.14m）
d		84HK-UB II	試掘	中京区西ノ京梅尾町 中村 敦「平安京右京三条一坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1994年	縄文晚期以降：流路堆積（中世に埋没）
e		89HK-UF	発掘	中京区西ノ京内畠町ほか 堀内明博「平安京右京三条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1994年	古墳：流路堆積（北東から南西）
f		92BB-HR415	立会	中京区西ノ京星ヶ池町地内 平田 泰「右京三条一坊八町・穀倉院(92 HR 415)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成5年度』文觀局 1994年	弥生後期：溝（幅0.4m、深さ0.2m、北東から南西） 古墳後期：須恵器（混入）
g		92HK-UI	試掘	中京区西ノ京星ヶ池町地内 92HK-UI2	弥生：流路（幅0.7m、深さ0.05m、東西方向） 弥生：包含層
h		93HK-UK1・2	試掘	中京区西ノ京梅尾町地内 i	平安以前：流路堆積
i	右京三条二坊	82HK-RD	発掘	中京区西ノ京原町64 j	古墳：土壤・溝・包含層（黒褐色砂泥層）
j		84BB-HR149	試掘	中京区西ノ京北小路町4他 文243	古墳前期：包含層
k		88BB-HR113	立会	中京区西ノ京銅駄町61 文260	古墳前期：包含層（現地表下0.65m）
l		89HK-CF8	発掘	中京区西ノ京下合町11 木下保明「平安京右京三条二坊2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1994年	古墳後期：平安流路に混入
m	左京一条二坊	87BB-HL220	立会	上京区猪熊通下立壳下大黒町464 文254	弥生中期：土壤2（現地表下1.06m以下）
n	左京二条二坊	79HK-AI2・3	立会	中京区丸太町通上黒門通 文280	弥生前期～中期：包含層（現地表下1.2m）
o		81HK-J0	発掘	中京区丸太町通大宮東入藁屋町530 吉崎 伸「左京二条二坊(1)」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1983年	弥生中期：柱穴・炉・包含層（暗茶褐色・黒灰色粘土）
p		81HK-JJ7	発掘	中京区二条通堀川西入二条城町541 辻 裕司「左京二条二坊(3)」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1983年	縄文晚期：流路
q		82HK-JJ8	発掘	中京区堀川通二条上二条城町541 久世康博「左京二条二坊(3) 史跡二条城」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1984年	縄文中期：土器（平安後期池状堆積に混入）
r		83HK-K28	発掘	丸太町通（東堀川東入） 家崎孝治「左京二条二坊」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1985年	縄文晚期～弥生前期：流路堆積（幅5m、深さ0.5m）
s		83HK-UC	発掘	中京区油小路二条下二条油小路町280他 菅田 薫・本弥八郎ほか「左京二条三坊」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1985年	縄文中期：土器
t		87BB-HL51	立会	上京区猪熊通丸太町上木屋之町500-2 文254	弥生中期：土壤3（現地表下0.8～1.37m）
u		87BB-HL316	立会	中京区東堀川通丸太町下七丁目4 文260	弥生：流れ堆積（現地表下1.75m）
v		88HK-MU	発掘	中京区丸太町通小川西入横鍛冶町100 内田好昭「平安京左京二条二坊」『平安京跡発掘調査概報 昭和63年度』文觀局 1989年	弥生後期・古墳中期：土器（平安以降池状堆積などに混入）
w		88H-MX	発掘	中京区東堀川通丸太町下七丁目3 網 伸也「平安京左京二条二坊」『平安京跡発掘調査概報 平成元年度』文觀局 1990年	弥生前期～中期：流路堆積（幅5.5m、深さ1m、北東から南西）
x	左京三条一坊	83HK-UD	発掘	中京区西ノ京勧学院町25-4 伊藤 淳・吉村正親「左京三条一坊」『平安京跡発掘調査概報 昭和58年度』文觀局 1984年	弥生：包含層（灰色粗砂礫層）
y	左京三条一坊・二坊	90HK-FR4 91HK-FR5 92HK-FR6	発掘	押小路通（二条城南堀南部分） 小森俊寛・上村憲章ほか「平安京左京三条一～四坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1994年	①縄文晚期に埋没した沼沢北縁（最大幅20m） ②縄文晚期以降：流路（幅70m以上、深さ3m以上、北東から南西） ③縄文晚期以降：流路（北東から南西） ④弥生中期：溝（幅2m、北東から南西） ⑤古墳後期：包含層、流路、溝（北東から南西） ⑥不明：流路（北東から南西）
z	左京三条二坊	81HK-FC	発掘	中京区堀川通御池下上巴町431-1他 丸川義広・辻 裕司「左京三条二坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1983年	弥生後期：溝（幅1.2m以上、深さ0.3m、南北方向）

※調査番号は便宜的に付した。また、関連文献は各調査の下段に示し、発行機関については財団法人京都市埋蔵文化財研究所は埋文研、

京都市文化観光局文化財保護課は文觀局と表記した。

出土した遺物の上限は縄文時代晚期である。

弥生時代中期から古墳時代前期 弥生時代中期の遺構・遺物を検出した地域は、宮東端から左京二条二坊の西半部分に限られる。当該期の柱穴や炉と考えられる土壙を検出した調査oを始めとし、遺物包含層を検出した調査nや土壙を検出した調査m・tがあげられる。

弥生時代後期の遺構は、左京三条二坊域の調査zで南北方向の溝を1条検出した。この調査z地点は、先述した調査yの縄文時代晚期以降の流路跡南方で、南東岸にあたる。この地点周辺に集落が立地する微高地が形成されていたと考えられる。

豊楽院跡で行った調査14では、弥生時代後期末葉の竪穴住居を検出し、別の箇所でも竪穴住居と考えられる土層を確認している。また、南方の調査24では、古墳時代前期の遺物包含層を確認していることなどから、豊楽院跡周辺にも弥生時代後期末葉から古墳時代前期の集落などの存在が想定できる。

古墳時代後期から飛鳥時代 他の時期に比べ当該期の遺構・遺物の検出がもっとも多く、これまでに竪穴住居3戸、土壙11基、掘立柱列2列や柱穴などがあり、溝は10箇所の調査で検出している。しかし、本項で対象とした宮外地域では当該期の遺構・遺物の検出例はほとんどみられず、土壙1基と溝2条を検出したに過ぎない。

古墳時代後期の遺構については、ほとんどが中務省域に集中しており、この地域が当該期の中心の一つであったと思われる。竪穴住居は、いずれも後世の遺構に削平されたり調査区外に広がるため全容は明らかではないが、方形の平面形を呈しカマドを備えていると考えられる。

掘立柱列は、南北2間分のもの2列を検出している。いずれも座標北に対し西に振れる。調査区内では確認できなかつたが、建物になる可能性もある。溝は検出した10例のうち、同一の溝と考えられるものが少なくとも2例ある。このうち北から調査6-4・5-2・2・26・5-1でそれぞれ検出した溝は、いずれもその規模や断面形、方向などから、おそらく同一溝と考えて間違いないであろう。また、もう一例は調査13・8・29で検出した溝で、その規模や埋土の状況などから同一溝と考えられる。この溝は調査13では北西から南東方向を示すが、調査8では南肩のみを検出したことから、この間で南西方向に向きを変えるものと考えられる。

また、飛鳥時代と考えられる遺構は、宮域の西端付近で行われた調査27で検出した。検出した遺構には土壙1基、掘立柱建物2棟、掘立柱列一列がある。当該期の建物の振れは、やはり座標北に対して西に振れる。

奈良時代 当該期の遺構・遺物の検出例は少ないが、その分布は内裏跡から朝堂院跡にかけての地域（調査1・10・12・20）でみられ、検出した遺構には竪穴住居1戸、土壙4基、溝1条などがある。『拾芥抄』所収の『天暦御記』逸文には、大内裏の場所がかつて秦川勝の邸宅があつた場所であるとする記載があり、秦氏との関連性が注目される。

また、調査11では溝を検出しており、調査3および調査16周辺では、古墳時代後期から奈良時代にかけての遺物が後世の遺構から出土している。

以上、平安宮造営以前の遺構・遺物について平安宮域を中心として述べた。以下に、検討の結果をまとめて小結とする。

まず、平安宮の立地する丘陵の縁辺部には河川や沼沢とみられる湿地状の堆積が各調査で確認されている。このことから、平安宮の占地した地域はその周辺に河川や沼沢を備えた環境であったといえ、それ以前の集落立地にも適していたといえよう。また、縁辺部に存在する湿地状堆積は、縄文時代晚期から弥生時代前期を上限としており、平安時代以降も規模の差はあるもののその姿をとどめ、神泉苑や高陽院などのように苑池として利用されている例も多い。

冒頭にも述べたように、平安宮域の下層遺跡としては、宮域の東部に聚楽遺跡と二条城北遺跡が知られている。聚楽遺跡の範囲は、古墳時代後期の集落が中務省域を中心とすることがより明確となった。弥生時代中期の遺構・遺物は、宮域の東端から左京二条二坊域にかけての地域で検出されており、二条城北遺跡の範囲とおおよそ重なる。

このほかに、豊樂院跡を中心とした地域に弥生時代後期から古墳時代前期の集落、また内裏跡周辺を中心とした地域に奈良時代の集落、さらに宮西部地域に飛鳥時代から奈良時代の遺構・遺物検出地点が認められる。これらの遺跡は、現在までのところ周知の遺跡と認められておらず、新たに遺跡に認知されるべき成果と考えられる。

以上に述べた各時代の集落の分布は、宮域の南半にみられ、内裏・豊樂院・中務省跡などの占地する位置と符合する。このことは、その地域の立地条件が優れていることを示しているものと思われる。当該地域における平安時代以前の集落の解明は、京都盆地における平安時代以前の遺跡の様相を理解する上で重要であるとともに、平安宮・京の立地や環境を復原する上でも重要な視点となるもので、今後とも、さらなる調査・研究が必要であろう。註5

註

註 1 『京都市遺跡地図台帳』京都市文化観光局 1986年

註 2 奈良時代の堅穴住居については、京都市内ではこのほかに植物園北遺跡や京都大学構内遺跡、南春日町遺跡で計 6 棟が確認されている。

高橋 潔「山背北部における奈良時代堅穴住居跡について」『平安京歴史研究』杉山信三先生米寿記念論集刊行会 1993年

註 3 この溝は、報告時には「河川跡」と呼ばれたが、ここでは「溝」と呼称する。

註 4 ここでは、いわゆる白鳳期を含めて飛鳥時代と呼称する。

註 5 文 308-3においても、平安宮と平安京右京三条以北の下層遺跡についての考察が掲載されている。あわせて参考されたい。

第3章 平安宮跡の調査

I 朝堂院跡

1 経過

朝堂院は朝政・告朔などの政務、即位・朝賀などの儀式を行うところで、宮城中心部に位置し、大極殿・朝堂・朝集堂からなる。南正面中央には応天門が、その左右に栖鳳・翔鸞の両楼がある。朝堂域の北には龍尾壇があり、それによって一段高くなる。龍尾壇をのぼればすぐ左右に蒼龍・白虎の二樓がそびえ、その北正面中央には正殿である大極殿が、すぐ北に小安殿が続く。外周は複廊で囲まれているが朝集堂の区画は築地である。

朝堂院は貞觀8年(866)を最初にたびたび火災に遭い、そのつど再建されるが安元3年(1177)の焼亡後は再建されることはなかった。規模については文献や宮城図などに明確な記載がなく『大内裏図考証』における裏松固禪の復原が一般に定着していた。昨年、平安京遷都1200年を記念して刊行された『平安京提要』において考古資料に基づいた復原が提示された。

調査は、当研究所設立以前には平安博物館・古代学協会が中心となって多数行われている。その中で唯一、平安時代の明確な遺構を検出しているのが、昭和46年(1971)に実施された下水道工事に伴う立会調査である。^{文113}この調査において複数の建物基壇を検出している。それらは、朝堂十二堂の内の延祿堂と修式堂のもので、延祿堂は東西に断ち割る形で基壇を検出している。そこでは、基壇東西端の最下部を構成する凝灰岩の延石列を数箇所で検出し、その東西幅は約17.5mであった。また、修式堂は基壇北縁の凝灰岩延石列を東西17mにわたり検出している。^{註1}

昭和51年(1976)研究所設立以降、朝堂院跡で実施した調査は21件の発掘調査(内1件は他機関による)と6件の広域立会調査、121件の試掘・立会調査(内2件は他機関による)を実施している。当該地には東西中央を南北に千本通、大極殿のすぐ南を東西に丸太町通という基幹道路が走り、小店舗や住居が密集している。このため、開発の規模が狭小なことや中・近世の生活痕跡が激しいことなどから、平安時代の遺構が検出されにくい状況にある。その中で明確な遺構検出例は7件あり、それらを便宜上、朝堂院と大極殿院とに分けて説明すると、朝堂院では東・北面回廊、朝堂十二堂のうち承光堂、明礼堂、暉章堂基壇および宣政門、応天門基壇、大極殿院では大極殿南縁、東軒廊、北面回廊基壇などを検出している。

2 遺構

朝堂院および大極殿院に関する明確な遺構について述べて行く。

1 朝堂院 朝堂院で行われた発掘調査は15件ある。広域の立会調査は3件である(調査3とした広域立会調査は2件の調査を1件として扱う)。北から順に調査番号をふり説明する。ただし、調査2(174 付章17)・調査4(129 文193-4)・調査6(845 文255-2)・調査8(300 文214-2)・調査9(147 文193-5)・調査10(26 文175-7)・調査11(15 文167-8)・調査13(21

文 167-6)・調査 14(30 文 175-8)・調査 15(1166 文 306-5)・調査 16(1240 文 307-4)・調査 18(740 付章 38)については平安時代の遺構および遺物包含層の検出がないことから、ここでは説明を省略する。また、立会・試掘調査については平安時代の遺構および遺物包含層の検出例が 5 件あり、それらについては調査番号を 19 番からとする。

調査 1 (1172 文 269-1 図版 18) 上京区丸太町通土屋町西入中務町 491-44 他で店舗兼用マンション建設の計画があり、平成2年(1990)6月 11 日に試掘調査を行った結果、平安時代の東西方向の溝状遺構を検出した。この溝の位置は、朝堂院の北面回廊に関するものと推測され、同年 8 月 6 日より 9 月 14 日まで発掘調査を行った。調査面積は 186 m²である。

調査では上記の東西溝(北溝)とこの溝が調査区東で直角に南方向に曲がるコーナー部と南北溝(東溝)を検出した。東溝は検出幅約 2.0m あり、大きく 3 時期に分けられる。もっとも古い 1 期は溝の西肩部に暗茶褐色泥砂層の堆積が残り、幅 0.5m 前後を確認した。東肩部は 2 期の溝に削平されているため、全体の規模は不明である。2 期は幅 1.0m 前後、深さ 0.2m あり、西肩部には杭跡がある。杭跡は径 5 ~ 10cm、深さ 5cm 前後で 60 数箇所検出した。杭跡の間隔は 0.1 ~ 0.2m で北側のコーナー部でとどまる。灰褐色砂泥層が堆積し、細片の土師器や瓦が出土した。3 期は幅 1.8 ~ 2.0m、深さ 0.3m ある。2 期の溝を東に拡げており、灰褐色泥砂層が堆積する。溝の南半では軒瓦、丸・平瓦と共に多量の焼土が出土した。

北溝はコーナー部と、確認のために調査区を拡張して検出した西側のものとでは 1m ほどの出入りがあり、西側のものが北寄りで検出され、溝の標高も約 0.3m 低い。堆積土層は東溝の 3 期

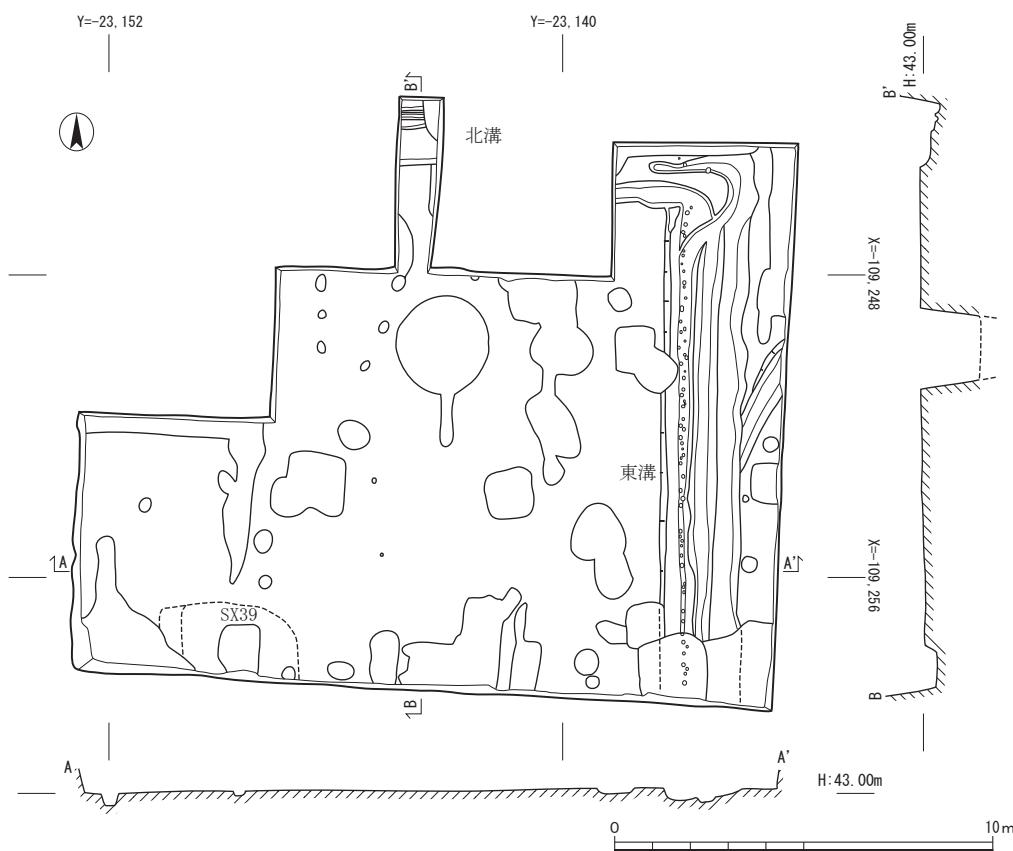


図32 調査1 調査区実測図(1:200)

のものと同じ灰褐色泥砂層が堆積している。

東溝は朝堂院の東面回廊東縁に推定される位置にあり、溝の幅が大きいこと、瓦が多量に出土したことなどから据付跡ではなく東面回廊に伴う雨落溝とするのが妥当である。

北溝は朝堂院の北面回廊北縁付近の位置にあることや東溝とつながっていることから、北面回廊に伴う雨落溝と考えられる。

東面回廊西縁および北面回廊南縁も調査区内に想定される。SX39 が基壇内側隅部に該当する位置にあることは注目される。

調査3 (81・89 付章 32) 昭和54年(1979)8月から昭和54年(1980)3月まで大阪ガスのガス本管および枝管敷設替工事に伴って実施した広域の立会調査である。調査は千本通の東と西に分かれ、東側は千本丸太町、丸太町智恵光院、竹屋町智恵光院、千本竹屋町を四隅とする地域の道路部分で丸太町通、智恵光院通、千本通と土屋町通の丸太町通から一筋下る間での道路を除いた地域で調査を行った。当地域の西半部は朝堂院跡に、東半部は中務省跡南辺部と太政官跡北半部にあたる。

朝堂院に関する遺構としては朝堂十二堂のうち承光堂北・東基壇縁、明礼堂東・西基壇縁、暉章堂東基壇縁および東面回廊基壇東西縁、宣政門基壇東西縁を検出した。

丸太町通下る3筋目（千本通から土屋町通）の京都市保健衛生専門学校の北側道路で、承光堂跡の東縁（図版8の3-5）と北縁（同3-6）の凝灰岩列を確認した。基壇の規模は不明であるが、北縁の凝灰岩切石の高さは15cmほど遺存していた。東縁の凝灰岩列はかなり破壊された状況であったが幅24cm、高さ10cmほど遺存していた。基壇での版築は認められなかった。

竹屋町通の南歩道では、明礼堂と暉章堂跡の基壇を検出した。

明礼堂跡の基壇西縁と階段部分（同3-11）および東縁の凝灰岩列の抜取跡（同3-10）を確認した。階段は明礼堂の西側最北部のもので、その北辺部にあたる。階段部の石列外面は建物基壇端から西へ1.13m突出していた。階段部の石列は長さ75cm、幅38cm、高さ17cmの切石を使用していた。建物基壇の切石は幅27cmある。この石列の東約18mで幅30cmの石列抜取跡が認められた。

さらにこの西側で暉章堂跡の基壇東縁（同3-12）を検出した。凝灰岩の切石は幅35cm、高さ14cmあり、上の面は外側26cmが段をなして削りこまれている。石列の外側には小礫と凝灰岩粉末の混じる茶灰色土が堆積していた。

調査1の南にあたる、丸太町通下る一筋目と土屋町通の交差点付近で東面回廊基壇東・西縁を検出した。東縁（図版7の3-1）では凝灰岩列を南北4.0mにわたって検出したが、北へ行くほど遺存状況は悪くなっていた。西縁（同3-2）では幅55cmの凝灰岩列抜取跡を検出した。この結果、



写真1 調査3 明礼堂階段部検出状況（西から）

東西回廊基壇幅は約 12.0m であった。

丸太町通下る三筋目と土屋町通の交差点付近で宣政門基壇の東・西縁の石列を検出した。東縁の石列（図版 8 の 3-3）は凝灰岩切石で長さ 90cm、幅 34 ~ 38cm、高さ 30cm が遺存していた。この内側に幅 30cm の掘形がある。西縁（同 3-4）はやや残りが悪く、切石は現存幅 16cm、高さ 15cm で、掘形はわずかに認められるものの明確ではなかった。この基壇東西幅は石列外縁間で 12.5m である。

西側での調査は聚楽廻中町における道路部分で実施した。ここでは、修式堂の基壇北縁（同 3-14）の凝灰岩を検出した。検出地点は、昭和46年（1971）に検出した修式堂基壇北縁凝灰岩石列の西にあたる。

なお、この調査は付章 32 で掲載している。

調査 5 (1462 文 308-1 図版 19) 京都市上京区竹屋町通千本東入主税町 1202 番地で平成6年（1994）2月1日から3月18日まで発掘調査を行った。調査地点は調査 3 で検出した宣政門基壇東西縁検出地点から北約 10m にあたる。調査対象面積は 63 m² である。

調査では基壇東端を示す凝灰岩石列および凝灰岩抜取跡 2箇所、基壇西端の凝灰岩抜取跡を検出した。東端の凝灰岩石列は基壇検出面より約 0.4m 低い位置で南北 1.7m 分を検出した。石列上面の西辺には幅 6 ~ 11cm の平坦な加工面が残り、この部分に別の石が積み重ねられていたと考えられる。これより東側は摩滅によりゆるく傾斜していた。切石の平面形はほぼ正方形に近く、一辺 40 ~ 46cm、高さ 11cm ある。抜取跡 3 は石列の西に並行しており、幅 0.40 ~ 0.45m ある。凝灰岩片および薄い膜状の凝灰岩痕跡がある。抜取跡 2 は基壇上面から 0.2m 下がった位置で検出している。東西幅 0.4m あり、底部には凝灰岩片が密集していた。基壇西端の凝灰岩抜取跡 1 は調査区西壁に位置し、全体を確認することができなかった。ただし、抜取跡の東肩口および南東隅部については、部分的ながらも検出することができた。検出規模は東西 0.7 ~ 0.8m、南北 3.2m ある。

検出した抜取跡 1 東肩口と抜取跡 2 西肩口間が 12.05m あり、これが宣政門基壇東西幅と考えられ、調査 3 で検出した基壇東西縁の延長上にある。抜取跡 2 より東約 0.8m で検出した凝灰岩列は攪乱などで削平され、検出した範囲が狭いこと、凝灰岩を用いた同じような造作をした遺構の検出例がないことから、この遺構の性格をどのように判断するか難しい状況にある。ただし、検出した基壇が位置的に門であることが明らかであることから、これを門の階段とするのが妥当であろう。

調査 7 (118 付章 14) 調査 5 の 15m ほど南東で行った発掘調査で、東面回廊のすぐ西にあたる。調査面積が狭小であるが、平安時代の遺物包含層を検出することができた。なお、詳細に

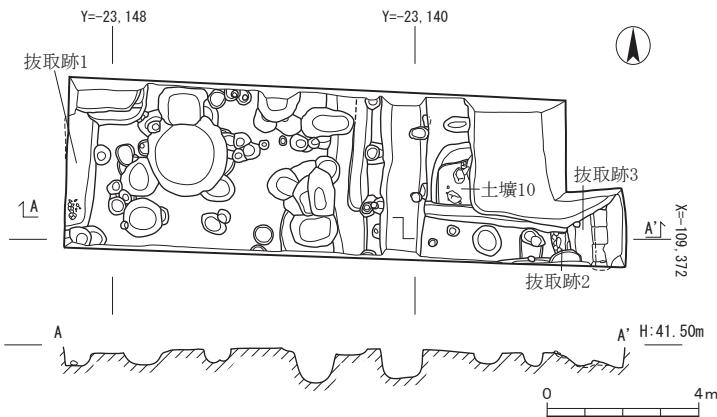


図33 調査5 調査区実測図(1:200)

については付章 14 で掲載している。

調査 12 (885・897 文 279-2) 千本通を丸太町通から JR 二条駅まで縦断する発掘・立会調査である。朱雀門、応天門、会昌門の推定地でそれぞれ幅 3m のトレンチを設定して調査を行ったが、ほとんどの調査区で搅乱を受けており、平安時代の明確な遺構を検出することはできなかつた。ただし、推定応天門基壇付近では凝灰岩片と多量の瓦を検出した。また、推定龍尾壇付近の立会調査で、地山の上がりを確認した。

調査 17 (113 付章 12 図版 20) 中京区聚楽廻南町 1-9 で実施したマンション建設に伴う発掘調査である。調査地点は応天門の南西部から朝集堂南面回廊にあたる。調査の結果、平安時代後期の遺物包含層や土壙、柱穴、集石遺構などを検出した。なお、遺構実測図など詳細は付章 12 で掲載している。

調査 19 (950 文 260) 昭和63年(1988)度に実施した試掘調査で、平安時代の整地層を現地表下 0.8m で検出している。

調査 20 (500 文 237) 昭和58年(1983)度に実施した立会調査で、平安時代の遺物包含層を現地表下 1m で検出している。位置的には朝堂十二堂の含章堂基壇内にあたる。

調査 21 (892 文 254) 昭和62年(1987)度に実施した試掘調査で、平安時代の整地層を現地表下 0.7m で検出している。

調査 22 (923 文 260) 昭和63年(1988)度に実施した試掘調査で、平安時代の落込を現地表下 1.2m で検出している。位置的には承光堂にあたる。

調査 23 (797 文 251) 昭和61年(1986)度に実施した立会調査で、平安時代の土壙複数を現地表下 0.6m で検出している。

2 大極殿院 大極殿院内では 5 件の発掘調査と 3 件の試掘・立会調査を行っている。このうち 5 件の調査で、平安時代の遺構を確認している。調査番号は北から順に朝堂院に続いて付した。

調査 26(32 文 175-2)・調査 28(332 文 221-2)・調査

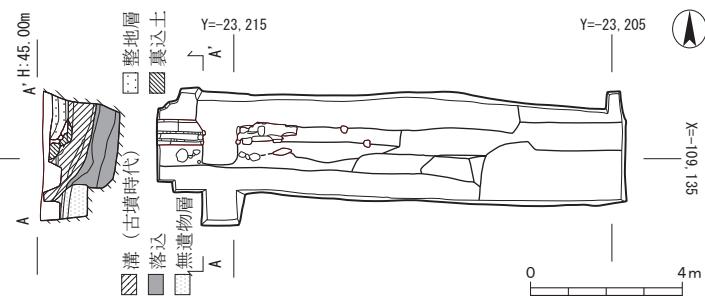


図34 調査24 調査区実測図(1:200)

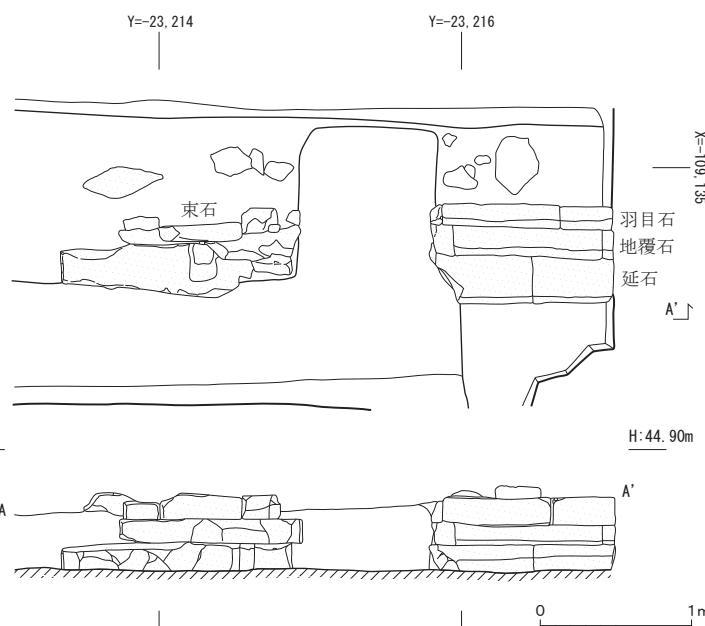


図35 調査24 基壇縁実測図(1:50)

29(18 文 167-5) については平安時代の遺構や遺物包含層がなかったので、ここでの説明は省略する。なお、試掘・立会調査で、平安時代の遺構や遺物包含層を2件検出している。調査32・33として報告する。

調査24 (489 文 236-1 カラー図版4-1・図版21) 上京区千本通丸太町上る小山町884で昭和59年(1984)2月8日から同20日まで実施した発掘調査である。大極殿院においてはじめて建物基壇を検出した。調査面積は36 m²である。

この調査では大極殿院北面回廊基壇北縁部が良好に遺存していた。この基壇は凝灰岩による延石・地覆石・束石・羽目石からなる壇上積基壇である。凝灰岩列は途中攪乱によって切断されているが、調査区西端から約3.6m確認した。延石は長さ129cmと64cmの二種類があり、寸法の判る短い方は幅38cmある。高さはいずれも14.5cmある。地覆石は長さ97cm、幅23cm、高さ21cmある。羽目石は長さ68cm、幅15cm、高さは上部を削平されており現存高18cmある。束石は長さ55cm、幅14cm、現存高19cmある。

基壇は地山を削り出して成形している。構築法は地山に段を付けて削り出し、側縁を溝状に掘りくぼめ、そこに粘土を詰めて延石を据え付ける。その上に地覆石を据え、さらに裏込めし羽目石・束石を据える。裏込め土は攪乱部を除き調査区全域で検出し、その土には凝灰岩の破片が多く含まれていた。

調査25 (646 文 244-2 図版22) 調査24の民家1軒南に隔てた地点で昭和60年(1985)7月12日から同24日まで実施した発掘調査である。調査面積は70 m²である。

調査では、東西4mにわたる大極殿院北面回廊基壇と原位置を保った凝灰岩の延石を検出した。基壇は攪乱により西部を切断されており、上部もかなり削平されていたが東西4.0m、南北2.6mを確認した。調査区東隅で延石が二つ遺存していた。延石の寸法は長さ64cm、幅38cm、高さ14.5cmある。これらの寸法値は調査24で検出した小さい方の延石寸法と一致している。基壇の構築法も同様である。また、延石上面の標高もほぼ同じ値(44.4m)であることから、両調査で検出した基壇は同一のものの北縁と南縁であると考えられる。この検出により基壇幅は延石外側間で12.62m、束石外側間は北端の調査結果から11.58mとなり4丈幅であることが知れた。この基壇位置は『大内裏図考証』では空閑地であり、基壇が大極殿院の施設か中和院のものか判断をしかねた。ただ、基壇幅が4丈と広いこと、九条家本あるいは陽明文庫本など比較的古いと考えられる「宮城図」では大極殿院が中御門大路より北に張り出で描かれていることから、この基壇は大極殿院の北面回廊であることが確定的となった。

調査27 (684 文 244-3 図版23) 上

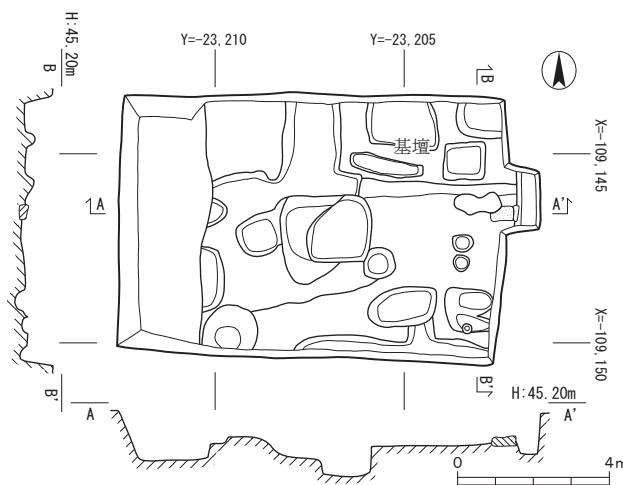


図36 調査25 調査区実測図(1:200)

京区千本通下立売下る小山町 908-53 で昭和60年(1985) 10月28日から11月9日まで発掘調査を実施した。調査面積は43m²である。

調査では基壇上部が削平を受けながらも、基壇北半基底部と凝灰岩の痕跡を確認した。基壇北縁には幅1.0mの凝灰岩延石抜取跡を検出した。この延石基底は標高44.13mで北面回廊基壇の延石基底の標高とほぼ同様であった。また、基壇南縁は南の拡張区で、わずかな痕跡を得たにとどまったが、その成果から基壇幅が約12mあり、4丈幅であることも知れた。この基壇の南北中心は、北面回廊基壇中心から南に約53.7m(18丈)の位置にあること、基壇幅が4丈であることから大極殿院東軒廊である可能性が高い。このため、基壇心は大極殿南北心となる。

調査30 (1488 付章41) 平成6年(1994)に実施した千本通(丸太町通以北)西側におけるNTTの電話線埋設における試掘調査で、大極殿院関連の基壇検出を目的に幅1m、長さ3mのトレーナー5箇所を設定して調査を行った。結果、昭慶門および小安殿については搅乱のため遺構を検出することができなかった。大極殿では現地表下約0.3mで基壇土を検出することができた。平安宮大極殿跡におけるはじめての遺構確認であった。なお、この調査に関しての詳細は付章41で掲載している。

調査31 (1539・1546 付章45 図版24、95-3) 平成6年(1994)度に実施した千本通(上長者町通～丸太町通)の試掘・立会調査である。幅1m、長さ3mのトレーナーを7箇所設定し、南から北へ1～7トレーナーとした。

推定小安殿および大極殿の北東部に設定した調査区では、搅乱のため遺構を確認することができなかったが、千本丸太町の交差点北西角に設定した1トレーナーでは大極殿基壇南縁を、調査24・25の西側で設定した6・7トレーナーでは北面回廊基壇の南縁・北縁を確認することができた。基壇南縁では凝灰岩を用いた施設はなく、基

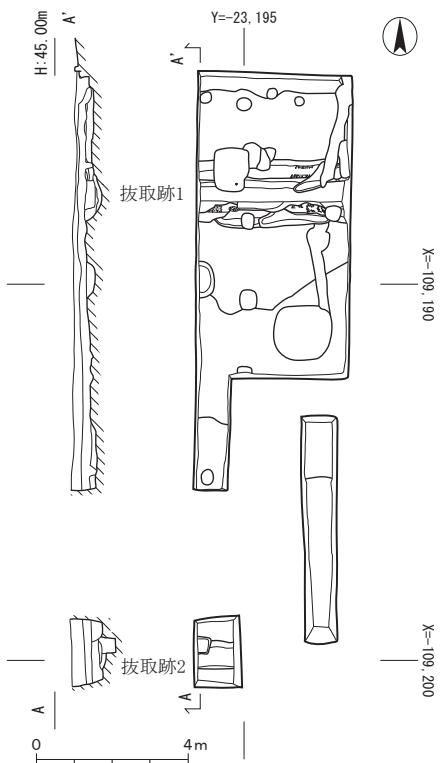


図37 調査27 調査区実測図(1:200)

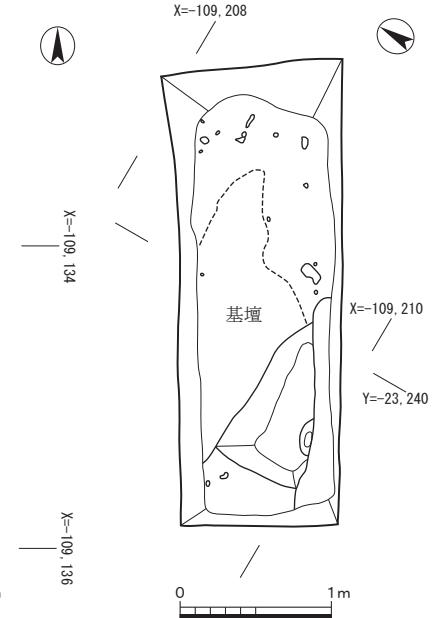


図38 調査31-7 調査区平面(1:50)

図39 調査31-1 調査区平面図(1:50)

壇土と思われる土層の境目を東西方向に検出することができた。この位置は大極殿跡南縁に推定される。ただし、調査位置が大極殿の東西中央にあたるため、階段部の南端である可能性が強い。北面回廊に関しては、北縁の延石を原位置を保った状況で検出した。東石などは江戸時代の竈に再利用されていた。南縁では凝灰岩が残ってはいなかったが、抜き取られた痕跡を確認することができた。この調査に関しての詳細は付章 45 に掲載している。

調査 32 (936 文 260-1) 昭和63年(1988)

度に実施した試掘調査で、東面回廊のすぐ東側に位置する。現地表下 0.7m の整地層上面で平安時代の瓦溜を 4 基検出した。

調査 33 (58 文 185) 昭和54年(1979) 度に実施した立会調査で、平安時代の遺物包含層を現地表下 0.55m で検出している。

3 遺物

これら調査で出土した遺物は瓦類が大半であり、土器類は少なく遺構の年代を正確に押さえきれないものが多い。その中で比較的土器類がまとまって出土したものについて、その概要を示す。調査 24・25・31 での大極殿院北面回廊では基壇凝灰岩列を覆う整地層から平安京IV期中の土師器が出土している。また、調査 1 の朝堂院東面回廊東雨落溝より平安京II期～III期にかけての土師器杯・高杯・甕、黒色土器椀、白色土器小壺、須恵器杯・蓋・甕・瓶子、緑釉陶器皿・椀、灰釉陶器椀・壺などが出土している。

4 小結

朝堂院に関しては遺物の出土量が少なく、各遺構の時期を確定するには多少の不安もあるが、建物基壇などは平安時代後期に埋まったものと考えられる。このため、平安時代後期の位置を示していると考えられるが、後期以前の遺構が検出されることが少ないと、調査 1 における回廊東雨落溝のように火災後も踏襲されていることから、建て替えに伴って建築物の規模や位置の変更がなされていないと考えられる。

以上から朝堂院および大極殿院について、判る範囲での位置的な復原を試みたい。なお、復原するにあたっては平安京条坊における造営尺および造営の振れ（第VI座標北からのもの）の値を用い宮座標^{註2}としている。その原点は宮中軸線と宮南面築地心の交点（朱雀門心）であるが、これがあくまでも計算上のものであり、実際には門跡を検出しているわけではない。

1 朝堂院 朝堂院域では外周と朝堂十二堂の復原を行う。

外周 朝堂院の四周は複廊である。検出例はすべて東側に集中している。調査 1 において北・

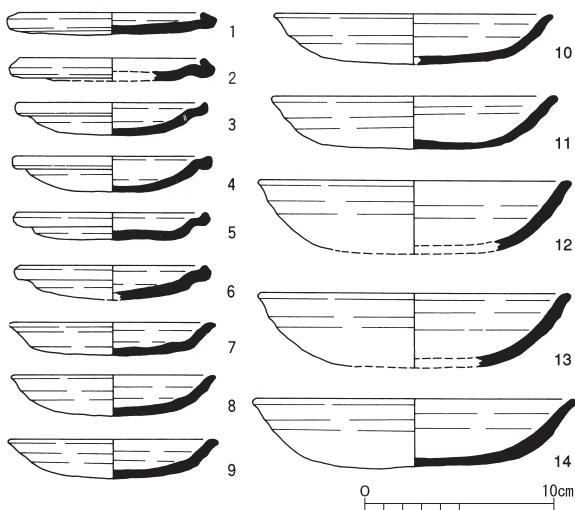


図 40 調査 24 基壇整地層出土土器 (1:4)

東面回廊外側雨落溝、調査3において東面回廊基壇東・西縁、宣政門基壇東・西縁、調査5において宣政門基壇東・西縁および階段部、調査17において応天門基壇南西部および朝集堂南面回廊を検出している。表3から、東面回廊基壇東縁は宮中軸線から東へ34丈4尺の位置にあたる。また、調査3での実測値から回廊基壇幅は12mとしており、基壇西縁は30丈4

表3 朝堂院検出遺構一覧表

	検出場所	X座標	Y座標	宮座標	文献	計測地点
1	朝堂院東面回廊	-109288.71	-23137.27	34.4	調査3	基壇東縁
2	朝堂院北面回廊	-109245.20	-23144.00	164.8	調査1	雨落溝南肩
3	朝堂院東面回廊	-109252.00	-23137.50	34.4	調査1	東雨落溝
4	朝堂院宣政門	-109388.98	-23136.17	34.6	調査3	基壇東縁
5	朝堂院宣政門	-109383.94	-23136.24	34.6	調査3	基壇東縁
6	朝堂院宣政門	-109385.91	-23148.72	30.4	調査3	基壇西縁
7	朝堂院宣政門	-109372.00	-23136.00	34.7	調査5	基壇東縁
8	朝堂院宣政門	-109370.00	-23148.70	30.4	調査5	基壇西縁
9	朝堂院延祿堂	-109437.00	-23298.20	-19.7	文113	基壇東縁
10	朝堂院延祿堂	-109482.00	-23298.00	-19.7	文113	基壇東縁
11	朝堂院延祿堂	-109447.00	-23315.75	-25.6	文113	基壇西縁
12	朝堂院修式堂	-109433.75	-23270.00	101.8	文113	基壇北縁
13	朝堂院承光堂	-109385.08	-23161.80	26.0	調査3	基壇東縁
14	朝堂院承光堂	-109382.90	-23173.96	118.7	調査3	基壇北縁
15	朝堂院明礼堂	-109438.54	-23162.31	25.8	調査3	基壇東縁
16	朝堂院明礼堂	-109441.10	-23180.00	19.9	調査3	基壇西縁
17	朝堂院暉章堂	-109437.74	-23190.01	16.5	調査3	基壇東縁
18	大極殿院北面回廊	-109140.10	-23216.00	200.1	調査24・25	回廊心
19	大極殿院東軒廊	-109193.80	-23195.00	182.1	調査27	東軒廊心
20	大極殿	-109209.45	-23240.00	176.9	調査31	基壇南縁

尺の位置が妥当である。このことから東面回廊心は宮中軸線から32丈4尺の位置となり、整数値を取るなら32丈となる。宣政門基壇は東西縁を確認している。この西縁は東面回廊西縁と一直線上にあり、東縁は2尺分回廊東縁より東に出る。

西面回廊は未検出であるが、左右対称の位置が考えられることから朝堂院の東西幅は64丈か64丈8尺である。北面回廊は基壇自体は未検出であるが、外溝南肩口は宮南面築地心から北へ164丈8尺にあることから北面回廊心は163丈か162丈8尺の位置となる。南面回廊については不明であるが、調査17で検出した集石遺構を積極的に考えれば応天門および西に延びる朝集堂南面回廊の基壇痕跡と考えられる。このことから朝集堂南面回廊位置は宮南面築地心から北へ44丈となる。

朝堂十二堂 調査3において承光堂基壇北・東縁、明礼堂基壇東・西縁、暉章堂基壇東縁を検出している。昭和46年(1971)には平安博物館の立会調査で延祿堂基壇東・西縁、修式堂基壇北縁を検出している。

承光堂は北縁の位置が宮南面築地心から北118丈7尺、東縁は東26丈の位置になる。

明礼堂は基壇西縁と階段部分および東縁の凝灰岩列の抜取穴が確認されている。東縁の位置は宮中軸線から東へ25丈8尺、西縁は東へ19丈9尺にあたり、東西基壇幅は5丈9尺となる。

暉章堂は基壇東縁を検出しており、この位置は宮中軸線から東へ16丈5尺になる。

延祿堂は基壇東縁を2箇所、西縁を1箇所検出している。西縁の位置は宮中軸線から西へ25丈6尺、東縁が19丈7尺となる。基壇東西幅は5丈9尺となる。延祿堂は前述の明礼堂と左右対称の位置にあり、数値からもこれが証明できる。

修式堂では基壇北縁を検出しており、この位置は宮南面築地心から北へ101丈8尺の位置とな

る。

以上、朝堂十二堂に関しては施行誤差などを考慮するとして、外側八堂の基壇外側は宮中軸線から東西にそれぞれ26丈、内側は20丈の位置にある。東・西面回廊までの空間が4丈となる。内側四堂までの空間は3丈4尺となる。

2 大極殿院 大極殿院では外周と大極殿の復原を行う。

外周 大極殿院の外

周は調査24・25・31で北面回廊の北縁と南縁を検出し、位置と規模を確定することができた。回廊幅は11.58mあり4丈であること、回廊心は宮南面築地心から北へ200丈1尺の位置になる。本来の位置は200丈であろう。これにより朝堂院北面回廊心からの規模は37丈2尺となる。東西の回廊については未検出で、東西幅に関しては不明である。

大極殿 大極殿の東軒廊は調査27において基壇北半基底部と凝灰岩の痕跡を確認した。基壇南縁は拡張区でわずかな痕跡を得たにとどまったが、その幅が約12mであることが確定し、4丈幅であること、回廊心は宮南面築地心から北へ182丈1尺であることが明らかとなった。本来は182丈であろう。この位置は、大極殿の南北心であるとともに北面回廊心から南へ18丈の位置にあることも確定することができた。

調査31で検出した大極殿は南端の位置が宮南面築地心から北へ176丈9尺の位置にあたる。本来は177丈であろう。また、調査地点が平安宮東西中軸線上にあたることから、検出基壇は基壇南縁ではなく基壇から南へ出る階段部南端の可能性が強い。階段の出は約1丈と考えられ、大極殿の基壇南縁は北へ178丈の位置が妥当と思われる。結果、調査27で明らかとなった大極殿心から基壇南縁までは4丈、大極殿の南北幅は8丈、階段が1～1丈2尺分突き出ることになる。

朝堂院は東西幅が回廊心々間で64丈であり、平安宮の南北幅384丈の1/6にあたる。この1/6という数値は平城宮においても同様である。南北幅は南端が民部省の南築地と一致し冷泉小路北築地延長上であれば、大極殿院北面回廊心までは156丈、朝堂院北面回廊までは118丈8尺である。東西面回廊外側道路は回廊および築地心々間9丈の規模である。

註

註1 報告では基壇北縁ではなく南縁としているが、調査3により修式堂と対をなす暉章堂の基壇東縁が検出され、その位置が報告の南縁より南にあることから北縁とした。³⁵

註2 辻 純一「条坊制とその復元」『平安京提要』角川書店1994年 平安宮・京跡で検出した条坊遺構99箇所による平均計算で、振れ $-0^{\circ} 14' 27''$ 、1尺=29.8467cmを導き出している。

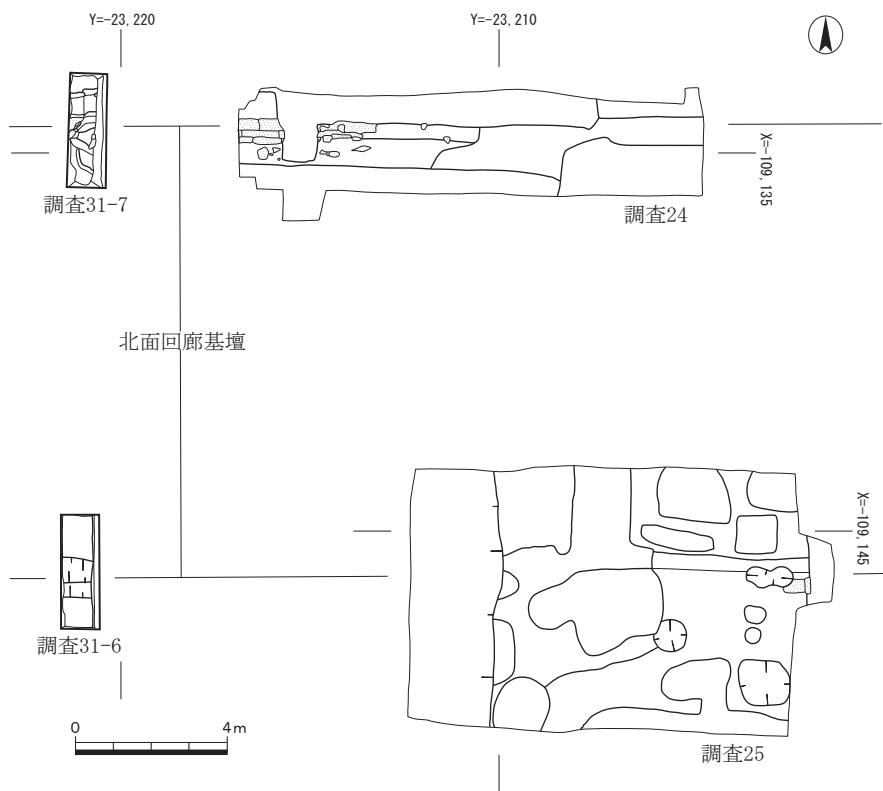


図41 大極殿院北面回廊遺構配置図(1:200)

II 豊楽院跡

1 経過

豊楽院跡は丸太町通と七本松通の交差点のほぼ南東に位置し、北限は丸太町通、西限は七本松通に相当する。そして豊楽院跡の中ほどには東西方向にJR山陰本線が通っている。豊楽院跡推定地の多くは、木造家屋が軒を連ねた住宅街である。この付近の現地形は北から南に向かって緩やかに傾斜している。豊楽院の北部、すなわち豊楽院正殿である豊楽殿跡や北廊跡は今でも一段高く盛り上がっており、そこが基壇であったことを物語っている。平安宮跡でこのように建物基壇跡が地上観察できるのはここだけにみられる状況である。豊楽院跡の発掘調査は、朝堂院や内裏などと比較して少なく、遺構配置など詳細はあまり明らかでない。

ところで豊楽院は、天子の宴遊や外国からの使節をもてなすことなどを目的として朝堂院の西側に造営された。いつ頃完成したかについては史料が欠落しているために明らかでないが、延暦18年(799)にはできあがったらしく、延暦19年(800)には朝賀の儀を行っている。また豊楽院については、藤原道長の肝試しの逸話や法成寺造営に際して豊楽殿の鷲尾を再利用しようとしたことなどでもよく知られている。

豊楽院跡の調査は、昭和3年(1928)に千本丸太町西入聚樂廻において丸太町通の拡幅工事が行われた際、基壇跡が2箇所で発見され、それを契機として緊急調査が行われたのが豊楽院跡における最初の調査である。^{文66} 資料不足のため2箇所の基壇跡は豊楽院に關係した建物遺構であるとの認識はあったが、その建物を特定するまでには至らなかった。

それ以降、永らく発掘調査はなかったが、昭和44年(1969)に平安博物館によって聖三一教会の敷地内で発掘調査が実施された。^{文111} そして昭和46年(1971)に、この付近一帯を対象とした下水管敷設工事が開始され、それに伴って平安京調査本部が立会調査を行った。昭和48年(1973)には、平安京調査本部と平安博物館によって豊楽殿の南側推定地が発掘され、瓦や焼土を検出している。^{文133} 一方、保護課は昭和51年(1976)、豊楽殿の基壇ならびに礎石根固め痕跡を調査した。^{文157-5} この付近にみられる一段高い盛り上がりについて、一部の研究者は基壇跡ではないかと推定されていたが、調査成果はそれが事実であったことを裏付けたばかりでなく、大極殿とならぶ豊楽殿の遺構が良好に残存していることが明らかとなった。特に大極殿の遺構の大半は、道路敷内に位置するため実態の解明が難しい状況下にあって、こうした発見が持たされたことは平安宮復原への大きな希望となった。

そして昭和62年(1987)に、豊楽殿基壇の北西半部を調査し、基壇や建物規模を明らかにし、豊楽院の中軸線を確定することができた。その結果、豊楽院は朝堂院の東側に位置する中務省・太政官・民部省と対称の位置にあることが判った。また、基壇化粧の様子や使用されていた凝灰岩の規模なども知ることができた。

2 遺構

当研究所が昭和54年(1979)以降に豊楽院跡で実施した調査は、発掘調査10件、試掘調査10件、立会調査66件である。これらの調査は、今述べたように豊楽殿跡を中心とする豊楽院跡北半部

に集中している。そのため、豊楽院内に造営された殿舎などについてはほとんど明らかにはされていない。

豊楽院跡関係の遺構の中で豊楽殿や北廊跡が位置する聚楽廻西町では、豊楽殿や北廊跡の基壇が現在も周囲より一段高く盛り上がった状態で地上観察する



写真2 調査1 調査風景(西から)

ことができる。平安宮跡の遺構がこのような状態でみられるのはきわめて稀なことである。豊楽院関係の遺構は場所によっても若干異なるが、おおむね現地表下約0.4～0.6m前後の深さで検出することができる。

次に、各調査で検出した遺構について調査ごとにその概要を述べる。

調査1 (882 文 261-5 カラー図版3・図版25～32) 調査地点は中京区聚楽廻西町85に所在し、周囲の宅地より一段高く盛り上がっていた地点である。昭和62年(1987)10月から昭和63年(1988)1月まで発掘調査を実施した。調査面積は460 m²である。

調査では、豊楽殿および豊楽殿と清暑堂とをつなぐ北廊を検出した。

豊楽殿 東西方向を示す基壇建物で、検出したのは基壇西縁北半の一部と同北縁の西半部である。基壇の遺存状況は良好で、現存高は創建当初の整地面から約0.6mほどあった。基壇上面では、身舎北庇の側柱筋において礎石位置を示す痕跡を東西方向に4間分検出した。

今回の調査成果と1976年の調査から、豊楽殿は桁行9間、梁行4間の四面庇付東西棟礎石建物であることが明らかになった。柱間寸法は身舎桁行が1間15尺(4.47m)、梁行1間14尺(4.17m)、庇の出が13尺(3.88m)、基壇の出は11尺(3.28m)である。

基壇 基壇の構築は丁寧な版築によって行われていたが、掘込地業はほとんどみられない。基壇構築土層は、やや小石混じり黄褐色土(いわゆる聚楽土)であった。凝灰岩の削り屑などは一切含まれていなかった。版築は断割断面や掘り下げ時における構築土層の剥離状況などを観察すると、もっとも細かいところでは1枚の厚さは5mmまで確認することができた。

基壇化粧 基壇の化粧に使用していた凝灰岩の切

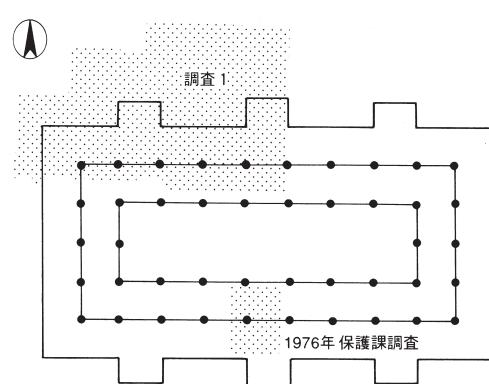


図42 豊楽殿の復原と調査区配置図

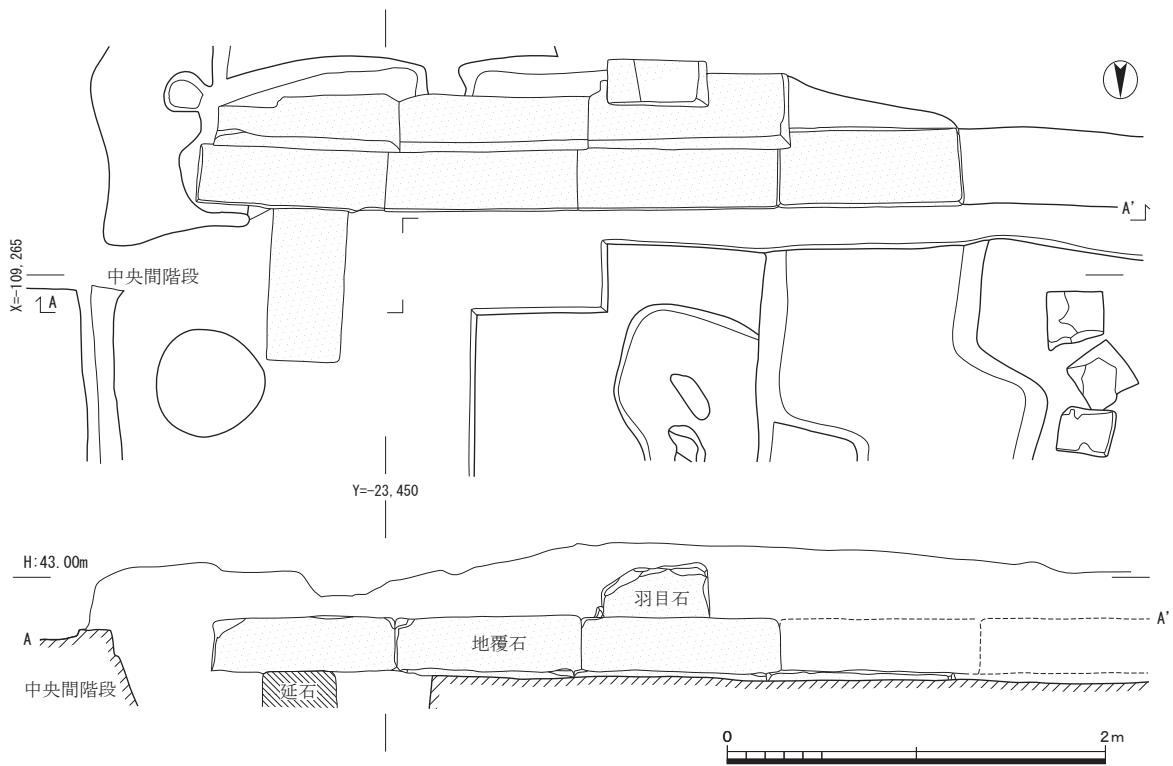


図43 調査1 塚上積基壇実測図(1:40)

石は、後世にほとんど抜き取られていたが、北廊基壇の埋土中や西側階段の東入隅部分に一部遺存していた。特に、中央間階段の凝灰岩は北廊の造営に際して基壇構築土に埋め込まれたため表面はまったく風化せず新鮮な面を保っており、延石・地覆石・羽目石は造営当初のままに組み合わさった状態で検出することができた。

各切石の寸法を示すと、延石は長さ 101cm、幅 41cm、高さ 34cm、地覆石は長さ 102cm、幅 21cm、高さ 28cm、羽目石は幅 51cm、厚さ 23cm、残存高 29cm である。それぞれの凝灰岩の表面は丁寧に仕上げられていたが、小口や裏面には調整時に使用した工具の痕跡が顕著である。地覆石や羽目石には、堅固に組み合わさるよう欠き込みが設けられている。なお、凝灰岩を据えるための掘形内や階段の構築土層には、凝灰岩の細かい削り屑が混入していた。

階段 基壇北縁の中央間と中央間から西へ 2 間目の 2 箇所において検出した。

中央間階段は、北廊の基壇下で検出した。すなわち、この階段は北廊を増設する際に取り壊されて、北廊の構築土層下に埋め込まれている。中央間階段の検出幅は身舎の桁行寸法よりや

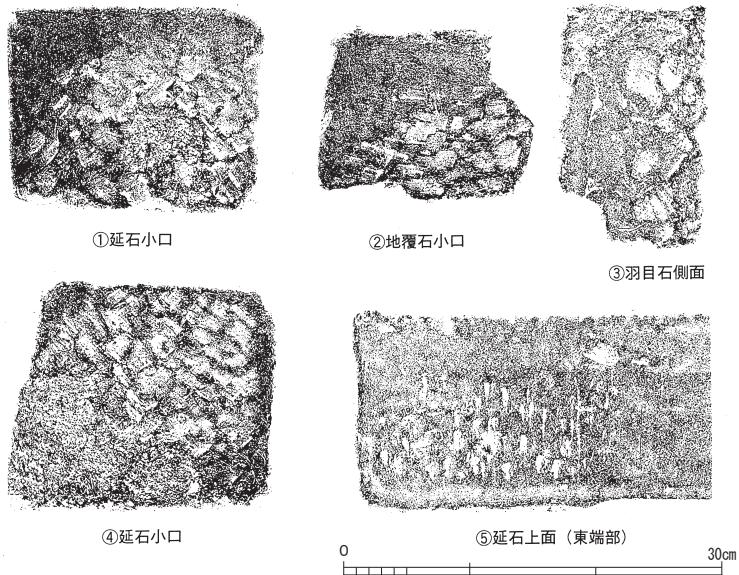


図44 調査1 塚上積部材拓影(凝灰岩加工痕)(1:6)

や広い5.2m、出は3.0m前後と考えている。中央間階段は、延石の据付け高さまで凝灰岩が含まれており、基壇構築後にこの部分だけ掘込地業によって構築している。

西階段は、化粧石などはすべて抜き取られていたが、化粧石抜き取痕跡は比較的明瞭に遺存しており、西階段の検出幅は中央間階段と同寸法の5.2m、出は2.7m前後と考えている。西階段の構築土層は基本的に豊楽殿基壇版築部分と同一であるが、上部には凝灰岩の削り屑が多量に含まれており、階段の踏み面を作る際にこうした土を用いて粗い版築を行っている。

礎石根固め痕跡 東西方向に5箇所ほど検出した。根固め部分に人頭大の川原石を掘形内に入れ、上から丁寧に版築を施す。根固め掘形は基壇が完成あるいは構築途中で掘られたのではなく、版築を施す前に基壇底部を浅く掘り窪めて造っている。そのため掘形の輪郭は、掘形内が版築の土層で埋まった以降はみられなくなるが、川原石はその後もほぼ同じ位置に据えられる。掘形の規模は大小認められるが、一辺約2.5m前後ある。

基壇の周囲 基壇の周囲では雨落溝は検出できなかったが、薄い砂層がみられた。特に北廊の構築土層下の旧地表面には砂層が顕著であったので、基壇周囲には白砂を敷いて化粧を施していたことが判る。

また、基壇周囲の整地層には凝灰岩の削り屑や小片が多量に含まれ、土層が白く見えるほどであった。このことは、基壇化粧に使用した凝灰岩をこの付近で調整を加えながら仕上げていたことを示している。

北廊 豊楽殿への取り付き部分を中心とする北廊南西部を検出した。北廊基壇は豊楽殿と同様に盛り上がりがみられたが、東半分は調査地点東側の現六軒町通によって削り取られている。基壇化粧の痕跡や礎石位置を示すような遺構は検出できなかったが、基壇西縁には南北方向に方形の甌が敷かれていた。甌敷は北廊西縁の雨落溝の可能性が高い。

北廊基壇は版築によって構築しているが、仕事の状態は豊楽殿の基壇版築に比較して一枚ごとの版築は厚くやや粗雑である。また、基壇の構築土層中には凝灰岩の削り屑や小片、緑釉瓦などが多量に含まれている。こうした

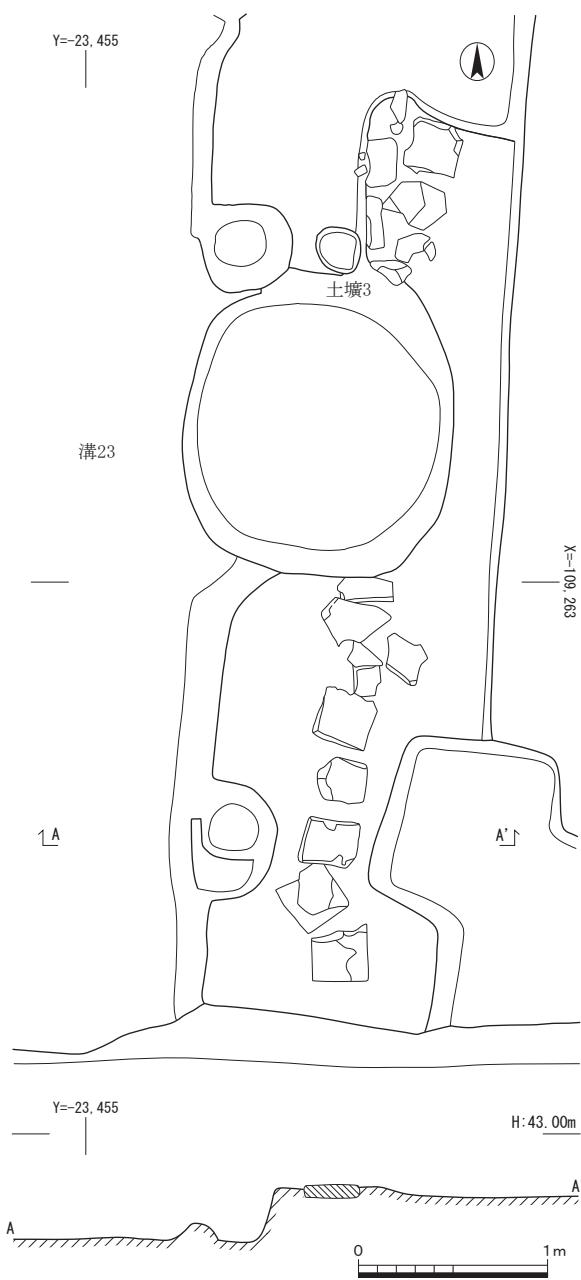


図45 調査1 北廊西側甌敷実測図(1:40)

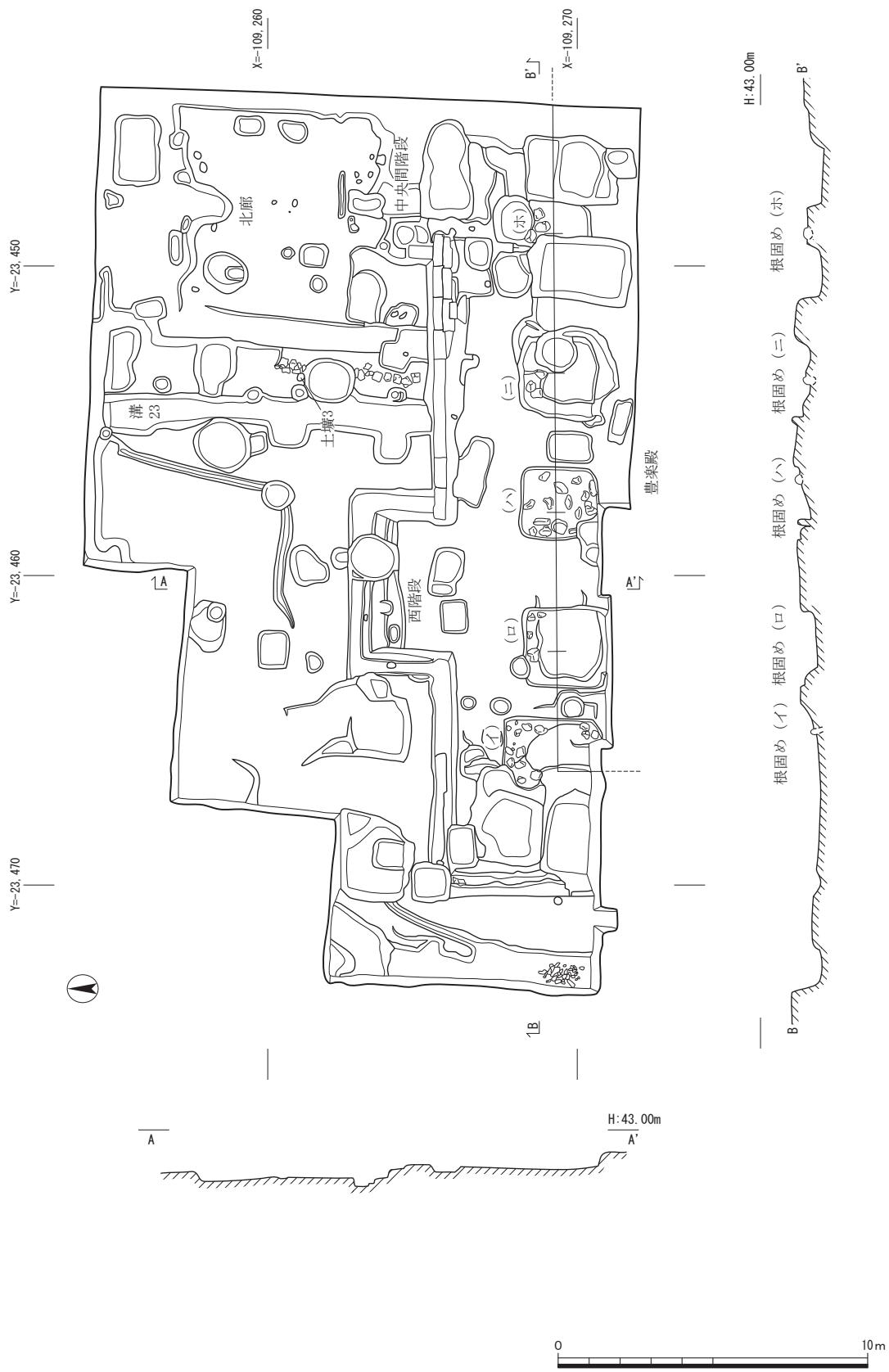


図46 調査1 調査区実測図(1:200)

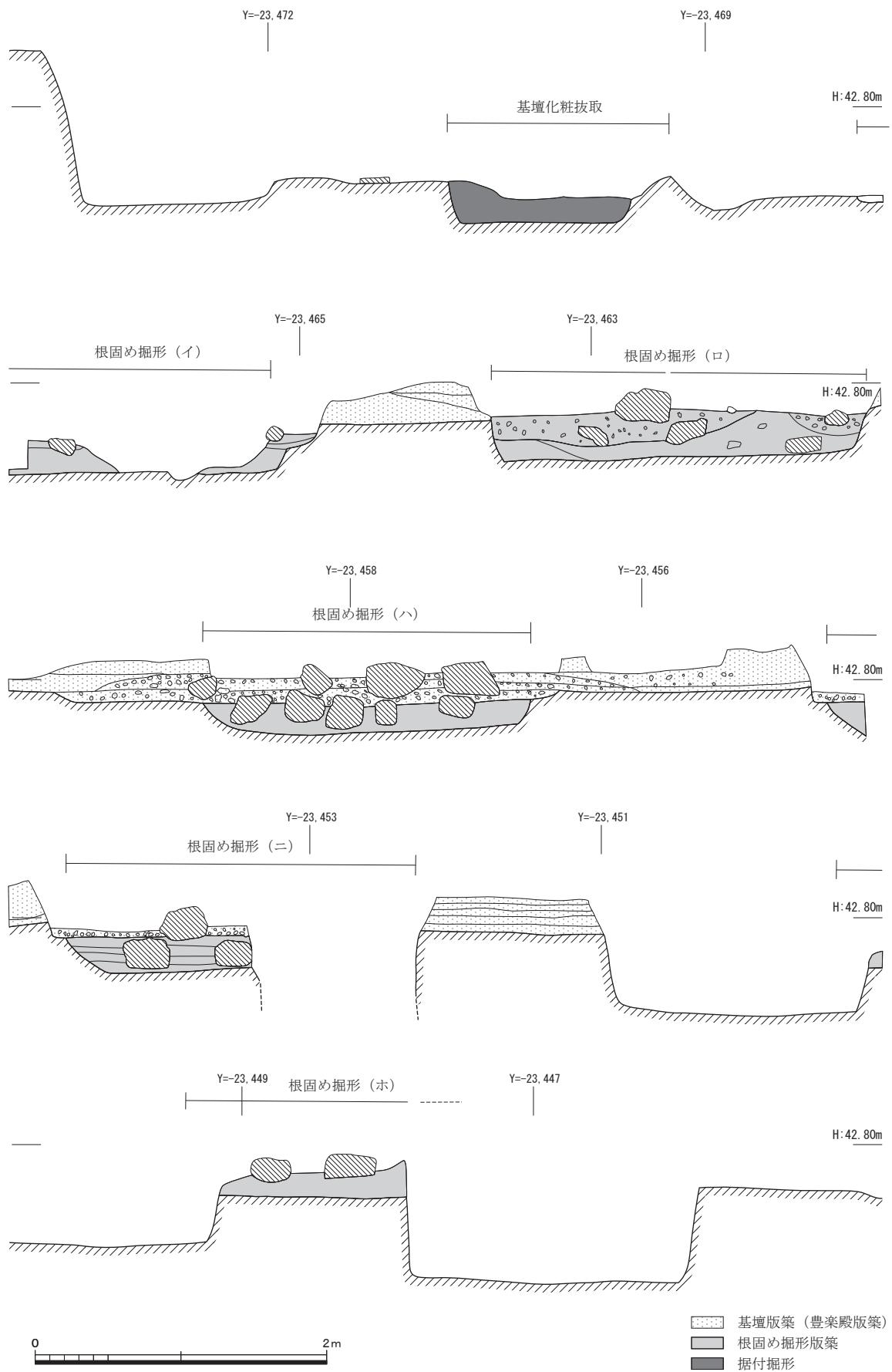


図47 調査1 豊楽殿基壇断面図(X=-109, 269付近) (1:40)

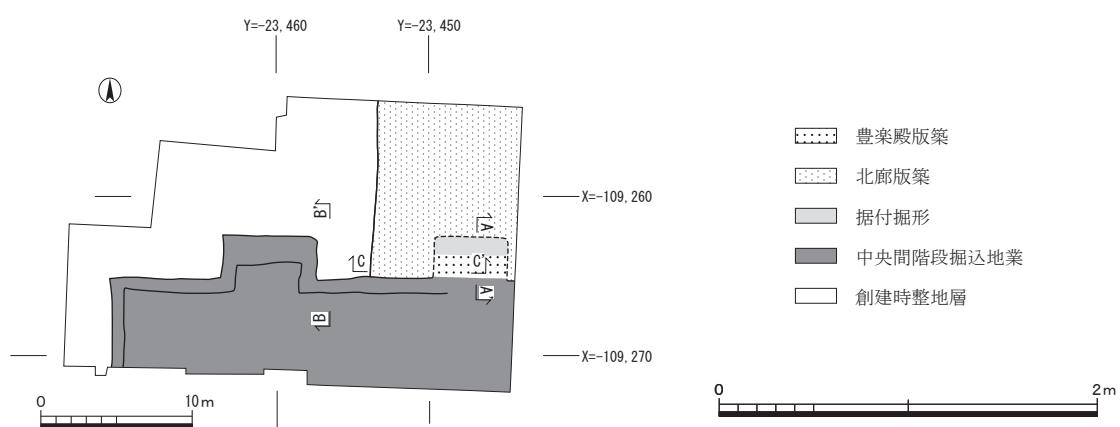
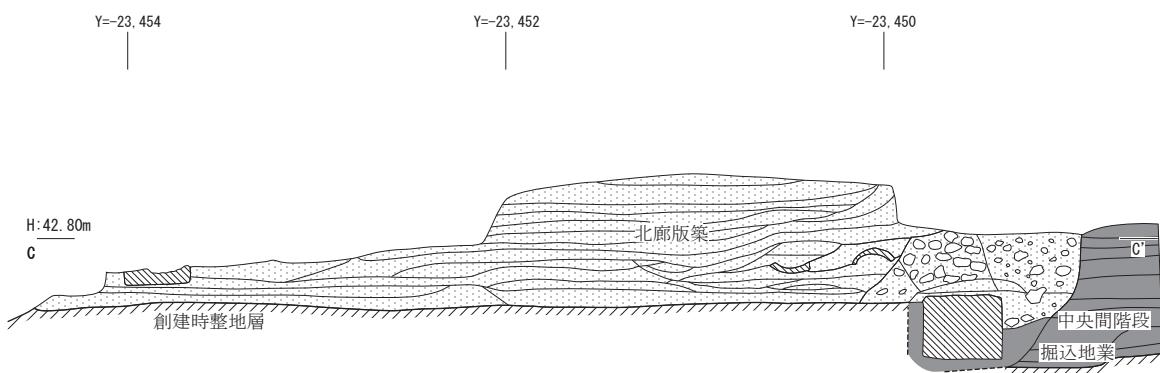
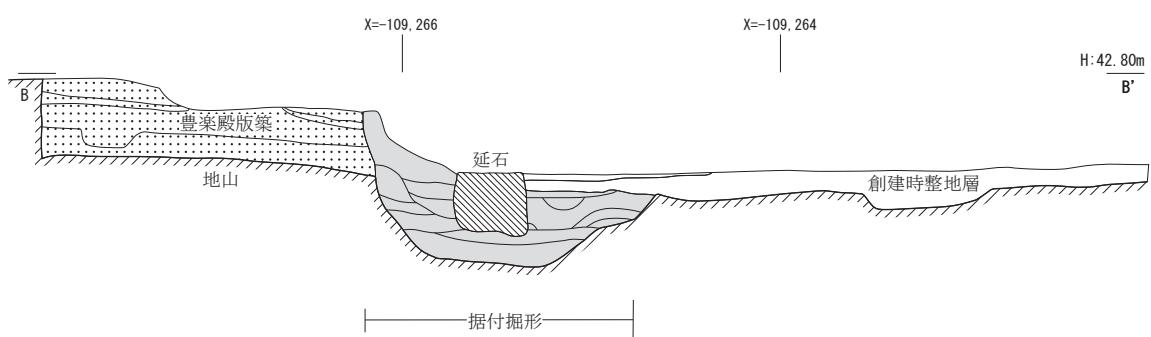
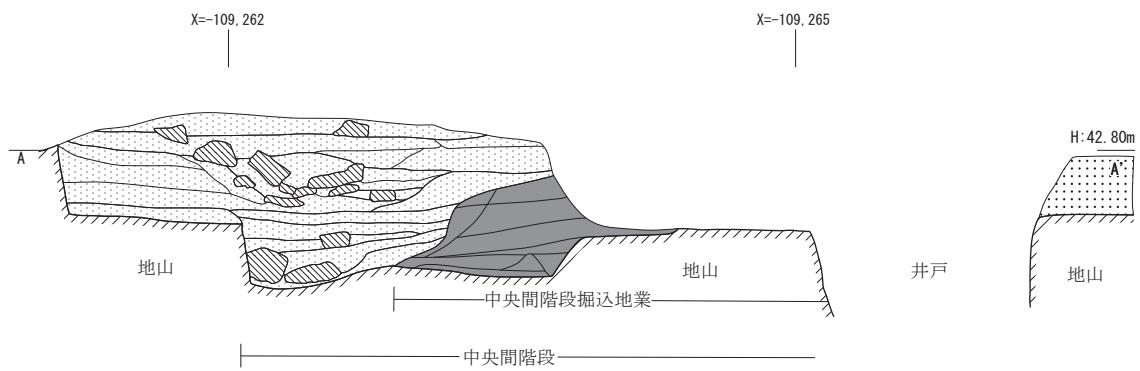


図48 調査1 豊楽殿・北廊断面図(1:40)(1:500)

状況は、豊楽殿跡の基壇構築土層とはまったく異なる。

土壙3 北廊基壇西側の瓢敷部分で検出した土壙である。平面形は円形を呈し、検出面での規模は径0.3m、深さ0.2mある。壙底に白色土器皿2点を正置し、その上に白色土器三足盤1点を蓋のように被せていた。この土壙は検出状況を検討すると、元来は瓢敷下にあったことは確かである。

なお、この調査では基壇構築土層下で竪穴住居を検出している。豊楽殿基壇跡は現状保存されたため基壇下層遺構は未調査であるが、基壇構造を解明する目的で断ち割りを実施し断面観察をした。その結果、竪穴住居1戸が遺存していることを確認した。竪穴住居の大半は断ち割箇所の北側に広がる。遺物は床面直上で甕・器台を検出した。また同断ち割箇所の東壁断面においても竪穴住居と考えられる褐色粘質土層の落込を確認した。

調査2 (926 文261-6 図版33-1) 調査地点は中京区聚楽廻西町77-4、74-6に所在する。昭和63年(1988)4月7日から同18日まで発掘調査を実施した。調査面積は45m²である。

調査地点は豊楽殿跡の北側に位置する清暑堂跡推定地の一角にあたる。調査では清暑堂跡基壇構築土の一部と礎石根固め跡を示すと考えられる痕跡を検出した。基壇の大半は削平され、調査できたのはきわめてわずかに残された部分のみであった。基壇の構築土層は調査区の所々で検出できたが、もっとも顕著なところでも厚さ0.2m前後遺存していたに過ぎない。

礎石根固め跡を示す痕跡は、小礎が密集し堅くしまっている部分をそれと考えた。その位置は、豊楽殿身舎の西端から東へ2間目の柱筋延長線上にあたる。

調査3 (996 文260-2 図版33-2) 調



写真3 調査1 土壙3
検出状況 (南西から)

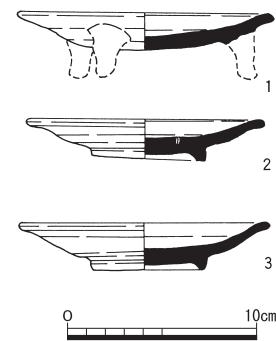


図49 調査1 土壙3
出土土器 (1:4)

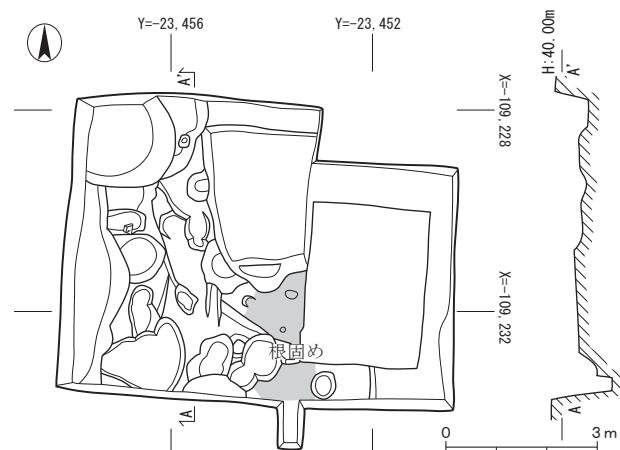


図50 調査2 調査区実測図 (1:150)

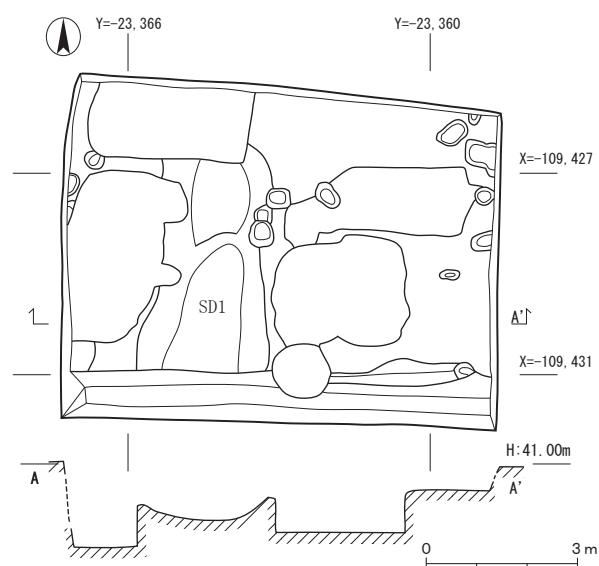


図51 調査3 調査区実測図 (1:150)

査地点は中京区聚楽廻中町 53-11 に所在する。昭和63年(1988) 11月 1 日から同 18 日まで発掘調査を実施した。調査面積は 54 m²である。

調査地点は豊楽院東面の推定地に位置する。現地表下約 0.3 ~ 0.4m において南北溝 SD1 を検出した。検出面での規模は幅 2.6m、深さ 0.5m ある。溝は素掘りで、断面形は U 字状を呈する。埋土は 3 層に分けられ、下層からは建物からの落下を想定させる状況で丸瓦・平瓦が出土している。溝内から出土した遺物は、すべて平安時代中期までに限定することができる。この溝を検出した位置は、豊楽院中軸線から東へ 29.5 丈(約 85m) である。

調査 4 (75 付章 10 図版 89-2) 調査地点は中京区聚楽廻西町 86 に所在する。この調査は未報告であり、詳細は付章 10 を参照されたい。

調査地点は豊楽殿から東へ延びる廊跡に位置する。この調査は新築される建物の基礎掘削深度の関係から、掘り下げを途中で止めている。調査上の制約もあって、廊に関する明確な遺構は検出できなかったが、凝灰岩や平安時代遺物を含む整地層を確認している。この整地層は、廊基壇の修改築によるものと考えられる。

調査 5 (1213 文 305-5・1240 文 307-4) 調査地点は中京区聚楽廻西町に所在する JR 山陰本線軌道敷内である。平成2年(1990) 12月 5 日から同 14 日まで試掘調査を実施した。調査面積は 46 m²である。

調査地点は豊楽院承観堂跡の推定地に位置する。調査区全体に土取穴がみられたが、凝灰岩片や瓦を含む土壙 4 基を検出した。調査区中央部で重複する土壙 3 基は承観堂の礎石据付穴である可能性も考えられる。しかし、周辺部の調査成果が少ないため、遺構の性格については即断を控えておきたい。

調査 6 (196 文 193-8) 調査地点は中京区聚楽廻西町 88 に所在する。昭和56年(1981)1 月 26 日から同 31 日まで発掘調査を実施した。調査面積は 86 m²である。

調査地点は豊楽殿跡東半に位置する。調査区の大半は後世の遺構によって削平を受けていたが、調査区西側において豊楽殿の版築を部分的に確認することができた。

調査 7 (1564 付章 21 図版 34-1・2) 調査地点は中京区聚楽廻中町 44 に所在する。平成7年(1995)2 月 27 日から同 3 月 11 日まで発掘調査を実施した。この調査は未報告であり付章 21 で詳細を参照されたい。

調査地点は豊楽殿から東に延びる廊の東端に設けられた栖霞楼の推定地にあたる。遺構面までの堆積土は薄く、現地表下約 0.1m 前後で基壇構築土層に至る。基壇北縁には、凝灰岩の延石が一部遺存していた。また、基壇の外側には、瓦や凝灰岩片を多量に含んだ整地層がみられる。こうした状況から、栖霞楼は、豊楽院創建当初には造営されていない可能性がある。

調査 8 (61 付章 29) 調査地点は中京区七本松丸太町上る聚楽廻西町から千本丸太町西入北側聚楽廻中町に所在する。昭和59年(1979)5 月 23 日から同 7 月 31 日まで実施したガス管の取り替え工事に伴う立会調査である。遺構は検出できなかったが、遺物は旧管理土から平安時代の瓦が若干出土した。この調査は未報告であり、詳細は付章 29 を参照されたい。

調査9 (44 付章30 図版34-3・4) 調査地点は中京区聚楽廻中町の六軒町通である。昭和54年(1979)5月25日から同7月4日まで立会調査を実施した。この調査は未報告であり、詳細は付章30を参照されたい。

調査地点は豊楽院跡東側にあたり、豊楽院栖霞楼付近を南北方向に調査した。

この調査では、凝灰岩列や瓦溜などを確認している。特に旧丸太町六軒町下る民家前では、現地表下約0.6mで東西方向にならぶ凝灰岩を検出している。また、やや南側の聖三一教会東側では、平安博物館が凝灰岩を含む東西溝の延長部を一部検出している。前述した民家前で検出した凝灰岩列は、栖霞楼に関係する遺構である可能性がある。なお、この調査成果はその後実施した調査7(付章21)とも関連する。

調査10 (332 文221-2) 調査地点は中京区聚楽廻松下町の丸太町通、道路上で実施した立会調査である。立会調査を実施した5箇所の堅坑部のうち、1箇所が豊楽院跡北端中央部に該当する。調査は昭和57年(1982)6月23日から昭和58年(1983)1月21日まで実施した。調査では現丸太町通の路面直下で地山(黄褐色砂泥)を検出したが、同層上面では遺構はみられなかった。

3 遺物

各調査で出土した遺物の大半は瓦類で、土器類などは遺跡の性格上きわめて少なかった。今回は、調査1で出土した遺物を中心にその概要を述べる。

北廊下層出土土器(図53-1・2) 北廊構築土の下層から出土した土師器である。2は杯で外面はヘラケズリを施すが、一部ナデが残る。1は皿で、口縁端部が肥厚する。外面は丁寧にヘラケズリを施している。時期は平安京I期新と考えている。

溝23出土土器(図53-3～8) 溝内からは、土師器・黒色土器・白色土器が出土した。そのほとんどが土師器である。口縁端部を上方につまみ上げ、外面は丁寧なオサエによって仕上げている。時期は平安京II期中と考えている。

北廊構築土出土瓦類 基壇版築土層から、緑釉を施した单弁8弁蓮華文軒丸瓦や均整唐草文軒平瓦、それに鷂尾(図55 図版32-1)などが出土した。鷂尾は鳳凰を浮き彫りしたもので、全面に緑釉を施している。灰白色を呈し、焼成は良好である。これらの瓦類は北廊の造営時に混入したものである。すなわち、これらの瓦類は北廊造営時に葺き損じたも

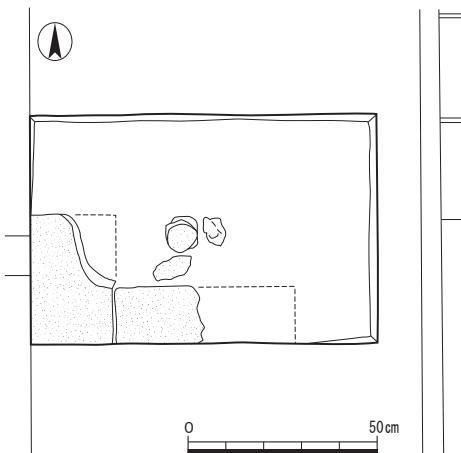


図52 調査9 凝灰岩略測図(1:20)

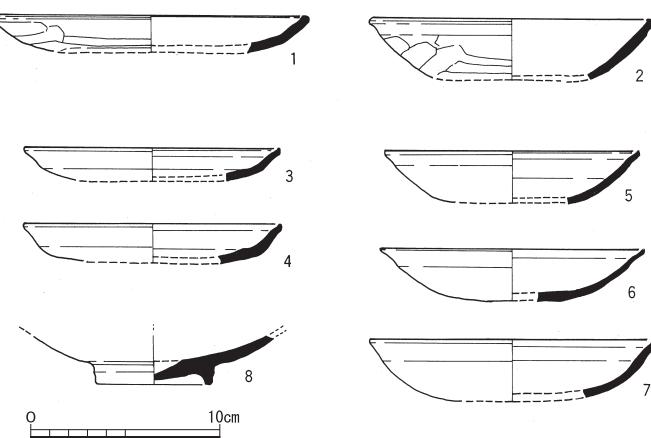


図53 調査1 出土土器(1:4)

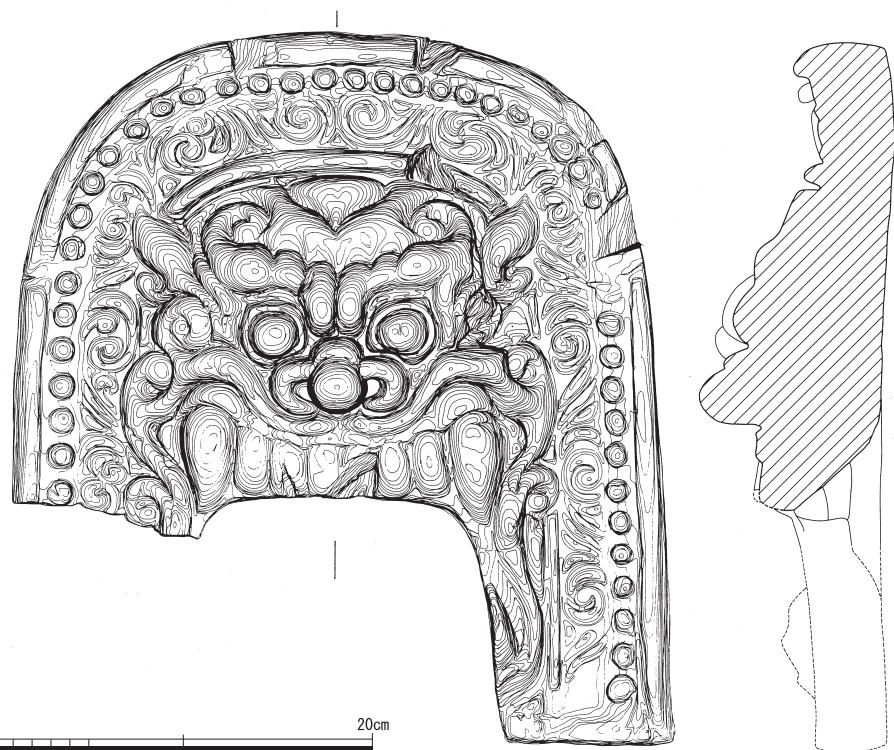


図 54 調査 1 出土鬼瓦 (1:4)

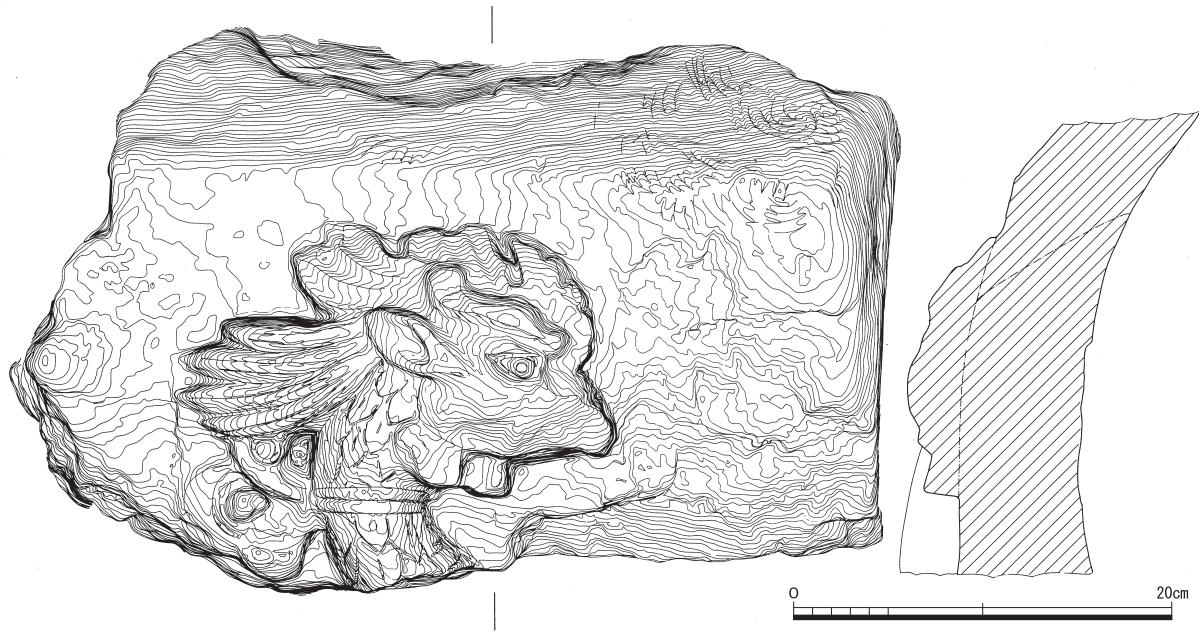


図 55 調査 1 出土鷹尾 (1:4)

のではなく、それ以前に豊楽殿に葺かれていた瓦と考えている。

豊楽殿北西隅出土の鬼瓦（図 54 図版 32-2）出土したのは基壇北西隅のやや外側である。硬質に焼き上げられ、灰白色を呈している。東寺や西寺、西賀茂瓦窯や東寺觀智院所蔵の伝羅城門跡出土とされる鬼瓦と同范である。

豊楽殿南正面発見の垂木先金具（図 56）これは発掘調査で出土した遺物ではないが、発見地（図版 10 の A 地点）やその状況から豊楽殿に使用されていた垂木先金具と考えられるのでここに報告しておく。発見地は豊楽殿南面のほぼ中央部に相当する。家屋建て替えに先立ち発掘調査が実

施されたが、この金具はその後に行われた工事中に発見された。垂木先金具は2点あり、そのうちの1点は鍍金の旧状をよくとどめている。釘穴が周囲8箇所と中央部に1箇所みられる。文様はタガネ状の工具で施されている。成分分析の結果、銅板の銅の含有量は97%と非常に高純度である。

4 小結

以上のように豊楽院正殿である豊楽殿の一部を調査・確認し、大きな成果を得た。豊楽院跡は大半が未調査であるためその詳細は明らかでないが、次に豊楽院で行った調査成果を要約してまとめとする。

(1) 豊楽殿について

①豊楽殿の規模については、昭和51年(1976)と昭和63年(1988)の調査成果を基に、豊楽院の軸線を朝堂院(平安宮)中軸線から西へ69丈5尺(207.4m)の地点として復原を行った。その結果、豊楽殿の基壇規模は東西153尺(45.7m)、南北76尺(22.71m)、建物柱間寸法は桁行総長が131尺(39.1m)、梁行総長54尺(16.1m)になることが判明した。

②豊楽殿の基壇は壮大な規模にも関わらず、掘込地業を行わないで構築している。

③礎石根固めは基壇構築当初に方形に浅く掘り下げ、そこへ人頭大の川原石を入れている。その後は版築に伴ってその上へ同様に川原石を据えている。

④中央間階段は掘込地業を行って築いているが、西側階段はそうした工法を用いていない。

⑤凝灰岩の碎片が基壇の周辺に顕著に認められたが、これは基壇化粧に使用した凝灰岩の調整を当地で実施していることを物語っている。

(2) 北廊について

①豊楽殿と清暑堂をつなぐ北廊は豊楽殿の造営当初には敷設されておらず、中央間階段が設置されていた。北廊敷設時期は出土遺物から平安時代前期(平安京Ⅰ期新)であったと考えている。

②基壇の構築土層からは、凝灰岩・緑釉瓦・緑釉鷲尾などが出土した。

③基壇の西縁で検出した南北方向を示す甃敷は北廊西縁雨落溝の可能性がある。

④基壇西縁甃敷下で検出した土壙3は平安時代前期(平安京Ⅱ期新)の地鎮遺構と考えている。

(3) 豊楽院の規模

豊楽院の東西幅は築地心々間で57丈である。この寸法は、朝堂院東側に設けられた中務省跡など中央東の官衙群の東西幅と同じである。

豊楽院全体の復原をするまでには至っていないが、以上のような調査成果を得ることができた。

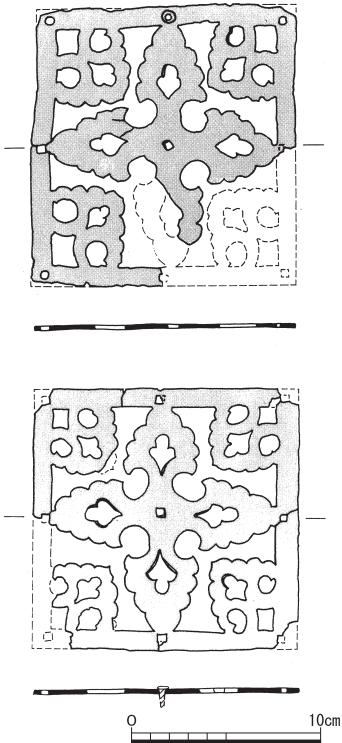


図56 A地点出土垂木先金具
(1:4)

III 内裏跡

1 経過

(1) 対象範囲 平安宮内裏は、宮城の中央北東寄りに位置する。内部の殿舎配置は、陽明文庫本や九条家本などの「宮城図」によって大概を知ることができる。それによれば、内裏は内郭・外郭の二重構造となっており、内郭は築地回廊に囲まれた東西 57 丈、南北 72 丈、外郭は築地に囲まれた東西 73 丈、南北 100 丈の規模を有するとされる。内郭は紫宸殿と南庭を囲むように配置された南半部と、常寧殿を中心に左右対称に配置された北半部で構成される。南半部は儀式を行う「ハレ」の場、北半部は天皇とその家族の私的な生活空間で、「後宮」と呼ばれた。

外郭の北縁には、西から蘭林坊・桂芳坊・華芳坊が付設され、他の三方は空間地となっていた。内裏西側には南から、中和院・木工内候、内膳司・采女町・糸所が南北に配置され、中和院の西には真言院、さらに西方には宴松原が広がっていた。

(2) 調査の概括 昭和45年(1970)代前半には、主として保護課が小規模な調査を行った。同じ頃、古代学協会・平安博物館も発掘調査を実施し、内裏内郭回廊を確認する成果を収めた。昭和51年(1976)に当研究所が設立されると、この範囲は平安宮内でもっとも重要な地区として調査に取り組んできた。

こうした継続的な調査によって、平安時代の遺構は千本通のやや西から、東は淨福寺通付近、北は出水通、南は下立壳通に囲まれた範囲で良好に遺存することが判明しつつある。また、これらの調査によって、建物・築地・築地回廊・柱穴・石敷や瓦敷遺構・溝・土壙など多数の遺構を検出し、内裏の構造についても一定の見通しが得られるようになった。その中で特記できるのは、内裏内郭回廊の確認と承明門跡およびそれに伴う地鎮め遺構の検出である。両者の発見によって、内裏内郭は回廊の東西幅と東西中心線が判明し、復原図を現地に当てはめて検討することが可能となつた。

平成6年(1994)に古代学協会・古代学研究所が刊行した『平安京提要』の付図「平安宮内裏復元^{註1}図」は、こうした成果に基づいて作成された大縮尺の復原図であり、これまでの調査・研究の一つの到達点と評価できる。この項では、これらの成果を踏まえつつ当研究所が実施してきた発掘・試掘・立会調査の成果を集約することで、より具体的な平安宮内裏の実態を記述することに努める。

2 遺構

(1) 蘭林坊・桂芳坊・華芳坊跡 これらは内裏内郭の北側に位置する。立会調査を 17 件実施したが、いずれも掘削深度が浅く成果は得られていない。

蘭林坊においては、昭和49年(1974)に平安博物館が実施した発掘調査(文 141)で東西溝が 1 条検出されており、南面築地の内溝と理解されているが、当研究所の復原案では外溝の位置にある。

(2) 内裏内郭の北半部 内裏内郭では南半を含めて、発掘調査 7 件、試掘調査 12 件、立会調査 73 件を実施した。以下、平安時代の遺構を検出したものを中心 北より順に記す。

調査1 (939 文 261-4 図版 35-1) 内裏内郭と采女町の間で実施した発掘調査である。この調査では土壙を5基検出した。

土壙2・3から火災にあった土器や瓦・壁土が多量に出土した。また土壙3の壙内には木炭が詰まった状態でみられた。土壙2・3からは平安京II期～III期までの遺物が出土した。

調査2 (47 文 185-2) 内裏北西部の襲芳舎東端想定地で実施した立会調査である。

現地表下1.2mで柱穴と土壙を検出し、土壙内から平安時代前期から中期の土器や瓦、凝灰岩などが出土した。

調査3 (403 文 221-4 図版 35-2) 襲芳舎の東側で実施した試掘調査である。平安時代の土壙9基と溝1条を検出した。各土壙から土器・瓦が多量に出土した。土器は平安京III期古を中心とする。ここでは白色土器の占める比率が高いことを指摘した。

調査4 (857 文 255-3 図版 36-1) 登華殿想定地の東端で実施した発掘調査である。この調査では石敷の南北溝とその東で大規模な土壙を検出した。南北溝SD24は登華殿の東雨落溝と



写真4 調査2 凝灰岩検出状況（西から）

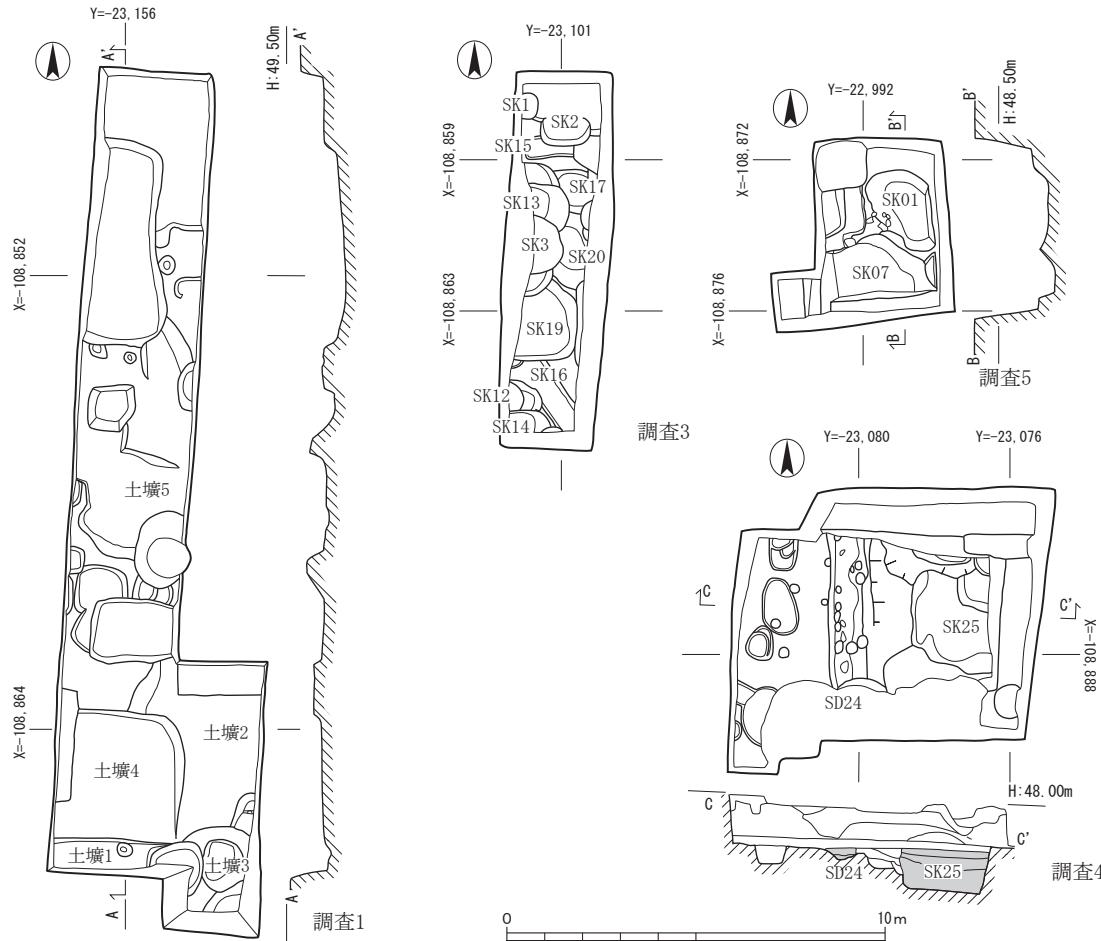


図57 内裏内郭調査区実測図(1) (1:200)

考える。本来は石敷溝であるが、遺存状態は悪く石材数個をとどめる。土壙 SK25 は、火災によつて生じた廃材の処理穴で、火を受けた土器・瓦・壁土・凝灰岩が多量に出土した。土器の年代は平安京Ⅲ期中に属し、10世紀後半に開削されたものといえる。内裏火災を裏付ける具体例として注目できる。

調査5 (1108 文 269-2 図版 36-2・3) 内郭の北東隅、淑景北舎想定地の南端で実施した試掘調査である。調査では土壙を 2 基検出した。土壙から土器・瓦が多量に出土した。土器は平安京Ⅱ期新に属する。ここでも白色土器の比率が高いことが判明した。

調査6 (1063 文 304-7 図版 47-2～5) 中立壳通から下立壳通、千本通から智恵光院通までの範囲で実施した立会調査である。淨福寺通より東の出水通において、内郭北東部を横断する形で調査した。図版 11 の 6-1 では整地層を検出した。ここは内郭東面回廊の推定地にあたるため、基壇整地層の可能性がある。6-2 では石敷溝の一部を検出した。これは内郭東面回廊の西雨落溝と想定できる。

なお、昭和58年(1978)に付近で実施した立会調査(付章 28)では、千本出水交差点東で平安時代の土器が、土屋町出水交差点西では平安時代の瓦が出土したが、ともに明確な遺構は確認できなかつた。

(3) 内裏内郭の南半部 下立壳通に面した内裏内郭の南半部は調査件数が多く、もっとも成果が得られた範囲である。この範囲では、内裏内郭回廊、蔵人町屋、承明門跡を調査で確認したが、これら一連の調査成果の先駆けとなつたのは、昭和38年(1963)に平安博物館が行った立会調査や^{文110}昭和44年(1969)・昭和48年(1973)に同博物館が行った内裏内郭西面回廊の発掘調査である。^{文109・148}

調査7 (1490 文 308-2 カラー図版 4-2 図版 37・38-1・2) 内郭西面回廊を対象とした発掘調査である。小範囲の調査であったが、回廊基壇の東縁地覆石と内側の石敷雨落溝を検出した。地覆石は凝灰岩製で長さ 60～90cm ある。上面には羽目石と束石をはめ込む溝をとどめる。石敷雨落溝は保存状態がきわめて良好で、底には扁平な川原石を 1～3 列敷き、東には石を並べて縁石とする。この溝は 9 世紀中頃には埋められ、さらに東に素掘り溝が掘られる。その溝も 9 世紀末には埋まり、さらに上部に 10 世紀の火災層が覆うなど、埋没に関する詳細な状況も確認できた。

調査8 (116 文 183-6 図版 39) 調査 7 の南延長部に該当し、調査 7 の溝に連続する溝を検出した。溝は底に川原石を敷き、両側縁に凝灰岩の板石を立てた構造を有する。溝の構造、検出位置から、溝は内郭南面回廊を横断する暗渠と考える。

調査9 (859 文 255-4 図版 40・41) 蔵人町屋の東半想定位置で実施した発掘調査である。北西部で基壇状の高まりと、それに伴う石敷雨落溝を検出した。

南の石敷雨落溝の遺存状態は非常に良好である。溝の内法は 0.4m あり、溝底面には石を一列敷き、両側には石を立てて縁とする。その外側にも石を敷く。東の雨落溝は調査区の東端を拡張して検出した。構造は南面と同一であるが、溝内法を 0.6m 広げて石を 2 列敷く。

北西部で基壇状のわずかな高まりを検出した。高まり上面で礎石据付跡を検出したが、規模・構造は明らかでない。上面で焼土面を 3 面検出した。焼土層中から 9 世紀前半の遺物が出土した。

南雨落溝は9世紀中頃、東雨落溝は10世紀中頃に石が抜かれる。南雨落溝の下層でL字形に折れる溝（遺構80）を検出した。当該地に蔵人町屋が建てられる前の建物に伴う雨落溝と考える。^{註2}

調査10 (14 文 167-7 図版 38-3) 校書殿と安福殿の東方、紫宸殿南庭で実施した発掘調査である。この調査では集石状の遺構を3基検出した。遺構SZ01・02・03は不定形な形状を呈する。平安時代後期の土器を含むが性格は不明である。この調査では、奈良時代の土師器・須恵器も出土しており、後述する調査11との関連が注意される。

調査11 (581 文 244-5 図版 42・43) 内裏内郭の正門、承明門想定地で実施した発掘調査である。承明門、ならびにその北側で地鎮め遺構群を検出した。

門は、基壇や柱の据付跡は認められず、北側の石敷雨落溝のみを検出した。雨落溝は二時期あり、11世紀に改変されている。ともに石敷きであるが石は大部分が抜かれる。門の北側は紫宸殿南庭にあたり、ここでは白化粧土（花崗岩・チャート・砂岩の粗砂）が2層確認できた。

Y=-23,054付近は4基の地鎮遺構（遺構76・78・80・83）が南北にならぶ。遺構80・83は9世紀中頃、遺構76・78は11世紀中葉から後葉に属する。南北線上にならぶことは、門の中心を意識したためとみられる。承明門は内裏内郭の南門にあたるため、門の中心は内裏内郭の南北中心線と合致する。地鎮遺構76には密教法具の輪宝と櫛が宝物（金粉・銀切板・琥珀・ガラス）と共に納められていた。この遺構は延久3年（1071）に内裏南方鎮所で行われた修法跡に該当し、歴史上の出来事を現地に置いて検出した稀有の例である。門の下層から奈良時代の竪穴住居を4戸以上検出した。

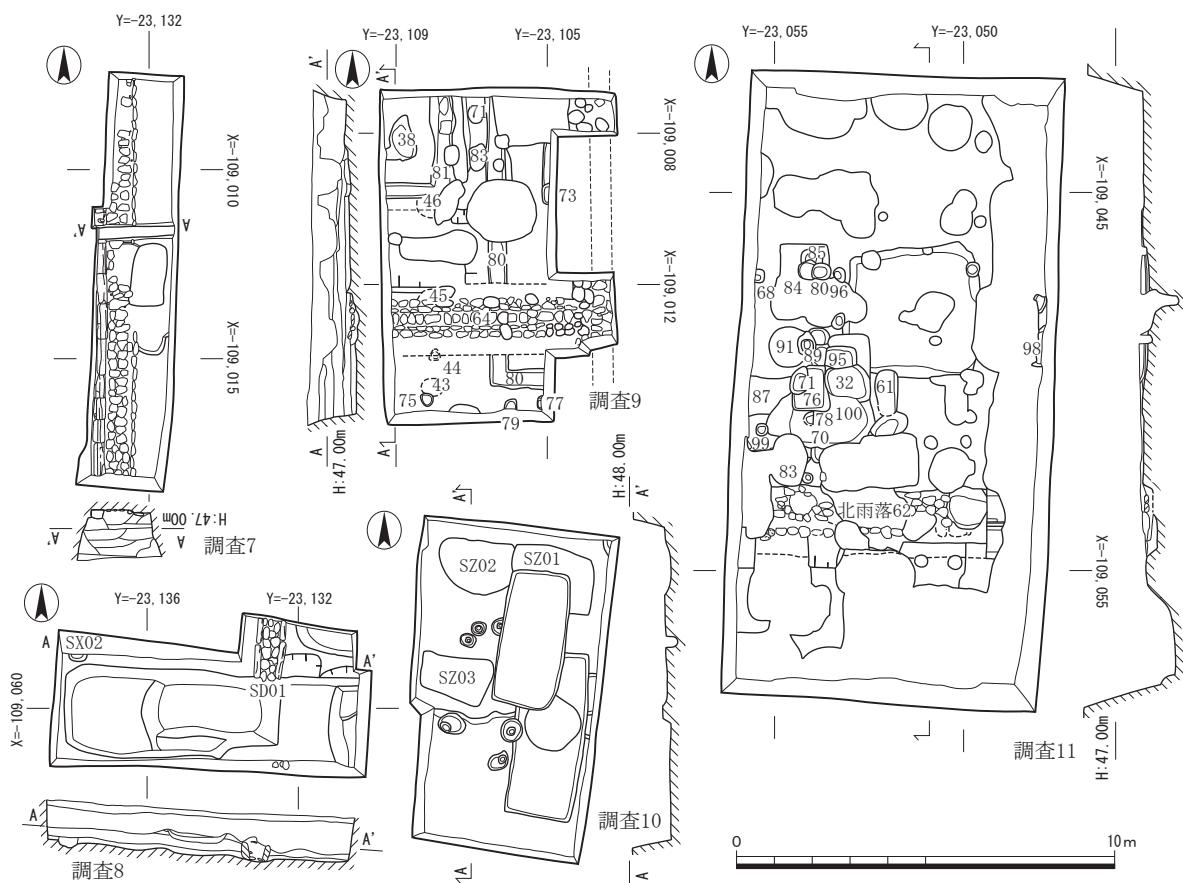


図58 内裏内郭調査区実測図(2)(1:200)

近接する調査 10 と共に一帯に奈良時代に遺跡が存在することを明らかにした点で重要である。^{註3}

調査 12 (188 付章 37 図版 48-1 ~ 4) 下立壳通で実施した立会調査である。東から概述すると、図版 12 の 12-1・12-2 では瓦敷の整地面がみられた。これは内裏外郭東面築地の両側に該当する。12-3 では原位置を保った状態で凝灰岩を検出した。これは内郭東面回廊のものとみられる。12-4・12-5 でも凝灰岩を検出したが、原位置は失っている。12-6・12-7 は進物所と安福殿の間に位置する。ここでは東西方向の石組遺構を検出した。両者の間隔は 8m 以上ある。12-6 では石組遺構の下層で幅 2.4m の南北溝がある。この位置は安福殿の西端にあたる。12-8 では大規模な土壙状遺構を検出した。本件の詳細は付章 37 に収録している。

なお、下立壳通では調査 6 においても重要な成果を得ている。

図版 12 の 6-3 では内郭東面回廊の基壇西縁地覆石と推定できる凝灰岩を原位置を保った状態で検出した。6-4 では火災を受けた遺物の入った土壙を検出した。6-5 では雨落溝とみられる石組遺構を検出した。6-6・6-7・6-8 では厚さ 5cm 前後の白川砂の化粧土を検出した。ここは紫宸殿南庭に位置し、調査 11 でも同じ様相を指摘したところである。6-9 では土器溜を検出した。6-10 では丸瓦で蓋をした暗渠を、6-11 では石敷雨落溝を検出した。6-10 は蔵人町屋（調査 8）の東雨落溝の南延長部に位置し、6-11 はこれより西に数 m ずれる。両者は進物所想定地にあたり、それに関連した遺構とみられる。6-12 では凝灰岩の抜取穴を検出した。これは内郭西面回廊の基壇東縁地覆石とみられる。6-13 では土器溜を検出した。6-14 では原位置を失った凝灰岩を検出した。

調査 13 (713 文 251 図版 48-5・6) 内郭南面回廊の想定地で実施した立会調査である。狭い路地での調査であったが、13-1 では現地表下 0.55m において原位置を保つとみられる凝灰岩を 4 個検出した。回廊上にあたるため基壇の化粧に用いられた可能性がある。

調査 14 (1530 文 310) 春興殿想定地の東側で実施した立会調査である。現地表下 1.1m で遺物包含層を確認し、平安時代前期から後期までの土師器・須恵器・黒色土器などが出土した。

調査 15 (229 文 206) 出水小学校北東側で実施した試掘調査である。現地表下 0.9m で平安時代中期の土壙を 1 基検出した。

調査 16 (893 文 254) その西側で実施した試掘調査である。現地表下 0.5m 以下では江戸時代の遺物包含層がみられた。

なお、出水小学校グランドで実施した試掘調査 (1075 文 265) では平安時代の整地層を検出している。また、建礼門想定地の北東付近では、昭和49年(1974) に保護課が発掘調査 (文 139-4) したが、平安時代の遺構は検出できず、聚楽土上面で土取穴を検出したにとどまる。

(4) 中和院・木工内候跡 内裏の南西に



写真 5 調査 14 全景 (北東から)

位置する。東西 50 丈、南北 57 丈と想定でき、北東側を中和院、残りを木工内候が占めるとされる。当該地域では、発掘調査 6 件、試掘調査 11 件、立会調査 28 件を実施している。

調査 17 (354 文 216-2 図版 44-1) 南面の外郭築地が想定される地点で実施した発掘調査である。しかし外郭築地に関する遺構は認められず、平安時代初頭と後期の土壙 3 基を検出した。土壙 SX4・9 からは平安京 I 期中に比定できる土器が多量に出土した。

調査 18 (884 文 254-3 図版 44-2) 中和院との境界をなす内裏西面の外郭築地想定地で実施した発掘調査である。調査では築地状の高まりとその両側で溝を検出した。

築地状の高まり SX8 は南北方向を示し、内裏外郭の西面築地に該当する。上面で柱穴数基を検出した。柱穴の間隔は、南北 3.1m、東西 1.15m に復原でき、築地塀の添え柱とみられる。溝 SD5 は SX8 の西側にあり、火災を受けた土器・壁土・瓦が出土した。この遺構は廃材を処理した土壙の可能性が高い。SD7 は築地東溝にあたり、南北 21m 分検出した。

なお、下立壳通で実施した立会調査 6 では、6-16 で上記 SD7 の北延長部を確認し、6-15 では焼土層を検出した。

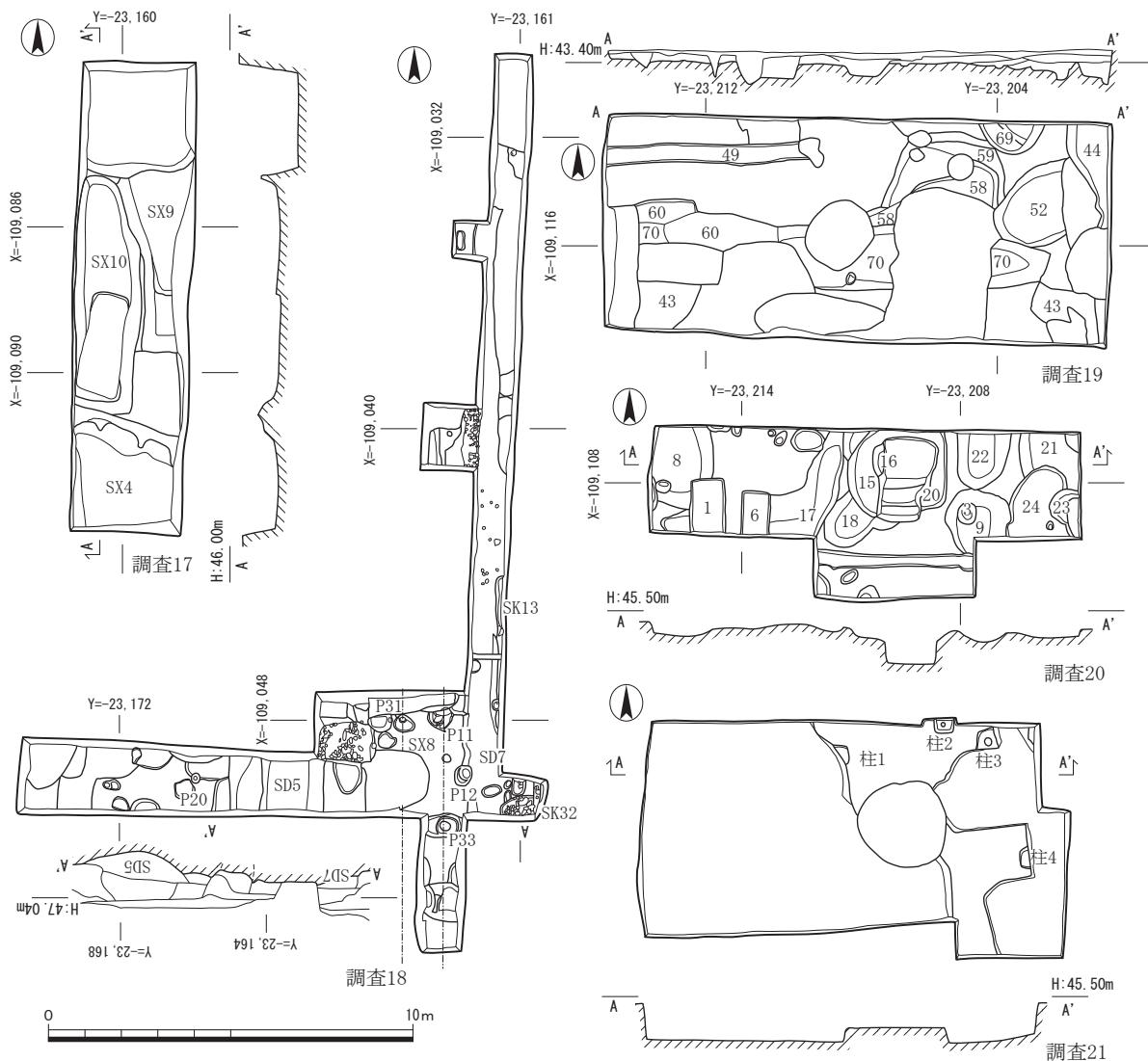


図59 中和院調査区実測図(1) (1:200)

調査19 (822 文 255-1 図版 45-1) 中和院 - 大極殿院間で実施した発掘調査である。東西方向の「瓦の帶状分布 70」を検出し、これを境に整地が異なることが判明した。また土取穴 44 からは火災を受けた遺物が多量に出土した。

調査20 (546 文 236-2 図版 45-2) 調査19 の北隣で実施した発掘調査である。平安前期の土壤を 6 基検出し、土壤 8・9・22 から平安京 I 期中の土器・瓦が多量に出土した。

調査21 (68 文 183-5) 中和院の南端で実施した発掘調査である。調査区の 3 分の 2 が近世の土取穴で破壊されていた。土取穴から緑釉瓦を含む多量の瓦が出土した。

調査22 (23 文 175-6 図版 46-1) 中和院の南東部で実施した発掘調査である。平安時代前期の土壤 1 基、中期の土壤、瓦溜、遺物包含層を検出したが、中和院の遺構は明確でない。

調査23 (1413 文 300) 千本下立壳交差点の北東で実施した立会調査である。平安時代中期の整地層を検出し、瓦が出土した。

調査24 (573 文 237) 調査23 の北隣で実施した試掘調査で、平安時代の遺物包含層を検出した。

調査25 (593 文 243)
さらに北側で実施した立会調査である。ここでは地業とみられる整地層を検出した。この整地層は後述する中和院神嘉殿に伴うものとみられる。

調査26 (693 文 243)
千本下立壳交差点の北西で実施した試掘調査である。幅 3m で南北 17m の調査区を設定し、調査区北端より南 7m までは掘込地業であることを確認した。地業は現地表下 1.1m 以下で検出し、版築状を呈する。各層の厚さは 6cm 前後で 9



写真6 調査21 全景（東から）

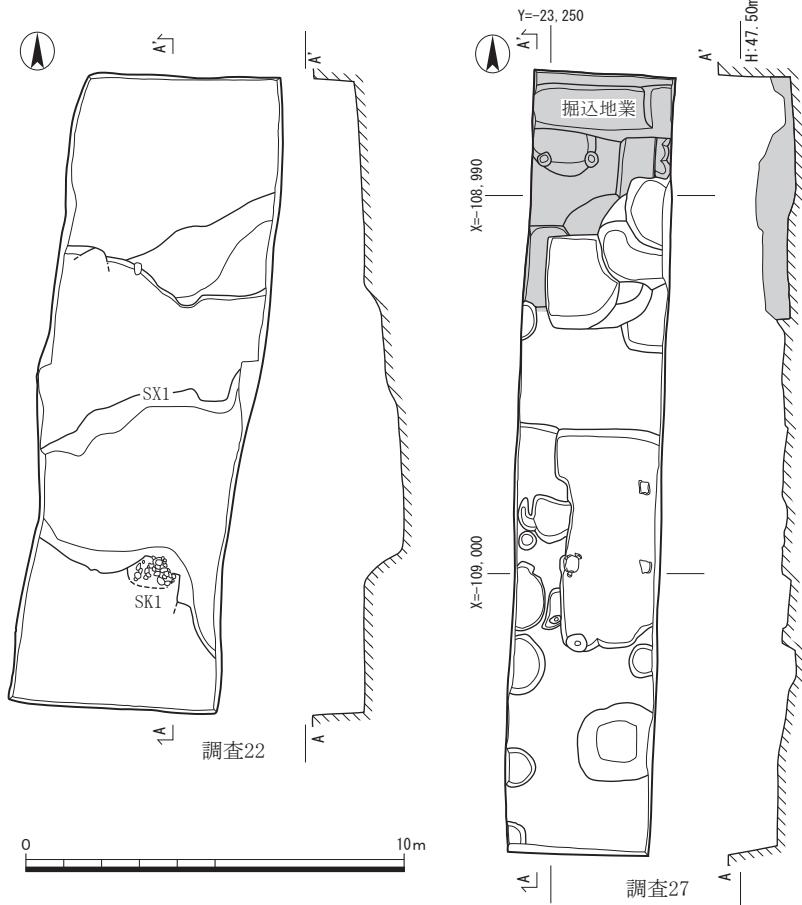


図60 中和院調査区実測図(2)(1:200)

層ある。

調査 27 (1061 文 266-4 図版 46-2・

47-1) 調査 26 の西隣で実施した発掘調査である。掘込地業を検出した。地業は厚さ 1m 余り遺存し、その間に 20 数層の版築土層を認めた。また調査区北端より南 6m 付近で地業層が立ち上ることを確認した。土器・瓦・緑釉瓦が周囲から出土したが、瓦が少ない点が注意された。

なお、この掘込地業は西側で実施した立会調査 (167 文 192・819 文 254) では掘削深が浅く確認していない。

調査 28 (617 文 243 図版 48-7・8) 下立壳通で実施した立会調査である。28-1 では平安時代中期の層より凝灰岩が出土した。凝灰岩は長さ 60cm、幅 35cm、高さ 25cm あり、南北方向に主軸を置く。西側に切り込みがあるため地覆石とみられるが、想定建物は明らかでない。

調査 29 (1476 付章 40・1515 付章 42) 千本通の西側で実施した立会調査で、中和院以北を縦断する。29-2 では路面状の遺構を検出した。これは中和院 - 内膳司間の宮内道路と考えられる位置にあたる。29-3 ~ 5 では溝状遺構を検出した。中和院北面築地が想定できる位置にあることから、中和院の南北幅を 57 丈と考える資料となった。29-6・7 と 29-8 では整地層を検出した。

調査 30 (1546 付章 45) 千本通の東側で実施した試掘調査である。30-2 で溝の北肩部、30-3 で整地層と平安時代中期の溝、30-4 で整地層を検出した。

調査 31 (971 文 260) 内裏外郭の南面築地外想定地で実施した立会調査である。この調査では平安時代の遺物包含層を検出した。

調査 32・33・34 千本通の西側ではマンション建設に伴い、調査 32(522 文 237・800 文 251)・調査 33(545 文 237)・調査 34(1037 文 265) を実施したが、いずれも江戸時代の遺物包含層や土壌を検出するにとどまった。

調査 20 の北側では昭和49年(1974) 12 月に保護課が調査^{文139-2}を行い、平安時代の土壌を検出している。また調査 21 の北側では昭和48年(1973) 11 月に保護課が調査^{文131-2}を行ったが、搅乱のため平安時代の遺構はみられなかった。ここでは緑釉瓦が出土している。千本下立壳の交差点南東角では、昭和51年(1976)9 月に平安博物館が立会調査^{文169}を実施したが、江戸時代の搅乱がほとんどであった。

(5) 内膳司・采女町・糸所跡 内裏の北西に配置される。中和院とは 10 丈隔たり、南北 40 丈、東西 50 丈の区画を持ち、内部は西半部を内膳司、東半部を采女町、北半部を糸所で占めるとされる。試掘調査 4 件、立会調査 17 件を実施している。

調査 35 (457 文 223) 現地表下 0.7m にて平安時代の土壌・遺物包含層を検出した。

調査 36 (998 文 260) 現地表下 0.6m にて平安時代前期の土壌と遺物包含層を検出した。

調査 37 (737 文 251) 現地表下 0.35m にて遺物包含層を検出したが、時期は不明である。

これら調査 35 ~ 37 は、千本出水の交差点の西約 30m に集中しており、この付近に平安時代の遺



写真 7 調査 26 調査風景（北から）

構が遺存することを明らかにした点で重要である。また、調査 35・36 のすぐ南では平安博物館が昭和47年(1972) 11月に発掘調査を行い^{文130}、搅乱のみと報告されている。ここは中和院と内膳司の道路部分に想定できる箇所にあたる。

なお、先述した千本通の調査 29・30 では内藏寮南面の築地とそれに伴う内・外溝を検出し、その南 9 ~ 12m の地点でも溝を検出している。この溝は内膳司の北面築地に伴うものとみられ、内藏寮と内膳司の間が 4 丈であったことを示す成果といえる。このほか、千本出水交差点から北へ 5m、50m、55m 付近でも溝・土壙を検出している。

調査 38 (1051 文 265) 千本出水交差点の北東で実施した試掘調査である。現地表下 1.0m で平安時代の遺物包含層を検出した。

調査 39 (460 文 223) 調査 38 の東側で実施した試掘調査である。現地表下 0.4m で江戸時代の遺物包含層を検出したが、平安時代の遺物も混在して出土した。

調査 40 (705 文 243) 千本出水交差点の東側、中和院の北東想定地で実施した立会調査である。現地表下 0.3m で遺物包含層や平安時代前期の土壙を 2 基検出した。

調査 41 (1435 文 300) 内裏外郭築地の南西外想定地で実施した立会調査である。現地表下 0.3m で平安時代の遺物包含層を検出した。

(6) 真言院 中和院の西に位置し、南北 40 丈、東西 20 丈と想定される。当該地域では試掘調査 2 件、立会調査 12 件を実施している。

調査 28 は下立壳通で実施した立会調査であるが、六軒町通との交差点では現地表下 1m で平安時代後期の遺物包含層を検出した。

調査 42 (1220 文 281) 真言院の西半想定地で実施した立会調査である。現地表下 0.6m で平安時代の土壙を 1 基検出した。

調査 43 (898 文 260) 真言院の東外部想定地で実施した試掘調査である。現地表下 1.6m 付近で平安時代の遺物包含層を 2 層確認した。

調査 44 (888 文 254) その北側で実施した試掘調査である。現地表下 1.15m において時期不明の遺物包含層を検出した。

調査 42・43 の南側、勝巖院の旧本堂跡地は、昭和50年(1975)7 月に保護課が発掘調査を実施^{文147-4}している。この調査では平安時代の溝や瓦溜が検出されている。

3 出土遺物

(1) 遺物の年代 上記調査では平安時代初頭から平安時代末期・鎌倉時代までの遺物が出土している。年代順に整理すると、平安京 I 期中に属するものとしては調査 17 の SX4・9、調査 20 の土壙 8・9・22、平安京 II 期新では調査 5 の SK01・07、平安京 III 期古では調査 3 の各土壙、平安京 III 期中では調査 4 の SK25 などがあげられる。また調査 1 の土壙 2・3 は平安京 II 期から III 期新までの遺物を含む。これらは平安時代前期から中期に属しており、土師器・黒色土器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・白色土器・輸入陶磁器・瓦で構成される。しかし、これに続く時期の資料は現状ではまとまったものは出土していない。

(2) 火災に遭った遺物 調査 4 の土壙 SK25 から二次的に熱を受けた遺物が多量に出土し注目された。内訳は、土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・白色土器・輸入陶磁器などの土器類と瓦類、凝灰岩、壁土などで、土器類は平安京Ⅲ期中に属する。また調査 1 の土壙 2・3 からも同様の状態を呈する土器類、瓦類、壁土が出土した。このほか、調査 7 の焼土層、調査 6-4、調査 18 の溝 SD5、調査 19 の土壙 44 などからも二次的に熱を受けた遺物が出土している。

これら二次的に高熱を受け変質した遺物は、火災によって被災した遺物とみて大過ない。土器の型式は平安京Ⅲ期中を中心とする。もっとも多量に出土した土師器の中には、高熱による変質で表面に気泡が生じ溶解したものもある。壁土も高熱で変質している。これらはスサ入りの粗い下地と白い化粧土からなり、下地には木舞の痕跡をとどめる。凝灰岩は加工面をとどめた固体を含み、表面は赤色または溶解し還元色を呈する。以上の壁土・凝灰岩は、内裏殿舎や築地・回廊の外表を飾っていたものが火災によって被災したものといえる。

(3) 白色土器の比率 調査 3において、白色土器が内裏から多く出土することを指摘した。これらは平安京Ⅲ期古に属し、その比率は 9.2% という高率であった。調査 3 に近接した調査 1・4・5、さらには蘭林坊南面推定地で平安博物館が実施した調査においても、白色土器が多数出土している。調査 4 の土壙 SK25 は火災を受けた遺物が多量に出土したが、白色土器は 6.3% という高率を占めた。

白色土器が多量に出土するのは内裏でも北半部の地域である。この範囲は「後宮」と呼ばれる。比率が高い点は宫廷内での祭祀や食膳の形態を反映したものであろう。

(4) 軒瓦の種類と特徴 各調査地点から瓦が多量に出土した。大半は丸・平瓦であるが、軒丸・軒平瓦も多くあり、特に調査 1・4 では土壙から多数出土している。

調査 1 では、広島県から出土する軒瓦が含まれており、西日本産軒瓦の搬入時期を考える資料となった。調査 4 の土壙 SK25 からは、軒丸瓦 49 種 73 点、軒平瓦 39 種 79 点、総点数 152 点の軒瓦が出土した。ここでは讃岐国分寺などに使用された軒丸瓦が含まれ、また難波宮で使用された重圧文軒平瓦も出土した。重圧文軒平瓦は西賀茂上庄田瓦窯跡からも採集されているため、旧都から搬入されたとは限定できない。^{文255-3}

4 小結

(1) 遺構の遺存状況について 内裏とその周辺での平安時代遺構の遺存状況を図 61 に示した。これをみると、内裏の北半と南半、中和院と内膳司の南北中央部で残りの良い箇所が集中することが判る。北半は出水通に面する範囲で、内膳司・采女町と内裏後宮に該当する。南半は下立壳通に面し、中和院神嘉殿のものとみられる掘込地業、内裏内郭回廊、承明門などを検出した範囲である。

平安宮内裏の遺構は、近世になってこの場所に聚楽第が造営されたことで多大な影響を受けたと考えられる。その聚楽第の内堀は、下立壳通と新出水通の中間に南面堀、淨福寺通のすぐ西に西面堀が想定されるが、この付近は現在でも地形が低く、また実際の調査においても平安時代の遺構は検出していない。^{註6}

立会調査は建物基礎の深さによって掘削深度の制約を受けるため、掘削が浅い地点では地下遺構の有無は判断できないが、図 61 の数字を入れた地点で搅乱や積土のみとされた箇所は、聚楽第の堀に該当する可能性も

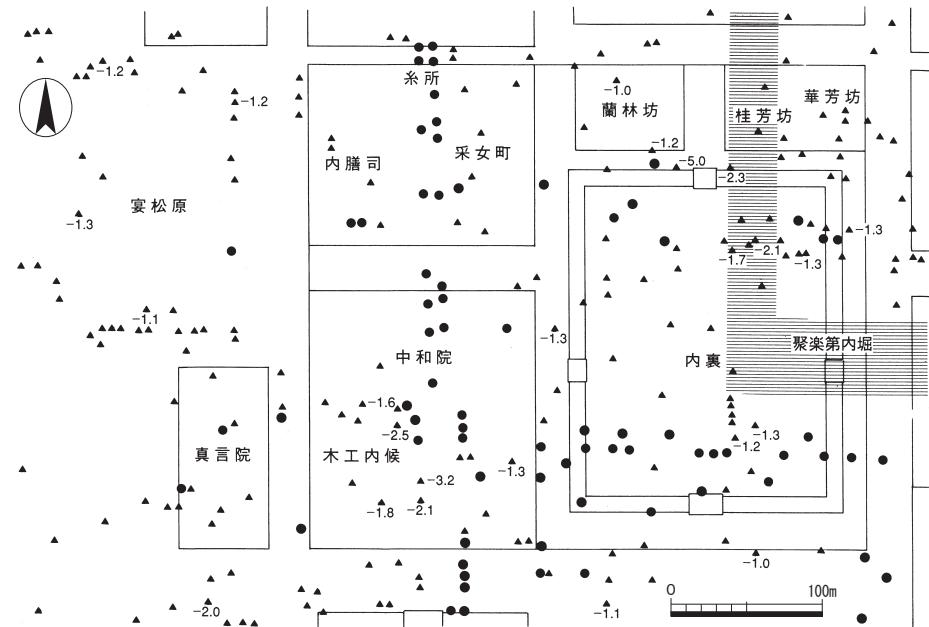


図 61 遺構の遺存状況 (▲調査地点、●平安時代遺構検出地点、数字は掘削深) (1:5,000)

考慮すべきといえる。また聚楽第には外堀も想定されるので、平安宮の遺構遺存状況は今後聚楽第との関係を検証しつつ整理されるべきと考える。

(2) 検出遺構からみた内裏復原の現状

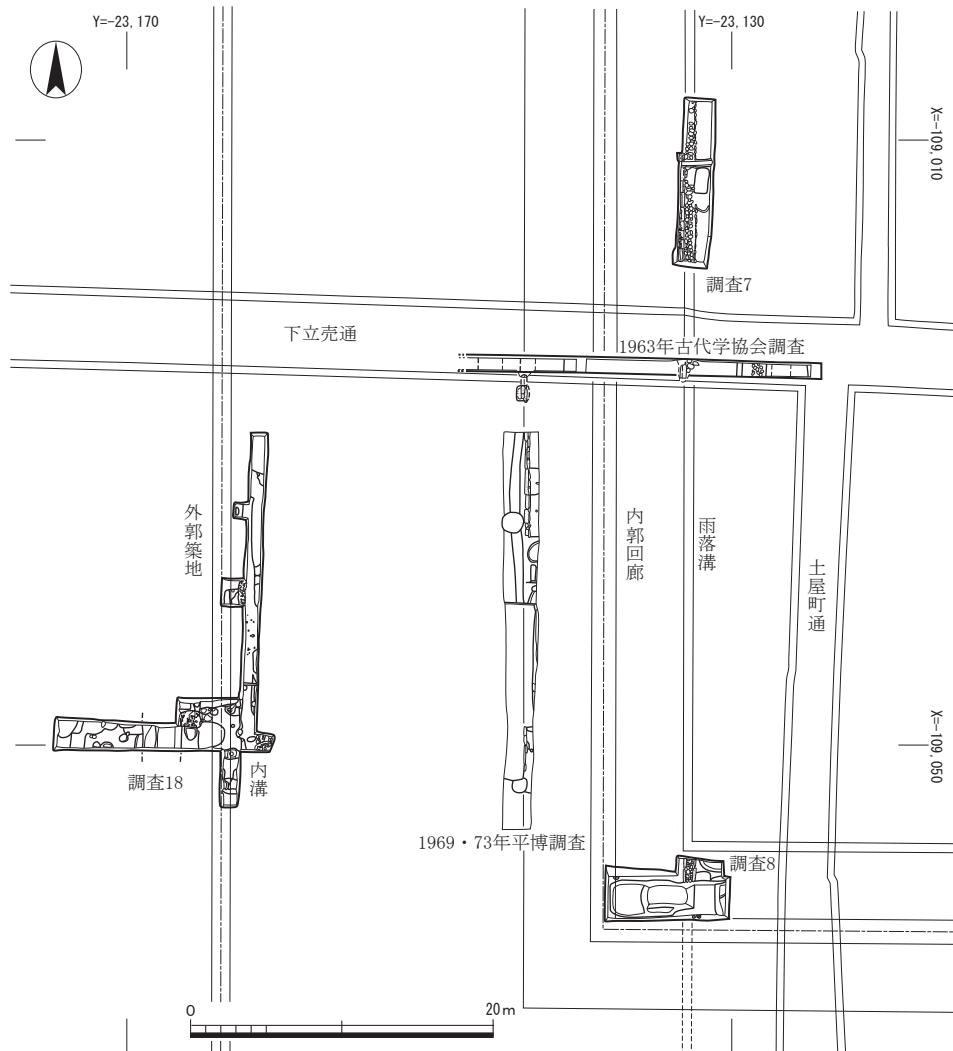
内裏内郭 建物遺構として確認したものには、西面回廊の基壇西縁（平安博物館 1969・73年調査）、同基壇東縁と東雨落溝（調査 7・8）、東面回廊の基壇西縁（調査 6-2・6-3）、蔵人町屋の南・東雨落溝と基壇状の高まり（調査 9）、承明門の北雨落溝（調査 11）、登華殿の東雨落溝（調査 4）、進物所に伴うとみられる雨落状・暗渠状の遺構（調査 6-10・6-11）、調査 6-5 で検出した雨落溝、安福殿 - 進物所間の石組遺構（調査 12-6・12-7）などがある。

内裏内郭回廊は、まず平安博物館の調査で西面回廊の基壇西縁の状態が明らかとなった。当研究所においても調査 7 で同基壇東縁の地覆石と雨落溝、調査 8 で凝灰岩を用いた溝を検出している。さらに下立壳通の立会調査 6-3 では東面回廊の基壇西縁地覆石を検出し、調査 7 で検出した地覆石との関係が判明した。それによれば、両地覆石の距離は 157.9m を測り、これに回廊の基壇幅 3.5 丈（約 10.5m）を加えると、内郭回廊の心々距離は 168.4m となる。この値を平安京の造営尺（1 尺 = 29.8467cm）^{註7} で割ると 56.4 丈となる。

次に、内裏南西部での内郭回廊と外郭築地の関係を整理する。内郭回廊は凝灰岩の地覆石・羽目石・束石で化粧された基壇を持ち、基壇幅は 3.5 丈である。また平安京の内郭回廊は、平城宮・長岡宮と同じく棟筋に築地を持つ複廊で、築地の基底幅 4 尺、両柱間 8 尺、合計 20 尺と復原される。^{文148} ところで、調査 8 では凝灰岩も用いた溝の西 5m で柱穴 SX02 を検出しているが、この柱穴が唯一の築地との関連が指摘できる遺構である。築地に関しては、調査 18 で外郭西面築地の基底部と添え柱、東溝を検出しており、添え柱の幅は 1.15m と判明している。こうした関係を図 62 に整理した。内裏南西部での外郭築地と内郭回廊の心々距離は 25.40m あり、この値は平安

宮の造営尺でい
うと 8.51 尺と
^{註8}
なる。

内郭西面回廊
に近接する蔵人
町屋から進物
所・安福殿推定
地においても、
調査 6・9・12
で遺構を検出し
ている。調査 9
を除けば、どの
建物に該当する
かは今後検討す
べき課題である
が、付近には良
好に遺構が遺存
することを明白
にした点で評価
できる。



内裏調査で

図62 内裏南西部復原図(1:500)

は、調査 1・3・4・5 でみられたように大規模な土壙を検出することが多い。これら土壙も内裏の建物配置を復原する上で重要である。調査 4 では登華殿東雨落溝の東に大規模な土壙が穿たれており、建物のない空き地を利用して廃材を処理する穴を掘っていたことが窺われた。他の土壙も同様の性格を有するものと想定できるため、土壙が穿たれた地点と建物の配置には相関関係があることは明白である。

また、これら土壙はいずれもが重複する状況を呈し、数度にわたって掘削が繰り返された様子が窺われるが、これは内裏火災とその後の新造工事に際して空閑地が頻繁に利用されたことを示すものであろう。

中和院 ここで特筆できるのは、想定区画の中央部において大規模な掘込地業を確認したことである。掘込地業は深さ 1.0m 以上あり、調査 27 から 26・25 にかけて東西 40m 以上にわたる。南北幅は不明であるが、調査 27 では掘り込の南端を確認している。このような掘込地業は宮内には例がなく、その性格が注目されるが、現状では確定に至らない。

もっとも蓋然性が高いのは、中和院の正殿である神嘉殿の地業とみることである。『大内裏図考証』^{註9}によれば、神嘉殿は左右に回廊を配置する七間四面の巨大な東西建物とされるが、「中和院」

図ではいずれも院内の北東側に描かれている。ただし西回廊とその先に取り付く西舎は院内の中央から西側におよぶので、検出した地業もこの部分と関連付けると解釈が可能となる。

具体的にいうなら、同書所収の校定図を地図上に重ねると、調査 26・25 を神嘉殿、調査 27 が西回廊位置に合致し、幅 10m 余の整地層を検出した調査 29-8 と調査 29-6・7 も、それぞれ神嘉殿と北殿の考定位置にあたることが指摘できるが、復原精度には問題点も多い。このほか、調査 27 では瓦が少量しか出土せず注意されたが、このことが桧皮葺きと推定される神嘉殿とどのように関連するかなど、今後検討が必要な点が多々あることを記しておく。

(3) 石敷雨落溝について 平安宮内裏では石を敷き詰めて化粧した雨落溝を検出することが多い。このような雨落溝は内裏以外には検出例がなく、内裏に限定された遺構となっている。

検出例の概要 内郭西面回廊の東雨落溝（調査 7・8）、内郭東面回廊の西雨落溝（調査 6-2）、藏人町屋の南・東雨落溝（調査 9）、承明門の北雨落溝（調査 11）、登華殿の東雨落溝（調査 4）、進物所の東とみられる雨落溝（調査 6-11）、春興殿の東方で検出した雨落溝（調査 6-5）の 8 例がある。

調査 7 で検出した内郭西面回廊東雨落溝は遺存状態がもっとも良い。ここでは凝灰岩地覆石の東側に平坦な川原石二、三列を敷いて底とし、その外側に石を並べて縁となす。溝の内法は約 0.7m ある。縁石の外側にも石を一列敷くが、これは修築後の造作である。この雨落溝は 9 世紀中頃には埋められ、東に素掘り溝が掘られる。調査 8 で検出した雨落溝は、同溝の南延長上に位置する。ここでは、底は川原石敷きであるが両側に凝灰岩の板石を立てる。検出位置やその構造からみて、内郭南面回廊を横切る暗渠と考える。

藏人町屋の南雨落溝は内法 0.35m あり、内郭西面回廊に伴う雨落溝のちょうど半分の規模を持つ。底は石を一列敷き、両側には石を並べて縁とする。縁の外側にも石を敷き、幅は合計で 1.0m に達する。遺存状態はきわめて良好である。溝埋土からは 9 世紀中頃の土器が出土した。東雨落溝は石材の抜かれた箇所が多いが、内法 0.6m を有する。抜取穴から 10 世紀中頃の土器が出土した。

承明門の北雨落溝は新旧二時期あり重複する。旧期の溝は内法 0.45m あり、両側には凝灰岩切石を並べた痕跡がある。底が石敷きであったかは不明である。新期の溝は北に 0.6m 移動して構築する。内法 0.9m あり、石敷きであるが石は抜かれたも

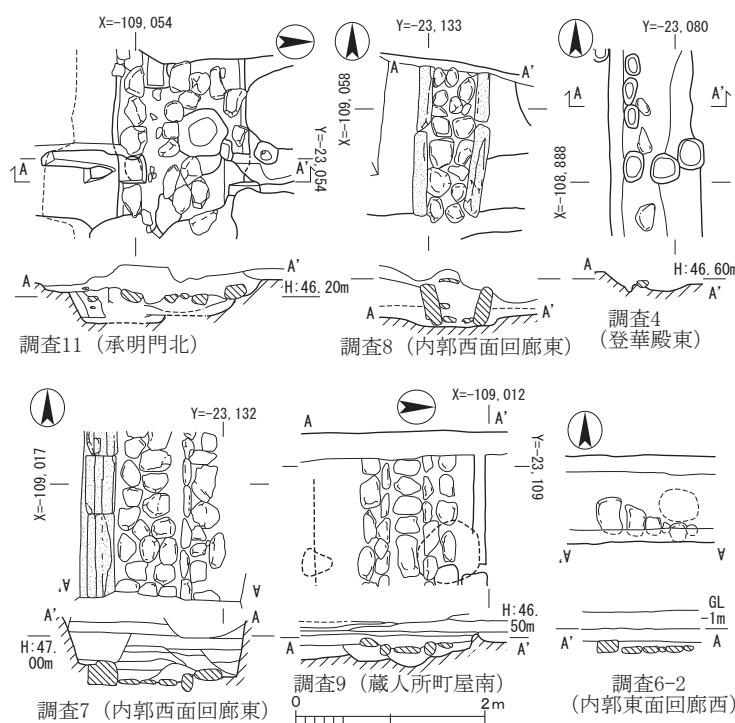


図63 石敷雨落溝の集成(1:80)

のが多い。両側に石を並べて縁とするが、その外側に石は敷かない。登華殿東雨落溝は内法 0.3 ~ 0.4m とみられる。底は石敷きであるがほとんどが抜き取られている。両側は石を立てたとみられ、抜取穴を西側で連続して検出した。内郭東面回廊の西雨落溝は立会調査で検出したもので、現状で内法 0.8m と規模は大きい。6 石のうち西の 1 石が大きく縁石と判断できる。

規模と構築時期 溝内法の規模を比較すると、もっとも大きいものは承明門の北雨落溝で 0.9m を有する。ついで内郭西面回廊の 0.7m、蔵人町屋東の 0.6m、同南の 0.35m の順となる。登華殿のものは蔵人町屋南に準じた規模と推定できる。このように整理すると、門や回廊では規模が大きく、殿舎ではより小規模な雨落溝が巡らされていたといえそうである。

次に、石敷雨落溝に時期差がある点を検討する。創建当初からすでに石敷きで構築されていたものは、内郭西面回廊の雨落溝であるが、早くも 9 世紀中頃には埋没し傍らに素掘り溝が掘られる。これに対し、蔵人町屋跡では下層の素掘り溝を埋めて石敷雨落溝が構築される。その時期は 9 世紀の早い段階で、これは弘仁元年（810）の蔵人所の設置に伴う造作と関連するものであろう。

内裏図や絵巻に描かれた雨落溝 内裏図や絵巻には、殿舎・回廊を巡る雨落溝が描かれる。陽明文庫本・九条家本・二条家本などの「内裏図」をみると、水路は「御溝」と注記され、内裏内郭の北西から内部に導かれて清涼殿の北東「瀧口」より南、校書殿・安福殿の東面を経て内郭回廊の南西隅から外部に流出する。裏松固禪の『大内裏図考証』では、主要建物の周囲にはさらに多くの雨落溝が描かれ、清涼殿の東には「御川水」、その他には「溝」の注記がある。絵巻においても、回廊や殿舎の周囲には雨落溝が描かれるが、ここでは石を切石風に描いている。

ところで、調査によって確認した石敷雨落溝 8 例のうち、内裏図や絵巻に記載があるのは承明門の北雨落溝が唯一『年中行事絵巻』卷四^{註10}に描かれるのみである。ただし、内郭西面回廊の東雨落溝は、同絵巻の卷四で南面内側、卷六^{註11}で北面内側の様子が描かれるため、これに準じることができる。絵巻や内裏図は、平安時代後期以降に製作（特に『年中行事絵巻』は江戸時代の模写）されたため、造営当初の様子がどの程度表わされたものか問題とされてきたが、雨落溝に関しては絵巻・内裏図に描かれる以上に多くの地点で確認したため、実際にはさらに広範囲に石敷雨落溝が巡らされていたことは確実といえる。

(4) 内裏火災の痕跡 平安宮内裏は天徳 4 年（960）9 月 23 日の夜半に起った火災で初めて焼亡する。その後もたびたび火災に見舞われ、内裏を放棄させる一因となった。一方、内裏の調査では火災の痕跡を示す焼土層や熱で変質した遺物が出土する。これらは内裏火災を示す具体例であるが、はたしていつの火災に該当するのか、ここで少し検討しておこう。

内裏火災に関係した調査地点 調査 7（内郭西面回廊）では回廊基壇上を焼土層が覆う状態がみられ、10 世紀後半の火災によって回廊が焼亡したことが確認できた。調査 9（蔵人町屋）では基壇状の高まり上面で焼土面を 3 面確認し、9 世紀前半の火災の痕跡と理解した。

高熱を受け変質した遺物が出土したのは、調査 1・4・6-4・7・18・19 などで、大規模な土壙の壙内から土器類、瓦類、壁土、凝灰岩などが出土した。これらが火災によって生じた廃棄物であることは前述した。

平安宮内裏の火災史料 平安宮内裏の火災史料としては、弘仁 14年(823)10月 7日に延政門北掖から失火したという記事がもっとも古い。しかし、この時は部分的な失火であったとされる。調査 9 で確認した 3 面の焼土面が、唯一この火災と時期的に合致する。

平安宮内裏を焼亡させた最初の火災は、天徳 4年(960)9月 23 日夜半に起こった火災である。「村上天皇御記」^{註12} や『直幹申文絵詞』^{註13}(上) をみると、火は 9 月 23 日の夜半、宣陽門北掖陣から出火した。天皇（村上）は内裏から太政官、職御曹司に避難し、懸命の消火作業によって火は八省院におよぶことなく午前 2 時頃鎮火したが、貴重な累代の宝物は灰燼に帰した。新造工事はただちに開始された。9 月 28 日には造内裏所別当が任じられ、修理職・木工寮と諸国に殿舎廊門の造作が割り当てられた。11 月 28 日には木造始め、翌年 2 月 16 日には「応和」改元があり、この日に殿舎諸門の立柱式を行った。そして 11 月 20 日、天皇は冷泉院から新造なった内裏に還御したのである。

その後も、天延 4年(976)5 月 11 日に火災が起き、仁寿殿の一部を焼いたが、この時も村上天皇は 1 年余り堀河院などに移った。天元 3年(980)11 月 22 日には主殿寮人候所から出火し、内裏の大部分が焼失した。村上天皇は職御曹司、太政官などに移り、11箇月後に内裏に還御した。しかし、直後の天元 5年(982)11 月 17 日には宣耀殿から出火し、天皇は職御曹司から堀河院に移る事態があった。

その後、しばらく火災はなかったが、長保元年(999)6 月 14 日に火災が発生してからは、長保 3年(1001)11 月 18 日、寛弘 2年(1005)11 月 15 日、長和 3年(1014)2 月 9 日、長和 4年(1015)11 月 17 日、長暦 3年(1039)6 月 27 日、長久 3年(1042)12 月 8 日、永承 3年(1048)11 月 2 日ときわめて短期間に火災が頻発した。天皇はそのたびに里内裏に移り、内裏が新造されると還御する事態が繰り返された。

内裏の新造は、当初は 1 年 2 箇月ほどで遂行されたが、長和四年の火災以後は 2 年以上を要することとなった。そして永承 3 年の火災後は、京極殿、冷泉院、四条第、一条院、高陽院などが主に利用され、この時は 22 年 9 箇月を経た延久 3 年(1071)8 月 28 日に内裏に還御した。ちなみに、承明門跡北側で検出した輪宝・櫛を用いた地鎮め遺構は、この時行われた修法の跡である。しかし、その後も高陽院や堀河院に移ることが多く、永保 2 年(1082)7 月 29 日の火災以後は里内裏が実質的な内裏となった。堀河・鳥羽天皇の時代と、後白河・二条天皇の時代に内裏は短期間使用されたが、この時は火災は発生しなかった。しかし鎌倉時代に入ると、承久元年(1219)7 月 13 日には宣耀殿・校書殿が焼失し、安貞元年(1227)4 月 22 日に土御門辺より起こった火災で焼失し、以後、内裏は再建されることはなかった。

火災遺物の年代 二次的な熱を受けて変質した土器の多くは、平安京Ⅲ期中に属しており、同じ火災にあって廃棄された遺物と理解できる。平安京Ⅲ期中の土器型式の実年代は、西暦 960 ~ 980 年前後と考えられ、この期間内に起こった内裏火災としては、天徳 4 年(960)、貞元元年(976)、天元 3 年(980)、天元 5 年(982) の火災があげられる。火災の上限を天徳四年とする点は問題なからうが、後の 3 件の火災は時期が接近するため出土遺物での判定は容易でない。

ところで、調査 4 では「天徳(実際には夫・イ)」・「応和」の年号を記した白色土器皿が出土している。墨書は習書したものであり、その必然性を考えた場合、天徳 4 年 9 月から応和元年 11

月までの内裏新造中の期間に、この墨書が記されたと考えるのが妥当である。したがって、多量の火災遺物を生じさせる原因となった内裏火災は、やはり天徳4年9月23日の火災を想定するのが妥当であろう。^{註14}

註

- 註 1 『平安京提要』 角川書店 1994年
- 註 2 藏人所は遷都当初の宮内には存在しない。大同5年(810)3月に平城上皇と嵯峨天皇の対立から設置されたものである。
- 註 3 『拾芥抄』(改訂増補故実叢書22巻1993年)には「或記云。大内裏秦,川勝宅。橘本,大夫,宅。南殿前庭橘樹。依舊跡殖之。見天暦御記」との記載があり、平安宮の内裏がかつての秦川(河)勝の邸宅にあたるとする。その関連性が注目される。
- 註 4 1『古代の土器1・都城の土器集成』古代の土器研究会 1992年
2『古代の土器2・都城の土器集成II』同 1993年
3『古代の土器3・都城の土器集成III』同 1994年
- 註 5 松井忠春・山田邦和「平安宮内裏蘭林坊跡出土の土器・陶磁器」『平安京出土土器の研究』古代学協会研究所研究報告第4輯財団法人古代学協会・古代学研究所 1994年
- 註 6 足利健亮「聚楽第内城について」『長岡京古文論叢II』 中山修一先生喜寿記念事業会 1992年
- 註 7 内裏内郭回廊の東西幅は、『大内裏図考証』の記述「南都所伝古図曰東西五十七丈」などによって、57丈とする説が定説であった。今回得られた数値を57丈とすると、1尺=29.3701cmとなって従来の平安京の造営尺より著しく短くなる。ちなみに、56丈とすると1尺=29.8946cmとなる。なお、承明門と西面・東面回廊の内側基壇地覆石の座標値は以下の通りである。
- 註 8 『平安京提要』所収「内裏遺構配置図」では9丈とする。
- 註 9 裏松固禪『大内裏図考証』改訂増補故実叢書巻26 1993年

	内郭西面回廊東地覆石 (調査7)	承明門東西心 (調査11)	内郭東面回廊西地覆石 (調査6-3)
X座標	-109,018.00	-109,054.10(旧) -109,053.70(新)	-109,025.07
Y座標	-23,133.15	-23,054.00	-22,975.25

- 註10 『平城宮発掘調査報告III内裏地域の調査』奈良国立文化財研究所学報第16冊 奈良国立文化財研究所 1963年
- 註11 『年中行事絵巻』日本の絵巻8 中央公論社 1987年
- 註12 『増補史料大成歴代宸記』臨川書店 1965年
- 註13 『直幹申文絵詞』日本の絵巻17 中央公論社 1988年
- 註14 出土した軒瓦に地方産の軒瓦が含まれる点を「造国制」に係わるものと捉え、天元3年の火災の遺物と推定する見解がある。前田義明「平安宮内裏の焼亡と搬入瓦」『平安京歴史研究』杉山信三先生米寿記念論集刊行会 1993年
なお、内裏火災に関しては下記のものを参照した。
1 「天徳四年・内裏炎上」『リーフレット京都』No.9 財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館 1990年
2 甲元真之「平安宮内裏の罹災記事と考古学的遺物について」『日本古代学論叢』 財団法人古代学協会 1979年
3 「皇居年表」『京都の歴史』10年表・事典 学芸書林 1976年

IV 諸官衙跡

1 太政官跡

1 経過

太政官は千本丸太町交差点の南東部、二条城の北西部に近接する。該当地域の大半は住宅地であり、南西部には京都市児童福祉センター、東端部には二条児童公園などの公共施設がある。当該地は主要幹線道路に面しないため、急激かつ大規模な都市開発は未だおよばない地域である。したがって、各宅地単位による開発が実施されるに過ぎず、調査は散発的である。

太政官は中央官衙群跡に属し、朝堂院の東、中務省の南に位置する官衙である。陽明文庫本・九条家本「宮城図」や『大内裏図考証』などによれば、太政官内には中央に太政官正庁域を配し、西北部に勘解由使、勘解由使に東接して曹司（以下、西曹司と仮称する）、北東部に朝所および北面築地に接して曹司（以下、北曹司と仮称する）・厨、南西部に文殿などが展開していたことが窺われる。太政官の規模については『宮城図』には「東西幅五十六丈余、南北幅四十丈」の書き込みがある。

太政官における調査は昭和48年（1973）の古代学協会の調査^{文132}に始まり、その後、保護課などによって調査が実施され、平安時代に属する柱穴ならびに瓦などが検出されている。^{文147-5}昭和52年（1977）以降は当研究所が主体となって調査を実施している。

2 遺構

これまでの調査では太政官の四至のうち、西面・南面築地位置を確定できる築地・溝などを始め、先に示した太政官内諸施設の区画を示す築地・溝、建物を示すと考えられる土壙や柱穴・溝・土壙・瓦溜を検出するなど、多くの調査成果をあげている。

次に各調査の概説を示すが、試掘・立会調査で遺構が未検出の場合は記載していない。各調査地点の層序は概してほぼ同様の状況にあり、層序としてまとめて扱うこととする。調査番号は当研究所で実施した発掘・試掘・立会調査ごとに調査年度順に付した。

(1) 層序 太政官跡区域の基本的な層序を示すと、概して地山上面まで近世以降の土層が堆積しており、平安時代に属する整地土層ないし遺物包含層などの検出例は調査3・8などを除いて少ない。現地表面から平安時代の遺構検出面までの深さは0.6～0.9mある。基盤層である地山はにぶい黄橙色粘土・黄褐色泥砂・暗灰黄色砂泥層など、いわゆる聚楽土の範疇に収まる土層が堆積する。太政官跡の基盤層はこの聚楽土であり、近世以降聚楽土を対象とした土取りが広域にわたって行われたことがこれまでの調査で判明している。

太政官域の現地形は概して北から南へ向かって緩傾斜を呈し、北・南面築地想定地点の標高差は約1.6mある。これまでの太政官域の調査では古墳時代に属する遺構を検出する例があり、調査地点によっては比較的旧地形が遺存していることが窺われる。

(2) 調査 太政官跡では発掘調査9件、試掘調査6件、立会調査14件がある。ただし、試掘調査のうち2件は遺存状況が良好なことから発掘調査に切り替えている。

調査1 (9 文 167-4 図版 49-1) 太政官正庁箇所南東部で実施した発掘調査である。調査では壇状の高まり SX1 を検出した。

高まり SX1 は砂礫を積土し整地したと考えられる遺構である。調査区東部で南北方向を示す東肩口を検出した。肩口は北・南へは調査区外へ延長する。この肩口から西に高い壇状を呈する。砂礫層中には遺物を包含しておらず時期は不明である。

調査2 (29 文 175-3 図版 49-2) 調査1に北接する地点で実施した発掘調査である。この調査でも平安時代に属する明瞭な遺構は検出していないが、高まり SX6 を検出した。

SX6 は東肩口がほぼ南北方向を示しており、上面は固く締まり平坦である。調査1で検出した SX1 に連続する遺構である。SX6 から土師器の細片が出土し、上面が整地土層であることを確認している。

調査3 (33 文 175-4 図版 50) 太政官西面築地および勘解由使該当箇所で実施した発掘調査である。この調査で西面築地・築地内外溝・瓦溜・土壙・落込などを検出した。

この調査では複数の整地土層を検出しており、平安時代前期から中期（平安京Ⅰ期～Ⅱ期）に属する遺物が出土している。

西面築地 SA1 は南北方向を示し、南北は調査区外へ延長する。同築地外溝 SD30 と同内溝 SD10・11 に挟まれた幅約 4.5m の範囲に、明茶褐色粘土ないし淡黄褐色粘土による積土が遺存していた。内溝 SD10・11 は同一の溝であろうが、連続する想定箇所が後述する土壙 SK10 によって削平を受けており未確認である。西肩口は共有する位置にある。南北へは調査区外へ延長する。内溝 SD10 の東肩口に 2 箇所の護岸がある。1 箇所は長径 0.15 ~ 0.5m の凝灰岩 5 個、1 箇所には長径 0.3m 前後の川原石 2 個を配する。内溝 SD11 では数時期の掘り替えを確認した。検出面での規模は内溝 SD10 は幅 0.5 ~ 0.8m、深さ 0.3m、内溝 SD11 は幅約 2.1m、深さ 0.6m ある。外溝 SD30 は南が搅乱によって削平を受け、

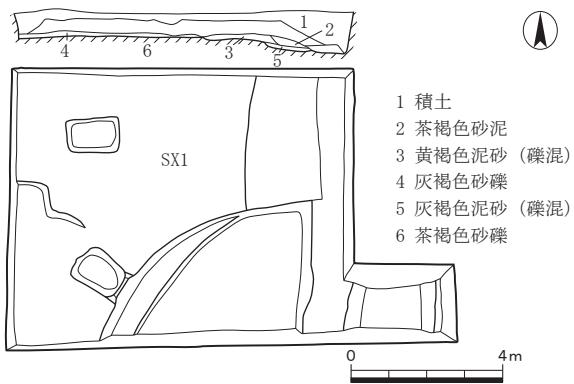


図64 調査1 調査区実測図(1:200)

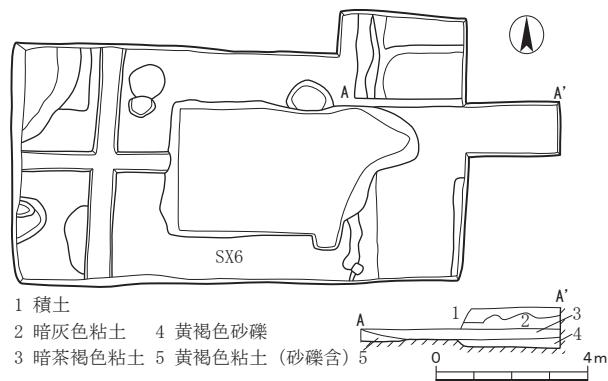


図65 調査2 調査区平面図(1:200)

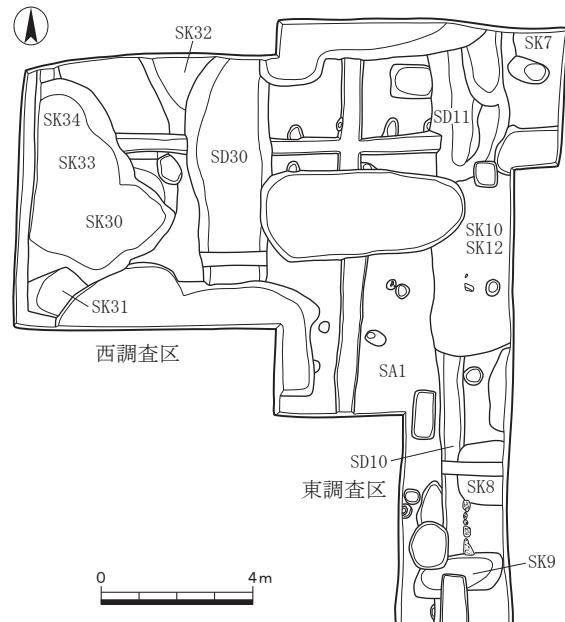


図66 調査3 調査区平面図(1:200)

北へは調査区外へ延長する。検出面での規模は幅1.4～2.2m、深さ0.6mある。なお、外溝SD30底面には流水による堆積土層がみられず、人為的に埋め戻したことが窺われる。内溝SD11からは平安時代前期（平安京Ⅰ期中）に属する遺物が、内溝SD10からも平安時代前期の遺物が出土した。下層のものは平安京Ⅰ期新、上層のものは平安京Ⅱ期古に属する。

内溝SD10・11の上面ならびに東肩口以東には土壙SK10・12と瓦溜SK7～9がある。瓦溜SK9を除いて大半が調査区外にある。土壙SK10・12は上下に重なる土壙で、上部の土壙SK10からは土器類が多量に出土、土壙SK12からは完形に近い須恵器甕が出土した。土壙SK12の検出面での規模は南北長約4.8mある。瓦溜SK7～9からは多量の瓦が出土し、瓦溜めSK9からは土器類もあわせて多量に出土した。瓦溜3基の検出面での規模は現存長1.5～2.0mある。瓦溜めSK7・9、土壙SK10からは平安時代前期から中期（平安京Ⅱ期古～Ⅱ期中）に属する遺物が出土した。また、外溝SD30西肩口以西は太政官・朝堂院間の南北道路となるが、当該位置で平安時代後期に属する複数の瓦溜SK30～34を検出し、道路敷は未検出である。瓦溜SK30～34はいずれも重複し、肩口は調査区外にある。

なお、調査では古墳時代後期に属する溝・土壙などを検出している。

調査4 (78 文183-1 図版51) 太政官中央東部、朝所該当箇所で実施した調査である。調査では溝・土壙・小土壙を検出した。

溝SD5は東西方向を示す溝で、東西へは調査区外へ延長する。北肩口は江戸時代に属する溝で削平を受け、南肩口は調査区外にある。検出面での規模は現存幅2.1m、深さ0.5mある。平安時代中期に属する遺物が出土した。

土壙SK1は南肩口が調査区外にある。平面形が橢円形を呈し、検出面での規模は長径1.2m、深さ0.3mあり、平安時代後期に属する遺物が出土した。土壙SK3は平面形が円形を呈し、検出面での規模は径0.8m、深さ0.3m、瓦片が出土した。小土壙SX2は土壙SK1の西に近接して南北に2基ならぶ。平面形は橢円形を呈し、心々間の距離は約0.7mある。検出面での規模は長径0.3m、深さ0.2m、瓦片が出土した。

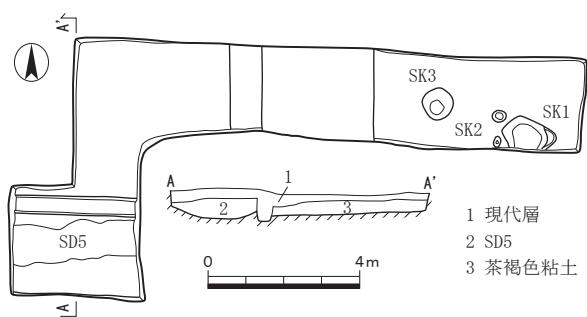


図67 調査4 調査区実測図(1:200)

調査5 (143 文193-2 図版52) 太政官跡北面築地該当箇所で実施した発掘調査である。この調査で落込SX2を検出した。

落込SX2は調査区中央で北肩口を検出、南肩口は調査区外にある。北面築地に使用されたと考えられる多量の瓦を包含するが、土器類は小片で時期は確定できない。検出面での規模は現存幅4.6m、深さ0.7mある。

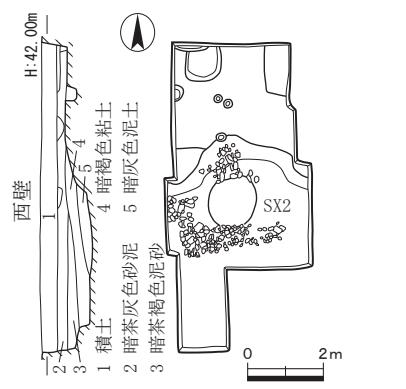


図68 調査5 調査区実測図(1:200)

調査6 (156 付章16) 太政官正庁ならびに文殿該当箇所で実施した発掘調査である。この調査は未報告であり付章16で詳細を参照されたい。

調査7 (260 文214-1) 太政官 - 宮内省間の壬生大路宮内延長路該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では江戸時代に属する大規模な堀によって削平を受けており、平安時代に属する明瞭な遺構は検出できなかった。

調査8 (937 文261-2 図版53) 太政官北面築地ならびに太政官 - 中務省間の春日小路宮内延長路該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では築地・築地外溝・路面・柱穴などを検出した。

路面2は中務省 - 太政官間の東西路に伴う道路敷である。南北は削平を受け東西へは調査区外へ延長する。道路敷は2面あり、厚さ2~5cmある。下面の道路敷上面には白砂を使用した厚さ3cmの化粧が施される。検出範囲は南北約5.7m、東西2.2mあり、平安時代前期(平安京I期中)に属する遺物が出土した。

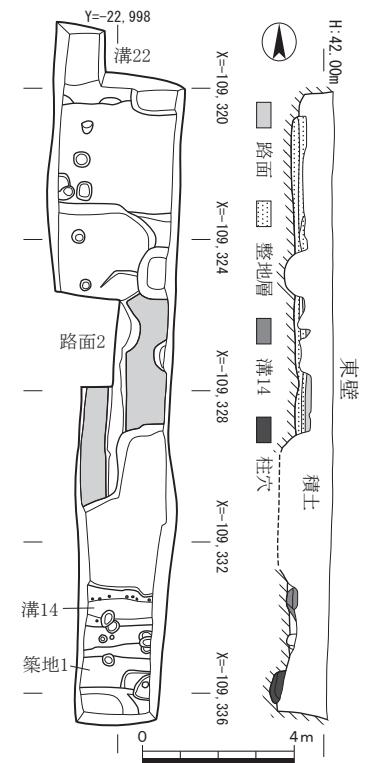


図69 調査8 調査区実測図(1:200)

北面築地想定位置に東西方向を示す築地1、築地北側には溝14があり、東西へは調査区外へ延長する。築地1は南側が搅乱を受けるが、築地上面には柱穴が2基遺存していた。柱穴は北面築地心想定線(X=-109, 336.4)から北へ0.5mと1.7mの地点に位置する。想定線寄りの柱穴は一辺0.8mあり、側溝寄りの柱穴は径0.35mある。

溝14は北面築地外溝と考えられる溝で、北肩口に沿って杭列があるので護岸を施した溝である。検出面での規模は幅0.9m、深さ0.2mある。平安時代前期(平安京I期)に属する遺物が出土した。調査ではこのほか中務省南面築地外溝想定位置で東西方向を示す溝22を検出しており、中務省 - 太政官間の路幅が7丈あることも確認した。

調査9 (925 文261-1 図版54) 太政官北西部、西曹司該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では築地・溝・土壙・柱穴・土壙などを検出した。

築地1は東西方向を示す遺構で、東西へは調査区外へ延長する。築地は版築を伴い、検出面での規模は基底部幅2.5m、上端部で2.2m、周辺との比高差は0.5mある。版築は粘土を主体に砂礫・瓦などを含む。版築上面には長軸0.4m、短軸0.3mの礎石がある。築地版築には修築痕跡があり、上記礎石上面にはこの修築土層は覆う。

築地1を挟む南北で溝59・61・68A・68Bの東西方向を示す4条の溝を検出した。出土遺物から溝61と溝68B、溝59と溝68Aが同時期の溝と捉えられる。溝68Bの検出面での規模は幅1.5~1.9m、深さ0.4mある。溝68Aの検出面での規模は幅1.5m、深さ0.3mある。溝61は調査区東端部でやや南に方向を変える。検出面での規模は幅1.2m、深さ0.3mある。溝59は調査区東端部で直角に南折する。検出面での規模は幅0.6m、深さ0.4mある。溝61と溝68Bおよび築地1

からは平安時代前期、溝 59 と溝 68A からは平安時代中期の遺物が出土した。なお、築地 1(礎石検出地点)は北面築地心から約 36m 南に位置する。

築地 1 の南には土壙 2 がある。土壙 2 は削り出した地山の上面に版築を伴っており、周辺との比高差は約 0.4m ある。土壙上には平面形が円形を呈する柱穴が 4 基あり、検出面での規模は径 0.5m、各々の柱穴間は東西 3.0m、南北 1.5m あり、建物に伴う柱穴と考えられる。土壙 2 の周縁には溝 100 が巡る。溝 100 は土壙北を東西方向に延長し、西面築地想定線から東に約 39m の地点で南折する。建物に伴う雨落溝と考えられる。検出面での規模は幅 0.5m、深さ 0.1m ある。土壙 2 からは平安時代中期に属する遺物が出土した。

その他、土壙 67・75、土壙 92 がある。土壙 67 は溝 61 の上面で検出した平面形が円形を呈する土壙で、東へは調査区外へ広がる。埋土中には炭を含み、平安時代前期に属する多量の土器類が出土した。検出面での規模は現存長 1.9m、深さ 0.45m ある。土壙 75 は北・東へは調査区外に広がり、南は溝 68 によって削平を受ける。検出面での規模は現存長 3.6m、深さ 0.3m ある。多量の炭と瓦および平安時代前期に属する土器類が出土した。瓦溜 92 は西肩口は調査区外へ広がり、検出面での規模は現存長 4.0m、深さ 0.3m ある。

調査 10 (279 文 206) 太政官東面築地該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では整地土層、落込遺構を検出した。

整地土層は調査区北半で検出した。わずかに瓦を敷いた平安時代前期後半に属する土層である。整地土層南端ではほぼ直線的に東西方向へ延長する。落込遺構は整地土層下層で検出した遺構で、瓦を包含する。なお、この調査地点は東面築地内溝該当地点であるが内溝は検出していない。

調査 11 (872 文 254-1 図版 55) 朝所該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では溝・溝状遺構・土壙・落込遺構など検出した。

溝ないし溝状遺構は 4 条あり、各遺構とも東西へは調査区外へ延長する。溝 SD50 は検出面での規模は幅約 1.0m、深さ 0.6m ある。溝 SD50 の南で検出した溝 SD67 は、北肩口は溝 SD50 によって削平を受ける。検出面での規模は現存幅 0.8m、深さ 0.4m ある。溝 SD67 の南に位置する

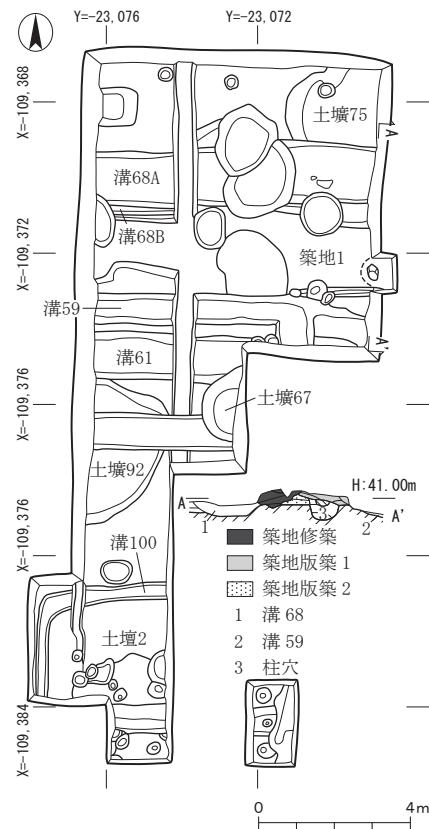


図70 調査9 調査区実測図(1:200)

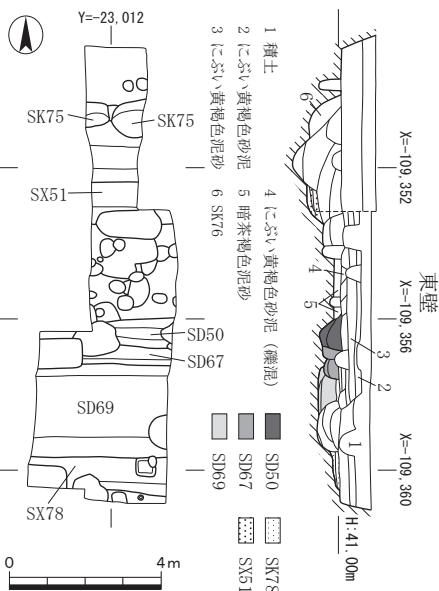


図71 調査11 調査区実測図(1:200)

溝 SD69 は北肩口が溝 SD67 により削平を受ける。検出面での規模は現存幅 2.45m、深さ 0.5m ある。平安時代前期（平安京 I 期）に属する遺物を包含する。溝状遺構 SX51 は溝 SD50 から北へ約 2.5m に位置する遺構で、北肩口は中世の遺構である溝 SD77 によって削平を受ける。検出面での規模は現存幅約 1.1m、深さ 0.3m あり、平安時代前期（平安京 I 期新）に属する遺物が出土した。SX51 と SD69 は出土遺物から同時期の遺構と考えられる。SX51 と SD69 間には整地土層がある。

土壙には土壙 SK75・76 がある。それぞれ南肩口は溝 SD77 によって削平を受け、一方の肩口は調査区外へ広がる。検出面での規模は現存東西長 0.6～0.9m、深さ約 0.5m ある。

調査 12 (81 付章 32) 朝堂院・太政官・中務省跡に該当する地域の道路上で実施した立会調査である。この調査は未報告であり、調査経過などは付章 32 を参照されたい。この調査では太政官跡北・西面築地に伴う遺構を始め、^{註1}溝・土壙・柱穴などを検出している。

北面築地に伴うと考えられる溝は丸太町通から二筋南の道路上で検出した。88・92・97 地点で検出した溝は北面築地内溝、85・93 地点の溝は同外溝に該当する。このうち、85 地点の溝は当該地点で南折し西面築地外溝に連続すると考えられる。検出面での規模は幅 2.0～2.3m ある。

西面築地に伴うと考えられる溝は土屋町通と各東西道路が交差する地点の道路上で検出した。61・62・69 地点で検出した溝は外溝、59・71 地点の溝は内溝と考えられる。各溝の検出幅は 3.0～5.0m と大規模であるが、各時期の複数の溝を含んでいる可能性もある。

朝所に伴うと考えられる遺構は丸太町通から二筋南の道路上で検出した。西面築地心から東へ約 88m の 100 地点で南北方向を示す溝を検出しており、朝所の西面を区画する施設の可能性がある。また、平安時代前期や中期に属する土器類を含む土壙を複数検出している。これらの土壙には炭を多量に包含しており、朝所北に付属したとされる厨跡を示す遺構の可能性があろう。また、丸太町通から三筋南の道路上の 79 地点で検出した溝は、調査 4 の東西方向を示す溝の西延長部にあたり、朝所跡南面区画施設に伴う溝と考えられる。

文殿に伴うと考えられる遺構は、丸太町通から四筋南の道路上で検出した。20・21 地点で南北溝を検出しており、西面築地から東へ溝心で約 33m・39m に位置する。溝間に文殿跡東面区画施設が通る可能性がある。

このほか、柱穴など建物を示すと考えられる遺構を複数箇所で検出した。丸太町通から三筋南の道路上では柱穴および基壇と考えられる遺構を検出した。北接する調査 9 では土壙や柱穴を検出しており、西曹司の建物に伴う遺構の可能性がある。また、丸太町通から三筋南の道路上の文殿跡該当地域でも複数の地点で柱穴を検出した。

なお、浄福寺通の丸太町通から二、三筋南の道路上では瓦溜や土壙などを検出しているが、これらは太政官正庁の周辺に展開している。

調査 13 (399 文 215) 太政官南西部、西面築地外該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下 0.7m で平安時代に属する遺物包含層を検出した。

調査 14 (466 文 223) 朝所北東隅部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下 0.6m 以下で土壙状遺構を 2 基検出した。平安時代前期に属する瓦片が出土している。

表4 調査12 主要遺構検出地点（地点番号は図版14と対応する）

地点番号	遺構	調査内容	該当箇所	検出深（m）
13	溝	東肩口を検出。幅0.5m、瓦多い	西面築地外溝	0.5～1.0
16	柱穴	幅0.7m	文殿	0.43～0.9
17	柱穴	幅1.05m、柱穴16-柱穴17心々間は3.8m	文殿	0.33～1.0
18	柱穴	柱穴17-柱穴18心々間は3.3m	文殿	0.35～
19	溝？	幅2.5m、柱穴17に切られる	文殿	0.33～0.7
20	溝	南北方向？幅4.5m、瓦含む	文殿東区画	0.33～0.95
21	溝	南北方向？幅2.0m、凝灰岩含む、溝20・21で対？	文殿東区画	0.4～0.93
22	土壙	幅1.3m	太政官正庁	0.4～0.93
23	土壙	幅3.3m、瓦含む	太政官正庁	0.45～1.08
24	土壙	幅2.4m、瓦含む、あるいは井戸か	太政官正庁	0.63～1.6以上
25	瓦溜	僅か	太政官正庁	
26	整地層	幅約3.5m	太政官正庁	0.3～0.8
27	整地層	幅約4.5m	太政官正庁	0.15～0.4
28	整地層	幅約2m、整地層27と一連の整地層か	太政官正庁	0.4～0.77
29	瓦溜	幅3m瓦多量、整地層28に連続する遺構か	太政官正庁	0.22～0.8
30	瓦溜	幅7mまで一連の遺構	太政官北半	0.22～
31	溝	幅4.0m	太政官北半	0.32～0.85
32	柱穴？	幅1m	太政官北半	0.38～0.87
33	瓦溜	幅6m	太政官北半	0.38～1.18
34	溝	東西方向、溝88・92に連続	北面築地内溝	
43	溝	幅2m、溝99を切る	北面築地外溝	0.4～0.95
49	溝	幅7m、整地？土器、凝灰岩含む、土壙30と一連か、平安時代中期	西曹司	0.15～1.1
50	基壇	周囲より0.25m高い	西曹司	0.3前後
51	柱穴	幅0.5m	西曹司	0.4～0.8
52	柱穴	幅0.8m、柱穴51-52心々間0.95m	西曹司	0.4～0.8
53	柱穴	幅0.9m	西曹司	0.3～0.8
54	柱穴	幅0.5m以上	西曹司	0.3～0.85
55	柱穴	幅0.9m	西曹司	0.35～1.03
56	柱穴	幅0.9m	西曹司	0.35～0.85
57	溝	南北方向？幅1.7m、溝58に切られる	西曹司	1.0～1.3
58	溝	東西方向	西曹司	0.5～1.1
59	溝	南北方向？幅4.1m	西面築地内溝	0.5～1.2
60	土壙	幅5.0m、瓦含む、溝62を切る	西面整地外	0.53～1.3
61	溝	南北方向？幅5m、土師器・瓦含む、溝62を切る	西面築地外溝	0.55～1.1
62	溝	南北方向？溝60・61に切られる	西面築地外溝	0.55～1.1
69	溝	南北方向？幅4.8m	西面築地外溝	0.5～1.2
70	柱穴	幅1.2m	西面築地中央	0.5～1.2
71	柱穴	幅3m	西面築地内溝	0.5～1.2
73	整地層	道路北寄りに築地か	朝所	
79	溝	南肩口を検出、瓦多量	朝所	0.58～0.7以上
84	溝	東肩口を検出、幅2m以上	西面築地外溝	0.7～1.0
85	溝	幅7.6m、土師器・瓦含む、南折点のため幅広に検出	北西隅	0.7～1.2
86	溝	幅10.5m、溝85に切られる	北西隅	0.7～1.1
87	土壙	西肩口を検出、幅3m以上	北西隅	0.7～1.3
88	溝	東西方向、幅12m、2時期あるか、溝34・92に連続	北面築地内溝	0.7～1.4以上
89	土壙	幅4.1m、炭・土師器多量に含む、平安時代前・中期	北曹司・厨	0.9～1.35
90	土壙	抜取跡か、凝灰岩破片が幅0.18m遺存、下面に褐色粘土	北曹司・厨	0.71
91	土壙	幅5m、上面に炭・土師器多量に含む、平安時代中期	北曹司・厨	0.9～1.35
92	溝	幅2.3m以上、瓦・凝灰岩含む、溝88に連続か	北面築地内溝	0.75～1以上
94	土壙	幅5m、上面に炭・土師器多量に含む、平安時代中期	北曹司・正庁区画	0.9～1.35
95	土壙	土壙？	北曹司・正庁区画	0.8～1.1以上
96	溝	溝84がここで東に方向を変える？	築地北西隅	0.65～0.95以上
97	溝	溝88・92に連続	北面築地内溝	
98	溝	南北方向	北面築地内	～1.0
100	溝	幅は不明、南あるいは北折する、瓦多量、平安時代後期	正庁区画	0.7～1.0
101	整地層	整地土層、南へ下る	北曹司・正庁区画	0.7～1.2

調査15 (770 文251) 太政官北面築地該当箇所で実施した立会調査で、築地外溝が想定できた。この調査では現地表下0.97mで東西溝を3条検出した。時期は不明である。

調査16 (821 文254) 太政官北面築地該当箇所で実施した立会調査で、築地外溝が想定できた。この調査では現地表下0.55mで平安時代中期に属する落込遺構を検出した。

調査17 (1145 文269) 太政官中央部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下0.35mで南北方向を示す溝状遺構を検出した。溝状遺構には凝灰岩が多量に混入する。

調査18 (1237 文281) 太政官南面築地該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下1.7mで平安時代に属する遺物包含層を検出した。

3 遺物

太政官跡で出土した遺物の内容は瓦類が大半を占め、土器類は少ない。瓦が多量に出土する傾向はこれまでの調査が太政官四至ならびに内部の区画施設に近接することや調査6のように太政官正庁に近接する調査例があり、築地や正庁所用瓦が溝・土壙・瓦溜などに投棄されたことによると考えられる。瓦類は平安時代前期から後期に属するものが出土しており、中には難波宮から長岡宮に至る諸宮からの搬入瓦が多数含まれる。瓦類には丸・平瓦・軒丸・軒平瓦、鬼瓦、鷲尾

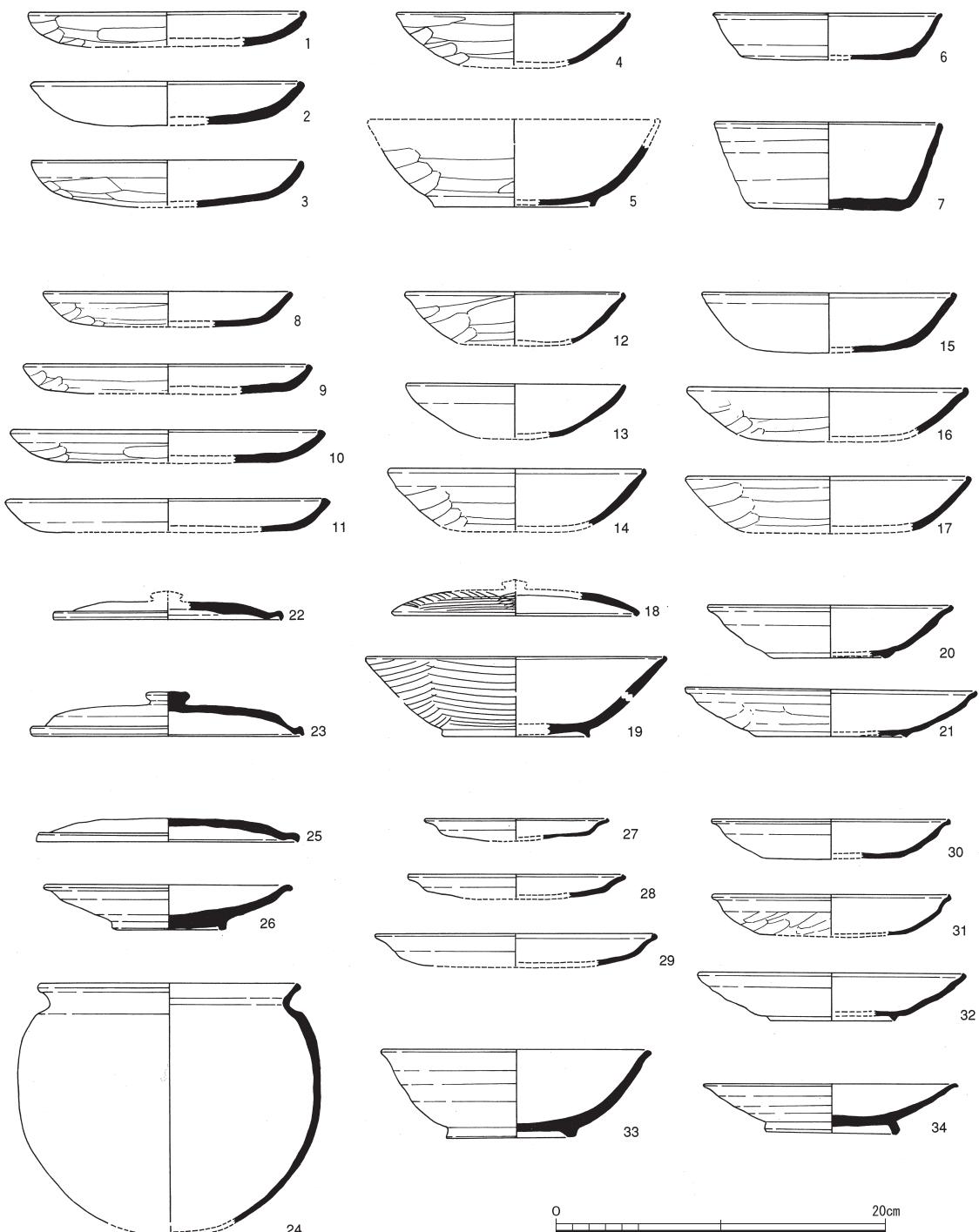


図72 調査3 出土土器 (SD11 1～6 土師器 7 須恵器、SD10 8～21 土師器 22・23 須恵器、SK9 24 土師器 25 須恵器 26 緑釉陶器、SK10 27～32 土師器 33 緑釉陶器 34 灰釉陶器) (1:4)

および甕などがある。また、調査 9 では緑釉平瓦が出土しているが、平安時代の緑釉平瓦の確実な検出例はなく、平城宮東院で使用された瓦が搬入されたものであろう。

土器類について示せば、平安時代前期から後期（平安京 I 期中～IV 期中）に属する遺物が出土している。時代による土器類の出土傾向を示すと、平安京 I ・ II 期に属する土器類が多数を占め、平安京 II 期新以降の土器類は乏しい。調査 3 では各遺構および遺物包含層などから比較的豊富に土器類が出土しているので、参考として主要遺構出土土器を示しておく。

4 小結

太政官については「宮城図」や文献史料などから、占地あるいは太政官内における諸施設などについておおよそながら把握できるが、建物配置および各施設の変遷などについては不詳である。検出した遺構には区画を示すものや建物を示す柱穴などが複数あり、調査成果を基に太政官の四至・太政官内の区画施設などの復原ならびに位置付けを行うこととする。

(1) 太政官の四至 太政官四至に関する丈数としては、陽明文庫本「宮城図」には太政官東西幅として「五十六丈余」の書き込みがある。九条家本「宮城図」には東西幅を直接示す丈数記載はないが、中央東官衙を含めて中務省北端に「五十六丈余」の書き込みがある。東・西面築地は中務省同様、壬生大路の宮内延長路西築地および朝堂院 - 太政官間の路幅「九丈」の宮内路東築地に相当することから、東西幅は 56 丈余と捉えることができる。南北幅は陽明文庫本では太政官内の朝所占地に該当する箇所に「三十丈」、九条家本には太政官東端に「四十丈」の書き込みがある。太政官北面築地は春日小路の宮内延長路南築地、同南面築地は大炊御門大路の宮内延長路北築地と同一線上にあるものと考えられ、太政官南北幅は 40 丈として捉えることはできる。以上の丈数を手掛かりに太政官四至に関わると考えられる遺構について概要を示す。

まず、西面築地については調査 3 で築地ならびに内外溝を一括して検出することができ、築地・犬行を含む内外溝間は 4.2 ~ 4.5m あることが判明し、西面築地の中心位置を確定することができた。調査 12 の成果はこの調査 3 を補強する資料として重要である。これらの調査成果から太政官西面築地は中務省や民部省の西面築地と同一線上にあることが判明した。

北面築地については調査 8 で築地外溝を検出し、築地・犬行を含めた築地北半幅が 2.1m あり、西面築地と同規模であることが判明した。さらに、北面築地は春日小路宮内延長路南築地と同じ位置にあることについても確定できた。

東面築地を示す遺構は未検出であるが、壬生大路の宮内延長路西築地想定線に位置することは「宮城図」および中務省東面築地検出例などから想定できる。また、西面築地が中務省西面築地と同位置にあることが判明していることからも、太政官東西幅は中務省東西幅と同一であると考えられる。したがって、東面築地は壬生大路宮内延長路西築地の想定線上にあると捉えておく。

南面築地を示す遺構も未検出であるが、検出した遺構から北面築地が春日小路の宮内延長路南築地位置にあること、太政官南北幅は 40 丈と想定できることから、同築地は大炊御門大路宮内延長路の北築地想定線上にあると捉えておく。

以上のことから、太政官東・西面築地心々幅は約 57 丈、同南・北面築地心々幅は約 40 丈に復

原でき、中央官衙東部に展開する中務省・太政官・民部省の各官衙東西幅は同一規模を有することが判る。

(2) 太政官内の区画施設 太政官内の構成については先に示したように太政官正庁域を始めとして複数の施設があったことが知られ、陽明文庫本・九条家本「宮城図」とも北西部に勘解由使、南西部に文殿、北東部に朝所、中央に太政官正庁を配し、中央北端の勘解由使 - 朝所間には空白であるが区画された空間が示されている。ただし、勘解由使・朝所の南端を示す墨線は陽明文庫本と九条家本では記載が異なる。陽明文庫本では両者の南端は同一線で示され、九条家本では先に示した空白区画と朝所の南端が同一線で示されており、勘解由使は朝所の占地より南へ張り出して示されている。

ここでは「宮城図」に従って太政官内北東部を朝所（北曹司・厨）、北西部を勘解由使、西曹司、南西部を文殿として概括し、検出した遺構から太政官内における各施設の区画について考察する。

朝所 朝所については『大内裏図考証』卷第二十之下に考定された占地図が記載されている。それによれば、曹司を含めた朝所の占地は「南北二十丈、東西十六丈」とされ、区画内の北を弁官曹司ならびに厨地に比定し、南北幅九丈、南を朝所に比定し南北幅十一丈の占地を示している。

調査4で検出した溝SD05は規模から区画施設に伴う溝と捉えることができる。調査区内ではこれ以外には区画施設に付属する遺構はないので、築地など区画施設は溝SD05の南に位置すると考えられ、朝所と太政官正庁域を限る区画施設の朝所側内溝に想定できる可能性は高い。この溝SD05の南肩口は北面築地心から南に約54.0m(18丈)あることから、築地など区画施設の位置^{註2}は、北面築地から19丈を前後する範囲に限定できると考えられる。なお、溝SD05は平安時代中期に属する遺構であるが、調査では溝SD05以外に溝は検出していない。

調査11で検出した溝状遺構SD69についても規模から区画施設に伴う溝と捉えることは妥当ではある。溝状遺構SD69-SX51間に区画施設を想定すれば北面築地から南に6.5丈、溝状遺構SD69の南に区画施設を想定し、犬行・築地基底幅を考慮すれば、北面築地から南に8.5丈に位置することになる。^{註3}

なお、調査12では太政官北面築地より南、調査11以北の地域で複数の土壙を検出しているが、89・91地点の土壙には土器類と共に炭を多量に包含しており、当該地域に想定されている厨跡を傍証する資料ではなかろうか。

朝所の東西幅を示す明確な遺構は未検出であり、『大内裏図考証』で考定された東西幅16丈に該当する地点に前後する地域では調査を実施していない。その中で、調査12で検出した100地点の溝は平安時代後期に属する溝で、検出地点で北か南へ方向を変えるため、何らかの施設に伴う溝と考えられる。検出地点は西面築地からおよそ30丈を前後する位置にあたる。調査11の複数の溝が朝所に付属する施設であるとするならば、100地点の溝は朝所西面区画施設が想定可能であろうし、調査11の複数の溝が太政官正庁域における何らかの施設に伴う遺構であるならば、勘解由使に東接する西曹司に伴う東面区画施設とも想定できる。^{註4}しかし、これ以外の考古資料を持たないため、周辺での今後の調査成果を待たなければならない。^{註5}

文殿 文殿に該当する地域の調査では、調査 6 で東西方向の溝、調査 12 で南北方向の溝を検出した。まず、調査 6 の溝 6 は北面築地心から南へ約 75m に位置する。この溝が文殿北を区画する施設に伴う溝であると捉えることは妥当であろう。他に溝は検出してないので、文殿北面区画施設は溝 6 の北側に位置することが考えられる。したがって、溝 6 は文殿北面施設の内溝と想定し、文殿南北幅は 16 丈を前後する地点を目安に考えたい。また、調査 12 の 20・21 地点で検出した溝間は西面築地心から約 36m^{註6} あり、文殿東西幅は 12 丈と捉えることができる。

曹司 太政官内には先述した北曹司以外に、勘解由使の東に曹司があったとされる。西曹司空間の占地についてはこれまでまったく不明であったが、調査 9 で検出した東西方向を示す築地跡によって、一つの区画施設が想定可能である。調査 9 で検出した築地 1 は北面築地から南へ 12 丈に位置しており、仮に西曹司内に複数の曹司が存在したと仮定すれば、この築地跡をもって西曹司区域を南北に区分する築地を捉えることができる。^{註7} また、築地跡南側で建物跡と考えられる土壇ならびに柱穴などを検出しており、この建物跡を西曹司に伴う建物とすれば、当該地区に曹司区画が 2 区画あることになろう。^{註8} 建物は占地を考慮すれば東西棟建物が想定できる。

なお、調査 9 で検出した築地上の礎石ならびに溝 59 が南折することから、当該地点に門を想定できる可能性があることを示しておく。

勘解由使 調査 3 で検出した内溝 SD11 は朝堂院東門である宣政門におおよそ東対する位置で溝幅が狭まり内溝 SD10 となる。この規模の縮小と護岸を伴う状況は当該位置において溝を暗渠状にする必要性があったことを示している。想定できる施設としては西面築地に直交する築地などがあろう。^{註10} これ以外に、勘解由使に伴う区画施設を確定できる遺構は未検出である。

以上、太政官四至を始め、朝所・文殿・曹司などの占地を示すと考えられる遺構を検出することができた。また、西曹司想定地域では土壇ならびに柱穴などを検出しており、当該地に建物が展開するであろうことを明らかにした。今後さらに調査・研究を進めることによって太政官の変遷や消長についても追及できるものと考えている。

なお、憶測を恐れずに右に復原模式図を示しておく。この復原模式図は陽明文庫本「宮城図」に記載された太政官の区画を基本に、調査成果を踏まえて模式的に示したものである。したがって、図上で時期的変遷は考慮しておらず、「宮城図」と検出遺構とは幾つかの齟齬を生じる箇所があるが、今後の検討課題としたい。

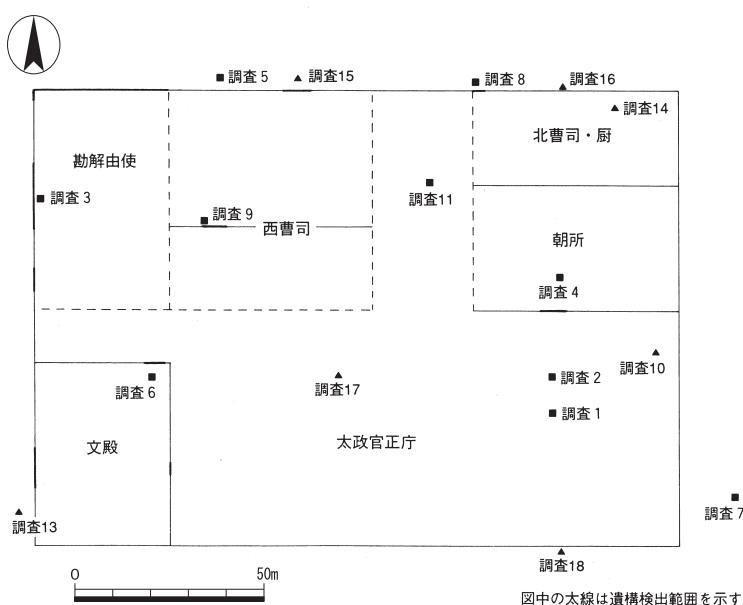


図 73 太政官復原模式図 (1:2,000)

註

- 註 1 調査 12 で検出した遺構の番号は便宜的に遺構検出地点番号を付して表している。
- 註 2 朝所の占地については、朝所正殿が 5 間 4 面の南北棟建物であるところから、仮に柱間を 10 尺に取れば建物の南北長は 20m を越えるので、これを納めるべき空間の南北幅は少なくとも 30m(10 丈) は要する。また、太政官正庁域には正庁と共に東西庁およびそれに通じる廊があり、それらの規模や配置を想定すれば、朝所南北幅は 20 丈を越えることはないと考えている。
- 註 3 溝状遺構 SD69 が区画施設に伴う溝であれば、溝状遺構 SK51 は曹司内の建物に伴う溝の可能性はある。しかし、後述するように、太政官正庁域や朝所の想定占地を考慮すると当該地に区画施設を想定することは困難である。この調査 11 で検出した複数の溝の帰属については今後の調査を待ちたい。
- 註 4 この場合、朝所東西幅は 270 尺を前後する数値が与えられる。
- 註 5 「宮城図」の太政官占地を概観すると、正庁域は西の文殿東西幅を除いた地域にあり、南・北門は東西中心に描かれていると読み取れる。その場合、太政官東西幅 57 丈から後述する文殿東西幅 12 丈を引いた 45 丈が正庁域の東西幅になろう。また、朝所 - 西曹司間には東西 7 間の太政官北後房〔『外記』治暦 4 年(1068) 条〕が後年に造作されるが、その東西幅は少なくとも 7 ~ 9 丈を要する。正庁域中央部にその幅を確保する場合ならば、朝所の東西幅は 18 ~ 19 丈となろう。
- 註 6 文殿敷地内には 5 間の規模を有する瓦葺きの建物が 2 棟あり、(『延喜式』太政官)、累代の文書が納められていたことが知られる。〔『百鍊抄』嘉禄 2 年(1226) 条〕。上記建物を配置し一定の空間を確保するためには東西 12 丈・南北 16 丈程度の占地は必要と考えられる。
- 註 7 西曹司と仮称した区域には文献史料ではいくつかの曹司があつたことが知られる。『北山抄』列見条・『御堂閑白記』寛弘 2 年(1005) 条・『左經記』長元 4 年(1031) 条など
- 註 8 『外記』治暦 4 年(1068) 条の太政官北後房の記述に北後房の東は朝所西簷に、西は西曹司の東簷に通じるとされ、これによれば太政官北後房の位置は確定できないものの先の朝所がほぼ動かないとすれば、西曹司も朝所と東西の軸から外れることはなく、築地 1 の南が西曹司の占地と想定できよう。仮にこの占地を西曹司とすれば占地南北幅はまったく不明であるが、朝所南築地と同様の位置を東西に延長すればおよそ 7 丈程度が考えられる。
- 註 9 建物に伴う土壇は平安時代中期とされ、調査 7 では平安時代前期に遡る建物は検出していない。したがって、造営時に複数の曹司区画が存在したか否かについては考古資料からは言及できない。
- 註 10 「平安宮の復元」『平安宮提要』(文 302) ではこの施設と調査 8 の築地施設をもって勘解由使南面区画施設と想定する復原図が示されている。遺構の検出状況から妥当な想定と考えられるが、勘解由使の占地が東西方向を示す「宮城図」は知らない。ただし、造営時の西曹司が南北幅 12 丈で東西方向に太政官西面築地まで占地していたことは想定でき、ほどなく西曹司西部を割いて勘解由使を置いた可能性はあるかもしれない。その場合ならば、この東西に長い占地は勘解由使ではなく西曹司である。勘解由使が当該地に置かれた時期についてはよく判らないので、勘解由使ならびに西曹司の変遷についての手懸りは今後の調査を待たなければならないと考えている。

2 中務省跡

1 中務省跡の概要

中務省跡は千本丸太町交差点の南東部に位置し、近年、丸太町通に面して各宅地単位による木造建築から高層建築への開発が断続的に実施されている。したがって、これまでに実施した調査地点は中務省跡の北半に集中しており、中務省正庁域や陰陽寮域における調査は少ない。

中務省は朝堂院の東、内裏の南に位置する官衙である。天皇に近侍し秘書的な役割を持ち、詔書を起草することを始めとして、叙位や位記に関する事、戸籍名簿の保管、国史の監修、鈴鑰の管理および内廷機能の維持を職掌としたが、太政官の被官的な立場にあり、かつ嵯峨天皇以降、内裏に蔵人所が置かれたことを契機として、その後の律令体制の弛緩と共に形骸化して行ったようである。

陽明文庫本「宮城図」・九条家本『延喜式』所収「宮城図」あるいは『大内裏図考証』などから、中務省内は職掌によるいくつかの区画に分かれ、中務省正庁域、陰陽寮、内舎人、監物、鈴鑰などが配置されていたことを窺い知ることができる。また、中務省の規模については「宮城図」に「五十六丈余、卅七丈余」の丈数が記されている。しかし、中務省の正庁域などの占地ならびに建物配置およびそれらの変遷などについての手懸りは少ない。

中務省跡の調査は昭和40年(1965)の古代学協会による発掘調査に始まる。この調査では南北方向を示す溝が検出され、溝内からは多量の瓦が出土した。この調査によって遺跡の遺存状況は良好であることが示され、中務省跡におけるその後の調査に明るい見通しを付けた。^{註1}昭和53年(1978)以降は当研究所が主体となって調査を実施している。

2 遺構

当研究所が実施した中務省跡における調査は、1978年の調査1を始めとして平成6年(1994)12月までに発掘調査20件、試掘調査7件、立会調査11件にのぼる。これらの調査から中務省跡の遺存状況は平安宮跡の諸官衙のなかでは概して良好であることが判明しており、これまでの調査研究成果を通じて、中務省四至、省内の区画、各区画内の建物の規模や配置など具体的な状況が明らかになりつつある。^{文294・302}

中務省跡域の現地形は想定域北西部が標高44.6mあり、同南東部が標高42.3mともっとも低く、南東に向かって緩傾斜を呈する。また、中務省跡南半では平安宮造営前の遺構は未検出であるが、中務省跡北半では古墳時代後期に属する遺構を複数の調査地点で検出していることから、旧地形を保っていることが判る。

(1) 層序 中務省内における各調査地点の層序についてはそれぞれ異なるものの、総じて丸太町通南歩道を境に北側の調査地点では、現地表面から0.4~1.2mで地山に達する。地山はいわゆる聚楽土と呼称される土層で、中務省跡の調査では褐色から黄褐色の砂泥ないし粘土層を確認している。地山上面には大半の調査地点で平安時代前期から後期に属する複数の整地土層や遺物包含層が堆積している。また、整地土層や遺物包含層の上面に中世に属する耕作土層の堆積する調査地点もある。

丸太町通南歩道以南の各調査地点では、現地表面から0.6～1.4mで地山に達し、地山の比高差を北側と比較すると地山の低位傾向が窺われる。また、当該地域においても北半に比べると検出例は少ないが、地山上面に平安時代前期から中期に属する整地土層や中世の耕作土層の遺存する調査地点がある。当該地域では平安時代以前の遺構は検出していない。

(2) 調査 次に調査概要を示すが、当研究所で実施した各調査については発掘・試掘・立会調査ごとに調査年度順に記した。ただし、試掘・立会調査のうち、平安時代の遺構を未検出の調査については記載していない。

調査1 (24 文175-5 図版56-1) 中務省中央西部、正庁域北端該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では土壌を検出した。

土壌SK1・2とも大半は調査区外にある。検出面での規模は土壌SK1が現存長5.2m、土壌SK2は現存長1.5mある。土壌SK1から平安時代前期(平安京I期新)に属する土器類が多量に出土した。

調査2 (25 文175-1 図版56-2) 中務省北端中央域、監物該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では溝・建物および上下2層の整地土層などを検出した。

下層の整地土層上面で、建物SB2に伴う礎石据付穴と考えられる遺構を4基検出した。据付穴内には凝灰岩などが複数含まれる。据付穴の検出面での規模は径0.5～0.8mある。柱間寸法は東西3.9m(13尺)・南北6.6m(22尺)ある。この建物SB2は後述する溝SD1～3などの検出位置を考慮すると、建物が南北へ展開することではなく、東西棟であると考えている。検出した層位から想定すると、平安時代前期に属する建物であろう。この建物は建物7として復原している。

建物SB2の北柱筋から北へ約1.2mで溝SD1とSX1、および南へ1.8mで溝SD2とSD3を検出した。このうち、SX1と溝SD2・3は検出地点で南北へ方向を変えている。溝SD1とSX1の北肩口は調査区外にある。検出面での規模は溝SD1幅約3.7m、深さ約0.15m、溝SX1は現存幅約3.0m、深さ約0.4～0.5mある。溝SD2は現存幅約2.0m、深さ約0.2m、溝SD3は現存幅約1.2～2.4m、深さ約0.3mある。平安時代前期に属する。

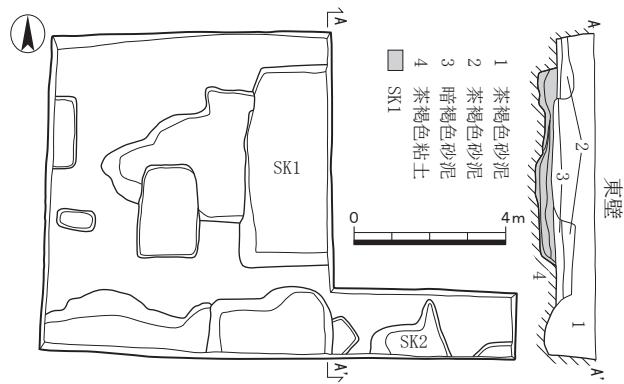


図74 調査1 調査区実測図(1:200)

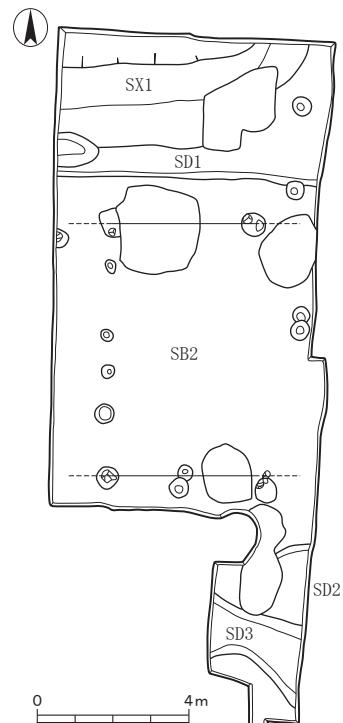


図75 調査2 調査区平面図(1:200)

調査3 (37 文 183-4 図版 57) 中務省跡
北端、内舎人該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では掘立柱建物、基壇を伴う礎石建物および溝状遺構などを検出した。

掘立柱建物は東西棟建物で、南面に庇が付く。身舎の柱穴は平面形が方形を呈し、検出面での規模は一辺 0.8 ~ 1.1m、深さ約 0.5m ある。庇の柱穴は身舎の柱穴より小規模で、検出面での規模は一辺 0.7 ~ 0.8m、深さ約 0.4m ある。柱間寸法は桁行 1 間 2.7m(9 尺)・梁行 1 間 2.4m(8 尺)・庇の出は 3.3m(11 尺) ある。平安時代前期（平安京 I 期）に属する遺物が出土した。この建物は建物 1 として復原している。

礎石建物は東西棟建物であり基壇を伴う。基壇は地山を削り出しており、調査区内で基壇西縁を検出した。検出面での基壇南北幅は約

8.5m、基壇上面と周辺との比高差は 0.3 ~ 0.4m ある。基壇南西部には基壇周縁を巡る雨落溝が一部遺存しており、検出面での規模は幅 0.2m ある。基壇上面で礎石据付穴を 3 基検出した。平面形は円形か歪な橢円形を呈し、検出面での規模は径 1.1m ~ 1.3m、深さ約 0.3m ある。据付穴には長径 0.3 ~ 0.4m の川原石が複数用いられる。身舎の柱間寸法は桁行・梁行とも 1 間 3.3m(11 尺) ある。建物の柱筋は座標北に対して東偏する。平安時代中期に属する遺物が出土しており、基壇周辺からは平安時代後期に属する遺物が出土している。この建物は建物 8 として復原している。

溝状遺構は検出地点から北面築地内溝の一部と考えられる。北肩口は調査区外にあるが、検出面での規模は現存幅約 2.1m、深さ約 1.5m ある。平安時代前期（平安京 I 期中）に属する遺物が出土した。

調査4 (119 付章 15) 中務省跡北端、内舎人該当箇所で実施した発掘調査である。この調査ではこれまで未報告であり、付章 15 で詳細を参照されたい。

調査5 (133 文 193-3 図版 58-1) 中務省跡北端、内舎人該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では建物、溝、土壙などを検出した。

建物 SB1 とした柱列は建物 1 に伴うもので、調査で 5 基の柱穴を検出しており、建物 1 西妻部が確定できた。柱穴は平面形が方形を呈し、検出面での規模は一辺 0.6 ~ 0.9m、深さ 0.2 ~ 0.4m ある。

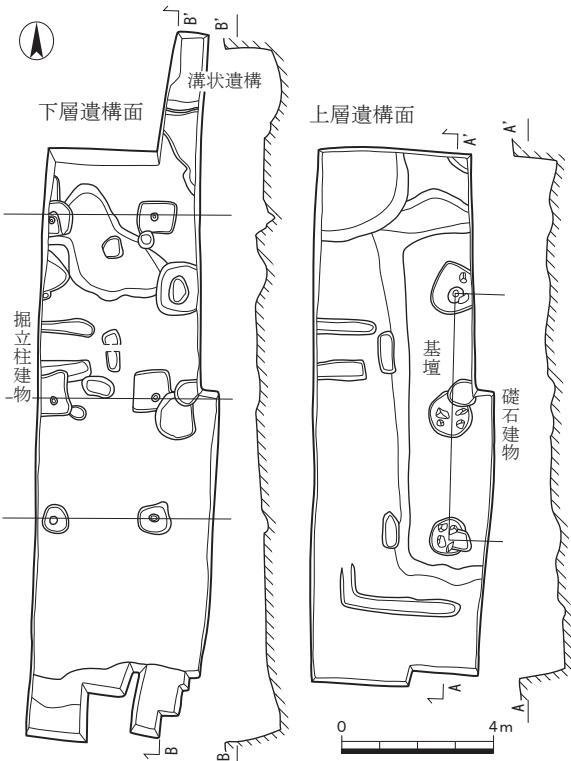


図76 調査3 調査区実測図(1:200)

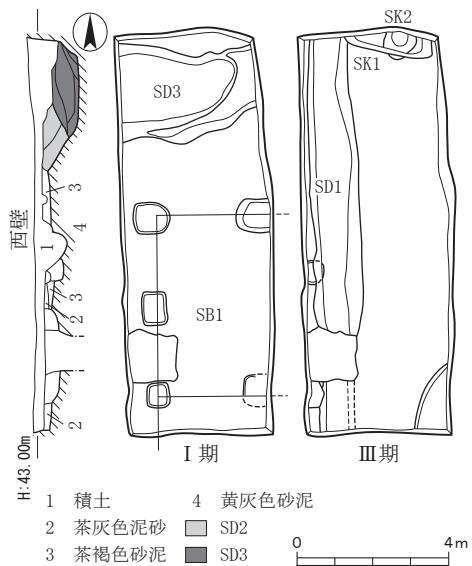


図77 調査5 調査区実測図(1:200)

溝 SD3 は検出地点から北面築地内溝と考えられる。北肩口は調査区外にあり検出面での規模は現存幅 1.6 ~ 2.7m、深さ 0.25 ~ 0.8m ある。この溝 SD3 は土層観察からほぼ同一の土層によって埋め戻されたことを確認している。平安時代前期（平安京 I 期中）に属する土器・瓦類と共に「口省」墨書き器や緑釉单彩陶器火舎が出土した。この溝 SD3 の上面で溝 SD2 を検出しているが、溝 SD3 の窪みに堆積した土層の可能性がある。SD1 は南北方向を示す溝で、南・北とも調査区外へ延長する。北へは北面築地内溝である溝 SD3 を越えて延長しており、少なくとも北面築地外溝におよぶと考えられる。検出面での規模は幅 1.0 ~ 1.3m、深さ 0.35m ある。平安時代前期（平安京 II 期古）に属する遺物が出土した。

調査 6 (235 付章 18) 中務省跡北半、丸太町通で実施した発掘調査である。内舍人・監物・鈴鑰該当箇所に調査区を設定した。この調査は未報告であり、付章 18 で詳細を参照されたい。

調査 7 (369 文 216-1 図版 58-2) 中務省跡中央、正庁域北端に該当する箇所で実施した発掘調査である。この調査では溝を検出した。

溝 SD1 は東西方向を示し、調査区外東西に延長する。検出面での規模は幅約 3.5m、深さ 0.35m ある。北肩口に比べ南肩口が低い。溝底面には完形に近い丸・平瓦が遺存していた。土器類から溝 SD1 の埋没年代は平安時代中期（平安京 III 期）頃と推定できる。

調査 8 (750 文 252-1 図版 59) 中務省跡中央西部、正庁域北端に該当する箇所で実施した発掘調査である。この調査では溝、土壙、柱穴などを検出した。

土壙 SK12・16・17 は多量の瓦を包含する土壙である。土壙 SK12 は東および北へは調査区外へ広がる。検出面での規模は東西方向で残存長約 3.5m ある。土壙 SK16 は平面形が方形を呈する土壙で、西肩口の一部は調査区外にある。南北長約 4.3m、深さ約 0.4m ある。平安時代前期（平安京 I 期新）に属する土器が多量に出土した。土壙 SK17 は北肩口の一部が土壙 SK16 によって一部削平を受けているが、平面形は橢円形を呈し、東肩口は調査区外にある。現存東西長約 2.1m ある。

遺構 SX13 は東西方向を示す遺構で、調査区外東西へ延長する。検出面での規模は現存幅約 5.9m、深さ 0.4m ある。平安時代前期（平安京 II 期古）に属し、多量の瓦を包含する。

溝 SD18 は東西方向を示す溝で、西は調査区外へ延長する。検出面での規模は幅約 0.7m、深さ約 0.4m ある。

溝 SD19 は南北方向を示し、肩口は調査区内で立ち上がり

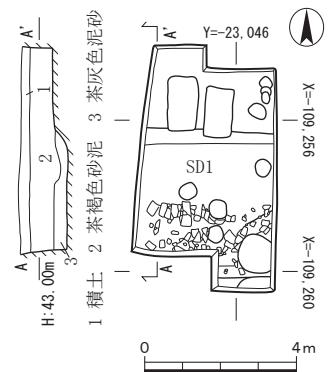


図78 調査7 調査区実測図(1:200)

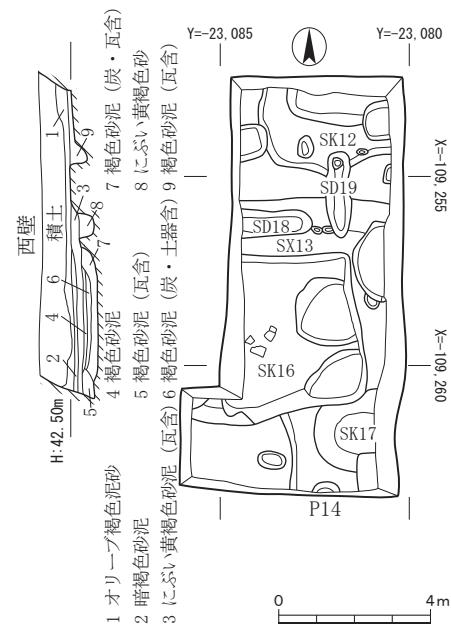


図79 調査8 調査区実測図(1:200)

る。検出面での規模は幅約 0.7m、深さ約 0.3m ある。

調査区南端では柱穴 P14 を検出した。平面形は円形を呈し、検出面での規模は径 0.75m ある。

調査9 (1029 文 266-2 図版 60) 中務省跡南西部、正庁該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では建物、瓦溜、土壙などを検出した。

掘立柱建物は SB2・3 の 2 棟ある。建物 SB2 は東西 1 間、南北 3 間分の柱穴を検出、柱穴の平面形は方形を呈し、一辺約 0.6m、柱間は 1 間東西 2.85m、南北 2.4m ある。平安時代前期（平安京 I 期新）に属する遺物が出土した。建物 SB3 は南北 3 間分の柱穴を検出、柱穴の平面形は方形を呈し、一辺約 0.5m、柱間は 1 間南北 2.4m ある。北端の柱穴は後述する土壙 SK1 の上面で検出、柱穴内に多量の朱が遺存していた。SB2 と重複しており SB2 の建て替えであろう。建物 SB2 は建物 5、建物 SB3 は建物 6 として復原している。

土壙 SK1 は東肩口を検出し、大半は調査区外にある。検出面での規模は現存長 4.5m、深さ 0.3m ある。底面には砂泥層が厚さ 0.1m 堆積し、多量の炭と土器を包含する。上面は灰白色粘土で整地する。平安時代前期（平安京 I 期中）に属する遺物が出土した。

瓦溜 SK4・5 も一部を検出したにとどまる。瓦溜 SK4 は現存長約 4.7m、瓦溜 SK5 は現存長約 2.3m ある。平安時代後期に属する瓦が多量に出土した。

整地層から平安時代前期（平安京 II 期）に属する土器類が出土した。

調査10 (1067 文 304-2 図版 61) 中務省跡北端、鈴鑰該当箇所で実施し

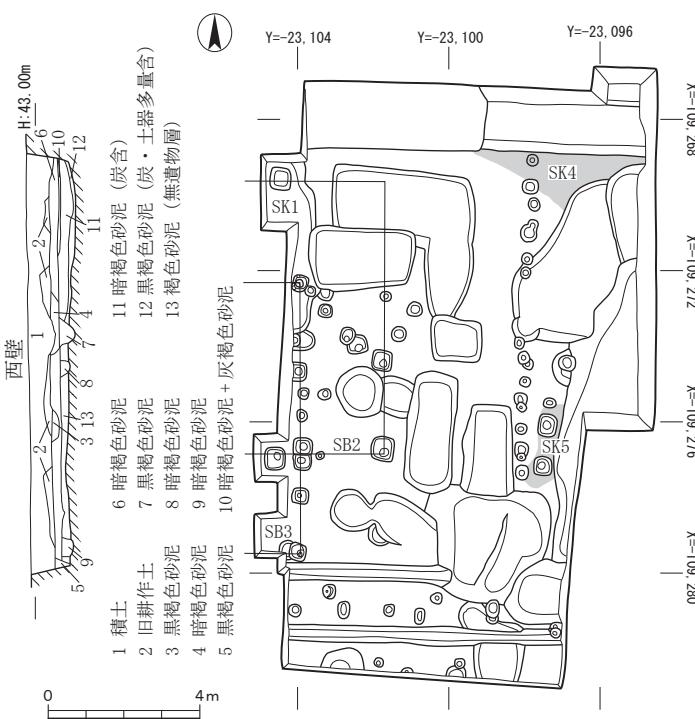


図80 調査9 調査区実測図(1:200)

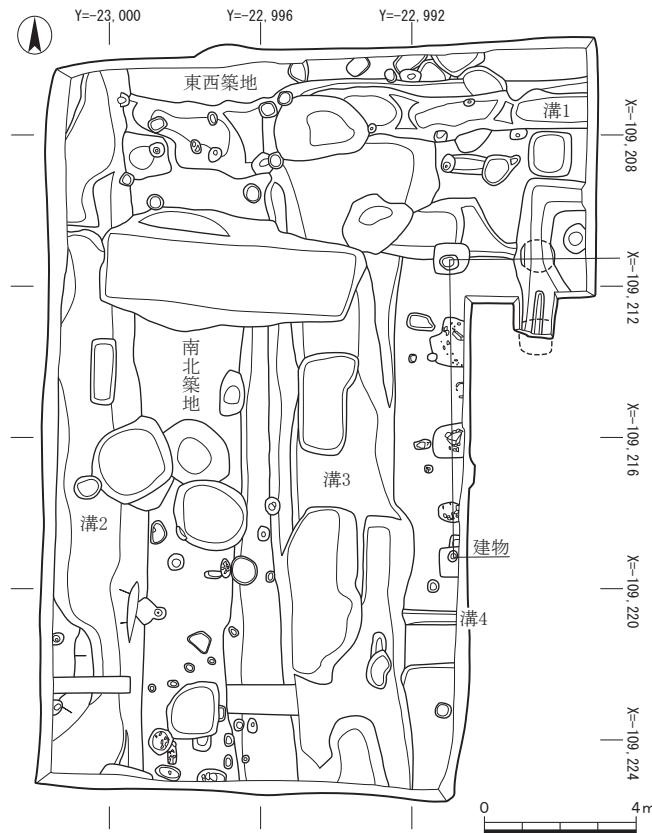


図81 調査10 調査区実測図(1:200)

た発掘調査である。この調査では築地、建物、溝などを検出した。

溝1は北面築地（東西築地）内溝である。東西方向を示し、調査2・3・5などで検出した溝と同一溝である。溝底面に凹凸があり、3～4mごとに高まりが遺存する。西肩口は後述する溝2により削平を受け、東は調査区外へ延長する。検出面での規模は幅1.2～2.1m。平安時代前期（平安京I期中）に属する遺物が出土した。

南北築地の東西には築地に沿って溝2と溝3を伴う。築地の検出面での規模は幅3.5～4.0mある。築地上面で平面形が円形ないし橢円形を呈する約10基の柱穴を検出した。溝2は北面築地箇所を縦断し調査区外へ延長する。西肩口は調査区外にあり、検出面での規模は幅約2.5mある。溝内からは多量の瓦が出土した。溝3は南調査区外に延長する。北肩口は北面築地内溝である溝1の南肩口で立ち上がる。検出面での規模は幅約3.2mある。溝内から多量の瓦が出土した。溝2・3とも底面にはやや凹凸が遺存する。

建物は東西棟掘立柱建物で、南に庇が付く。建物の西妻部を検出した。柱穴の平面形は方形を呈し、検出面での規模は一辺約0.9mある。中には礫を詰める柱穴もあり、修築に伴うものであろう。身舎の柱間寸法は桁行・梁行とも1間2.4m(8尺)、庇は1間3.0m(10尺)ある。平安時代前期（平安京I期）に属する遺物が出土した。この建物は建物2として復原した。南端の柱穴から南へ約1.6mで東西方向を示す溝4を検出した。西は溝SD3まで、東は調査区外へ延長する。検出面での規模は幅0.4mある。建物に伴う雨落溝であろう。

なお、調査では竪穴住居を1戸検出している。

調査11 (1082文266-3 図版62) 中務省中央西部、正庁該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では柱穴、溝、土壙などを検出した。

溝には東西方向を示す溝SD39・16・14と、南北方向を示すSD18がある。溝SD16は調査区内で東肩口が立ち上がり、西へは調査区外へ延長する。検出面での規模は幅0.35m、深さ0.09～0.13mある。溝内に多量の炭を包含し、平安時代前期（平安京I期中）に属する土器類が出土した。溝SD16の北約1mには溝SD39がある。検出面での規模は幅約1.2m、深さ0.16mある。溝SD16の南約4.6mには溝SD14がある。東西は調査区外へ延長する。検出面での規模は幅約3.5～3.8m、深さ0.3～0.52mある。溝内から多量の瓦類が出土した。溝SD18は南・北を他の遺構により削平を受ける。検出面での規模は幅約0.4m、深さ0.05～0.13mある。

溝SD16-14間には約19基の柱穴がある。平

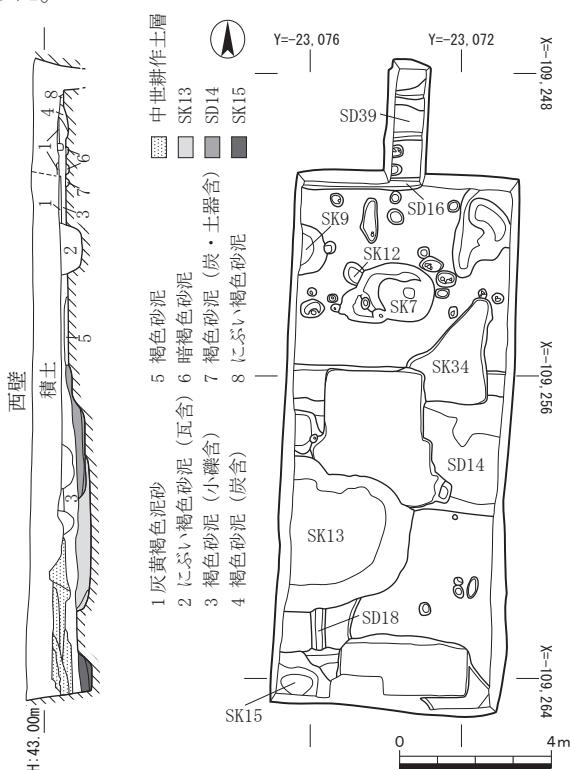


図82 調査11 調査区実測図(1:200)

面形は円形ないし橢円形を呈し、検出面での規模は径 0.2 ~ 0.68m、深さ 0.1 ~ 0.35m ある。

土壙には SK9・12・13・15 がある。土壙 SK12 は平面形が橢円形を呈し、検出面での規模は径 0.55m 以上、深さ 0.15m ある。平安時代前期（平安京 I 期中）に属する土器類が出土した。土壙 SK9 は西半が調査区外にあり、検出面での規模は現存径 1.3m、深さ 0.56m ある。多量の瓦が出土した。土壙 SK13 は北半を溝 SD14 により削平を受け、西肩口は調査区外にある。検出面での規模は南北長 4.15m、深さ 0.43m ある。緑釉瓦を含む多量の瓦が出土した。土壙 SK15 は一部を検出し、検出面での規模は現存長 1.6m、深さ 0.36m ある。多量の瓦などが出土した。

調査 12 (1136 文 270-3 図版 63・64) 中務省跡北端、内舎人 - 監物間該当箇所で実施した発掘調査である。調査では北面築地内溝、築地、側溝、通路、暗渠状遺構などを検出した。

溝 SD 7 は北面築地内溝で、北肩口は調査区外にあり、検出面での規模は現存幅 0.7m、深さ 0.4m ある。平安時代前期（平安京 I 期中）に属する土器が出土した。

築地 SA1 は南北方向を示す築地で、古新の二時期あり、柱穴列を伴う。古段階の築地 SA1a は後述する暗渠状遺構 SX6 付近と調査区南端に柱穴がある。平面形は円形を呈し、検出面での規模は径約 0.6m、柱間は北から 0.7・1.7・0.7m あり、柱間 1.7m のところに門が想定できる。新段階の築地 SA1b は築地基底部を検出した。基底部は幅約 1.8m あり、版築は 2 ~ 3 層確認した。築地縁には修築を施した痕跡がある。基壇上面中央で幅約 0.7m の窪みを長さ 3.5m にわたって検出、築地の壁痕跡と考えられる。柱穴は平面形が方形を呈し、一辺 0.5 ~ 0.6m、柱間は 2.55m ある。築地 SA1 には溝が併行し、東溝 SD2・3、西溝 SD4 がある。東溝 SD2・3 間には通路 SF5 があり、それぞれ一方の肩口は通路 SF5 で立ち上がり、他方は調査区外へ延長する。検出面での規模は幅 1.6 ~ 1.7m、深さ 0.25 ~ 0.35m ある。溝 SD2 から多量の瓦が出土した。溝 SD4 は南北へは調査区外へ延長する。現存幅約 1.6m、深さ 0.65m ある。出土遺物から溝 SD2・3 は平安時代中期（平安京 III 期）に、溝 SD4 は平安時代後期（平安京 IV 期中）には埋没したようである。通路 SF5 は細かい礫や瓦を敷き詰めた遺構である。

暗渠状遺構 SX6 は通路 SF5 の西側にある遺構である。重複状況から二時期あり、下層の暗渠状遺構 SX6 は丸・平瓦、軒平瓦、甃を使用し、溝 SD2 から溝 SD3 ならびに溝 SD4 へ排水する目的の暗渠排水施設である。上層のものは丸・平瓦を使用した暗渠状を呈する遺構である。溝 SD3・4 間を北西から南東へ斜行する状態にある。

遺構 SX9 は窪み状を呈する遺構で大半は調査区外

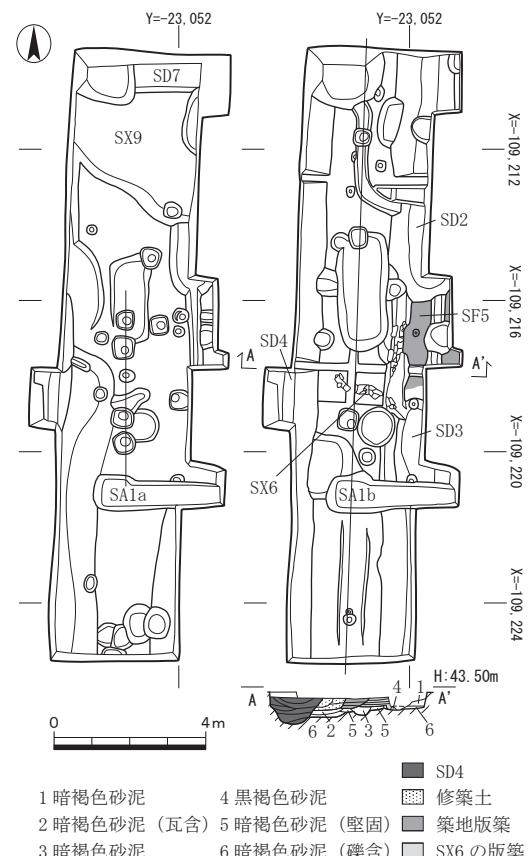


図83 調査12 調査区実測図(1:200)

にある。検出面からの深さは0.3mある。下層から古墳時代末、上層からは平安時代前期に属する遺物が出土しており、造営時の整地痕跡であろう。

なお、調査では平安時代以前の建物も検出した。

調査13 (1223 文 282-2 図版 65-1) 中務省跡北面築地該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では北面築地、同外溝、道路敷などを検出した。

築地部分については溝3から南へ約3mにわたり、築地下部を形成する整地土層を厚さ約0.5m検出した。

溝3は北面築地外溝で、東西は調査区外へ延長する。検出面での規模は幅約2.5m、深さ0.9mある。上層からは瓦が出土した。下層からは平安時代前期(平安京Ⅰ期中)に属する土器類が多量に出土した。溝3北肩口以北は中御門大路宮内延長路ないし中務省と内裏間の空間に該当するが、調査区北部では礫を敷き詰めた道路敷を検出した。下面には道路敷を敷設するための整地土層が厚さ約0.4mある。道路敷上面は北へ行くにしたがって礫と砂を使用して堅固な面を形成している。

調査14 (1257 文 282-3 図版 65-2) 中務省北面築地該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では北面築地、礫敷路面、柱穴などを検出した。

北面築地該当箇所で築地基底部と考えられる瓦を叩き込んだ整地土層を検出した。整地土層除去後、柱穴P3を検出した。平面形は楕円形を呈し、検出面での規模は長径約0.8mある。平安時代中期(平安京Ⅲ期)に属する遺物が出土した。北面築地外溝想定位置で溝は未検出である。外溝北肩口想定位置から北で道路敷を2面検出した。礫を使用して堅固な面を形成している。道路敷上面に土壙SK5がある。北は調査区外にあるが、平面形は楕円形を呈し、検出面での規模は現存長約1mある。平安時代前期に属する。

調査15 (1268 文 282-4 図版 66) 中務省北西端部、内舍人該当箇所で実施した

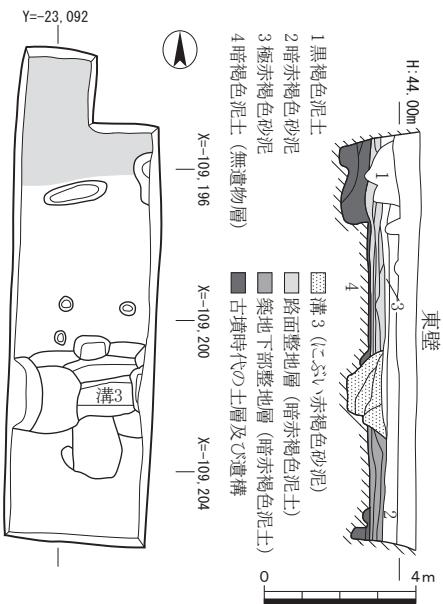


図84 調査13 調査区実測図(1:200)

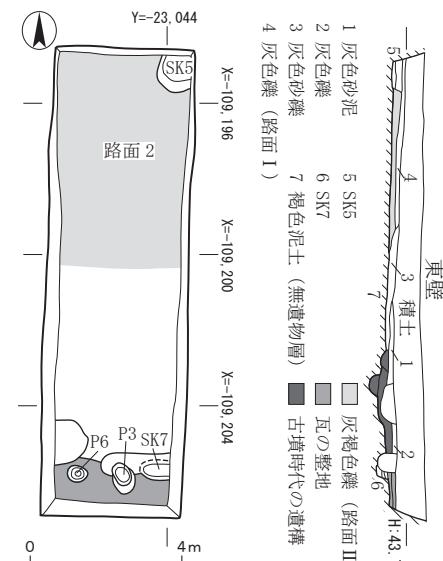


図85 調査14 調査区実測図(1:200)

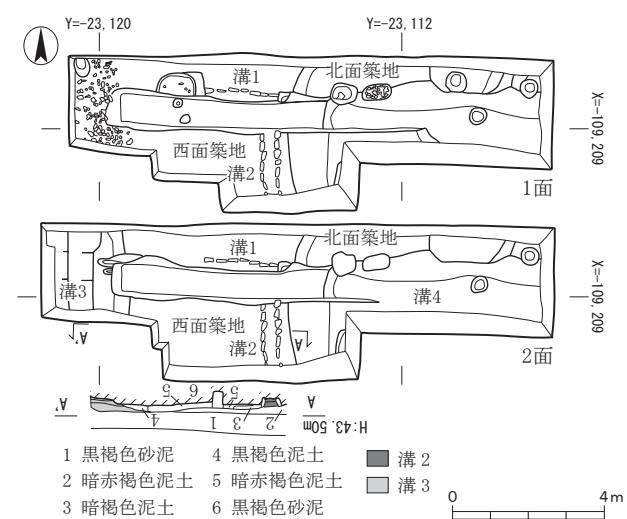


図86 調査15 調査区実測図(1:200)

発掘調査である。調査では西面築地、北面築地、柱穴、暗渠などを検出した。

西面築地の検出面での規模は上部幅約4m、下部幅約5mある。築地基底部と犬行想定箇所が土層の違いから明瞭に識別でき、築地基底部幅は2.1m、犬走は内外とも現存幅0.8mある。築地上に柱穴が1基あり、削平を受けるが平面形は方形を呈し一辺約0.9mある。西面築地上で同築地に直交する溝1とした暗渠がある。東西方向に長さ約2.1m遺存していた。溝肩口は方形の甌で護岸を施す。検出面での規模は内幅0.15m、深さ0.18mある。築地内側犬行東縁に沿って甌で護岸を施した溝2があり、溝1と直交する。検出面での規模は内幅約0.4m、深さ0.18mある。西面築地外溝である溝3は西肩口が調査区外にあり現存幅1.5m、築地上面からの深さ約0.7mある。多量の瓦などが出土した。瓦の出土状況は平面図の1面に示した。平安時代前期（平安京I期中）に属する。北面築地内溝である溝4は南肩口が調査区外にあり西肩口は溝1付近で南折し溝2に沿って南行する。検出面での規模は現存幅約1.7m、北面築地該当箇所上面からの深さは約0.7mある。平安時代前期（平安京I期中）に属する。

調査16 (1275 文282-1 図版67-1) 朝堂院 - 中務省跡間の中務省外北西部寄りで実施した発掘調査である。この調査では朝堂院 - 中務省間の整地土層を3面検出した。

地山（褐色粘土）上面で整地層I、その上面で整地層IIを検出した。厚さは各々約0.1mあり、層中には凝灰岩や炭片がわずかに含まれる程度で、土器・瓦類は包含しない。整地層II上面で整地層IIIを検出した。層中には土器・瓦類のほか1～2cm程度の焼土を包含する。焼土は出土土器の検討から貞觀18年(876)の大極殿火災に伴うものと考えられる。整地層IIは弘仁年間の修築、整地層Iは創建時の整地土層と考えられる。

調査17 (1343 文285-1 図版67-2)

中務省北西部、内舍人該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では北面築地内溝、建物、瓦溜、土壙などを2面の遺構面で検出した。

溝SD8は北面築地内溝である。北肩口は調査区外にあり、検出面での規模は現存幅約2.7m、深さ1.1mある。底面は凹凸がある。平安時代前期（平安京I期中）に属する遺物が出土した。

掘立柱建物は建物1として復原したも

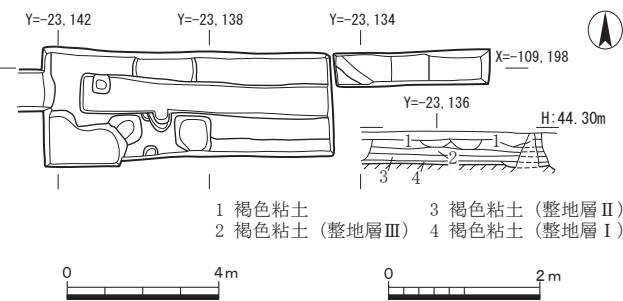


図87 調査16 調査区実測図(1:200、1:100)

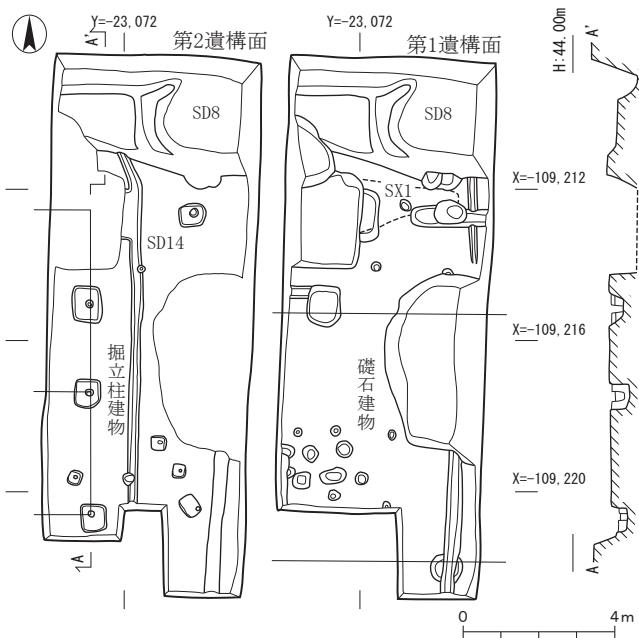


図88 調査17 調査区実測図(1:200)

ので、東妻部を検出した。柱穴の平面形は方形を呈し、一辺 0.7 ~ 0.9m、深さ 0.4m ある。建物の上面に厚さ約 0.2m の土壇があり、土壇上で礎石建物を検出した。礎石建物は建物 8 として復原したもので、礎石据付穴が 2 基ある。平面形は方形か歪な円形を呈し、検出面での規模は長軸 0.8 ~ 1.1m、深さ 0.1m ある。据付穴内に根石は遺存していない。

瓦溜め SX1 は土壇北で検出した。平安時代中期に属する。溝 SD14 は礎石建物の土壇上面で検出した南北方向を示す溝で、南は調査区外へ延長する。検出面での規模は幅 0.25 ~ 0.3m、深さ 0.2m ある。平安時代中期に属する。

調査 18 (1375 文 298-1 図版 68-1) 中務省東部、陰陽寮該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では溝、柱穴、土壇などを検出した。

溝 SD46・52・57 は東西方向を示す溝である。溝 SD46 はこれまでの調査で検出している中務省中央部を東西方向に連続する溝の一部である。東西は搅乱により削平を受ける。

検出面での規模は幅約 3.4m、深さ 0.25m ある。2 層の土層を確認しており、下層から平安時代前期（平安京 II 期中）に属する土器類が、上層から多量の瓦が出土した。溝 SD52 は溝 SD46 から約 3.5m 北に位置する溝で、東は後述する土壇 SK47 によって削平を受け、西へは調査区外へ延長する。検出面での規模は幅約 0.8m、深さ 0.2m ある。溝 SD57 は溝 SD46 の南約 0.5m に位置する溝で、大部分が搅乱を受けるが、検出面での規模は幅約 1.5m、深さ 0.15m ある。溝 SD57 に相当する東西溝は他の調査で検出していない。

土壇 SK47 は北西部肩口の一部を検出したにとどまり、北・東へが調査区外へ広がる。検出面での規模は、現存南北長約 2.5m ある。

柱穴は主として溝 SD46 上面ないし地山上面で 13 基検出した。柱穴は平面形が円形ないし橢円形を呈するが、方形を呈するものもある。検出面での規模は長軸で 0.2 ~ 0.55m ある。根石や根固めの礫・瓦を入れる例がある。

調査 19 (1507 文 308-4 図版 68-2) 中務省西面築地該当箇所で実施した発掘調査で、調査 15 に南接する。調査区の大半が土取穴により削平を受け、北東部に西面築地、外溝などが遺存していたに過ぎない。

西面築地は一部を検出したにとどまるが、築地基底部を示すと考えられる土層を良好な状態で検出した。基底部の土層は地山上面から黒褐色粘土・黄褐色泥砂・暗褐色微砂層の順に

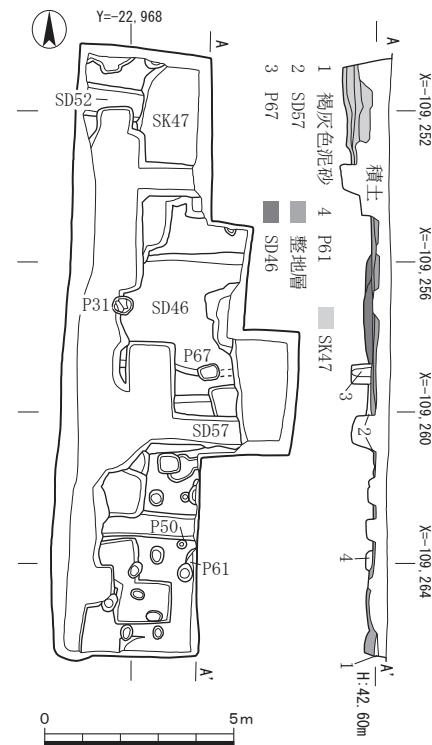


図89 調査18 調査区実測図(1:200)

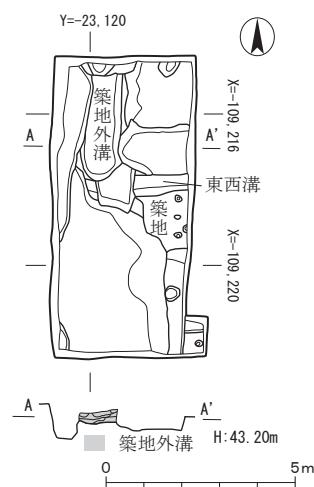


図90 調査19 調査区実測図(1:200)

各々厚さ 0.05 ~ 0.2m 確認した。

西面築地外溝についても西半および南北は削平を受けしており、東肩口を検出したにとどまる。検出面での規模は現存幅約 1m、深さ 0.5m ある。平安時代前期（平安京 I 期中）に属する遺物が出土した。

西面築地上では東西方向を示す溝を検出した。検出面での規模は幅 0.7m、深さ 0.3m ある。この溝と調査 15 で検出した埠組溝はいずれも西面築地上で検出した東西方向を示す溝であり、溝の北肩口間は約 9.5m ある。

調査 20 (1521 付章 20) 中務省東面築地該当箇所で実施した発掘調査である。調査では東面築地内・外溝、土壙を検出した。この調査は未報告であり、付章 20 で詳細を参照されたい。

調査 21 (1177 文 269) 中務省東面築地該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では溝を検出した。

試掘坑 1 では現地表下 0.6m で地山（褐色砂泥）に至り、この上面で南北方向を示す溝を検出した。検出面での規模は幅約 3m、深さ 0.3m 以上ある。多量の瓦が出土した。試掘坑 2 でも東面築地外溝の西肩口を検出したが、大半が搅乱を受ける。両試掘坑あわせて長さ約 10m にわたり検出することができた。

調査 22 (81 付章 32) 朝堂院・太政官・中務省跡に該当する地域の道路上で実施した広域立会調査である。中務省跡では主として南半域を対象に、丸太町通から 1 筋南の通りおよび土屋町通の道路上で実施した。検出した遺構には基壇状遺構、柱穴、溝、土壙、瓦溜などがある。各検出遺構の概要について次に示すが、立会調査全体の概要については付章 32 を参照されたい。

検出した遺構のうち、44 地点の溝は中務省跡南面築地外該当箇所で検出した東西方向を示す溝で、南面築地外溝と考えられる。溝上面は整地が施されている。46・114 地点の溝は南北方向

表 5 調査 22 主要遺構検出地点（地点番号は図版 15 と対応する）

地点番号	遺構	調査内容	想定箇所	検出深 (m)
44	溝	幅 2.5m、この上を整地	南面築地外溝	0.7 ~ 1.7
45	整地	礫で固めた整地、44 の上	中務省 - 隅陽寮域間？	0.75 ~ 0.8
46	溝	南寄り 3m ほど深く、以北 -1.1m 前後で丸太町通まで続く、45 と対応、その間道路	中務省 - 隅陽寮域間？	0.85 ~ 1.4
47	瓦溜め	幅 4m、46 を切る	中務省域	0.75 ~ 1.4
63	柱穴	幅 0.55m	中務省域	1.1 ~
109	溝	方向、幅は不明、平安時代前期から中期	中務省域	0.65 ~ 1 以上
110	土壙	幅 1.46m 以上、平安時代	中務省域	0.8 ~ 0.96 以上
111	土壙	あるいは溝か、平安時代後期か	中務省域	0.58 ~ 0.8 以上
112	溝	東西方向、幅 1.5m 前後	隅陽寮域施設	0.65 ~ 1.05
113	包含層		隅陽寮域	0.48 ~ 1.2 前後
114	溝	南北方向、幅 1.2m 前後	中務省 - 隅陽寮域間？	0.78 ~ 0.92
115	段状	南北方向、幅 4.2m、高さ 0.25m	隅陽寮域施設	0.9 ~ 1.15
116	溝	南北方向、幅 1.40m、段 115 内にある	隅陽寮域施設	0.9 ~ 1.1
117	段状	南北方向、幅 2.80m	隅陽寮域施設	1 ~ 1.45
118	窪み	116 と 117 間の窪み、幅 6.3m	隅陽寮域施設	0.9 ~ 1.3
119	段状	南北方向、幅 2.5m	隅陽寮域施設	0.9 ~ 1.5
120	窪み	117 と 119 間の窪み、幅 4.3m	隅陽寮域施設	0.9 ~ 1.5
121	基壇状	東西方向、幅 2m 前後、南に溝 112 を伴う	隅陽寮域施設	上は 0.8
122	土壙	東西幅 3m 以上、あるいは搅乱か	中務省域	0.7 ~ 1.04
123	柱穴	幅 0.9m	中務省域建物？	0.71 ~ 1.2

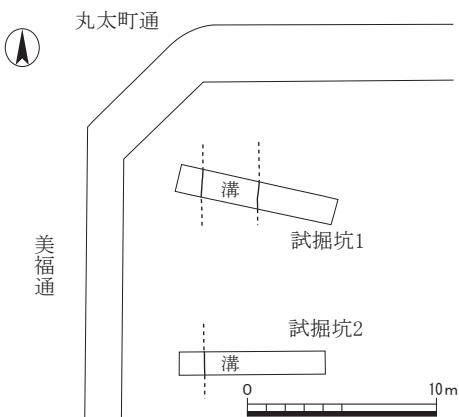


図91 調査21 調査区平面図(1:400)

を示す溝である。このうち、46 地点の溝は丸太町通まで続き、おおよそ中務省 - 太政官の中央に位置し、調査 2 で検出した溝 SD3 が南折する箇所に向かって延長する。

115 ~ 120 地点は陰陽寮該当地域に該当する。ここでは南北方向を示す段状遺構および溝を検出しているが、陰陽寮においてどのような施設を示す遺構であるか検討を要する。121 地点では基壇状遺構を検出した。この基壇状遺構の南縁には 112 地点で検出した溝を伴う。この基壇状遺構は区画あるいは建物を示す遺構の可能性が高く、46・114 ~ 120 地点の遺構とともに陰陽寮の占地を考える上で考慮しなければならない。

一方、中務省想定地域では溝・土壙・小土壙などを検出した。109 地点の溝は方向、幅とも不明であるが、調査 9 の南に位置しており、区画を示す遺構の可能性がある。平安時代前期から中期に属する遺物が出土している。

調査 23 (166 付章 34) 中務省北半該当域、丸太町通の南北歩道上で実施した立会調査で、平安時代の遺物包含層を検出している。この調査は未報告であり、付章 34 を参照されたい。

調査 24 (455 文 223) 中務省正庁該当箇所で実施した調査 7 に西接する地点で実施した立会調査である。現地表下 0.95m で平安時代に属する遺物包含層を検出した。調査 7 などで検出した東西方向を示す溝に連続する土層であろう。現地表下 1.35m で地山（黄褐色砂泥）に至る。

調査 25 (507 文 237) 中務省の南面中央、南面築地該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下 0.7m で平安時代に属する遺物包含層（厚さ 0.14m）を検出した。また、遺物包含層下面には厚さ 0.16m の瓦を敷きつめた土層が東西約 4m にわたって遺存していた。瓦敷土層下面是地山（褐色砂泥）となる。瓦敷土層は調査対象地の南端で検出しており、当該地は中務省 - 太政官間の東西路に該当することから道路敷の可能性がある。

調査 26 (704 文 243) 朝堂院 - 中務省間の中務省外北西部寄りで実施した立会調査で、調査 16 に北接する。この調査では調査対象地の三箇所で平安時代に属する遺物包含層を、現地表下 0.45m、0.5m および 0.65m 以下で検出した。平安時代中期に属する遺物が出土しており、調査 16 で検出した朝堂院 - 中務省跡間の整地土層の拡がりを確認できた。

調査 27 (759 文 251) 陰陽寮跡東部で実施した立会調査である。この調査では 4 箇所で平安時代に属する遺構を検出した。調査対象地西端では現地表下 0.8m で平安時代に属する遺構を検出した。南北方向を示す溝の可能性があり、東肩口は東面築地心から西へ約 31m に位置する。また、東肩口から東へ 0.5 ~ 1.8m の範囲で土壙状を呈する遺構を 3 基検出し、うち 1 基からは平安時代中期に属する遺物が出土した。調査対象地中央から東端では現地表下 0.6 ~ 0.8m で平安時代に属する遺物包含層を、現地表下 0.6m で南北長 0.8m、深さ約 0.4m の平安時代後期に属する土壙、および東西長 0.4m、深さ 0.25m の小土壙を各 1 基検出した。現地表下 1m で地山（黄灰色粘土）を確認した。

調査 28 (1066 文 308-6) 中央から東方官衙群跡にかけて丸太町以南で実施した立会調査である。中務省跡域内では中務省西面築地該当箇所で南北方向の溝を検出した。検出位置からは同築地に伴う外溝と考えられる。

調査 29 (1111 文 265) 中務省西面築地該当箇所で実施した立会調査である。この調査では

土壙を検出した。土壙は調査対象地の中央西端で検出した。平面形は円形を呈し、径 1.8m ある。土壙中に多量の瓦を包含する。検出位置は中務省 - 朝堂院間に該当する。現地表下 0.7m で地山（茶褐色泥砂）に至る。調査対象地の東部で西面築地外溝を想定したが未検出である。

3 遺物

中務省跡から出土した遺物の内容は、大半が瓦類であり、土器類は少ない。

瓦類は平安時代前期から後期に属するものが出土しており、なかには難波宮、平城宮、長岡宮などの諸宮からの搬入瓦が多数含まれている。瓦類には丸・平瓦、軒丸・軒平瓦のほか、鷲尾、綠釉瓦、刻印やヘラ記号を施した瓦および甕などがある。

土器類について示せば、平安京 I 期中から平安京IV期中に属するものが出土している。時代による土器類の出土傾向は、平安京 I 期に属する土器類が多数を占め、平安京 II 期古から出土例は減少し、平安京 II 期新以降は極めて乏しい。平安京IV期中以降の出土例はない。各期の土器類の内容を下記に記す。

平安京 I 期中に属する土器類では、土師器は皿・杯・杯蓋・椀・高杯・壺・甕など、須恵器は皿・杯・杯蓋・壺・鉢・風字硯など、黒色土器は杯・甕、綠釉単彩陶器は火舍などがある。

平安京 I 期新以降も基本的な構成は I 期中と変わらないが、新たに綠釉陶器と灰釉陶器が加わり、皿・椀がある。このほか、須恵器では壺蓋・蹄脚硯などがある。

特徴的なものを示せば、黒色土器、綠釉単彩陶器、人面を施した土器などが挙げられる。

墨書土器には「内舎人」・「口省」・「監」などの官衙名を記したものがある。これらはいずれも内舎人の占地に想定できる地区から平安京 I 期に属する遺物とともに出土している。「内舎人」は調査 4 の土壙 18 から出土した墨書土器で、須恵器杯蓋外面に墨書する。内面には朱が付着しており、朱を使用した転用硯であろう。「口省」は調査 5 の北面築地内溝である溝 SD3 から出土した墨書土器である。須恵器杯底部外面に墨書しており、墨書左上半は欠損する。口内は「務」の右下の蓋然性が高く、「中務省」と墨書したものと考えている。「監」については調査 16 の北面築地内溝である溝 SD8 から出土した。須恵器杯底部外面に墨書しており、墨書下半は欠損する。「監物」と墨書したものであろう。

綠釉単彩陶器には火舍があり。平安京 I 期中に属する土器類と共に伴する。三箇所の調査地点から出土している。調査 5 の北面築地内溝である溝 SD3 から出土したものは、口縁部から体部にかけての破片で、透かしおよび火入れ口が遺存する。調査 9 の祭祀遺構に想定できる土壙 SK1 から出土したものは体部下半から高台の破片で、大部下半に火入れ口が遺存する。土壙 SK1 からは別個体の火舍破片が出土している。調査 10 の北面築地内溝である溝 1 から出土したものは体部の破片で、透かしが遺存する。

人面を施した土器は調査 10 で出土した。土師器高杯の脚部に人面を立体的に彫り込む。

4 小結

以上、中務省跡の調査成果を述べてきたが、各遺構の位置づけを検討し、中務省四至・省内区画施設・建物などの復原を行う。

(1) 中務省の四至 北面築地に伴う遺構は9箇所の調査地点で築地・内溝・外溝などを検出しておき、北面築地心は中御門大路区内延長路の南築地心想定線上にあることが確定できた。

南面築地に伴う遺構は2箇所の調査地点で検出している。一つは中務省に南対する太政官跡の調査8で、中務省・太政官間の春日小路延長路に該当する路の道路敷とともに中務省南面築地の外溝と考えられる遺構を検出し、調査22では南面築地外溝を検出している。このように、南面築地施設については外溝のみの検出例ではあるが、外溝検出位置から築地心位置を想定すれば、中務省・太政官間の路幅は7丈であることを導きだせる。したがって、中務省北面築地心・太政官北面築地心間の丈数44丈から路幅7丈を差し引いた37丈が中務省南北幅となる。

東面築地に伴う遺構は調査20・21の2箇所で築地・内溝・外溝などを検出しておき、東面築地心は壬生大路西築地心から宮内を延長した位置にあることが確認できた。

西面築地に伴う遺構は調査15・19の2箇所で築地・内溝・外溝などを検出しておき、西面築地心は東面築地心から約169.5mの地点に位置することが判明した。これを造営尺で割れば56.8丈となり、これが中務省東西幅である。^{註2}

築地・犬行・内溝・外溝については調査15の検出例が良好な遺存状況を示しているので、これを基に検討を加えると、内外溝間の幅がほぼ14尺あり築地基底部幅は7尺を採用できることから、犬行幅は内外溝間幅14尺から築地基底部幅7尺を引いた半分の値として、それぞれ3.5尺に想定できる。内・外溝の大半の検出例では肩口に護岸を施した痕跡を検出していないので溝幅は確定はできないものの、外溝幅は調査12・14例から8尺の数値が得られる。ただし、調査20で検出した東面築地外溝は溝幅約1.0～1.1m、調査21で検出した同外溝については溝幅約3mある。^{註3} 内溝幅の検出例はまちまちで、両肩口の検出例はないが、およそ外溝幅の範囲に収まり、8尺を採用しておく。

なお、築地内・外溝の埋土下層からは平安時代前期（平安京I期中）に属する遺物が出土しており、造営後間もない時期に埋没が進んだことを示している。とりわけ北面築地内溝では積極的に溝を埋立てる調査例もある。この築地内溝の埋め立て事例は溝を放棄したことをしており、溝の主目的である雨水などの排出以外に、この区域の造営計画線表示や土取りなど、他の目的もあるかもしれない。^{註4} これらはその目的が達成された時点で基本的にその用途を放棄する。

(2) 中務省内の区画施設 中務省北半は「宮城図」では3分割されており、出土墨書き器から、少なくとも当該地に内舍人と監物が存在した可能性は高く、中務省北半の占地は西から内舍人・監物・鈴鑰として占地を考察する。なお、全域を指す場合は中務省、中務省の正序区域は中務省域、陰陽寮区域は陰陽寮域とする。

鈴鑰 監物・鈴鑰間に該当する調査10では南北方向を示す築地があり、この築地は東面築地心から西に約50mの地点に位置する。この南北築地を監物・鈴鑰間を限る施設と捉えれば、鈴鑰の東西幅は17丈に復原できる。

内舍人・監物 「宮城図」には内舍人・監物間に中務省北門と考えられる黒丸が示されているので、同官衙間に省域から北門に至る通路などの施設が必要となろう。上記の成果から内舍人・監物をあわせた東西幅の数値として、中務省東西幅約57丈から鈴鑰の17丈を引いた約40丈が得

られるが、この東西幅 40 丈の中央東寄りに調査 12 で検出した築地がある。築地は内舎人・監物をあわせた東西幅の想定中心線から東 4.5m(15 尺) に位置しており、築地が想定中心線に対して左右対称にあるならば中務省内小径に伴う東築地となる。したがって、北門から省域に至る心々幅約 9m(3 丈) の小径が復原できる。新期の柱穴列などは座標北に対して約 2 度 30 分東偏するが、旧期の柱穴列はほぼ座標北を示しており、平安時代前期にもほぼ同位置に築地などの区画施設があったことが想定できよう。以上のことから、内舎人、監物はともに東西幅は 18.5 丈あることになる。

中務省域・陰陽寮域 調査 1・7・8・11・18 で検出した東西方向に延長する溝ないし溝状遺構は、断続的ではあるが東西方向に約 120 m にわたってほぼ同一位置で検出しており、省内を南北に区画する施設の一部と想定できる。北肩口は中務省南面築地心から北へ 20 丈に地点に位置し、調査 11・17 では北肩口から北へ約 4 ~ 6m 地点で東西方向を示す 2 条の溝の南肩口を検出しておらず、溝間で複数の柱穴を検出している。したがって、中務省内南北区画築地の想定位置は南面築地心から北へ 21 丈を一つの目安としたい。

一方、中務省域 - 陰陽寮域間の区画施設についてもそれを示すと考えられる明瞭な遺構は未検出である。調査 22 では 114 ~ 117・119・120 地点で南北方向を示す段状遺構および溝を検出しているが、これらがどのような施設に伴う遺構であるのか確定できない。例えば、117・119・120 地点で検出した遺構は調査 10 で検出した南北方向の築地・両溝とおおよそ同一の位置にあるが、築地に相当する箇所である 120 地点の遺構が窪み、両溝に相当する箇所である 117・119 地点の遺構が段状を呈し、遺構としては調査 10 の築地・溝の関係とは一致しないことから、寮域内の施設に伴う遺構と捉える方が妥当ではないかと考えている。また、114 地点の溝は南北方向を示し、北へは丸太町通まで続くとされており、積極的に評価すれば中務省域 - 陰陽寮域間を区画する施設の一部である可能性があろう。そうであれば、おおよそ中務省東西幅約 57 丈のはば中央に位置する。

以上、検出遺構から中務省の四至ならびに省内における区画施設の概要を示した。これらの施設とともに次に示す建物遺構をあわせ、中務省跡復原模式図を示しておく。

(3) 建物 建物は中務省内で 8 棟検出した。ただし、各建物とも複数の調査地点にまたがるか、調査区外へ展開しており、全容の明らかになった検出例はない。

検出した建物は想定した各官衙区画内に収まっていることか

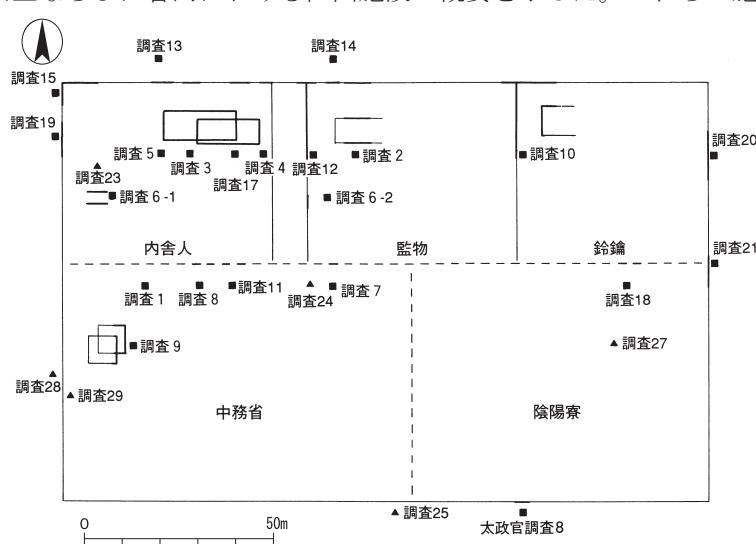


図 92 中務省復原模式図 (1:2,000)

ら、各官衙ごとに建物の概要を示す。

内舎人想定区画内では建物 1・3・4・8 がある。

建物 1 桁行 7 間×梁行 2 間の東西棟掘立柱建物で、南に庇が付く。南東隅の柱穴は北面築地から 5 丈、西面築地から 15 丈の位置にある。占地中央には位置しないが、東西棟であり内舎人の正殿と捉えることができる。

建物 3・4 調査 6-1 で検出した複数の柱穴に東西方向に柱筋の通る 3 条の柱列があり、中央柱列を建物 3 に想定した。西端の柱穴は西面築地心から 2 丈、北面築地心から 10 丈に位置している。占地や建物 1 の配置を考慮すると桁行 7 間×梁行 2 間程度の規模を有する南北棟建物が想定できそうで、正殿に対する付属屋の可能性があろう。一方、調査 6-1 の掘立柱列のうち南列と北列を同一の建物の柱列を想定した。その場合、柱間の比較から南の柱列は庇に想定できるかも知れない。建物 3 の建て替えとすれば建物 4 についても南北棟建物に復原できそうである。

建物 8 建物 1 の上面で検出した東西棟礎石建物である。周辺の地山を掘り下げて基壇を形成する。この建物は座標北に対して東偏しており、新期の中務省小径と方位がほぼ一致する。建物 1 の建て替え建物と考えられ、内舎人の正殿であろう。

監物とした区画内では建物 7 がある。

建物 7 東西棟礎石建物で、身舎の柱間寸法はこれまでに検出した建物の柱間の中では最大規模を有する。東西 1 間・南北 2 間分を検出したにとどまり、建物規模は確定できないが、西には小径が位置し西へ 1 間分で建物西妻部に至ると想定できる。建物規模や東西棟建物であることから監物の正殿があろう。正殿とした場合、内舎人同様、正殿が占地内において一方に片寄ることが指摘できる。

鈴鑰とした区画内では建物 2 がある。

建物 2 東西棟掘立柱建物で、南一面に庇が付く。東西棟建物であり鈴鑰いづれかの正殿であろうと考えられる。建物は内舎人や監物同様占地内で一方に片寄るが、主鈴・主鑰が併存していることから、両者の正殿が並列されていたとすれば、桁行 5 間の建物が復原できる。

中務省域とした区画内では建物 5・6 がある。

建物 5 掘立柱建物の東端部を検出した。建物は西へ展開するが、西面築地に近接しているため、西へは最大 3 間程度展開すると想定でき、3 間×3 間の倉庫が想定できる。

建物 6 建物 5 と同様、掘立柱建物の東端部のみを検出した。南北へは展開しないので 3 間×3 間の倉庫に想定でき、建物 5 の建て替えであろう。北端の柱穴から朱が検出され、建物に朱を使用したことが窺われる。

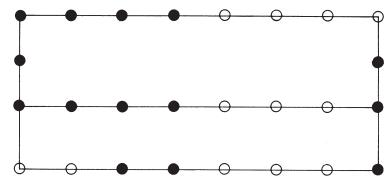


図 93 建物 1

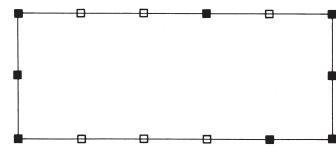


図 94 建物 8

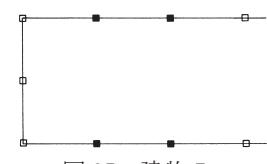


図 95 建物 7

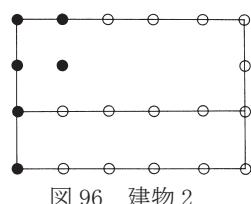


図 96 建物 2

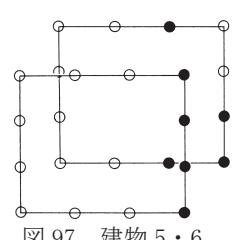


図 97 建物 5・6

建物の検出例から、各時期における建物の変遷について概観すると、まず、平安時代前期に属する建物は、建物のいずれかの隅部柱穴は各築地心から整数尺の距離にあることから、造営の段階から計画された建物であることがわかる。このことは、それ以後の建物が各築地心からの整数尺で割り切れないことからも窺える。区画施設ができあがった段階ではもはや計画線（心）は存在しないため別の方によって配置された可能性があろう。

なお、門と確定できる調査成果は得られていないが、調査 15 では西面築地心上で柱穴を検出し、築地に沿って南北方向の甕組溝があることから、この箇所に穴門を想定できる。また、調査 14 では北面築地外溝を検出していないが、調査 12 の北部で小径と北面築地が直交する箇所に北門が想定でき、この箇所には敢て溝を開削しなかったことも考えられる。

以上のように、中務省跡では複数の建物を検出することができ、いくつかの建物の建て替えのあったことが判明した。さらに、中務省域では平安時代前期に属する遺物とともに中期から平安時代後期にいたる遺物も出土しており、平安時代前期以降早くに形骸化したとされ、文献史料からは十分に状況を窺い知ることのできない中務省も、少なからず機能を維持していたことが遺跡から確認することができた。今後さらに詳細な調査・研究を進めることによって中務省の変遷についても言及できる可能性があろう。

註

- 註 1 この調査で検出された南北方向を示す溝は、これまでの調査研究成果からは中務省東面築地に伴う溝であることが判明している。出土瓦は東面築地に葺かれた瓦であろう。文 87 を参照した。
- 註 2 文 294 では中務省東西幅を 57 丈として復原したが、実際の調査から得られた丈数は 56.8 丈である。57 丈という丈数はいわゆる計画線的な丈数と捉えている。なお、「宮城図」では中 6 東西幅として「五十六丈余」の書き込みがあるが、この「余」について言及できる考古資料は未だ整わず、資料の増加を待ちたい。
- 註 3 溝幅 8 尺は、原則的に宮城外縁（平安宮四至）に関する大垣（区画施設）に採用される溝幅であるが、中央官衙でも朝堂院に通じる路に伴う側溝については、この 8 尺が採用されたことも想定できる。
- 註 4 調査 20 の検出例は上面が削平を受けたことも考えられるが、西肩口には護岸が施されており、最大に復原したとしても溝幅は 1.3m を越えることはない。当該溝は壬生大路宮内延長路西築地に伴う溝であることから、あるいは大路溝である溝幅 4 尺を採用したことも想定できるのではないかだろうか。なお、調査 21 の東面築地外溝検出例は、調査 20 の成果からは新旧二時期の溝を含めた幅である可能性もある。
- 註 5 中務省北半には内舎人・監物・鈴鑰が配置されており、他の官衙に比べて比較的込み入った空間配置を示している。あるいは空間拡張のために敢て内溝は埋め戻したこととも想定できる。また、北面築地内溝はいずれも底面に凹凸があるが、調査 10 の例を示せば、おおよそ 3 ~ 4m ごとに高まりが遺存する。この高まりの用途を想定するに、一つには作業単位が考えられる。一つには高まりを越えた雨水は容易に排出されるが、高まり以下は基本的に滞水することから雨水を完全には排出しない機能が想定でき、一種の防火的な役割があった可能性も指摘できるのではないか。

3 民部省跡

1 経過

当該官衙地域の大半は京都市立二条中学校の敷地内にあり、民部省跡のこれまでの調査は同校敷地内における施設建築に伴う調査が主体であり、他の官衙跡に比べて調査件数は少ない。

民部省は太政官の南、朝堂院の東に位置し、「宮城図」や文献史料などから、民部省内中央北半に民部省正庁、南西部および南東部には民部省の被官である主税寮と主計寮が位置する。

民部省跡における調査は昭和48年(1973)の古代学協会の調査(文149)に始まる。この調査は同校のプール建設に伴って実施された発掘調査であり、調査では民部省南面築地ならびに築地南端に沿って瓦が多量に落下した状況などが明らかにされた。これは平安宮跡における築地検出例の初例であり、平安宮跡の調査研究にとって画期的な調査と評価できる。

この後、昭和56年(1981)の調査1までは実質的に民部省跡における調査は行われていない。1981年以降は当研究所が主体となって調査を進めており、後述する成果を挙げている。

2 遺構

発掘調査2件、試掘調査1件、立会調査5件の各調査を実施した。昭和56年(1981)に実施した調査1では平安時代前期の遺物を多量に含む土壌を、京都市立二条中学校敷地内で昭和58年(1983)11月から翌年2月にかけて実施した調査2では民部省南面及び西面築地を検出した。

調査1 (244 文214-4) 民部省北東部該当箇所で実施した発掘調査である。調査区の大半が江戸時代に属する池によって削平を受けていたが、調査区北端部で平安時代前期に属する土壌を1基検出した。土壌SK12は東肩口が池により削平を受け、北肩口は調査区外にある。検出面での規模は東西約2.5m、南北約2.7m、深さは約1.0mある。土壌からは平安時代前期に属する多量の遺物が出土したが、その大半は瓦類で軒丸瓦、軒平瓦も多い。半面、須恵器や緑釉陶器はほとんどなかった。

調査2 (471 文235-2 図版69~71) 京都市立二条中学校の校舎建て替えに伴って、発掘調査を実施した。調査地点は民部省主税寮南西部に該当する。

調査区内の基本層序は現代層が厚さ約0.3m、その下に茶褐色泥砂層が厚さ約0.2m堆積して遺構検出面(暗褐色混礫泥砂層)に至る。茶褐色泥砂層には土師器を包含するが細片のため時期は不明である。暗褐色混礫泥砂層には弥生時代中期の土器、古墳時代前期の土師器、古墳時代後期の須恵器が含まれている。

検出した遺構には民部省南面・西面築地、柱列、土壌などがある。

築地は西面が南北16m、南面は東西38mにわたって確認した。築地の

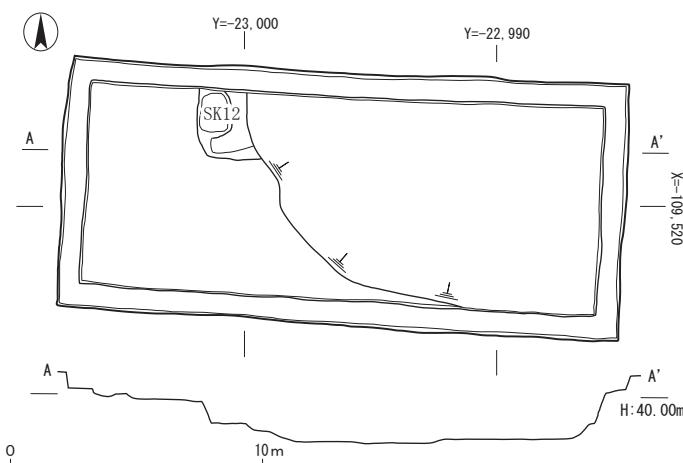


図98 調査1 調査区実測図(1:300)

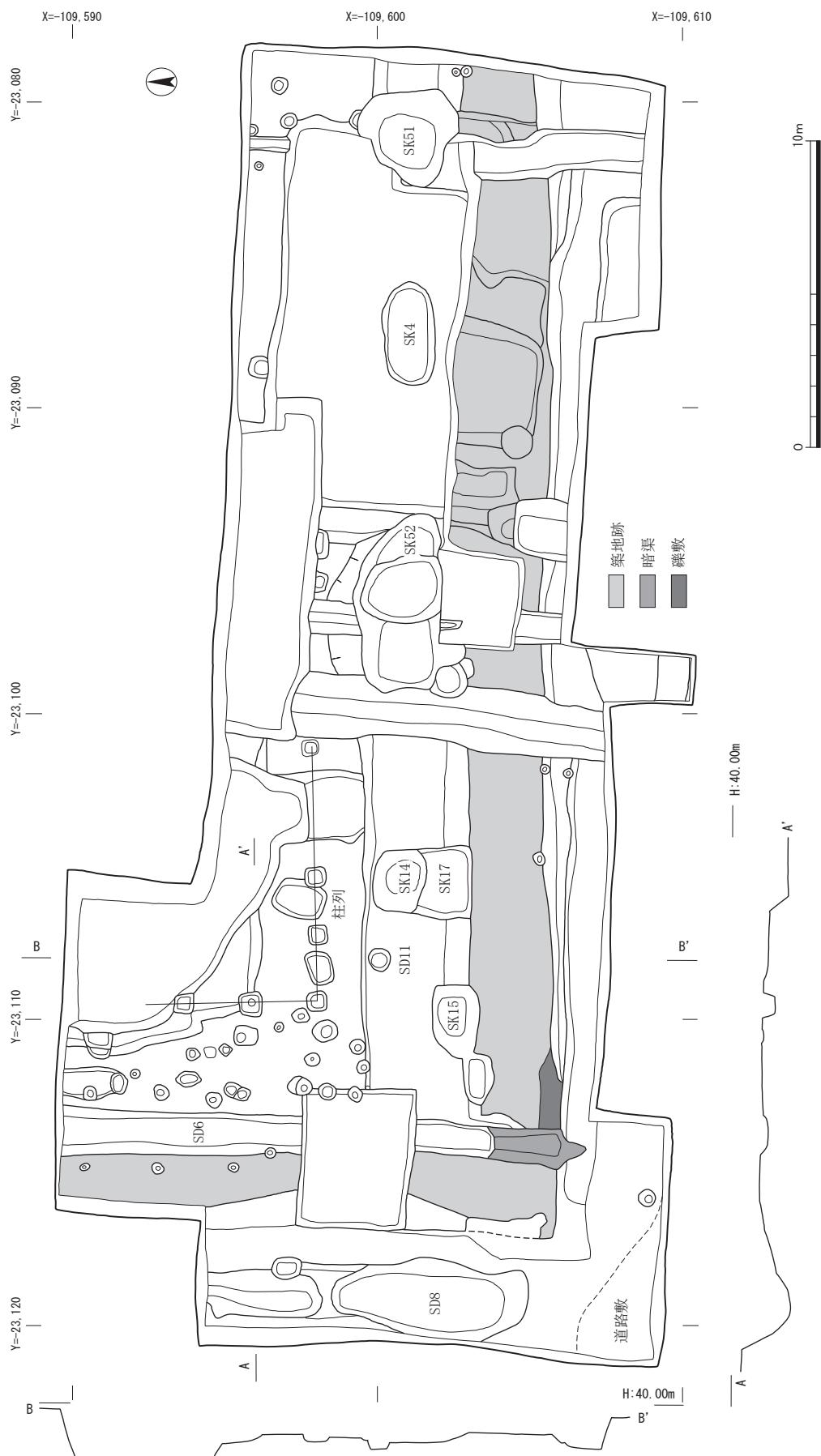


図99 調査2 調査区実測図(1:200)

基底部は地山を削り出して成形し、断面は台形を呈する。幅は南面築地で上端 2.4m、下端 4.2m、西面築地で上端 1.6m、下端 4.2m、現存高は 0.3m ある。

築地に付属する溝のうち、内溝は南面・西面ともに認められたが、外溝は西面のみに認められた。また、西面築地の内溝が南面築地の内溝を切った状態で検出した。

西面築地の内溝 SD6 は幅 1.4m、深さ 0.4m あり、南面築地下は暗渠となる。暗渠部分は肩部が二段になり、上段は浅く平坦で、そこに石か板を置いて蓋をしたものと思われる。暗渠が南面築地に接する部分では、瓦で補強した跡が認められた。この内溝 SD6 から、「主税□□五月一日」と墨書された灰釉陶器碗が出土している。西面築地の外溝 SD8 は築地南端付近で途切れている。幅は 2.0 ~ 2.6m あり、溝底はかなり凹凸があって南端が深くなっている。南面築地の内溝 SD11 は幅 3.4m、深さ 0.4m ある。南面築地の外溝は明確なものは未検出である。築地に沿って瓦の堆積がみられ、屋根から落下した状態を示す部分もある。昭和48年(1973)に同敷地内で実施された古代学協会の調査でも、南面築地の東側の延長部を検出し、同様な瓦の堆積がみられた。調査担当者は貞元元年(976)の地震によって築地が倒壊した際に崩落したものであろうと推測している。また、築地隅部の外側で、路面と考えられる径 1 ~ 2cm 大の小礫を固く叩きしめた面を確認した。

築地内側で検出した遺構には柱列と土壙がある。柱列は東西 4 間・南北 2 間分を検出した。東と北は近世以降の掘込みにより削平されているので、規模・構造を明らかにすることはできないが、主税寮に伴う建物の可能性がある。

土壙は南面築地に沿ってほぼ等間隔に 5 基 (SK15・14・52・4・51) 検出した。SK15 は検出面で東西 2.4m、南北 1.6m、深さ 0.9m ある。いずれの土壙からも遺物整理箱にして 50 箱前後の遺物が出土しており、その 80%以上が瓦で占められている。南面築地の外側では瓦の堆積がみられ、築地屋根からずり落ちたような状態のところもあったが、内側では瓦の堆積はみられず、崩落した瓦はきれいに集められて土壙を掘って埋められたものと思われる。

調査 3 (699 文 243) 二条中学校校舎改築に伴う立会調査である。現地表下 0.9m で、2 層の瓦堆積層を検出した。下の瓦堆積層は平安時代後期に属する。以下 1.25m まで平安時代の遺物包含層を検出した。

3 遺物

調査 1・2 からは平安時代に属する遺物が多量に出土している。このうち、調査 2 出土遺物について概要を示す。

遺物の大半は南面築地の南の瓦堆積とその築地内側で検出した土壙から出土した瓦類である。軒瓦には、藤原宮式、平城宮式、長岡宮式に属するものが多く出土している。

土器類は土壙および築地内外溝から多量に出土した。遺物内容は、土師器では皿・

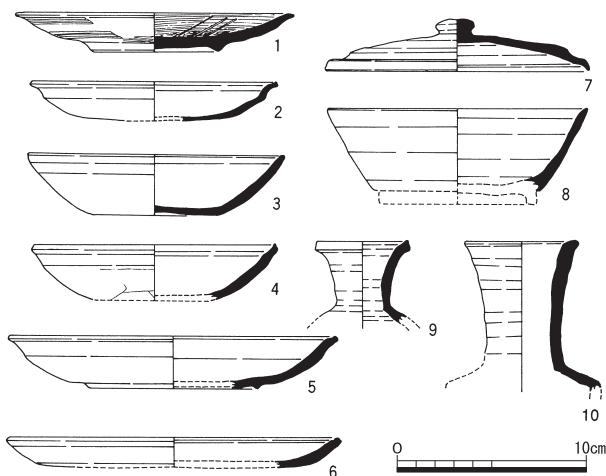


図 100 調査 2 SD11 出土土器 1 黒色土器
2 ~ 6 土師器 7 ~ 10 須恵器 (1:4)

杯・高杯・甕、黒色土器では椀・皿・甕、須恵器では皿・杯・鉢・壺・瓶子・甕、灰釉陶器では椀・皿・薬壺・風字硯、緑釉陶器では椀・皿・耳皿などがある。特筆すべき遺物には土師器・灰釉陶器の椀に文字を線刻・墨書したものがある。また、製塩土器が比較的多く出土した。

4 小結

調査2で検出した築地は民部省跡の南面・西面築地であることが確認できた。また、「主税」という役所名を墨書きした土器の出土は、民部省南西部に主税寮が所在したことを裏付ける資料として重要である。

調査2で検出した条坊データから民部省の南面築地は冷泉小路北築地延長線とほぼ一致することが判明した。また、中務省跡や造酒司跡の調査例から中御門大路の宮内延長路の路幅は10丈であることがほぼ確定されており、他の大路の宮内延長路についても10丈であることはほぼ間違いない。したがって、太政官と民部省の間の大炊御門大路についても路幅10丈としてよく、民部省の北面築地は大炊御門大路の南築地と一致することが想定できるので、民部省の南北幅は40丈となる。一方、民部省の東西幅については、「宮城図」では太政官・中務省・民部省の東西幅はともに「五十六丈余」の書き込みがあり、この三つの官衙の東西幅は同一であることが分かる。調査により中務省の東西幅が約57丈であることが判明している。このことから、民部省の東西幅も約57丈としてよい。

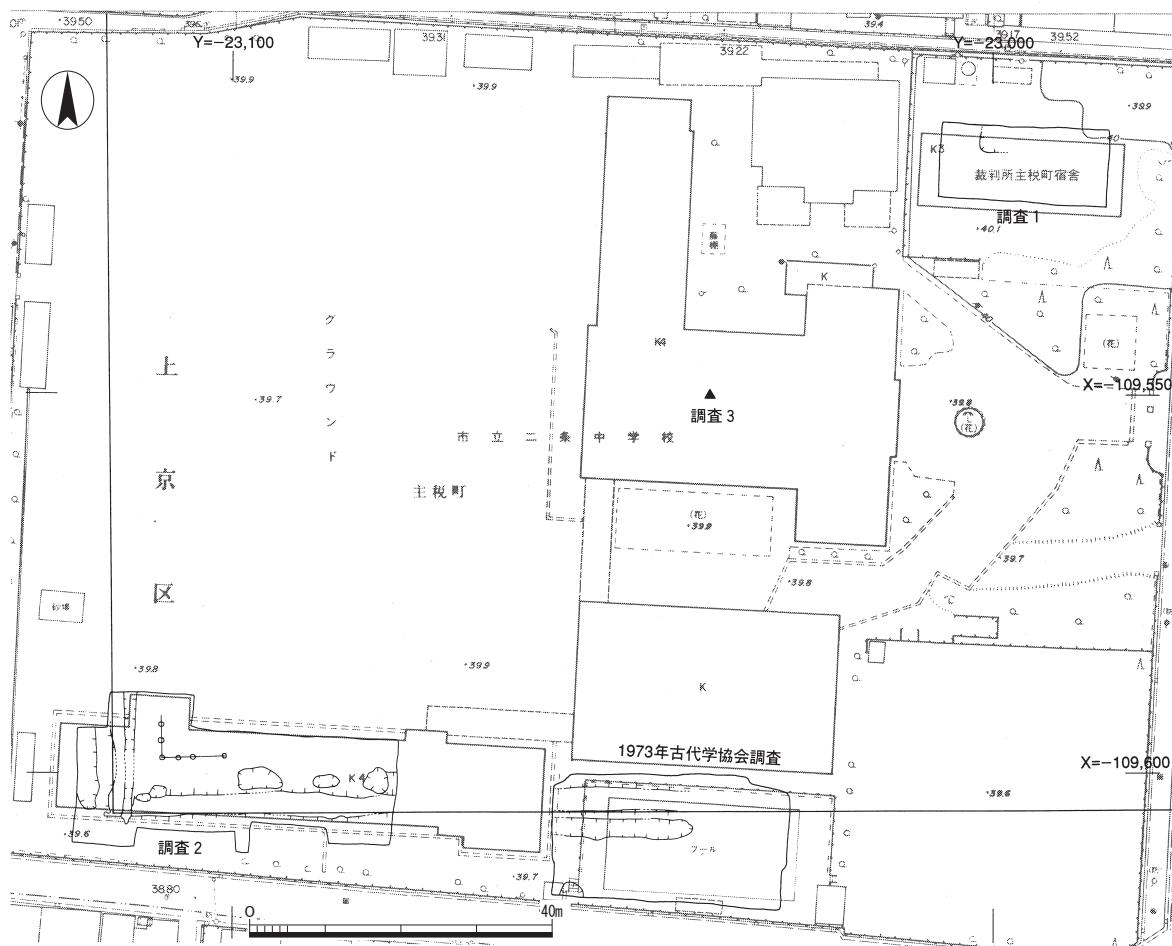


図 101 民部省跡遺構配置図 (1:1,000)

4 造酒司跡

1 経過

平安宮造酒司跡で当研究所が実施した発掘調査は過去 6 回に及ぶ（付章 2 参照）。調査地点はいずれも京都市中京区聚楽廻松下町に所在し、京都市が管理する土地である。

当該地は江戸時代には松平氏の武家屋敷、大正時代には施薬院があり、その後中央市民病院・市立看護短期大学などが置かれていた。全体の敷地は七本松通から下の森通間の東西約 151m、丸太町通から北へ約 87m までの間で、総面積は約 13,000 m²である。この敷地は推定造酒司のほぼ南半部に該当する。

造酒司での最初の発掘調査は、保護課によって昭和49年(1974)に実施された。^{文139-1} 調査地点は旧京都市経済局計量検査所建物の東側空地、今回報告する調査 1・4 の調査区西側に位置する。調査では近世の遺構と平安時代の柱穴が数基検出された。柱穴は調査範囲が狭く建物として把握するに至らなかった。しかし造酒司跡で将来的に建物遺構などが検出されることを示唆する調査成果であった。

その後、京都市による病院跡地の再利用計画が具体化するに伴い、当研究所が調査 1 から調査 6 までの発掘調査を順次実施することとなった。敷地内に京都市によって計画された建物は、社会教育総合センター（現京都アスニー）・中央図書館・休日急病診療所・保育所・計量検査所などである。

調査 1・2 は、先の調査に続く試掘的要素があり、旧病棟を残した状態で調査を行った。検出した平安時代の遺構には土壙と溝がある。調査 3 の時点で建設用地が確定したこと、その用地全面を対象とした調査が可能となった。成果としては平安時代の溝の一部を検出した。調査 4 は造酒司の南中央部分に該当し、造酒司の施設として位置付けられる明確な建物・溝を検出し、調査 5 でも新たに建物・土壙・溝を検出した。調査 6 は先の調査成果を補足したもので、2 条の溝の延長部分を確認した。

発掘調査の他に造酒司および隣接地で実施した試掘・立会調査は 10 数件ある。平安時代の遺構を検出したのは 1 例（調査 7）のみであり、発掘調査で検出した溝の延長部を再確認した。

2 調査の概要

調査 1 (3 文 163 図版 72-1) 調査地点は丸太町通の北約 40m、敷地全体の中央部で、旧病院廃舎の南側空地に位置する。昭和51年(1976)に保護課が実施した調査区のすぐ東側である。調査区は幅 5m で、東西 40m、南北 15m に設定した。

層位 この地区は病院閉鎖後に多量の積土があり、現地表は当時より約 1.5m 高くなっている。積土層以下には市民病院時の整地層が厚さ 0.2m、近世以降の耕作土層が厚さ 0.2m 堆積する。地山は淡黄褐色砂泥層と黄灰色砂礫層からなる。地山上面は東西方向にはほぼ水平で、南北方向では約 0.3m の高低差があり、北が高い。平安時代の遺構は地山上面で検出している。

遺構 平安時代の遺構は土壙 SK1・2 の 2 基がある。土壙 SK1 は調査区の東端、土壙 SK2 は同西端部で検出した。土壙の規模は北側に廃屋があるため拡張できず未確認である。

室町・江戸時代の遺構には溝、柵、土壙がある。

調査2 (4 文 163)

図版 72-2) 調査地点は仮設の急病小児科診療所の建設予定地である。七本松通に面し、丸太町通から北へ約 20m の地点に位置する。調査区

西辺には造酒司東面築地が推定できた。調査時に敷地北側に木造建物があり、残土搬出が不可能であったことなどからやや不規則な調査区を設定した。

層位 調査区南側では旧病院時の整地層が厚さ 0.5m、近世の耕作土層が厚さ 0.2m あり、耕作土層下は室町時代以降の遺物包含層である暗黄褐色泥砂層が堆積しており、同層の厚さは調査区北端では 0.1m、南端では 0.5m ある。地山は淡黄褐色砂泥層と黄灰色砂礫層で、調査区の西辺以外はすべて砂礫層となる。地山上面の高低差は調査区北端が南端より 0.55m 高い。平安時代の遺構は地山上面で検出した。

遺構 平安時代の遺構には調査区南西部で検出した南北溝 SD1 がある。溝は造酒司東面築地外溝に推定できる。なお、皇嘉門大路の宮内延長部である道路・東側溝などは検出していない。

室町・江戸時代の遺構には溝、柵、土壙がある。溝は、調査 1 でも検出しており、この時代の土地区画を示す資料となる。また築地位置で平安時代の瓦を多量に含む瓦溜を三箇所検出したがいずれも近世の遺物が混入する。

調査3 (16 付章 2 図版 73・74) 調査地点は休日急病診療所の建設予定地である。調査 2 の南に位置し、丸太町通、七本松通に面する。調査区は診療所建設予定地のほぼ全面を対象に設定した。この調査区は造酒司跡の南東隅に該当し、築地・側溝・道路などの遺構を検出することを目的として調査を進めた。

層位 調査区の東半部と西半部では、堆積状況が大きく異なる。西半部北側は築地の推定位置で、現代積土層が厚さ 0.9m、中・近世以降の堆積土層が厚さ 0.5m あ

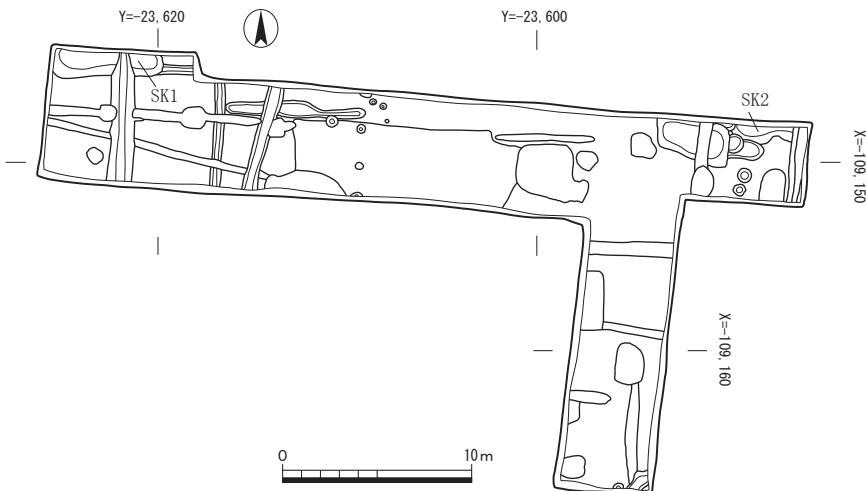


図102 調査1 調査区平面図(1:400)

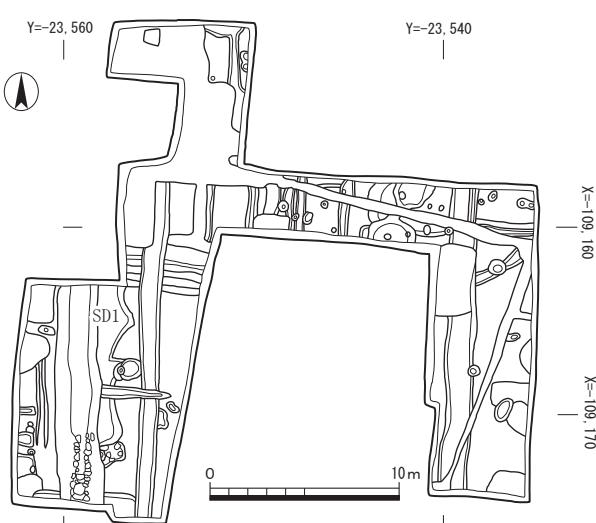


図103 調査2 調査区平面図(1:400)

り、平安時代の遺構検出面である地山の淡黄褐色砂泥層となる。築地推定部分は溝・道路部分に比べ地山が約0.4m段状に高くなる。同南側は道路・側溝の推定位であるが、当該箇所には近世の堆

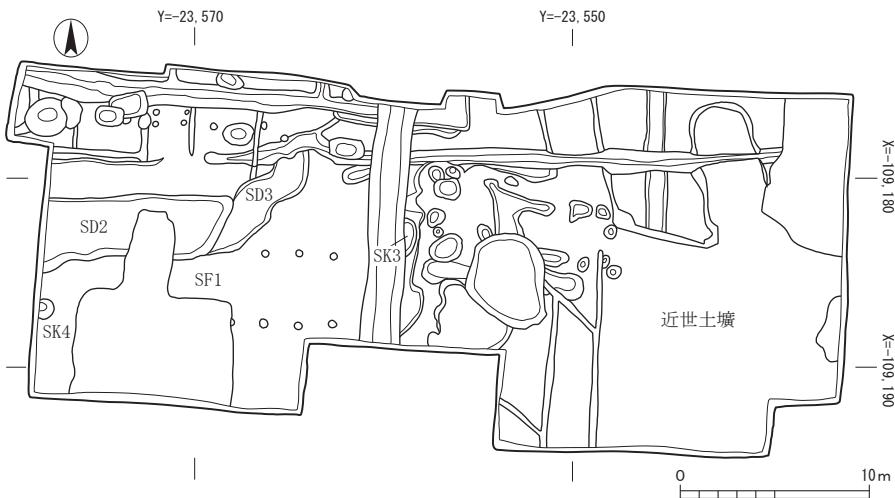


図104 調査3 調査区平面図(1:400)

積土層下に瓦と砂礫を主体とする平安時代の遺物包含層が約0.2m堆積する。調査区東半部は現代積土層下に江戸時代の遺物を含む大規模な窪みがあり、さらにその下層には桃山時代の遺物を含む砂礫層が厚さ約1.0m堆積し、現地表下約2.5mで地山の淡黄色粘土層となる。砂礫層下部からは、一連の調査で唯一豊富な湧水が認められた。

遺構 平安時代の遺構には、南面築地高まり、南面築地外溝、道路、土壙などがある。東西溝SD2は南面築地高まりの南で検出した。調査区西半部中央で途切れ、それより東の状況は前述の近世の遺構により削平を受けている。東西溝SD2の南で道路SF1を検出した。路面からは多量の瓦片が出土している。他に土壙SK3・4の2基がある。

室町・江戸時代の遺構には溝、建物、土壙などがある。主要な遺構には溝がある。造酒司の四至想定区画の南東隅該当地点で南北から東西に延長方向を変えており、平安時代の造酒司四至区画遺構に伴う溝の位置を踏襲していることも考えられる。建物は江戸時代の掘立柱建物である。溝SD3の堆積土層である砂礫層からは遺物は出土しておらず、時期は不明であるが、遺構の重複状態などから平安時代以前の遺構と考えられる。

調査4 (19 付章2 図版75～80) 調査地点は京都市社会教育センター、中央図書館の建設予定地で、丸太町通に面し、敷地全体の東西中央部に位置する。この地区は造酒司南東部に該当する。この調査では、調査3で検出した東西溝SD2、道路SF1の西延長部の検出が予測できた。調査区は調査1の調査区を囲む形で大きく2区に分けて設定した。調査面積は2,100m²で、一連の調査のなかでは最も広い調査区である。

層位 調査区南部の東西溝・道路部分は調査3での南部と同様の堆積状態を示しており、平安時代中・後期の遺物包含層下で平安時代前期の遺構を検出した。築地推定部分も調査3と同じく道路部分より一段高くなる。調査区北端では中・近世の遺物包含層が削平を受け、現代積土層下は地山の淡黄褐色砂泥層となる。調査区の北端から南端までの距離は約53mあり、地山上面は北が約1m高い。

遺構 平安時代の遺構には、倉庫と考えられる掘立柱建物SB1、柵SA2、土壙SK5～17、溝

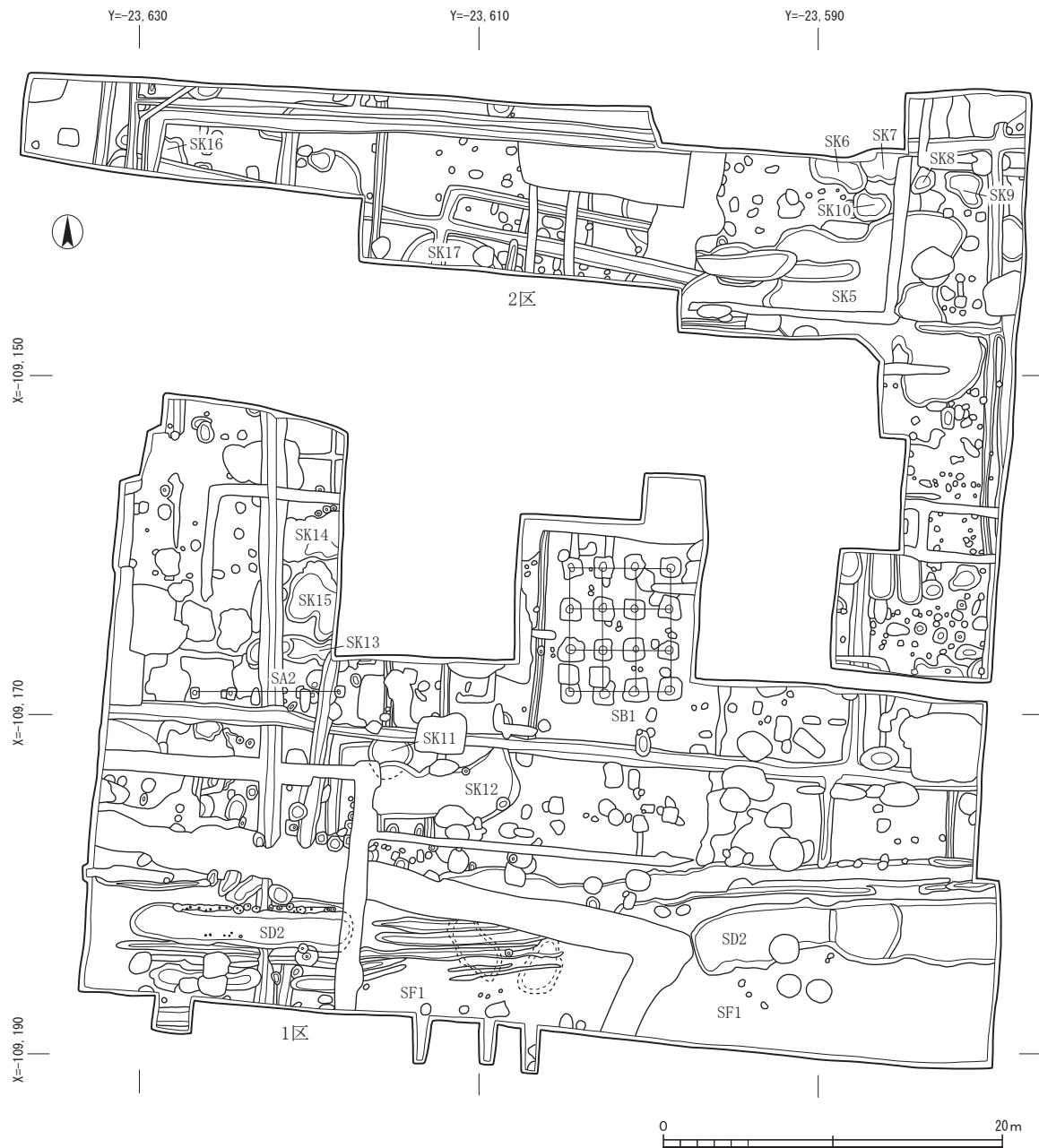


図105 調査4 調査区平面図(1:400)

SD2、道路SF1などがある。調査3で検出した築地部分の高まりと東西溝SD2と道路SF1は東西方向の遺構で、溝SD2の肩口では一町の東西中央部で杭列を検出している。土壙や溝からは一括遺物が出土した。また、SA2の南でも土壙を検出している。

室町・江戸時代の遺構には、調査1から調査3で検出した各溝の延長部、掘立柱建物、土壙、柵、井戸がある。

調査5 (34 付章2 図版81～83) 調査地点は聚楽保育所の建設予定地である。丸太町通の北約50m、下の森通に面し、敷地全体の北西部に位置する。この地区は造酒司西辺部のほぼ南北中央に該当する。

層位 調査区南半は現代積土層が厚さ0.6m、近世の耕作土層は厚さ0.3m堆積し、耕作土層下は地山となる。地山には黒褐色粘土およびその下層に淡黄褐色砂泥層が堆積する。黒褐色粘土層

はこの調査区のみに堆積する土層である。敷地全体の地形を概観すると、この調査区はやはり窪地に該当するため、先に示した黒褐色粘土層が堆積したものと考えている。したがって、当該地域のみは後世の削平を免れたと考えられ、実際に、検出した平安時代の遺構数も他の調査区に比べて多い。調査区北半は、調査4と同じく近世までの堆積層は削平を受け、厚

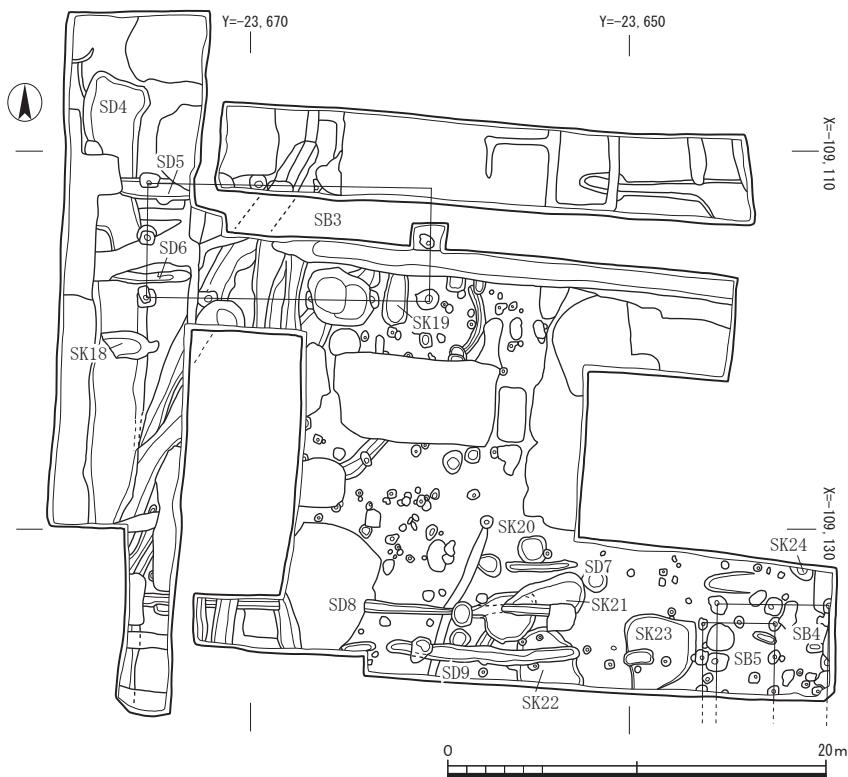


図106 調査5 調査区平面図(1:400)

さ0.3mの現代積土層下は地山の淡黄褐色砂泥層となる。調査区の北端から南端までの距離は約37mあり、地山上面は北に約0.6m高い。なお、淡黄褐色砂泥層下では始良Tn火山灰層を確認した。火山灰は灰白色を呈し、厚く堆積する。

遺構 平安時代の遺構には南北溝SD4、東西溝SD5～9、掘立柱建物SB3～5、土壙SK18～24がある。南北溝SD5は造酒司西面築地内溝推定位置に該当する。土壙SK21～23は小規模な東西溝を伴い土器と炭を多量に包含する。

平安時代以前の遺構には北東から南西方向に延長する溝があり、砂礫層が堆積する。

室町・江戸時代の遺構には溝、柱穴、土壙、井戸、土壙墓がある。

調査6 (63 付章2 図版84) 調査地点は計量検査所の建設予定地である。敷地全体の南西角に位置し、造酒司南西角に該当する。調査区は調査5で検出した南北溝SD4の南延長部と、調査3・4で検出した東西溝SD2の西延長部の2箇所に設定した。他にサブトレンチを2箇所設定し、補足調査を行っている。

層位 当該地の現況は丸太町通、下の森通より一段高まるが、近・現代積土層が厚く堆積することによる。1区では積土層が厚さ約0.7m、近世の耕作土層が厚さ約0.2m、耕作土層下は地山の淡黄褐色砂泥層となる。2区では積土層

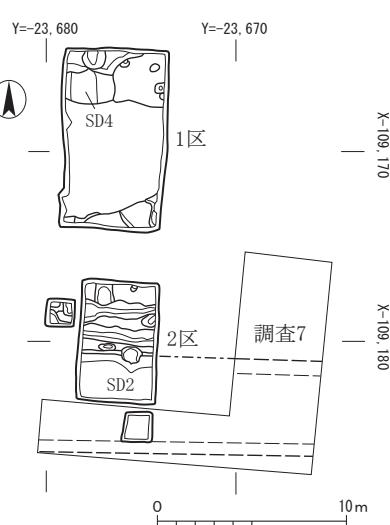


図107 調査6 調査区平面図(1:400)

が厚さ約1.3m、近世耕作土層が厚さ約0.3m、耕作土層下は地山となる。地山上面で平安時代の遺構を検出した。

遺構 想定していた位置で平安時代の遺構を検出することができた。検出した遺構には東西溝SD2、南北溝SD4がある。また、柱穴を1基検出している。

室町時代の遺構はSD2上面で同溝に平行する溝を数条検出している。

調査7 (215文206) 造酒司の四至を含めた区画内での試掘・立会調査は9件あるが、平安時代の遺構を検出できた調査は、調査7の1件のみである。

調査7は調査6の南東部に位置し、側壁と門施設の改築に伴い実施した立会調査である。工事面積は170m²である。調査では、調査3・4・6で確認した東西溝SD2の延長部分を検出した。

なお、敷地に北接する地域は地形的には微高地状を呈する。当該地域は造酒司跡北半部に該当するが、立会調査では一部で遺物包含層を検出したのみであり、遺構は検出できなかった。調査4・5の北部の状況と同様に上部層が削平されたものと考えられる。

3 検出遺構の概要

平安時代の遺構で溝、道路は各調査区にまたがるため、それらは同一遺構番号で示すこととする。ここでは平安時代の遺構のみを取り上げる。

建物SB1 (図版78) 調査4の中央部で検出した3間×3間の総柱掘立柱建物である。建物の平面形は南北にやや長い。建物規模は南北7.2m、東西6.0mあり、柱間は南北方向が1間2.4m、東西方向は西1・2間が1.96m、東1間分は2.08mである。柱穴の掘形は方形を呈し、一辺が1.1～1.4m、深さ0.26～0.36mである。柱痕跡から柱径は40cm前後に復原できる。柱穴イ・ロ・ハには凝灰岩・川原石の根固め石を伴う。南側柱筋は柵SA2の東延長上に位置する。この建物は総柱建物であり、倉庫と考えられる。柱穴から出土した遺物は平安時代前期(平安京I期新)に属する。

建物SB3 (図版8) 調査5の北西部で検出した2間×5間の東西棟掘立柱建物である。SD5・6が柱穴を切る。柱穴のうち、4基は欠失し、4基は遺存状態

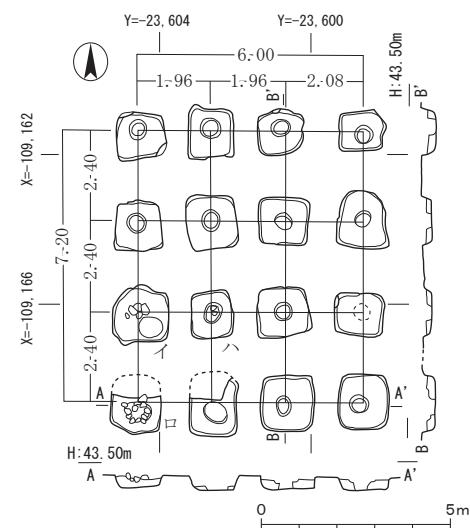


図108 建物SB1実測図(1:200)

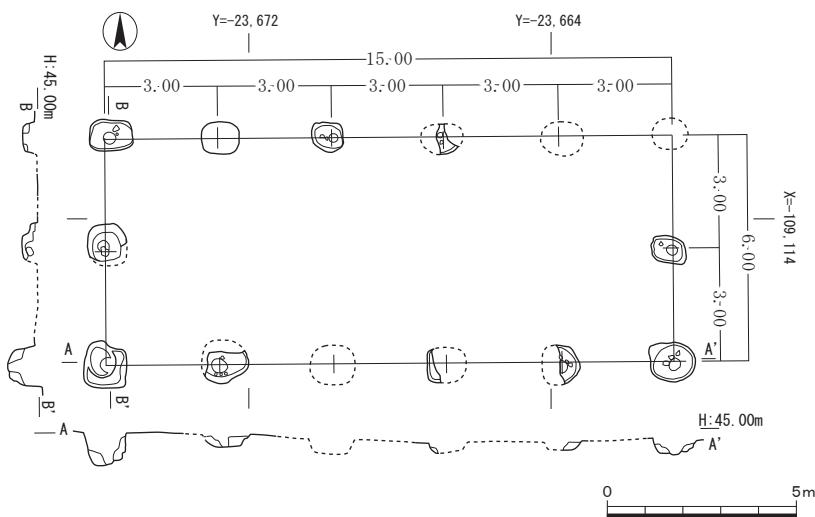


図109 建物SB3実測図(1:200)

が良好でない。柱間は桁行・梁行とも 1 間 3.0m あり、建物規模は桁行 15.0m、梁行 6.0m に復原できる。柱穴の掘形は西側柱筋の 3 基が一辺 0.7 ~ 1.0m の方形ないし長方形を呈し、その他の柱穴は上部が削平されて円形ないし不整円形を呈する。深さは 0.2 ~ 0.9m あり、南西角の柱穴は他の柱穴より約 0.3m 深い。径 0.1m 前後の根固め石を伴う柱穴が 5 基あり、そのうち西側柱筋の中央の 1 基には根固め石上で長径約 0.4m の石を検出した。この石は柱抜取穴に投棄されたものと考えられる。柱抜取穴が確認できるものは 4 基ある。柱痕跡から柱径は約 0.3m に復原できる。身舎南側柱筋から南へ約 3.0m の地点で小型の柱穴を 2 基検出した。この小型の柱穴は各々東・西側柱筋延長位置にあることから、南に庇が付く可能性もある。なお、身舎南側柱筋は造酒司南北中心線上に位置する。柱穴から平安時代前期（平安京 I 期中）に属する土器類が出土した。

建物 SB4（図版 82-1）調査 5 南東部で検出した南北棟と考えられる掘立柱建物である。建物は梁行 2 間、桁行 1 間分を検出したにとどまり、大半は調査区外にある。柱間は桁行・梁行とも 1 間 3.0m ある。柱穴の掘形は一辺が約 0.9m のやや歪な方形を呈し、柱穴にはいずれも柱抜取穴がある。深さは平均 0.5m あり、北西角の柱穴が他より約 0.2m 深い。柱痕跡から柱径は約 0.3m に復原できる。東接する保護課による調査で検出された柱穴とは柱筋が異なるため、SB4 に関しては南北棟の建物と考えられる。この建物の東側柱筋は、造酒司東西中心線より西約 17m に位置しており、これは SB1 の西側柱筋が東約 17.5m であるのにはほぼ等しい。柱穴から平安時代前期（平安京 II 期中）に属する遺物が出土した。

建物 SB5（図版 82-1）調査 5 の南東端で検出した南北棟掘立柱建物で、SB4 と重複する。建物は梁行 2 間、桁行 2 間分を検出したにとどまる。柱間は梁行 1 間 2.0m、桁行 1 間 1.8m あり、梁行柱間が 0.2m 狹い。柱穴の掘形は方形ないし橢円形を呈し、長さ 0.6 ~ 0.8m、深さ 0.2 ~ 0.3m。柱痕跡から柱径は 0.2m 前後に復原できる。柱穴からは平安時代前期（平安京 I 期新）に属する遺物が出土しており、SB4 に先行する建物である。

柵 SA2（図版 77-1）調査 4 の南西部で検出した東西方向の柵である。検出した柱穴は 4 基で、中央の 1 基は後世の溝によって削平を受ける。柱間隔は 2.1m の等間である。柱穴の掘形は東端の柱穴が一辺約 0.6m の方形を呈し、西の 3 基は南北約 0.8m、東西約 0.5m の長方形を呈する。柱穴の深さは 0.3m 前後ある。この柵は造酒司跡の東西中央に位置し、東西中心線は柵中央の欠失する柱穴位置を通る。また柵は東側に位置する建物 SB1 の南側柱筋の西延長上にあり、造酒司南面築地想定線から北へ約 8.9m に位置する。柱穴からは平安時代前期（平安京 I 期中～新）に属する遺物が出土した。

溝 SD1（図版 72-2）調査 2 南西部で検出した南北

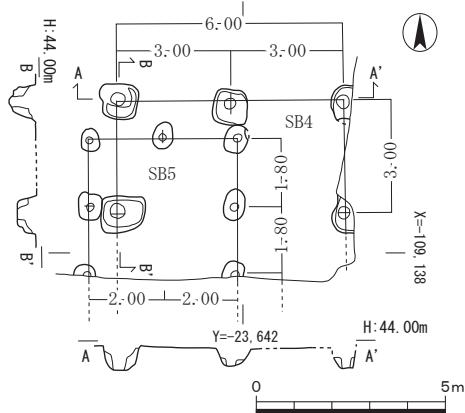


図110 建物SB4・5実測図(1:200)

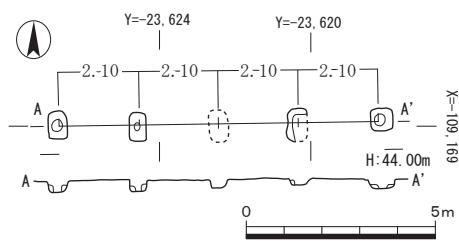


図111 柵SA2実測図(1:200)

方向の溝である。検出長は約 8.5m あり、調査区南部で途切れる。溝の西半部は平行する近世溝によって削平を受けており、東半部の幅 1 ~ 2m のみが残存する。深さは約 0.2m ある。東肩口はやや屈曲する。埋土は、上層が砂礫層で瓦を多く包含し、下層は黒褐色砂泥層が均質に堆積する。この溝は皇嘉門大路西側溝の官内延長位置にあり、造酒司東面築地外溝に該当する。溝埋土の上層からは瓦類が、下層からは平安時代前期（平安京 I 期中）に属する土器類が出土している。

溝 SD2（図版 73・74-2・80・84-2）調査 3・4・6 にまたがり検出した東西方向を示す溝で、中間の未調査部分も含めて溝の総延長は約 110m ある。溝は検出状態では 4 箇所で途切れるが、位置関係、出土遺物から一連の遺構として捉えられる。溝幅は調査 3・4 では 2.0 ~ 3.8m、調査 6・7 では 5.5m、深さ 0.3 ~ 0.5m ある。溝底面の高低差は調査 3 東端と調査 6 間では 0.8m あり、現地形と同じく西に高い。埋土は砂礫や瓦片などを多く含む上層と、下層の暗褐色砂泥層とに分けられる。上層の砂礫層は整地土層と考えている。なお、調査 3・4 で検出した溝の上面および道路部分で幅 0.3 ~ 0.4m、深さ 0.1m 前後の東西方向のやや不規則な形状を呈する溝を 10 数条検出した。溝中には砂礫層が堆積する。また、一町の東西中央部に該当する箇所の溝肩口部では杭列・柱穴を検出した。杭跡の分布範囲は溝北肩口部では幅約 10m 間、南肩口部では幅約 8m 間で、北に位置する柵 SA2 の東西長にほぼ一致する。杭跡は径 0.05 ~ 0.1m、埋土には砂礫を含む。杭跡間隔は一定ではない。柱穴は平面形が円形を呈し、径 0.5m 前後ある。柱穴は造酒司東西中心線を中心に東西幅約 4.0m、南北幅約 2.0m 間で検出している。これら杭列・柱穴は溝肩口部の護

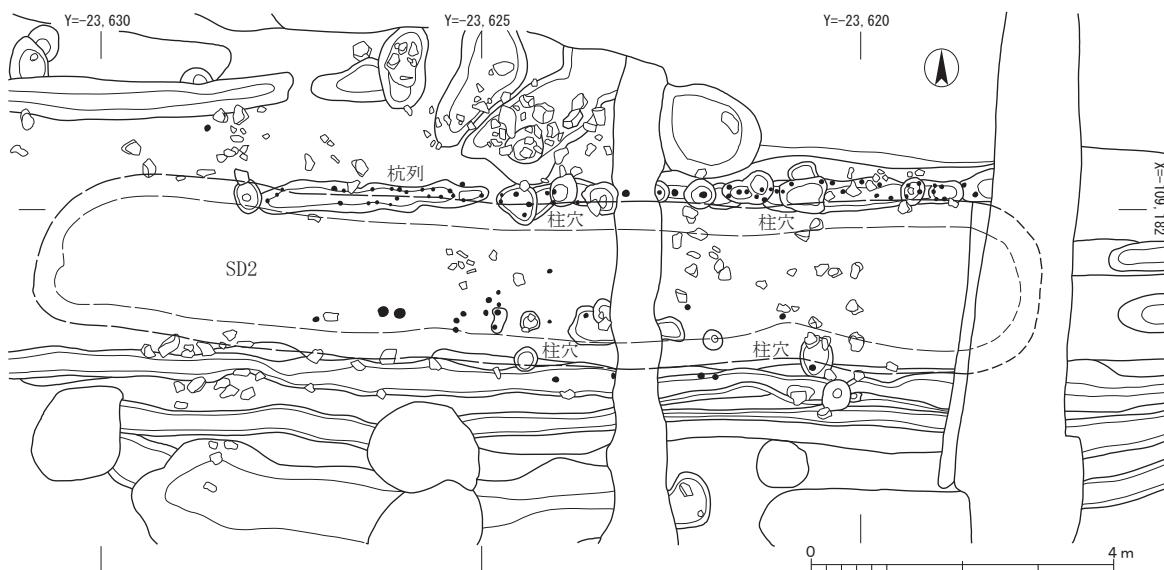


図112 溝SD2と杭列平面図(1:100)

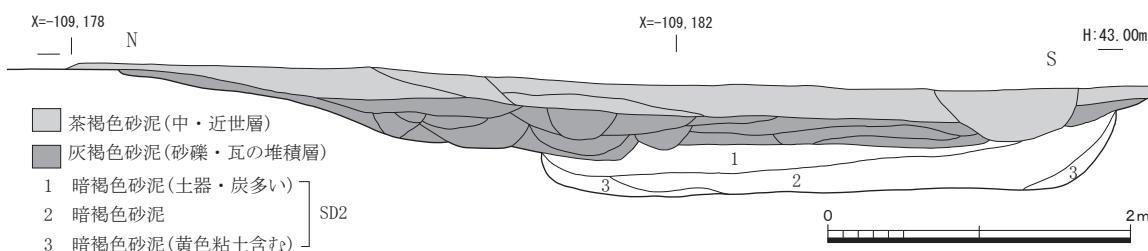


図113 溝SD2断面図(Y=-23, 587上)(1:50)

岸および橋を示す遺構と考えている。

溝 SD2 は造酒司南面築地に伴う

外溝に該当するが、南面築地心から溝北肩口間は 2.7 ~ 4.0m ある。

同築地は中御門大路北築地延長部

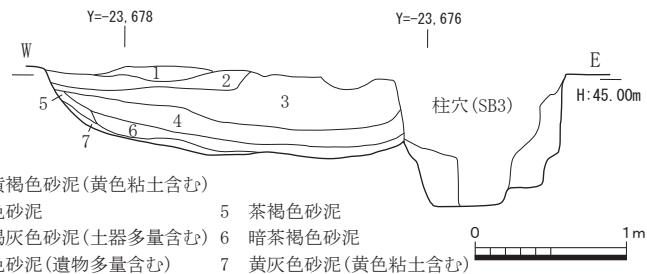


図114 溝SD4断面図(X=-109, 118上) (1:50)

と考えられることから、想定できる築地心から外溝間の幅は 8 尺 (2.4m) であろうが、検出した幅は想定幅より広い。上層からは平安時代前期から後期の土器・瓦類が、下層からは瓦類および平安時代前期（平安京 I 期中）に属する土器類（図 118）が出土した。

溝 SD4 （図版 82-2・84-1） 調査 5・6 にかけて検出した南北方向の溝で、調査 5 北端から調査 6 までの溝の総延長は未調査部分を含め約 68m ある。溝 SD4 は溝 SD5・6 および SK18 によって切られ、SB3 は SD6 によって切られる関係にある。溝幅は 2.4 ~ 3.0m、深さは最も深い箇所で 0.5m ある。溝底面は比較的平坦である。埋土は褐色ないし暗茶褐色砂泥層が堆積しており、粒子は均質である。この溝は造酒司西面築地内溝位置に該当し、築地想定線から溝西肩口までは 3.0 ~ 3.5m ある。調査 6 南側ではこの溝の南延長部は検出できず、東西溝 SD2 とは直接つながらない。平安時代前期（平安京 I 期中）に属する土器類とともに弥生時代から古墳時代に属する土器片が出土した。

土壙 SK5 ~ 17 （図版 76-1） 調査 4 で検出した不整形な土壙群で、大小 13 基ある。そのなかで SK5 が最も規模が大きく、東西約 18m、南北約 11m、深さ 0.3 ~ 0.5m あり、底部には凹凸がみられる。各土壙の埋土はいずれも黒褐色系の均質な粘質土層で、SK11 ~ 15 については上部が地山土層をブロック状に含み、人為的に埋められたものと考えられる。土壙相互の位置関係には計画性は認められない。各土壙の下層からは炭と平安時代前期の土器・瓦類が出土している。なかでも SK5 からの土器類（図 117）の出土量が多い。各土壙とも出土遺物は平安時代前期（平安京 I 期中）に属する。

土壙 SK21a・21b 調査 5 の南部で検出した重複する 2 基の土壙で、その西側には東西方向の溝を伴う。SK21a は一辺が 2.5m の不整な方形を呈し、深さ約 0.2m ある。SK21b は SK21a の廃絶後に掘られたもので、長径約 4.5m の不整な橢円形を呈する。底部は西から東に向かって深くなり、東端では 0.6m ある。2 基とも埋土には炭を含み、土器類が多く出土した。2 基の土壙に伴う溝 SD8 は SK21a、SK21b に対応して同じ所に掘りなおされており、SK21a、SK21b に対応する。溝は西面築地に向かって延びており、検出延長は 18m ある。溝底面には黄色粘土を貼ったような状態が一部認められた。SK21a に伴う溝は幅 0.5m、深さ 0.45m で断面形は逆台形を呈する。SK21b に伴う溝は幅約 0.6m、深さ 0.25m で断面形は緩やかな U 字状を呈する。溝は東に向かってわずかに傾斜しており、土壙への導水路的な用途が考えられる。出土遺物は SK21a が平安京 I 期中、SK21b が平安時代 I 期新である。

土壙 SK22 （図版 83-1） SK21 の南側で検出した土壙で、SK21 と同様その西側に溝 SD9 を伴う。土壙 SK22 は平面形は不整な方形に想定でき、東西幅約 0.3m、南北幅 2.8m、深さ 0.26m ある。

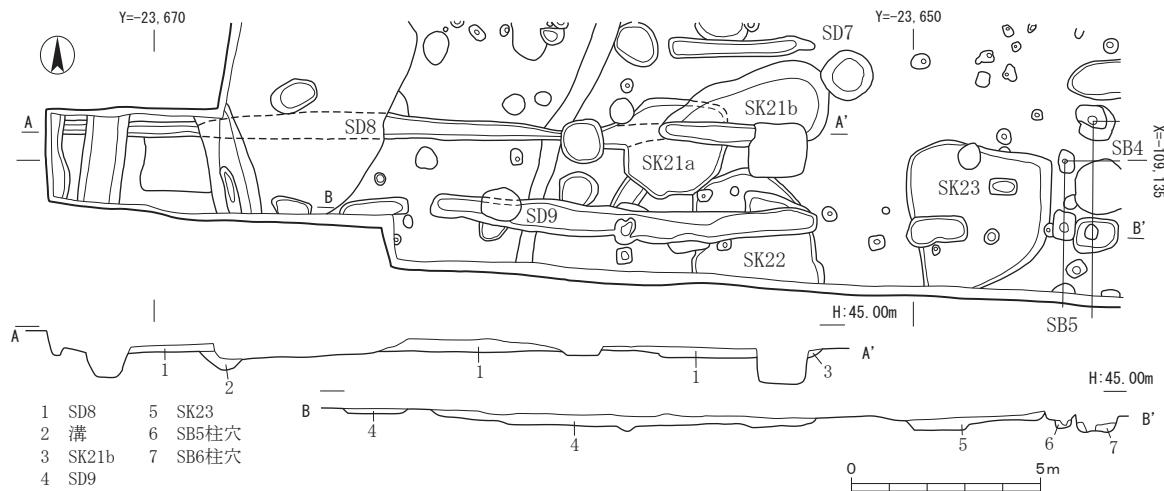


図115 調査5 土壙・溝実測図(1:200)

埋土に炭を含み多量の土器類が出土した。溝SD9は東西方向で検出長は約12mある。溝肩口の形状は不整で一部途切れる。幅約0.8m、深さ0.35mある。埋土には炭を多く含む。溝は土壙東端で途切れ、その東に位置する土壙SK23と関連すると考えられる。出土遺物には瓦・土器類(図119)と饒益神寶が1枚ある。時期は平安時代前期(平安京II期中)である。

土壙SK23 (図版83-2) 土壙SK22の東側で検出した土壙で、平面形は不整な方形を呈する。東西幅3.7m、南北幅3.8m、深さ約0.2mある。土壙西辺に東西長1.5m、南北幅0.7m、深さ0.8mの窪みを伴う。埋土には多量の炭と土器類(図119)を包含する。遺物の時期は平安時代前期(平安京II期中)である。

道路SF1 (図版74-1・79) 調査3・4・6の南辺で検出した東西方向の道路跡で、中御門大路の宮内延長部に位置する。未調査部分も含めて検出した道路の総延長は約110mある。路面には砂礫、瓦片を粗く敷き詰めており、特に溝SD2上面とその付近が厚く顯著である。出土した瓦類の大半がこの道路部分からで、平安時代前期から後期のものまでを含む。

なお、前述した調査4南西部の築地外溝・道路部分では砂礫を埋土とする東西方向の小溝を10数条検出したが、溝SD2の杭列部分では検出していない。この溝は形状・埋土などから水路とは考えがたく、やや幅広であるが、轍跡と考えるのが妥当であろう。

4 遺物

調査1~6で出土した総遺物量は遺物整理箱にして472箱になる。遺物内容は平安時代の遺物が大半で、瓦類がもっとも多い。中・近世の土器類は少ない。瓦類の多くは道路部分から出土しており、二次的に移動されたもので



図116 出土瓦拓影(1:4)

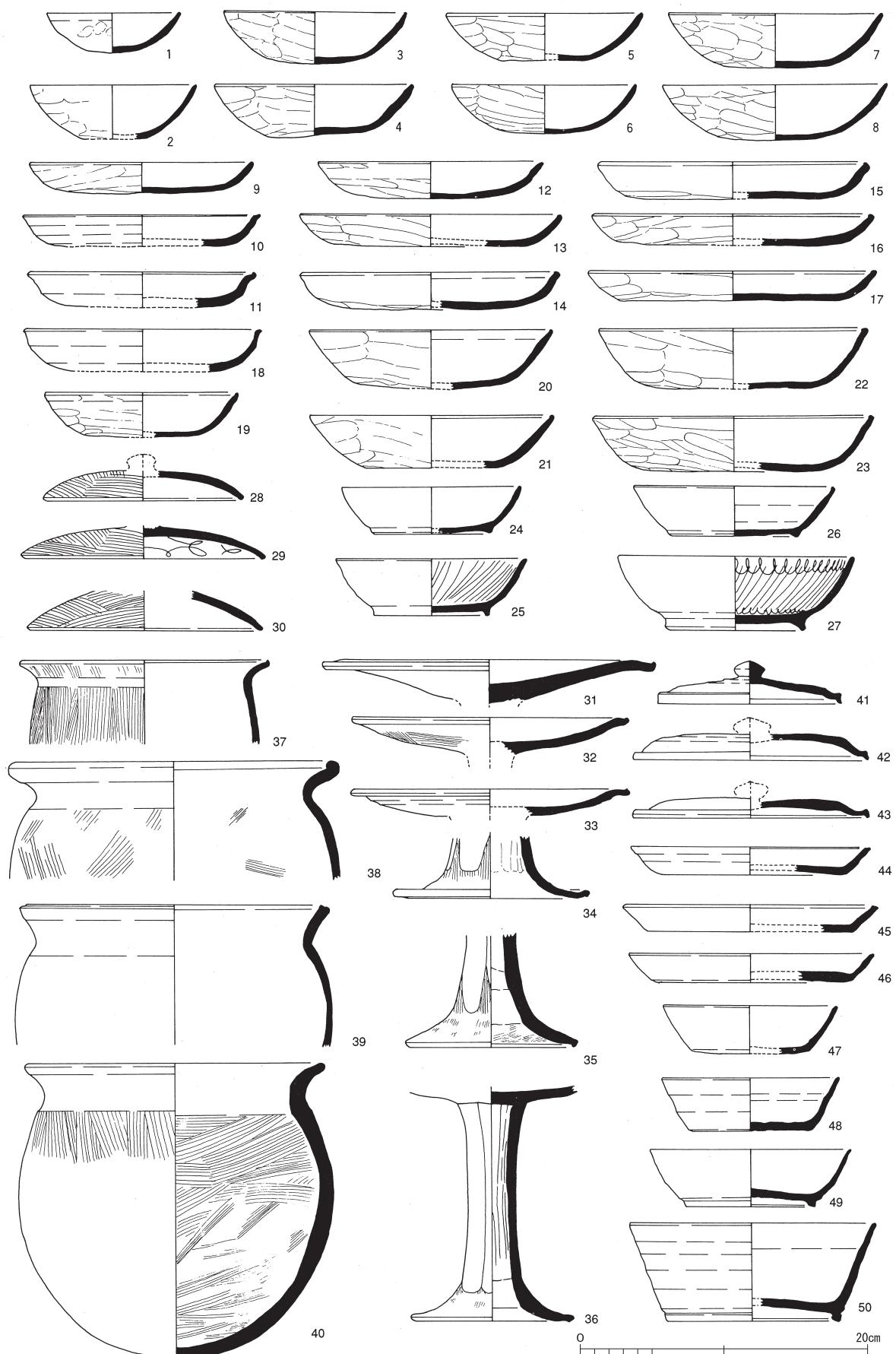


図 117 土壙 SK5 出土土器 1～40 土師器 41～50 須恵器 (1:4)

ある。土器類は溝、土壙から出土した一括遺物の割合が多い。その他、凝灰岩片は柱穴や調査3・4の築地位置から加工痕の残る大きな破片が出土している。SK22からは、宮内では出土例の少ない錢貨・饒益神寶（859年初鑄）が出土している。また弥生時代から古墳時代にかけての土器片が調査4・5の平安時代の溝、土壙から少量出土している。

瓦類 平安時代の瓦類のうち軒瓦の総数は170点（軒丸瓦55、軒平瓦115）鬼瓦が3点ある。軒瓦のうち藤原宮・平城宮・長岡宮型式の搬入瓦が23点、平安京造営期の軒瓦には岸部・西賀茂・栗栖野瓦窯跡で出土した製品と同文瓦が20点あり、そのうち緑釉軒瓦は10点ある。しかし、

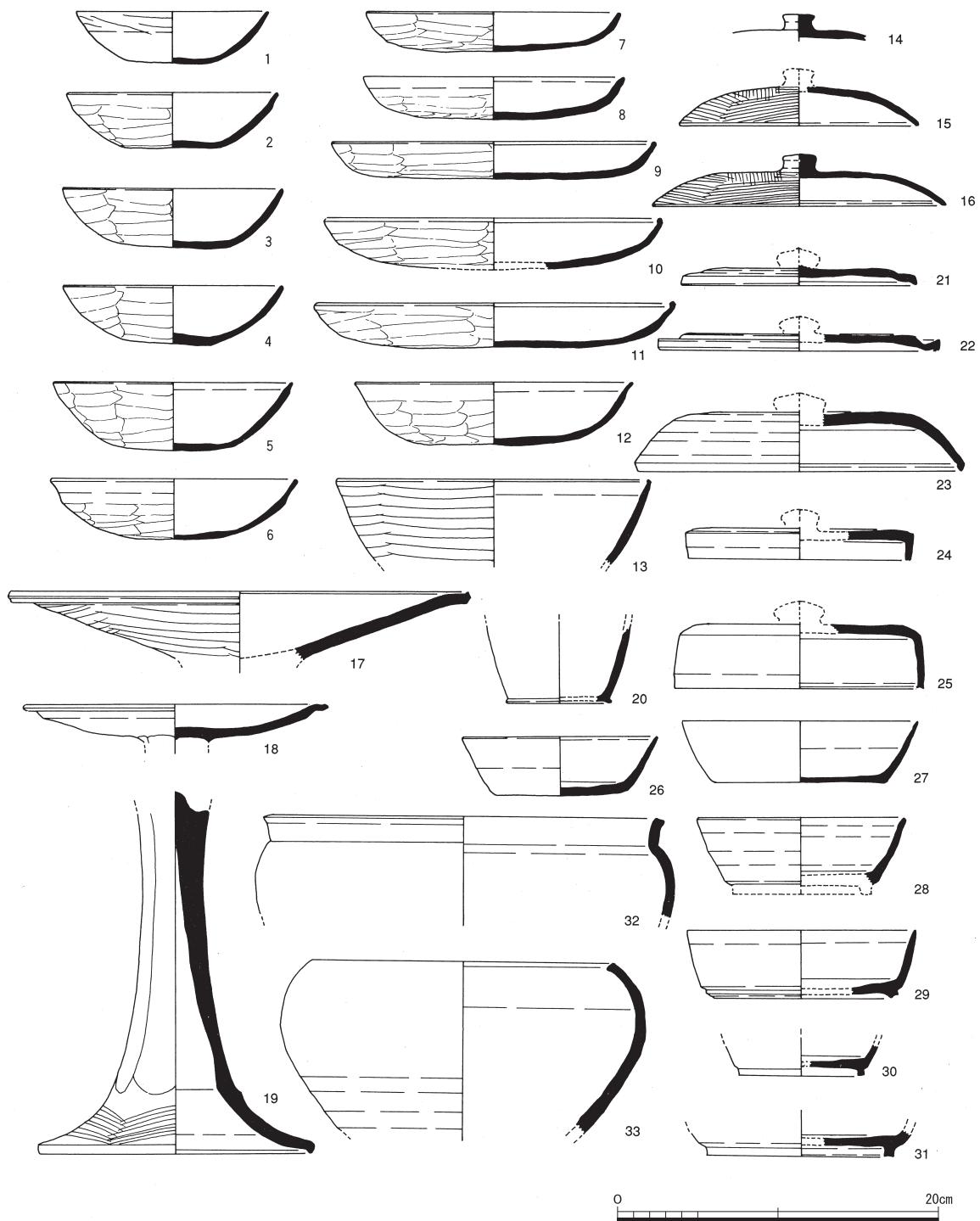


図118 溝SD2出土土器 1～20 土師器 21～33 須恵器 (1:4)

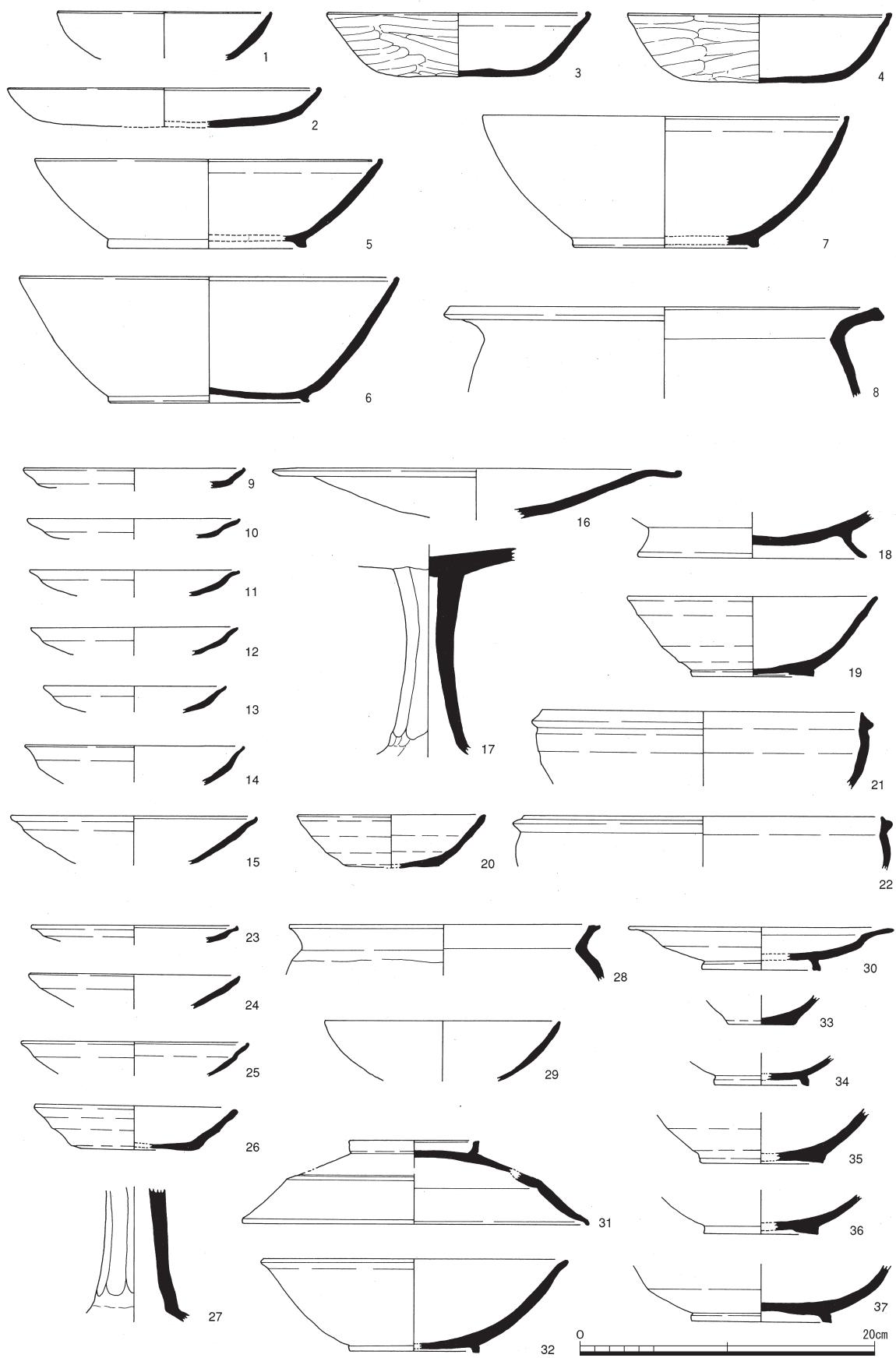


図 119 土壙 SK12・22・23 出土土器 SK12 1～8 土師器、SK22 9～18 土師器 19 緑釉陶器 20～22 須
恵器、SK23 23～28 土師器 29 黒色土器 30～37 緑釉陶器 (1:4)

造酒司跡区画内で平安時代の遺構に伴って出土した軒瓦はわずか14点である。

主なものは図116に示した。緑釉単弁八葉蓮華文軒丸瓦(1・2)は調査4の道路SF1で出土した。^{文161}均整唐草文軒平瓦(3)は土壙SK5から出土した。西賀茂角社東群瓦窯跡出土のものと同範である。^{文161}緑釉均整唐草文軒平瓦(4)は調査3の2下層から出土した。幡枝栗栖野瓦窯跡出土のものと同範である。3・4とも平安時代初期の一括土器群と共に伴っている。鬼瓦(5)は調査4の道路SF1から3点の同範鬼瓦が出土しており、そのうちの1点を示した。

土器類 平安時代初期の土器類は建物SB1・3、柵SA2、溝SD1・2・4、土壙SK1・5~17などから出土しており、なかでも溝SD2・土壙SK5からは一括遺物が出土した。土師器では杯・皿・椀・蓋・高杯・壺・甕・竈などがある。杯B、高杯、蓋の一部には内面に放射・ラセン状暗紋を施すものが含まれており、平安京内の遺跡では特徴的である。竈は溝SD1、土壙SK1・5から出土した。須恵器では杯・皿・蓋・壺・鉢・甕・硯・横瓶が出土している。

平安時代前期から中期初頭までの土器類は調査5に集中し、土壙SK22・23から一括出土した。器種は土師器、須恵器の他に黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器などの割合が多くなる。特殊なものに土師器では竈、須恵器では硯、灰釉陶器では線刻された鳥形硯の蓋、白磁椀などがある。

各遺構から出土した遺物は、平安時代初期のものが多く、溝、建物、調査4の土壙群など比較的広範囲に認められた。造酒司跡想定区画内から出土した遺物の中で、最も時代の下る9世紀後半から10世紀初頭にかけての遺物は、調査5南東部の土壙、建物で認められ、それ以降の遺物は想定区画外に位置する道路SF1以外には認められない。文献上では、永く「造酒司」の記載がみられるが、実際にこの地で造酒司がいつまで機能していたかが残された課題である。

出土した竈については、『延喜式』には造酒司の年料・節料の雑器のなかに「韓竈二具」などの記載が数例と「竈神」四座が祀られていたとあり^{註1}、その関連性が注目される。竈の具体的な使用形態は知り得ないが、造酒司の実態を考えるうえで興味ある資料である。

5 小結

検出した主要な遺構の性格について考えてみたい。

建物 建物遺構は柵を含め5例ある。柵SA2は南面築地想定線から北へ8.9m(3丈)に位置し、柵中央に造酒司東西中心線が通る。また建物SB1の南側柱列はSA2の東延長上にあり、その西側柱筋は一町の東西中心線から東18.0m(6丈)にある。建物SB3は、南側柱筋が造酒司の南北中心線上にあり、東妻柱筋は東西中心線より西38mに位置する。これらのことから少なくとも前期の段階では造酒司全体(40丈四方)を対象にした計画的な建物配置がなされていることがわかる。建物SB4・5については、時期が下るが、建物SB4の東側柱筋は東西中心線の西17mにあり、SB1の西側柱筋との距離とほぼ等しい。他に保護課の調査で検出した南北方向の柱穴はSB4・5の南にあり、別の建物に伴う柱穴と考えられる。

建物遺構のうち比較的性格が明確なものは柵SA2、建物SB1である。柵SA2は溝SD2との間に南門の存在が考えられることから、柵SA2は目隠し塀として捉えられる。したがって、柵の北には正庁などの主要建物を想定できる。建物SB1は、醸造用の米などを保管した高床式倉庫と考え

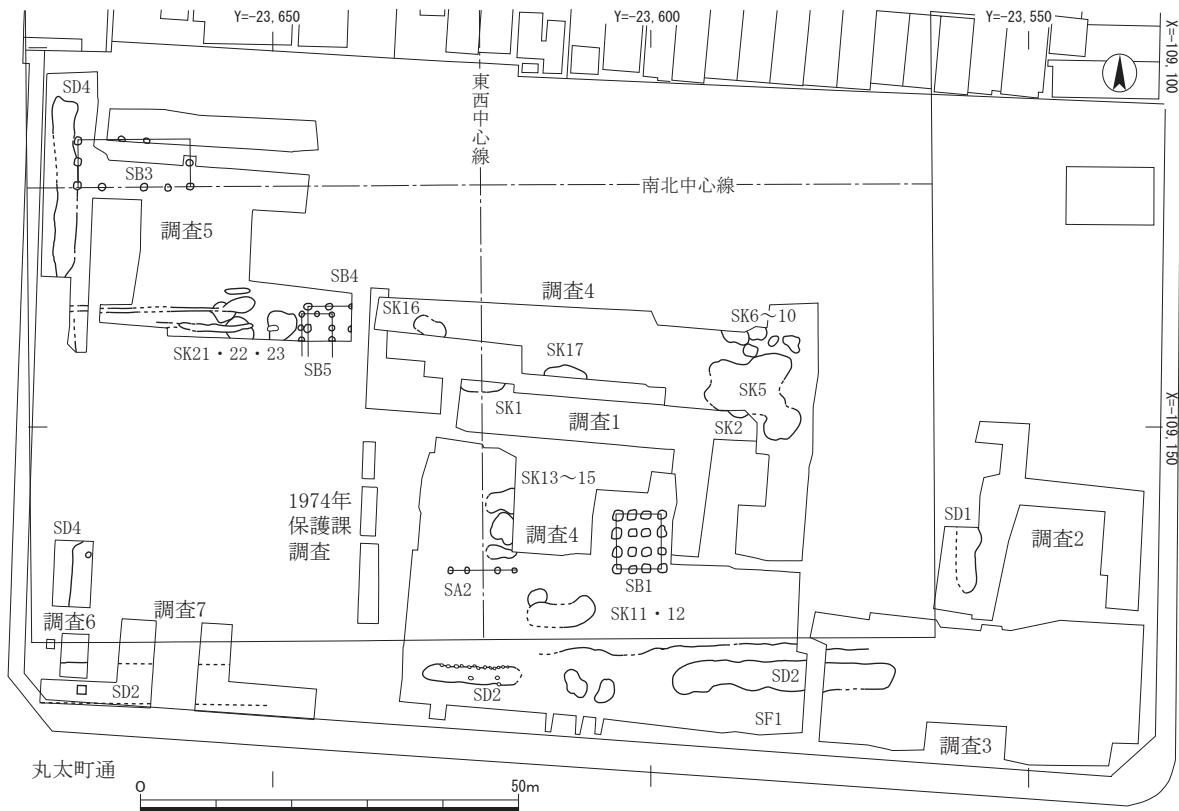


図120 造酒司跡遺構配置図(1:1,000)

られる。建物 SB3 は南北中心線上に配置されており、主要建物の一つとして捉えられる。『延喜式』によれば新嘗祭・大嘗祭の際には特別な酒を造るための臨時の建物で、「酒殿・臼殿・麹室を黒木舎（長四丈八尺、巾二丈）で造る」とあり、SB3 がほぼ同規模であることが注目される。また、SB3 南で検出した不揃いの小柱穴群についても検討が必要である。建物 SB4・5 は、ほぼ同時期の土壙 SK21～23 と関連して水を扱う施設と考えられる。

四至 造酒司の東面築地外溝 SD1、南面築地外溝 SD2 は、それぞれ皇嘉門大路、中御門大路を宮内に延長した場合の西側溝、北側溝上に位置している。SD4 は西面築地内溝に比定できる。この 3 例の溝に共通することは、埋土が黒褐色系の均質な粘質土層で、平安時代初期の遺物のみを包含し、溝は途切れており水路としての性格は認められない。また溝の埋没後は新たな溝を設けていないことなどである。SD2 については、溝幅が 3.0～5.5m、築地推定線から溝北肩口までが 2.7～4.0m あり、『延喜式』に記載される大路規格幅より広い。SD4 については建物 SB3 建設時にはすでに埋められている。このように平安宮造営期に造られ、すぐに埋められた溝の例としては、造酒司跡の西に位置する内匠寮跡の発掘調査註2（西方調査 11）で検出した東面築地内溝 SD30 がある。また平城宮馬寮跡の調査註3（西方調査 11）で検出した東西溝 SD6980 は地割溝であり、後に溝を埋め、小砂を敷き道路としている。溝 SD2 についても短期間に埋まり上面に瓦や礫を敷き詰めて道路とする状況は馬寮跡と似ており、地割溝的な性格も考えられ、また各溝が砂礫層部分で溝が狭まり、または収束する現象から、平安宮西限の調査註4（西方調査 1）で検出した粘土採掘坑的な性格も考慮しなくてはならない。

土壙 調査4で検出した土壙SK5～15はSB1の廻りにみられることから、「倉庫令」に見える防火の為の水溜施設の可能性がある。しかし、実際には平安時代初期の段階ではすでに埋められていることから、粘土採掘坑的な性格も考えられる。^{註6}

調査5の南部で検出したSK21～23は、出土遺物の時期差から少なくとも3回の掘り直しがなされている。このような遺構は宮・京内において土器溜状遺構として検出されているが、この場合は東西にのびる小溝から取水していたと考えられ、厨房あるいは醸造に関連する施設の可能性もある。

未検出の遺構には正庁・門・井戸などがある。造酒司の門は「宮城図」には東面と南面に描かれており、また『日本紀略』には天暦元年(947)の大風で南門が倒壊したとの記載がある。^{註7} このうち、南門については、調査4でSA2とSD2の間に不整形な土壙状遺構を多く検出しており、地業あるいは柱穴である可能性がある。正庁については北部の未調査地区に存在する可能性が高い。井戸は造酒司の職掌からは欠かせない施設であり、平城宮造酒司跡の調査では数基明らかになっている。今回の調査3の東部では湧水が認められ、調査4の南部でも近世の井戸が3基認められたことから、今後の調査で検出できる可能性はある。

註

- 註1 『延喜式』卷第四十 造酒司 祭神九座条に「四座竈神」、造酒雜器条に「韓竈一具」、新嘗會白黒二酒料条に「韓竈二具」とある。
- 註2 『延喜式』卷第四十 造酒司 践祚大嘗祭供神料条「右九月中旬。木工寮於司家内。構造黒木舎一字。長四丈八尺。廣二丈。」・後略」(『延喜式』後篇 新訂増補国史大系 1977年)
- 註3 溝30は幅3～3.5mで、土壙を南北に連ねたような形状を呈し、SD4と同じく古墳時代後期から奈良時代の土器片を混入し、平安時代前期初頭にはすでに埋められ、その後に新たな溝は造られていない。
- 註4 「馬寮地域の変遷」『平城宮発掘調査報告XII 馬寮地域の調査』奈良国立文化財研究所学報第42冊 奈良国立文化財研究所 1985年 溝SD6980は、幅1.7～2.0mの規模で、この溝を造営前の地割溝として位置付け、掘立柱塀(SA3680)については大垣造営中の遮閉施設として敷地内側に設置したとする。溝は本格的な造営が実施されるにあたって一気に埋められ、溝上面に小礫を敷き宮内道路とし、塀の柱は築地完成後には抜かれており、いずれも仮設的な施設と考えられている。
- 註5 この調査では、暗褐色泥砂を埋土とする隕24を検出しており、この遺構を「自然災害に伴う大垣修復のための粘土採掘坑である」とし、文献史料と出土遺物から修復の具体的な時期を示している。
- 註6 『令義解』卷第八 倉庫令 第廿二「凡倉。皆於高燥處。置之。側開池渠。謂。或池。或渠。可。水以防火炎者也。」(『令義解』新訂増補国史大系 1977年)
- 註7 『日本紀略』村上天皇 天暦元年七月四日丁亥条「前略……去夜。大風猛烈。京中盧舍。或顛倒。或破壊。就中宮内省南門。大蔵省後廳。掃部寮西屋。左馬寮造酒司南門。典藥寮東檜皮葺屋等顛倒。又河水漲溢。」(『日本紀略』第三(後篇) 新訂増補国史大系 1977年)
- 註8 浅川滋男「造酒司地区の調査 第241次」『1993年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』奈良国立文化財研究所 1994年 調査では掘立柱建物11棟、掘立柱塀4条、溝9条、井戸2基などが検出された。

5 中央官衙群跡

1 経過

中央官衙群跡は東に壬生大路、西は皇嘉門大路、北は土御門大路、南は二条大路に囲まれた地域を指し示し、当該地域内における朝堂院・豊楽院・内裏・太政官・中務省・民部省などこれまで概要を述べてきた主要な区域を除いた地域の調査成果をここで示すこととする。該当する区域としては、内裏北に位置する縫殿寮・内藏寮・掃部寮跡、朝堂院南の東西に展開する式部省及び諸厨・兵部省・弾正台、内裏西に展開する宴松原および朝堂院南地域を含む。該当する地域における調査は試掘・立会調査が主体であり、発掘調査は少ない。

当該地域においては昭和39年(1964)度以降、京都府教育委員会や保護課ならびに古代学協会などが調査を進めてきたが、昭和51年(1976)以降は当研究所が主体となって調査を実施し、以下に示す調査成果を得ている。

2 遺構

当該地域は、聚楽第造営ならびにその後の周辺地域における再開発などによって大規模な削平を受けたことが窺われ、これまで実施してきた調査では、官衙四至ならびに官衙内を区画する施設、建物などを復原できる検出例は皆無に近い。しかし、調査地点によっては削平を免れた遺構や整地土層が遺存している箇所も複数ある。なかでも、内藏寮跡の調査では官衙を区画する遺構を検出でき、周辺の官衙配置を検討できる資料といえる。

(1) 縫殿寮跡 縫殿寮跡想定地域では発掘調査3件、試掘調査3件、立会調査27件を実施した。このうち、発掘調査1件(付章1)、立会調査1件(付章24)は未報告である。

調査1 (135 文193-9) 縫殿寮南東隅該当箇所で実施した発掘調査である。

基本層序は、現地表下0.3mまで現代盛土層、盛土層下約0.8mには地山である暗茶褐色泥土層が堆積し、盛土層下から地山までの土層には江戸時代に属する遺物を包含する。調査では江戸時代に属する遺構を検出し、江戸時代以降に当該地が削平を受けたことが窺われる。

調査2 (150 文193-6) 縫殿寮跡北西部該当箇所で実施した発掘調査である。

基本層序は、現地表下1.20mまで現代盛土層や江戸時代の遺物を包含する土層が堆積し、以下は地山(聚楽土)となる。

調査では江戸時代に属する遺構を検出したにとどまったものの、平安時代に属する遺物が出土しており、当該期の遺構

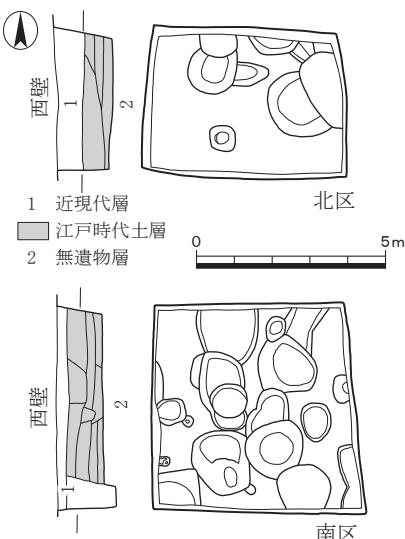


図121 調査1 調査区実測図(1:200)

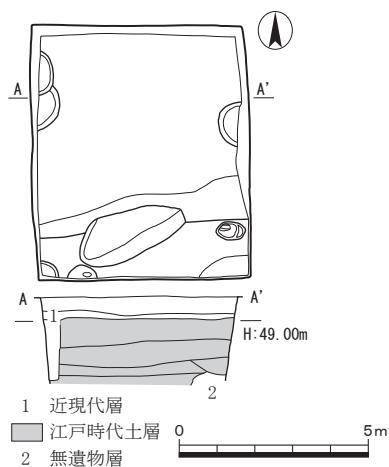


図122 調査2 調査区実測図(1:200)

が存在した可能性が高いと考えられる。

(2) 内蔵寮　内蔵寮跡想定地域では発掘調査2件、試掘調査6件、立会調査15件を実施した。これらのうち発掘調査1件(付章11)と試掘・立会調査(付章40・45)は未報告であり、詳細はそれらを参照されたい。

調査3 (2文171) 内蔵寮跡中央東部寄り該当箇所で実施した発掘調査である。

基本層序は、現地表下0.2～0.45mまで現代積土層で、積土層下には0.4～0.6mの厚さで江戸時代に属する土層がある。その土層下には平安時代に属する遺物包含層(図123の1～3層)が堆積する。東端では標高50.4mで、西端では同51.3mで地山となる。

調査区の中央部は江戸時代の遺構によって搅乱を受けており、調査区東・西端部で平安時代に属する遺物包含層を検出した。遺構については大半が江戸時代に属するものであるが、平安時代に属する遺物を包含する土壌が1基ある。土壌SK01は大半が江戸時代の遺構によつて削平を受けており、検出面での規模は残存長1.3m、深さ0.4mある。

当該地では江戸時代以降の遺構によって削平を受けているものの、平安時代の土壌や遺物包含層を検出しており、平安時代に属する遺跡が遺存する可能性は高いといえる。

調査4 (920文260) 内蔵寮跡中央南端部該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では現地表下0.7mで平安時代前期に属する整地土層や溝・小穴群を検出している。

調査5 (1127文269) 内蔵寮跡中央北部該当箇所で実施した試掘調査である。2箇所の試掘調査区を設定し、1区では現地表下1mで土壌を3基検出した。2区では現地表下1.3mで平安時代に属する遺物包含層、同1.5mで南西方向に延長する溝状遺構を検出した。

調査6 (1134文269) 内蔵寮跡北面築地該当箇所で実施した試掘調査である。現地表下1mで平安時代に属する整地層を検出した。

調査7 (702文243) 内蔵寮跡北面築地中央部該当箇所で実施した立会調査である。現地表下0.64mで平安時代後期に属する遺物包含層を検出した。

なお、朝堂院・内蔵寮間で実施した2件の調査(付章40・45)について補足的にその概要を示しておく。調査では内蔵寮跡北面築地・同南面築地に伴うと考えられる遺構を検出している。

試掘調査(付章45)では内蔵寮の南北幅を40丈とした場合の南面築地想定線から北へ約3m(10尺)で築地状を呈する遺構とその南北で溝を検出している。一方、内蔵寮跡北面築地想定線から南へ約3.7mの地点の立会調査(付章40)では、東西方向を示す溝状遺構の南肩口を現地表下1mで検出した。北肩口は調査区外にあり、検出断面での規模は現存幅1.5m、深さ0.4mある。

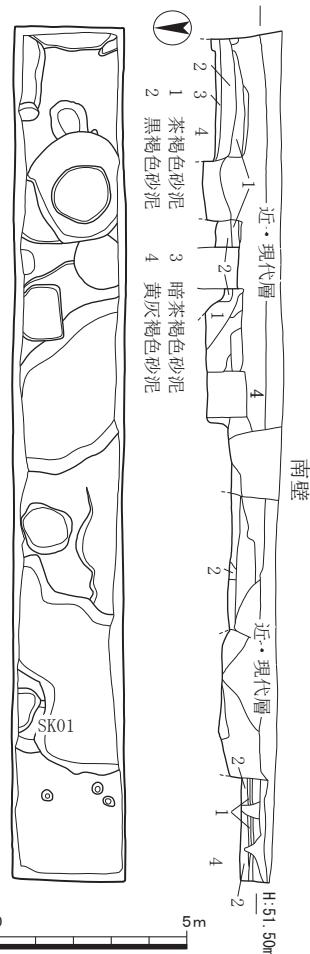


図123 調査3 調査区
実測図(1:200)

遺物は出土しておらず時期は確認できなかったが、土層などから平安時代に属する遺構と考えられる。また、内蔵寮跡南面築地想定線付近で試掘・立会調査を実施し、東西方向を示す溝を3条検出した。検出した溝跡は南面築地想定線から各溝心で北へ約5.0m・約1.5m、南へ約6.0mにそれぞれ位置し、検出面での規模は北溝から幅0.5m、深さ0.35m、幅1.3m、深さ0.23m、幅1.0m、深さ0.32mある。平安時代に属する遺物が出土した。

(3) 掃部寮跡 掃部寮跡想定地域ではこれまでに試掘調査2件、立会調査9件を実施しているが、顕著な調査成果はない。

(4) 式部省及び諸厨跡 想定地域ではこれまでに立会調査5件を実施しているに過ぎない。これは当該官衙の大半が学校など公共施設の敷地に含まれていることによる。

調査8 (1433 文300-1) 式部省西面築地該当箇所で実施した調査である。現地表下0.5mで平安時代に属する瓦溜を検出した。現存長1.7m、深さ0.2m以上あり、鬼瓦・軒平瓦を含む多量の瓦が出土した。

(5) 兵部省・彈正台跡 想定地域ではこれまでに試掘調査3件、立会調査20件を実施した。

調査9 (916 文260) 弹正台西面築地外該当箇所で実施した試掘調査である。現地表下0.3mで平安時代に属する瓦を多量に包含する湿地を検出した。湿地上面は整地を施している。現地表下0.7mで地山(明黄褐色泥砂)になる。

調査10 (498 文237) 弹正台南西隅-平安宮南限間で実施した立会調査である。現地表下0.35mで平安時代後期に属する遺物包含層を2層、同0.48~0.74mで平安時代中期から後期に属する土壙状遺構を5基検出した。現地表下1mで地山に至る。

調査11 (1049 文265) 弹正台南面築地該当箇所で実施した立会調査である。現地表下0.4mで地山(黄褐色粗砂)に至る。地山上面で平安時代に属する土壙を2基検出した。

(6) 朝堂院南 朝堂院南・式部省西・兵部省東・宮城南面築地北に囲まれた地域における調査を示す。ここでは試掘調査3件、立会調査20件を実施している。

調査12 (1089 文265) 朱雀門北側該当箇所で実施した試掘調査である。現地表下0.6mで平安時代に属する土壙を検出した。

調査13 (580 文237-1) 調査12に南接する地点で実施した立会調査である。調査では現地表下0.82mで南北方向を示す溝を1条検出した。埋土から平安時代に属する瓦が多量に出土した。

調査14 (698 文243) 調査13に南接する地点で実施した立会調査である。2箇所で立会調査を実施した。1区では現地表下0.9mで、平安時代に属する遺物包含層1層、現地表下1.13mで道路敷を検出した。道路敷は厚さ0.1~0.17mあり、固くしまる。この道路敷は朱雀門から応天門に至る空間に敷設された道路敷であろう。上面には多量の瓦が遺存していた。2区では現地表下0.95mで平安時代に属する遺物包含層を検出した。

調査15 (1009 文260) 調査12の東方に近接する地点で実施した立会調査である。現地表下0.26mで平安時代に属する遺物包含層を検出した。

(7) 宴松原跡 宮内延長路である土御門大路南・中御門大路北・皇嘉門大路東・中和院西に

該当する地域における調査を示す。同地域ではこれまでに試掘調査10件、立会調査93件を実施している。当該地域では木造家屋の建て替えが主体であることから、基礎工事に伴う試掘・立会調査では掘削深度は遺構面にまで達しない場合が多い。

調査16 (967 文260) 豊楽院跡北側で実施した試掘調査である。現地表下0.7mで平安時代の整地層を検出した。

調査17 (870 文254) 内膳司跡西側で実施した立会調査である。現地表下0.3mで平安時代の整地層2層を検出した。

調査18 (1311 文284) 宴松原西方、七本松通で実施した立会調査である。現地表下0.6mで平安時代に属する遺物包含層を検出した。

3 遺物

当該地域では発掘調査例が少ないため、土器類についてはまとまった状態での出土例はないが、平安時代前期から後期に属する土器類が出土している。瓦類については各調査地点で溝・瓦溜などから比較的多数出土している。

4 小結

この項では中央官衙群跡を中央北部、中央南部・朝堂院南の各区域として調査成果についてまとめておく。

(1) 中央北部 中央北部ではいくつかの平安時代に属する遺構などを検出しており、内藏寮など一部の官衙跡では築地・内外溝なども明らかになっている。

縫殿寮では調査地点によって江戸時代に属する遺構が地山下まで達し、平安時代の遺構が大規模に削平を受けていることが判明したが、諸地点で遺物包含層ならびに整地土層などを検出しており、今後とも十分に期待できる官衙跡である。

内藏寮では調査地点により平安時代の遺構が削平を受けていることが判明したが、平安時代前期から後期に属する溝・小穴群、遺物包含層、整地土層などを検出した。内藏寮における遺跡の遺存状況は比較的良好である。

千本通における試掘・立会調査(付章40・45)では、前述したように内藏寮北・南面築地に伴うと考えられる築地、溝などを検出することができた。まず、北面築地想定位置で東西方向を示す溝を検出した。溝から遺物が出土せず時期は不明であるが、検出地点は内藏寮内溝該当位置にあたる。当該地点は平安宮の構造を追及する上で鍵的な地点の一つであるが、調査に多くの制約がありこれを充分に追求するには至っていない。

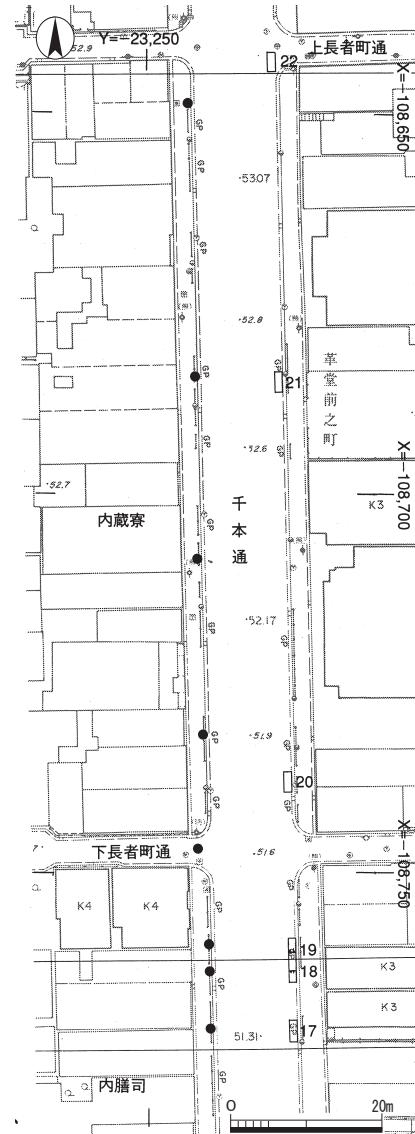


図124 内藏寮跡遺構配置図(1:1,000)

次に、内蔵寮 - 内膳司間想定位置で検出した溝については、同官衙間の宮内東西路幅を示した調査として重要である。試掘調査（付章 45 の 18・19 トレンチ）では築地状遺構と溝を検出し、立会調査で検出した北溝と中央溝はそれぞれ試掘調査で検出した溝に連続することから、これらを内蔵寮南面築地内・外溝・同築地と考えてよい。また、立会調査で検出した南溝の北肩口と南面築地外溝間の距離は約 6.0m あり、この道路敷幅は平安京条坊路のうち小路幅に該当する。したがって、内蔵寮 - 内膳司間の宮内路の路幅は 4 丈と捉えておく。なお、この調査で検出した築地状を呈する遺構の位置は、これまで想定してきた内蔵寮南面築地線から北へ約 1 丈の位置にあり、先に示した内蔵寮北面築地（土御門大路宮内延長路南築地）が想定位置にあるとするならば、内蔵寮南北幅は 39 丈となろう。

(2) 中央南部・朝堂院南 弾正台西部では平安時代の整地を施した湿地、遺物包含層・土壌などを検出している。朝堂院南では顕著な遺構は検出していないものの、道路敷や遺物包含層などを複数の調査地点で検出した。

調査 14 で検出した道路敷は朱雀門の北東に近接し、朱雀門 - 朝堂院間の空間に敷設された道路敷であり、他の道路敷検出例とともに平安宮内における路・空間地の維持・管理状況などを把握できる資料として重要である。さらに、調査 9 で検出した、整地を施した湿地の検出地点は弾正台の西、皇嘉門大路宮内延長路の道路敷に該当する。当該地が宮城十四門のうちの皇嘉門に近接する箇所であるため、湿地状を呈する場所に瓦を投入し、整地を施した状況が窺われる。

以上のように、一部の調査を除き、大半の地域では未だ官衙四至を始めとして各官衙内の状況を把握するには至っていない。しかしながら、調査地点によっては溝・土壌ならびに整地土層や遺物包含層などの遺構も検出しており、わずかな手懸りを有機的に捉えることによって当該地域の様相も徐々に解明できるものと考えている。

註

註 1 瀧浪貞子「初期平安京の構造 第一次平安京と第二次平安京」『日本古代宫廷社会の研究』思文閣出版 1991年 この論文には平安宮（大内裏）の拡張説が掲載されている。それによれば「第一次平安京」の土御門大路南築地と平安宮中軸線の交点には偉鑒門が所在することになり、同門位置にある内蔵寮は自ずと平安時代前期には当該地域に存在しない（別の地域にある）ことになろう。しかし、「第一次平安宮」に伴う平安宮内の官衙配置や官衙移動などについては言及されていない。

6 北方官衙群跡

1 経過

北方官衙群跡は土御門大路が平安宮内に延長する境界に構えられた上東門・上西門以北、平安宮北面までの間に位置する諸官衙跡を仮称している。現在の市街地図で示せば、大雜把に上長者町通を西へ延長した線と一条通の間の町内があてはまる。

陽明文庫本・九条家本「宮城図」などを参考すれば、該当する官衙としては西側から順に、漆室・正親司・兵庫寮・大藏庁・大藏省・主殿寮・大宿直・茶園・内教坊などがある。ただし、『大内裏図考証』や『平安通志』所収の「南都所伝宮城図」では漆室に鼓吹司、茶園には鍛冶司と記

入されており、官司の統廃合を示す「宮城図」として考慮しなければならない資料である。このような官衙の変遷を研究するうえでもこの官衙群跡は必要な地域であるといえよう。

北方官衙群跡地域では保護課ならびに古代学協会などが調査を進めてきたが、昭和52年(1977)以降は当研究所が主体となって調査を行っている。この地域で当研究所が行ってきた調査は試掘・立会調査が主であり、発掘調査は少ない。西側から順に現在までの調査件数とその内容および遺存状況を述べることとする。

2 遺構

北方官衙群地域でこれまでに官衙四至を示す遺構や官衙内を区画する施設、あるいは建物など明確な遺構の検出例は皆無といってよい。いずれの地域についても江戸時代以降、広範にわたり土取りなどが行われたことがこれまでの調査で明らかになっており、平安時代の遺構は大規模に削平を受けたことが窺われる。しかし調査地点によっては削平を免がれ、遺構や整地土層が遺存している。この地域は実態が未解明であることから、引き続いて調査が必要である。

(1) 漆室跡 漆室跡想定地域では発掘調査2件、立会調査3件、計5件の調査を実施している。平安時代の遺構は調査3で土壙を1基検出したのみであり、概して遺構の遺存状況は良好ではない。

調査1 (13付章4) 漆室跡南東隅該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では平安時代の遺構は認められず、江戸時代の墓や土取穴を検出したのみである。

調査2 (768文259-1) 漆室跡南部中央該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では平安時代の遺構は認められず、江戸時代の墓や土取穴を検出したのみである。

調査3 (764文251) 漆室跡南部中央該当箇所で実施した立会調査である。この調査では平安時代の土壙を1基検出したのみである。

(2) 正親司跡 正親司跡想定地域では発掘調査1件、立会調査6件、計7件の調査を実施している。

調査4 (31付章5 図版88-1) 正親司北西該当箇所で実施した発掘調査である。この調査で検出した平安時代の南北溝SD3・4は宮西面築地外溝と考えている。

調査5 (1107文269) 正親司北西該当箇所で実施した立会調査である。この調査では平安時代の南北溝を1条検出した。

正親司・漆室跡の想定域は寺院、小学校が占めているためか、調査件数は少ない。

(3) 兵庫寮跡 兵庫寮想定地域では試掘調査1件、立会調査10件を実施している。兵庫寮の調査でこれまでに検出した遺構は、すべてが江戸時代以降に属するものであり、平安時代の遺構は未検出である。

(4) 大蔵庁・大蔵省跡 大蔵庁・大蔵省想定地域では発掘調査4件、試掘調査17件、立会調査158件、計180件の調査を実施している。面積では、北部官衙群の半分以上を占める官衙であるが、民家密集地であることから調査方法に制限があり、立会調査が中心となっている。

調査6 (117付章13) 東側の大蔵省西部該当箇所で実施した発掘調査である。長殿にあた

る。この調査では現地表下約3mまで搅乱を受けしており、遺構はまったく検出できなかった。

調査7 (84 文183-3) 西側の大蔵省中央南端該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では江戸時代の池、土壙、溝などを検出した。

調査8 (415 文235-3) 東側の大蔵省東部の該当箇所で実施した発掘調査である。率分蔵にある。この調査では時期は明確にできなかったが2間×4間分の南北棟の掘立柱建物を検出した。また江戸時代の土壙・井戸・土取穴が多数みつかっている。

調査9 (644 文244-4) 東側の大蔵省中央該当箇所で実施した発掘調査である。長殿にあたる。この調査では平安時代の土壙を1基(土壙35)検出した。また室町時代の遺構若干と江戸時代の遺構を多数検出した。

調査10 (1143 文269) 西側の大蔵省中央南部該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では平安時代の小穴を若干検出した。

調査11 (602 文243) 東側の大蔵省北西部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では時期不明の一条大路路面、奈良時代後期から平安時代中期の瓦当を含む落込を検出した。

調査12 (1112 文269) 東側の大蔵省東部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では平安時代の落込を検出した。

以上のように、調査件数にかかわらず平安時代の遺構は、発掘調査1件、試掘調査1件、立会調査2件で検出したのみである。

(5) 主殿寮跡 主殿寮想定地域では発掘調査1件、試掘調査2件、立会調査27件、計30件の調査を実施している。現時点では平安時代の遺構は検出していない。認められた遺構は、すべて江戸時代である。

調査13 (35 付章6) 主殿寮南部中央該当箇所で実施した発掘調査である。この調査ではほぼ全面で近世の土取穴を検出した。

(6) 大宿直跡 大宿直想定地域では試掘調査6件、立会調査10件を実施している。現時点では平安時代の遺構は検出していない。認められた遺構は、すべてが江戸時代である。

(7) 茶園跡 茶園想定地域では発掘調査1件、試掘調査1件、立会調査9件を実施している。現時点では平安時代の遺構は検出していない。認められた遺構は、すべてが江戸時代である。

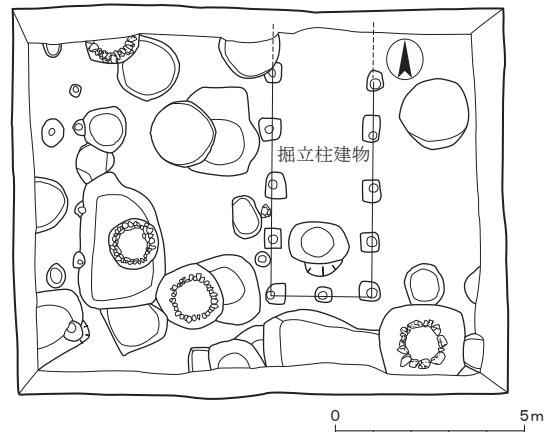


図125 調査8 調査区平面図(1:200)

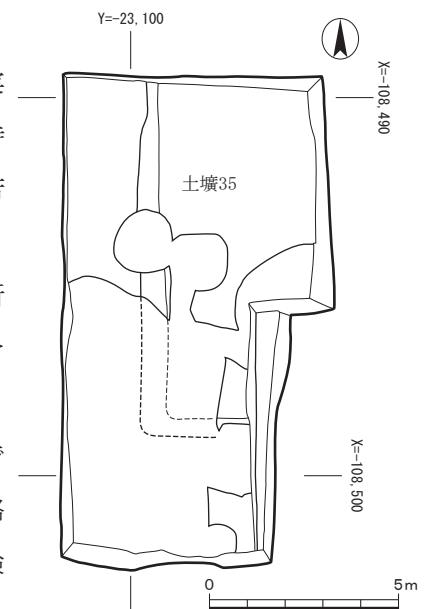


図126 調査9 調査区平面図(1:200)

調査14 (53 付章8) 茶園南西部該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では江戸時代後期の遺構を検出したのみである。

(8) 内教坊跡 内教坊想定地域では試掘調査3件、立会調査24件を実施している。

調査15 (274 文206) 内教坊北部中央該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では平安時代前期の土壙と室町時代の遺構を若干検出した。

主殿寮から内教坊にかけての地域は、聚楽第の推定域とも重なっており、その影響も大きいと思われる。

3 遺物

北方官衙群跡では平安時代に属する遺構の検出例が少なく、またそれらの遺構から出土する遺物もきわめて少ない。平安時代の遺物は近世の土取穴などから近世の陶磁器に混じって出土するものがほとんどであるため、ここでは触れず、今後の成果を待ちたい。

4 小結

北方官衙群跡地域では平成6年(1994)4月までに総計297件の調査を実施している。しかし、全体として遺構の遺存状況は良好でなく、明確な平安時代の遺構は検出することができなかつた。これは、この官衙群跡の東半部が聚楽第跡に該当し、西半部についても聚楽第の造営に伴い新たに再開発が行われた地域であるため、少なくとも桃山時代以降に大規模な開発がおよび、平安時代の遺構が削平を受けたものと考えられる。

7 東方官衙群跡

1 経過

東方官衙群跡は東は平安宮東限、西は壬生大路、北は土御門大路の各延長路、南は宮南限に囲まれた地域を示す。該当する官衙は、北から梨本・職御曹司・左近衛府・外記・南所・御書所・釜所・侍従所・左兵衛府・東雅院・西雅院・西院・主水司・醤司・大膳職・大炊寮・宮内省・廩院・神祇官・侍従厨・雅楽寮がある。これらの官衙のうち、廩院以南の官衙は現二条城に該当しており、調査は進展していない。

2 遺構

東方官衙群跡では立会調査が主であり、発掘調査はあまり行われていない。調査では官衙の区画を示すと考えられる溝などの遺構を複数検出している。主要な遺構には、左兵衛府 - 侍従所間で検出した南北方向を示す溝、大膳職 - 大炊寮間を区画する築地の南溝、主水司の東面築地内溝の三箇所がある。

(1) 梨本・職御曹司・左近衛府跡 想定地域では試掘調査8件、立会調査82件を実施した。

調査1 (169 文192) 職御曹司北東部該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では現地表下1.3～2.6mで平安時代前期の遺物包含層を検出した。

調査2 (1046 文265) 職御曹司南東部築地外該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では現地表下0.94mで平安時代の整地層を検出した。

調査3 (1538 文 310-1) 職御曹司南東部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下 0.9m で、平安時代前期の土壙群と溝 1 条を検出した。この土壙群は重複状況が複雑である。その中で、南西部で検出した東西幅 3.8m、深さ 0.4m 以上の土壙からは、平安時代前期の土器類が多量に出土した。溝は現存幅 0.5m で、東西 4.5m にわたって確認した。溝内埋土から瓦片が出土している。

(2) 外記・南所・御書所・釜所・侍従所・左兵衛府跡
想定地域では発掘調査 1 件、試掘調査 4 件、立会調査 29 件を実施した。

調査4 (17 文 167-1 図版 85-1) 左兵衛府 - 侍従所間該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では南北方向を示す 4 条の溝・溝状遺構、盛土された整地層 SA6 を検出した。溝 SD4 は西肩が調査区外にある。検出面での規模は現存幅 2.3m、深さ 0.65m ある。調査区北部では東肩部の崩落が激しく溝の方向が大きく東偏しているように見える。溝内の堆積は北と南とでは異なり、北半では多量の遺物と木炭片などが混入した堆積がみられる。上層は南北ともにほぼ一様な堆積をしており、礫を多く含んだ茶褐色の砂泥で埋められている。埋土には 8 世紀末から 9 世紀初頭の遺物を包含している。溝状遺構 SX5 は東肩が調査区外にある。検出面での規模は現存幅 1.2m、深さ 0.2m ある。埋土は上下 2 層に分かれ、いずれも細砂層である。

整地層 SA6 は溝 SD5 側の黄灰色粘質土とそれにもたれ合うように積まれた砂礫層の二つの部分からなる。溝 SD4・溝状遺構 SX5 はこの整地面上に形成されている。

SD4-SX5 間の幅は 2.3m ある。これらの溝が 10 世紀中頃に埋め戻された後に整地され、新たに溝が掘られている。溝 SD1 は下層の溝 SD4 の東肩から 0.9m 西にあり、断面形はなだらかな U 字形を呈し、深さ 0.7m ある。埋土は基本的に同質の暗茶灰色の砂泥であるが、炭化物・土器の混入状態から 4 層に分けることができる。溝状遺構 SX2 は溝 SD1 の東肩より 2.6m 東で検出した。検出面での規模は幅 0.6m、深さ 0.15m ある。他に平安時代の落込 SX3 がある。

溝 SD4・溝状遺構 SX5 は、当初左兵衛府の西面築地に伴う溝と考えていたが、溝間の中心線はほぼ左兵衛府 - 侍従所間の道路心（この付近での座標は Y=-22, 793.15）に位置している。

調査5 (590 文 243) 左兵衛府南東部該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では現地表下 1.70m で平安時代初期の整地層を検出した。

調査6 (490 文 237) 左兵衛府南東部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下 0.6 ~ 1.0m で平安時代前期の遺物包含層を検出した。

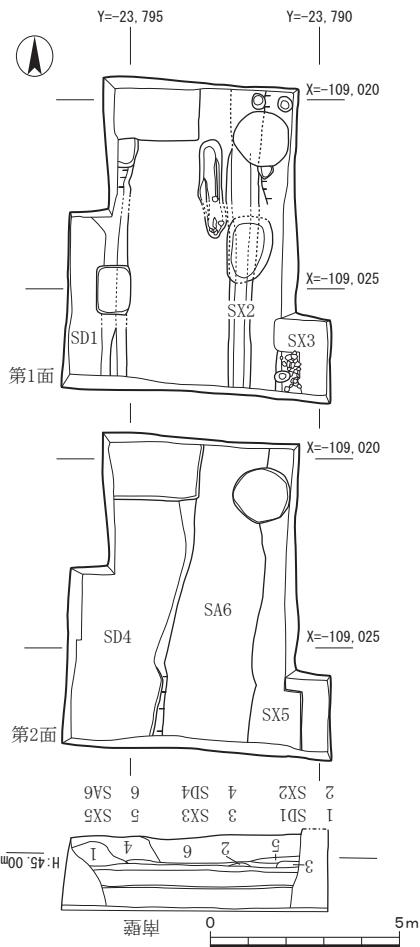


図127 調査4 調査区平面図(1:200)

(3) 東雅院・西雅院跡 想定地域で発掘調査2件、試掘調査2件、立会調査32件実施した。

調査7 (8 文 167-3) 西雅院北部該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では平安時代中期の土壙SK11を検出した。検出面での規模は南北長1.9m、東西は現存長1.4m、深さ1.1mある。細片となつた土師器、須恵器、綠釉陶器などが出土した。

調査8 (1075 文 265) 西雅院南西部築地外該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では現地表下1.24mで平安時代の整地層を検出した。

調査9 (789 文 251) 東雅院中央部該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では現地表下0.4mで平安時代前期から中期の土壙を9基検出した。

調査10 (753 文 251) 東雅院北西部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下0.55mで平安時代前期の土壙を検出した。

(4) 西院・主水司・醤司・宮内省跡 想定地域では発掘調査2件、試掘調査3件、立会調査15件を実施した。

また、平安博物館が昭和47・48年(1972・1973)の2度にわたって醤司該当箇所で実施した発掘調査では、平安時代前期の土壙群、整地層が検出されている。土壙から、底部に「醤」と墨書した須恵器杯身が出土しており、調査地が醤司に該当することを裏付ける資料である。^{註1}

調査11 (5 文 167-2 図版 85-2) 主水司東面築地該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では南北方向を示す溝状遺構と平安時代前期の遺物を包含する2基の土壙を検出した。

溝状遺構SX1は、北は削平を受け、南は調査区外へ延長しており、調査区内では長さ約4mにわたって検出した。検出面での規模は幅0.9m、深さ0.8mある。北肩は段状を呈し、底部は南側へ緩やかに傾斜する。東西両肩はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は4層に分層でき、平安時代前期の土器が多量に出土した。

SK8は後世の遺構に削平されている。検出面での現存長は、南北3.2m、東西0.6mある。SK10は南北方向の溝状を呈し、検出面での規模は南北1.2m、東西0.8m、深さ0.15mある。SX1とSK10はほぼ南北に並び同一遺構とな

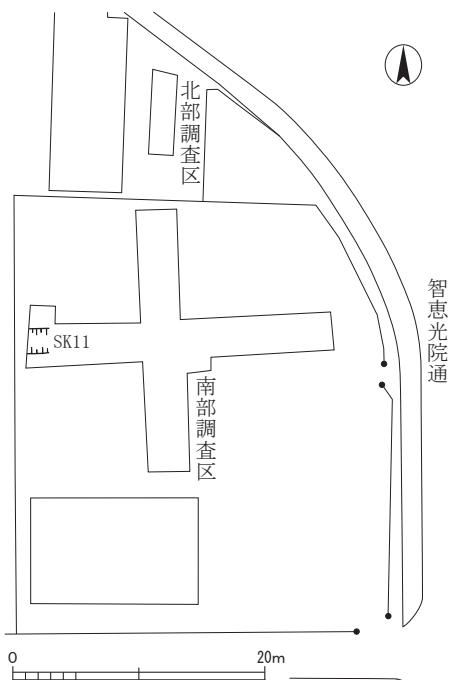


図128 調査7 遺構配置図(1:600)

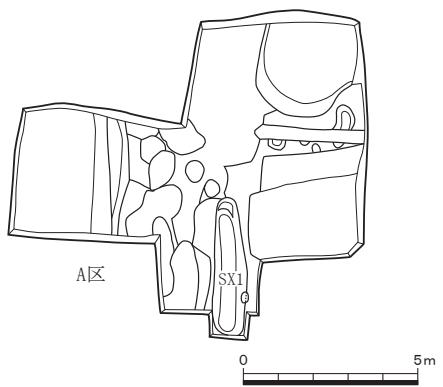
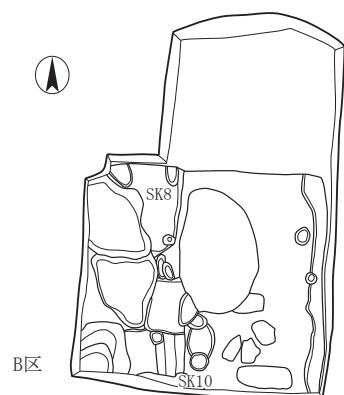


図129 調査11 調査区平面図(1:200)

る可能性がある。主水司東面築地の推定心から約2.5m西に位置し、築地に伴う内溝と考えられる。

調査12 (560 文237) 西院北西部該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では現地表下0.5mで平安時代の土壌を3基検出した。

調査13 (1128 文269) 西院東部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下0.48mで平安時代の遺物包含層を検出した。

(5) 大膳職・大炊寮跡 想定地域で発掘調査2件、試掘調査6件、立会調査40件を実施した。

調査14 (235 付章18 図版94-1) 大膳職・大炊寮間西部該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では東西方向の溝を検出した。東西溝の中心は座標値で示せば、X=-109, 330.70、Y=-22, 696.00であり、大膳職・大炊寮間中心からやや南に位置する。このことから、東西溝は大膳職・大炊寮間築地の南溝と考えられる。なお、この調査は未報告であり付章18の7区で詳細を述べている。

調査15 (668 文243) 大膳職中央西部該当箇所で実施した試掘調査である。この調査では現地表下0.78mで平安時代後期の落込を検出した。

調査16 (592 文250) 大炊寮跡南部で実施した広域の立会調査である。この調査では大炊寮南西部該当箇所で平安時代中期の遺物包含層を検出した。また、大炊寮東面築地外で大宮大路の路面を検出した。

調査17 (692 文243) 大膳職跡南西部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下0.65mで平安時代後期の遺物包含層、現地表下0.88mで平安時代後期の整地層を検出した。

調査18 (761 文251) 大膳職中央西部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下1.02mで平安時代後期の土壌を検出した。

調査19 (1086 文265) 大膳職南西部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では現地表下1.12～1.37mで平安時代前期の遺物包含層、その下で平安時代前期の落込を検出した。

(6) 廟院・神祇官・侍従厨・雅楽寮跡 想定地域では試掘調査1件、立会調査3件を実施したが、平安時代の遺構は検出できなかった。

3 遺物

東方官衙群跡ではこれまでの調査で平安時代前期から後期に属する遺物の出土例がある。調査3・4・9・11では比較的まとまって遺物が出土している。いずれの調査でも、土器類では土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、綠釉陶器などが出土している。以下、各調査で出土した土器の年代と特記すべき遺物について述べる。

調査3では土壌群から平安京Ⅲ期に属する遺物が出土している。青磁の四耳壺がある。

調査4では溝・溝状遺構から平安京Ⅰ期中から平安京Ⅱ期新に属する遺物が出土している。墨書きされた土器が多く、「大」・「西」・「東」・「考」・「酒口」・「主馬」、および仮名書きの和歌などがある。このうち「主馬」とは、天応元年(781)に左右馬寮が統合された主馬寮のことである。主馬寮は、この後30年しか存続しなかったので、「主馬」と墨書きした土器は土器編年上も重要な資料といえる。他に、埴堀、輪の羽口、石帶、砥石、鉄製鎌がある。

調査9では土壙から平安京I期中に属する遺物が出土している。

調査11では溝状遺構SX1、SK8・10より平安京I期中から平安京II期新に属する遺物が出土している。「干」・「度」・「治」・「水」などを墨書きした土器がある。

4 小結

調査4では南北方向の溝と整地層SA6を検出した。調査4の地点は条坊データから櫛箭小路の宮内延長路に位置するため、SA6は道路、両側の溝は側溝とするのが自然であろう。また、「宮城図」でも左兵衛府-侍従所間は道路であることが示されており、SA6は道路と考えるのが妥当と思われる。しかし、SA6は幅が2.3mしかなく、また溝も側溝とするには規模が大きいことから、道路と側溝と断定するには問題が残る。

次に、調査13で検出した溝は大膳職-大炊寮間の中央やや南に位置し、道路側溝とする中心に近すぎて問題がある。したがって、大膳職-大炊寮間は道路ではなく築地によって区切られていたと考えるのが妥当となり、大膳職-大炊寮間は春日小路の路幅を双方が官衙内に取り込んで、ともに南北幅は42丈であったと想定できる。陽明文庫本や九条家本「宮城図」には、まさにこの形態が示されているのである。

調査11で検出したSX1・SK10は主水司東面築地内溝と推定したが、これも最近の条坊データから判明したものである。

以上、東方官衙群跡では「宮城図」に示された宮内道路と築地の両方を調査し上記の成果を得た。この成果は官衙相互間の実態を示す興味深い事例であり、今後の参考となろう。

註

註1 山田邦和「平安宮主水司・醫院跡出土の土器・陶器」『平安京出土土器の研究』古代学研究所研究報告 第4輯 財團法人古代学協会・古代学研究所 1994年

8 西方官衙群跡

1 経過

西方官衙群跡は、北は土御門大路の延長路、南は平安宮南限、西は平安宮西限、東は皇嘉門大路の延長路の範囲に展開する諸官衙群を対象とし、ここでは仮にその空間の総称とする。現在の市街地図で示せば、北は仁和寺街道、南は二条通、東は七本松通、西は御前通りに囲まれた地域に該当する。該当する官衙は北から順に、右近衛府・図書寮・右兵衛府・内匠寮・造酒司・左馬寮・典薬寮・御井・右馬寮・治部省・玄蕃寮・刑部省・諸陵寮・判事などがある。

西方官衙群跡地域では保護課ならびに古代学協会などが調査を進めてきたが、昭和52年(1977)以降は当研究所が主体となって調査を行っている。この地域で当研究所が行ってきた調査は試掘・立会調査が主であり、発掘調査は少ない。

ここでは北から順に現在までの調査件数とその内容および遺存状況を述べることとする。ただし、造酒司については第3章IV-4で取りあげているのでここでは扱わない。

2 遺構

西方官衙群跡地域ではこれまでに平安宮の西限を確定する調査を5件実施している。北方官衙群跡同様、諸官衙の四至を示す遺構や建物などの検出例は造酒司の発掘調査を除けば皆無といえる。しかし、平安時代の遺構および遺物包含層の検出例はかなり多く報告され、今後の調査の進展次第では新たな展開が望める地域である。

(1) 右近衛府跡 右近衛府では発掘調査4件、試掘調査3件、立会調査46件、計53件の調査を実施した。御前通りに沿った西上之町で実施した3件の試掘調査は発掘調査に変更され、いずれも平安時代前期から後期に至る数条の平安宮西面築地外溝(西大宮大路東側溝)を検出した。

調査1 (608 文244-1 図版86-1) 右近衛府北西部該当箇所で昭和60年(1985)に実施した発掘調査では、南北溝を6条検出した。最も古い溝(隍29)は9世紀代と考えられており、幅2.0m、深さ約0.4mある。隍29の溝心の座標はY=-23,822.10である。隍31は平安時代後期、最も新しい溝(隍30)は中世におよぶ可能性があるが、幅1.1m、深さ約0.25mと規模を縮小している。他の溝も幅1.4~2.1m、深さ0.50~0.55mの規模を有する。

調査2 (1151 文270-1 図版86-2) 調査1の北側で実施した

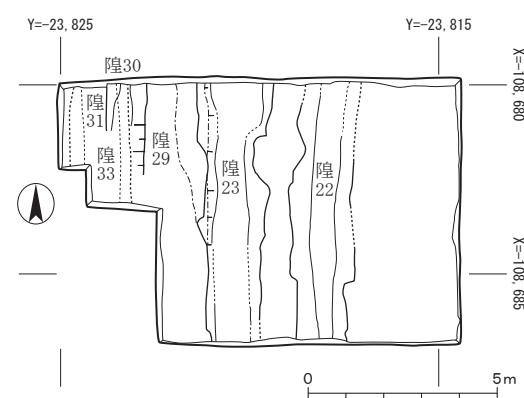


図131 調査1 調査区配置図(1:200)

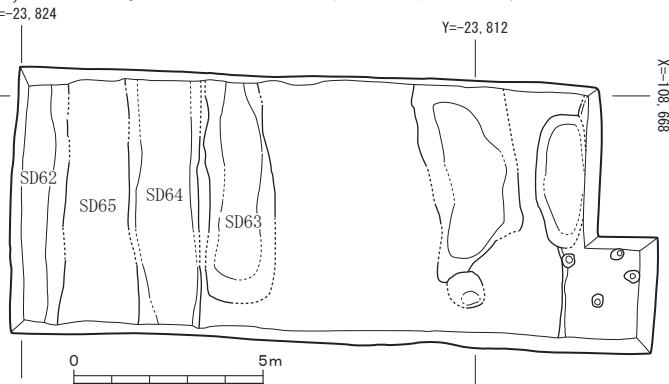


図132 調査2 調査区配置図(1:200)

発掘調査である。この調査では南北溝 4 条と土壙・柱穴を検出した。いずれも調査 1 で検出した溝の連続するもので、SD65 が隍 29 に繋がり、幅・深さとも同様の規模を有する。

調査 3 (1176 文 270-2 図版 87-1) 調査 1 の南側で実施した発掘調査である。この調査

では南北溝を 5 条と土壙・柱穴を検出した。SD12 は検出面での規模は幅 1.5m、深さ 0.2m あり、隍 29・SD65 と同一の溝であることが判明した。他の溝も幅 1.2 ~ 1.5m、深さ 0.3 ~ 0.75m ある。

調査 1 から調査 3 を通じて連続するとみられる溝は、古いものから隍 29・SD65・SD12 → 霍 33・不明・SD15 → 霍 23・SD64・SD16 → 霍 22・SD63・SD13 → 霍 31・SD62・SD11 となる。また、宮西面築地に関連する明確な遺構は 3 件とも検出できなかった。この付近での築地心想定線の座標は Y=-23, 814.50 があたえられる。いずれの調査も遺構面まで浅く、現地表下 0.2m 前後で到達する。現地表面は南下がりになっており調査 2 と調査 3 の間は約 0.4m の比高差がある。なお、調査 1 の現地表面の標高は 53.9m である。

また、平安宮西面築地外溝に関する調査は、昭和53年(1978)に上京区仁和寺街道御前東入鳳瑞町で実施している(北方調査 4)。この発掘調査では平安時代の溝を 4 条検出しておらず、そのうち、西区で検出した南北溝 SD3・4 を平安宮西面築地外溝と考えている。

調査 4 (1412 文 300) 右近衛府中央部該当箇所で実施した立会調査で、平安時代の遺物包含層を検出した。

調査 4 以外の立会調査では、室町時代・江戸時代の遺構の検出例が数件ある。しかし、掘削深度が浅いため平安時代の遺構面に達しないものが多く、遺構の遺存状況は明確でない。

(2) 図書寮跡 発掘調査 2 件、立会調査 22 件、計 24 件の調査を実施した。

調査 5 (36 付章 7 図版 88-2) 図書寮北端中央該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では平安時代の土壙を 2 基検出した。平安時代前期に属する土器類が出土した。

調査 6 (1035 文 266-1) 図書寮南部中央該当箇所で実施した発掘調査で、江戸時代の土取穴が認められたのみである。

立会調査では遺構面に達しないものがほとんどで遺構の遺存状況の良否は明確でない。

(3) 右兵衛府跡 試掘調査 4 件、立会調査 12 件、計 16 件の調査を実施した。

調査 7 (539 文 237) 右兵衛府東部中央該当箇所で実施した試掘調査である。平安時代の土壙 1 基および遺物包含層を検出した。

調査 8 (626 文 243) 右兵衛府南東部該当箇所で実施した試掘調査である。平安時代後期の柱穴 2 基を検出した。

調査 9 (658 文 243) 右兵衛府南東部該当箇所で実施した立会調査である。平安時代前期の土壙 1 基を検出した。

調査 10 (673 文 243) 右兵衛府北東の築地外該当箇所で実施した立会調査である。平安時

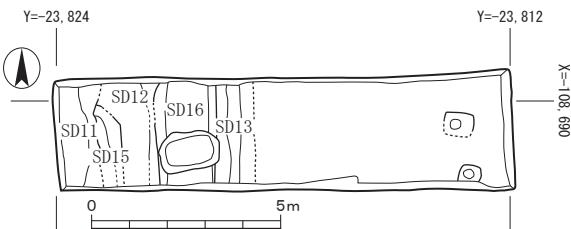


図133 調査3 調査区平面図(1:200)

代の遺物包含層を検出した。

(4) 内匠寮跡 発掘調査1件、試掘調査2件、立会調査28件の計31件を実施している。

調査11 (995 文261-3 図版87-2) 内匠寮跡 南東部該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では、調査区東半部で平安

時代前期の南北溝2条と土壙・柱穴を検出した。東側の溝29は、幅1.4m以上、深さ0.5m以上ある。西側の溝30は幅1.2～3.4m、深さ0.5～0.85mあり、土壙が連結した様を呈している。これら2条の溝の間に内匠寮の想定東面築地心(Y=-23,694)が位置する。このことから溝30は内匠寮東面築地の内溝、溝29は外溝と考えることが可能である。なお、溝29は平安時代後期には埋められており、その上面で礎石を含む南北の石列を確認した。

調査12 (854 文254) 内匠寮跡北部中央該当箇所で実施した立会調査である。この調査では平安時代の落込を検出した。

調査13 (1332 文284) 内匠寮跡南部中央該当箇所で実施した立会調査である。この調査では平安時代前期の遺物包含層を検出した。

(5) 左馬寮跡 発掘調査3件、試掘調査6件、立会調査24件、計33件の調査を実施している。2件の発掘調査で平安時代の遺構を検出した。

調査14 (1240 文307-4) 平成2年(1990)から平成4年(1992)にかけて実施したJR山陰線高架に伴う一連の発掘調査である。平成3年(1991)に実施した15区が左馬寮想定地域の中央部を東西に横切る位置にある。15区では平安時代の溝や土壙を検出した。また調査区の西側で検出した平安時代前期の幅10m、深さ0.5mの南北溝は左馬寮西面に関連すると考えている。

調査15 (1336・1359・1386付章19) 左馬寮跡北西部該当箇所で実施した発掘調査である。この調査では平安時代前期の土壙を2基、遺物包含層など検出した。

調査16 (163 文192) 左馬寮跡南西部該当箇所で実施した立会調査である。平安時代の土壙1基を検出した。

調査17 (195 文192) 左馬寮南西の宮西面築地外該当箇所で実施した立会調査である。宮西限築地外溝推定位置で平安時代の南北方向の溝1条を検出した。

調査18 (813 文254) 左馬寮跡南西部中央該当箇所で実施した立会調査である。平安時代の土壙を1基検出した。

(6) 典薬寮跡 典薬寮では試掘調査1件、立会調査31件、計32件の調査を実施している。

この官衙跡では平安時代の明確な遺構は検出していない。

調査 19 (1050 文 265) 典薬寮跡東部中央の築地外該当箇所で実施した試掘調査で、時期不明の路面のほか近世の土取穴を多数検出している。

(7) 御井跡 発掘調査 1 件、試掘調査 3 件、立会調査 3 件、計 7 件の調査を実施している。現時点では試掘・立会調査とも平安時代の遺構および遺物包含層は検出していない。

調査 20 (69 付章 9 図版 89-1) 御井跡南端部該当箇所で実施した発掘調査である。この調査は未報告であり、付章 9 で詳細を参照されたい。

(8) 右馬寮跡 試掘調査 7 件、立会調査 24 件、計 31 件の調査を実施している。

調査 21 (139 文 192) 右馬寮跡北東の築地外該当箇所で実施した試掘調査である。平安時代の土壙 2 基を検出した。

調査 22 (372 文 215) 右馬寮跡南西部該当箇所で実施した試掘調査である。平安時代の遺物包含層を検出した。

調査 23 (946 文 260) 右馬寮跡南部中央該当箇所で実施した試掘調査である。平安時代の遺物包含層を検出した。

調査 24 (66 文 185-1) 右馬寮跡南部中央該当箇所で実施した立会調査である。平安時代から室町時代の遺物を含む流路状の堆積を検出した。

(9) 治部省・玄蕃寮・刑部省跡 これらの官衙では立会調査 11 件を実施している。現時点では平安時代の遺構および遺物包含層は検出していない。

(10) 諸陵寮・判事跡 ここでは立会調査 20 件を実施している。

調査 25 (161 文 192) 判事跡中央東部該当箇所で実施した立会調査である。この調査では平安時代の土壙を 1 基検出した。

3 遺物

右近衛府で実施した平安宮西面築地外溝に関連する調査 1 ~ 3 では、平安時代前期から後期に属する土師器、須恵器、黒色土器、綠釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器などや瓦が出土した。また、調査 5・11・14・15 の発掘調査やその他の試掘・立会調査などでも土器・瓦類が出土しているが、概して西方官衙群跡では遺物の出土量は少ない。

4 小結

西方官衙群跡地域では総計 257 件の調査を平成6年(1994) 12 月までに実施している。ここでは別項で扱った造酒司跡以外にも平安宮跡に関連する明確な遺構を検出している。その好例として、平安宮の西限を確定した調査 1 ~ 3、内匠寮東面の内溝・外溝を検出した調査 11 などがあげられる。調査 11 は造酒司跡調査との関連で捉えれば、より重要な位置を占めよう。

西方官衙群跡では小規模な宅地開発が多く、開発の規模・条件などの面で制約を受ける立会調査では、遺構面を確認できる深度に達しない調査例も多い。しかし発掘調査では、調査 6 を除き平安時代の遺構あるいは遺物包含層が認められていることなど、遺跡の残存状態は良好とみられる。

第4章 考察

I 平安宮の復原

第3章で各官衙における平安時代の出土遺構を網羅し、ある程度の復原を試みた。ここでは新たな知見を得た朝堂院と豊楽院、内裏などについて現状での復原案・復原図を示していきたい。

復原にあたっては宮中軸線と宮南面築地心からの位置を基本とするが、ここでいう宮中軸線とは条坊復原における朱雀大路中心線の延長ラインを、宮南面築地心とは二条大路北築地心をいう。

なお、宮の造営に際しては計画位置と実際の施工位置に誤差があったことが想定できるので、検出遺構から得られる数値が端数を含む場合は本来が整数値であった可能性も考えられる。また、九条家本および陽明文庫本などの「宮城図」には官衙や建物の規模を表す丈数や間数が書き込まれており、これらの数値も考慮しながら復原していく。

1 朝堂院

大極殿院、朝堂域（朝堂十二堂を囲む空間）、朝集堂域（朝集堂を囲む空間）に区別する。

(1) 大極殿院 北面回廊、東軒廊、大極殿の遺構を検出した。

北面回廊は南縁・北縁を確認し、幅は4丈である。その南北心は宮南面築地心から北へ597.25m(200丈)に位置する。中御門大路宮内延長心から北へ17丈分張り出している。

東軒廊は南縁・北縁を確認した。その心（大極殿南北心）は宮南面築地心から北へ543.50m(182丈)に位置し、北面回廊心から南へ18丈に位置する。

大極殿は南端を検出しており、その位置は宮南面築地心から北へ528.00m(177丈)にある。検出位置が宮中軸線上にあることから、大極殿の南縁というよりは中央階段の南縁と考えられる。このため、大極殿基壇の南縁はさらに1丈分北と考えられ、南北心から南4丈の位置となる。これより大極殿の南北幅は8丈になる。

大極殿院南北幅は、朝堂域の北面回廊が宮南面築地心から北に162丈8尺の位置にあることから、37丈2尺の数値が得られる。この数値から大極殿院北面回廊心 - 東軒廊の数値を引けば19丈2尺となる。柱間1間12尺で割れば16間分となり、指図記載の「十六間」とも矛盾しない。

小安殿および大極殿院東・西面回廊に関しては考古学的には全く手掛かりを得ていない。このため、指図や従来の研究（分293）などに頼らざるを得ない。それらにおける妥当な数値は大極殿院東西幅42丈4尺、小安殿の南北幅4丈2尺、大極殿北縁から小安殿南縁までの距離4丈である。この数値は北面回廊の位置、大極殿の南中央階段の位置、大極殿心の位置などから考えて矛盾することができないため、ここでもこの数値を採用する。

(2) 朝堂院 東面・北面・南面回廊、宣政門、朝堂十二堂では延禄堂、修式堂、承光堂、明礼堂、暉章堂跡の一部を確認した。

東面回廊基壇幅は11.60～11.80mで4丈の規模と考えられる。また、東面回廊心は計算上で

は宮中軸線より東へ 96.73m(32 丈 4 尺) となる。北面回廊の位置は北雨落溝南肩（基壇北縁）が宮南面築地心から北へ 491.85m(164 丈 4 尺) にある。宣政門基壇は東縁・西縁を検出し、その位置は西縁が宮中軸線から東へ 90.76m(30 丈 4 尺) に、東縁が 103.7m(34 丈 6 尺) にある。

東面回廊心は宮中軸線から 32 丈 4 尺と調査成果ではなっているが、指図の記述にある北面回廊東西柱間などを考慮に入れると 32 丈という数値が妥当であり、東・西面回廊心々間は 64 丈とする。宣政門の基壇西縁は東面回廊西縁と同位置にある。東縁は回廊東縁より 2 尺東に出る。

延禄堂の東西基壇縁は宮中軸線から西へそれぞれ 58.90m(19 丈 7 尺)、76.50m(25 丈 6 尺) である。明礼堂も東西縁を確認しており、その位置はそれぞれ宮中軸線から東へ 76.95m(25 丈 8 尺)、59.25m(19 丈 9 尺) の位置にある。延禄堂および明礼堂の南北規模は、指図から修式堂・暉章堂の北縁から永寧堂・康楽堂の南縁までと同じと考えられ、21 丈 3 尺となる。

修式堂は北縁を確認しており、その位置は宮南面築地心から北へ 303.80m(101 丈 8 尺) となる。

承光堂は東縁と北縁を検出しており、その位置は東縁が宮中軸線から東へ 77.70m(26 丈)、北縁は宮南面築地心から北へ 354.30m(118 丈 7 尺) の位置にある。南北については承光堂および修式堂の基壇北縁が明らかとなっており、この南北間は 16 丈 9 尺である。指図によれば、修式堂北縁は延禄堂・暉章堂・明礼堂の北縁と一致し、承光堂 - 明礼堂間は「四丈」とするため、承光堂の南北幅は 12 丈 9 尺となるが、ここ

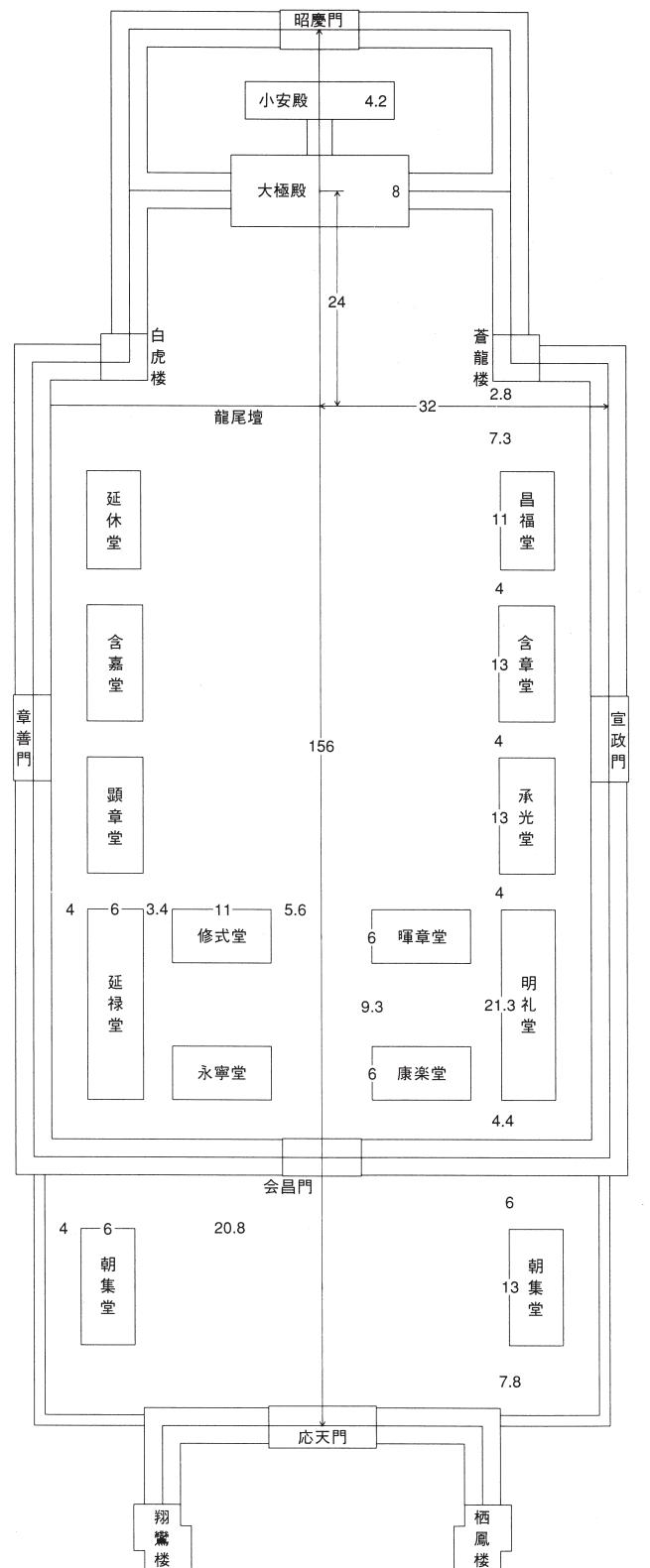


図 135 朝堂院復原図

では 13 丈の数値となる。

暉章堂は東縁を検出しており、宮中軸線より東へ 49.25m(16 丈 5 尺) の位置にある。暉章堂の基壇西縁は未検出であるが、指図には内側四堂の内側基壇間の距離を「十一丈三尺」と記している。この半分 5 丈 6 尺 5 寸が基壇西縁の位置となる。ただし、ここでは 5 丈 6 尺の値を採用する。基壇東西幅は 11 丈とする。

含章堂・含嘉堂は承光堂および顕章堂と規模は同じである。

最北の昌福堂・延休堂は棟方向の違いはあるが、内側の四堂と同じ規模を有することが指図より考えられ、南北幅は 11 丈となる。

朝堂十二堂の配置についてまとめると、これらは宮中軸線をはさみ左右対称であったとされる。外側八堂は、建物の東西幅は 6 丈、その位置は宮中軸線から内側が 20 丈、外側が 26 丈である。堂の外側から回廊まで 4 丈となる。次に、暉章堂の基壇東縁成果から内側四堂と外側八堂の空間は 3 丈 4 尺となる。また、昌福堂・延休堂の基壇北縁 - 龍尾壇間には「七丈三尺」の書き込みがあり、龍尾壇の位置は宮南面築地心から 158 丈北に位置する。指図の朝堂域の東面回廊北端にある「二間」という数値は東面回廊がはじまる最初の柱からのものといえ、北面回廊心からは柱間 4 間分、4 丈 8 尺南が龍尾壇の位置となる。

朝堂域の南面回廊は未検出であるため不明であるが、指図における宣政門南 - 南面回廊間の柱間数「三十三間」から、柱間 1 間の 12 尺とすれば 39 丈 6 尺の数値を得ることができる。ただし、この位置に回廊心を求めるとき、延禄堂および明礼堂の南縁から南面回廊北縁までの距離が 2 丈となり狭過ぎる嫌いがある。この「三十三間」の記載は南面回廊北柱筋に至るまでのものと想定でき、回廊心には 2 間分が不足する。このため宣政門南 - 南面回廊間は 35 間、42 丈となろう。したがって、朝堂南面回廊心は宮南面築地心から北へ 74 丈の位置になる。南面回廊幅は東面回廊と同様の規模と考えられ、4 丈とすると、回廊北縁と延禄堂・明礼堂南縁の空間は 4 丈 4 尺になる。

(3) 朝集堂域 朝集堂域では築地、回廊、建物構造は未検出である。このため指図に頼るが、朝集堂は朝堂北二・三堂と同規模に表わされていることから東西 6 丈、南北 13 丈とする。朝堂南面回廊南縁と朝集堂北縁との間は「六丈」の書き込みがある。朝集堂南縁から朝集堂南面築地までは「七丈八尺」の書き込みがある。

朝集堂を囲む施設は東西面と南面の一部が回廊ではなく築地として描かれる。ただし、内裏や豊楽院の指図では築地は一本線で表わされているが、ここは二本線で表わされている。通常の築地ではなく、特殊な築地になっているのではないだろうか。指図では、南東隅に「六尺」の記述が見えるが、これは垣半ととられる。なぜならば、九条家本の指図では大極殿院北面回廊東縁に「二丈五尺五寸」と記されており、この数値は回廊北東隅対角線の何らかの寸法の半分と考えられるためである。^{文293} また、『延喜式』左右京職の京程では築地規模は垣半としている。そのため築地規

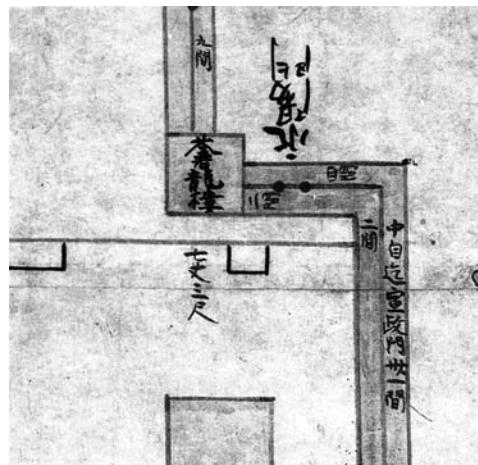


写真 8 朝堂院北東隅部の書き込み（陽明文庫）

模は1丈2尺と考え、築地東・西外縁が朝堂東・西面回廊心に、築地内縁が内側柱列に一致する。結果、朝集堂南縁から築地南縁までは9丈となり、朝堂域の南面回廊心から30丈の位置となる。また、この位置は宮南面築地心から北へ44丈のところにあり、冷泉小路北築地延長心と一致する。

東西に関しては宮中軸線から朝集堂内側まで「廿丈八尺」の記載がある。朝集堂の東西幅が6丈であることから朝集堂外側から築地までは4丈の空間となる。

応天門は朝集堂域南面回廊心にあることから、位置は宮南面築地心から北へ44丈にあり、朝集堂を囲む築地南縁の延長と同一となる。応天門からは「十間」分東西に回廊がのび、さらにそこから「八間」分南にのび栖鳳樓・翔鸞樓へとながっていた。

以上が考古学的な成果と指図や従来の研究成果などを根拠にした朝堂院の復原である。推測をも含めたものであるが現状の案とする。

最後に、平城宮跡では大極殿院で3:4という比率の利用が報告されている。^{註1} 平安宮跡の場合には宮東西幅(384丈)と朝堂院東西幅(64丈)の関係が6:1という比率を示し、平城宮跡と同様であることは指摘されているが、^{文293} 3:4の比率は報告されていない。大極殿院内にこの比率をあてはめることはできないが、大極殿院北心から龍尾壇に至る距離と宮中軸線から朝堂域の東・西面回廊心までの間の距離は24丈:32丈で、3:4の比率になることが指摘できる。

2 豊楽院

豊楽院では、豊楽殿、豊楽殿より東に延びる廊・栖霞樓、北廊、東面築地内溝を検出し、豊楽院北部の様相が明らかとなりつつある。

豊楽殿の東西心は宮中軸線から西へ206.90m(69丈3尺)、基壇西縁の延石抜取跡心は宮中軸線から西へ229.88m(77丈)、基壇北縁は宮南面築地心から北へ471.93m(158丈1尺)に位置する。東に延びる廊の北縁および栖霞樓北縁はほぼ同じ東西線上にあり、宮南面築地心から北へ469.90m(157丈4尺)にある。東面築地内溝心は宮中軸線から西へ124.91m(41丈9尺)にある。

豊楽院の東西幅は、東西築地心が内溝心から1丈東と考えられるため57丈とする。豊楽殿の規模は東西幅15丈3尺、南北幅7丈6尺である。豊楽殿から東に延びる廊北縁の延石は、栖霞樓に推定できる延石とほぼ同位置で検出したことから、造営当初は北面廊のみが存在し、のちに栖霞樓が造られた可能性がある。廊の北縁位置は豊楽殿北庇柱列から北へ6尺にある。廊幅が4丈であるなら、廊心は豊楽殿身舎北側柱列と一致する。

3 内裏

内裏関係では内郭西面回廊、内郭東面回廊、承明門の位置が確認されている。このほかに、外郭西面築地、蔵人町屋東・南雨落溝、登華殿東雨落溝および蘭林坊で溝を検出している。

内郭西面回廊は東西基壇縁を検出しており、その基壇幅は10.50m(3丈5尺)である。回廊心は宮中軸線から東へ102.77m(34丈4尺)の位置にある。また、内郭西面回廊の東雨落溝は宮中軸線から東へ107.93m(36丈2尺)にある。内郭東面回廊は西縁地覆石を検出しており、その位置は宮中軸線から東へ265.70m(89丈)である。

内郭南面中央にある承明門では北雨落溝および門心の北延長線上で一列に並ぶ地鎮め遺構を検

出し、内裏東西心を確定した。その位置は宮中軸線から東へ 186.88m(62丈6尺)にある。

蘭林坊では東西方向の溝が検出されている。溝以北に築地が想定できることから、この溝は築地外溝になる。溝の中心位置は宮南面築地心から北へ 903.61m(302丈7尺)となる。

外郭西面築地は宮中軸線から東へ 76.40m(25丈6尺)にある。この築地は中和院東面築地でもあり、内郭西面回廊の西 8丈8尺に位置している。

内裏の北端となる手掛かりを千本通の試掘・立会調査で得た。この調査では中和院北面築地推定地で南北2条の溝を検出し、その間が築地と考えられる。南溝心は宮南面築地心から北へ 812.04m(272丈1尺)、北溝心は宮南面築地心から北へ 819.44m(274丈6尺)にあり、築地心と想定できる位置は宮南面築地心から北へ 273丈3尺となる。また、その北には幅3mほどであるが路面を検出している。

内藏寮では南面築地とその内・外溝および北面築地内溝を検出している。南面築地外溝は宮南面築地心から北へ 973.21m(326丈1尺)に、北溝は宮南面築地心から北へ 977.61m(327丈6尺)に位置する。このため築地心は宮南面築地心から北へ 326丈8尺にある。内藏寮北面築地内溝の位置は宮南面築地心から北へ 1087.87m(364丈5尺)にある。

内裏内郭内の建物配置については部分的に雨落溝を検出しているが細部については不明である。内郭回廊については東西心々で 57丈、外郭築地心までは西が 9丈、東が 7丈、南が 10丈に復原する。結果、外郭築地東西心々間は 73丈となる。

内裏北端は試掘・立会調査の結果、内藏寮南面築地が 1丈分北に上り、北面築地内溝の検出位置から内藏寮の南北幅は 39丈となる。また、南面築地外溝から 6m 南で検出した溝は内膳司の北面築地外溝と考えられ、内藏寮と内膳司間は 4丈幅の道路と考えるのがもっとも妥当である。

中和院は北面築地に伴う溝の検出により南北幅 57丈に復原できる。また北面築地北で検出した路面は小路幅よりさらに北に位置するため、ここには 10丈幅の大路を考えるのが妥当である。内膳司の南北幅は 40丈であるので、結果、内裏外郭南北幅は 107丈となる。中和院、内膳司、内藏寮の東西幅はともに内裏外郭西面築地の位置から 50丈とする。

最後に今回の復原が従来ともっとも異なるのが内裏北についての解釈である。内藏寮と内膳司間は 4丈幅の道路と考えたが、内裏北と縫殿寮間がそのまま 4丈であったかという点である。内裏北中央には朔平門があり、指図ではその左右に仗舎が描かれている。縫殿寮との間が 4丈であるなら、指図のような施設を設けるには路面の幅が狭い。そこで縫殿寮の南面築地を北に上げ、道路幅を 9丈とした。結果、縫殿寮の南北幅は 34丈となったが、これは式部省北面築地心から宮南面築地心までの距離に等しいものである。両者は中御門大路の宮内延長路を軸に南北に折り返した位置とも一致する。

註

註 1 「建物配置計画」『平城宮発掘調査報告 XIV 第二次大極殿院の調査』奈良国立文化財研究所創立 40 周年記念学報 第 51 冊 奈良国立文化財研究所 1993 年

II 平安宮の変遷

1 宮跡内の遺構残存状態

前節では朝堂院・豊楽院・内裏を中心に遺構の配置関係をとりあげ説明してきた。この節では遺構の時期ごとの変遷を検討する。

当研究所の発足後、平安宮跡の調査は発掘・試掘・立会調査を含め 1564 件実施している。この中から、平安時代の遺構や遺物包含層を検出した地点をドットで示したものが図 136 である。



図 136 平安時代遺構検出地点分布図

この図によって遺構の残存状況の大概を知ることができる。遺構検出地点は中央部で集中するものの、全域でほぼ均等に分布する。検出地点が南北と東西に連続しているのは主要道路に沿った開発が多く、そのためにより多く調査を実施した経過を示す。中央を南北に連なるものが千本通、内裏南半を東西に連なるものが下立売通、造酒司から中務省に連なるものが丸太町通である。

平安宮内では二条城内を除いて比較的一様に調査を実施してきた。しかし多数を占める立会調査は、掘削深度が浅い場合や平面的な調査ができない制約から遺構が検出されないことが多い。したがって、遺構検出地点は発掘調査地点と重なる場合が多い。ただし千本通や下立売通で実施した試掘・立会調査のように遺構を多数検出し、重要な成果を得た箇所もある。

また、平安宮内では聚楽第^{註1}および二条城が造営されており、地下遺構への影響も考えられる。図136を見ると、聚楽第跡については内堀にあたる部分での遺構検出は皆無であるが、内部では遺構の検出がみられ、造営に際しての破壊は比較的少ないようである。ただ、両城の周辺地域においては広範囲に再開発が行われており、地下遺構が破壊された地域も多々ある。頻繁に検出される土取穴は、開発に関連する遺構といえる。

次に宴松原にある地域も遺構の検出が少ない。これは、宴松原が元来空閑地であったためであろう。平安宮の北西部も遺構の検出が少ない地域である。この地域は小規模な宅地開発が多いことや、近世の再開発に伴う搅乱が多いことが主な要因と考えられる。

2 遺跡の変遷

以上、全体を見てきたが、ここでは概略的に平安時代を前期（9世

紀）、中期（10世紀）、後期（11世

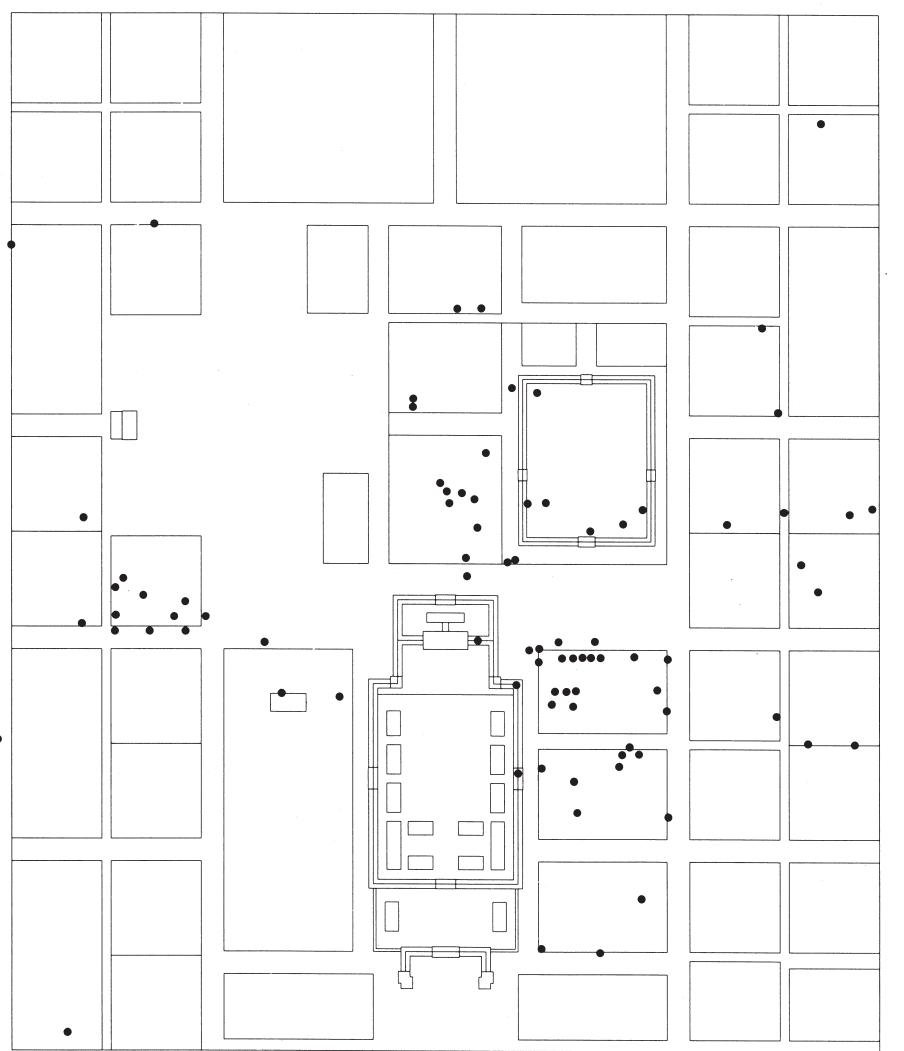


図137 平安時代遺構検出地点分布図

紀以降)の3時期に区分して、時期ごとの変遷状況をみる。

(1) 平安時代
前期 平安宮内で検出される遺構ではもっとも多く、比較的一様に分布する傾向にある。検出した遺構には築地、回廊、建物に伴う雨落溝や柱穴、土壙、溝及び整地層がある。

発掘調査件数が多い豊楽殿・内裏・中和院・太政官・中務省・造酒司などで多くの遺構を確認してい

る。遺構は聚楽第

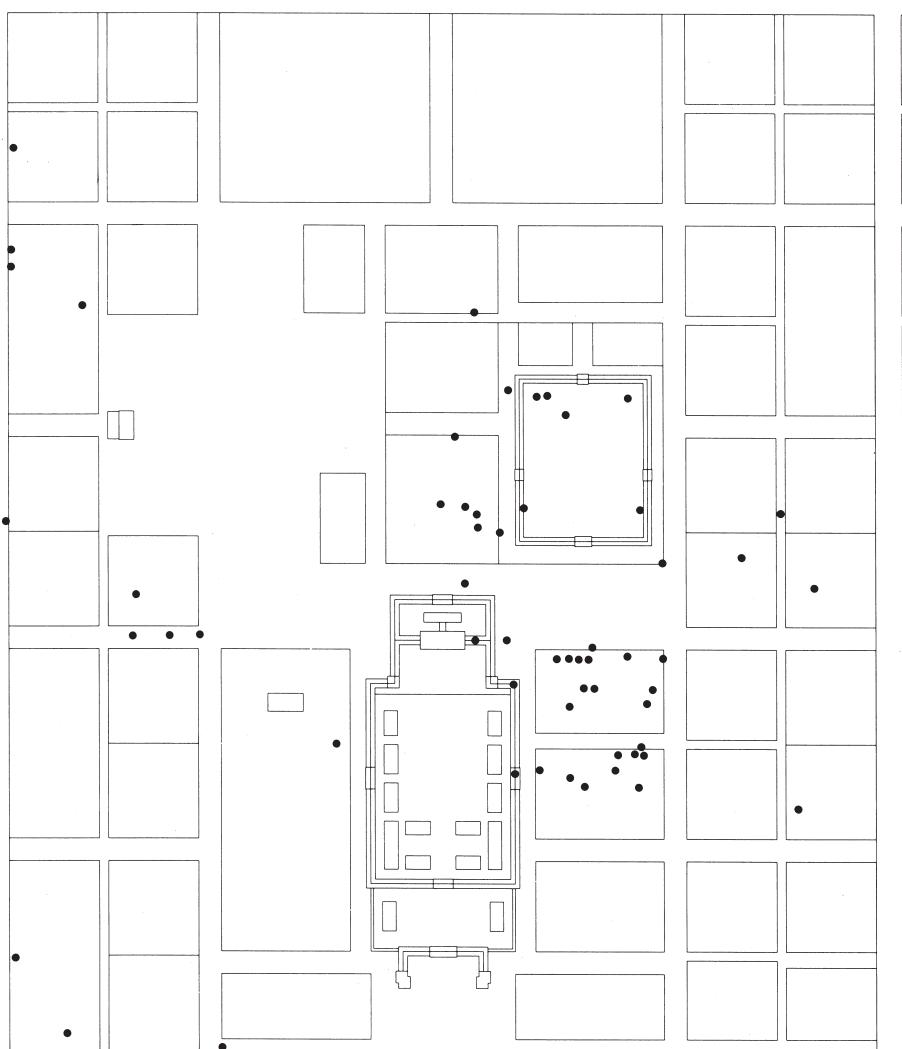


図138 遺構検出地点分布図(中期)

内部にも及ぶ。朝堂院では回廊や門に伴う溝を検出している。西部では造酒司以外は少ない傾向にある。

中務省や造酒司においては大半の遺構がこの時期に属し、活発な活動が知れる。内裏・中和院・中務省・主水司などで平安時代初期の土器が一括で廃棄された遺構がみられる。これらは平安宮造営当初の状況を知る上で重要な意味をもつ。

内裏では内郭回廊、承明門、藏人町屋の遺構を確認している。これらの遺構は重複した状態で検出しており、その後の変遷が理解できる具体例である。

(2) 平安時代中期 全体に前期より出土例が少なくなる傾向にある。検出遺構は前期と同様、築地、建物、溝、土壙などである。

太政官跡や中務省跡では前期から引き続き遺構を検出している。宮跡の東部では検出例が少くなる半面、西部では希薄ながら分布がみられる。

内裏の後宮では大規模な土壙が多数検出される。この中には火災に遭った遺物が出土するものがある。これらは内裏焼亡を検証する事例となっている。

朝堂院では前期と同様の遺構の状態がみられる。

(3) 平安時代後期 中期より遺構の検出例はさらに少なくなる傾向にある。検出遺構としては溝、土壙、整地層が主である。

朝堂院では後期になって整地層が遺構を覆う状況がみられ、改変が加えられたことが窺われる。

内裏では南半部のみで遺構が確認される。承明門の地鎮め遺構群の大半はこの時期に属し、内郭西面回廊もこの時期まで存続する。

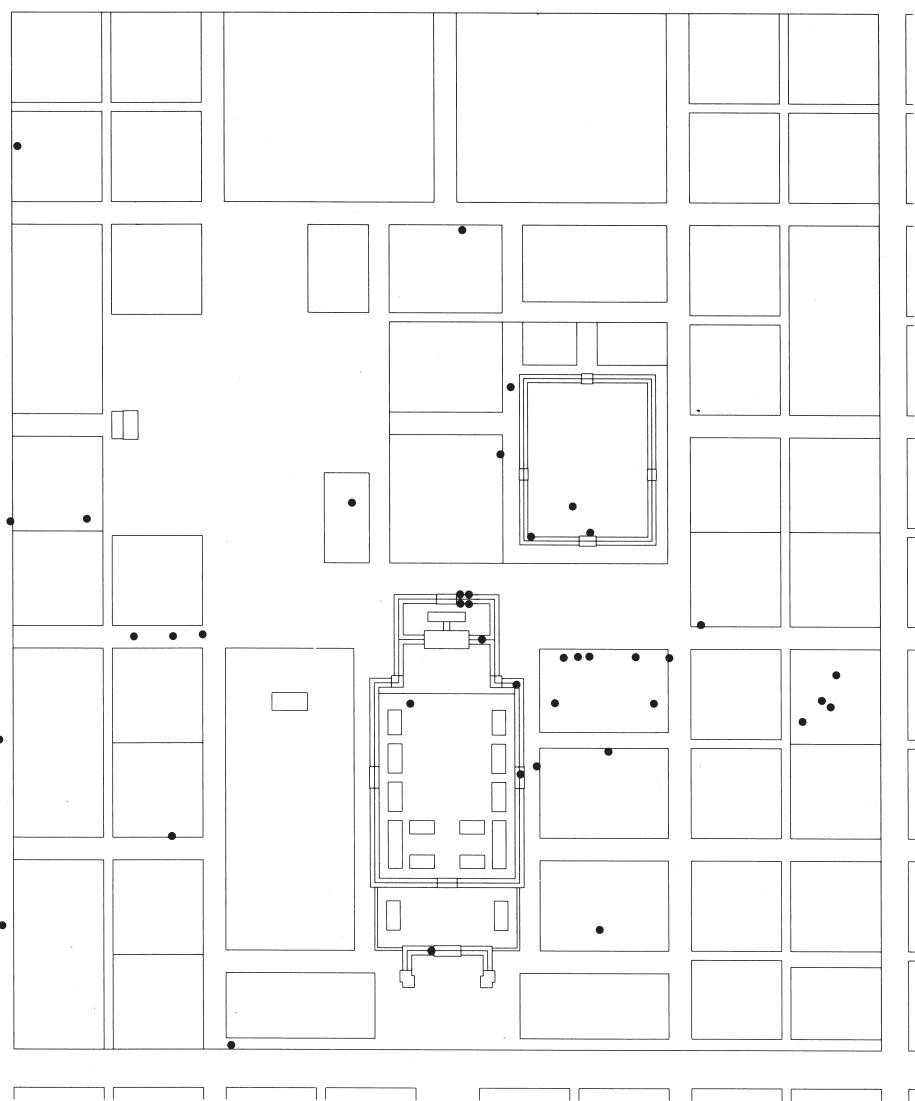


図 139 遺構検出地点分布図（後期）

中務省や大膳職ではまとまった遺構の検出がみられるが、他の官衙ではさらに分布が希薄となる。造酒司でこの時期にまで存続した遺構は、南面築地外溝のみであり、道路の機能だけが存続していたことを想定させる。

3 まとめ

平安宮跡で検出した遺構を時期ごとに整理し、その変遷を概括した。そして、前期・中期・後期と時代が下るに従い遺構検出地点が少なくなる傾向を指摘した。こうした遺構変遷の背景としては、官衙の統廃合や度重なる火災、摂関政治に伴う里内裏への移行や院政の本格的な開始などが原因として考えられ、上記した遺構の変遷は平安宮の歴史的変遷を考古学的に示したものとして評価できる。平安宮の調査は小規模かつ制約の多い調査が大半であるが、点的に得られた調査成果を総合的に検討することで、考古学的には新たな視点から平安宮を考察することも可能となる。そのためにも今後のさらなる積み重ねが必要となろう。

註

註 1 足利健亮「聚楽第内城について」『長岡京古文化論叢Ⅱ』中山修一先生喜寿記念事業会 1992年

III 地形断面からみた省庁の占地

第2章第1節において、宮城の現地形と旧地形の等高線図を作成し、旧地形復原と平安宮跡の立地について述べた。ここでは、宮城の南北方向と東西方向の断面図により、その地形的変化および宮城内の各省庁の占地について若干の考察を行うこととする。

図140は、第2章の図3(宮城現地形等高線図)および図4(宮城旧地形等高線図)を用い、いずれも大極殿の中心を基点として作成した南北・東西断面図である。ただし、作図にあたっては各主軸を中心として幅50mの範囲内で行われた調査の地山標高値を参考として、より細かな旧地形の復原に努めた。地形的変化を読み取りやすくするために距離を10,000分の1、標高を1,000分の1に縮尺比率を変えて示している。それぞれの上線が現地表面を示し、下線が地山面すなわち無遺物層上面を示している。それぞれ上下両者の標高差が後世に積もった、あるいは積み上げられた土層の厚さを表すことになる。

1 南北断面

南北断面は、宮・京の東西中軸線にあたり、宮北限の偉鑿門、大蔵省間の南北道路、内藏寮、内膳司・采女町、中和院、大極殿院、朝堂院を経て宮南限である朱雀門へ至る経路である。

この南北断面上では、宮北限の偉鑿門付近の標高は57.5mあり、宮域内で最も高い標高を示し、宮南限の朱雀門付近での標高36.5mとは比高差21mで、その勾配は1,000分の15.6となる。これに対して、平安京南北中軸においては宮北限(偉鑿門)-京南限(羅城門)間の勾配が1,000分の8.4、また宮南限(朱雀門)-京南限(羅城門)間では平均1,000分の5.3である。これらと比較すれば、宮城内の南北の勾配がかなり急な傾斜であることがわかる。

図140の南北断面図は、先述したように傾斜を強調するために標高を距離の10倍として作図していることから、見た目にはさらに傾斜が著しいという印象を与えるが、地形の変化を見きわめる為には有効であると考える。この図からは、平坦に近い箇所とそれに比べて傾斜が著しい箇所があることがわかる。まず、平坦に近い箇所としては、内藏寮、中和院、大極殿院および朝堂院の南半部などに認められ、それらからの傾斜の変換点として内藏寮と内膳司・采女町の間、中和院の南半から宮城門付近、大極殿院と朝堂院の間、朝堂院南半から会昌門付近があげられる。その勾配は1,000分の20~40という値が得られる。図上では明確に図示しえなかつたが、これら傾斜の急な箇所では平坦面を作り出すために地山を切り盛りして段を形成していたものと考えられる。龍尾壇の北・南方にみられる段はその具体例であろう。

次に、図示した各省庁の占地地域の勾配を個別にみると、以下の数値が得られる。

内藏寮 1,000分の16.6 内膳司・采女町 1,000分の25 中和院 1,000分の16.6

大極殿院 1,000分の16.6 朝堂院 1,000分の15.3

内藏寮・中和院・大極殿院・朝堂院については、それぞれ宮域の勾配の平均値に近い値を示しているが、内膳司・采女町については平均値を大きく越える勾配であることがわかる。宮北限から内藏寮間の勾配は、1,000分の13.8という比較的緩やかな数値が得られる。

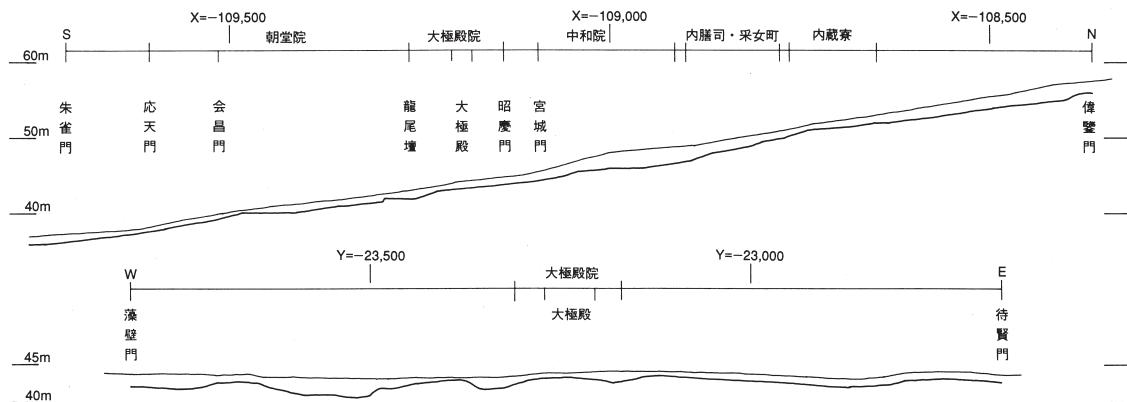


図 140 平安宮地形断面図（上線は現地表面、下線は地山上面）

2 東面断面

図 140 に示した東面断面は、大極殿の中心を東と西に延長したもので、京内東西大路である中御門大路の宮内延長道路のほぼ中心線にあたり、東は大宮大路に面して待賢門が、西は西大宮大路に面して藻壁門が存在する。大極殿院の東側は、中務省の北側、西院・主水司と西雅院の間、大膳職と東雅院の間を通り待賢門に至る。また、西側では豊楽院の北側、典薬寮と造酒司の間、左馬寮と内匠寮の間を通り藻壁門に至る。

現地表面が比較的平坦であるのに対して、地山上面はかなり起伏が著しいことがわかる。距離と標高の比率を変えているため、かなり凹凸が強調されているが、いくつかの小規模な尾根状を呈する地形と谷状を呈する地形の存在が指摘できる。尾根状地形の標高は 43m 前後にあり、谷状地形の標高は 42.5m から 41m とさまざまである。

まず、図示した大極殿院の範囲では、大極殿院の東西両側には谷状の凹地が存在しており、正殿である大極殿はその間の高まりに立地していることがわかる。

次に、大極殿院から東に目を転ずれば、大極殿院の東側の凹地から東へ徐々に高まり、中務省の北側にあたる地域となる。この高まりは東へ緩やかに低くなり、西院・主水司と西雅院の間にあたる地域が最も低くなつて、大膳職と東雅院の間に当たる地域でやや高くなる。宮域を出てさらに東行すると、堀川西岸の自然堤防で一旦高まり、堀川に向かって急激に下がるものと思われる。

一方、大極殿院の西には、尾根状地形があり、豊楽院の北側地域にあたる。豊楽院の正殿である豊楽殿は、この高まり上に立地している。豊楽院の西部から西の造酒司・典薬寮の東半部はこの東西断面では最も深い谷状地形があり、その西半部から内匠寮・左馬寮の東部には高まりがみられる。そのさらに西については、東側と同様に西堀川（紙屋川）東岸の自然堤防の高まりがあり、西堀川に向かって急激に下がるものと想定できる。

以上、大極殿院の東西両側は中御門大路の延長道路であるが、その断面は道路に面して南北に占地する各省庁の地形を少なからず表しているものと考えられる。

3 まとめ

最後に南北と東西それぞれの断面図から読み取れたことを記してまとめに代えたい。

まず、南北断面については図に示されたように、この軸線上に占地する省庁は、内膳司・采女町が比較的急斜面に立地するほかは、いずれも比較的平坦面に立地している。また、傾斜の変換点とした箇所は、ほぼ各省庁の間に位置することがわかる。

たとえば、大極殿院と朝堂院の関係をみれば、大極殿院北端の昭慶門から大極殿の南まで平坦面があり、龍尾壇を介して朝堂院域へ達する。この地点付近に変換点が認められる。この龍尾壇の南には小平坦面があり、約0.5mの段差をもって次の緩やかな傾斜面へ移行する。朝堂院域は北半が緩やかな傾斜、南半は平坦面を形成しており、会昌門付近に変換点がみられ、緩やかな傾斜で南端の応天門へと続く。龍尾壇の南でみられる小平坦面は、東西第一堂までの空間を示すものであろう。資料がさらに増加すれば、ほかの省庁においても同様の小平坦面が明らかとなり、造成工事の実体が把握できるものと思われる。

一方、東西断面については、大極殿院は高まりの上に立地していることが明らかであり、その東西両側の断面に示された高まりは、ほぼその道路の南北に占地する豊楽殿や各省庁の位置と一致していることが指摘できる。つまり、豊楽殿や各省庁はそれなりに高まった地形の上に立地しており、谷状地形はおおむねそれらの間に存在しているといえる。なお、第2章第2節で述べた平安宮造営以前の遺跡のうち、大極殿院の東側の地域は堅穴住居をはじめとする古墳時代後期の集落域にあたり、この集落は緩やかに南東へ傾斜する範囲に立地していることがわかる。

図140の基となった図4は、平安宮内の1,500件を越える調査成果による地山標高を基に作成された等高線図であり、比較的平安宮造営時に近い地形を示すものと考えられる。しかし、平安宮の造営も含め、それ以降に深く地山が掘削された場合には、等高線の乱れとして如実に現れてくる。少なくとも、近世には宮域の北東部に聚楽第が、同南東部に二条城が造営されており、また宮内で多くみられる地山（黄褐色系粘土のいわゆる聚楽土）は壁土に適することから深く採土されている箇所もある。聚楽第および二条城には大規模な堀が開削されており、等高線に少なからずその影響が現れていることは、第2章第1節に述べたとおりである。

以上、地形断面図の検討を通して宮内諸省庁の占地について述べた。今後調査を重ねることで地山標高の資料が増加すれば、さらにきめ細かな旧地形の復原が可能になることは確実で、小規模な調査の継続が平安宮の立地・構造を理解するうえでいかに重要であるかを強調して、本節のまとめとしたい。

付章 未報告調査の概要

当研究所では、昭和51年(1976)の設立以来、平安宮跡における調査を継続してきた。その調査成果については、文化庁国庫補助事業による調査報告書である『平安京跡発掘調査概報』、同『京都市内遺跡試掘立会調査概報』、『京都市内遺跡立会調査概報』、当研究所の年次報告書である『京都市埋蔵文化財調査概要』、ならびに当研究所の節目にあたる設立5・10周年には『平安京跡発掘資料選』を刊行し、逐次報告を行ってきた。

しかし、一部ではあるが当研究所の刊行物に収録されなかった未報告の調査事例がある。それらは、当研究所の年次報告が未刊行な昭和51年(1976)～昭和55年(1980)度の調査、ならびに平成5年(1993)度以降の調査のうち文化庁国庫補助事業によらない調査で、発掘調査20件、試掘・立会調査25件がある。この章では、これらを発掘調査、試掘・立会調査に分け、年度順にその概要を示すこととした。

I 発掘調査

1 縫殿寮跡(1)

経過 上京区下長者町通裏門西入坤高町でビル建築がされることになり、発掘調査を実施することになった。調査は18箇所のコンクリート基礎掘下げ部分を対象として、昭和51年(1976)11月9日に開始し同20日に終了した。

遺構 基本層序は現代層が厚さ約0.8mあり、現代層下はいわゆる聚楽土と呼ばれる地山(黄灰色泥土)となる。

検出した遺構は聚楽土を採取した土取穴のみで、縫殿寮に関連した遺構は未検出である。ただ、土取穴からは平安時代の平瓦片や加工を施した凝灰岩が出土している。

遺物 遺物整理箱で3箱出土した。すべて土取穴から出土した。中・近世の土師器・陶磁器類が主体で、その他には平安時代の瓦片、凝灰岩の破片などがある。

小結 今回の調査では縫殿寮に関連する明確な遺構を確認することはできなかった。しかし、現地表下約0.8mで地山を検出しており、さらに、原位置を失ってはいるが、加工痕がある凝灰岩が出土していることから、周辺では遺構の遺存する可能性が高いと考えられる。

2 造酒司跡(16・19・34・63 図版72～84)

経過 調査地点は中京区聚楽廻松下町に所在し、造酒司に比定されている箇所である。当該地は京都市の管理する土地で、南は丸太町通、東は七本松通、西は下の森通に囲まれ、市街地にあってはかなり広大な敷地を有する。敷地面積は約13,000m²である。敷地内では過去3回にわたり発掘調査が実施されている。初回は昭和49年(1974)に保護課によって行われ、第1・2次調査を文139-1
昭和52年(1977)に当研究所が実施している。^{文163}

第3～6次調査の契機は、過去3回の調査と同様、京都市が当地の再利用計画として社会教育

総合センター（現京都アスニー）・中央図書館・休日急病診療所・計量検査所などの建設が計画されたためで、その事前調査である。

これまでに当研究所の実施した第1・2次調査については既に報告したが、昭和52年(1977)の第3次調査から昭和54年(1979)の第6次調査までの調査については未報告であったため、ここにその概要を示すことにする。ただし、詳細については第3章の造酒司跡にまとめて記載しているため、ここでは第3～第6次調査の調査成果の概略を述べるにとどめておく。

遺構・遺物 第3次調査（調査3） 調査地点は

造酒司の南西角に該当する。調査面積は712m²である。検出した遺構は、平安時代では溝、土壙、道路、室町時代では溝、江戸時代では溝、土壙、掘立柱建物がある。平安時代の溝は造酒司の南面築地外溝に比定され、平安時代前期の遺物を含む。

第4次調査（調査4） 調査地点は造酒司一町区画の南東部を占め、調査面積は2,102m²である。検出した遺構は、平安時代では調査3で検出した溝・道路の西延長部があり、新たに掘立柱建物1棟、柵列、土壙を検出した。室町時代では溝、江戸時代では溝、井戸、土壙、掘立柱建物、柵を検出した。平安時代の掘立柱建物は総柱であり、倉庫と考えられる。

第5次調査（調査5） 調査地点は造酒司一町区画の中央、西半に推定される。調査面積は859m²である。検出した遺構には、平安時代では溝、土壙、建物、江戸時代では溝、柱穴、井戸、土壙墓がある。平安時代の溝は造酒司跡の西面築地内溝に推定され、建物は新たに3棟検出した。土壙については、これまで出土した遺物よりやや時期の下る遺物を含む。

第6次調査（調査6） 調査地点は造酒司跡の南西角に推定される。調査面積は83m²である。この調査は、先の調査成果を補足する目的で実施し、造酒司跡の南面築地外溝、西面築地内溝を検出した。

小結 平安宮跡ではこれまでにも多くの調査が実施されているが、建物などがまとまって検出できた調査例は皆無に近い。造酒司の一連の調査では、区画施設をはじめ建物や土壙などを多数検出したことにより、今後の調査研究に明るい見通しを付けることができた。

3 西院跡(12)

経過 上京区日暮通丸太町上の西入西院町でビルが建築されることになり、発掘調査を実施した。調査地点は西院に想定されている。調査は昭和52年(1977)7月25日から同年8月12日まで実施した。調査面積は約25m²である。

遺構 基本層序は、現代層が厚さ0.6m、以下、暗茶灰色泥砂層が厚さ0.3m、黄褐色泥砂・礫混層が厚さ0.1m、茶褐色泥砂層が厚さ0.1m堆積し、地山の黄灰色泥土・茶褐色砂礫となる。現

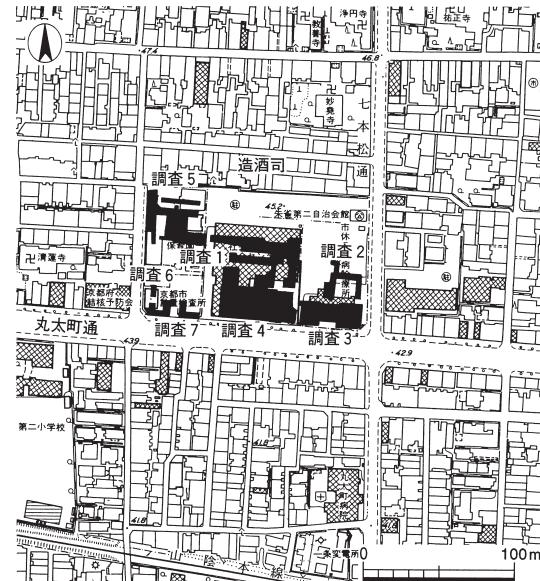


図141 付章2 調査位置図 (1:5,000)

代層下の各層には、中・近世の遺物を包含する。

検出した遺構には桃山時代の井戸、土壙などがある。井戸は平面形が円形を呈し、径 1.7m、深さ 1.7m ある。埋土は大きく 4 層に分層できる。多量の瓦、鉄滓などが出土した。

遺物 遺物整理箱で 12 箱分出土した。遺物の大半は井戸から出土した瓦類で、金箔軒平瓦、桐文飾り瓦などがある。特筆すべき遺物に、同井戸から出土した多量の鉄滓、轍の羽口がある。平安時代の遺物には土師器、須恵器、灰釉陶器などがある。

小結 今回の調査では平安時代に属する遺構を検出することはできなかった。しかし、平安時代に属する遺物は出土しており、周辺に当該期の遺構が遺存している可能性は高いと考えられる。なお、当地は桃山時代の聚楽第跡の推定地にも該当し、検出した井戸は聚楽第に付属するものと思われる。

4 漆室跡 (13)

経過 上京区御前通一条下る東堅町 132-1 に所在する京都市立仁和小学校校舎新築に伴い、昭和52年(1977)9月 18 日から 10 月 2 日にかけて発掘調査を実施した。調査面積は約 120 m²である。

遺構・遺物 基本層序は、現地表下 0.8 ~ 1.2m まで積土がなされ、積土下に江戸時代の遺物を含む黒褐色砂泥層が堆積する。同層は北東に向かって厚く堆積し、最深部では現地表下約 3m に達する。調査区南西部では積土下に黄褐色粘質土層が厚さ約 0.5m 堆積する。江戸時代以前の遺構面の可能性があり標高は約 54.5m である。同層下は黄褐色砂礫層となる。

遺構は黒褐色砂泥層上面で井戸と土壙を検出した。土壙は土器溜状を呈する。黄褐色粘質土層上面では遺構は検出できなかった。

出土遺物は土師器皿が大半を占め、国産陶磁器類、寛永通寶などがある。平安時代に属する遺物はほとんど出土していない。

小結 今回の調査では、検出した遺構はすべて江戸時代中期以降のもので、平安時代の遺構は検出できなかった。土取りなどの目的で江戸時代の中頃までに掘り窪められ、その後整地されたものとみられる。

5 正親司跡 (31 図版 88-1)

経過 上京区仁和寺街道御前東入鳳瑞町 219 番地に所在する本門仏立宗宗務本庁で会館の建設が計画された。調査地点は正親司西半・

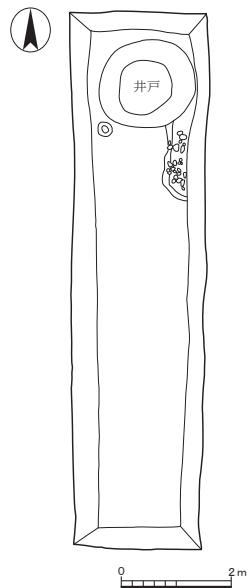


図142 付章3 調査区平面図(1:100)

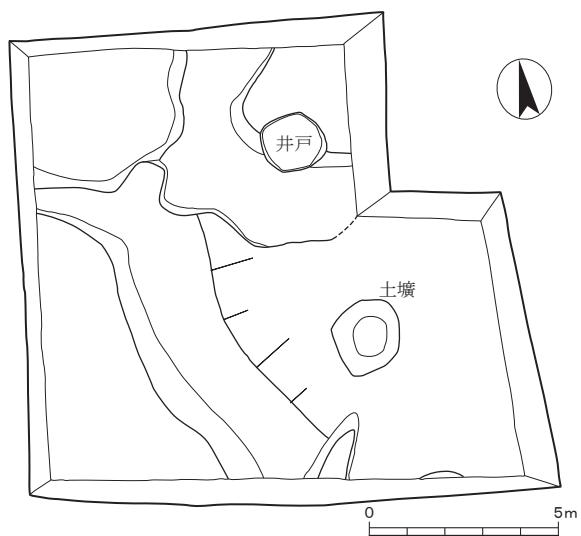


図143 付章4 調査区平面図(1:200)

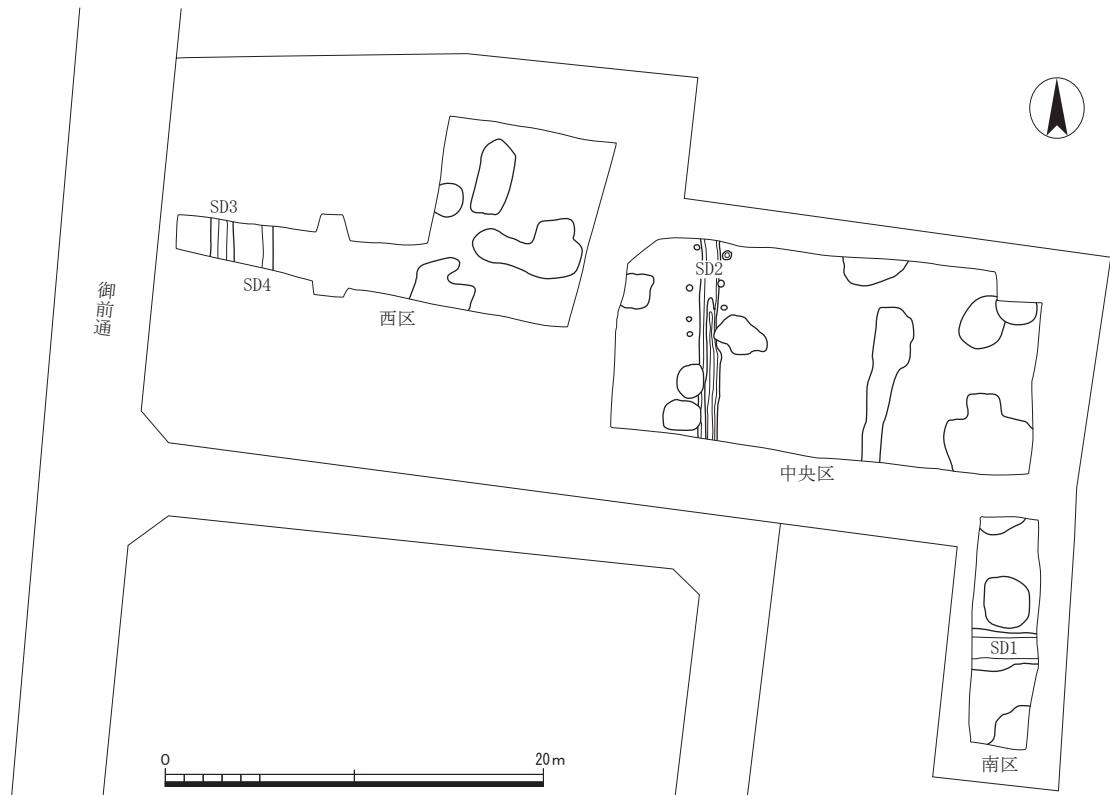


図144 付章5 調査区平面図(1:400)

平安宮西面築地が想定でき、工事に先立って事前に発掘調査を実施した。調査区は中央区、中央区の西に西区、同南側に南区の三箇所に設定した。調査は昭和53年(1978)7月21日から8月31日にかけて実施し、調査面積は約400m²である。

遺構 調査では平安時代前期に属する溝3条、柱穴列2列、平安時代後期に属する溝1条を検出した。その他、江戸時代に属する墓を数基検出した。南区では溝SD1を検出した。東西方向を示す溝で、幅約2m、深さ約1m、平安時代前期に属する土器類が出土した。中央区では溝SD2を検出した。南北方向を示す溝で、幅約1m、深さ0.2mある。東西両肩口には南北方向を示す柱穴列がある。柱穴は平面形が円形を呈し、径0.4～0.5m前後の規模を有する。いずれも平安時代前期の土器類を含む。西区では溝SD3・4を検出した。いずれも南北方向を示す溝で、溝SD3が幅約2.3m、深さ0.5m、溝SD4が幅約1.5m、深さ0.6mある。溝SD4は平安時代前期の土器類を多量に含み、SD3は平安時代後期の瓦・土器を包含する。

遺物 平安時代前期から後期、江戸時代に属する土器類、瓦類が出土した。平安時代前期の遺物はSD1・2・4から主として出土した。土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦など9世紀後半から10世紀前半の遺物である。平安時代後期の遺物はSD3から土師器・陶器・瓦器・瓦などが出土した。12世紀後半に属する。江戸時代の遺物は陶器・磁器などが出土した。

小結 溝SD4は平安宮西面築地(西大宮大路東築地)外溝、溝SD3は平安時代後期に改掘された同築地外溝と考えられる。溝SD1は正親司を南北に区画する溝と考えられ、溝SD2は官衙内の建物に伴う溝の可能性があろう。同溝両側に並ぶ柱穴は橋などの用途が考えられる。以上、官衙内を区画する施設や平安宮西限を示す施設を検出したことは、今回の調査における重要な成果で、

平安宮研究に新たな資料を提示できた。

6 主殿寮跡 (35)

経過 調査地点は上京区中立売通智恵光院西入多門町 445-12 に所在する。社屋新築に伴って発掘調査を実施した。当該地は主殿寮および聚楽第に推定される地域である。調査区の面積は約 100 m²である。調査は昭和54年(1979)2月10日から3月10日までの期間で実施した。

遺構・遺物 現地表下約 0.3m で遺構

面を検出した。遺構面の標高は約 53m である。調査区西端と同中央南部の一部に、いわゆる聚楽土と呼ばれる地山（黄褐色砂泥）が遺存していたに過ぎず、大部分は江戸時代に属する大規模な土取穴であることが判明した。土取穴は調査区外に広がっており、検出面からの深さは 2m に達する箇所もある。黄褐色砂泥層上では小柱穴を 6 基検出している。土取穴上面で検出した遺構には井戸が 1 基ある。

出土した遺物は、すべてが江戸時代に属する陶磁器類である。

小結 以上、調査区内は土取穴によって大半が削平を受けていたが、一部では地山が良好に遺存しており、今後とも周辺地域についても調査は必要である。

7 図書寮跡 (36 図版 88-2)

経過 上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 233 で事務所が建設されることになり、事前に発掘調査を実施した。調査地点は図書寮の北西部に該当する。調査区は東西約 23m、南北 4m の範囲に設定し、調査面積は約 90 m² である。調査は昭和54年(1979)4月1日から5日の期間に実施した。

遺構 調査では平安時代前期に属すると考えられる土壙 SK5・10 を検出した。土壙 SK5 は遺存東西長約 2m、南北長約 2m、深さ 0.5m ある。埋土は 1 層で、黒褐色土層が堆積していた。土壙 SK10 は東西長約 2.5m、現存南北長約 1m、深さ 0.5m ある。いずれも土壙の用途は不明である。他に、江戸時代に属する溝、土取穴、近・現代に属する土壙などを検出した。

遺物 土壙 SK5・10 から平安時代前期に属する土師器、須恵器、石製品（碁石）、瓦などが出士している。その他、江戸時代に属する遺構からは陶器、磁器などが出土した。

小結 過去、図

書寮比定地で平安時代に属する遺構の検出例はなく、本調査での平安時代前期に属する遺構・遺物の出土

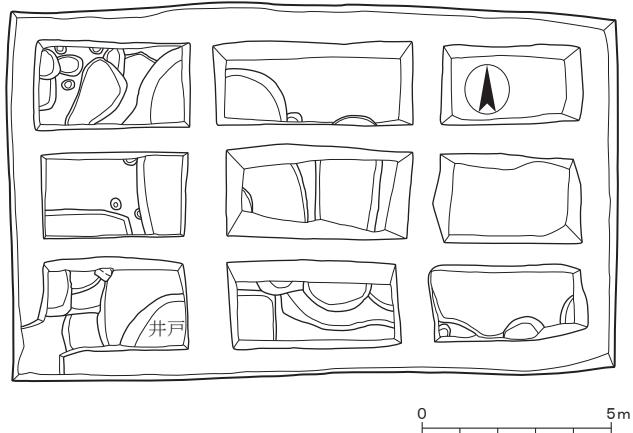


図145 付章6 調査区平面図(1:200)

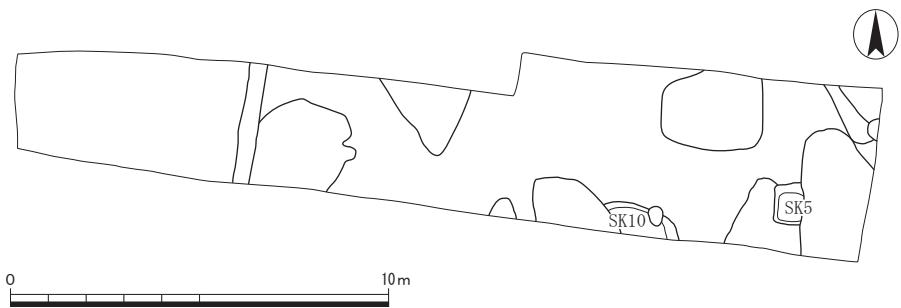


図146 付章7 調査区平面図(1:200)

は、当該地周辺における今後の調査につながる重要な成果といえよう。

8 茶園跡 (53)

経過 上京区中立壳通松屋町西入新白水丸町 462 で、建物の新築に伴い発掘調査を実施した。調査期間は昭和54年(1979)5月 12 日から 5 月 30 日まで実施した。

この付近は平安宮跡の北東隅に該当し、「宮城図」では茶園または鍛冶司と示されている。また多門町、須浜池町、高台院町など付近の町名から窺われるよう、天正 14 年(1586) 豊臣秀吉によって造営された聚楽第の内郭にあたる地域でもある。したがって、平安宮の遺構とともに聚楽第に関連する遺構の検出も期待される地域である。しかし、前述した聚楽第によって破壊されている可能性があること、また近世町屋地域となってからは数次の大火に見舞われており、かなりの搅乱を受けていることも考えられ、概して平安時代の遺構の遺存状況は悪いことも予想される。これは付近の調査で平安時代の遺構が検出されていないことからも肯定される。さらに、以前当該地に工場があった際にかなりの搅乱を受けていることが判明しており、建築対象地域に試掘調査程度の小規模な調査区を設定せざるを得なかった。したがって、調査では敷地入口西側に 1 区(南北 8m × 東西 4m)、中央北寄りに 2 区(南北 18m × 東西 4.5m)、その東に 3 区(南北 12m × 東西 9.5m) の三箇所に調査区を設定した。調査前は敷地が駐車場として使用されており、舗装されていたため、まず舗装などを機械力で除去することから始めた。

遺構・遺物 3 区は工事時の整地層、それに明らかに近世とわかる土層が厚く堆積していた。現地表下約 1.2m で調査区南西隅に地山を検出したことから、その高さにあわせて機械掘削を行った。調査の結果、現地表下約 1.2m 以下の地山を穿つ遺構もすべて近世のものであることが明らかになり、平安時代の遺構は検出できなかった。

2 区では、調査区全体が江戸時代の火災処理廃棄坑であることが判明した。現地表下約 3.6m で地山と思われる土層に達したが、古い遺構は認められなかった。ただ、廃棄坑にしては規模が大きく、あるいは当時窪みとして遺存していた聚楽第の堀を火災処理廃棄坑に転用した可能性がある。しかし、遺構の肩口は未検出である。この廃棄坑の東肩は 3 区西端にあるが、壁際であったので底面までは完掘していない。

1 区は現地表下 0.6 ~ 0.7m でやや堅固な土層を検出したことから、この土層以下を調査した。検出した遺構には、南北方向を示す 2 列の石列があり、東側の土層が固められていた。この石列は、現中立壳通で今は途切れているが、日暮通の北延長上に該当することから、日暮通の西側溝と推定できた。側溝の中からは近世の遺物が出土した。道路面は 3 面ほど検出した。

小結 1 区、2 区、3 区ともに江戸時代の後期に属する遺構を検出したにとどまり、桃山時代以前の遺構はまったく検出することができなかつた。ただ 2 区を中心とする火災処理廃棄坑は聚楽第の堀を利用している可能性があり、今後の課題として指摘する。

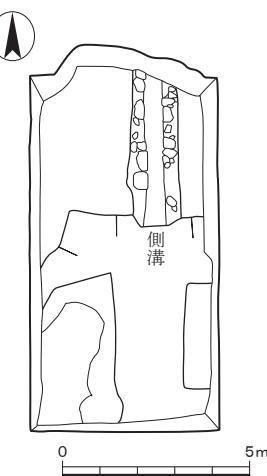


図147 付章8 1区平面図
(1:200)

9 御井跡 (69 図版 89-1)

経過 調査地は中京区西ノ京車坂町 15-5 に所在する。京都市立朱雀第六小学校の校舎増改築工事に伴い発掘調査を実施した。当該地は御井南半部（中務厨）および大炊御門大路の宮内延長路に該当する位置にある。調査予定地域に既存の建物基礎があったことから、建物基礎を対象地域から外し、調査区を 2 箇所に分けて調査を進めた。調査は昭和54年(1979)6月1日から同7月26日まで実施した。調査面積は1区が約260m²、2区が約130m²である。調査の結果、溝、土取穴、井戸、瓦敷遺構を検出した。

遺構 1区で検出した遺構には、溝6条、土取穴7基、1区
井戸1基などがある。これら検出した遺構はすべて近世に属するものであり、御井に関する遺構は検出できなかった。

2区で検出した主な遺構には瓦敷遺構がある。この遺構は湿地状遺構の上面に細かく碎いた瓦片を約0.1mの厚さで敷き詰めていたものである。湿地状遺構を含めた土層は大きく3層に分層でき、上層から茶褐色砂泥層が厚さ約0.1m、暗黒灰色泥土層が厚さ約0.15m、青灰色砂泥層が厚さ約0.1mある。茶褐色砂泥層からは、平安時代後期から鎌倉時代に属する少量の土師器片とともに多量の瓦片が出土した。瓦敷遺構は調査区全面で検出しており、調査区外にもさらに広がっている。

遺物 遺物整理箱で165箱出土した。その大半が土取穴および瓦敷遺構から出土した瓦である。ほかに、平安時代後期から鎌倉時代の土師器、近世の陶器、染付磁器などがある。

小結 今回の調査では御井・中務厨に関する遺構は検出できなかった。しかし、調査区内では現在でも地下水位が高く、土取穴底面の湧水の激しい状況からと、当該地周辺は平安時代においても有数の湧水地帯であったと考えられる。御井や北側に位置する造酒司などの平安宮内における官衙配置を考察する上で重要な手掛りとなろう。また、2区で検出した瓦敷遺構は大炊御門大路の路面延長位置にあり、軟弱な部分を修復、整地した際に埋め込まれたものと考えている。

10 豊楽院跡 (75 図版 89-2)

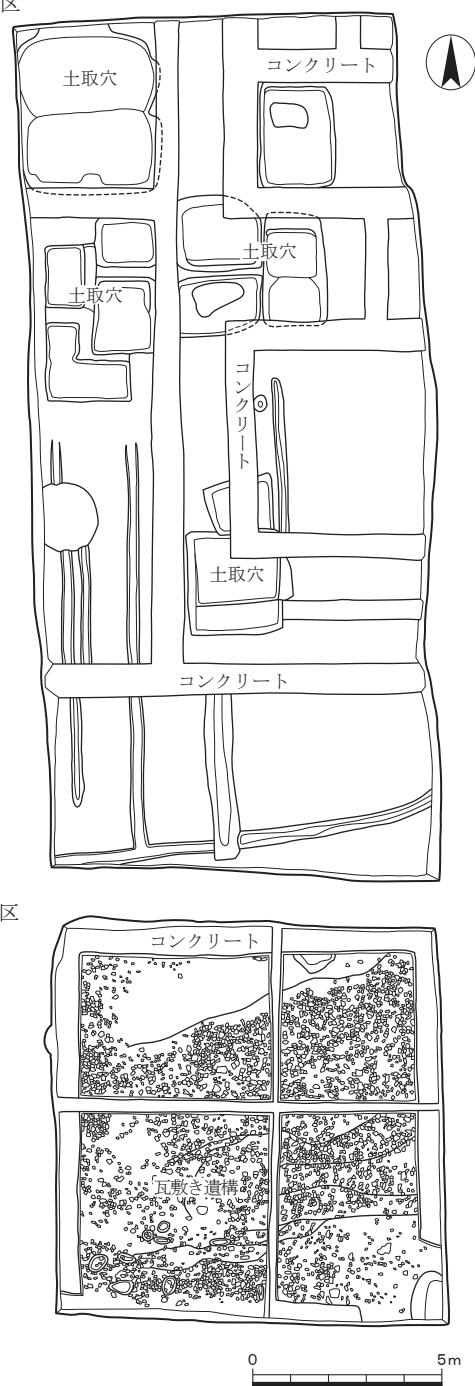


図148 付章9 調査区平面図(1:200)

経過 調査地は中京区聚楽廻西町 56 に所在する。建物が建設されるに伴い発掘調査を実施した。調査は昭和54年(1979)7月13日から19日にかけて実施し、調査面積は約48 m²である。

当該地は豊楽院に該当し、南東部の隣接地に、昭和44年(1969)に平安博物館によって発掘調査が実施された聖三一協会がある。この調査では、東西方向を示す溝状遺構や瓦溜などが検出されている。^{文111} 今回の調査地点と聖三一協会の境界には1m近い段差があり、今回の調査地点の方が高位置にある。

遺構 調査では建物の基礎掘削深が0.5mという制約のため、現地表下0.5m以下は未調査である。検出した遺構は、中世の土壙や平安時代の整地層がある。整地層中には凝灰岩の破片を含む。

遺物 遺物は遺物整理箱で11箱出土した。大部分は江戸時代以降のものであるが、平安時代前期から中期の瓦(瓦当を含む)、土師器、須恵器が少量ある。

小結 聖三一協会との境界にある段差が新しい時期の積土造成か、豊楽院に伴う建物基壇かの確認はできなかった。ただし、凝灰岩の破片が出土したことは豊楽院に関連する遺構が認められる可能性をとどめており、建物の建て替え時には再調査が必要である。

11 内蔵寮跡 (109)

経過 調査地は上京区下長者町通千本西入六番368-5に所在する。当該地で社屋新築工事が行われることになり発掘調査を実施した。

遺構 当初、現地表下約0.8mまで掘り下げたが、調査区中央部に地山と考えられる黄褐色粘土層が細い帯状に遺存する状況を検出し、その他では土壙を検出した。土壙は規模が大きく、黄褐色粘土層を対象とした土取穴であることが判明した。土取穴からは江戸時代の遺物とともに平安時代前期の瓦や土器片が出土した。

遺物 遺物は土取穴や撓乱から出土した。瓦類、土器類があるが、大半は瓦類である。瓦類では丸・平瓦、軒平瓦などがある。軒平瓦はC字対向の唐草文で、平安時代前期に属する。土師器は羽釜がある。

小結 内蔵寮は天皇の私的な財宝を保管する重要な蔵であるが、その実体は明らかではない。調査では平安時代の遺物が出土しており、周辺の調査には注意を要する。

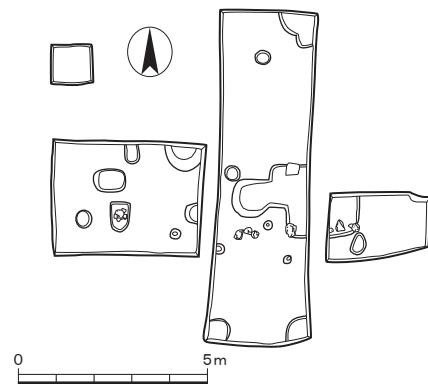


図149 調査区平面図(1:200)

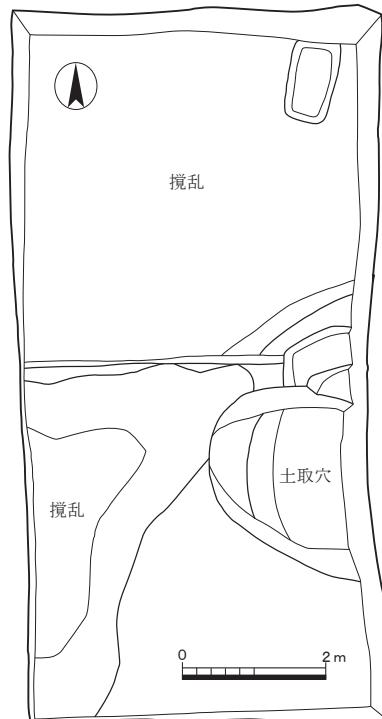


図150 付章11 調査区平面図(1:100)

12 朝堂院跡 (113 図版 20)

経過 この調査は中京区聚楽廻南町 1-9 で、マンション新築工事に伴って実施した。

調査地点は朝堂院の南、応天門の西南部に該当することから、これらに関連する遺構・遺物の存在が予想できた。調査は、敷地内に試掘坑を 4 箇所設定し、遺構の有無を確認した上で、既存施設による搅乱を受けていない中央北寄りに東西 15m、南北 10.5m の長方形の調査区を設定した。調査の結果、平安時代から江戸時代に至る遺構群を検出することができた。

遺構 基本層序は、現地表から厚さ 1 ~ 1.2m の石炭ガラによる近代の積土、ついで江戸時代後期の旧耕作土が厚さ 0.5 ~ 0.2m、暗灰色砂泥が厚さ 0.1m、江戸時代中期の暗灰色泥砂が厚さ 0.05m、褐色泥砂が厚さ 0.05m、その下が褐色砂礫の地山となる。褐色泥砂層上面や褐色砂礫上面で耕作に関連する江戸時代前期以降の小溝群とそれ以前の遺構群を検出した。

検出した遺構は総数 47 基を数える。これらの内訳は、平安時代から中世と江戸時代以降に大別でき、連続するものではない。しかも各時期の遺構群の内容や分布状況が異なり、前者と後者では遺構の用途が異なるものと考えられる。

平安時代から中世の遺構群には土壙（集石土壙を含む）16 基、落込 1 基があり、調査区の北東と北西に集中する傾向にある。形状は、円形、楕円形、長方形、不定形など様々で、規模も一様

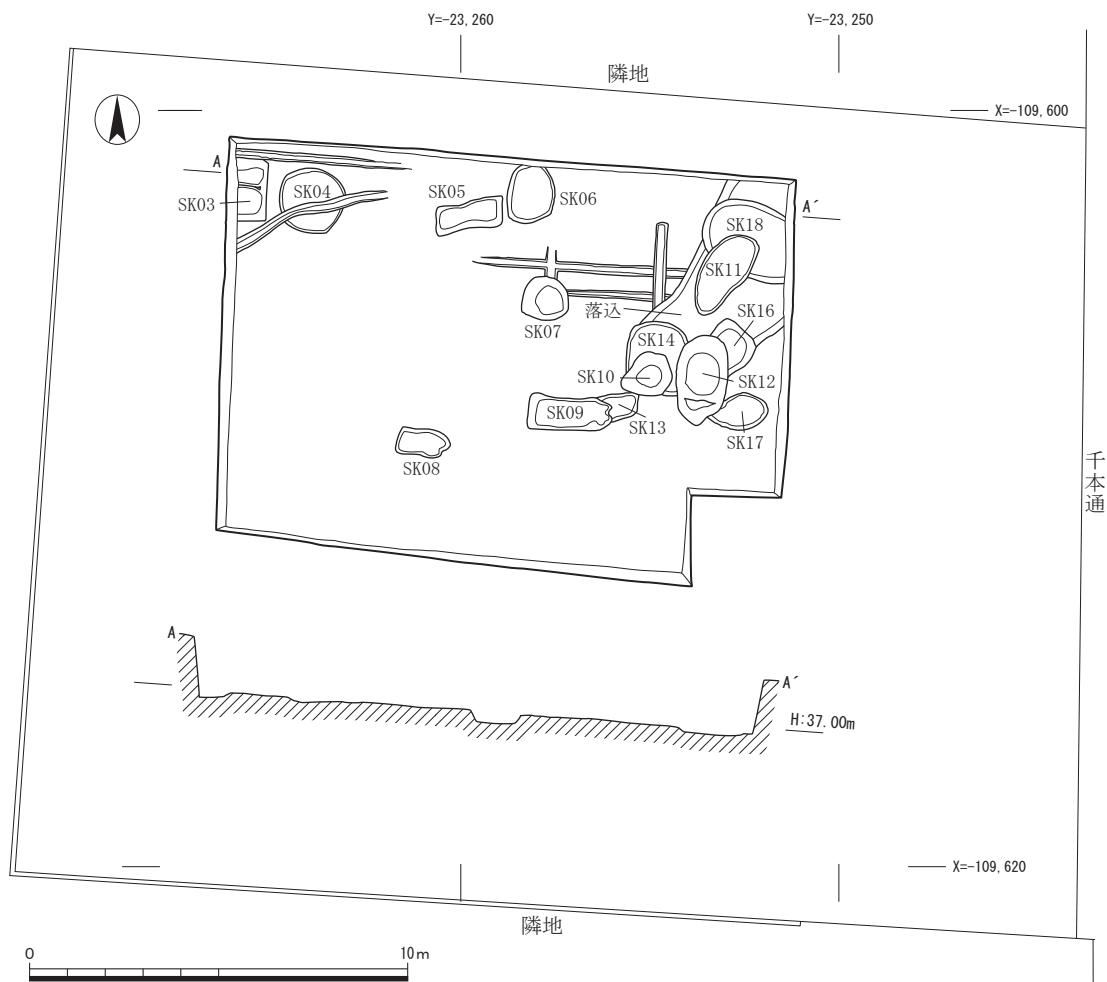


図151 付章12 調査区実測図(1:200)

でない。ただ SK03・05・06・07・09・10・12 は多量の拳大の川原石と平安時代の瓦を壙内に均一に詰めたような状況にあり、共通した特徴が認められる。また、SK03～06 は深さ 0.2～0.3m と浅く、SK07～12 は深さ 0.4～0.6m とやや深い。壙底はいずれも平坦かわずかに窪む。遺物は平安時代の瓦以外わずかに陶器の破片が出土したに過ぎない。

江戸時代以降の遺構群には、耕作に関連すると考えられる東西・南北方向の小溝群と小穴が 30 基ある。これらは褐色泥砂と褐色砂礫の上面で検出し、前者からは寛永通寶が出土した。後者の溝群は二時期あり、重複関係の新しいものには肥前陶磁器の小片が出土し、江戸時代以降には存在したと考えられる。

遺物 遺物は遺物整理箱で 22 箱出土した。遺物の時期は平安時代から江戸時代にわたるが、平安時代のものが圧倒的多数を占める。遺物の内容も瓦類が多数を占め、それ以外は、江戸時代の陶磁器と、平安時代の土師器・須恵器・陶器などがあるにすぎない。出土した瓦類の中には難波宮式の重圓文軒丸瓦 1 点・重郭文軒平瓦 2 点がある。

小結 今回の調査では、応天門と確定できる明確な遺構を検出することはできなかった。ただ問題となるのは調査区の北東部と北西部で確認した集石遺構群である。調査当初、これらは集石墓と考えていたが、釘や棺などの埋葬施設や人骨などが確認できなかつたことから、墓とは断定できなかつた。また集石の状況から建物の礎石に伴う根石とも考えられるが、遺構群の配列に規則性が認められず、かつ各遺構の規模にはらつきがあり、豊樂殿や中務省で検出された礎石据付穴に伴う根石と比較しても配列や大きさ、構築状況が異なり、にわかに根石とは断定し難い。また版築を含めた掘込地業や基壇外装に伴う施設なども検出できなかつた。さらに集石遺構から出土した遺物には、平安時代の瓦以外に具体的に時期を確定できる遺物の出土が少なく、遺構の重複関係を含めて平安時代と中世を区別しただけで、時期を限定するには至っていない。以上のことから、集石遺構群は、応天門に関係した可能性は少ないとみられるが、分布範囲は応天門の西側で、それに取り付く回廊の位置に相当している。

本調査と周辺地域の調査事例を比較すると、千本通を挟んだ東側の調査では平安時代から江戸時代の遺構検出面は現地表下から 0.55～0.7m で地山（黄褐色粘土層）上面とされ、本調査区の検出面より 0.7～0.8m 高いことがわかる。この傾向は北約 100m の太子道付近までみられ、それ以北では通りの両側での検出面に高低差は認められない。すなわち、太子道以南の本調査区一帯の地形は周辺より低く、江戸時代の早い時期に遺構上面が削平されたことが想定できる。

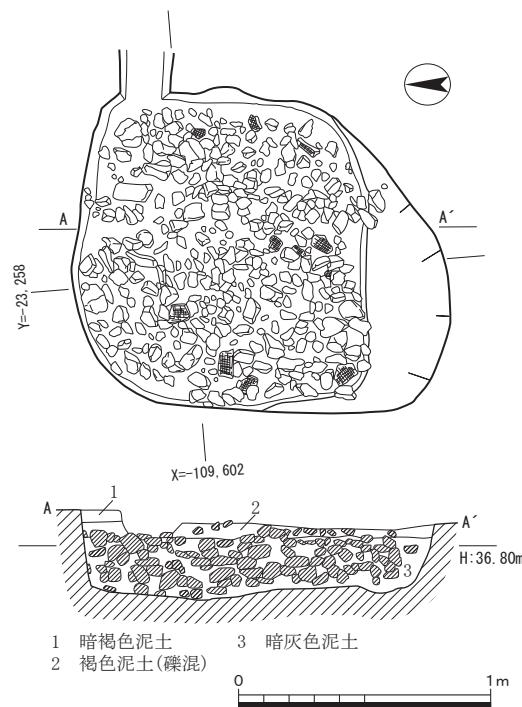


図152 付章12 SK06実測図(1:30)

13 大蔵省跡 (117)

経過 調査地は上京区千本通中立売下る亀屋町 57-1 に所在する。当該地は平安宮のほぼ中央北部に該当し、大蔵省長殿の西端部に推定されていることから、関連する遺構の検出を目的として調査を実施した。調査期間は昭和55年(1980)1月16日から同17日までである。調査面積は18m²である。

調査では調査予定地内に3×3mの調査区を南北2箇所設定し調査を進めた。ところが、2箇所の調査区とも現地表下約3mまで掘削を行ったが、すべて現代積土であったため、埋め戻して調査を終了した。

遺構・遺物 調査では2箇所の調査区とも上記のような状況であったことから、遺構はまったく検出できず、遺物も出土しなかった。

小結 今回の調査対象地に南接する隣地では低い段差が生じており、最近になって調査地が盛土され、整地を受けたことが明らかとなった。

14 朝堂院跡 (118)

経過 上京区千本通丸太町下る東入主税町に所在する京都市児童福祉センターの敷地内に防火水槽が建設されることになり、事前に発掘調査を実施した。調査地点は朝堂院東面回廊の西、朝堂十二堂のうちの一つである承光堂の東に位置することが想定でき、関連する遺構の検出を目的として調査を実施することとした。調査区は東西5.8m、南北4mに設定し、調査面積は23m²である。調査は昭和55年(1980)1月16日から同25日までに実施した。

遺構 調査では平安時代に属する遺物包含層と、江戸時代に属する土壙、溝などを検出した。平安時代の遺物包含層は厚さ約0.2m確認することができた。江戸時代の土壙は当該地周辺の地山であるいわゆる聚楽土を対象とした粘土採取目的の土取穴と考えられる。溝はこの土取穴の上面で検出したもので、北東から南西方向に延長する。検出面での規模は幅約1.5m、深さ0.5mある。遺構の重複状況や出土遺物から溝の成立時期は江戸時代後半頃と考えられる。

遺物 遺物は遺物整理箱で1箱出土した。大半は土取穴から出土したものである。遺物内容は平安時代に属する瓦の他に、江戸時代に属する陶器、磁器などが出土した。

小結 結果的に、朝堂院承光堂に伴う遺構は検出できなかった。調査地が建物や門の位置には該当していないと考えられる。しかし平安時代に属する瓦類などの遺物は少量ながら出土しており、周辺の調査には十分期待されるところである。

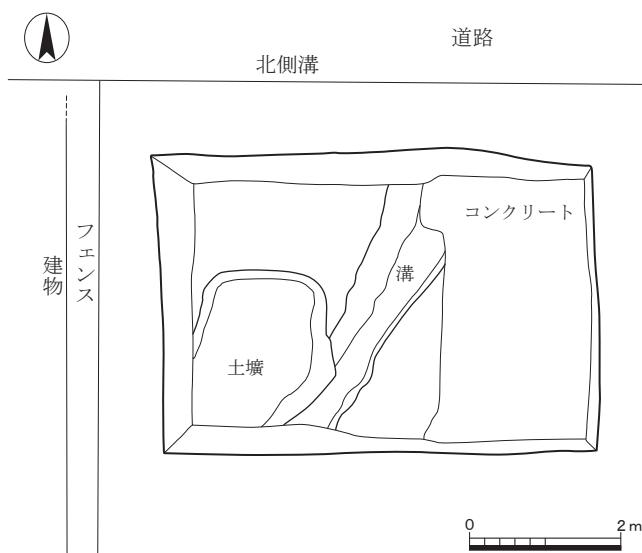


図153 付章14 調査区平面図(1:100)

15 中務省跡 (119 図版 90)

経過 調査地点は中務省内北半、内舎人に該当する。民家改築に伴い発掘調査を実施した。中務省における既往の調査から当該地周辺の遺構の遺存状況は良好であることは判明している。

遺構 基本層序は現地表面から現代積土層が厚さ 0.1 ~ 0.32m、現代積土層下には茶灰色泥砂（平安時代後期・厚さ 0.1 ~ 0.32m）、茶灰色砂泥（平安時代中期・厚さ約 0.2m）、茶褐色砂泥（平安時代前期・厚さ 0.2 ~ 0.3m）などの遺物包含層や整地土層が堆積する。

検出した遺構は、平安時代に属する溝・建物・土壙などと古墳時代後期に属する土壙がある。

溝 16 は調査区北端で検出した東西方向の溝で、中務省北面築地内溝と考えられる。北肩口は調査区外にあり、検出面での規模は現存幅 3.1m、深さ 1.2m。平安京 I 期に属する遺物が出土した。

土壙は 5 基検出した。主要なものを示すと、土壙 12 は溝 16 の南肩口に接する箇所で検出した。平面形は南北に長い楕円形を呈し、検出面での規模は長径 2.2m、短径 1.8m、深さ 1.15m ある。壙底に密着した状態で長径 0.16 ~ 0.4m の川原石および完形に近い丸・平瓦などを検出した。土壙 18 は大半が削平を受けており、検出面での規模は現存幅 1.8m、深さ 0.2m ある。平安京 I 期に属する遺物とともに墨書き土器「内舎人」が出土した。

東西棟礎石建物に伴う礎石据付穴は 3 基検出した。柱間は 1 間約 3.3m ある。据付穴の平面形は歪な楕円形を呈し、据付穴内には根石が複数個遺存する。検出面での規模は長径 0.8 ~ 1.1m ある。

古墳時代後期に属する遺構には土壙が 3 基ある。大半は調査区外に広がり、全体の形状のわかるものはない。検出面での規模は現存長 0.9 ~ 2.3m、深さ 0.2m ある。

遺物 遺物整理箱で 40 箱出土した。平安時代前期から後期に属する遺物と古墳時代後期に属する遺物がある。平安時代に属する遺物は大半が瓦である。土器類では土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器などがある。このうち、墨書き土器「内舎人」は須恵器杯蓋外面に墨書きしたものである。内面には朱が遺存する。

瓦では丸・平瓦、軒丸・軒平瓦、甌がある。古墳時代の遺物には土師器、須恵器、鉄製品がある。

小結 溝 16 はこれまでの調査研究成果から中務省北面築地内溝としてよい。礎石建物は昭和58年(1978)度（中務省調査3）に検出された建物（西妻部）の東妻部を検出したことになる。平安宮における全体のわかる建物の検出例は造酒司に次いで 2 例目であり、特筆に値する調査成果である。一方、墨書き土器「内舎人」は当該地が内舎人であることを補強する考古資料であり、平安宮内における官

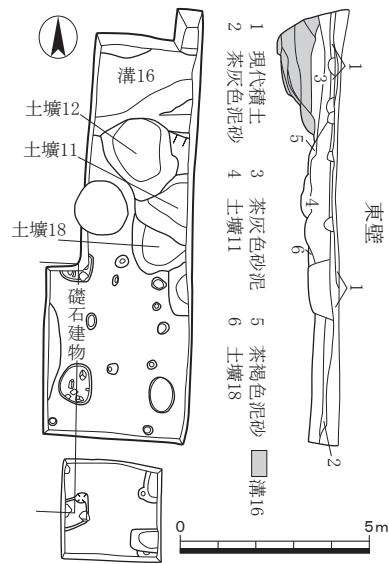


図154 付章15 調査区実測図
(1:200)

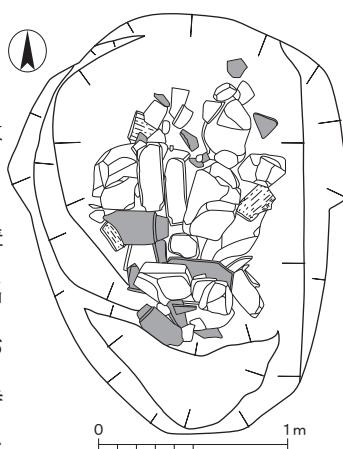


図155 付章15 土壙12平面図
(1:40)

衙名を墨書きした土器の初例である。

16 太政官跡 (156 図版 91・92)

経過 調査地は平安宮太政官に推定される箇所である。京都市立児童福祉センターの建築に伴って発掘調査を実施した。太政官内には正庁のほかに勘解由使・文殿・朝所などの官衙が付属するとされ、当該地は太政官正庁から文殿にかけての地域に該当する。太政官の調査は5箇所で行われているが、小規模な調査面積のため明確な遺構の検出例は少ない。今回の調査予定地は比較的広い調査面積であるため、遺構の検出が期待できた。調査の結果、平安時代と江戸時代に属する遺構を検出した。

遺構 調査区の基本的な層序は、現地表から旧児童院造成時の積土層が0.7～1.0m、積土層下に近世以降の旧耕作土層と考えられる黒褐色砂泥層が0.3～0.5m、旧耕作土層下に地山の黄褐色粘土層・黄褐色砂礫層が堆積している。各遺構は地山の上面で検出した。

検出した遺構は大半が江戸時代に属し、土取穴・井戸・溝などである。

平安時代に属する遺構には溝と土壙がある。調査区西端部は東より一段高く、その段上で東西方向の溝6を検出した。溝6は幅が1.5～1.8m、深さ0.3～0.45mあり、埋土は上層が暗茶褐色砂泥層、下層が茶褐色砂泥層である。その段差の東側は削平され、溝6は連続しない。土壙62・69・80は平安時代前期に属する土壙である。平面形は橢円形を呈し、検出面での規模は径2.0～3.0m、深さ0.2～0.4mある。土壙47は東側が調査区外に延び規模が不明であるが、検出面での規模は深さ0.4～0.5mあり、平安時代の瓦が多量に出土した。

遺物 遺物は整理箱で340箱出土した。もっとも多い遺構は平安時代の瓦で、次に平安時代の土器類や江戸時代の土器類がある。平安時代の瓦は調査区全域から出土し、土壙47からまとまって出土した(図157)。搬入瓦として平城宮式(1・2)があり、他に平安時代前期の芝本瓦窯(3・11)、同中期の栗栖野瓦窯(5)、同後期の播磨魚橋瓦窯(13)などの軒瓦がある。平安時代の土器には土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器などがある。

小結 調査区は太政官の南西部に位置し、文殿が想定できる地点であるが、建物遺構は検出できなかった。ただし東西方向の溝6は何らかの区画を示す溝の可能性がある。平安時代の遺物包含層はみられず、堆積状況からみて一帯が近世以後に大規模な削平を受けたと推測される。瓦の出土量は多く、近辺に瓦葺き建物があったことは疑いない。

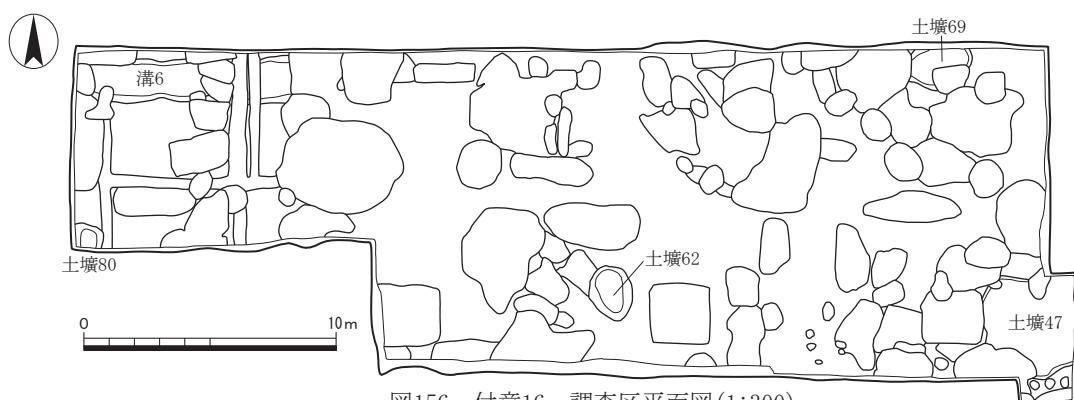


図156 付章16 調査区平面図(1:300)

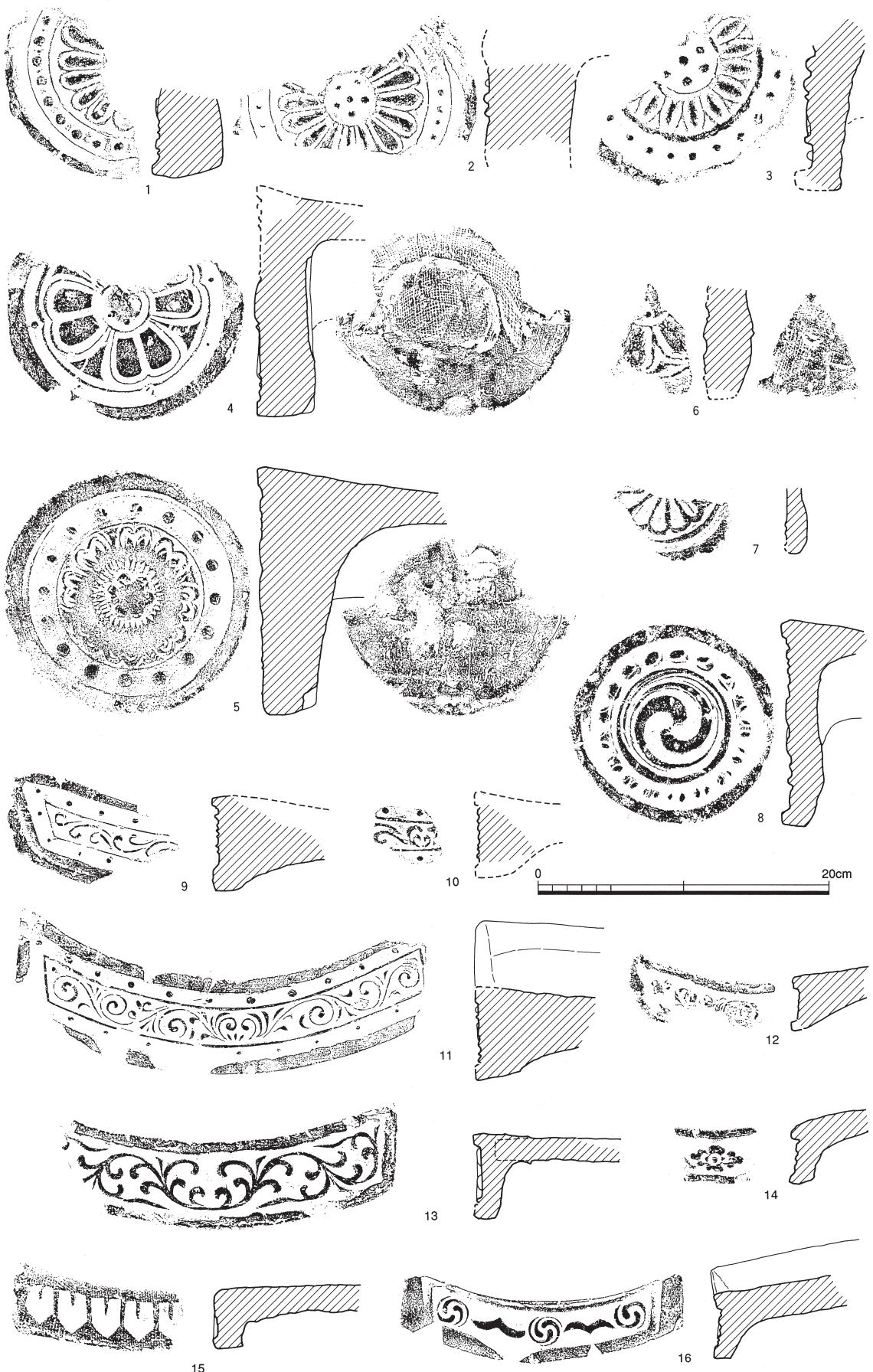


図 156 付章 16 調査区平面図 (1:4)

17 朝堂院跡 (174)

経過 中京区聚楽廻東町7に所在する二条保育園で園舎改築が計画された。当該地は平安宮朝堂院の龍尾壇、延休堂に近接しており、それらに伴う遺構、遺物の検出が予想された。このため発掘調査を実施することになり、昭和55年(1980)9月25日から10月22日にかけて調査を実施した。調査区は東西19m、南北9mの範囲に設定し、調査面積は181m²である。

遺構 調査では江戸時代に属する土壙、溝、柱穴などを検出した。土壙は調査区西側で検出した。平面形は不定形を呈し、東西長約3m、南北長約3m、深さ約0.5mある。平安時代に属する多量の瓦を包含するが、下層で江戸時代初期に属する土師器皿片が出土しており、江戸時代初期の土壙と判明した。溝は調査区東側で検出した。北東から南西方向を示し、幅約4m、深さ約1.2mある。地形的に判断して人工的な開削溝と考えられ、出土遺物からは、江戸時代後期に埋没したとみられる。柱穴は溝の東肩付近に集中して検出したが、建物としてまとまるものではない。

遺物 遺物には平安時代のものと江戸時代のものがある。大半は平安時代の瓦類であり、平安時代前期から中期に属する。土器類は、土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器がある。瓦類は、丸・平瓦が主体であるが、軒丸・軒平瓦、鬼瓦、鷗尾、綠釉瓦などが100点以上ある。江戸時代の遺物は少量で、陶器・磁器、瓦などがある。

小結 土壙は聚楽土採取のための土取穴と考えられ、埋め戻し時に不要な瓦類などを投棄したものと想定できる。

今回の調査では朝堂院に伴う遺構は検出できなかったが、出土瓦は朝堂院に葺かれたものであり、朝堂院の研究に新たな資料を提示できたと考えている。

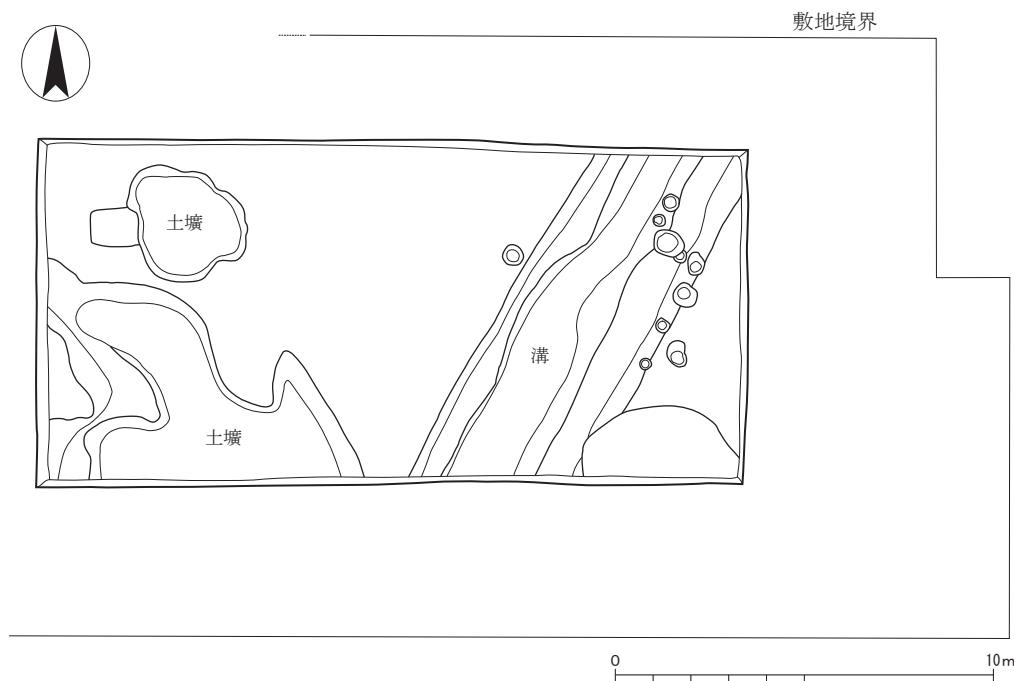


図158 付章17 調査区平面図(1:200)

18 中務省 - 大炊寮跡 (235 図版 93・94)

経過 丸太町通の土屋町通から松屋町通間で上下水道工事が行われることになり、7箇所の堅坑部分について調査区を設定し発掘調査することになった。調査区は西側から順次1区、2区と命名した。調査は2・4・6区を同時に開始し、次いで1・5・7・3区の順に実施した。調査は昭和51年(1981)5月31日に開始し、同年7月12日に終了した。調査区の合計面積は約250m²である。調査区設定地点は中務省跡から大炊寮跡におよぶ。中務省跡ではこれまでに建物や溝などが多数検出され、主水司では東面築地に伴うと考えられる遺構が検出されるなど、調査対象地域の遺存状態は良好であることが知られる。

遺構 1区は中務省の被官である内舎人の西半域に該当する。

この調査では瓦溜と東西方向の柱列を3条検出した。北側の柱列の柱穴は平面形が方形を呈し、一辺約0.8mある。南側の柱列の柱穴は平面形が方形ないし円形を呈し、長軸約0.5mある。柱列1・2の柱間は共に2.8m、柱列間は3.0mある。柱列3の柱間は2.7mある。これらの柱列は内舎人に伴う建物の柱列と考えられる。

瓦溜は調査区南東隅で検出した。北肩口は削平を受け、東・南へは調査区外へ広がる。検出面での規模は現存東西幅2.2m、同南北幅2.4m、深さ0.4mある。平安時代に属する瓦が多量に出土した。

2区は内舎人 - 監物間東寄りに該当する。

調査では平安時代の溝1条と古墳時代後期の堅穴住居を検出した。

平安時代の溝は、南北方向を示しており、南は削平を受け、北は調査区外へ延長する。検出面での規模は北端幅0.5m、南端幅0.9m、深さ0.1mある。検出位置から溝は監物西面築地の内溝になると思われる。

堅穴住居は北隅を検出、壁溝と主柱穴三箇所を確認した。検出面での規模は、現存幅4.9m、壁溝幅0.2mある。主柱穴間の柱間はそれぞれ3m、2.2mある。床面に密着した状態で土師器

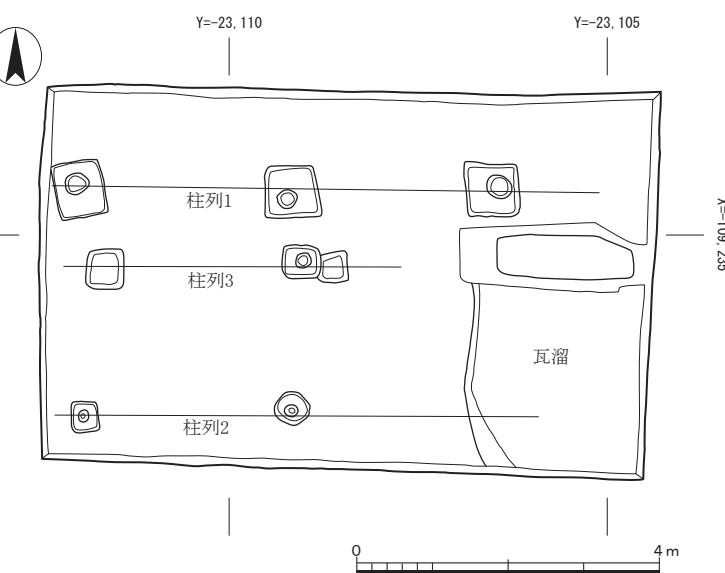


図159 付章18 1区平面図(1:100)

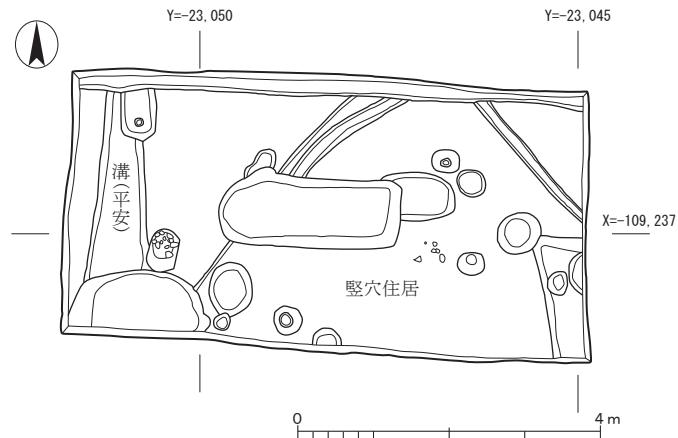


図160 付章18 2区平面図(1:100)

甕・瓶を検出した。後述する4区で検出した溝とほぼ同じ振れを有する。

3区は鈴鑰に該当する。

この調査では調査区内の全面にわたり近・現代の搅乱を受けており遺構は検出できなかつた。

4区は西院の西面築地位置に該当する。

この調査では古墳時代後期の溝を検出した。溝は北東-南西方向を示し、検出面での規模は幅2.7m、深さ0.5mある。古墳時代後期の土師器・須恵器などが出土した。

5区は主水司跡のほぼ中央に該当する。

この調査では中世以降の土壌と小穴を検出したにとどまっている。

6区は大膳職跡南西部に該当する。

この調査では中世以降の土壌と小穴を検出した。

7区は大膳職-大炊寮間に該当する。

この調査では東西方向

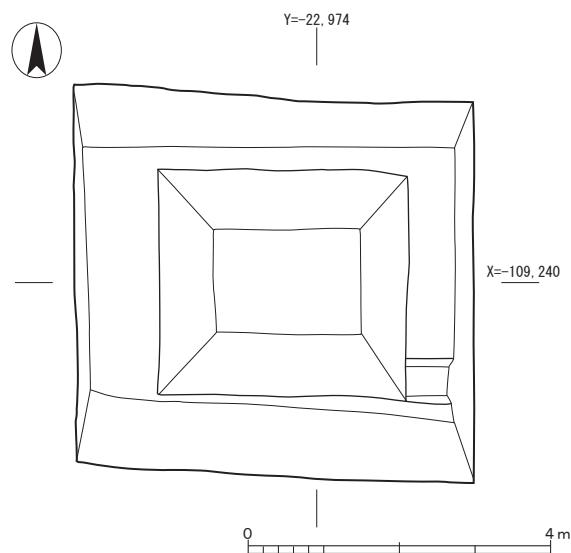


図161 付章18 3区平面図(1:100)

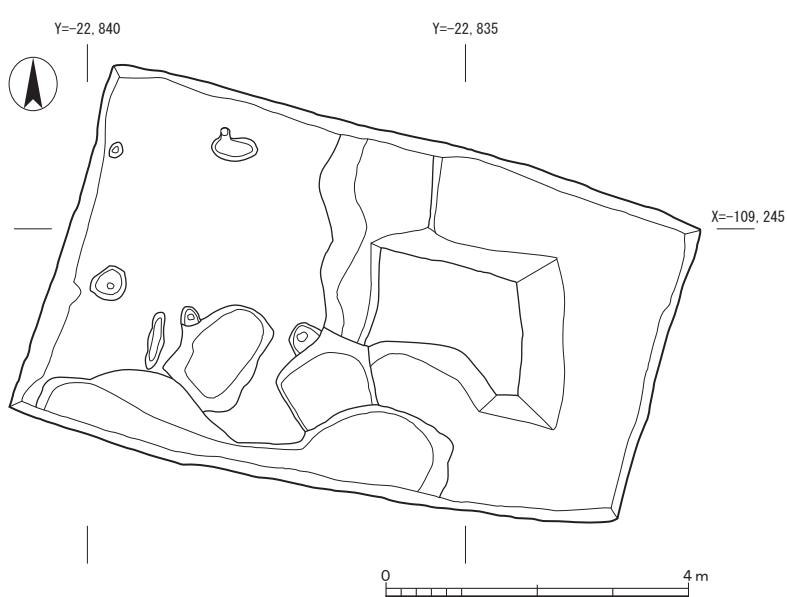


図162 付章18 5区平面図(1:100)

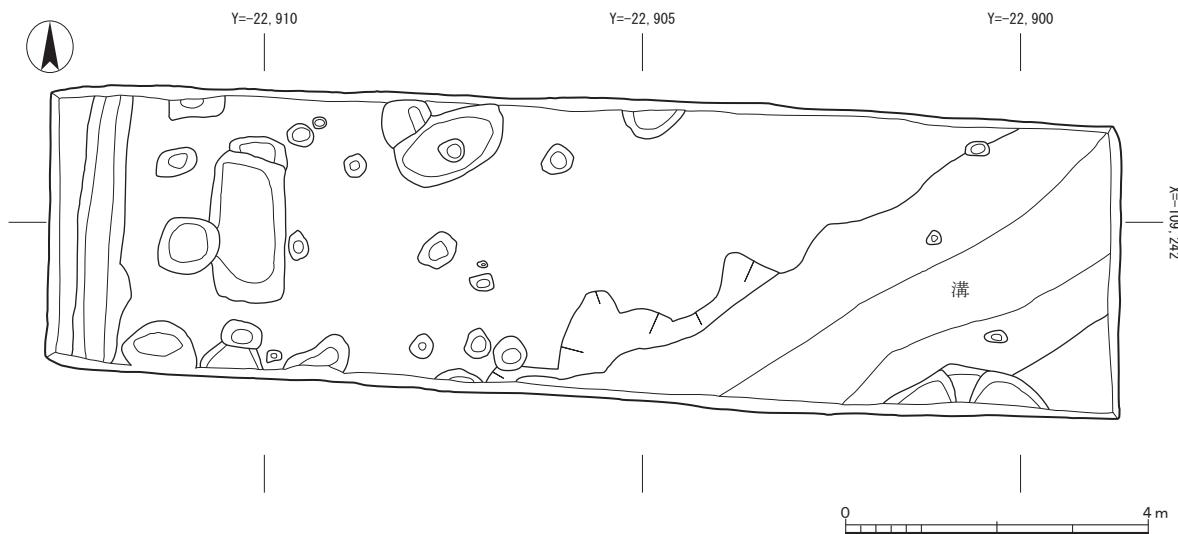


図163 付章18 4区平面図(1:100)

の溝を検出した。南肩口は調査区外にあるため、一部調査区を拡張し南肩口を検出した。東西は調査区外へ延長する。北肩口はほぼ垂直に立ち上がる。溝底で0.4m間隔の杭痕跡を検出しておらず、肩口に板をあてて護岸したものと思われる。検出面での規模は幅1.8m、深さ約0.5mある。この溝は大膳職と大炊寮の南北中心線のやや南に位置し、大膳職と大炊寮を限る築地の南側の溝になると考えられる。溝から図166に示した土器類が出土した。

遺物 遺物は1～7区をあわせ遺物整理箱で69箱出土した。平安時代の遺物には、土師器の杯・椀・皿・甕、須恵器の杯・皿・壺・甕、緑釉陶器、灰釉陶器、軒丸・軒平瓦、綠釉瓦などがある。

古墳時代の遺物には、土師器の甕・甌、須恵器の蓋・杯などがある。

小結 検出した遺構には、中務省内舎人の建物に想定できる柱列や瓦溜、中務省監物の西面築地内溝、大膳職・大炊寮では両官衙間を限る築地の南溝がある。これらの遺構は平安宮内の官衙配置を復原する際の定点となる。また、古墳時代の堅穴住居を検出したことは、当地の平安時代以前の歴史を解明する糸口になると思われる。

19 左馬寮跡 (1336・1359・1386)

経過 京都市立朱雀第二小学校の校舎全面改築に伴い試掘調査(1336)を行い、その成果を基

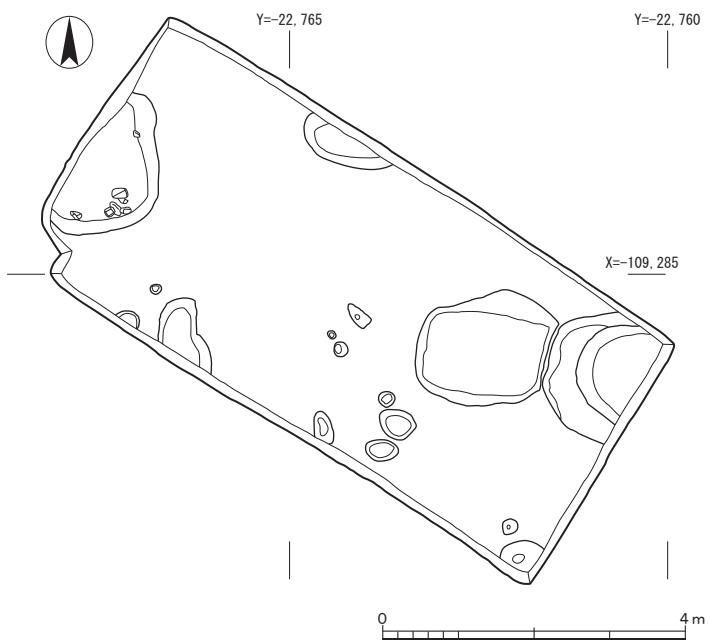


図164 付章18 6区平面図(1:100)

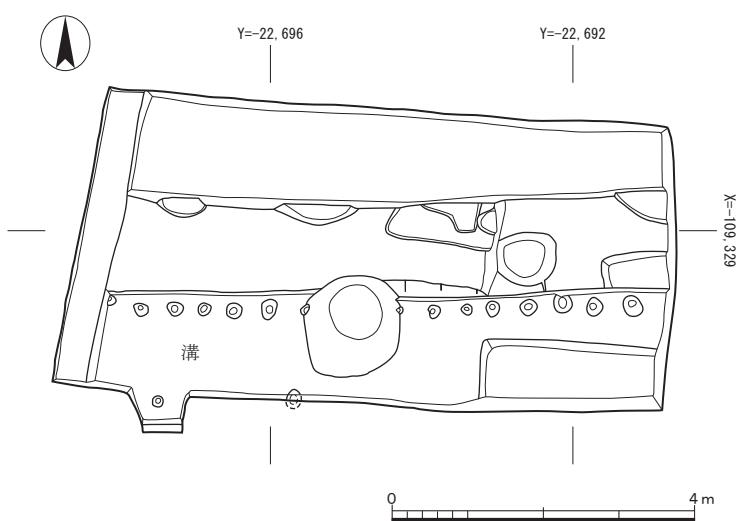


図165 付章18 7区平面図(1:100)

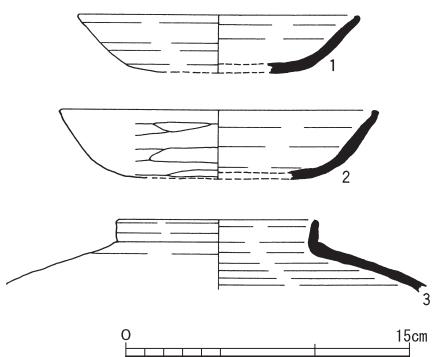


図166 付章18 7区溝出土土器(1:4)

に発掘調査を実施した。試掘・発掘調査を含めここで一括して報告しておく。調査地点は左馬寮跡北半に該当し、既存北校舎下に北面築地（中御門大路の宮内延長路南築地）・藻壁門の南端部、敷地西端に西面築地（西大宮大路東築地）が想定できた。調査区は新校舎建設予定地内に4箇所設定した。試掘調査区は発掘調査時のA区・B-1区該当地区内に設定した。発掘調査総面積は1,299m²である。また、発掘調査と併行して既存校舎解体に伴う立会調査も実施した。

調査では、調査区の大半で江戸時代の土取穴が検出され、平安時代の土壌、遺物包含層の検出は少数にとどまった。立会調査では、想定した遺構が旧校舎基礎の大規模な削平を受けていることが判明した。

遺構 基本層序は、現地表面下に小学校の整地土層、旧耕作土層が堆積し、現地表面から0.8～1.2mで地山となる。B-2区における地山の層序を上から順に示すと、灰褐色微砂、灰褐色腐植土（礫混）、黄褐色粘土（微砂混）、姶良Tn火山灰、腐植土層となる。火山灰は灰黄色～灰白色を呈し、厚さ5～20cm堆積する。火山灰層中の粒子は層下が粗く、上方へ徐々に細かくなることが確認でき、いわゆる二次堆積のものと考えられる。

平安時代に属する遺構にはC区では土壌を、B-2区では整地土層と考えられる遺物包含層（厚さ0.1m）を検出した。いずれも削平を受けるか調査区外へ広がっており、全形のわかるものはない。土壌・遺物包含層とも平安時代前期に属する遺物を包含している。

江戸時代に属する遺構には土取穴がある。土取穴には一辺2.0～3.0mの方形を1単位とする土壌の連続するものと、輪郭が不明瞭で不定形のものがある。遺物の大半は土取穴から出土した。

遺物 遺物整理箱で118箱出土した。大半は瓦類である。平安時代前期から後期に属する遺物には、土器類では土師器・須恵器・黒色土器・綠釉陶器・灰釉陶器、輸入陶磁器などがある。瓦類には丸・平瓦、軒丸・軒平瓦、綠釉丸瓦、鬼瓦などのほか、ヘラ記号を付した瓦がある。

室町時代の遺物には土師器・陶器、江戸時代の遺物には瓦・土師器・陶磁器などがある。

小結 土取りによる削平が主因で左馬寮を示す明瞭な遺構は検出できなかったが、土取りの及ぼない地区においても平安時代に属する土壌や遺物包含層は一部遺存していたに過ぎず、当該地域が全面にわたり削平をうけたことも考えられる。

遺物については土器類は平安時代前期に属するものが多数を占め、中期から後期に属するものも少量ではあるが確認している。瓦類についてはB-2区に集中することからB-2区出土瓦は西面築地に使用されていた瓦である可能性は高い。

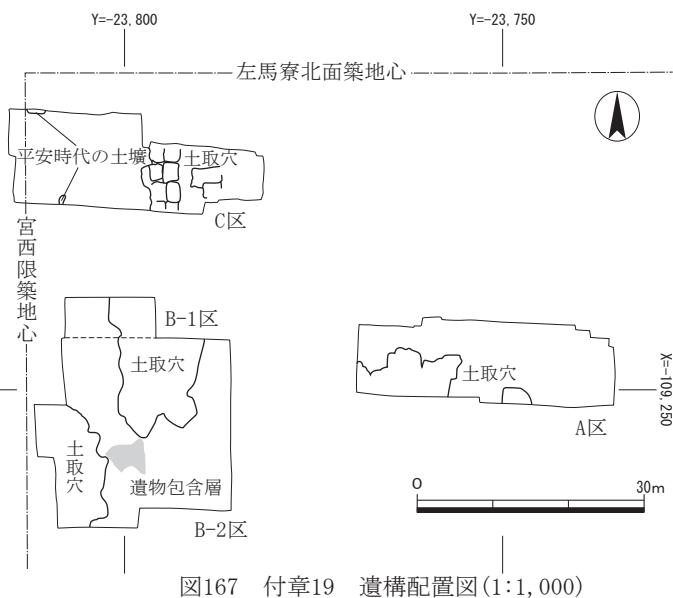


図167 付章19 遺構配置図(1:1,000)

20 中務省跡 (1521 図版 95-1)

経過 調査地点は中務省北東部、東面築地に該当する。高層建築物の建設に伴い京都市埋蔵文化財調査センターによって試掘調査が行われた。その結果、東面築地に伴うと考えられる溝が検出され、当研究所で発掘調査を実施する運びとなった。

調査の結果、調査区の大半が江戸時代後半以降の土取穴などにより削平を受けるが、東面築地基底部、内・外溝、整地層、土壌などを検出し、東面築地の状況を明らかにすることができた。

遺構 東面築地跡は南北方向を示し、該当箇所で築地基底部を示す土層を厚さ 0.1 ~ 0.2m 確認した。築地の東西で内・外溝を検出した。北は調査区外へ延長し、南は土取穴により削平を受ける。外溝は新旧二時期ある。旧期の溝は検出面での規模は幅約 1.1m、深さ 0.15m ある。西肩口直下で同肩口に沿って径約 0.1m 前後の杭痕跡を 19 基検出した。西肩口に対する護岸施設で、中務省の溝で護岸を施した初例である。杭間隔は平均で約 0.36m ある。新期の溝は旧期の溝の東肩口に沿って検出した。検出面での規模は幅約 1.0m、深さ 0.2m ある。旧期の溝は平安時代前期、新期の溝は平安時代中期に属する。内溝は検出面での規模は幅約 1.2m、深さ 0.25m ある。内溝は人為的に埋め戻されたことを確認した。平安時代前期初頭に属する遺物が出土した。

土壌 22 は築地内溝上面で検出した。検出面での現存規模は長軸 2.9m、深さ 0.4m ある。平安時代前期前半に属する遺物が出土した。

遺物 遺物は遺物整理箱で 50 箱出土した。大半は瓦である。瓦は平安時代前期から後期に属し、丸・平瓦、軒丸・軒平瓦、緑釉丸瓦などがある。土器類は小片であるが、土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器がある。供膳具が大半を占め、貯蔵・煮沸具は少ない。

小結 中務省東面築地想定線は壬生大路西築地心の延長線上とされてきたが、検出した築地からこれを実証した。また、内・外溝の肩口間は 3.6m(12 尺) あるが、平成 3 年(1991) 度調査(中務省調査 15) の西面築地例から築地幅は 7 尺とされ、今回の検出例からその築地幅 7 尺を引くと、内・外大行幅は 2.5 尺となり、内・外溝とともに狭いことが窺われる。

また、内溝が平安時代前期初頭に埋められた状況はこれまでの調査でもみられ、築地際まで敷地として確保したと推定できる。今回の調査でも犬行相当箇所で平安時代前期の土器を廃棄した土壌を検出してい る。

以上のように、中務省東面築地の位置を

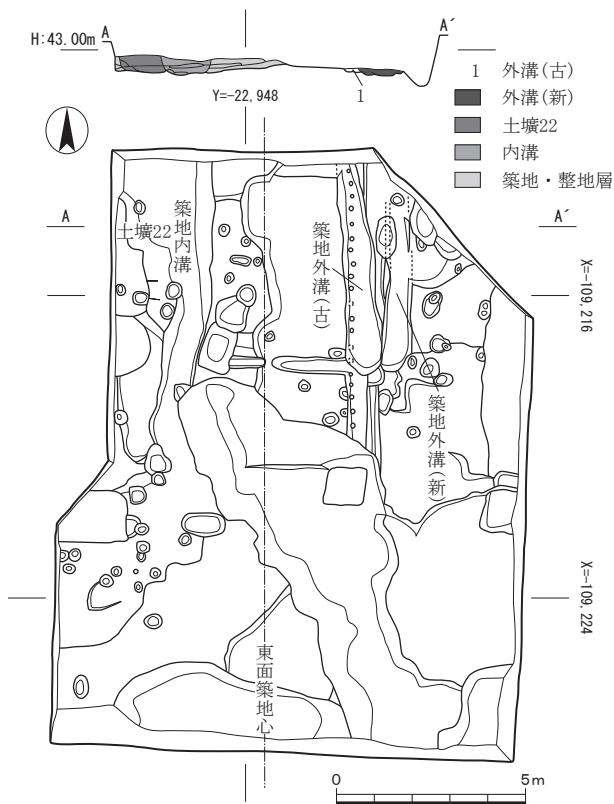


図168 付章20 調査区実測図(1:200)

確定し、築地周辺の状況を明らかにできたことは今回の調査における重要な成果である。

21 豊楽院跡 (1564 図版 34-1・2)

経過 中京区聚楽廻中町 44 に所在する住宅建設予定地で平成7年(1995)2月27日から同3月11日まで発掘調査を実施した。当該地は豊楽院栖霞樓比定地に位置する。

遺構・遺物 調査地点は厚さ約 0.1m の表土層を排土すると平安時代の遺構面となる。

東半部は大部分が後世の搅乱を受けており、調査区内の北辺部および南辺部が幅 0.6m ほどで帯状に残っているに過ぎない。

西半部は防空壕跡などの搅乱を受けているものの、良好な状態で壇上積基壇の凝灰岩延石を検出した。基壇は地山を 0.3m ほど削り出し、上面を版築して構築している。基壇の現存高は延石下面から 0.8m ほど確認した。延石の規模は長さ 45cm 以上、幅 38cm、厚さ 16cm ある。

なお、検出した基壇北側には、瓦片を敷きつめた整地層が 5m 以上広がっている。

出土遺物は大半が整地層からの瓦類であり、中には緑釉瓦が 1 点ある。土器類は 9 世紀から 10 世紀代に属する土師器が少量出土しているにすぎない。

小結 今回の調査では、豊楽院関連遺構の基壇の一部を検出することができた。延石検出地点を東へ約 16m 延長した地点で、昭和54年(1979)にガス工事に伴う立会調査が行われた(付章 30)。立会調査では凝灰岩列が検出されており、検出した延石との関連が考えられる。

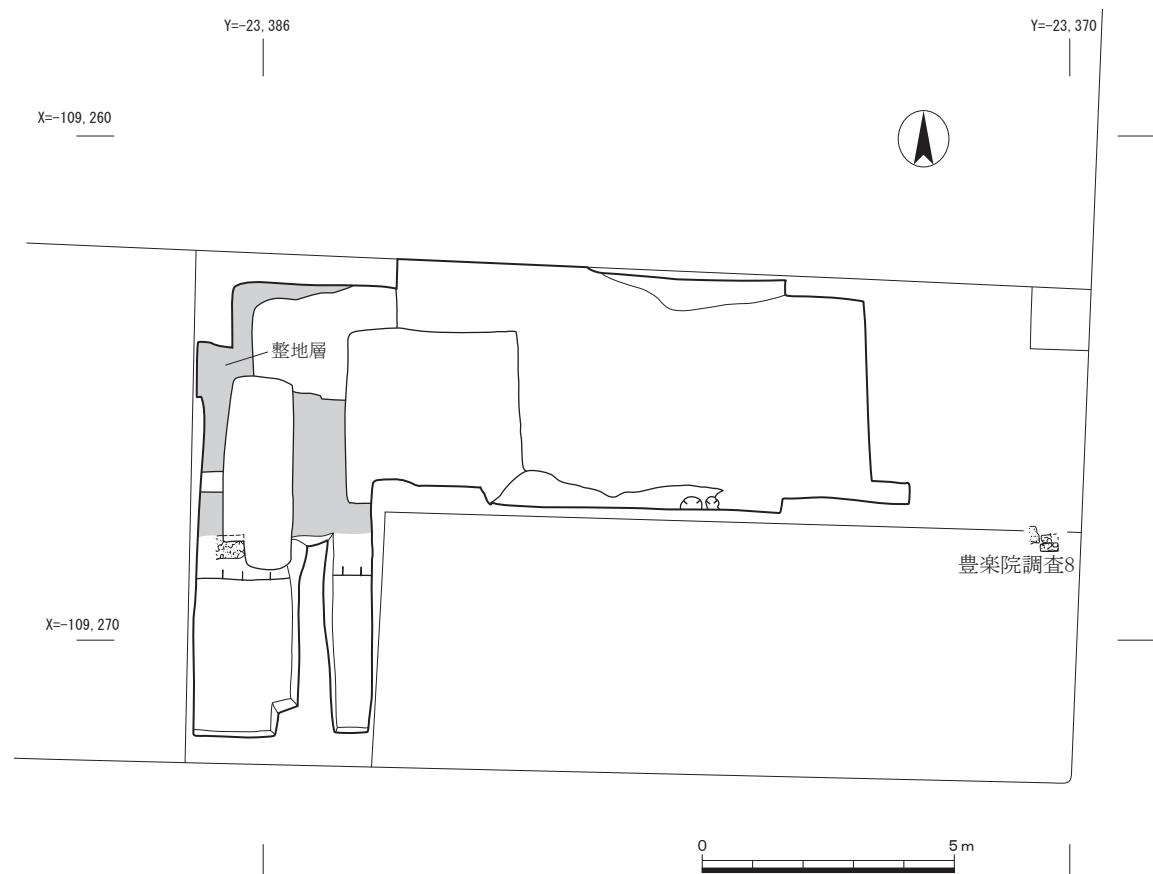


図169 付章21 調査区平面図(1:150)

II 試掘・立会調査

22 宮南東部 (6)

経過 中京区二条城町に所在する史跡二条離宮（二条城）内で、照明灯設置工事に伴い立会調査を実施した。

二条城内のほぼ中央を大宮大路が南北方向、二条大路が東西方向へ延長し、平安宮南東部に位置するいくつかの官衙跡が存在したことが知られる。

したがって、二条城の内・外堀で破壊された箇所を除外しても、城内には庭園などの

空間地域が7割に達することから、平安宮に関連する遺構の遺存状況は良好であることが想定できる。調査は昭和52年(1977)4月16日から同4月26日まで実施した。

遺構 基本的な層序は現地表下約0.5mまで現代積土層、積土層下には厚さ約0.5mの江戸時代の遺物を包含する土層が堆積する。

工事による掘削深度は大半の対象地域においては上記土層までであったが、一部、宮域外の照明灯柱を設置する箇所では現地表下1.4～1.5mまで掘削しており、この箇所では平安時代後期に属する遺物を包含する土層の堆積を確認した。しかし、掘削坑は狭小であり、この土層を追及することはできなかった。

遺物 遺物整理箱で2箱出土した。遺物内容は平安時代に属する土師器、陶器、軒丸・軒平瓦などと、江戸時代に属する土師器、陶磁器、瓦などである。

小結 二条城は前述したように江戸時代以降の搅乱が少なく、遺構の遺存状況は二条城周辺の調査地点に比較してはるかに良好である。今回の調査では明瞭な遺構は検出できなかったが、今後とも積極的な調査を進めることが必要である。

23 典薬寮跡 (7)

経過 中京区西ノ京車坂町12に所在する関西電力の敷地内で、建物建設に伴う掘削工事が行われることになり、立会調査を実施した。調査は昭和57年(1978)4月23日から同年4月25日まで実施した。

調査対象地は平安宮の南西部にあり、敷地東側には豊楽院が、同西側には典薬寮や御井などが占地する官衙跡が想定できる。今回の調査地点はそれら官衙跡などに挟まれた地点にあり、皇嘉

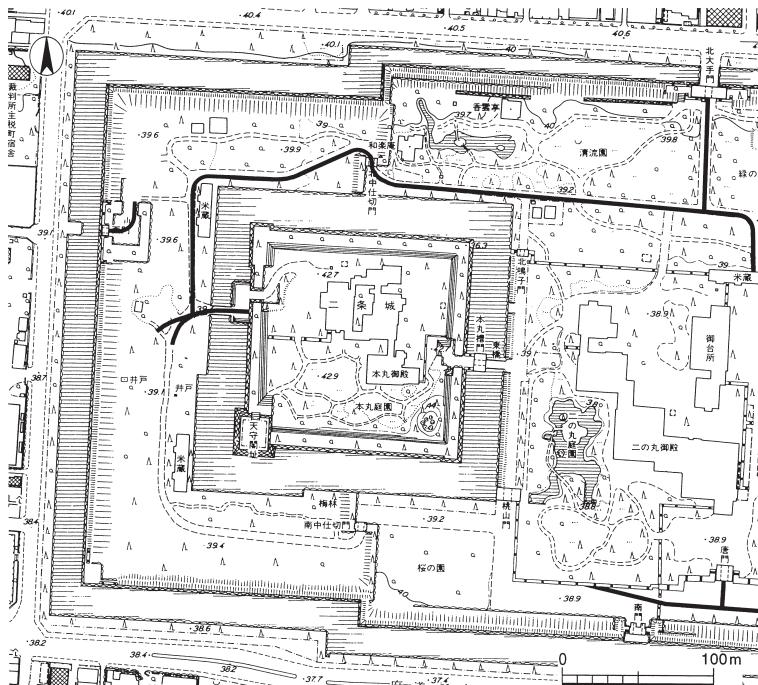


図170 付章22 調査位置図 (1:5,000)

門大路の宮内延長路に該当すると考えられる。

遺構・遺物 調査では掘削深が浅く、平安時代に属する遺構は検出できなかった。

遺物は、遺物整理袋で1袋出土したにとどまった。遺物内容は、江戸時代に属する瓦類がある。

小結 調査では平安時代に属する遺構の検出などの成果は得られなかつたが、周辺には豊楽院や諸官衙が近接しており、今後とも継続した調査が必要である。

24 縫殿寮跡 (10)

経過 上京区下長者町通淨福寺西入新御幸町44に所在する民家改築に伴つて立会調査を実施した。調査地点は縫殿寮のほぼ中央南寄りに該当する。当該地周辺ではこれまでに平安宮に関連する顕著な調査成果は報告されておらず、遺跡の状況を明らかにすることを主目的として調査を進めた。調査は昭和52年(1977)7月13日から7月15日まで実施した。調査面積は約130m²である。

遺構 現地表下1.0～1.1mまで現代積土層および江戸時代に属する遺物を包含する土層が堆積しており、江戸時代の土層下で地山（黄褐色砂泥層）を検出した。

遺構は江戸時代の土層ならびに地山上面で検出し、江戸時代に属する柱穴・井戸・溝状遺構がある。平安時代に属する遺構は未検出である。

溝状遺構は現地表下0.8mで検出した。一部を検出したにとどまり全体の形状はわからないが、検出面での規模は幅0.35m、深さ0.4mある。肩口は長径0.1～0.3mの川原石で護岸を施しており、肩口の南西部には大型の平瓦を使用している。

遺物 平安時代に属する遺物はほとんど出土しなかつた。江戸時代に属する遺物では、土師器、陶磁器、瓦、錢貨などがある。瓦では丸・平瓦、金箔軒平瓦、大型平瓦がある。大型平瓦は狭端面に菱形の刻印が施されており、幅約43cmある。錢貨には寛永通寶がある。

小結 今回の調査では縫殿寮に関わる遺構は検出できなかつたが、さらに周辺地域では引き続いて調査が必要と考える。なお、今回出土した金箔軒平瓦は、出土地点が聚楽第に近接することから、同遺跡に関わる遺物と考えている。

25 大蔵省跡 (11)

経過 この調査は、上京区中立売通六軒町西入三軒町65-42に所在する建物新築工事に伴つて実施した。調査地点は平安宮北辺中央西寄りの大蔵省に相当し、関連する遺構の存在が予想できた。調査は工事の掘削深が浅いため立会調査となつたが、敷地内に9箇所の調査区を設置し、遺構・遺物の有無を確認することにした。

遺構・遺物 基本層序は、現地表から既存建物の積土層が厚さ0.3～0.5m、近代の石炭ガラによる積土層が厚さ0.25～0.5m、ついで江戸時代の褐色粘質土層が厚さ0.5m前後、その下が地山である黄褐色粘質土層となる。この黄褐色粘質土層の上面で遺物包含層の一部を確認した。

敷地北側で北に下がる時期不明の遺物包含層を確認した。遺物包含層は暗褐色粘質土（小礫混じり）で、厚さは0.4m前後を測り、固く締まっている。埋土中に瓦片・土師器小片を含む。

今回の調査で検出した遺物は、近代陶磁器片、江戸時代の土師器・泥面子・伏見人形・寛永通寶、平安時代の瓦片、土器小片がわずかにある。

小結 今回の調査では工事による掘削深度が浅く、部分的な立会調査にとどまったが、現地表下1.1～1.4mで黄褐色粘質土層を確認した。黄褐色粘質土層は時期不明であるが安定した土層で、しかも江戸時代の大規模な土取穴による破壊が認められなかった。したがって、当該地では明確な遺構は検出できなかったものの、周辺では平安時代の遺構の存在が予想できる。

26 宮南東部 (20)

経過 中京区二条城町に所在する史跡旧二条離宮（二条城）で保安灯設置工事が行われることになったため立会調査を実施した。調査は昭和53年(1978)3月6日から3月29日にかけて実施している。

調査対象地は、二条城造営以降は顕著な削平を受けていないと考えられ、遺構の遺存状況は良好とみられる。調査対象地域は平安宮南東部に位置する廩院・神祇官・雅楽寮・侍従所などの諸官衙ならびに平安宮に隣接する神泉苑、冷泉院および二条大路、大宮大路などが想定される。

調査の結果、平安時代後期、室町時代、江戸時代の遺物包含層を検出することができた。

遺構 平安時代後期に属する遺物包含層は、深掘りした保安灯設置に伴う箇所の断面観察によって確認した。埋設管敷設部分の掘削箇所では室町時代および江戸時代に属する遺物包含層を検出した。

遺物 平安時代後期の遺物には、土師器、瓦がある。室町時代の遺物には土師器、陶器、江戸時代の遺物には陶器、磁器、軒丸・軒平瓦などがある。江戸時代の軒丸・軒平瓦は二条城に使用されていたものと考えられる。

小結 調査については埋設管敷設工事の掘削深が浅いこと、あるいは掘削幅が狭小であり断面観察が困難であることなど、多くの制約を受けたが、一部で平安時代後期の遺物包含層を確認するなどの成果が得られ、平安時代の遺構遺存度は高いといえる。

27 御井跡 (22)

経過 京都市立朱雀第六小学校で校舎の建て替

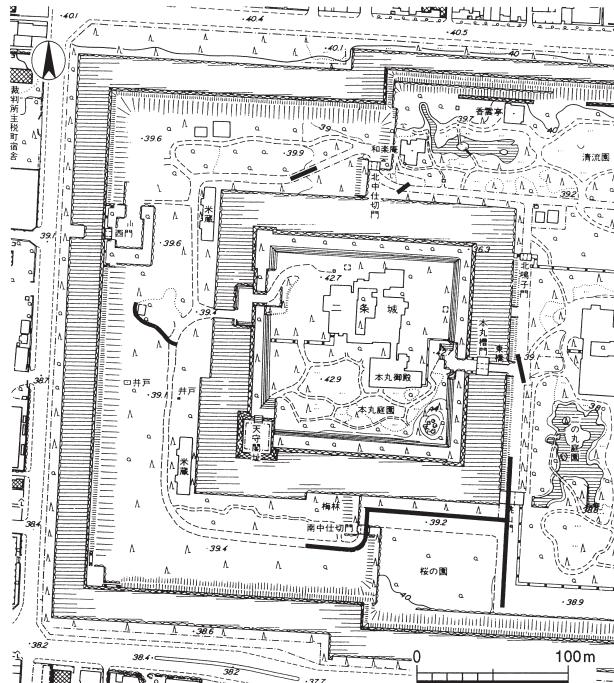


図 171 付章 26 調査位置図 (1:5,000)

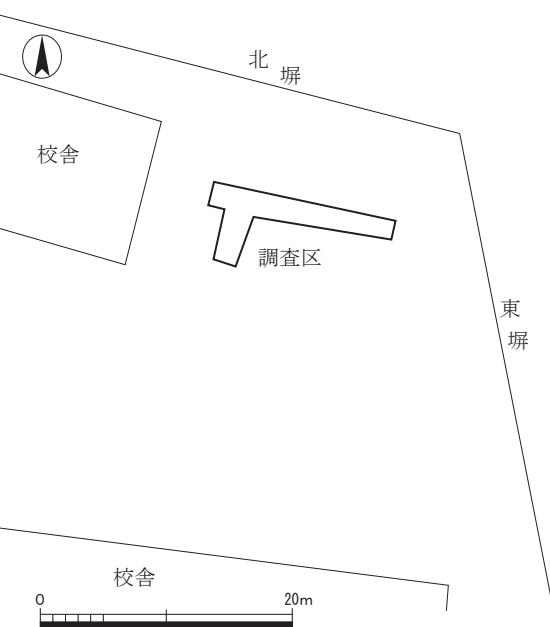


図 172 付章 27 調査区配置図 (1:600)

えが計画された。調査地点は御井に比定され、諸施設が検出できる可能性があり、試掘調査を実施した。調査対象地内に幅 2m で、東西 15m、南北 4m の L 字形に調査区を設定し、昭和53年(1978)4月 5 日から 4 月 10 日にかけて実施した。

遺構 調査区西側では現地表下 0.4m で地山（淡黄褐色砂礫層）を確認した。この上面で北東から南西方向の流路状遺構を検出した。幅約 6m、中央部に水の流れた痕跡がある。遺物は出土していない。南北調査区では昭和初期に埋没した池西肩を検出した。

遺物 平安時代に属する遺物は出土していない。近・現代に属する遺物も陶器、磁器などが少量出土したにとどまった。

小結 調査時において湧水が激しく、御井が置かれた地区として妥当と考えられる。井戸か諸施設の検出が期待できる地域として今後も注意を要する。

28 内裏跡 (27)

経過 上京区山王町から田中町地内にかけて、上水道管の敷設替え工事が行われることになった。

調査対象地域は内裏に該当しており、後世には聚楽第が建設された地域として周知されている。

この工事は道路上を掘削し、上水道管の敷設替えを行うもので、掘削工程に従って立会調査を実施した。調査では土層観察を行い、遺構・遺物の確認に努めた。調査期間は昭和53年(1978)6 月 7 日から 8 月 24 日の間であった。

遺構 千本通と出水通の交差点を東に入った地点では、現地表下 0.4m で平安時代の遺物を包含する黒灰色土層が東へ下ることを確認した。また出水通と土屋町通の交差点を西に入った地点では、

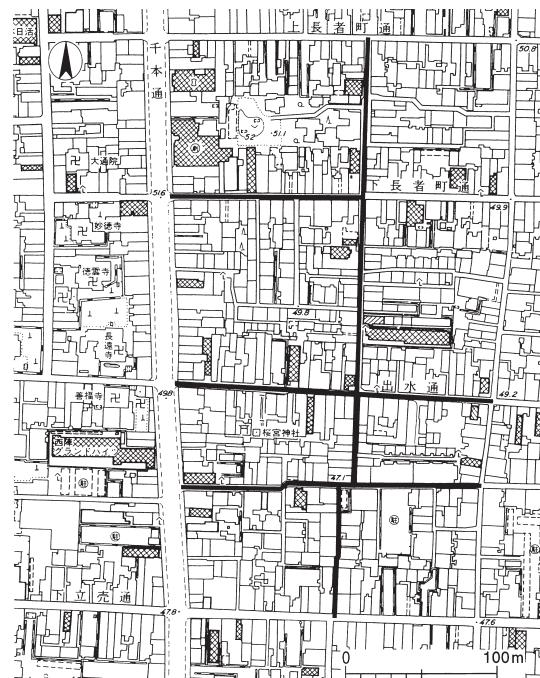


図 173 付章 28 調査位置図 (1:5,000)

現地表下 0.3m で平安時代の瓦を包含する厚さ 0.2m の堆積土層を検出した。

また、平安時代に属する遺構の基盤層と考えられる地山（黄褐色砂泥層）は、千本通と新出水通の交差点から東へ約 30m の地点まで、現地表下 1.0m 前後の深さで検出しており、南北方向では下長者町通と土屋町通の交差点から南へ約 50m の地点まで確認している。

遺物 遺物整理箱で 6 箱出土した。遺物には平安時代と江戸時代に属するものがある。平安時代に属するものでは土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・瓦器、丸・平瓦、軒丸・軒平瓦などがある。江戸時代に属するものでは土器類がある。

小結 今回の調査では平安時代に属する明確な遺構を検出することはできなかった。しかし、前述したように調査対象地域では現地表下 1.0m 前後で地山が確認でき、一部では平安時代に属する遺物包含層なども検出することができた。

なお、地山未確認の地点については聚楽第に伴う堀跡である可能性が高いと考えられる。

29 宴松原・造酒司跡 (43・60・61)

経過 この調査はガス管敷設替え工事に伴う立会調査である。調査地点は三箇所（第1～3地点）あり、宴松原・造酒司・真言院などに推定できる地域である。工事では現地表下約1m前後まで掘削が行われた。土層観察の結果、掘削深までは旧管掘形内の堆積土層のみであることが判明した。調査期間は昭和54年(1979)4月10日から8月15日である。

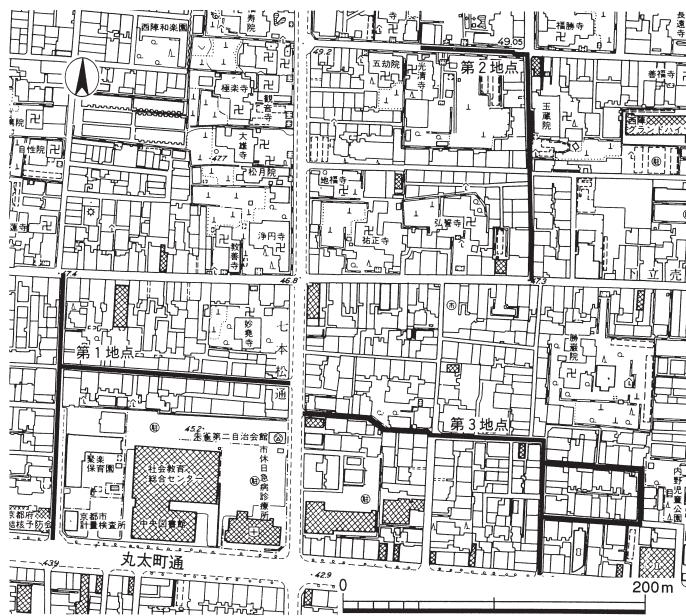


図174 付章29 調査位置図 (1:5,000)

遺構・遺物 現地表下約1mで地山の黄色粘土層に達するが、第3地点では同0.2～0.5mで地山を検出した。第2地点では地山上面で瓦溜を1基検出したが、他の地点では検出できなかった。

遺物は瓦類・土師器・陶器などがあり、瓦溜からは丸・平瓦、軒平瓦、緑釉丸瓦が出土した。

小結 第2地点では瓦溜を検出したことから、周囲にも遺構の遺存する可能性は高い。

30 豊楽院跡 (44 図版34-3・4)

経過 この調査はガス管敷設替え工事に伴う立会調査である。調査対象地域は豊楽院東部から宴松原に推定でき、関連遺構の検出を目的として実施した。調査期間は昭和54年(1979)5月25日から7月4日である。

本管理設工事に際しては現地表下約1m前後まで掘削されたが、旧管の掘形内の掘削にとどまっていた。枝管については、これまで未掘削の箇所に設定される場合もあった。

遺構・遺物 枝管掘削の立会調査では、聚楽廻中町で建物跡に関すると推定できる基壇化粧石を検出した(A)。検出地点は旧丸太町通と六軒町通が交差する南西角から2軒目の民家玄関部で、現地表直下に石が据え付けられ、原位置を保った状態で検出できた。基壇化粧石の使用石材は凝灰岩である。調査範囲が狭小なため、基壇のどの部分に相当するかは不明である。

また、六軒町通の道路上における本管掘削の立会調査では、地表下約1mで地山(黄色粘土)を検出した。断面観察などから地山上面は削平されていると推定できるが、B・Cの2箇所で瓦溜を検出した。瓦溜から軒平瓦・丸瓦・平瓦・土師器などが出土した。いずれも平安時代に属する。

小結 検出した建物については、周辺の調査などから豊楽殿東側回廊に関係するものと推定できるが、具体的にどの部分に相当するかは不明である。

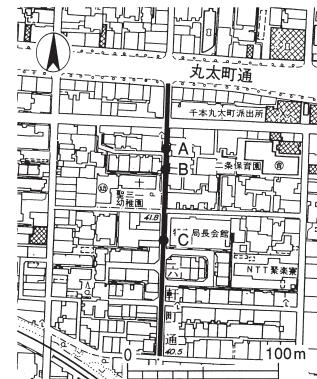


図175 付章30 調査位置図
(1:5,000)

31 宮内省 - 主水司跡 (59)

経過 上京区丸太町智恵光院西入二筋下る主税町から堀川竹屋町西入主税町地先でガス管理設工事に伴う立会調査を実施した。調査地一帯は宮内省・主水司・西院などの官衙が配置された地域である。調査は昭和54年(1979)6月15日から同7月20日の間に実施した。

遺構 NHK 京都放送会館敷地周辺道路と二条児童公園東側道路の調査では、現地表下約1m前後で黄褐色砂泥・同砂礫層を確認した。黄褐色砂泥層は聚楽土と呼ばれる地山で、上面はほとんど削平を受けていないものと考えられる。地山上面に淡黄褐色泥砂層が堆積する箇所を一部確認している。この土層は出土遺物から平安時代の遺物包含層であると考えられる。

遺物 調査では平安時代と江戸時代に属する土器・瓦類が出土した。

平安時代に属する土器類には土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器があるが、出土量は少ない。江戸時代以降に属する遺物では陶器・磁器、瓦類が出土した。

小結 主水司に想定できる地域の東側道路では江戸時代の搅乱が多く、遺構の遺存度は低い。これは、江戸時代に京都町奉行の諸施設が設置された結果と考えられる。ところが、西院および園韓社に推定できる地域では、平安時代の遺物包含層を確認できた。また、江戸時代以降の搅乱が少ないため、当該地周辺は比較的遺構の遺存状況は良好であることが判明した。

32 朝堂院・太政官・中務省跡 (81～83・89)

経過 本調査は、平安宮および平安京跡を対象とした立会調査で、ガス本管および枝管敷設替え工事に伴い行った調査である。調査期間は昭和54年(1979)8月30日から昭和55年(1980)3月21日のおおよそ7箇月におよんだ。調査地点は、工事の地域と進捗状況に応じて、第1地点(81)は上京区丸太町通土屋町下る主税町、同淨福寺下る中務町・主税町一帯、第2地点(89)は中京区聚楽廻東町、第3地点(82)は上京区黒門通樅木町下る中御門横町から藁屋町、第4地点(83)は上京区出水通智恵光院東入金馬場町から同出水通葭屋町西入元福大明神町でそれぞれ調査を行った。

遺構 各調査地点の主要な成果について概略する。

第1地点 朝堂院北半東部、中務省南半部および太政官のほぼ全域にあたる。

朝堂院では、東面回廊と宣政門の基壇などを検出した。また、朝堂に関しては、承光堂基壇の北縁および東縁を示す凝灰岩の延石、明礼堂基壇の東縁と西縁および西面階段の一部、暉章堂基壇の東縁などを検出している。

太政官では、西面築地基底部および内・外溝を検出した。この西面築地は丸太町下る2筋目で東折して北面築地へと連続する。このほか、省内では区画を示す溝、柱穴、土壙などを複数の地点で検出している。

中務省では、南面築地外溝を検出した。このほか、省内では基壇状遺構・瓦溜・土壙・柱穴・

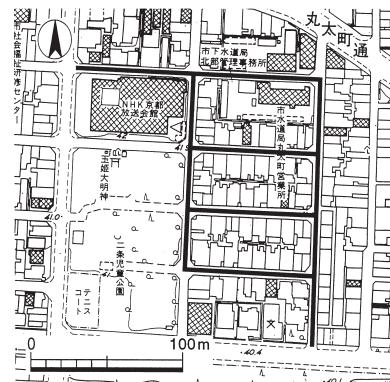


図 176 付章 31 調査位置図
(1:5,000)

溝なども検出している。

第2地点 朝堂院の西半部にあたる。調査では、修式堂基壇の北縁にあたる箇所で凝灰岩を検出した。

第3地点 平安京左京二条二坊一町のほぼ中央を南北に貫く調査である。中御門大路の南側溝にあたると思われる東西溝を検出し、一町のほぼ中央付近では東西溝を検出している。また、下層で弥生時代中期の遺物包含層も確認している。

第4地点 東方官衙群および平安京左京域の近衛大路にあたるが、良好な成果は挙げることができなかつた。

遺物 遺物整理箱に2箱分の遺物が出土した。平安時代の遺物には土器類と瓦類があり、土器類では土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器などがある。瓦類では鷲尾の破片も含まれる。また、第1・2地点では古墳時代の土師器・須恵器が、第4地点では弥生土器が出土した。

小結 本調査は広域の立会調査であり、平安宮内では朝堂院を始めとして太政官・中務省などを縦横に調査し、朝堂院の東面回廊に関する遺構、朝堂十二堂の建物基壇をはじめ、太政官の北面および西面、中務省の南面に関わる遺構など多くの調査成果を得ることができた。

また、左京城では中御門大路の南側溝のほか、弥生時代中期の遺物包含層を検出した。

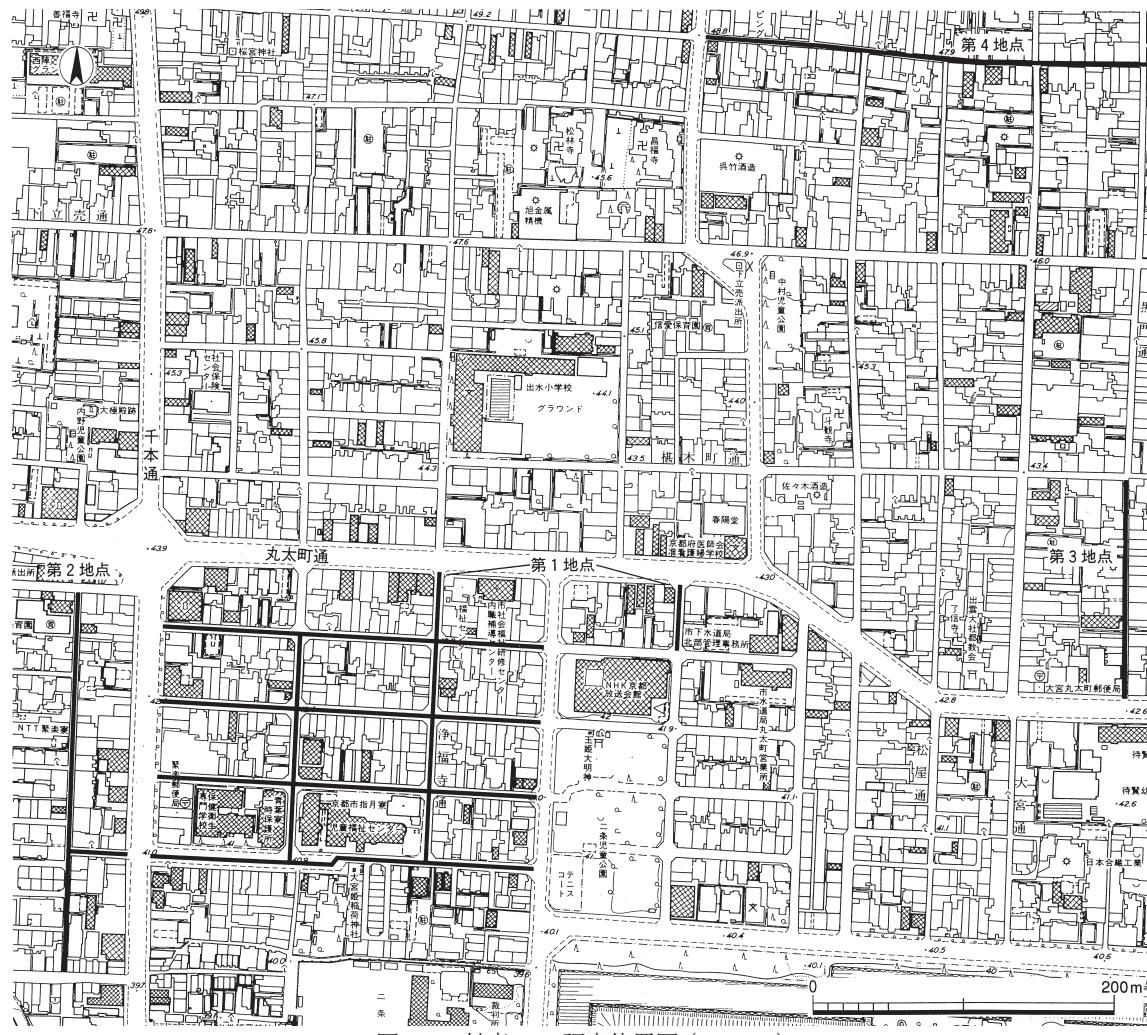


図 177 付章 32 調査位置図 (1:5,000)

33 東雅院・大膳職跡 (132)

経過 東は堀川通、西は智恵光院通、北は下立売通、南は丸太町通に囲まれた地域で、京都市水道局によって上水管の敷設替え工事が行われることになった。当該地は平安宮東方官衙群跡を含む地域にあたるため立会調査を実施した。調査は昭和55年(1980)4月1日から7月30日に終了した。

遺構 検出した遺構は弥生時代の遺物包含層、平安時代の落込遺構などである。

弥生時代の遺物包含層は、丸太町通と猪熊通の交差点の北部で検出した。平安時代の落込遺構は数箇所で検出しているが、検出面からの深さはいずれも浅い。

遺物 遺物整理箱で3箱分出土した。遺物には弥生時代の土器、石斧、平安時代の土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器などがある。

小結 立会調査という性格上、ほとんど掘削断面の観察にとどまり、明確な遺構を検出することはできなかった。しかし、平安時代の落込遺構や弥生時代の遺物包含層を検出することができたことは本調査における大きな成果である。

34 中務省跡 (166)

経過 ガス管敷設替え工事に伴い立会調査を実施した。工事の掘削深は現地表下1.0~1.5mであった。調査対象地は、東は智恵光院通、西は千本通に限られた丸太町通の南北両歩道上である。工事区間の大半は中務省北半部に該当するため、中務省を東西に横断する調査になり、同省内の状況を把握するにはきわめて有効な立会調査であると考えられた。

遺構・遺物 工事の進捗に従って調査を進めたが、遺構の遺存状況は非常に悪く、特に南歩道工事区間は先行管の下まで掘削が至らなかったことから、調査対象断面はすべて搅乱された土層であった。

北側歩道工事区間では2地点で遺構を検出した。A地点では東西方向に約13mにわたって、平安時代前期から中期の須恵器・綠釉陶器、瓦などを包含する土層を検出した。出土した遺物は大半が破碎された瓦である。B地点では現地表下0.75mの地山上面で、幅1.3m、深さ0.3mの土壠を検出した。土壠には中世の土師器片が含まれていた。

小結 A地点は、中務省内舎人の推定地に含まれており、遺構の検出が期待されたが、瓦を多量に含む整地層を検出するにとどまった。

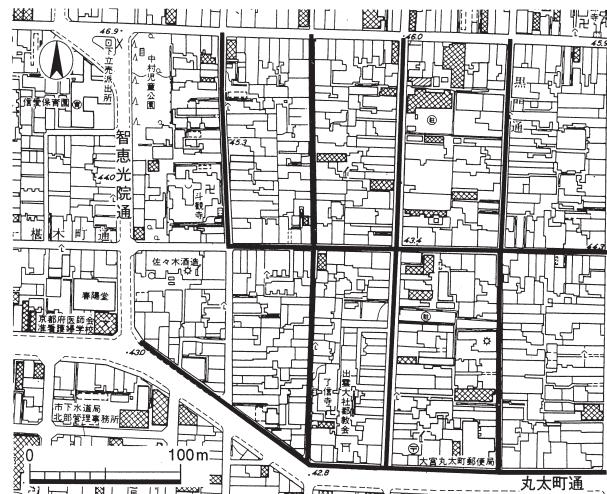


図 178 付章 33 調査位置図 (1:5,000)

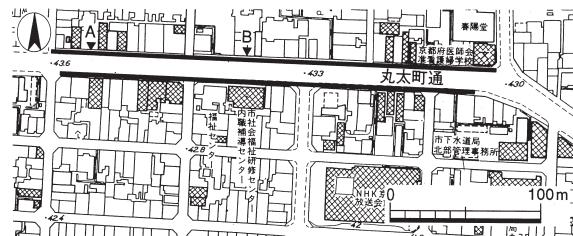


図 179 付章 34 調査位置図 (1:5,000)

35 治部省 - 判事跡 (173)

経過 中京区西ノ京内畠町内および同区西ノ京右馬寮町地内で配水管敷設替え工事に伴い立会調査を実施した。当該地は治部省 - 判事などが推定できた。調査距離は約 1,100m であった。工事は旧管を撤去しながら新管を埋設する方法が採られたため、断面観察は約 7 割までが搅乱・積土であった。掘削深度は現地表下 1.3 ~ 2.0m である。昭和 55 年(1980)9 月 22 日に調査を開始し、同 11 月 10 日に終了した。

遺構 搅乱・積土層が厚く、平安時代の遺構は検出できなかった。地山（黄灰色泥土層）は浅い地点では現地表下 0.6m 前後で確認したが、調査区全域で凹凸が激しい。遺構は近代の溝と時期不明の落込を三箇所の地点で検出した。

遺物 遺物の大半は搅乱・積土から出土したものである。遺物内容は瓦では剣頭文軒平瓦 1 点、平瓦片がある。土器類では土師器・須恵器片があるが、細片のため時期は不明である。

小結 旧埋設管を撤去しながらの工事という制約上、掘削土の大半が搅乱・積土層であり、平安時代の遺構・遺物包含層は確認できなかった。わずかに掘削深度の深い地点などで地山の堆積状況を観察できたのみである。ただ、西ノ京中学校の北東隅では比較的平瓦片が多く出土しており、付近には遺構が遺存している可能性が高い。

36 内匠寮・造酒司跡 (187)

経過 配水管敷設替え工事に伴い立会調査を実施した。調査対象地域は丸太町通北側歩道の御前通から七本松通に至る 281m である。調査対象地域は内匠寮・造酒司に南接しており、当該官衙の区画に関連する遺構の検出が期待できた。

調査の結果、土壙、溝状遺構、遺物包含層などを検出することができた。調査は昭和 55 年(1980)11 月 18 日から同 25 日にかけて実施した。

遺構・遺物 基本層序は現地表から現代積土層、茶褐色砂泥層（遺物包含層）、黄褐色砂泥層（地山）が堆積し、遺物包含層がない地点もある。また、現地形は下の森通付近が最も高く、東西方向に向かって徐々に下がっていくが、地山の上面は概

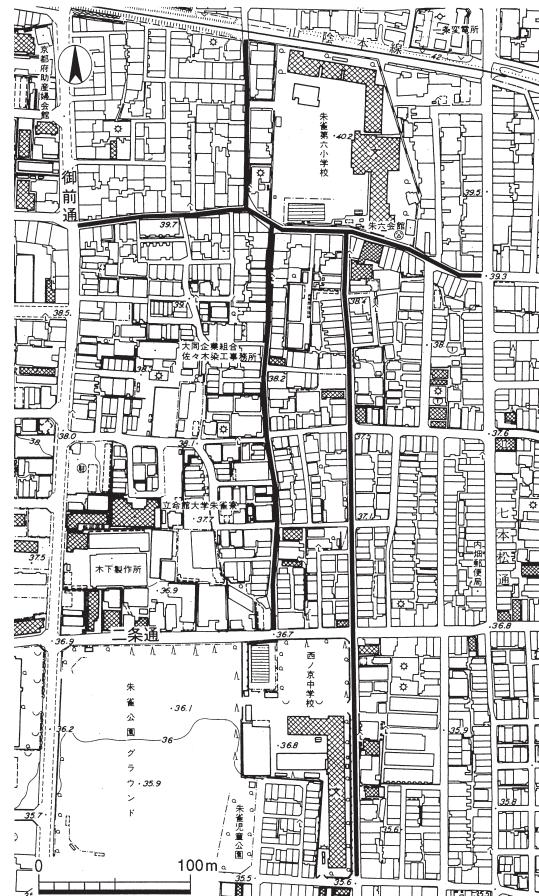


図 180 付章 35 調査位置図 (1:5,000)

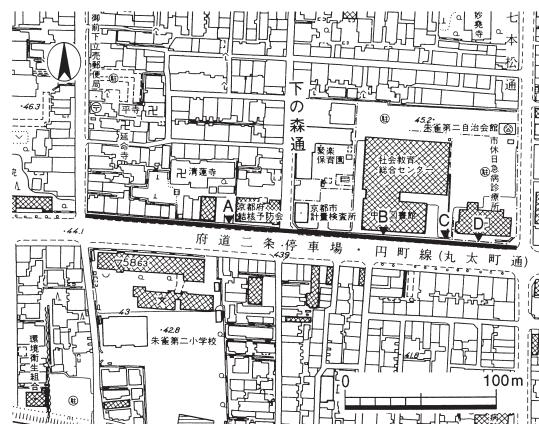


図 181 付章 36 調査位置図 (1:5,000)

して平坦な状況を呈していることが判明した。検出した主要な遺構を次に示す。

A 地点 下の森通から西へ約 37m の地点では、現地表下 0.63m で深さ 0.2m の落込状遺構を約 11m にわたって検出した。埋土は上から茶褐色泥砂層・暗褐色泥砂層の 2 層に大別でき、上層から土師器、下層から瓦が出土した。いずれも小破片であるが平安時代後期の特徴を有する。

B 地点 七本松通から西へ約 60m の地点では、現地表下 0.2m で、断面形が逆台形を呈する遺構を検出した。検出面での規模は幅 1.6 m、深さ 0.2 m ある。遺物は出土せず時期は不明である。

C 地点 七本松通から西へ約 45m の地点では、現地表下 0.2m で南北方向を示す溝状遺構を検出した。検出面での規模は幅 4.2m、深さ 1.6m ある。江戸時代から近代の遺物が出土した。

D 地点 七本松通から西へ約 20m の地点では、現地表下 0.65m で土壙を検出した。検出面での規模は幅 1.3m、深さ 1.6m ある。遺物は出土せず時期は不明である。

小結 今回の調査で検出した遺構は周辺の発掘調査成果などを参照し検討を加えると、次のことが考えられる。A 地点の落込状遺構は造酒司調査 4 で検出している SD2 の西側延長部に該当することがわかった。したがって、落込状遺構は内匠寮の南面築地外溝と捉えることができた。これまでの平安宮における調査では、官衙の四至を示すと考えられる築地や溝などの検出例は、前述した造酒司を始めとして数箇所の官衙の例に過ぎず、今回の調査成果は平安宮の官衙配置を調査研究するうえで、新たな資料を提示できたものと考えている。なお、D 地点の溝は造酒司調査 2・3 で検出した南北方向の溝の南延長部に該当する。

37 内裏跡 (188 図版 48-1 ~ 4)

経過 東西方向の通りである下立売通の千本通から智恵光院通の間、および出水小学校東側道路でガス管敷設替え工事が行われることになり、立会調査を実施した。工事対象地域はほぼ平安宮内裏跡南半に該当しており、きわめて重要な地域である。

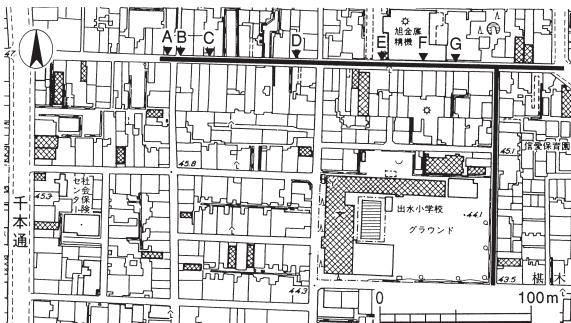


図 182 付章 37 調査位置図 (1:5,000)

遺構・遺物 調査では下立売通において A～G の各地点で遺構・遺物を検出することができた。

A 地点では現地表下約 1.2m で西に下がる溝状遺構を検出した。溝状遺構内では現地表下約 2.1m で瓦を包含する土層を確認、さらに上層では土師器、瓦類を包含する土層を確認している。C 地点では東西方向の石組遺構を検出し、この下層で南北方向に延びる石組溝と束石状の凝灰岩を検出した。D 地点では深さ 1.4m で凝灰岩の切石を一個発見したが、旧位置を保っていなかった。E 地点でも深さ 0.7m で凝灰岩を検出し、F 地点では深さ 1m の位置で凝灰岩を検出した。その下端で瓦の層が 13m ほど東に続くことを確認した。G 地点でも同様の瓦の堆積層がみられた。両地点間で 15m ほど瓦の堆積層が途切れていった。それぞれの地点で土器と瓦類が出土している。

小結 調査地は、内裏南半部にあたり、内裏を東西に横断する調査となった。先行埋管のため良好な土層観察のできない所もあったが、G 地点は内裏外郭の道路、F 地点は内郭回廊部分、B・C 地点は内部建物の一部の可能性があるとみられる。

38 朝堂院 - 式部省跡 (740)

経過 京都市立二条中学校の西側から出世稻荷神社東側にかけての道路上でガス管敷設替え工事に伴う立会調査を実施した。所在地は中京区西ノ京式部町から上京区土屋町通竹屋町下る主税町である。調査対象地域は平安宮朝堂院、民部省、式部省などにあたる。調査は昭和61年(1986)4月12日から6月2日の間に実施した。

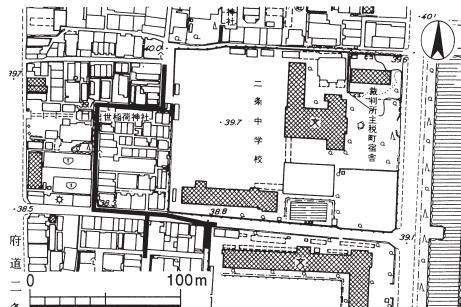


図 183 付章 38 調査位置図 (1:5,000)

工事は入り組んだ道路上に計画されたため調査対象区域も自ずと屈曲したものとなった。便宜上掘削工事が行われた道路をA～D区の4区に分けて立会調査を実施することとした。

遺構・遺物 堀削工事が行われた場所は狭い道路上であったため工事堀削幅は狭く、さらにガス管径が小さいことから堀削深は浅いものであった。したがって、堀削工事は積土の範囲におさまることが多く、調査目的とした対象地域における官衙を示す遺構ならびに当該時期の遺物などはまったく検出することはできなかった。

小結 土層の観察から判断すると、遺構・遺物の検出をみなかったのは、工事堀削が遺構検出面まで達していなかったことによる。したがって、今後とも当該地ならびに周辺での調査は必要と考えている。

39 二条大路跡 (1440)

経過 調査は京都市計画事業二条駅地区土地区画整理事業北街区建設に伴う試掘調査で、調査地点は平安京右京三条一坊一町・二条大路にあたり、穀倉院の北東地区に比定できる。調査では6箇所に調査区を設定し、調査面積は6箇所の調査区をあわせて300 m²であった。調査は平成5年(1993)11月10日から平成6年(1994)1月28日の間に実施した。

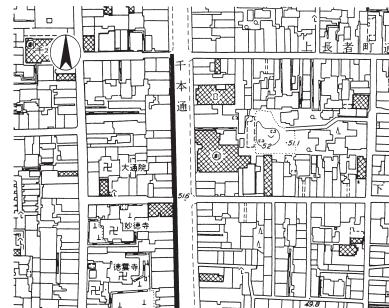


図 184 付章 39 調査位置図
(1:5,000)

遺構 調査では平安時代と考えられる二条大路路面(土層硬化面)、室町時代に属する柱穴、江戸時代に属する柱穴・溝・土壤、近代以降に属する旧建物基礎・溝などを検出した。

二条大路の路面は堆積土層の硬化した面として確認した。検出位置は二条大路内のやや南寄り付近に該当する。

遺物 出土した遺物は、平安時代に属する土師器皿、瓦、江戸時代後期の染付磁器碗・ぐい呑、近代以降の京都市章の陰刻を有する煉瓦などがある。

小結 調査地点の東辺は二条駅および軌道建設に際し大きく削平を受けており、平安時代の遺構の遺存は期待できない。しかし、西辺地区では二条大路の路面が確認できたことや室町時代の柱穴を検出したことなど、遺存状況が良好であることが判った。次年度の調査予定地はさらにこの西方へ延びて、穀倉院中心地区に近接することになり、成果が期待できよう。

40 中和院 - 内藏寮跡 (1476)

経過 今回の調査は、ガス低圧管敷設替え工事に伴う立会調査である。調査区間は千本通の上長者町通から下立売通間の西側歩道上で、南北長約375mの区間を対象とした。当地域は平安宮内藏寮・内膳司・中和院に該当する。調査は平成6年(1994)4月11日から同6月21日まで実施した。

調査区間には電話線・上水・下水・不明管などが南北方向に埋設されており、かなり激しく攪乱されていた。しかし、最も浅い埋設管による攪乱深度は現地表下0.8m前後であり、下層には平安時代や古墳時代の遺構、遺物包含層が遺存していることが判明した。また、民家寄りの枝管の埋設工事では、わずか現地表下0.3m程度で平安時代の遺物包含層を検出した。今回の調査で検出した遺構は溝、土壙、塀など、平安時代19基、桃山時代6基、江戸時代3基がある。

遺構 断面観察は西壁断面を対象に、歩道上面を基準として計測した。また、計測点は1/500の地図を使用し、民家の敷地南・北端とした。敷設工事に従って1日の工事立会区間を「○地区」、遺構検出地点を「地点○」と表記した。

①地区 地点1では現地表下約1mで幅1.5m以上、深さ0.4mの東西方向の溝状遺構を検出した。遺物は出土していない。内藏寮北面築地推定線より南約3.7mにある。

②地区 地点4では現地表下0.7mで幅1.3m、深さ0.6mの溝状遺構を検出、平安時代の巴文軒丸瓦が出土した。内藏寮北面築地推定線より南41.3mに位置する。地点5のやや北から南に向かって落ち込む近世の堀状遺構を検出、深さは現地表下1.4m以上あり、土層は③地区へ続く。

③地区 この地区はすべて近世の堀状遺構内にあたる。

④地区 地点1では②、③地区で検出した堀状遺構の南肩口を検出、全体幅は13mある。地点4・5では現地表下1.1mで柱穴状遺構を検出、出土遺物はないが土層から平安時代とみられる。

⑤地区 地点3・4間では現地表下0.9～1.0mで平安時代の溝状遺構を検出した。幅約2.3m、深さ0.4～0.5mある。平安時代の瓦、須恵器、灰釉陶器が出土した。

⑥地区 地点1の西側で平安時代の遺物包含層を検出した。厚さは1.0m以上ある。

⑦地区 地点2・3・5では現地表下0.8～0.9mで溝を3条検出した。規模は北溝から順に現存幅0.5m・深さ0.35m、幅1.3m・深さ0.23m、幅1.0m・深さ0.32mあり、いずれも平安時代の遺物を含む。各溝は内藏寮南面築地心推定線から北へ5.0m、同1.5m、南へ6.0mに位置する。また地点5の溝の南でこの溝に削平を受けた南北幅3.0m以上の土壙あるいは溝を検出した。

⑧地区 地点4・5間では近世以降の石組井戸を検出した。

⑨地区 地点4では現地表下0.6mで溝あるいは土壙を検出した。現存幅2.0m、深さ0.6mある。

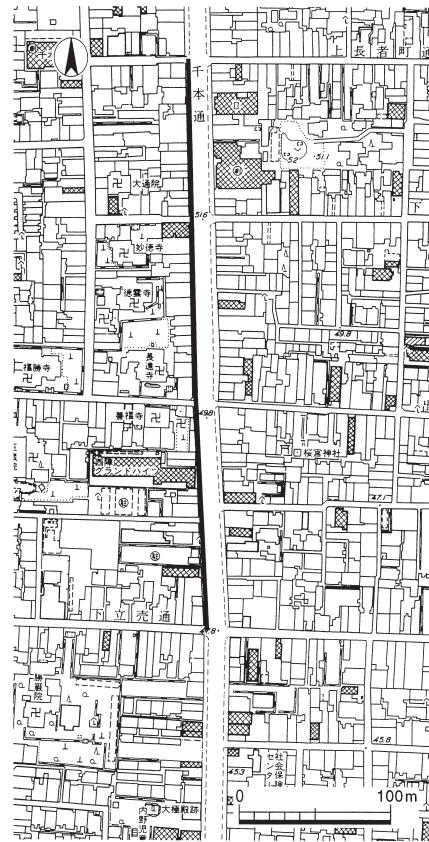


図 185 付章 40 調査位置図

(1:5,000)

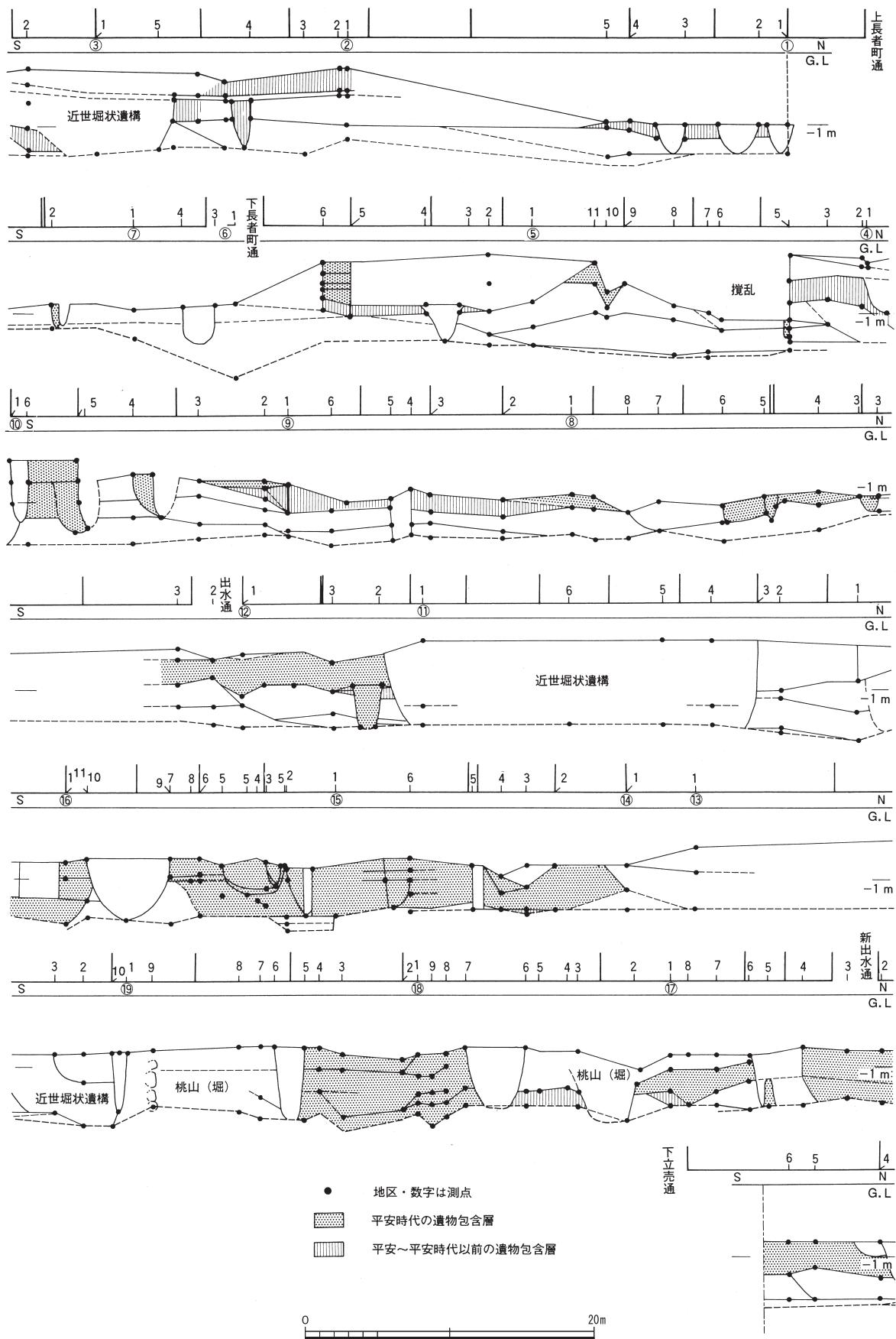


図 186 付章 40 西壁断面模式図 (1:400)

9世紀初頭の土器を含む。地点5・6間にでは現地表下0.7mで重複状態は不明であるが土壙あるいは溝を2基検出した。南北検出幅4.3m、深さ0.5～0.8mある。平安時代前期の土器類を多量に含み土器溜め状を呈する。完形の須恵器壺蓋など大半が接合可能な状態で投棄されていた。

⑩地区 地点3では現地表下0.3mで南に向けて落ち込む堀状遺構を検出した。深さは1.15m以上ある。底部には泥土層が堆積しており、近世初頭の瓦・磁器が出土した。

⑪地区 地点2で⑩地区から続く堀状遺構の南肩口を検出、堀の南北幅は約26mとなる。地点2の南では現地表下0.9mで溝を検出。幅2.0m、深さ0.6m、埋土から凝灰岩片が多数出土した。

⑫・⑬地区 地点3・2では平安時代の遺物包含層、近世初頭の路面状遺構を検出した。

⑭地区 地点6では現地表下1.0mで平安時代の溝状遺構を検出した。現存幅約1.8m、深さ0.4mある。同時期の遺物包含層（厚さ約0.7m）上面で検出したため形状は明確ではない。

⑮地区 地点2では砂礫層上面で北へ落ち込む暗褐色砂泥層を検出、平安時代の瓦、土師器などが出土した。⑯地区の遺物包含層に続く遺構であれば、南北幅7.0m以上の遺構となる。地点3～5でも現地表下0.7mで溝状遺構を検出した。幅4.3m、深さ0.5m、平安時代の瓦を含む。

⑯地区 地点4から⑮地区の地点10間にかけて、現地表下0.7mで落込遺構を検出した。南北11.5m、深さ0.8m以上ある。平安時代の土器、瓦、凝灰岩片が多量に出土した。

⑰地区 地点2～3で桃山時代の瓦を含む堀状遺構を検出した。幅4.0m、深さ0.9m以上ある。

⑱地区 地点5から⑰地区の地点7にかけて、現地表下約0.8mで平安時代の瓦を多量に包含する土層を検出した。南北13m、厚さ1.0m以上ある。地点6～9間には近世の遺物包含層が厚さ0.5m以上堆積する。地点9では径0.4m前後の川原石を数段積んだ石組遺構を検出した。

⑲地区 地点4から北へ下る堀状遺構を検出、近世初頭の遺物が出土した。⑳地区の石組遺構との関係は不明である。地点4以南には平安時代の瓦を含む遺物包含層が厚さ0.4mで堆積する。

遺物 遺物は遺物整理箱で7箱出土した。平安時代以前の遺物としては黒色砂泥層や黒褐色砂泥層から土師器片が出土している。今回の調査区間の数地点でこれら土層を検出した。

平安時代の遺物は大半が瓦であり、②地区で巴文軒丸瓦が1点、⑩地区で緑釉の鷦尾、熨斗瓦、丸瓦が各1点出土した。土器類では土師器が多く、須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器が少量ある。9世紀初頭から10世紀頃の範囲におさまる。凝灰岩片は数箇所で出土しており、⑯地区4地点からは加工痕の残る大きな破片が4点出土した。桃山時代の遺物は堀状遺構から出土した。遺物の多くは瓦類で、丸・平瓦のほかに⑰地区の堀状遺構から巴文軒丸瓦が2点出土した。

小結 今回の調査区間は、内蔵寮、内膳司、中和院のほぼ中央部を南北に縦断した。今日までこれら官衙の四至ならびに官衙内の施設などはほとんど解明されていないことから、今回の調査成果は重要な意味をもつ。ただし、今回の立会調査では埋設管が交錯し、しかも西壁のみの断面観察にとどまるなど多くの制約があった。検出した遺構についても溝、土壙、遺物包含層の判断がつきにくいのが実状である。今後、近隣で発掘調査が行われれば、遺構の性格やその位置付けが明確にされるであろう。また、⑨地区の4～6地点では平安時代初期の一括土器資料が得られたことも今回の調査成果として挙げられる。

41 朝堂院跡 (1488)

経過 調査地点は上京区小山町から革堂前之町地内に所在する。千本丸太町交差点北側の道路西端で実施した試掘調査である。調査対象地域はほぼ平安宮の中軸線が通り、平安宮における最も重要な施設である大極殿を始めとして、大極殿後殿の小安殿および大極殿院北門である昭慶門などが推定されている。調査区は大極殿に1箇所、小安殿跡に2箇所、昭慶門跡に2箇所の5箇所に設定した。調査区の設定に際しては、これまでの平安宮跡の調査研究成果から想定できる各施設の想定基壇縁に該当する地点を考慮した。

調査対象地域が千本通の道路上のため調査区設定範囲は最小限に限定され、調査区はいずれも東西1m、南北2mの規模に設定した。同様に、調査は交通量の少ない夜間調査を採用した。調査は平成6年(1994)6月1日から同3日まで実施し、調査面積は5箇所の調査区をあわせ10m²である。

遺構・遺物 昭慶門・小安殿想定地点に設定した調査区では、江戸時代の遺構と重複していたため平安時代の遺構は一切検出することができなかった。しかしながら、大極殿跡想定地点に設定した調査区では、現地表下約0.3mで大極殿基壇の一部を検出することができた。

遺物は基壇跡の北側から瓦片が数点出土したが、遺構に伴う遺物ではない。

小結 今回の調査によって、大極殿に関係する遺構を初めて検出することができた。これにより大極殿想定地点がほぼ間違いないことが確かめられた。

42 朝堂院 - 内膳司跡

経過 今回の調査は電柱建て替えの試験坑に伴う立会調査である。調査地点は千本通の上長者町通から丸太町通間の西側歩道部分で、内膳司・中和院・大極殿などに推定されている。試験坑の規模は1.0×1.5mで15箇所設定されたが、特に重要と考えられた6箇所で調査を実施した。2箇所で遺物包含層や地山を確認したが、他は既設のガス・水道管により現地表下1.0～1.5mまで搅乱されていた。調査は平成6年(1994)7月27日から同年8月5日まで実施し、調査面積は9m²である。

遺構・遺物 3地点は昭慶門のやや北に位置する。現地表下0.9mまでが埋設管による搅乱層で、同1.6mまでに平安時代の遺物包含層が3層あり、以下が地山(暗褐色粘土)となる。12地点は内膳司の中央北よりに位置する。現地表下1.1mまでは埋設管による搅乱、同1.3mまでが平安時代の遺物包含層、以下は地山(黄色粘土)となる。

遺物は平安時代の土師器、瓦を採集したにとどまる。

小結 今回の調査では多くの地点が搅乱を受けていたが、昭慶門北側で平安時代の遺物包含層を検出することができることにより、

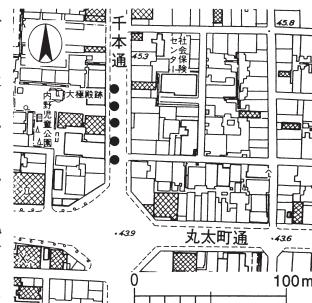


図 187 付章 41 調査位置図
(1:5,000)

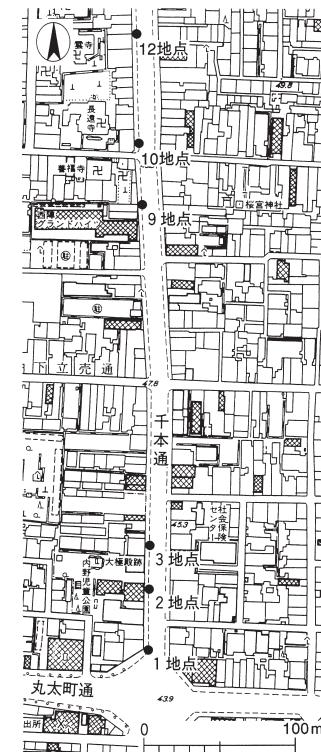


図 188 付章 42 調査位置図
(1:5,000)

周辺においても遺構の遺存する可能性は高いと考えている。

43 大蔵省跡 (1528)

経過 水道管敷設工事に伴い、上京区中立売通の七本松通から千本通までの間の南・北歩道で立会調査を実施した。調査地点は大蔵省の推定地で、東と西に置かれた

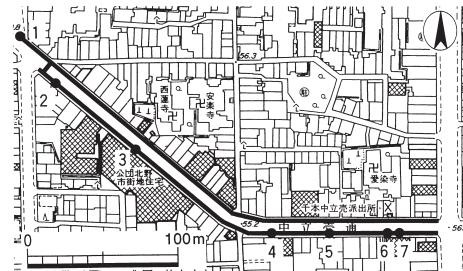


図 189 付章 43 調査位置図 (1:5,000)

同省の西側の区画で、同区画の北西角から東端中央部へ至る部分に該当する。調査は、平成6年(1994)9月26日から11月24日まで実施された。

遺構・遺物 1・3地点では現地表下0.45mで遺物包含層(暗褐色泥砂)、0.6mで地山(黒色泥砂)を検出した。6地点でも現地表下0.85mで地山を検出し、この区域では同様の堆積が続くと考えられる。5・7地点では現地表下1.4mでも地山は未検出であるが、4・6地点では現地表下0.85～0.75mで地山を検出しており、この間に遺構の肩部があると考えられる。近世の遺物が出土した。この地点では現地表下0.24mで厚さ0.1mの黒褐色砂泥層に黄褐色砂泥層が混入する版築状堆積層を検出した。3地点では現地表下0.17mで厚さ9cmの堅く締まった黄褐色土層と黒色土層からなる路面状遺構も検出した。いずれも遺物は出土せず時期は不明である。

遺物は6箇所の地点で出土した。主な遺物は、7地点の土壌状遺構から出土した染付陶磁器片、土師器片、5地点から出土した桟瓦で、平安時代の遺物は確認できなかった。

小結 今回の調査では平安時代の大蔵省と関連づけるものは検出できなかった。

44 豊楽院・治部省跡 (1533)

経過 中京区西ノ京内畠町(一部聚楽廻西町・南町)地内で、京都市水道局が配水管敷設替え工事を実施することになり、立会調査を実施した。当該地は平安宮跡南西部にあたり、豊楽院、兵部省、治部省などが推定されている。調査では1～4区とも下水・ガス管などの既設管の間の掘削で、側壁面の遺存状況は悪い。

遺構 1区の1地点では土壌状遺構を検出、2地点以南で近世の遺物包含層を確認した。3区では3・4地点で湿地状の落込から瓦片、凝灰岩片が出土。4区では近世の大きな落込を数箇所と、土師器を含む遺物包含層を検出した。5～7地点では遺物包含層下で、幅1m前後、深さ0.3mの遺構を検出した。

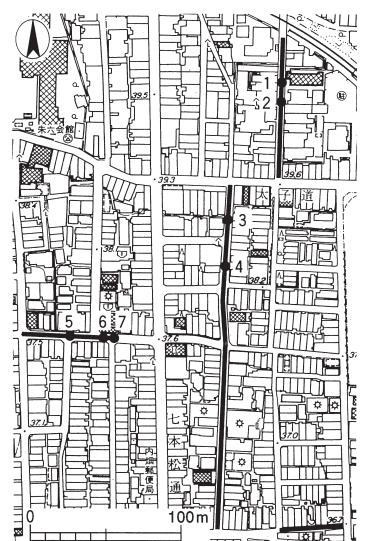


図 190 付章 44 調査位置図 (1:5,000)

遺物 遺物は遺物整理箱で2箱出土した。豊楽院に関連すると考えられる遺物は豊楽院跡推定地の調査区(1・3)で検出した近世遺構や搅乱などから、平安時代の土師器小量と、鷦尾や凝灰岩片などが出土した。中世の遺物としては輸入陶磁器・瓦器碗などがある。近世の遺物は1・3・4区の落込などから土師器・陶器・染付・瓦が出土した。

小結 調査区では多数の埋設管があり土層の遺存状態は不良であったが、4区で検出した平安時代の遺構は治部省関連遺構である可能性が考えられる。なお、黄褐色砂泥の地山を確認した道

路の周辺民家などは一段高い所に位置し、道路部分は後世に削平されたものと考えている。

45 朝堂院 - 内藏寮跡 (1539・1546 図版 24、95-2・3)

経過 千本通の上長者町通から丸太町通間で道路工事が実施されることとなり、一連の道路工事に先行して試掘・立会調査を実施した。調査対象地域は平安宮の中枢ともいべき朝堂院・中和院・内膳司・内藏寮などの諸官衙が所在した地域である。なかでも工事区間の南端部には、平安宮内で最も重要な施設である大極殿跡も含まれており、これらの遺構を検出することを主目的として調査を進めた。試掘・立会調査は平成6年(1994) 10月 26 日から平成7年(1995) 5月 26 日まで行った。

遺構・遺物 試掘トレンチは、大極殿跡推定地点に 1・2・3 トレンチ、小安殿跡推定地点には 4・5 トレンチ、大極殿院北面回廊推定地点には 6・7 トレンチ、中和院南面築地推定地点には 8・9 トレンチを設定した。

また、上長者町通から下立壳通間の工事予定区間に該当すると推定できる内藏寮・内膳司・中和院推定地点は、官衙範囲、建物配置などの詳細は不明であるため、千本通の上長者町通から下立壳通間の西側歩道で行われた立会調査（付章 40）の成果を参考にした。

試掘トレンチは南北 3m、東西 1m の規模で、上記のトレンチ位置を含め 22 箇所設定して調査を開始した。検出した主な遺構について下記に示す。

大極殿跡推定地点の調査では、2・3 トレンチは近世の堆積土層や埋設管による搅乱で遺構は検出できなかったが、1 トレンチでは大極殿基壇南縁を示すと考えられる遺構を検出した。

小安殿跡推定地点の調査では、4・5 トレンチとも小安殿に関する遺構をはじめ、平安時代に属する遺構は検出できなかった。ただし、聚楽第に関連すると考えられる遺構から緑釉瓦や凝灰岩の破片が多数出土した。

大極殿院北面回廊推定地点の調査では、6 トレンチで回廊基壇南縁に伴う遺構を検出した。また 7 トレンチでは回廊基壇北縁の延石および雨落溝を検出した。延石の規模は長さ 45cm 以上、幅 44cm、厚さ 16cm あり、上面内側には幅 8 cm、深さ 7 cm ほどの地覆石と組み合わせるための切り込みがある。延石上面の標高は 44.40m である。

中和院南面築地推定地点に設定した 8・9 トレンチでは、道路下 1.5m 以上は近世の堆積で、平安時代の遺構・遺物は検出できなかった。

内藏寮南面築地推定地点に設定した 18・19 トレンチでは、築地内・外溝にあたると思われる遺構を検出した。溝内より 9～10 世紀の遺物が出土した。なお 11・12 トレンチでは平安時代中期の東西方向の溝状遺構を検出しており、また他のトレンチでも平安時代の遺物包含層を確認している。

小結 平安宮の発掘調査は継続されているが、その実態についてはまだ部分的にしか把握されていない。今回の試掘調査では小範囲であったが、平安宮の最も重要な施設である大極殿の遺構を検出した意義は大きい。

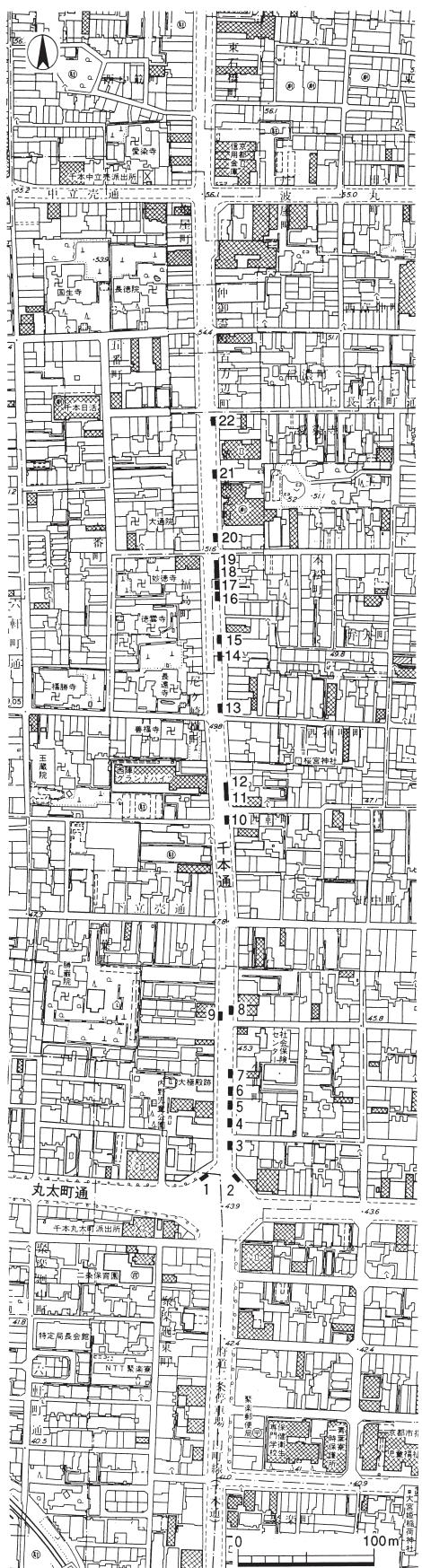


図 191 付章 45 調査位置図 (1:5,000)

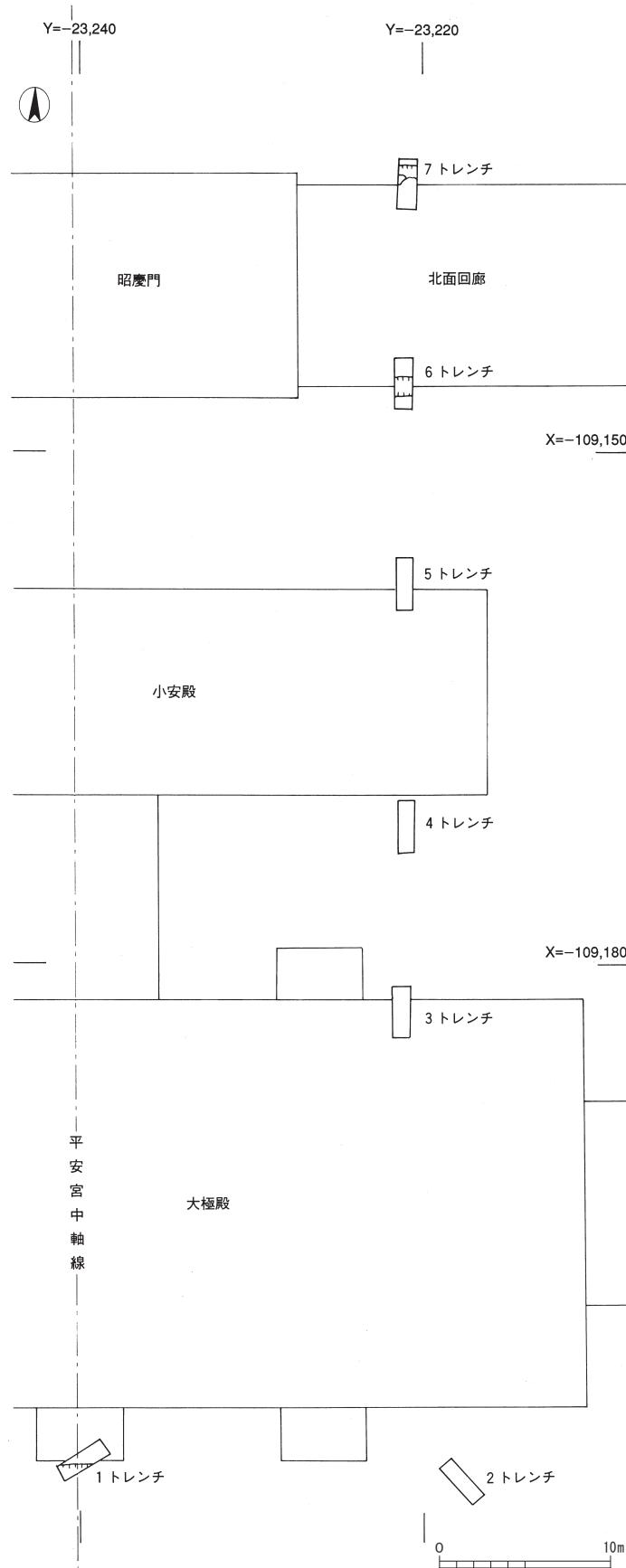


図 192 付章 45 遺構配置図 (1:400)

付表 I 調査一覧表

*住所は建築確認申請時の住所による。調査欄の記号は以下を示す。

- 発掘調査 ●試掘調査（国庫補助による） ▲立会調査（国庫補助による） ◆広域立会調査（国庫補助による）
 ○試掘調査（原因者による） △立会調査（原因者による） ◇広域立会調査（原因者による）

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1	縫殿寮	■	上京区下長者町通裏門西入坤高町 76	1976/11/9	1976/11/20	76HKHC	付章 1	3	
2	内蔵寮	■	上京区千本通下長者町上る革堂前之町 116	1976/12/15	1977/1/10	76HKJG	文 171	2	中央調査 3
3	造酒司	■	中京区聚楽廻松下町	1977/1/25	1977/2/5	76HMKM001	文 163	4	造酒司調査 1
4	造酒司	■	中京区聚楽廻松下町	1977/2/4	1977/3/4	76HMKM002	文 163	4	造酒司調査 2
5	主水司	■	上京区智恵光院通丸太町下る主税町	1977/3/25	1977/4/14	77HKMD	文 167-2	6	東方調査 11
6	侍従厨	◇	中京区二条城町	1977/4/16	1977/4/26	77HKJJ001	付章 22	6	
7	典蔵寮	△	中京区西ノ京車坂町 12	1978/4/23	1978/4/25	77HKKD058	付章 23	4	
8	西雅院	■	上京区智恵光院通丸太町上る西院町	1977/6/20	1977/7/12	77HHSI001	文 167-3	6	東方調査 7
9	太政官	■	上京区千本通丸太町下る東入主税町 1050	1977/6/17	1977/7/9	77HKDK001	文 167-4	6	太政官調査 1
10	縫殿寮	△	上京区下長者町通淨福寺西入新御幸町 44	1977/7/13	1977/7/15	77HKSJ	付章 24	3	
11	大 蔵	△	上京区立売通六軒町西入三軒町 65-42	1977/7/21	1977/7/24	77HKOY	付章 25	2	
12	主水司	■	上京区日暮通丸太町上る西入西院町 746-49	1977/7/25	1977/8/12	77HHSI002	付章 3	6	
13	漆 室	■	上京区御前通一条下る東堅町 132-1 仁和小学校	1977/9/18	1977/10/2	77HKNA001	付章 4	1	北方調査 1
14	内 裏	■	上京区下立売通土屋町東入田中町 459	1977/10/13	1977/10/20	77HKDA001	文 167-7	2	内裏調査 10
15	朝堂院	■	上京区竹屋町通千本東入聚楽町 863	1977/10/19	1977/10/22	77HKHA001	文 167-8	5	朝堂院調査 11
16	造酒司	■	中京区聚楽廻松下町 9	1977/11/20	1977/12/27	77HMKM003	付章 2	4	造酒司調査 3
17	侍従所	■	上京区下立売通日暮西入中村町 543・546	1977/12/24	1977/12/31	77HKSF	文 167-1	3	東方調査 4
18	朝堂院	■	中京区聚楽廻東町 3-1	1978/2/9	1978/2/28	77HKDG	文 167-5	5	朝堂院調査 29
19	造酒司	■	中京区聚楽廻松下町	1978/3/2	1978/5/31	77HMKM004	付章 2	4	造酒司調査 4
20	侍従厨	◇	中京区二条城町	1978/3/6	1978/3/29	77HKJJ002	付章 26	6	
21	朝堂院	■	上京区千本通竹屋町下る聚楽町 863-25	1978/3/15	1978/4/4	77HKHA002	文 167-6	5	朝堂院調査 13
22	御 井	○	中京区西ノ京車坂町 15-5 朱雀第六小学校	1978/4/5	1978/4/10	78HKOI	付章 27	4	
23	中和院	■	上京区下立売通千本東入田中町 420	1978/4/17	1978/5/13	78HKCC001	文 175-6	2	内裏調査 22
24	中務省	■	上京区丸太町通千本東入下る中務町 491-60	1978/4/24	1978/5/29	78HKCM001	文 175-5	5	中務省調査 1
25	中務省	■	上京区丸太町通千本東入下る中務町 491-3	1978/5/24	1978/6/19	78HKON	文 175-1	5	中務省調査 2
26	朝堂院	■	上京区竹屋町通千本東入聚楽町 863	1978/5/30	1978/6/7	78HKHS002	文 175-7	5	朝堂院調査 10
27	内 裏	◇	上京区千本通～淨福寺通、上長者町通～下立売通地内	1978/6/7	1978/8/24	78HKQQ	付章 28	2	
28	豊楽院	■	中京区聚楽廻西町 71-2	1978/7/6	1978/7/11	78HKBR001	文 175-9	5	
29	太政官	■	上京区丸太町通千本東入主税町 1050	1978/7/10	1978/7/15	78HKDK002	文 175-3	6	太政官調査 2
30	朝堂院	■	中京区聚楽廻東町 24-6	1978/7/11	1978/7/20	78HKNC	文 175-8	5	朝堂院調査 14
31	正親司	■	上京区仁和寺街道御前東入鳳瑞町 219	1978/7/21	1978/8/31	78HKUN	付章 5	1	北方調査 4
32	朝堂院	■	上京区千本通下立売下る小山町 877	1978/8/24	1978/9/30	78HKCO	文 175-2	5	朝堂院調査 26
33	太政官	■	上京区竹屋町通千本東入上る主税町 1092	1978/9/25	1978/11/4	78HKOG	文 175-4	5	太政官調査 3
34	造酒司	■	中京区聚楽廻松下町	1978/10/2	1978/11/25	78HMKM005	付章 2	4	造酒司調査 5
35	主殿寮	■	上京区立売通智恵光院西入多門町 445-12	1979/2/10	1979/3/10	78HKIN	付章 6	3	北方調査 13
36	図書寮	■	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 233	1979/4/1	1979/4/5	79HKTO	付章 7	1	西方調査 5
37	中務省	■	上京区丸太町通千本東入中務町 491-33	1979/4/3	1979/5/1	79HKCM002	文 183-4	5	中務省調査 3
38	正親司	▲	上京区仁和寺街道御前東入鳳瑞町 222	1979/4/4	1979/4/4	79BBHQ005	文 185	1	
39	大 蔵	▲	上京区立売通六軒町西入三軒町 65-2	1979/4/6	1979/4/6	79BBHQ008	文 185	2	
40	茶 園	▲	上京区立売通松屋町西入新白水丸町	1979/4/6	1979/4/6	79BBHQ009	文 185	1	
41	内 裏	▲	上京区土屋町通下立売上る田中町 477	1979/4/7	1979/4/7	79BBHQ013	文 185	2	
42	右近衛	▲	上京区御前通下長者町下る東入三助町 281-3	1979/4/9	1979/4/9	79BBHQ016	文 185	1	
43	造酒司	◇	上京区下立売通下の森東入西東町～中京区聚楽廻松下町他	1979/4/10	1979/7/23	79HKAI001	付章 29	4	
44	豊楽院	◇	中京区聚楽廻中町地先	1979/5/25	1979/7/4	79HKAI001	付章 30	5	豊楽院調査 9
45	宮内省	▲	上京区智恵光院通丸太町下る東入主税町 1115-3	1979/4/11	1979/4/11	79BBHQ021	文 185	6	
46	縫殿寮	▲	上京区上長者町通淨福寺東入高台院町 545	1979/4/14	1979/4/14	79BBHQ026	文 185	3	
47	内 裏	▲	上京区出水通土屋町西入西神明町 323-1・5	1979/4/17	1979/4/18	79BBHQ031	文 185-2	2	内裏調査 2
48	造酒司	◆	中京区聚楽廻松下町 14-3 地先	1979/4/18	1979/4/18	79BBHQ034	文 185	4	
49	内匠寮	◆	中京区聚楽廻松下町	1979/4/18	1979/4/18	79BBHQ035	文 185	4	
50	内 裏	▲	上京区淨福寺通下立売下る西入中務町 490-1	1979/4/21	1979/4/21	79BBHQ039	文 185	5	
51	朝堂院	●	中京区聚楽廻東町 16	1979/5/2	1979/5/2	79BBHQ057	文 185	5	
52	大炊寮	■	上京区丸太町通大宮西入藁屋町 535-79	1979/5/2	1979/5/19	79HKOL	文 183-2	6	
53	茶 園	■	上京区中立売通松屋町西入新白水丸町 462	1979/5/12	1979/5/30	79HKUM	付章 8	1	北方調査 14
54	梨 本	▲	上京区裏門通上長者町下る龜木町 218-1	1979/5/15	1979/5/15	79BBHQ078	文 185	3	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
55	宴松原	▲	上京区七本松通下長者町下る東入三番町 271	1979/5/16	1979/5/16	79BBHQ083	文 185	1	
56	大 蔵	▲	上京区淨福寺通中立壳下る菱丸町 169-3	1979/5/17	1979/5/17	79BBHQ084	文 185	3	
57	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 19	1979/5/17	1979/5/17	79BBHQ085	文 185	5	
58	朝堂院	▲	上京区丸太町通千本東入小山町	1979/5/22	1979/5/24	79BBHQ093	文 185	5	朝堂院調査 33
59	宮内省 主水司	◇	上京区丸太町通智恵光院西入下る主税町地先 ～竹屋町通堀川西入主税町地先	1979/6/15	1979/7/20	79HKAH	付章 31	4	
60	宴松原	◇	上京区下立壳通千本西入稻葉町 436 地先～出水通六軒町西入七番町 338 地先	1979/5/23	1979/6/22	79HKAI	付章 29	2	
61	宴松原	◇	中京区聚楽廻西町地先～聚樂廻中町地先	1979/6/4	1979/8/15	79HKAI	付章 29	5	豊楽院調査 8
62	真言院	▲	中京区聚楽廻西町 165-50	1979/5/24	1979/5/24	79BBHQ096	文 185	2	
63	造酒司	■	中京区聚樂廻松下町	1979/5/24	1979/6/8	79HKMK006	付章 2	4	造酒司調査 6
64	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 16	1979/5/30	1979/5/30	79BBHQ103	文 185	4	
65	南 所	▲	上京区出水通日暮西入金馬場町	1979/5/31	1979/5/31	79BBHQ106	文 185	3	
66	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 16-1	1979/6/1	1979/6/1	79BBHQ107	文 185-1	4	西方調査 24
67	二条	▲	中京区西ノ京星池町 8	1979/6/25	1979/6/25	79BBHR149	文 185-3	5	
68	中和院	■	上京区千本通下立壳下る小山町 896	1979/6/25	1979/7/12	79HKCC002	文 183-5	5	内裏調査 21
69	御 井	■	中京区西ノ京車坂町 15-5 朱雀第六小学校	1979/6/1	1979/7/26	79HKZA	付章 9	4	西方調査 20
70	豊楽院	▲	中京区聚樂廻西町 101	1979/7/3	1979/7/3	79BBHQ160	文 185	4	
71	朝堂院	▲	上京区土屋町通竹屋町上る主税町 1203	1979/7/7	1979/7/7	79BBHQ167	文 185	5	1462 と重複
72	朝堂院	◆	上京区千本通二条下る東入主税町	1979/7/7	1979/7/7	79BBHQ168	文 185	5	
73	内 匠寮	▲	上京区智恵光院通中立壳下る山里町 241-7	1979/7/10	1979/7/10	79BBHQ172	文 185	3	
74	大炊寮	▲	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町 768	1979/7/11	1979/7/11	79BBHQ177	文 185	6	
75	豊楽院	■	中京区聚樂廻西町 56	1979/7/13	1979/7/19	79HKBR002	付章 10	5	豊楽院調査 4
76	主殿寮	▲	上京区中立壳通智恵光院東入新白水丸町 462-4	1979/7/25	1979/7/25	79BBHQ213	文 185	3	
77	豊楽院	▲	中京区聚樂廻南町 17-1	1979/7/25	1979/8/13	79BBHQ212	文 185	4	
78	太政官	■	上京区竹屋町通千本東入主税町 1026	1979/8/1	1979/8/16	79HKDK004	文 183-1	6	太政官調査 4
79	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 2-59	1979/8/10	1979/8/10	79BBHQ235	文 185	5	
80	大 蔵	▲	上京区七本松通中立壳下る三軒町 74	1979/8/18	1979/8/18	79BBHQ239	文 185	1	
81	朝堂院	◇	上京区丸太町通土屋町下る主税町地先～淨福寺通丸太町下る主税町地先	1979/8/30	1980/3/21	79HKAI002	付章 32	5・6	朝堂院調査 3・ 太政官調査 12・ 中務省調査 22
82	平安京	◇	上京区黒門通槻木町下る中御門横町地先～黒門通丸太町上る蘿屋町地先	1979/8/30	1980/3/21	79HKAI002	付章 32	6	
83	職御曹	◇	上京区出水通智恵光院東入金馬場町 172 地先～出水通蘿屋町西入元福大明神町 312 地先	1979/8/30	1980/3/21	79HKAI002	付章 32	3	
84	大 蔵	■	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 118-4・5 119-2	1979/8/28	1979/9/7	79HKGT	文 183-3	2	北方調査 7
85	大 蔵	▲	上京区七本松通仁和寺街道上る東入一番町 91	1979/8/30	1979/8/30	79BBHQ260	文 185	1	
86	朝堂院	▲	上京区千本通丸太町下る主税町 1140	1979/8/30	1979/8/30	79BBHQ261	文 185	5	
87	西大宮	▲	上京区御前通下立壳上る天満屋町 334	1979/9/1	1979/9/1	79BBHR264	文 185	1	
88	内 裏	▲	上京区槻木町通智恵光院西入中務町 486	1979/9/3	1979/9/3	79BBHQ266	文 185	6	
89	朝堂院	◇	中京区聚樂廻東町 6	1979/9/30	1979/10/10	79HKAI002	付章 32	5	朝堂院調査 3
90	造酒司	▲	中京区聚樂廻松下町 12	1979/9/5	1979/9/5	79BBHQ271	文 185	4	
91	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る三丁目東入三助町 281	1979/9/6	1979/9/6	79BBHQ275	文 185	1	
92	朝堂院	▲	中京区聚樂廻南町 30	1979/9/18	1979/9/18	79BBHQ294	文 185	5	
93	梨 本	▲	上京区上長者町通智恵光院東入須浜町 565-3	1979/9/19	1979/9/21	79BBHQ299	文 185	3	
94	豊楽院	▲	中京区聚樂廻西町 184-14	1979/9/20	1979/9/21	79BBHQ302	文 185	4	
95	造酒司	▲	中京区聚樂廻松下町	1979/9/20	1979/9/20	79BBHQ303	文 185	4	
96	梨 本	▲	上京区下長者町通裏門西入坤高町 85	1979/9/26	1979/9/26	79BBHQ315	文 185	3	
97	大炊寮	▲	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町	1979/9/26	1979/9/26	79BBHQ316	文 185	6	1071 と重複
98	図書寮	▲	上京区七本松通下長者町上る西入鳳瑞町 241-3	1979/10/1	1979/10/1	79BBHQ322	文 185	1	
99	豊楽院	▲	中京区聚樂廻西町 93	1979/10/4	1979/10/4	79BBHQ327	文 185	5	
100	朝堂院	▲	中京区聚樂廻南町 24-13	1979/10/12	1979/10/12	79BBHQ281	文 185	5	
101	大藏府	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 201	1979/10/13	1979/10/13	79BBHQ354	文 185	1	
102	宴松原	▲	上京区七本松通仁和寺街道下る二番町 211-5	1979/10/16	1979/10/16	79BBHQ358	文 185	1	
103	大 蔵	▲	上京区千本通中立壳上る東石橋町 21-2	1979/10/17	1979/10/24	79BBHL359	文 185	2	
104	一条	▲	上京区大宮通一条下る下石橋南半町 50	1979/10/30	1979/10/30	79BBHL378	文 185	3	
105	一条	●	上京区大宮通一条下る下石橋南半町	1979/10/31	1979/10/31	79BBHL386	文 185	3	
106	一条	▲	上京区一条通千本東入伊勢殿構町 273-6	1979/11/12	1979/11/12	79BBHL402	文 185	2	
107	主水司	▲	上京区智恵光院通丸太町下る主税町 942-1	1979/11/19	1979/11/19	79BBHQ417	文 185	6	
108	武徳殿	▲	上京区七本松通下長者町下る西入鳳瑞町 245-2	1979/11/21	1979/11/21	79BBHQ423	文 185	1	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
109	内蔵寮	■	上京区下長者町通千本西入六番町 368-5	1979/11/24	1979/11/24	79HKNI001	付章 11	2	
110	朝堂院	▲	上京区千本通二条下る聚楽町 856	1979/11/26	1979/11/27	79BBHQ427	文 185	5	
111	宴松原	▲	中京区聚楽廻中町 27-2	1979/12/7	1979/12/7	79BBHQ439	文 185	5	
112	内教坊	▲	上京区日暮通上長者町上る須浜町 571	1979/12/8	1979/12/8	79BBHQ442	文 185	3	
113	朝堂院	■	中京区聚楽廻南町 1-9	1979/12/10	1980/1/31	79HKHA004	付章 12	5	朝堂院調査 17
114	大 蔵	▲	上京区裏門通中立売上る西入今新在家町 205	1979/12/15	1979/12/15	79BBHQ452	文 185	3	
115	兵庫寮	▲	上京区七本松通一条下る三軒町 69-22	1979/12/18	1979/12/18	79BBHQ455	文 185	1	
116	内 裏	■	上京区千本通下立売下る小山町 908-43	1980/1/5	1980/1/14	79HKDA002	文 183-6	2	内裏調査 8
117	大 蔵	■	上京区千本通中立売下る亀屋町 57-1	1980/1/16	1980/1/17	79HKDN	付章 13	2	北方調査 6
118	朝堂院	■	上京区千本通丸太町下る東入主税町 910-25・99	1980/1/16	1980/1/25	79HKHA008	付章 14	5	朝堂院調査 7
119	中務省	■	上京区丸太町通千本東入中務町	1980/1/16	1980/1/31	79HKCM003	付章 15	5	中務省調査 4
120	朝堂南	▲	中京区聚楽廻南町 30-4	1980/1/24	1980/1/24	79BBHQ487	文 185	5	
121	大膳職	▲	上京区大宮通丸太町上る一町目 848	1980/1/24	1980/1/24	79BBHQ489	文 185	6	
122	宴松原	▲	中京区聚楽廻中町 27	1980/2/1	1980/2/1	79BBHQ499	文 185	5	
123	職御曹	▲	上京区智恵光院通出水上る天秤丸町 181-6	1980/2/1	1980/2/1	79BBHQ500	文 185	3	
124	大膳職	▲	上京区日暮通楳木町下る北伊勢屋町 732	1980/2/9	1980/2/9	79BBHQ516	文 185	6	
125	正親司	▲	上京区御前通仁和寺街道下る下堅町 188	1980/2/13	1980/2/13	79BBHQ520	文 185	1	
126	左近衛	▲	上京区松屋町通下長者町下る南清水町 129	1980/2/20	1980/2/20	79BBHQ528	文 185	3	
127	内 裏	▲	上京区出水通淨福寺東入田村備前町 18	1980/2/23	1980/2/23	79BBHQ533	文 185	3	
128	内 裏	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 237-1	1980/3/4	1980/3/4	79BBHQ556	文 185	3	
129	朝堂院	■	上京区土屋町通丸太町下る主税町 1174	1980/3/24	1980/4/5	80HKHA009	文 193-4	5	朝堂院調査 4
130	東雅院	▲	上京区大宮通下立売下る浮田町 615-1	1980/3/25	1980/3/25	79BBHL586	文 185	3	
131	大 蔵	▲	上京区七本松通中立売下る三軒町 65-1	1980/3/25	1980/3/25	79BBHQ587	文 185	2	
132	東雅院 大膳職	◇	上京区智恵光院通～堀川通、下立売通～丸太町通他地先	1980/4/1	1980/7/30	80HKFY	付章 33	6	
133	中務省	■	上京区丸太町通千本東入中務町 491-34	1980/4/3	1980/4/23	80HKCM004	文 193-3	5	中務省調査 5
134	朝堂院	▲	中京区聚樂廻南町 1	1980/4/11	1980/4/11	80BBHQ001	文 192	5	
135	縫殿寮	■	上京区下長者町通裏門西入坤高町 78	1980/4/14	1980/4/26	80HKZ0	文 193-9	3	中央調査 1
136	宴松原	▲	中京区聚樂廻中町 27	1980/4/15	1980/4/15	80BBHQ003	文 192	5	
137	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 31	1980/4/15	1980/4/15	80BBHQ004	文 192	5	
138	造酒司	▲	中京区聚樂廻下町 9-3	1980/4/17	1980/4/17	80BBHQ002	文 192	4	
139	右馬寮	●	中京区西ノ京右馬寮町 1-10	1980/4/18	1980/4/18	80BBHQ005	文 192	4	西方調査 21
140	内 裏	▲	上京区楳木町通淨福寺西入中務町 490	1980/4/18	1980/4/18	80BBHQ006	文 192	5	
141	宴松原	▲	中京区聚樂廻中町 30	1980/4/25	1980/4/25	80BBHQ008	文 192	5	
142	豊楽院	●	中京区聚樂廻中町 40-7	1980/4/28	1980/4/28	80BBHQ009	文 192	5	
143	太政官	■	上京区千本通丸太町下る東入主税町 1074	1980/4/28	1980/5/11	80HKDK005	文 193-2	5	太政官調査 5
144	左近衛	▲	上京区松屋町通出水上る西天秤町 151	1980/5/8	1980/5/8	80BBHQ007	文 192	3	
145	内教坊	▲	上京区松屋町通中立売下る神明町 4407	1980/5/12	1980/5/12	80BBHQ010	文 192	3	
146	西大宮	▲	上京区御前通下長者町上る西上之町 264	1980/5/14	1980/5/14	80BBHR017	文 192	1	
147	朝堂院	■	中京区聚樂廻東町 17-3	1980/5/21	1980/5/28	80HKHA010	文 193-5	5	朝堂院調査 9
148	豊楽院	▲	中京区聚樂廻中町 50	1980/5/23	1980/5/23	80BBHQ011	文 192	5	
149	豊楽院	▲	中京区聚樂廻中町 50	1980/5/23	1980/5/23	80BBHQ012	文 192	5	
150	縫殿寮	■	上京区土屋町通下長者町下る山王町 496-6	1980/6/4	1980/6/24	80HKND	文 193-6	2	中央調査 2
151	豊楽院	■	中京区聚樂廻中町 40-1	1980/6/5	1980/6/23	80HKBR003	文 193-7	5	
152	豊楽院	●	中京区聚樂廻中町 50	1980/6/19	1980/6/19	80BBHQ013	文 192	5	
153	掃部寮	●	上京区六軒町通下長者町下る七番町 301	1980/6/24	1980/6/24	80BBHQ014	文 192	2	
154	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 16	1980/6/26	1980/6/26	80BBHQ015	文 192	4	
155	大 蔵	●	上京区千本通中立売下る西入五番町	1980/7/3	1980/7/3	80BBHQ016	文 192	2	
156	太政官	■	上京区千本通丸太町下る東入主税町 910-25・99	1980/7/5	1980/8/31	80HKDK006	付章 16	5	太政官調査 6
157	朝堂院	●	中京区聚樂廻南町 1	1980/7/29	1980/7/29	80BBHQ019	文 192	5	
158	主水司	▲	上京区智恵光院通丸太町下る東入主税町 939	1980/8/7	1980/8/7	80BBHQ020	文 192	6	
159	西雅院	▲	上京区楳木町通日暮西入西院町 747	1980/8/8	1980/8/8	80BBHQ021	文 192	6	
160	図書寮	▲	上京区下長者町通御前東入三助町 281	1980/8/19	1980/8/19	80BBHQ022	文 192	1	
161	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 12	1980/8/20	1980/8/20	80BBHQ023	文 192	4	西方調査 25
162	梨 本	●	上京区下長者町通智恵光院東入西辰巳町 107	1980/8/23	1980/8/23	80BBHQ024	文 192	3	
163	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 11	1980/8/23	1980/8/23	80BBHQ025	文 192	4	西方調査 16
164	朝堂院	●	上京区千本通二条下る東入主税町 816・817	1980/8/25	1980/8/25	80BBHQ026	文 192	5	
165	大 蔵	▲	上京区千本通中立売上る西入西中筋町 9	1980/8/25	1980/8/25	80BBHQ027	文 192	2	
166	中務省	◇	上京区丸太町通千本東入中務町 491-34～丸太町通智恵光院東入西院町	1980/8/25	1980/10/10	80HKAI003	付章 34	6	中務省調査 23

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
167	中和院	▲	上京区下立売通千本西入稻葉町 461	1980/9/11	1980/9/11	80BBHQ028	文 192	2	
168	中和院	▲	上京区下立売通千本西入稻葉町 457	1980/9/13	1980/9/13	80BBHQ030	文 192	2	
169	職御曹	●	上京区下長者町通智恵光院東入西辰巳町 106	1980/9/13	1980/10/16	80BBHQ029	文 192	3	東方調査 1
170	大 蔵	▲	上京区六軒町通中立売下る四番町 126	1980/9/16	1980/9/16	80BBHQ031	文 192	2	
171	西雅院	■	上京区下立売通智恵光院西入中村町 526	1980/9/19	1980/10/4	80HKS1003	文 193-1	3	
172	宴松原	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 294-152	1980/9/20	1980/9/20	80BBHQ032	文 192	1	
173	治部省	◇	中京区西ノ京内畠町～西ノ京末本町	1980/9/22	1980/11/10	80HKXB001	付章 35	4	
174	朝堂院	■	中京区聚楽廻東町 7 二条保育園	1980/9/25	1980/10/22	80HKHJ	付章 17	5	朝堂院調査 2
175	右馬寮	●	中京区西ノ京右馬寮町 10-4	1980/9/26	1980/9/26	80BBHQ033	文 192	4	
176	宴松原	▲	上京区六軒町通下長者町下る七番町 351-48	1980/9/26	1980/9/26	80BBHQ034	文 192	1	
177	左近衛	▲	上京区松屋町通出水上る南清水町 134-12・13	1980/9/29	1980/9/29	80BBHQ035	文 192	3	
178	主殿寮	▲	上京区智恵光院通中立売上る新白水丸町 462-4	1980/10/4	1980/10/4	80BBHQ036	文 192	3	
179	宴松原	▲	中京区聚楽廻西町 181-1	1980/10/8	1980/10/8	80BBHQ037	文 192	4	
180	東雅院	▲	上京区大宮通下立売下る菱屋町 811	1980/10/11	1980/10/11	80BBHQ038	文 192	6	
181	大 蔵	▲	上京区中立売通土屋町東入田丸町 380	1980/10/13	1980/10/15	80BBHQ039	文 192	2	
182	左近衛	▲	上京区松屋町通出水上る南清水町 129-4	1980/10/22	1980/10/22	80BBHQ040	文 192	3	
183	左近衛	▲	上京区大宮通上長者町下る東堀町 616-6	1980/10/23	1980/10/23	80BBHQ041	文 192	3	
184	宴松原	▲	上京区下立売通七本松東入長門町 435-35	1980/10/24	1980/10/24	80BBHQ042	文 192	2	
185	宴松原	▲	上京区下立売通七本松東入長門町 435-45	1980/11/12	1980/11/12	80BBHQ043	文 192	2	
186	右兵衛	▲	上京区下立売通御前東入西東町 363	1980/11/17	1980/11/17	80BBHQ044	文 192	1	626 と重複
187	内匠寮	◇	中京区丸太町通（御前通～七本松通）	1980/11/18	1980/11/25	80HKXB002	付章 36	4	
188	内 裏	◇	上京区下立売通千本東入田中町 438～下立売通智恵光院西入中村町 522	1980/11/22	1981/2/6	80HKH004	付章 37	3	内裏調査 12
189	大 蔵	●	上京区千本通中立売上る西中筋町 19	1980/11/27	1980/11/27	80BBHQ045	文 192	2	
190	中務省	●	上京区智恵光院通丸太町下る主税町 949	1980/11/29	1980/11/29	80BBHQ046	文 192	6	
191	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 1108	1980/12/5	1980/12/5	80BBHQ047	文 192	2	
192	大 蔵	▲	上京区六軒町通中立売上る西中筋町 19-32	1980/12/12	1980/12/12	80BBHQ048	文 192	2	
193	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道千本東入西富仲町 470-7	1981/1/9	1981/1/10	80BBHQ049	文 192	2	
194	豊楽院	▲	中京区聚楽廻町 44-3	1981/1/13	1981/1/13	80BBHQ050	文 192	5	
195	左馬寮	▲	中京区西ノ京南両町 112-4	1981/1/22	1981/1/24	80BBHQ051	文 192	4	西方調査 17
196	豊楽院	■	中京区聚楽廻西町 88	1981/1/26	1981/1/31	80HKBR004	文 193-8	5	豊楽院調査 6
197	宴松原	▲	上京区六軒町通下長者町下る七番町 310	1981/1/28	1981/1/28	80BBHQ052	文 192	2	
198	左近衛	▲	上京区上長者町通松屋町西入須浜東町 450-12	1981/2/17	1981/2/17	80BBHQ053	文 192	3	
199	宴松原	▲	上京区下立売通七本松東入長門町 435-55	1981/2/18	1981/2/18	80BBHQ054	文 192	2	
200	大 蔵	▲	上京区中立売通千本東入丹波屋町 678	1981/2/19	1981/2/19	80BBHQ055	文 192	2	
201	典薬寮	▲	中京区西ノ京車坂町 3	1981/2/26	1981/2/26	80BBHQ056	文 192	4	
202	大 宮	▲	上京区大宮通丸太町上る一町目 853	1981/2/28	1981/2/28	80BBHQ057	文 192	6	
203	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 1-1	1981/3/4	1981/3/4	80BBHQ058	文 192	4	
204	内藏寮	▲	上京区千本通下長者町下る福島町 375	1981/3/7	1981/3/7	80BBHQ059	文 192	2	
205	朝堂南	▲	中京区聚楽廻南町 30-5	1981/3/14	1981/3/14	80BBHQ060	文 192	5	
206	宴松原	▲	中京区聚楽廻西町 181	1981/3/14	1981/3/14	80BBHQ061	文 192	4	
207	内匠寮	▲	上京区丸太町通御前東入下之町 418	1981/3/16	1981/3/16	80BBHQ062	文 192	4	
208	東雅院	▲	上京区大宮通下立売下る菱屋町 799	1981/3/24	1981/3/24	80BBHQ063	文 192	4	
209	南 所	▲	上京区下立売通智恵光院西入中村町 521-2	1981/4/1	1981/4/2	81BBHQ001	文 206	3	
210	内 裏	▲	上京区下立売通淨福寺西入田中町 469	1981/4/7	1981/4/7	81BBHQ002	文 206	3	
211	大 蔵	●	上京区七本松通一条下る三軒町 65-32	1981/4/11	1981/4/11	81BBHQ003	文 206	2	
212	大膳職	▲	上京区大宮通楳木町下る一町目 839-4	1981/4/14	1981/4/14	81BBHL007	文 206	6	
213	左近衛	▲	上京区下長者町通大宮西入東辰巳町 124-1	1981/4/20	1981/4/20	81BBHQ004	文 206	3	
214	内膳司	▲	上京区下長者町通千本西入六番町 375-12	1981/4/22	1981/4/22	81BBHQ005	文 206	2	
215	造酒司	▲	中京区聚樂廻松下町 9-2	1981/4/22	1981/4/27	81BBHQ006	文 206	4	造酒司調査 7
216	宴松原	●	中京区聚樂廻西町 70	1981/4/28	1981/4/28	81BBHQ007	文 206	5	
217	大 蔵	●	上京区千本通一条下る東石橋町 26	1981/4/30	1981/4/30	81BBHQ008	文 206	2	
218	西雅院	▲	上京区日暮通丸太町上る西院町 747-9	1981/4/30	1981/4/30	81BBHQ009	文 206	6	
219	豊楽院	■	中京区聚樂廻西町 70	1981/4/30	1981/5/9	81HKBR005	文 205-1	4	
220	宴松原	▲	中京区聚樂廻西町 66-67	1981/5/1	1981/5/1	81BBHQ010	文 206	5	
221	大 蔵	▲	上京区千本通中立売下る丹波屋町	1981/5/2	1981/5/2	81BBHQ013	文 206	2	
222	宴松原	▲	上京区出水通六軒町西入七番町 341	1981/5/8	1981/5/8	81BBHQ012	文 206	2	
223	内 裏	▲	上京区下立売通千本東入中務町 490-65	1981/5/8	1981/5/9	81BBHQ011	文 206	5	
224	式部省	◇	中京区西ノ京北聖町地先～西ノ京式部町地先	1981/5/8	1981/6/23	81HKOG001	文 213	5	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
225	宴松原	◇	中京区聚楽廻松下町地先～上京区七本松通下立壳下る西東町地先	1981/5/13	1981/5/26	81HKOG020	文 213	4	
226	主殿寮	▲	上京区中立壳通智恵光院東入新白水丸町 462	1981/5/19	1981/5/19	81BBHQ014	文 206	3	
227	掃部寮	●	上京区六軒町通仁和寺街道下る四番町 150-11	1981/5/22	1981/5/22	81BBHQ015	文 206	2	
228	内 匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 21	1981/5/22	1981/5/22	81BBHQ016	文 206	4	
229	内 裏	●	上京区千本通下立壳下る東入中務町 486-46	1981/5/25	1981/5/25	81BBHQ017	文 206	6	内裏調査 15
230	朝堂院	◆	中京区聚楽廻東町	1981/5/26	1981/5/26	81BBHQ018	文 206	5	
231	宴松原	▲	上京区六軒町通出水上る西入利生町 294	1981/5/27	1981/5/27	81BBHQ019	文 206	2	
232	内 裏	▲	上京区下長者町通裏門西入坤高町 60-1・62-1	1981/5/28	1981/5/28	81BBHQ020	文 206	3	
233	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 20-6	1981/5/28	1981/5/28	81BBHQ022	文 206	4	
234	主殿寮	▲	上京区中立壳通智恵光院西入多門町 445-9	1981/5/30	1981/5/30	81BBHQ021	文 206	3	
235	中務省 大炊寮	■	上京区丸太町通（土屋町通～松屋町通）	1981/5/31	1981/7/12	80HKVA	付章 18	5・6	中務省調査 6・ 東方調査 14
236	内 匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 28	1981/6/4	1981/6/4	81BBHQ023	文 206	4	
237	掃部寮	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 150-7	1981/6/8	1981/6/18	81BBHQ024	文 206	2	
238	一 条	▲	上京区一条通大宮西入下石橋南半町 42	1981/6/24	1981/6/24	81BBHL076	文 206	3	
239	治部省	▲	中京区西ノ京内畠町 11	1981/6/24	1981/6/24	81BBHQ026	文 206	4	
240	大炊寮	▲	上京区丸太町通大宮西入藁屋町 535-78	1981/6/30	1981/6/30	81BBHQ025	文 206	6	52と重複
241	西雅院	▲	上京区智恵光院通下立壳下る中村町 532、533-2	1981/7/1	1981/7/1	81BBHQ027	文 206	3	
242	右兵衛 西大宮	◇	上京区御前通仁和寺街道下る下堅町 182 地先～下立壳通下の森東入西東町 364 地先	1981/7/1	1981/9/12	81HKOG008	文 213	1	
243	大 蔵	▲	上京区上長者町通淨福寺西人新柳馬場頭町 522-1	1981/7/6	1981/7/6	81BBHQ028	文 206	3	
244	民部省	■	上京区竹屋町通千本東入主税町 910	1981/7/6	1981/7/31	81HKLD	文 214-4	6	民部省調査 1
245	太政官	▲	上京区千本通二条上る東入主税町 1096	1981/7/10	1981/7/10	81BBHQ029	文 206	5	
246	内 裏	▲	上京区下立壳通千本東入田中町 474-1	1981/7/13	1981/7/13	81BBHQ030	文 206	3	
247	典蔵寮	▲	中京区聚楽廻松下町 2	1981/7/14	1981/7/14	81BBHQ031	文 206	4	
248	西大宮	●	中京区西ノ京南両町 119	1981/7/17	1981/7/17	81BBHR065	文 206	4	
249	朝堂院	◇	上京区丸太町通千本東入中務町、丸太町通大宮西入藁屋町	1981/7/25	1981/10/5	81HKKD041	文 213	5	
250	内 裏	▲	上京区土屋町通出水上る弁天町 307-1	1981/7/28	1981/7/28	81BBHQ032	文 206	2	
251	宴松原	●	上京区出水通六軒町西入七番町 356	1981/7/30	1981/7/30	81BBHQ033	文 206	1	
252	武徳殿	●	上京区下立壳通七本松西入西東町 379	1981/8/7	1981/8/7	81BBHQ034	文 206	1	
253	内教坊	●	上京区中立壳通日暮東入新白水丸町 451-1	1981/8/11	1981/8/11	81BBHQ035	文 206	3	
254	右近衛	▲	上京区御前通下長者町下る東入三助町 281	1981/8/11	1981/8/11	81BBHQ036	文 206	1	
255	左近衛	▲	上京区下長者町通智恵光院東入西辰巳町 110-3	1981/8/19	1981/8/19	81BBHQ037	文 206	3	
256	内教坊	▲	上京区日暮通中立壳下る新白水丸町	1981/8/25	1981/8/27	81BBHQ038	文 206	3	
257	豊樂院	▲	中京区聚楽廻西町 83	1981/8/26	1981/8/26	81BBHQ039	文 206	5	
258	造酒司	▲	中京区聚楽廻松下町 9	1981/8/27	1981/8/27	81BBHQ040	文 206	4	
259	左近衛	▲	上京区松屋町通中立壳下る神明町 447-5	1981/8/29	1981/8/31	81BBHQ041	文 206	3	
260	太政官	■	上京区郊芳通美福東入主税町 二条児童公園内	1981/9/1	1981/9/12	81HKLE	文 214-1	6	太政官調査 7
261	西雅院	▲	上京区智恵光院通樺木町上る中務町 468	1981/9/7	1981/9/7	81BBHQ042	文 206	6	
262	武徳殿	▲	上京区下立壳通七本松西入鳳瑞町 255-25	1981/9/7	1981/9/7	81BBHQ043	文 206	1	
263	宴松原	▲	上京区六軒町通出水上る七番町 314	1981/9/10	1981/9/10	81BBHQ044	文 206	2	
264	朝堂南	●	中京区西ノ京小堀町	1981/9/14	1981/9/14	81BBHQ045	文 206	5	
265	右兵衛	●	上京区下立壳通御前東入西東町 365	1981/9/26	1981/9/26	81BBHQ046	文 206	1	
266	主殿寮	◇	上京区智恵光院通篠屋町下る橘町地先～智恵光院通中立壳上る多門町 44 地先	1981/9/30	1981/11/12	81HKOG022	文 213	3	787と重複
267	大 蔵	▲	上京区中立壳通淨福寺西入加賀屋町 393	1981/10/3	1981/10/3	81BBHQ047	文 206	3	
268	大 蔵	▲	上京区七本松通一条下る三軒町	1981/10/24	1981/10/24	81BBHQ048	文 206	2	
269	典蔵寮	▲	中京区聚楽廻松下町 5	1981/10/27	1981/10/27	81BBHQ049	文 206	4	
270	宴松原	▲	上京区六軒町通下長者町下る西入利生町 294	1981/10/27	1981/10/27	81BBHQ050	文 206	1	
271	一 条	●	上京区一条通淨福寺東入南新在家町 345	1981/10/30	1981/10/30	81BBHL151	文 206	3	
272	豊樂院	▲	中京区聚楽廻町 52-6	1981/11/5	1981/11/5	81BBHQ051	文 206	5	
273	朝堂南	▲	中京区聚楽廻南町 30	1981/11/10	1981/11/10	81BBHQ052	文 206	5	
274	内教坊	●	上京区中立壳通日暮東入新白水丸町 452-1	1981/11/13	1981/11/24	81BBHQ053	文 206	3	北方調査 15
275	西大宮	▲	上京区御前通下立壳上る仲之町 284-1・2	1981/11/16	1981/11/16	81BBHR116	文 206	1	
276	宴松原	▲	中京区聚楽廻中町 27-21	1981/11/25	1981/11/25	81BBHQ054	文 206	5	
277	大 蔵	●	上京区千本通中立壳上る玉屋町 39	1981/12/2	1981/12/2	81BBHQ055	文 206	2	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
278	豊楽院	▲	中京区聚楽廻南町 6	1981/12/8	1981/12/8	81BBHQ056	文 206	5	
279	太政官	●	上京区効芳通美福東入主税町	1981/12/11	1981/12/27	81BBHQ057	文 206	6	太政官調査 10
280	造酒司	▲	中京区聚楽廻松下町 11	1981/12/25	1981/12/25	81BBHQ058	文 206	4	
281	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 14	1982/1/13	1982/1/13	81BBHQ059	文 206	4	
282	宴松原	◆	上京区七本松通仁和寺街道下る二番町他	1982/1/14	1982/1/16	81BBHQ060	文 206	1	
283	左近衛	▲	上京区松屋町通下長者町上る東堀町 615	1982/1/18	1982/1/18	81BBHQ061	文 206	3	
284	二 条	▲	中京区西ノ京永本町 1-5	1982/1/20	1982/1/20	81BBHR137	文 206	4	
285	西雅院	▲	上京区日暮通丸太町上る西入西院町 747-9	1982/1/26	1982/1/26	81BBHQ062	文 206	6	
286	職御曹	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 215	1982/2/1	1982/2/1	81BBHQ063	文 206	3	
287	左兵衛	▲	上京区日暮通下立壳上る天秤町 581-4	1982/2/1	1982/2/1	81BBHQ064	文 206	3	
288	豊楽院	▲	中京区聚楽廻南町 8-9	1982/2/2	1982/2/2	81BBHQ065	文 206	4	
289	茶 園	◆	上京区一条通智恵光院東入鏡石町～大宮通中立壳上る糸屋町他	1982/2/16	1982/3/18	81BBHQ067	文 206	3	
290	図書寮	▲	上京区下の森通下長者町下る三助町 281-3	1982/2/17	1982/2/17	81BBHQ068	文 206	1	
291	主殿寮	◆	上京区智恵光院通一条下る新白水丸町 462-20～82	1982/2/18	1982/2/18	81BBHQ066	文 206	3	
292	西雅院	▲	上京区下立壳通日暮西入中村町 526	1982/2/23	1982/2/23	81BBHQ069	文 206	3	171 と重複
293	主殿寮	◆	上京区中立壳通智恵光院東入新白水丸町 462-97 他	1982/2/23	1982/2/25	81BBHQ070	文 206	3	
294	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 8-17	1982/2/26	1982/2/26	81BBHQ071	文 206	4	
295	左近衛	▲	上京区松屋町通出水上る南清水町 131-17	1982/3/3	1982/3/3	81BBHQ072	文 206	3	
296	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 26-5	1982/3/4	1982/3/4	81BBHQ073	文 206	4	
297	大 藏	▲	上京区千本通中立壳上る東入東西俵屋町 645	1982/3/4	1982/3/4	81BBHQ074	文 206	2	
298	茶 園	◆	上京区松屋町通一条下る下鏡石町 207 他	1982/3/4	1982/3/19	81BBHL210	文 206	3	
299	治部省	▲	中京区西ノ京内畠町 11-14	1982/3/6	1982/3/6	81BBHQ075	文 206	4	
300	朝堂院	■	上京区千本通二条下る東入主税町 910-25	1982/3/6	1982/3/25	81HKL	文 214-2	5	朝堂院調査 8
301	左近衛	▲	上京区松屋町通下長者町下る南清水町 134	1982/3/8	1982/3/8	81BBHQ076	文 206	3	
302	縫殿寮	▲	上京区上長者町通淨福寺東入高台院町 538	1982/3/10	1982/3/10	81BBHQ077	文 206	3	
303	中和院	▲	上京区千本通出水下る東入十四軒町 413	1982/3/11	1982/3/11	81BBHQ078	文 206	2	
304	兵庫寮	▲	上京区七本松通仁和寺街道上る一番町 108-15	1982/3/17	1982/3/17	81BBHQ079	文 206	1	
305	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 70-1	1982/3/19	1982/3/19	81BBHQ080	文 206	4	
306	内 裏	▲	上京区淨福寺通下長者町下る東入白銀町 246	1982/3/24	1982/3/24	81BBHQ081	文 206	3	
307	大宿直	▲	中京区西ノ京左馬寮町 20-6	1982/3/27	1982/3/27	81BBHQ082	文 206	4	
308	内匠寮	●	上京区智恵光院通中立壳下る山里町 235-7・8	1982/3/29	1982/3/29	81BBHQ083	文 206	3	
309	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 2	1982/4/5	1982/4/5	82BBHQ001	文 215	5	
310	武徳殿	▲	上京区御前通下立壳上る三助町 281-51	1982/4/6	1982/4/6	82BBHQ002	文 215	1	
311	大膳職	▲	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町 758	1982/4/13	1982/4/13	82BBHQ003	文 215	6	
312	内教坊	▲	上京区中立壳通松屋町東入新白水丸町 462	1982/4/13	1982/4/13	82BBHQ004	文 215	3	
313	大 藏	▲	上京区七本松通仁和寺街道下る二番町 211-15	1982/4/13	1982/4/13	82BBHQ005	文 215	1	
314	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 31-8-2	1982/4/16	1982/4/16	82BBHQ007	文 215	5	
315	大 藏	▲	上京区上長者町通千本西入五番町 166	1982/4/19	1982/4/22	82BBHQ008	文 215	2	
316	大 藏	●	上京区上長者町通淨福寺西入新柳馬場頭町 517	1982/4/22	1982/4/22	82BBHQ006	文 215	3	
317	梨 本	▲	上京区裏門通下長者町上る亀木町 216	1982/4/23	1982/4/23	82BBHQ009	文 215	3	
318	大 宮	▲	上京区大宮通槿木町下る一町目 832-3	1982/5/6	1982/5/6	82BBHL031	文 215	6	
319	宴松原	▲	上京区七本松通下長者町下る三番町	1982/5/8	1982/5/8	82BBHQ010	文 215	1	
320	内 裏	▲	上京区下立壳通淨福寺東入下丸屋町 498-1	1982/5/12	1982/5/12	82BBHQ011	文 215	3	
321	朝堂院	▲	上京区千本町通竹屋町下る主税町 803-6	1982/5/12	1982/5/12	82BBHQ012	文 215	5	
322	左兵衛	◆	上京区日暮通下立壳上る天秤町地先	1982/5/17	1982/5/17	82BBHQ013	文 215	3	
323	大 藏	▲	上京区六軒町通仁和寺街道上る四番町 126-7	1982/5/25	1982/5/26	82BBHQ014	文 215	2	
324	武徳殿	▲	上京区下立壳通御前東入西東町 356	1982/5/26	1982/5/26	82BBHQ015	文 215	1	
325	東雅院	▲	上京区大宮通下立壳下る菱屋町 796	1982/5/27	1982/5/31	82BBHL053	文 215	6	
326	主水司	●	上京区丸太町通智恵光院東入西院町 924	1982/6/1	1982/6/1	82BBHQ016	文 215	6	
327	宴松原	▲	上京区六軒町通下長者町下る利生町 294-97	1982/6/2	1982/6/2	82BBHQ017	文 215	2	
328	職御曹	▲	上京区出水通日暮西入金馬場町 175	1982/6/4	1982/6/4	82BBHQ018	文 215	3	
329	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 186-88	1982/6/15	1982/6/15	82BBHQ019	文 215	4	
330	豊楽院	▲	中京区聚楽廻中町 49-17	1982/6/16	1982/6/16	82BBHQ020	文 215	5	
331	大 藏	▲	上京区千本通中立壳上る西入西中筋町 17	1982/6/16	1982/6/17	82BBHQ021	文 215	2	
332	朝堂院 豊楽院	◇	中京区丸太町通（七本松通～千本通）	1982/6/23	1983/1/21	82HKDD035	文 221-2	4・5	朝堂院調査28・ 豊楽院調査10
333	治部省	▲	中京区西ノ京内畠町 18-2	1982/6/24	1982/6/24	82BBHQ023	文 215	4	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
334	左馬寮	◇	中京区丸太町通（西大路通～下の森通）	1982/6/25	1983/5/7	82HKKD036	文 221	4	
335	宴松原	▲	中京区聚楽廻西町 64-18	1982/6/26	1982/6/26	82BBHQ024	文 215	5	
336	左兵衛	▲	上京区松屋町通下立売上る浮田町 608-2	1982/6/28	1982/6/28	82BBHQ025	文 215	3	
337	大 蔵	▲	上京区千本通一条下る仲御臺町 77	1982/6/29	1982/7/1	82BBHQ026	文 215	2	
338	大蔵序	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 194	1982/7/1	1982/7/1	82BBHQ027	文 215	1	
339	朝堂院	▲	中京区聚楽廻中町 39	1982/7/2	1982/7/2	82BBHQ022	文 215	5	
340	梨 本	▲	上京区裏門通上長者町下る龜木町 220-3	1982/7/23	1982/7/23	82BBHQ036	文 215	3	
341	左近衛	▲	上京区下長者町通松屋町東入東辰巳町 117-1	1982/7/6	1982/7/6	82BBHQ028	文 215	3	
342	宴松原	●	中京区聚楽廻西町 181	1982/7/8	1982/7/9	82BBHQ029	文 215	4	
343	右馬寮	●	中京区西ノ京右馬寮町 10-8	1982/7/12	1982/7/12	82BBHQ030	文 215	4	
344	左馬寮	○	中京区西ノ京左馬寮町 3-1 朱雀第二小学校	1982/7/14	1982/7/14	82HKAH001	文 221	4	
345	中和院	▲	上京区千本通下立売下る小山町 908-94	1982/7/15	1982/7/15	82BBHQ031	文 215	5	
346	左兵衛	▲	上京区日暮通出水下る天秤町 580	1982/7/15	1982/7/15	82BBHQ032	文 215	3	
347	左兵衛	▲	上京区日暮通出水下る天秤町 583-1・2	1982/7/16	1982/7/16	82BBHQ033	文 215	3	
348	左兵衛	▲	上京区日暮通下立売上る天秤町 581-5	1982/7/20	1982/7/20	82BBHQ034	文 215	3	
349	職御曹	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 217-3	1982/7/27	1982/7/27	82BBHQ037	文 215	3	
350	正親司	▲	上京区仁和寺街道御前東入鳳瑞町 224	1982/7/27	1982/7/27	82BBHQ038	文 215	1	
351	左兵衛	▲	上京区日暮通下立売上る天秤町 581-6	1982/7/29	1982/7/29	82BBHQ035	文 215	3	
352	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 13	1982/7/31	1982/7/31	82BBHQ039	文 215	4	
353	中和院	▲	上京区千本通下立売下る小山町 908-11	1982/8/3	1982/8/3	82BBHQ040	文 215	5	354 と重複
354	中和院	■	上京区千本通下立売下る小山町 908-11	1982/8/4	1982/8/12	82HKDA003	文 216-2	5	内裏調査 17
355	梨 本	▲	上京区裏門通上長者町下る龜木町 216	1982/8/7	1982/8/7	82BBHQ041	文 215	3	
356	朝堂院	◆	上京区竹屋町通千本東入主税町地先	1982/8/7	1982/8/9	82BBHQ042	文 215	5	
357	太政官	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 827-10	1982/8/13	1982/8/13	82BBHQ043	文 215	6	
358	左兵衛	▲	上京区出水通松屋町西入西天秤町 152-1	1982/8/21	1982/8/21	82BBHQ044	文 215	3	
359	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 3-1 朱雀第二小学校	1982/8/21	1982/8/21	82BBHQ045	文 215	4	
360	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 14	1982/8/24	1982/8/24	82BBHQ046	文 215	4	
361	御 井	▲	中京区西ノ京車坂町 15-5 朱雀第六小学校	1982/8/27	1982/8/27	82BBHQ048	文 215	4	69 と重複
362	内 裏	▲	上京区下立売通千本東入田中町 476-1 他	1982/8/27	1982/8/30	82BBHQ047	文 215	3	
363	豊楽院	▲	中京区聚楽廻中町 51	1982/9/2	1982/9/2	82BBHQ049	文 215	5	
364	御 井	○	中京区西ノ京車坂町 15-5 朱雀第六小学校	1982/9/3	1982/9/3	82HKAH003	文 221	4	69 と重複
365	西大宮	●	中京区西ノ京南両町 31・32・45・46	1982/9/6	1982/9/24	82BBHR081	文 215	4	
366	主殿寮	▲	上京区中立売通日暮西入新白水丸町 462-99	1982/9/16	1982/9/16	82BBHQ050	文 215	3	
367	内 裏	○	上京区淨福寺通下立売下る西入中務町 487 出水小学校	1982/9/17	1982/9/17	82HKAH009	文 221	6	
368	中務省	●	上京区丸太町通淨福寺西入中務町 491-81	1982/9/18	1982/9/18	82BBHQ051	文 215	6	369 と重複
369	中務省	■	上京区丸太町通淨福寺西入中務町 491-81	1982/9/20	1982/9/27	82HKCM005	文 216-1	6	中務省調査 7
370	豊楽院	▲	中京区聚楽廻中町 44	1982/9/29	1982/9/29	82BBHQ052	文 215	5	
371	宴松原	▲	上京区六軒町通下立売上る七番町 330-9	1982/9/29	1982/9/29	82BBHQ053	文 215	2	
372	右馬寮	●	中京区西ノ京右馬寮町 17-6	1982/9/30	1982/9/30	82BBHQ054	文 215	4	西方調査 22
373	朝堂院	▲	上京区千本通下立売下る小山町 908-86	1982/10/6	1982/10/6	82BBHQ055	文 215	5	
374	縫殿寮	▲	上京区上長者町通淨福寺西入新柳馬場頭町 517	1982/10/15	1982/10/15	82BBHQ056	文 215	3	
375	一 条	●	上京区御前通一条下る東堅町 120	1982/10/9	1982/10/9	82BBHR106	文 215	1	
376	大 蔵	▲	上京区中立売通六軒町西入三軒町 65-41	1982/10/16	1982/10/29	82BBHQ057	文 215	2	
377	大 宮	▲	上京区大宮通丸太町上る一町目 843	1982/10/20	1982/10/22	82BBHL168	文 215	6	
378	一 条	▲	上京区千本通一条下る北伊勢殿構町 682	1982/10/21	1982/10/21	82BBHL238	文 215	2	
379	中和院	▲	上京区下立売通千本西入稻葉町 456	1982/10/23	1982/10/23	82BBHQ059	文 215	2	
380	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 2	1982/11/9	1982/11/9	82BBHQ060	文 215	5	
381	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 7-1	1982/11/11	1982/11/11	82BBHQ061	文 215	5	
382	宴松原	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 294-67	1982/11/30	1982/11/30	82BBHQ062	文 215	2	
383	右兵衛	▲	上京区下立売通七本松西入西東町 367-2	1982/12/3	1982/12/3	82BBHQ063	文 215	1	
384	主水司	●	上京区土屋町通丸太町上る中務町 486-18	1982/12/13	1982/12/13	82BBHQ064	文 215	6	
385	宴松原	▲	中京区聚楽廻中町 36-1	1982/12/13	1982/12/13	82BBHQ066	文 215	5	
386	朝堂院	●	上京区千本通二条上る聚楽町 854	1982/12/14	1982/12/14	82BBHQ065	文 215	5	
387	豊楽院	●	中京区聚楽廻西町 71-3、聚樂廻中町 40-15	1982/12/21	1982/12/21	82BBHQ067	文 215	5	
388	内 裏	▲	上京区出水通土屋町東入東神明町 295	1983/1/10	1983/1/10	82BBHQ068	文 215	2	
389	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る三助町 281-44	1983/1/17	1983/1/17	82BBHQ069	文 215	1	
390	宮内省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 1245～6	1983/1/27	1983/2/14	82BBHQ070	文 215	6	
391	宴松原	●	中京区聚楽廻西町 65	1983/1/28	1983/1/28	82BBHQ071	文 215	5	
392	大 蔵	▲	上京区土屋町通中立売下る西富仲町 683	1983/1/31	1983/1/31	82BBHQ072	文 215	2	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
393	朝堂院	●	上京区丸太町通千本東入中務町 491	1983/2/1	1983/2/1	82BBHQ073	文 215	5	
394	朝堂院	●	中京区聚楽廻東町 19-1	1983/2/9	1983/2/9	82BBHQ074	文 215	5	
395	大 宮	▲	上京区下立壳通大宮東入橋西二町目 643	1983/2/9	1983/2/10	82BBHL223	文 215	3	
396	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入上る鳳瑞町 241-7	1983/2/12	1983/2/12	82BBHQ075	文 215	1	
397	大 宮	▲	上京区中立壳通大宮東入常陸町 396	1983/2/14	1983/2/14	82BBHL225	文 215	3	
398	大膳職	▲	上京区丸太町通松屋町東入左馬松町 782-6	1983/2/16	1983/2/16	82BBHQ076	文 215	6	
399	太政官	▲	上京区千本通二条下る東入主税町 824-4	1983/2/18	1983/2/18	82BBHQ077	文 215	5	太政官調査 13
400	主殿寮	▲	上京区裏門通中立壳上る今新在家町 206-11	1983/2/18	1983/2/18	82BBHQ078	文 215	3	
401	大 藏	▲	上京区七本松通一条下る一番町 74-5	1983/2/22	1983/2/22	82BBHQ079	文 215	1	
402	主殿寮	▲	上京区中立壳通恵光院東入新白水丸町 462	1983/2/22	1983/2/22	82BBHQ080	文 215	3	
403	内 裏	●	上京区土屋町通出水上る東神明町 291-1	1983/2/25	1983/3/18	82BBHQ081	文 221-4	2	内裏調査 3
404	兵庫寮	▲	上京区仁和寺街道七本松西入一番町 108-2	1983/3/14	1983/3/14	82BBHQ058	文 215	1	
405	朝堂院	▲	上京区千本通竹屋町上る東入主税町 1197	1983/3/15	1983/3/15	82BBHQ082	文 215	5	837 と重複
406	朝堂院	▲	上京区千本通竹屋町上る主税町 1206	1983/3/15	1983/3/15	82BBHQ083	文 215	5	
407	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入上る鳳瑞町 241	1983/3/22	1983/3/22	82BBHQ084	文 215	1	
408	武徳殿	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 247-1	1983/3/22	1983/3/22	82BBHQ085	文 215	1	
409	武徳殿	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 247-1	1983/3/22	1983/3/22	82BBHQ086	文 215	1	
410	内 裏	▲	上京区下立壳通千本東入田中町 453	1983/3/30	1983/3/30	82BBHQ087	文 215	2	
411	掃部寮	▲	上京区六軒町通下長者町下る七番町 303	1983/4/6	1983/4/6	83BBHQ001	文 223	2	
412	宴松原	▲	上京区七本松通下立壳上る七番町 351-25	1983/4/9	1983/4/9	83BBHQ002	文 223	1	
413	宴松原	▲	上京区出水通千本西入七番町 323-1	1983/4/12	1983/4/12	83BBHQ003	文 223	2	
414	大 藏	▲	上京区七本松通中立壳下る三軒町 71	1983/4/20	1983/4/20	83BBHQ004	文 223	2	
415	大 藏	■	上京区淨福寺通中立壳下る菱丸町 170 正親小学校	1983/4/21	1983/5/14	83HKLH	文 235-3	3	北方調査 8
416	右馬寮	◆	中京区西ノ京右馬寮町地先	1983/4/25	1983/4/25	83BBHQ008	文 223	4	
417	大藏庁	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 197-2	1983/5/2	1983/5/2	83BBHQ005	文 223	1	
418	大 宮	▲	上京区大宮通上長者町下る東堀町 620-2	1983/5/12	1983/5/12	83BBHL036	文 223	3	
419	宴松原	▲	中京区聚樂廻町 27	1983/5/12	1983/5/12	83BBHQ006	文 223	5	
420	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 13	1983/5/17	1983/5/17	83BBHQ007	文 223	4	
421	御 井	○	中京区西ノ京車坂町 15-5 朱雀第六小学校	1983/5/23	1983/5/23	83HKAH002	文 235	4	
422	大 藏	▲	上京区仁和寺街道七本松東入一番町 93-1・ 15・16	1983/5/26	1983/5/26	83BBHQ009	文 223	1	
423	内 裏	▲	上京区淨福寺通出水上る白銀町 261	1983/5/28	1983/5/28	83BBHQ010	文 223	3	
424	大 藏	▲	上京区七本松通中立壳下る一番町	1983/6/1	1983/6/1	83BBHQ011	文 223	1	
425	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 2	1983/6/11	1983/6/11	83BBHQ012	文 223	5	
426	左近衛	▲	上京区下長者町通日暮西入西辰巳町 116-5	1983/6/17	1983/6/17	83BBHQ013	文 223	3	
427	中和院	▲	上京区千本通下立壳下る小山町 889-2	1983/6/23	1983/6/23	83BBHQ014	文 223	5	
428	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る三丁目西上之町 278- 18	1983/6/25	1983/6/25	83BBHQ015	文 223	1	
429	右馬寮	◇	中京区西ノ京笠殿町 31 地先～西ノ京冷泉町 38 地先	1983/6/25	1983/8/5	83HKOG010	文 235	4	
430	豊楽院	▲	中京区聚樂廻中町 50-4	1983/6/27	1983/6/27	83BBHQ016	文 223	5	
431	豊楽院	▲	中京区聚樂廻南町 19	1983/6/27	1983/6/27	83BBHQ017	文 223	5	
432	梨 本	▲	上京区裏門通下長者町上る亀木町 216	1983/7/1	1983/7/1	83BBHQ018	文 223	3	
433	右近衛	▲	上京区下長者町通御前東入三助町 280	1983/7/2	1983/7/2	83BBHQ019	文 223	1	
434	右兵衛	▲	上京区下立壳通七本松西入西東町 367-3	1983/7/9	1983/7/9	83BBHQ020	文 223	1	
435	左近衛	▲	上京区日暮通出水上る秤口町 158-11	1983/7/9	1983/7/9	83BBHQ021	文 223	3	
436	武徳殿	▲	上京区下立壳通七本松西入西東町 369	1983/7/12	1983/7/12	83BBHQ022	文 223	1	
437	朝堂院	▲	中京区聚樂廻東町 14	1983/7/16	1983/7/16	83BBHQ023	文 223	5	
438	大 藏	▲	上京区中立壳通淨福寺西入加賀屋町 405	1983/7/18	1983/7/18	83BBHQ024	文 223	3	
439	左近衛	▲	上京区大宮通出水上る清元町 748	1983/8/5	1983/8/5	83BBHL250	文 223	3	
440	朝堂院	▲	上京区智恵光院通竹屋町下る主税町	1983/8/5	1983/8/10	83BBHQ025	文 223	5	
441	掃部寮	▲	上京区六軒町通仁和寺街道下る四番町 148	1983/8/11	1983/8/11	83BBHQ026	文 223	2	
442	大宿直	●	上京区智恵光院通上長者町上る須浜町 571-3	1983/8/12	1983/8/12	83BBHQ027	文 223	3	
443	内 裏	▲	上京区裏門通出水上る白銀町 246-19	1983/8/30	1983/8/30	83BBHQ029	文 223	2	
444	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入下る鳳瑞町 245-47	1983/8/30	1983/8/30	83BBHQ030	文 223	1	
445	豊楽院	▲	中京区西ノ京内畠町 25-6・16	1983/9/6	1983/9/6	83BBHQ031	文 223	4	
446	兵部省	●	中京区西ノ京梅尾町	1983/9/12	1983/9/12	83BBHQ032	文 223	5	
447	宴松原	▲	上京区下立壳通六軒町西入長門町 402	1983/9/14	1983/9/14	83BBHQ033	文 223	1	
448	図書寮	▲	上京区下長者町通下の森東入上る鳳瑞町 239-13	1983/9/17	1983/9/17	83BBHQ034	文 223	1	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
449	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入上る鳳瑞町 239	1983/9/17	1983/9/17	83BBHQ035	文 223	1	
450	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 14	1983/9/19	1983/9/19	83BBHQ036	文 223	5	
451	主殿寮	▲	上京区智恵光院通中立売上る新白水丸町 462	1983/9/24	1983/9/24	83BBHQ037	文 223	3	
452	豊樂院	▲	中京区聚楽廻南町 8-24	1983/9/29	1983/9/29	83BBHQ038	文 223	4	
453	判 事	▲	中京区西ノ京内烟町 12	1983/9/29	1983/9/29	83BBHQ043	文 223	4	
454	宴松原	●	中京区聚楽廻中町 39-1	1983/10/3	1983/10/14	83BBHQ039	文 223	5	
455	中務省	▲	上京区丸太町通千本東入中務町 491	1983/10/3	1983/11/4	83BBHQ040	文 223	6	中務省調査 24
456	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 11-4	1983/10/5	1983/10/5	83BBHQ041	文 223	5	
457	内膳司	▲	上京区出水通千本西入尼ヶ崎横町 357	1983/10/6	1983/10/6	83BBHQ042	文 223	2	内裏調査 35
458	武徳殿	▲	上京区下長者通七本松西入鳳瑞町 247-1	1983/10/18	1983/10/18	83BBHQ044	文 223	1	
459	豊樂院	▲	中京区聚楽廻西町 101	1983/10/20	1983/10/20	83BBHQ045	文 223	4	
460	内膳司	●	上京区出水通千本東入尼ヶ崎横町 351-7	1983/10/21	1983/10/21	83BBHQ046	文 223	2	内裏調査 39
461	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 6-14	1983/10/21	1983/10/21	83BBHQ047	文 223	4	
462	兵部省	▲	中京区西ノ京内烟町 27	1983/10/22	1983/10/22	83BBHQ048	文 223	4	
463	中和院	▲	上京区下立売通千本東入田中町 424-1	1983/11/5	1983/11/5	83BBHQ049	文 223	2	
464	大 藏	●	上京区千本通上長者町上る百万遍町 81-2	1983/11/11	1983/11/11	83BBHQ050	文 223	2	
465	内藏寮	▲	上京区上長者町通千本西入五番町 174-1	1983/11/11	1983/11/11	83BBHQ051	文 223	2	
466	太政官	◆	上京区美福通丸太町下る主税町地先	1983/11/16	1983/11/16	83BBHQ052	文 223	6	太政官調査 14
467	大 藏	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 202	1983/11/19	1983/11/19	83BBHQ053	文 223	1	
468	二 条	▲	中京区西ノ京小堀町 2-4	1983/11/21	1983/11/21	83BBHL203	文 223	5	
469	大 宮	▲	上京区大宮通槿木町上る菱屋町	1983/11/22	1983/11/22	83BBHL204	文 223	6	
470	内藏寮	▲	上京区千本通下長者町下る福島町 375	1983/11/24	1983/11/24	83BBHQ054	文 223	2	
471	民部省	■	上京区竹屋町通千本東入主税町 911 二条中学校	1983/11/28	1984/2/2	83HKL1	文 235-2	5	民部省調査 2
472	職御曹	▲	上京区出水通日暮西入金馬場町 166	1983/12/6	1983/12/6	83BBHQ060	文 223	3	
473	大膳職	●	上京区日暮通槿木町下る北伊勢屋町 740・742	1983/12/12	1983/12/12	83BBHQ055	文 223	6	
474	内 裏	▲	上京区土屋町通出水上る弁天町 302-6	1983/12/12	1983/12/12	83BBHQ056	文 223	2	
475	内教坊	▲	上京区松屋町通中立売下る神明町 440-4	1983/12/16	1983/12/16	83BBHQ057	文 223	3	
476	大 藏	▲	上京区上長者町通淨福寺西入新柳馬場頭町 516	1983/12/20	1983/12/20	83BBHQ058	文 223	3	
477	大藏庁	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 194-8	1984/1/10	1984/1/10	83BBHQ059	文 237	1	
478	朝堂院	●	上京区竹屋町通千本東入主税町 1187・1190～1195	1984/1/23	1984/1/24	83BBHQ061	文 237	5	
479	大 藏 主殿寮	◇	上京区土屋町通, 净福寺通, 裏門通(各一条通～中立売通)	1984/1/23	1984/3/2	83HQUW057	文 235	3	
480	内 裏	▲	上京区土屋町通出水上る弁天町 298	1984/1/26	1984/1/27	83BBHQ062	文 237	2	
481	武徳殿	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 247-1	1984/1/27	1984/1/27	83BBHQ063	文 237	1	
482	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 7-27	1984/1/27	1984/1/27	83BBHQ064	文 237	4	
483	一 条	◆	上京区一条通千本東入下る東西俵屋町 642 他	1984/2/2	1984/2/2	83BBHQ065	文 237	2	
484	東雅院	▲	上京区松屋通槿木町上る二町目 647-1	1984/2/2	1984/2/2	83BBHQ066	文 237	6	
485	宴松原	▲	上京区七本松通仁和寺街道下る東入二番町 215-1	1984/2/6	1984/2/6	83BBHQ067	文 237	1	
486	宴松原	▲	上京区七本松通仁和寺街道下る東入二番町 216-6	1984/2/6	1984/2/6	83BBHQ068	文 237	1	
487	朝堂院	●	上京区千本通丸太町上る小山町 884	1984/2/7	1984/2/7	83BBHQ069	文 237	5	489と重複
488	大 宮	▲	上京区大宮通槿木町上る菱屋町地先	1984/2/8	1984/2/8	83BBHL251	文 237	6	
489	朝堂院	■	上京区千本通丸太町上る小山町 884	1984/2/8	1984/2/20	83HKLJ	文 236-1	5	朝堂院調査 24
490	左兵衛	▲	上京区下立売通大西西入浮田町 608	1984/2/10	1984/2/15	83BBHQ071	文 237	3	東方調査 6
491	宴松原	▲	上京区下立売通七本松東入長門町 399	1984/2/13	1984/2/13	83BBHQ072	文 237	1	
492	大宿直	▲	上京区裏門通中立売下る高台院堅町 209-8	1984/2/14	1984/2/14	83BBHQ073	文 237	3	
493	大 藏	▲	上京区六軒町通中立売上る西入三軒町 66-3	1984/2/21	1984/2/21	83BBHQ028	文 237	1	
494	二 条	▲	中京区西ノ京星池町 8-13	1984/2/27	1984/2/27	83BBHR168	文 237	4	
495	内 裏	▲	上京区下長者町通淨福寺西入新御幸町 26	1984/2/28	1984/2/28	83BBHQ074	文 237	2	
496	宴松原	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 294-99	1984/3/2	1984/3/2	83BBHQ075	文 237	2	
497	大宿直	●	上京区裏門通中立売下る高台院堅町 209-4	1984/3/7	1984/3/7	83BBHQ076	文 237	3	
498	兵部省	▲	中京区西ノ京内烟町 26-5	1984/3/12	1984/3/13	83BBHQ070	文 237	4	中央調査 10
499	朝堂院	▲	上京区千本通二条下る東入主税町 812	1984/3/13	1984/3/23	83BBHQ077	文 237	5	
500	朝堂院	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 1182	1984/3/14	1984/3/14	83BBHQ078	文 237	5	朝堂院調査 20
501	判 事	▲	中京区西ノ京内烟町 17-17	1984/3/21	1984/3/21	83BBHQ080	文 237	4	
502	内藏寮	▲	上京区下長者町通千本東入二本松町 5-1	1984/3/22	1984/3/22	83BBHQ079	文 237	2	
503	西大宮	▲	中京区西ノ京南町 112	1984/3/24	1984/3/24	83BBHR174	文 237	4	
504	二 条	○	中京区西ノ京梅尾町(JR二条駅構内)	1984/3/26	1984/4/7	84HKUB002	文 250	5	
505	職御曹	▲	上京区裏門通出水上る白銀町 246-3	1984/3/29	1984/3/29	83BBHQ081	文 237	3	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
506	職御曹	▲	上京区裏門通出水上の白銀町 246-3	1984/3/29	1984/3/29	83BBHQ082	文 237	3	
507	中務省	▲	上京区淨福寺通丸太町下る主税町 930	1984/3/30	1984/3/30	83BBHQ083	文 237	6	中務省調査 25
508	豊楽院	▲	中京区聚楽廻南町 19	1984/4/12	1984/4/12	84BBHQ001	文 237	5	
509	右兵衛	▲	上京区下立壳通七本松西入西東町 344-5	1984/4/12	1984/4/12	84BBHQ002	文 237	1	
510	宮内省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 1115-4	1984/4/23	1984/4/23	84BBHQ003	文 237	6	
511	典薬寮	▲	中京区聚楽廻松下町 3-8	1984/4/24	1984/4/24	84BBHQ004	文 237	4	
512	一 条	●	上京区一条通千本西入烏丸町 371	1984/4/25	1984/4/25	84BBHR020	文 237	2	
513	豊楽院	●	中京区聚楽廻西町 96	1984/4/27	1984/4/27	84BBHQ005	文 237	5	
514	豊楽院	▲	中京区聚楽廻中町 43-1	1984/5/9	1984/5/9	84BBHQ006	文 237	5	
515	主殿寮	▲	上京区裏門通一条下る今新在家町 199	1984/5/10	1984/5/10	84BBHQ007	文 237	3	
516	朝堂院	●	中京区聚楽廻東町 22	1984/5/28	1984/5/28	84BBHQ008	文 237	5	
517	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道七本松東入一番町 95-1・98-1	1984/5/29	1984/5/29	84BBHQ009	文 237	1	
518	大炊寮	▲	上京区松屋町通丸太町下る左馬松町 786	1984/5/29	1984/5/29	84BBHQ010	文 237	6	
519	左近衛	▲	上京区大宮通下長者町下る清元町 735	1984/6/27	1984/6/27	84BBHL101	文 237	3	
520	大宿直	●	上京区裏門通中立壳下る高台院堅町 207・208	1984/6/27	1984/6/27	84BBHQ011	文 237	3	
521	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 29	1984/6/27	1984/6/27	84BBHQ012	文 237	4	
522	中和院	●	上京区千本通下立壳下る小山町 893	1984/7/2	1984/7/2	84BBHQ013	文 237	5	内裏調査 32
523	内 裏	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 238-1	1984/7/14	1984/7/14	84BBHQ014	文 237	3	
524	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 26-6	1984/7/17	1984/7/17	84BBHQ015	文 237	4	
525	内 裏	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 238	1984/7/23	1984/7/23	84BBHQ016	文 237	3	
526	西大宮	▲	中京区西ノ京南両町 108	1984/7/30	1984/7/30	84BBHR064	文 237	4	
527	一 条	▲	上京区一条通智恵光院西入南新在家町	1984/8/1	1984/8/1	84BBHL125	文 237	3	
528	左馬寮	●	中京区西ノ京左馬寮町 1	1984/8/1	1984/8/1	84BBHQ017	文 237	4	
529	西雅院	▲	上京区淨福寺通下立壳下る中務町 487 出水小学校	1984/8/4	1984/8/4	84BBHQ018	文 237	6	
530	縫殿寮	▲	上京区上長者町通千本東入山王町 496-5	1984/8/6	1984/8/6	84BBHQ019	文 237	2	
531	左近衛	▲	上京区上長者町通大宮西入東堀町 615-9	1984/8/11	1984/8/11	84BBHL144	文 237	3	
532	左兵衛	▲	上京区大宮通出水下る家永町 791・792	1984/8/11	1984/8/11	84BBHL148	文 237	3	
533	真言院	▲	中京区聚楽廻西町 162	1984/8/23	1984/8/23	84BBHQ021	文 237	5	
534	職御曹	▲	上京区日暮通出水上の秤口町 158-7	1984/8/28	1984/8/28	84BBHQ022	文 237	3	
535	豊楽院	▲	中京区聚楽廻南町 19-1	1984/9/3	1984/9/3	84BBHQ023	文 237	5	
536	内教坊	◆	上京区松屋町通中立壳下る神明町地先	1984/9/5	1984/9/5	84BBHQ024	文 237	3	
537	朝堂院	▲	上京区竹屋町通千本東入下る主税町 803	1984/9/11	1984/9/11	84BBHQ025	文 237	5	
538	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る仲之町 257-7	1984/9/12	1984/9/12	84BBHQ026	文 237	1	
539	右兵衛	●	上京区下立壳通御前東入長門町	1984/9/17	1984/9/17	84BBHQ027	文 237	1	西方調査 7
540	中和院	●	上京区千本通下立壳下る小山町 890	1984/9/21	1984/9/21	84BBHQ028	文 237	5	546 と重複
541	内膳司	▲	上京区千本通出水上的弁天町 3154	1984/9/21	1984/9/21	84BBHQ029	文 237	2	
542	宴松原	▲	上京区七本松通下長者町下る三番町 265	1984/9/21	1984/9/21	84BBHQ030	文 237	1	
543	大宿直	▲	上京区中立壳通裏門東入多門町 434	1984/9/22	1984/9/22	84BBHQ035	文 237	3	
544	朝堂南	●	中京区西ノ京小堀町 1	1984/9/28	1984/9/28	84BBHQ031	文 237	5	
545	中和院	●	上京区千本通丸太町上る小山町 903-1	1984/10/1	1984/10/1	84BBHQ032	文 237	2	内裏調査 33
546	中和院	■	上京区千本通下立壳下る小山町 890	1984/10/1	1984/10/16	84HKLK	文 236-2	5	内裏調査 20
547	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入上る一番町 93-3	1984/10/3	1984/10/3	84BBHQ033	文 237	1	
548	内膳司	▲	上京区下長者町通千本西入下る六番町 380	1984/10/9	1984/10/9	84BBHQ034	文 237	2	
549	宴松原	▲	上京区下立壳通七本松西入長門町 390	1984/10/15	1984/10/15	84BBHQ036	文 237	1	
550	大 蔵	▲	上京区淨福寺通中立壳下る菱丸町 194	1984/10/15	1984/10/15	84BBHQ037	文 237	3	
551	大膳職	▲	上京区日暮通楳木町下る北伊勢屋町 740・742	1984/10/17	1984/10/17	84BBHQ038	文 237	6	473 と重複
552	武徳殿	▲	上京区七本松通下長者町下る三番町 274-20	1984/10/17	1984/10/17	84BBHQ039	文 237	1	
553	造酒司	▲	中京区聚楽廻松下町 12-33	1984/10/17	1984/10/17	84BBHQ040	文 237	1	
554	中務省	▲	上京区丸太町通智恵光院西入中務町 486	1984/10/20	1984/10/20	84BBHQ041	文 237	6	
555	内匠寮	▲	上京区御前通下立壳下る下之町 404-5	1984/10/23	1984/10/23	84BBHQ042	文 237	4	
556	左近衛	▲	上京区松屋町通下長者町下る南清水町 134	1984/10/25	1984/10/25	84BBHQ043	文 237	3	
557	大 蔵	▲	上京区七本松通中立壳下る三軒町 71	1984/10/25	1984/10/25	84BBHQ053	文 237	1	
558	左近衛	▲	上京区大宮通上長者町下る東堀町 624	1984/10/27	1984/10/27	84BBHL203	文 237	3	
559	左兵衛	◇	上京区下長者町通～下立壳通、智恵光院通～堀川通	1984/10/27	1984/12/13	84HKUW004	文 250	3	
560	主水司	●	上京区丸太町通智恵光院西入中務町 486-17	1984/11/5	1984/11/5	84BBHQ044	文 237	6	東方調査 12
561	内 裏	▲	上京区下立壳通千本東入田中町 477-46	1984/11/6	1984/11/6	84BBHQ045	文 237	3	
562	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 17-9	1984/11/6	1984/11/6	84BBHQ046	文 237	5	
563	西雅院	▲	上京区日暮通丸太町上る西入西院町 747-27	1984/11/9	1984/11/9	84BBHQ048	文 237	6	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
564	大宿直	▲	上京区裏門通中立壳下る高台院堅町 209	1984/11/9	1984/11/17	84BBHQ047	文 237	3	
565	武徳殿	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 247	1984/11/10	1984/11/10	84BBHQ049	文 237	1	
566	大 蔵	▲	上京区七本松通中立壳下る三軒町	1984/11/17	1984/11/17	84BBHQ050	文 237	1	
567	内 裏	●	上京区下立壳通淨福寺西入田中町 468	1984/11/19	1984/11/19	84BBHQ051	文 237	3	584 と重複
568	大 蔵	●	上京区仁和寺街道六軒町東入四番町 136-1・137	1984/11/21	1984/11/21	84BBHQ052	文 237	2	
569	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 7-8	1984/11/21	1984/11/21	84BBHQ054	文 237	4	
570	主殿寮	▲	上京区中立壳通智恵光院東入上る新白水丸町 462-21	1984/11/22	1984/11/22	84BBHQ055	文 237	3	
571	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 183	1984/11/26	1984/11/26	84BBHQ056	文 237	4	
572	大 蔵	▲	上京区中立壳通土屋町東入加賀屋町 383	1984/11/26	1984/11/26	84BBHQ057	文 237	2	
573	中和院	●	上京区下立壳通千本東入田中町 415	1984/11/28	1984/11/28	84BBHQ058	文 237	2	内裏調査 24
574	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 3-1 朱雀第二小学校	1984/12/3	1984/12/5	84BBHQ059	文 237	4	
575	掃部寮	▲	上京区下長者町通七本松東入利生町 294-34	1984/12/4	1984/12/4	84BBHQ060	文 237	2	
576	漆 室	▲	上京区御前通一条下る東堅町 132-1 仁和小学校	1984/12/5	1984/12/5	84BBHQ061	文 237	1	
577	職御曹	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 221	1984/12/12	1984/12/12	84BBHQ062	文 237	3	
578	職御曹	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 221	1984/12/12	1984/12/12	84BBHQ063	文 237	3	
579	朝堂院	▲	上京区千本通二条下る東入主税町 812-36	1984/12/12	1984/12/12	84BBHQ064	文 237	5	
580	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 2-23	1984/12/12	1984/12/12	84BBHQ065	文 237-1	5	中央調査 13
581	内 裏	■	上京区下立壳通千本東入田中町 468	1984/12/14	1985/1/21	84HKLL	文 244-5	3	内裏調査 11
582	左兵衛	▲	上京区日暮通出水下る天秤町 579	1984/12/18	1984/12/18	84BBHQ066	文 237	3	
583	左兵衛	▲	上京区日暮通出水下る天秤町 579	1984/12/18	1984/12/18	84BBHQ067	文 237	3	
584	左兵衛	▲	上京区日暮通出水下る天秤町 579	1984/12/18	1984/12/18	84BBHQ068	文 237	3	
585	左兵衛	▲	上京区日暮通出水下る天秤町 579	1984/12/18	1984/12/18	84BBHQ069	文 237	3	
586	内 裏	▲	上京区下立壳通千本東入田中町 477-15	1984/12/24	1984/12/24	84BBHQ070	文 237	2	
587	朝堂院	▲	上京区千本通竹屋町下る聚楽町 863	1984/12/27	1984/12/27	84BBHQ071	文 237	5	
588	大 蔵	●	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 117	1985/1/9	1985/1/9	84BBHQ072	文 243	2	
589	宴松原	▲	上京区七本松通下長者町下る三番町 274-10	1985/1/9	1985/1/26	84BBHQ074	文 243	1	
590	左兵衛	●	上京区下立壳通大宮西入浮田町 613	1985/1/11	1985/1/11	84BBHQ073	文 243	3	東方調査 5
591	二 条	▲	中京区西ノ京梅尾町 JR 二条駅構内	1985/1/17	1985/1/22	84BBHR152	文 243	5	
592	大炊寮	◇	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町 771	1985/1/25	1985/3/23	84HKOG206	文 250	6	東方調査 16
593	中和院	▲	上京区千本通下立壳上る田中町 414	1985/1/30	1985/2/8	84BBHQ075	文 243	2	内裏調査 25
594	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る仲之町 303-2	1985/2/1	1985/2/1	84BBHQ076	文 243	1	
595	一 条	●	上京区一条通大宮西入下石橋南半町 40	1985/2/6	1985/2/6	84BBHL281	文 243	3	
596	一 条	●	上京区一条通大宮西入鏡石町 38	1985/2/6	1985/2/6	84BBHL282	文 243	3	
597	大蔵庁	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 194	1985/2/7	1985/2/7	84BBHQ077	文 243	1	
598	左近衛	▲	上京区松屋町通上長者町下る東堀町 615-19	1985/2/7	1985/2/7	84BBHQ078	文 243	3	
599	宴松原	▲	上京区七本松通出水上る三番町 278	1985/2/8	1985/2/8	84BBHQ079	文 243	1	
600	大宿直	▲	上京区裏門通中立壳下る高台院堅町 207・208	1985/2/14	1985/2/14	84BBHQ085	文 243	3	
601	主殿寮	▲	上京区中立壳通智恵光院西入多門町 445-7	1985/2/21	1985/2/21	84BBHQ020	文 243	3	
602	大 蔵	▲	上京区千本通一条下る東石橋町 23	1985/2/22	1985/2/22	84BBHQ080	文 243	2	北方調査 11
603	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 119	1985/2/25	1985/2/25	84BBHQ081	文 243	4	
604	左近衛	▲	上京区下長者町通智恵光院東入西辰巳町 116-8	1985/2/25	1985/2/25	84BBHQ082	文 243	3	
605	右近衛	●	上京区御前通下立壳上る三丁目西上之町 253-1・2	1985/3/7	1985/3/7	84BBHQ083	文 243	1	608 と重複
606	大膳職	▲	上京区日暮通槿木町下る北伊勢屋町 742	1985/3/7	1985/3/7	84BBHQ084	文 243	6	473 と重複
607	典薬寮	▲	中京区聚楽廻松下町 17	1985/3/16	1985/3/16	84BBHQ086	文 243	4	
608	右近衛	■	上京区御前通下立壳上る三丁目西上之町 253-1・2	1985/3/18	1985/3/30	84HKLM	文 244-1	1	西方調査 1
609	大 蔵	●	上京区中立壳通土屋町東入田丸町	1985/3/20	1985/3/20	84BBHQ087	文 243	2	644 と重複
610	豊楽院	▲	中京区聚楽廻南町 19-6	1985/3/20	1985/3/20	84BBHQ088	文 243	5	
611	朝堂院	●	上京区千本通二条下る聚楽町 857 他	1985/3/28	1985/3/28	84BBHQ089	文 243	5	
612	梨 本	▲	上京区下長者町通智恵光院東入西辰巳町 116-6	1985/3/30	1985/3/30	84BBHQ090	文 243	3	
613	一 条	▲	上京区一条通淨福寺西入革堂之内町 298	1985/4/10	1985/4/16	85BBHL012	文 243	3	
614	真言院	▲	中京区聚楽廻西町 165	1985/4/15	1985/4/15	85BBHQ001	文 243	5	
615	朝堂院	▲	中京区聚楽廻南町 24-4	1985/4/18	1985/4/18	85BBHQ002	文 243	5	
616	民都省	▲	上京区智恵光院通竹屋町下る西入主税町 827	1985/4/20	1985/4/20	85BBHQ003	文 243	6	
617	中和院 内匠寮	▲	上京区下立壳通千本西入稻葉町他地内	1985/4/22	1985/5/10	85BBHQ004	文 243	2・4	内裏調査 28
618	典薬寮	▲	中京区聚楽廻松下町 1-21	1985/4/23	1985/4/23	85BBHQ005	文 243	4	
619	典薬寮	▲	中京区聚楽廻松下町 6	1985/4/30	1985/4/30	85BBHQ008	文 243	4	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
620	職御曹	▲	上京区日暮通出水上の秤口町 158-2	1985/5/1	1985/5/1	85BBHQ006	文 243	3	
621	内蔵寮	●	上京区千本通下長者町上る革堂前之町 116	1985/5/2	1985/5/2	85BBHQ007	文 243	2	
622	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 19・34・35	1985/5/8	1985/5/8	85BBHQ009	文 243	5	
623	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 10-25	1985/5/8	1985/5/8	85BBHQ010	文 243	4	
624	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 10-25	1985/5/8	1985/5/8	85BBHQ011	文 243	4	
625	左兵衛	●	上京区下立壳通日暮東入浮田町 601-2	1985/5/10	1985/5/10	85BBHQ012	文 243	3	
626	右兵衛	●	上京区下立壳通七本松西入西東町 361	1985/5/17	1985/5/17	85BBHQ013	文 243	1	西方調査 8
627	西雅院	◆	上京区智恵光院通下立壳下る西院町地先	1985/5/18	1985/5/18	85BBHQ014	文 243	6	
628	朝堂院	◆	上京区槇木町通千本東入小山町地先	1985/6/1	1985/6/1	85BBHQ015	文 243	5	
629	西雅院	◆	上京区槇木町通日暮西入櫛箭町地先他	1985/6/1	1985/6/1	85BBHQ016	文 243	6	
630	民部省	●	上京区智恵光院通竹屋町下る主税町 827	1985/6/4	1985/6/27	85BBHQ017	文 243	6	
631	大膳職	◆	上京区日暮通丸太町上る北伊勢屋町地先	1985/6/6	1985/6/6	85BBHQ018	文 243	6	
632	東雅院	◆	上京区大宮通槇木町上る菱屋町地先	1985/6/7	1985/6/7	85BBHQ019	文 243	6	
633	治部省	▲	中京区西ノ京右馬寮町 1	1985/6/10	1985/6/10	85BBHQ020	文 243	4	
634	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 102-3 の一部	1985/6/12	1985/6/12	85BBHQ021	文 243	5	
635	朝堂院	●	中京区聚楽廻町 27・39-1	1985/6/17	1985/6/17	85BBHQ022	文 243	5	
636	大 宮	●	上京区大宮通一条下る下石橋南半町 50	1985/6/19	1985/6/19	85BBHL095	文 243	3	
637	大膳職	◆	上京区松屋通丸太町上る三町目地先	1985/6/20	1985/6/20	85BBHQ023	文 243	6	
638	二 条	■	中京区西ノ京永本町 7-1 西ノ京中学校	1985/6/20	1985/8/28	85HKUE	文 253	4	
639	梨 本	◆	上京区智恵光院通（中立壳通～下立壳通）	1985/6/26	1985/6/26	85BBHQ024	文 243	3	
640	朝堂院	●	上京区千本通丸太町上る小山町 880	1985/6/28	1985/6/28	85BBHQ025	文 243	5	646 と重複
641	内匠寮	▲	上京区御前通丸太町上る下之町 11	1985/7/5	1985/7/5	85BBHQ026	文 243	4	
642	民部省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 911 二条中学校	1985/7/5	1985/7/5	85BBHQ027	文 243	5	
643	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 4-1	1985/7/9	1985/7/9	85BBHQ028	文 243	4	
644	大 藏	■	上京区中立壳通千本東入田丸町 375-2 他	1985/7/11	1985/8/8	85HKLN	文 244-4	2	北方調査 9
645	武徳殿	▲	上京区下長者町通七本松西入下る鳳瑞町 245-22	1985/7/12	1985/7/12	85BBHQ029	文 243	1	
646	朝堂院	■	上京区千本通丸太町上る小山町 880	1985/7/12	1985/7/24	85HKLO	文 244-2	5	朝堂院調査 25
647	大 藏	▲	上京区中立壳通千本東入丹波屋町 360	1985/7/15	1985/7/15	85BBHQ030	文 243	2	
648	大 藏	▲	上京区中立壳通千本東入丹波屋町 360	1985/7/15	1985/7/15	85BBHQ031	文 243	2	
649	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 2	1985/7/16	1985/7/16	85BBHQ032	文 243	4	
650	職御曹	●	上京区智恵光院通出水上の天秤丸町 191	1985/7/17	1985/7/17	85BBHQ033	文 243	3	
651	大 宮	▲	上京区大宮通槇木町下る一町目 828-3	1985/7/18	1985/7/18	85BBHL118	文 243	6	
652	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 9	1985/7/19	1985/7/19	85BBHQ034	文 243	5	
653	左兵衛	▲	上京区下立壳通大宮西入浮田町 617-2	1985/7/23	1985/7/23	85BBHQ035	文 243	3	
654	大 藏	▲	上京区七本松通一条下る三軒町 57-2	1985/7/25	1985/7/25	85BBHR068	文 243	1	
655	大 藏	▲	上京区七本松通一条下る三軒町 57-1 他	1985/7/25	1985/7/25	85BBHR159	文 243	1	
656	主殿寮	◇	上京区智恵光院通（一条通～丸太町通）	1985/7/26	1985/10/19	85HQQG484	文 253-1	3	
657	大宿直	◆	上京区智恵光院通中立壳下る多門町地先	1985/7/30	1985/7/30	85BBHQ036	文 243	3	
658	右兵衛	▲	上京区下立壳通御前東入西東町 357	1985/7/30	1985/7/30	85BBHQ037	文 243	1	西方調査 9
659	朝堂院	●	中京区聚楽廻東町 8-2	1985/7/31	1985/7/31	85BBHQ038	文 243	5	
660	内 裏	▲	上京区千本通下立壳上る東入十四軒町 413	1985/8/5	1985/8/5	85BBHQ039	文 243	2	
661	治部省	▲	中京区西ノ京内畠町 5	1985/8/10	1985/8/10	85BBHQ040	文 243	4	
662	左近衛	▲	上京区大宮通出水上的清元町 736-6	1985/8/17	1985/8/17	85BBHQ041	文 243	3	
663	縫殿寮	▲	上京区上長者町通千本東入山王町 510-1	1985/8/24	1985/8/24	85BBHQ042	文 243	2	
664	真言院	▲	上京区六軒町通下立壳上る長門町 435	1985/8/24	1985/8/24	85BBHQ043	文 243	2	
665	大 藏	●	上京区淨福寺通一条下る東西俵屋町 642-2・10	1985/8/29	1985/8/29	85BBHQ044	文 243	2	
666	宴松原	▲	上京区六軒町通下長者町下る七番町 344-2	1985/8/29	1985/8/29	85BBHQ045	文 243	1	
667	宴松原	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 294-28	1985/9/2	1985/9/3	85BBHQ046	文 243	2	
668	大膳職	●	上京区日暮通丸太町上る南伊勢屋町 750	1985/9/4	1985/10/23	85BBHQ047	文 243	6	東方調査 15
669	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 14	1985/9/14	1985/9/14	85BBHQ048	文 243	4	
670	大 藏	▲	上京区淨福寺通一条下る東西俵屋町 642-12	1985/9/17	1985/9/17	85BBHQ049	文 243	2	
671	大 藏	●	上京区中立壳通淨福寺西入加賀屋町 409	1985/9/20	1985/9/20	85BBHQ050	文 243	3	
672	典蔵寮	▲	中京区聚楽廻松下町 3-23・5	1985/9/21	1985/9/21	85BBHQ051	文 243	4	
673	右近衛	▲	上京区下立壳通七本松西入鳳瑞町	1985/9/24	1985/9/24	85BBHQ052	文 243	1	西方調査 10
674	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る仲之町 289-20	1985/9/26	1985/9/26	85BBHQ053	文 243	1	
675	茶 園	▲	上京区大宮通中立壳上る糸屋町 205	1985/9/27	1985/9/27	85BBHL198	文 243	3	
676	内膳司	▲	上京区千本通出水下る尼ヶ崎横町 350	1985/9/30	1985/9/30	85BBHQ054	文 243	2	
677	朝堂院	▲	上京区千本通竹屋町下る聚楽町 848	1985/9/30	1985/9/30	85BBHQ055	文 243	5	
678	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 1	1985/10/3	1985/10/3	85BBHQ056	文 243	5	
679	内匠寮	●	中京区西ノ京左馬寮町 28-2	1985/10/9	1985/10/9	85BBHQ057	文 243	4	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
680	二 条	◆	中京区西ノ京小堀池町地先他	1985/10/14	1985/10/14	85BBHR125	文 243	5	
681	朝堂院	●	上京区千本通下立壳下る小山町 908-53	1985/10/18	1985/10/18	85BBHQ058	文 243	5	684 と重複
682	内 裏	▲	上京区裏門通出水上る白銀町 257-1	1985/10/18	1985/10/18	85BBHQ059	文 243	2	
683	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 184-3	1985/10/23	1985/10/23	85BBHQ060	文 243	4	
684	朝堂院	■	上京区千本通下立壳下る小山町 908-53	1985/10/28	1985/11/9	85HKLP	文 244-3	5	朝堂院調査 27
685	大 蔵	▲	上京区中立壳通淨福寺西入加賀屋町 398-1	1985/10/29	1985/11/5	85BBHQ061	文 243	3	
686	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 74-5	1985/11/1	1985/11/1	85BBHQ062	文 243	4	
687	二 条	▲	中京区西ノ京小堀町 2 - 3	1985/11/1	1985/11/9	85BBHL228	文 243	5	
688	大 蔵	▲	上京区上長者町通千本西入五番町	1985/11/5	1985/11/5	85BBHQ063	文 243	2	
689	内教坊	▲	上京区松屋町通中立壳下る神明町 443-6	1985/11/6	1985/11/6	85BBHQ064	文 243	3	
690	内 裏	◆	上京区淨福寺通出水上る白銀町地先	1985/11/6	1985/11/14	85BBHQ065	文 243	3	
691	大 蔵	▲	上京区淨福寺通中立壳上る東西俵屋町 157	1985/11/8	1985/11/8	85BBHQ066	文 243	3	
692	大膳職	▲	上京区丸太町通日暮西入南伊勢屋町 757-2	1985/11/12	1985/11/13	85BBHQ067	文 243	6	東方調査 17
693	中和院	●	上京区下立壳通千本西入稻葉町 464	1985/11/13	1985/12/9	85BBHQ068	文 243	2	内裏調査 26
694	職御曹	▲	上京区日暮通出水上る金馬場町 163-1・3	1985/11/14	1985/11/14	85BBHQ070	文 243	3	
695	大蔵庁	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 194-15	1985/11/16	1985/11/16	85BBHQ071	文 243	1	
696	左馬寮	◆	中京区西ノ京左馬寮町地先	1985/11/18	1985/11/21	85BBHQ072	文 243	4	
697	宴松原	▲	上京区六軒町通下長者町下る七番町 329-10	1985/11/19	1985/11/19	85BBHQ073	文 243	2	
698	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 2	1985/11/19	1985/11/19	85BBHQ074	文 243	5	中央調査 14
699	民部省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 911 二条中学校	1985/11/19	1985/11/22	85BBHQ075	文 243	6	民部省調査 3
700	宴松原	▲	上京区六軒町通出水上る七番町	1985/11/21	1985/11/21	85BBHQ076	文 243	2	
701	大 蔵	▲	上京区淨福寺通上長者町上る菱丸町 681-1	1985/12/4	1985/12/4	85BBHQ069	文 243	3	
702	内蔵寮	▲	上京区千本通上長者町下る革堂前之町 96-1	1985/12/9	1985/12/11	85BBHQ077	文 243	2	中央調査 7
703	内膳司	◆	上京区千本通出水上る東入弁天町 315 地先	1985/12/10	1985/12/12	85BBHQ078	文 243	2	
704	中務省	▲	上京区椹木町通土屋町西入中務町 490	1985/12/11	1985/12/12	85BBHQ079	文 243	5	中務省調査 26
705	中和院	▲	上京区千本通出水下る東入十四軒町 402-7	1985/12/13	1985/12/17	85BBHQ080	文 243	2	内裏調査 40
706	真言院	▲	上京区下立壳通六軒町西入長門町 419-2	1986/1/11	1986/1/11	85BBHQ081	文 251	2	
707	民部省	◆	中京区二条城町地先	1986/1/11	1986/1/11	85BBHQ082	文 251	6	
708	兵部省	●	中京区西ノ京内畠町 32	1986/1/13	1986/1/13	85BBHQ083	文 251	5	
709	一 条	▲	上京区御前通一条上る東堅町 121-2	1986/1/14	1986/1/14	85BBHR174	文 251	1	
710	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 41	1986/1/16	1986/1/16	85BBHQ084	文 251	5	
711	大蔵庁	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 197-5・11	1986/1/17	1986/1/20	85BBHQ085	文 251	1	
712	大 蔵	◆	上京区七本松通仁和寺街道上る一番町地先	1986/1/23	1986/1/27	85BBHQ086	文 251	1	
713	内 裏	◆	上京区千本通下立壳下る東入中務町 489 地先	1986/1/24	1986/1/30	85BBHQ087	文 251	5	内裏調査 13
714	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 11-31	1986/1/27	1986/1/27	85BBHQ088	文 251	4	
715	典菜寮	▲	中京区聚楽廻松下町 2	1986/1/28	1986/1/28	85BBHQ089	文 251	4	
716	中和院	◆	上京区千本通出水下る十四軒町 413 地先	1986/1/31	1986/2/4	85BBHQ090	文 251	2	
717	内教坊	▲	上京区中立壳通日暮東入新白水丸町 449-1	1986/2/3	1986/2/3	85BBHQ091	文 251	3	
718	職御曹	◆	上京区智恵光院通下長者町下る天秤丸町 180 地先	1986/2/3	1986/2/3	85BBHQ092	文 251	3	
719	内匠寮	▲	上京区下立壳通御前東入西東町 365	1986/2/4	1986/2/4	85BBHQ093	文 251	1	
720	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る三助町 281	1986/2/4	1986/2/4	85BBHQ094	文 251	1	
721	大 蔵	◆	上京区仁和寺街道千本東入西富仲町 685 地先	1986/2/7	1986/2/7	85BBHQ095	文 251	2	
722	大 蔵	●	上京区千本通中立壳上る西中筋町 8	1986/2/10	1986/2/10	85BBHQ096	文 251	2	
723	一 条	◆	上京区千本通中立壳上る北伊勢殿構町地先	1986/2/13	1986/2/13	85BBHL313	文 251	2	
724	真言院 中和院	◆	上京区下立壳通七本松東入長門町地先他	1986/2/13	1986/2/13	85BBHQ097	文 251	2	
725	一 条	◆	上京区一条通下の森西入西町地先	1986/2/13	1986/2/13	85BBHR004	文 251	1	
726	大 蔵	▲	上京区淨福寺通中立壳下る菱丸町 182	1986/2/18	1986/2/18	85BBHQ098	文 251	3	
727	宴松原	▲	上京区下立壳通七本松東入長門町 435-52	1986/2/19	1986/2/19	85BBHQ099	文 251	2	
728	豊楽院	▲	中京区聚樂廻南町 8-17	1986/3/6	1986/3/6	85BBHQ100	文 251	4	
729	正親司	◆	上京区仁和寺街道下の森西入鳳瑞町地先他	1986/3/6	1986/3/13	85BBHQ101	文 251	1	
730	一 条	◆	上京区一条通千本東入伊勢殿構町地先	1986/3/8	1986/3/8	85BBHL361	文 251	2	
731	一 条	▲	上京区一条通松屋町西入鏡石町 23	1986/3/10	1986/3/10	85BBHL344	文 251	3	
732	大炊寮	▲	上京区松屋町通丸太町下る藁屋町 536-66	1986/3/17	1986/3/17	85BBHQ102	文 251	6	
733	豊楽院	▲	中京区聚樂廻南町 8-19	1986/3/17	1986/3/17	85BBHQ103	文 251	4	
734	大 蔵	◆	上京区千本通中立壳上る東入東西俵屋町地先	1986/3/20	1986/3/20	85BBHQ104	文 251	2	
735	朝堂院	●	中京区聚樂廻東町 31-18	1986/3/27	1986/3/27	85BBHQ105	文 251	5	
736	大膳職	▲	上京区日暮通槿木町下る北伊勢屋町 740 他	1986/3/27	1986/3/27	85BBHQ106	文 251	6	473 と重複
737	内膳司	▲	上京区出水通千本西入尼ヶ崎横町 371-1	1986/4/8	1986/4/8	86BBHQ001	文 251	2	内裏調査 37
738	治部省	▲	中京区西ノ京内畠町 1	1986/4/8	1986/4/8	86BBHQ002	文 251	4	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
739	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る仲之町 289-22	1986/4/9	1986/4/9	86BBHQ003	文 251	1	
740	朝堂院 式部省	◇	中京区西ノ京式部町～上京区土屋町通竹屋町下る主税町	1986/4/12	1986/6/2	86HK0G584	付章 38	5	朝堂院調査 18
741	縫殿寮	▲	上京区淨福寺通上長者町下る長谷町 197-7	1986/4/14	1986/4/14	86BBHQ004	文 251	3	
742	典蔵寮	▲	中京区聚楽廻松下町 3-33	1986/4/16	1986/4/16	86BBHQ005	文 251	4	
743	図書寮 大蔵庁	◆	上京区仁和寺街道七本松西入二番町地先他	1986/4/23	1986/5/23	86BBHQ006	文 251	1	
744	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 29、60	1986/4/30	1986/4/30	86BBHQ007	文 251	4	
745	中務省	●	上京区丸太町通淨福寺西入中務町	1986/5/7	1986/5/7	86BBHQ008	文 251	5	750 と重複
746	図書寮	▲	上京区御前通下立売上る三丁目東入三助町 281-21	1986/5/8	1986/5/8	86BBHQ009	文 251	1	
747	図書寮	▲	上京区御前通下立売上る三丁目東入三助町 281-21	1986/5/8	1986/5/8	86BBHQ010	文 251	1	
748	豊樂院	▲	中京区聚楽廻西町 102-3 の一部	1986/5/9	1986/5/9	86BBHQ011	文 251	5	
749	左馬寮	●	中京区西ノ京左馬寮町 10-3	1986/5/14	1986/5/14	86BBHQ012	文 251	4	
750	中務省	■	上京区丸太町通千本東入中務町	1986/5/19	1986/6/12	86HKLQ	文 252-1	5	中務省調査 8
751	大膳職	▲	上京区松屋通槿木町下る三町目 663	1986/5/26	1986/5/26	86BBHQ013	文 251	6	
752	大 蔵	▲	上京区六軒町通一条下る西中筋町 19	1986/5/28	1986/5/28	86BBHQ014	文 251	2	
753	東雅院	▲	上京区日暮通下立売下る櫛笥町 695	1986/5/31	1986/6/2	86BBHQ015	文 251	6	東方調査 10
754	内 裏	▲	上京区淨福寺通出水下る田村備前町 240-15	1986/6/10	1986/6/10	86BBHQ016	文 251	3	
755	大 蔵	▲	上京区千本通一条下る東入東西俵屋町 647-1 他	1986/6/13	1986/6/13	86BBHL070	文 251	2	
756	真言院	▲	中京区聚楽廻西町 163	1986/6/17	1986/6/17	86BBHQ017	文 251	5	
757	南 所	▲	上京区下立売通智恵光院西入中村町 521	1986/6/18	1986/6/18	86BBHQ018	文 251	3	
758	大 宮	▲	上京区大宮通槿木町下る一町目 857	1986/6/19	1986/6/19	86BBHL078	文 251	6	
759	中務省	▲	上京区淨福寺通丸太町下る東入主税町 980	1986/6/19	1986/6/20	86BBHQ019	文 251	6	中務省調査 27
760	右兵衛	▲	上京区下立売通七本松西入西東町 361-10	1986/6/27	1986/6/27	86BBHQ020	文 251	1	
761	大膳職	▲	上京区日暮通槿木町下る北伊勢屋町 744	1986/6/28	1986/7/9	86BBHQ021	文 251	6	東方調査 18
762	中和院	▲	上京区下立売通千本西入稻葉町 455-2	1986/7/2	1986/7/2	86BBHQ022	文 251	2	
763	朝堂院	◆	上京区千本通竹屋町下る東入聚楽町地先他	1986/7/14	1986/7/17	86BBHQ023	文 251	5	
764	漆 室	▲	上京区御前通一条下る東豎町 132-1 仁和小学校	1986/7/16	1986/7/16	86BBHQ024	文 251	1	北方調査 3
765	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 14-2	1986/7/31	1986/7/31	86BBHQ025	文 251	5	
766	掃部寮	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 294	1986/8/4	1986/8/4	86BBHQ027	文 251	2	
767	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道千本西入五番町 471	1986/8/4	1986/8/6	86BBHQ026	文 251	2	
768	漆 室	■	上京区御前通一条下る東豎町 132-1 仁和小学校	1986/8/7	1986/9/10	86HKNA002	文 259-1	1	北方調査 2
769	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 1-10	1986/8/11	1986/8/11	86BBHQ028	文 251	4	
770	太政官	▲	上京区千本通二条下る東入主税町 1076-2	1986/8/19	1986/8/22	86BBHQ029	文 251	6	太政官調査 15
771	主殿寮	▲	上京区裏門通中立売上る西入今新在家町 205-18	1986/8/20	1986/8/20	86BBHQ030	文 251	3	
772	西大宮	▲	上京区御前通下立売上る仲之町 293	1986/8/21	1986/8/21	86BBHR093	文 251	1	
773	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る三丁目西上之町 278-19	1986/8/30	1986/8/30	86BBHQ031	文 251	1	
774	朝堂院	▲	上京区千本通二条下る東入主税町 12-19	1986/9/2	1986/9/2	86BBHQ032	文 251	5	
775	主殿寮	◆	上京区中立売通智恵光院東入多門町地先他	1986/9/4	1986/9/4	86BBHQ033	文 251	3	
776	中和院	▲	上京区千本通下立売下る東入小山町 908-55	1986/9/5	1986/9/5	86BBHQ034	文 251	5	
777	御 井	▲	中京区西ノ京車坂町 15-5 朱雀第六小学校	1986/9/6	1986/9/6	86BBHQ035	文 251	4	
778	朝堂院	▲	中京区聚楽廻南町 3-3 他	1986/9/9	1986/9/9	86BBHQ036	文 251	5	
779	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 26-22	1986/9/9	1986/9/9	86BBHQ037	文 251	4	
780	梨 本	○	上京区智恵光院通下長者町上る西辰巳町 辰巳兒童公園	1986/9/9	1986/9/13	86HKS001	文 259-3	3	
781	宴松原	▲	上京区七本松通下長者町下る三番町 268-1	1986/9/12	1986/9/12	86BBHQ038	文 251	1	
782	縫殿寮	▲	上京区下長者町通裏門西入坤高町 59-1	1986/9/13	1986/9/13	86BBHQ039	文 251	3	
783	兵庫寮	▲	上京区七本松通仁和寺街道上る一番町 108-23	1986/9/16	1986/9/16	86BBHQ040	文 251	1	
784	一 条	▲	上京区一条通御前東入西町 17-2	1986/9/19	1986/9/19	86BBHR107	文 251	1	
785	大 蔵	▲	上京区七本松通中立売下る東入三軒町 65-51	1986/9/24	1986/9/24	86BBHQ041	文 251	2	
786	東雅院	▲	上京区日暮通槿木町上る櫛笥町 770	1986/9/26	1986/9/26	86BBHQ042	文 251	6	
787	主殿寮	◇	上京区今出川通～中立売通、智恵光院通～堀川通他地内	1986/10/8	1987/3/28	86HKUW6、7	文 259	3	
788	二 条	▲	中京区西ノ京永本町 2	1986/10/11	1986/10/11	86BBHR115	文 251	4	
789	東雅院	●	上京区日暮通槿木町上る櫛笥町 712	1986/10/15	1986/10/25	86BBHQ043	文 251	6	東方調査 9
790	左近衛	▲	上京区日暮通上長者町下る須浜町 568-6-2	1986/10/17	1986/10/17	86BBHQ045	文 251	3	
791	南 所	●	上京区出水通日暮西入金馬場町 164	1986/10/17	1986/11/6	86BBHQ044	文 251	3	
792	内 裏	▲	上京区淨福寺通出水上る東入白銀町 261-5	1986/10/21	1986/10/21	86BBHQ046	文 251	3	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
793	豊楽院	▲	中京区聚楽廻南町 19	1986/10/22	1986/10/22	86BBHQ047	文 251	5	
794	朝堂院	▲	中京区聚楽廻南町 19	1986/10/22	1986/10/22	86BBHQ048	文 251	5	
795	大 蔵	▲	上京区淨福寺通中立売下る菱丸町 180	1986/10/27	1986/10/27	86BBHQ049	文 251	3	
796	西雅院	▲	上京区智恵光院通丸太町上る西院町 747	1986/10/30	1986/10/30	86BBHQ050	文 251	6	
797	朝堂院	▲	上京区千本通竹屋町下る聚楽町 850	1986/11/4	1986/11/6	86BBHQ051	文 251	5	朝堂院調査 23
798	主殿寮	▲	上京区裏門通一条下る今新在家町 205-7	1986/11/14	1986/11/14	86BBHQ052	文 251	3	
799	武徳殿	▲	上京区下の森通下立売上る東入鳳瑞町 255	1986/11/27	1986/11/27	86BBHQ053	文 251	1	
800	中和院	●	上京区千本通下立売下る小山町 889-3 他	1986/11/28	1986/11/28	86BBHQ054	文 251	5	内裏調査 32
801	図書寮	▲	上京区御前通下立売上る三丁目東入三助町 281	1986/12/3	1986/12/3	86BBHQ055	文 251	1	
802	大 蔵	▲	上京区淨福寺通一条下る東西俵屋町 152	1986/12/3	1986/12/4	86BBHQ056	文 251	3	
803	太政官	▲	上京区千本通二条下る東入主税町 996-2	1986/12/24	1986/12/24	86BBHQ057	文 251	6	
804	大宿直	▲	上京区淨福寺通中立売下る菱丸町 170 正親小学校	1987/1/7	1987/1/7	86BBHQ058	文 254	3	
805	朝堂院	▲	上京区竹屋町通千本東入聚楽町 850-11	1987/2/4	1987/2/4	86BBHQ059	文 254	5	
806	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 14-21	1987/2/4	1987/2/4	86BBHQ060	文 254	5	
807	左近衛	▲	上京区大宮通出水する清元町 748	1987/2/14	1987/2/14	86BBHQ061	文 254	3	
808	宴松原	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 291-5	1987/2/21	1987/2/21	86BBHQ062	文 254	1	
809	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 29-54	1987/3/5	1987/3/5	86BBHQ063	文 254	4	
810	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道七本松東入一番町 98-2	1987/3/16	1987/3/16	86BBHQ064	文 254	1	
811	宴松原	▲	上京区七本松通出水下る七番町 351	1987/3/19	1987/3/23	86BBHQ065	文 254	1	
812	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 29	1987/3/25	1987/3/25	86BBHQ066	文 254	5	
813	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 11-43	1987/3/25	1987/3/25	86BBHQ067	文 254	4	西方調査 18
814	大蔵庁	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 198	1987/3/26	1987/3/26	86BBHQ068	文 254	1	
815	民部省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 911 二条中学校	1987/4/4	1987/4/4	87BBHQ001	文 254	5	
816	兵庫寮	▲	上京区七本松通仁和寺街道上る一番町 108-25	1987/4/8	1987/4/8	87BBHQ002	文 254	1	
817	兵庫寮	▲	上京区下の森通仁和寺街道上る一番町 108、 108-33	1987/4/10	1987/4/10	87BBHQ003	文 254	1	
818	大膳職	▲	上京区松屋町通櫻木町下る中書町 680-1	1987/4/13	1987/4/13	87BBHQ004	文 254	6	
819	中和院	●	上京区下立売通千本西入稻葉町 461	1987/4/27	1987/4/27	87BBHQ005	文 254	2	
820	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 1-6	1987/4/30	1987/4/30	87BBHQ006	文 254	4	
821	太政官	▲	上京区智恵光院通丸太町下る主税町 1002	1987/5/6	1987/5/6	87BBHQ007	文 254	6	太政官調査 16
822	中和院	■	上京区千本通下立売下る小山町 888	1987/5/6	1987/5/26	87HKLR	文 255-1	5	内裏調査 19
823	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 5-9	1987/5/9	1987/5/9	87BBHQ008	文 254	4	
824	内 裏	●	上京区出水通智恵光院西入田舎備前町 240	1987/5/15	1987/5/15	87BBHQ009	文 254	3	
825	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 16-20	1987/5/15	1987/5/15	87BBHQ010	文 254	4	
826	大 宮	▲	上京区中立売通大宮東入新元町 226	1987/5/18	1987/5/18	87BBHL042	文 254	3	
827	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 11	1987/5/25	1987/5/25	87BBHQ011	文 254	4	
828	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る仲之町 296	1987/5/26	1987/5/26	87BBHQ012	文 254	1	
829	大 蔵	▲	上京区土屋町通仁和寺街道上る西富仲町 685	1987/6/1	1987/6/1	87BBHQ013	文 254	2	
830	朝堂院	▲	中京区聚楽廻南町 30-11	1987/6/1	1987/6/1	87BBHQ014	文 254	5	
831	縫殿寮	●	上京区上長者町通淨福寺西入新柳馬場頭町 525	1987/6/4	1987/6/4	87BBHQ015	文 254	2	
832	大炊寮	▲	上京区日暮通竹屋町上る藁屋町 535-14・64	1987/6/4	1987/6/4	87BBHQ016	文 254	6	
833	大 蔵	▲	上京区七本松通一条下る三軒町 65-46	1987/6/5	1987/6/5	87BBHQ017	文 254	2	
834	中務省	▲	上京区千本通丸太町下る東入主税町 1059	1987/6/5	1987/6/5	87BBHQ018	文 254	5	
835	大蔵庁	▲	上京区下の森通仁和寺街道上る二番町 194	1987/6/8	1987/6/8	87BBHQ019	文 254	1	
836	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 9-5	1987/6/12	1987/6/12	87BBHQ020	文 254	5	
837	朝堂院	●	上京区千本通竹屋町上る東入主税町 1198	1987/6/16	1987/6/16	87BBHQ021	文 254	5	
838	縫殿寮	▲	上京区下長者町通淨福寺西入新御幸町 29-4	1987/6/18	1987/6/18	87BBHQ022	文 254	2	
839	西大宮	▲	中京区西ノ京冷泉町 118-3	1987/6/18	1987/6/19	87BBHR055	文 254	4	
840	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 138-1	1987/6/25	1987/7/8	87BBHQ023	文 254	5	
841	豊楽院	●	中京区聚楽廻西町 186-2	1987/7/1	1987/7/15	87BBHQ024	文 254	4	
842	内膳司	●	上京区千本通下長者町下る弁天町 312	1987/7/4	1987/7/4	87BBHQ025	文 254	2	
843	掃部寮	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 294-130	1987/7/7	1987/7/7	87BBHQ027	文 254	2	
844	内 裏	▲	上京区出水通淨福寺西入東神明町 270-7	1987/7/9	1987/7/9	87BBHQ028	文 254	3	
845	朝堂院	■	上京区千本通丸太町下る主税町 1198	1987/7/10	1987/7/31	87HKLS	文 255-2	5	朝堂院調査 6
846	大宿直	▲	上京区智恵光院通中立売下る山里町 241-8	1987/7/11	1987/7/11	87BBHQ029	文 254	3	
847	主殿寮	●	上京区裏門通一条下る今新在家町 201	1987/7/17	1987/9/10	87BBHQ030	文 254	3	
848	武徳殿	●	上京区下立売通七本松西入西東町 371-1・2	1987/7/21	1987/7/21	87BBHQ031	文 254	1	
849	朝堂院	▲	中京区聚楽廻中町 9-1	1987/7/24	1987/7/24	87BBHQ032	文 254	5	
850	大膳職	▲	上京区大宮通櫻木町下る一町目 830	1987/7/29	1987/8/1	87BBHQ033	文 254	6	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
851	内 裏	●	上京区出水通淨福寺西入東神明町 284	1987/8/4	1987/8/4	87BBHQ034	文 254	2	
852	朝堂院	●	上京区千本通竹屋町上る主税町 1161	1987/8/7	1987/8/7	87BBHQ035	文 254	5	
853	大 蔵	▲	上京区淨福寺通中立壳下る菱丸町 187-1	1987/8/7	1987/8/7	87BBHQ036	文 254	3	
854	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 21-27	1987/8/10	1987/8/10	87BBHQ037	文 254	4	西方調査 12
855	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 14-5・8	1987/8/12	1987/8/12	87BBHQ038	文 254	5	
856	内藏寮	●	上京区上長者町通千本東入愛染寺町 484、485	1987/8/12	1987/8/12	87BBHQ039	文 254	2	
857	内 裏	■	上京区出水通淨福寺西入東神明町 284	1987/8/18	1987/9/12	87HKL	文 255-3	2	内裏調査 4
858	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 7	1987/8/22	1987/8/22	87BBHQ040	文 254	4	
859	内 裏	■	上京区下立壳通千本東入田中町 445	1987/8/24	1987/9/30	87HKL	文 255-4	2	内裏調査 9
860	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 17-21	1987/8/27	1987/8/27	87BBHQ041	文 254	5	
861	内膳司	▲	上京区千本通下長者町下る福島町 380	1987/8/28	1987/8/28	87BBHQ042	文 254	2	
862	宮内省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 1217、1272-1	1987/8/28	1987/8/28	87BBHQ043	文 254	6	
863	内藏寮	▲	上京区千本通下長者町上る革堂前之町 115	1987/8/29	1987/8/29	87BBHQ044	文 254	2	
864	典菜寮	▲	中京区西ノ京車坂町 2	1987/9/1	1987/9/1	87BBHQ046	文 254	4	
865	太政官	●	上京区智恵光院通丸太町下る主税町 1034	1987/9/3	1987/9/3	87BBHQ045	文 254	6	
866	大 蔵	▲	上京区千本通一条下る西中筋町 19	1987/9/8	1987/9/8	87BBHQ047	文 254	2	968 と重複
867	朝堂院	●	中京区聚楽廻東町 32	1987/9/14	1987/10/1	87BBHQ049	文 254-2	5	
868	豊樂院	●	中京区聚楽廻西町 85	1987/9/18	1987/9/18	87BBHQ051	文 254	5	882 と重複
869	大 蔵	▲	上京区千本通一条下る西入西中筋町 19-54	1987/9/18	1987/9/18	87BBHQ061	文 254	2	
870	宴松原	▲	上京区出水通六軒町東入七番町 326-1・2	1987/9/19	1987/9/19	87BBHQ048	文 254	2	中央調査 17
871	左兵衛	▲	上京区松屋通出水下る一町目 627-1	1987/9/21	1987/9/21	87BBHQ052	文 254	3	
872	太政官	●	上京区智恵光院通丸太町下る主税町 1012	1987/9/24	1987/10/9	87BBHQ053	文 254-1	6	太政官調査 11
873	内 裏	▲	上京区淨福寺通下立壳上る田中町 477	1987/9/29	1987/9/29	87BBHQ054	文 254	3	
874	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 151-20	1987/10/2	1987/10/2	87BBHQ055	文 254	2	
875	中和院	●	上京区下立壳通千本西入稻葉町 461-2	1987/10/5	1987/10/5	87BBHQ056	文 254	2	
876	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道七本松東入一番町 86B	1987/10/8	1987/10/8	87BBHQ057	文 254	1	877 と重複
877	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道七本松東入一番町 86A	1987/10/8	1987/10/8	87BBHQ058	文 254	1	
878	主水司	▲	上京区日暮通丸太町上る西入西院町 746-45	1987/10/9	1987/10/9	87BBHQ059	文 254	6	
879	大宿直	▲	上京区日暮通中立壳下る須浜池町 246	1987/10/9	1987/10/9	87BBHQ060	文 254	3	
880	左近衛	▲	上京区大宮通下長者町下る清元町 740-15	1987/10/15	1987/10/15	87BBHL197	文 254	3	
881	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 14-12	1987/10/20	1987/10/20	87BBHQ062	文 254	5	
882	豊樂院	■	中京区聚楽廻西町 85	1987/10/20	1988/1/26	87HKLW	文 261-5	5	豊樂院調査 1
883	一 条	▲	上京区一条通六軒町西入三条殿町 385-1	1987/10/23	1987/10/23	87BBHQ063	文 254	2	
884	中和院	●	上京区下立壳通千本東入田中町 428-1 他	1987/10/30	1987/11/11	87BBHQ089	文 254-3	2	内裏調査 18
885	朝堂院	■	中京区千本通（丸太町通～押小路通）	1987/11/6	1987/12/13	87HKLX	文 279-2	5	朝堂院調査 12
886	内 裏	●	上京区下立壳通千本東入田中町 472-2	1987/11/9	1988/3/14	87BBHQ066	文 254	3	
887	豊樂院	▲	中京区聚樂廻南町 6-10	1987/11/10	1987/11/13	87BBHQ064	文 254	4	
888	真言院	●	上京区出水通六軒町東入七番町 330-24・26	1987/11/11	1987/11/11	87BBHQ065	文 254	2	内裏調査 44
889	二 条	▲	中京区西ノ京永本町 2-10	1987/11/16	1987/11/16	87BBHR149	文 254	4	
890	二 条	▲	中京区西ノ京永本町 2	1987/11/24	1987/11/24	87BBHR152	文 254	4	
891	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入下る鳳瑞町 245-58	1987/11/30	1987/11/30	87BBHQ067	文 254	1	
892	朝堂院	●	中京区聚樂廻東町 15-1・4・5	1987/12/4	1987/12/4	87BBHQ068	文 254	5	朝堂院調査 21
893	内 裏	●	上京区樺木町通淨福寺東入中務町 487	1987/12/7	1987/12/7	87BBHQ069	文 254	6	内裏調査 16
894	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 12	1987/12/8	1987/12/8	87BBHQ070	文 254	4	
895	大 蔵	▲	上京区六軒町通仁和寺街道下る四番町 138	1987/12/12	1987/12/12	87BBHQ071	文 254	2	
896	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道七本松東入一番町 83-3 他	1987/12/26	1987/12/26	87BBHQ072	文 254	1	
897	朝堂院	◇	中京区千本通（丸太町通～押小路通）	1988/1/9	1988/6/14	87HKLX	文 279-2	5	朝堂院調査 12
898	真言院	●	上京区下立壳通千本西入稻葉町 442-4	1988/1/8	1988/2/5	87BBHQ073	文 260	2	内裏調査 43
899	朝堂南	▲	中京区聚樂廻南町 30-25、31-26	1988/1/12	1988/1/12	87BBHQ074	文 260	5	
900	宴松原	▲	上京区下立壳通七本松東入長門町 435-32	1988/1/13	1988/1/13	87BBHQ075	文 260	2	
901	大 蔵	▲	上京区七本松通一条下る三軒町 65-49	1988/1/13	1988/1/13	87BBHQ076	文 260	2	
902	大 蔵	●	上京区上長者町通千本西入五番町 158-1・2	1988/1/18	1988/1/18	87BBHQ077	文 260	2	
903	兵庫寮	○	上京区御前通一条下る東堅町 132-1 仁和小学校	1988/1/18	1988/1/20	87HKS003	文 279-6	1	
904	内 裏	▲	上京区下長者町通土屋町西入二本松町 20	1988/1/21	1988/1/21	87BBHQ078	文 260	2	
905	大 蔵	▲	上京区中立壳通千本東入丹波屋町 357-1、679	1988/1/21	1988/1/21	87BBHQ079	文 260	2	
906	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 1-41	1988/1/29	1988/1/29	87BBHQ080	文 260	4	
907	宴松原	▲	上京区六軒町通下長者町下る西入七番町 344-2	1988/2/4	1988/2/4	87BBHQ081	文 260	1	
908	大 蔵	▲	上京区上長者町通千本東入信濃町 476-2	1988/2/5	1988/2/5	87BBHQ082	文 260	2	
909	宴松原	▲	中京区聚樂廻西町 63	1988/2/10	1988/2/10	87BBHQ083	文 260	4	
910	大 宮	▲	上京区大宮通上長者町下る藤五郎町 583	1988/2/12	1988/2/12	87BBHL282	文 260	3	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
911	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 25-5	1988/2/18	1988/2/18	87BBHQ084	文 260	4	
912	真言院	▲	中京区聚楽廻西町 163-49	1988/2/20	1988/2/20	87BBHQ085	文 260	2	
913	宴松原	▲	中京区聚楽廻松下町 11-4	1988/2/22	1988/2/22	87BBHQ086	文 260	4	
914	豊楽院	●	中京区聚楽廻西町 74-4・6	1988/2/25	1988/2/25	87BBHQ087	文 260	5	
915	内 裏	▲	上京区出水通土屋町西入西神明町 346-9	1988/2/26	1988/2/26	87BBHQ088	文 260	2	
916	兵部省	●	中京区西ノ京内畠町 24-10	1988/3/8	1988/3/8	87BBHQ090	文 260	4	中央調査 9
917	兵庫寮	▲	上京区一条通七本松西入東町 35-3	1988/3/10	1988/3/10	87BBHQ091	文 260	1	
918	太政官	●	上京区竹屋町通千本東入主税町 1101	1988/3/11	1988/3/11	87BBHQ092	文 260	5	
919	内 裏	●	上京区出水通千本東入西神明町 338	1988/3/17	1988/3/17	87BBHQ094	文 260	2	939 と重複
920	内蔵寮	●	上京区千本通下長者町下る福島町 380	1988/3/17	1988/3/24	87BBHQ093	文 260	2	中央調査 4
921	朝堂院	▲	上京区千本通竹屋町下る聚楽町 83-40	1988/3/23	1988/3/23	87BBHQ095	文 260	5	
922	内 裏	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 236-5	1988/3/25	1988/3/25	87BBHQ096	文 260	3	
923	朝堂院	●	上京区千本通二条下る東入主税町 910-28	1988/4/1	1988/4/1	88BBHQ001	文 260	5	朝堂院調査 22
924	宮内省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 1247-1	1988/4/1	1988/4/1	88BBHQ002	文 260	6	
925	太政官	■	上京区竹屋町通千本東入主税町 1101	1988/4/6	1988/5/7	88HKLY	文 261-1	5	太政官調査 9
926	豊楽院	■	中京区聚楽廻西町 74-4・6	1988/4/7	1988/4/18	88HKLZ	文 261-6	5	豊楽院調査 2
927	朝堂院	▲	上京区千本通竹屋町下る聚楽町 854 他	1988/4/11	1988/4/11	88BBHQ003	文 260	5	
928	宴松原	▲	中京区聚楽廻西町 173	1988/4/12	1988/4/12	88BBHQ004	文 260	4	
929	大 蔵	▲	上京区七本松通仁和寺街道上る一番町 105	1988/4/12	1988/4/12	88BBHQ005	文 260	1	
930	大 蔵	▲	上京区上長者町通千本東入信濃町 478-3	1988/4/14	1988/4/14	88BBHQ006	文 260	2	
931	左近衛	●	上京区下長者町通大宮西入東辰巳町 129-2	1988/4/22	1988/4/22	88BBHQ007	文 260	3	
932	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 242	1988/4/25	1988/4/25	88BBHQ008	文 260	1	
933	宴松原	▲	中京区聚樂廻中町 29-2	1988/4/26	1988/4/26	88BBHQ009	文 260	5	
934	太政官	●	上京区千本通二条下る東入主税町 998、998-1	1988/4/27	1988/4/27	88BBHQ010	文 260	6	937 と重複
935	梨 本	▲	上京区裏門通上長者町下る亀木町 222	1988/4/27	1988/4/27	88BBHQ011	文 260	3	
936	朝堂院	●	上京区千本通丸太町上る小山町	1988/5/11	1988/5/16	88BBHQ012	文 260-1	5	朝堂院調査 32
937	太政官	■	上京区千本通丸太町下る東入主税町 998、998-1	1988/5/11	1988/5/23	88HKDC	文 261-2	6	太政官調査 8
938	右馬寮	●	中京区西ノ京右馬寮町 8-31 他	1988/5/12	1988/5/12	88BBHQ013	文 260	4	
939	内 裏	■	上京区千本通出水東入西神明町 338	1988/5/12	1988/6/2	88HKDB	文 261-4	2	内裏調査 1
940	右兵衛	●	上京区下立壳通七本松西入西東町 350、352	1988/5/13	1988/5/13	88BBHQ014	文 260	1	
941	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 20-9	1988/5/14	1988/5/14	88BBHQ015	文 260	4	
942	内蔵寮	▲	上京区上長者町通千本東入愛染寺町 487	1988/5/18	1988/5/18	88BBHQ016	文 260	2	
943	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 118-1	1988/5/20	1988/5/20	88BBHQ017	文 260	2	
944	豊楽院	▲	中京区聚樂廻南町 19-20	1988/5/23	1988/5/23	88BBHQ018	文 260	5	
945	内匠寮	▲	上京区御前通下立壳下る下之町 424-4	1988/5/23	1988/5/23	88BBHQ019	文 260	4	
946	右馬寮	●	中京区西ノ京右馬寮町 16-1	1988/5/25	1988/5/25	88BBHQ020	文 260	4	西方調査 23
947	豊楽院	▲	中京区西ノ京内畠町 22	1988/5/25	1988/5/25	88BBHQ021	文 260	4	
948	大 蔵	▲	上京区淨福寺通一条下る東西俵屋町 160	1988/5/27	1988/5/27	88BBHQ022	文 260	3	
949	宴松原	▲	中京区聚樂廻西町 64-14	1988/5/31	1988/5/31	88BBHQ023	文 260	5	
950	朝堂院	●	中京区聚樂廻東町 10-5	1988/6/1	1988/6/1	88BBHQ024	文 260	5	朝堂院調査 19
951	南 所	●	上京区智恵光院通出水下る分銅町 555-1、557	1988/6/2	1988/6/2	88BBHQ025	文 260	3	
952	朝堂院	▲	上京区千本通丸太町下る主税町 1187	1988/6/2	1988/6/2	88BBHQ026	文 260	5	
953	縫殿寮	▲	上京区上長者町通淨福寺東入高台院町 540-3	1988/6/6	1988/6/6	88BBHQ027	文 260	3	
954	左近衛	◇	上京区中立壳通～下長者町通、日暮通～堀川通他地内	1988/6/6	1988/7/11	88HKUW005	文 286	3	
955	中務省	▲	上京区淨福寺通丸太町下る東入主税町地内	1988/6/10	1988/6/10	88BBHQ028	文 260	6	
956	朝堂院	▲	中京区聚樂廻南町 41-5	1988/6/11	1988/6/11	88BBHQ029	文 260	5	
957	大 蔵	▲	上京区中立壳通千本東入丹波屋町 341-1	1988/6/13	1988/6/13	88BBHQ030	文 260	2	
958	縫殿寮	▲	上京区下長者町通裏門西入坤高町 58-5	1988/6/15	1988/6/15	88BBHQ031	文 260	3	
959	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る三丁目西上之町 278	1988/6/28	1988/6/28	88BBHQ032	文 260	1	
960	主殿寮	▲	上京区中立壳通智恵光院東入新白水丸町 462-66	1988/6/28	1988/6/28	88BBHQ033	文 260	3	
961	典葉寮	▲	中京区聚樂廻松下町 3-31	1988/7/6	1988/7/6	88BBHQ034	文 260	4	
962	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 24	1988/7/13	1988/7/13	88BBHQ035	文 260	4	
963	典葉寮	▲	中京区聚樂廻松下町 8-17	1988/7/19	1988/7/19	88BBHQ037	文 260	4	
964	大 蔵	◇	上京区仁和寺街道（御前通～千本通）	1988/7/19	1988/8/19	88HKUW004	文 286	2	
965	豊楽院	▲	中京区聚樂廻中町 50-13	1988/7/21	1988/7/21	88BBHQ036	文 260	5	
966	大 蔵	●	上京区仁和寺街道千本西入五番町 161	1988/7/25	1988/7/25	88BBHQ038	文 260	2	
967	宴松原	●	中京区聚樂廻町 40-9	1988/7/26	1988/7/26	88BBHQ039	文 260	5	中央調査 16
968	大 蔵	▲	上京区千本通中立壳上る西中筋町 19	1988/8/2	1988/8/2	88BBHQ040	文 260	2	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
969	大 蔵	▲	上京区淨福寺通一条下る東西俵屋町 16-1	1988/8/3	1988/8/3	88BBHQ041	文 260	3	
970	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る三丁目東入三助町 280-36	1988/8/4	1988/8/4	88BBHQ042	文 260	1	
971	中和院	▲	上京区千本通下立売下る小山町 908-56	1988/8/6	1988/8/6	88BBHQ043	文 260	5	内裏調査 31
972	宴松原	●	中京区聚楽廻松下町 11-10	1988/8/8	1988/8/8	88BBHQ044	文 260	4	
973	大 蔵	▲	上京区千本通一条下る西中筋町 19	1988/8/8	1988/8/31	88BBHQ045	文 260	2	
974	大 蔵	▲	上京区淨福寺通一条下る東西俵屋町 668-4・5・15	1988/8/9	1988/8/9	88BBHQ046	文 260	2	
975	内 裏	▲	上京区裏門通出水上的白銀町 257-3	1988/8/22	1988/8/22	88BBHQ047	文 260	3	
976	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 74-4・6	1988/8/23	1988/8/23	88BBHQ048	文 260	5	926 と重複
977	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 9-22	1988/8/23	1988/8/23	88BBHQ049	文 260	4	
978	内藏寮	●	上京区下長者町通千本東入二本松町 5	1988/8/24	1988/8/24	88BBHQ050	文 260	2	
979	主殿寮	▲	上京区中立売通日暮東入新白水丸町 462-91	1988/8/24	1988/8/24	88BBHQ051	文 260	3	
980	縫殿寮	▲	上京区下長者町通土屋町西入二本松町 15	1988/8/25	1988/8/25	88BBHQ052	文 260	2	
981	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道七本松東入一番町 96、96-1	1988/8/29	1988/8/29	88BBHQ054	文 260	1	
982	大 蔵	▲	上京区上長者町通千本西入五番町 158-1・2	1988/8/29	1988/9/1	88BBHQ053	文 260	2	902 と重複
983	内匠寮	●	中京区西ノ京左馬寮町 28	1988/9/2	1988/9/2	88BBHQ055	文 260	4	
984	一 条	▲	上京区一条通智恵光院西入南新在家町 343、 342-1	1988/9/8	1988/9/8	88BBHQ060	文 260	3	
985	豊楽院	●	中京区聚楽廻西町 183	1988/9/14	1988/9/14	88BBHQ056	文 260	4	
986	縫殿寮	●	上京区下長者町通裏門西入坤高町 86-3	1988/9/21	1988/9/21	88BBHQ057	文 260	3	
987	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る仲之町 299-11	1988/9/21	1988/10/3	88BBHQ058	文 260	1	
988	朝堂院	●	上京区丸太町通土屋町西入中務町 491	1988/9/27	1988/9/27	88BBHQ059	文 260	5	
989	右馬寮	●	中京区西ノ京右馬寮町 17-3	1988/10/3	1988/10/3	88BBHQ061	文 260	4	
990	職御曹	▲	上京区日暮通出水上的金馬場町 175-6	1988/10/6	1988/10/6	88BBHQ062	文 260	3	
991	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 31-4	1988/10/12	1988/10/12	88BBHQ063	文 260	5	
992	宴松原	▲	上京区下立売通七本松東入長門町 401	1988/10/19	1988/10/19	88BBHQ064	文 260	1	
993	豊楽院	●	中京区聚楽廻中町 53-11	1988/10/21	1988/10/21	88BBHQ065-1	文 260-2	5	996 と重複
994	大 蔵	▲	上京区中立売通千本東入田丸町 379-6	1988/10/25	1988/10/25	88BBHQ066	文 260	2	
995	内匠寮	■	中京区西ノ京左馬寮町 28	1988/10/27	1988/12/23	88HKDD001	文 261-3	4	西方調査 11
996	豊楽院	■	中京区聚楽廻中町 53-11	1988/11/1	1988/11/18	88BBHQ065-2	文 260-2	5	豊楽院調査 3
997	宴松原	●	上京区出水通七本松東入七番町 348	1988/11/9	1988/11/9	88BBHQ067	文 260	1	
998	内膳司	▲	上京区出水通千本西入尼ヶ崎横町 356	1988/11/16	1988/11/16	88BBHQ068	文 260	2	内裏調査 36
999	治部省	▲	中京区西ノ京内烟町 11-16	1988/11/18	1988/11/18	88BBHQ069	文 260	4	
1000	西大宮	●	中京区西ノ京冷泉町 122	1988/11/18	1988/11/18	88BBHHR117	文 260	4	
1001	内 裏	▲	上京区土屋町通丸太町上る中務町 409	1988/11/21	1988/11/21	88BBHQ070	文 260	5	
1002	大 蔵	◆	上京区中立売通（御前通～堀川通）	1988/11/21	1988/11/22	88BBHQ071	文 260	1・2・3	
1003	縫殿寮	▲	上京区下長者町通裏門西入坤高町 59-4	1988/11/29	1988/11/29	88BBHQ072	文 260	3	
1004	宴松原	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入下る四番町 151	1988/11/29	1988/11/29	88BBHQ073	文 260	1	
1005	縫殿寮	▲	上京区土屋町通下長者町上る山王町 511	1988/12/1	1988/12/1	88BBHQ074	文 260	2	
1006	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る仲之町 303-1	1988/12/12	1988/12/14	88BBHQ075	文 260	1	
1007	朝堂南	▲	中京区聚楽廻南町 30-23	1988/12/16	1988/12/16	88BBHQ076	文 260	5	
1008	朝堂院	●	上京区千本通下立売下る小山町 908-71	1988/12/19	1988/12/19	88BBHQ077	文 260	5	
1009	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 2-28	1988/12/20	1988/12/20	88BBHQ078	文 260	5	中央調査 15
1010	内教坊	▲	上京区中立売通智恵光院東入新白水丸町 446	1989/1/13	1989/1/13	88BBHQ079	文 265	3	
1011	内教坊	▲	上京区日暮通中立売下る須浜池町 248-2・6	1989/1/17	1989/1/17	88BBHQ080	文 265	3	
1012	内教坊	▲	上京区日暮通中立売下る須浜池町 248-2・6	1989/1/17	1989/1/17	88BBHQ081	文 265	3	
1013	判 事	▲	中京区西ノ京内烟町 13-8・42	1989/1/18	1989/1/18	88BBHQ082	文 265	4	
1014	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 10-8	1989/2/6	1989/2/6	88BBHQ083	文 265	4	
1015	兵庫寮	▲	上京区中立売通七本松西入三軒町 69	1989/2/9	1989/2/9	88BBHQ085	文 265	1	
1016	南 所	▲	上京区日暮通下立売上る中村町 530	1989/2/10	1989/2/14	88BBHQ084	文 265	3	
1017	一 条	▲	上京区一条通御前東入西町 14-5	1989/2/15	1989/2/15	88BBHQ086	文 265	1	
1018	茶 園	●	上京区中立売通智恵光院東入新白水丸町 462	1989/2/17	1989/2/22	88BBHQ087	文 265	3	
1019	内 裏	▲	上京区出水通土屋町東入東神明町 276	1989/2/27	1989/2/27	88BBHQ088	文 265	3	
1020	職御曹	▲	上京区裏門通出水上的田村備前町 220	1989/3/10	1989/3/10	88BBHQ089	文 265	3	
1021	内 裏	▲	上京区土屋町通出水下る西神明町 346-6	1989/3/23	1989/3/23	88BBHQ090	文 265	2	
1022	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 10	1989/3/23	1989/3/23	88BBHQ091	文 265	4	
1023	大炊寮	●	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町 772-1	1989/3/28	1989/3/28	88BBHQ092	文 265	6	
1024	右近衛	▲	上京区御前通仁和寺街道下る西上之町 245-31	1989/3/30	1989/3/30	88BBHQ093	文 265	1	
1025	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 21	1989/4/10	1989/4/10	89BBHQ001	文 265	4	
1026	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 21-20	1989/4/12	1989/4/12	89BBHQ002	文 265	4	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1027	右近衛	▲	上京区下長者町通御前東入三助町 281	1989/4/17	1989/4/17	89BBHQ003	文 265	1	
1028	朝堂院	▲	上京区千本通下立売下る小山町 908-71	1989/4/18	1989/4/18	89BBHQ004	文 265	5	
1029	中務省	■	上京区千本通丸太町下る東入主税町 1129	1989/4/18	1989/5/25	89HKDE	文 266-2	5	中務省調査 9
1030	真言院	▲	上京区六軒町通下立売上る長門町 435	1989/4/21	1989/4/21	89BBHQ005	文 265	2	
1031	右近衛	▲	上京区御前通仁和寺街道下る東入西上之町 278-48	1989/4/26	1989/4/26	89BBHQ006	文 265	1	
1032	朝堂院	▲	上京区丸太町通千本東入小山町 908-73	1989/5/1	1989/5/1	89BBHQ007	文 265	5	
1033	左兵衛	▲	上京区日暮通下立売上る西入分銅町 569-4	1989/5/2	1989/5/2	89BBHQ008	文 265	3	
1034	左兵衛	▲	上京区大宮通出水下る家永町 776-1・7	1989/5/10	1989/5/10	89BBHL022	文 265	3	
1035	図書寮	■	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 240	1989/5/12	1989/6/5	89HKDF	文 266-1	1	西方調査 6
1036	兵庫寮	▲	上京区七本松通一条下る西入三軒町 69-2	1989/5/15	1989/5/15	89BBHQ011	文 265	1	
1037	中和院	●	上京区千本通出水下る十四軒町 405	1989/5/15	1989/8/21	89BBHQ010	文 265	2	内裏調査 34
1038	大 蔵	▲	上京区六軒町通中立売上る西中筋町 695-5	1989/5/22	1989/5/22	89BBHQ012	文 265	2	
1039	宴松原	▲	中京区聚楽廻町 40-1	1989/5/24	1989/5/24	89BBHQ013	文 265	5	
1040	朝堂院	●	中京区聚楽廻南町 41	1989/5/26	1989/5/26	89BBHQ014	文 265	5	
1041	内 裏	▲	上京区淨福寺通出水上る白銀町 261-12	1989/5/31	1989/5/31	89BBHQ015	文 265	3	
1042	左近衛	▲	上京区下長者町通智恵光院東入天秤丸町地先	1989/6/2	1989/6/2	89BBHQ016	文 265	3	
1043	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る三丁目西上之町 278	1989/6/5	1989/6/5	89BBHQ018	文 265	1	
1044	大 蔵	▲	上京区七本松通一条上る三軒町 74-8・11	1989/6/5	1989/6/19	89BBHQ017	文 265	1	
1045	内 裏	▲	上京区出水通淨福寺東入田村備前町 239	1989/6/7	1989/6/7	89BBHQ019	文 265	3	
1046	職御曹	●	上京区出水通日暮西入金馬場町 166-1	1989/6/8	1989/6/13	89BBHQ020	文 265	3	東方調査 2
1047	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道千本東入西富仲町 468	1989/6/14	1989/6/14	89BBHQ021	文 265	3	
1048	大 宮	▲	上京区大宮通中立売下る常陸町 398	1989/6/14	1989/7/1	89BBHL048	文 265	3	
1049	兵部省	▲	中京区西ノ京内烟町 29-4	1989/6/22	1989/6/22	89BBHQ022	文 265	5	中央調査 11
1050	典葉寮	●	中京区聚楽廻松下町 1-14・36	1989/6/28	1989/6/28	89BBHQ023	文 265	4	西方調査 19
1051	内膳司	●	上京区出水通千本東入尼ヶ崎横町 351-3	1989/6/29	1989/8/22	89BBHQ024	文 265	2	内裏調査 38
1052	左兵衛	◇	上京区下立売通(松屋町通～堀川通)	1989/6/29	1989/8/24	89HK0G025	文 304	3	
1053	朝堂院	●	中京区聚楽廻東町 17	1989/7/4	1989/7/4	89BBHQ025	文 265	5	
1054	中和院	●	上京区下立売通千本西入稻葉町 461	1989/7/10	1989/7/10	89BBHQ026	文 265	2	1061 と重複
1055	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 7-29	1989/7/11	1989/7/11	89BBHQ027	文 265	4	
1056	大宿直	●	上京区智恵光院通上長者町上る須浜町 571-2 他	1989/7/12	1989/7/12	89BBHQ028	文 265	3	
1057	職御曹	●	上京区智恵光院通出水下る天秤丸町 180	1989/7/17	1989/7/17	89BBHQ029	文 265	3	
1058	南 所	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 243-13	1989/7/24	1989/7/24	89BBHQ030	文 265	3	
1059	茶 園	▲	上京区中立売通智恵光院東入新白水丸町 462-61 他	1989/7/24	1989/7/24	89BBHQ031	文 265	3	
1060	縫殿寮	▲	上京区下長者町通裏門西入坤高町 69-3	1989/7/26	1989/7/26	89BBHQ032	文 265	3	
1061	中和院	■	上京区下立売通千本西入稻葉町 461	1989/8/1	1989/8/31	89HKDH	文 266-4	2	内裏調査 27
1062	内教坊	●	上京区日暮通中立売下る須浜池町 247-1 他	1989/8/3	1989/8/3	89BBHQ033	文 265	3	
1063	内 裏	◇	上京区中立売通～下立売通、千本通～智恵光院通地内	1989/8/3	1989/9/30	89HKUW002	文 304-7	3	内裏調査 6
1064	豊 楽 院	▲	中京区聚楽廻西町 184-12	1989/8/4	1989/8/4	89BBHQ034	文 265	4	
1065	中務省	●	上京区丸太町通智恵光院東入中務町 486	1989/8/7	1989/8/7	89BBHQ035	文 265	6	
1066	朝堂院	◇	上京区千本通～智恵光院通、丸太町通～南～二筋目地内	1989/8/18	1989/10/24	89HKUW003	文 304-6	5・6	中務省調査 28
1067	中務省	■	上京区丸太町通智恵光院東入中務町 486	1989/8/28	1989/10/7	89HKDI	文 304-2	6	中務省調査 10
1068	宴松原	●	上京区七本松通仁和寺街道下る二番町 211-2・14	1989/9/8	1989/9/8	89BBHQ036	文 265	1	
1069	宴松原	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 151-44	1989/9/11	1989/9/11	89BBHQ037	文 265	2	
1070	宴松原	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 151-76・77	1989/9/11	1989/9/11	89BBHQ038	文 265	1	
1071	大炊寮	▲	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町 770	1989/9/12	1989/9/12	89BBHQ039	文 265	6	
1072	中和院	▲	上京区下立売通千本西入稻葉町 453-1	1989/9/14	1989/9/14	89BBHQ040	文 265	2	
1073	大膳職	●	上京区丸太町通松屋町西入左馬松町 775	1989/9/20	1989/9/20	89BBHQ041	文 265	6	
1074	正親司	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 222-8	1989/9/20	1989/9/20	89BBHQ042	文 265	1	
1075	内 裏	●	上京区淨福寺通下立売下る西入中務町 487 出水小学校	1989/9/22	1989/9/22	89BBHQ043	文 265	6	東方調査 8
1076	朝堂院	▲	中京区聚楽廻町 49-2	1989/9/22	1989/9/22	89BBHQ044	文 265	5	
1077	内 裏	▲	上京区裏門通出水上る白銀町 246-13・25	1989/9/25	1989/9/25	89BBHQ045	文 265	3	
1078	主殿寮	▲	上京区中立売通智恵光院東入上る新白水丸町 462	1989/9/26	1989/9/26	89BBHQ046	文 265	3	
1079	一 条	▲	上京区一条通千本東入伊勢殿構町 275	1989/10/4	1989/10/4	89BBHQ047	文 265	2	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1080	内 裏	▲	上京区出水通千本東入西神明町 326	1989/10/4	1989/10/4	89BBHQ048	文 265	2	
1081	朝 堂 南	▲	中京区聚楽廻南町 32-1	1989/10/4	1989/10/4	89BBHQ049	文 265	5	
1082	中務省	■	上京区丸太町通千本東入中務町 491	1989/10/12	1989/11/21	89HKDJ	文 266-3	5	中務省調査 11
1083	中 和 院	▲	上京区千本通下立壳下る小山町 887	1989/10/16	1989/10/16	89BBHQ050	文 265	5	
1084	宴 松 原	▲	上京区七本松通下長者町下る三番町 268-6	1989/10/17	1989/10/17	89BBHQ051	文 265	1	
1085	内 裏	▲	上京区淨福寺通出水上る白銀町 261	1989/10/19	1989/10/19	89BBHQ052	文 265	3	
1086	大 膳 職	▲	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町 760・760-7	1989/10/20	1989/10/20	89BBHQ053	文 265	6	東方調査 19
1087	一 条	▲	上京区一条通松屋町西入鏡石町 20	1989/10/23	1989/10/23	89BBHQ054	文 265	3	
1088	左 馬 狩	●	中京区西ノ京左馬狩町 11-15	1989/10/27	1989/10/27	89BBHQ055	文 265	4	
1089	朝 堂 南	●	中京区西ノ京小堀町 2	1989/10/31	1989/10/31	89BBHQ056	文 265	5	中央調査 12
1090	茶 園	▲	上京区中立壳通松屋町西入新白水丸町 457	1989/11/2	1989/11/2	89BBHQ057	文 265	3	
1091	右 馬 狩	▲	中京区西ノ京右馬狩町地先	1989/11/6	1989/11/6	89BBHQ058	文 265	4	
1092	朝 堂 南	▲	中京区西ノ京小堀町 2-88	1989/11/6	1989/11/6	89BBHQ059	文 265	5	
1093	左 近 衛	▲	上京区下長者町通智恵光院東入西辰巳町 112-12	1989/11/6	1989/11/6	89BBHQ060	文 265	3	
1094	右 近 衛	▲	上京区下長者町通御前東入三助町 280-21	1989/11/6	1989/11/6	89BBHQ061	文 265	1	
1095	一 条	▲	上京区一条通松屋町西入鏡石町 38-1・3 の一部	1989/11/14	1989/11/14	89BBHL137	文 265	3	
1096	豊 樂 院	▲	中京区聚楽廻西町 102 他	1989/11/15	1989/11/15	89BBHQ062	文 265	5	
1097	朝 堂 院	▲	上京区千本通二条下る東入主税町 814	1989/11/20	1989/11/20	89BBHQ063	文 265	5	
1098	大 藏	▲	上京区仁和寺街道通七本松東入一番町 107-3・19 の一部	1989/11/27	1989/11/27	89BBHQ064	文 265	1	
1099	右 馬 狩	▲	中京区西ノ京冷泉町 15	1989/11/29	1989/11/29	89BBHR100	文 265	4	
1100	宴 松 原	▲	中京区聚楽廻中町 32	1989/12/6	1989/12/6	89BBHQ065	文 265	5	
1101	大 膳 職	▲	上京区松屋通丸太町上る左馬松町 778 他	1989/12/11	1989/12/11	89BBHQ066	文 265	6	
1102	西 雅 院	▲	上京区榎木町通智恵光院西入西院町 746	1989/12/15	1989/12/15	89BBHQ067	文 265	6	
1103	縫 殿 狩	◆	上京区下長者町通淨福寺東入坤高町地先他	1989/12/20	1989/12/20	89BBHQ068	文 265	3	1063 と重複
1104	大 藏	▲	上京区六軒町通一条下る東入西中筋町 19-12	1989/12/21	1989/12/21	89BBHQ069	文 265	2	
1105	梨 本	▲	上京区下長者町通智恵光院東入西辰巳町 106-5	1990/1/17	1990/1/17	89BBHQ070	文 269	3	
1106	西 雅 院	▲	上京区日暮通丸太町上る西入西院町 749-19	1990/1/26	1990/1/26	89BBHQ071	文 269	6	
1107	正 親 司	▲	上京区仁和寺街道御前東入鳳瑞町 219	1990/1/30	1990/1/30	89BBHQ072	文 269	1	北方調査 5
1108	内 裏	●	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 236-10	1990/1/31	1990/1/31	89BBHQ073	文 269-2	3	内裏調査 5
1109	豊 樂 院	◆	中京区聚楽廻西町 102	1990/2/2	1990/2/2	89BBHQ074	文 269	5	
1110	大 宮	▲	上京区大宮通榎木町下る一丁目 857-3	1990/2/14	1990/2/14	89BBHL182	文 269	6	
1111	中務省	▲	上京区千本通二条下る東入主税町 1062-1	1990/2/20	1990/2/20	89BBHQ076	文 269	5	中務省調査 29
1112	大 藏	▲	上京区中立壳通淨福寺東入新耕屋町 43-2	1990/2/21	1990/2/21	89BBHQ075	文 269	3	北方調査 12
1113	朝 堂 院	▲	中京区聚楽廻町 15-1 他	1990/2/21	1990/2/21	89BBHQ077	文 269	5	892 と重複
1114	大宿直	●	上京区智恵光院通上長者町上る山里町 238	1990/2/21	1990/2/21	89BBHQ078	文 269	3	
1115	主殿寮	▲	上京区裏門通一条下る今新在家町 205-11	1990/2/28	1990/2/28	89BBHQ079	文 269	3	
1116	一 条	▲	上京区一条通七本松西入東町 34-1	1990/3/3	1990/3/3	89BBHQ080	文 269	1	
1117	左 近 衛	▲	上京区松屋町通上長者町下る須浜東町 450-18	1990/3/8	1990/3/8	89BBHQ082	文 269	3	
1118	朝 堂 院	▲	上京区千本通丸太町下る東入主税町 1150	1990/3/12	1990/3/12	89BBHQ081	文 269	5	
1119	西 雅 院	▲	上京区榎木町通智恵光院西入西院町	1990/3/15	1990/3/15	89BBHQ083	文 269	6	
1120	兵 部 省	▲	中京区西ノ京内畠町 30-12	1990/3/20	1990/3/20	89BBHQ084	文 269	5	
1121	大 藏	●	上京区仁和寺街道六軒町東入四番町 126 他	1990/3/22	1990/3/22	89BBHQ085	文 269	2	
1122	朝 堂 院	●	上京区丸太町通千本東入中務町 491-71	1990/3/26	1990/3/26	89BBHQ086	文 269	5	
1123	豊 樂 院	▲	中京区西ノ京聚楽廻南町 6-34	1990/4/2	1990/4/2	90BBHQ001	文 269	4	
1124	中務省	●	上京区下立壳通千本東入下る中務町 491-28	1990/4/4	1990/4/4	90BBHQ002	文 269	6	1136 と重複
1125	内 教 廉	▲	上京区中立壳通松屋町東入新白水丸町 460-1	1990/4/6	1990/7/4	90BBHQ003	文 269	3	
1126	内 裏	▲	上京区下長者町通千本東入二本松町 14-2	1990/4/9	1990/4/9	90BBHQ004	文 269	2	
1127	内 藏 寮	●	上京区千本通上長者町下る革堂前之町 106-2	1990/4/11	1990/4/11	90BBHQ005	文 269	2	中央調査 5
1128	西 院	▲	上京区千本通丸太町下る東入主税町 937	1990/4/11	1990/4/11	90BBHQ006	文 269	6	東方調査 13
1129	宴 松 原	▲	中京区聚楽廻中町 27-18	1990/4/16	1990/4/16	90BBHQ007	文 269	5	
1130	宴 松 原	▲	中京区聚楽廻中町 27-18	1990/4/16	1990/4/16	90BBHQ008	文 269	5	
1131	大 藏	▲	上京区千本通一条下る西入西中筋町 19	1990/4/24	1990/4/24	90BBHQ009	文 269	2	
1132	宴 松 原	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 151-9	1990/5/8	1990/5/8	90BBHQ010	文 269	1	
1133	大 藏	▲	上京区千本通一条下る西入西中筋町	1990/5/8	1990/5/8	90BBHQ011	文 269	2	
1134	内 藏 寮	●	上京区上長者町通千本東入愛染寺町 483-1	1990/5/9	1990/6/25	90BBHQ012	文 269	2	中央調査 6
1135	大 炊 寮	▲	上京区松屋町通丸太町下る藁屋町 535-76	1990/5/14	1990/5/14	90BBHQ013	文 269	6	
1136	中務省	■	上京区下立壳通千本東入下る中務町 491-28	1990/5/14	1990/6/20	90HKDL	文 270-3	6	中務省調査 12
1137	内 裏	▲	上京区下立壳通千本東入下る中務町 490-48	1990/5/15	1990/5/15	90BBHQ014	文 269	5	
1138	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 18	1990/5/15	1990/5/15	90BBHQ015	文 269	4	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1139	右近衛	●	上京区御前通下長者町上る西上之町 251	1990/5/16	1990/5/16	90BBHQ016	文 269	1	1151 と重複
1140	右兵衛	▲	上京区下立売通御前東入西東町 346-12	1990/5/18	1990/5/18	90BBHQ017	文 269	1	
1141	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 27	1990/5/22	1990/5/22	90BBHQ018	文 269	4	
1142	宮内省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 1232-2	1990/5/22	1990/5/22	90BBHQ019	文 269	6	
1143	大 蔵	●	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 117-7	1990/5/23	1990/5/23	90BBHQ020	文 269	2	北方調査 10
1144	内 裏	▲	上京区淨福寺通出水上の白銀町 261	1990/5/28	1990/5/28	90BBHQ021	文 269	3	
1145	太政官	▲	上京区千本通丸太町下る東入主税町 1039	1990/6/1	1990/6/1	90BBHQ022	文 269	6	太政官調査 17
1146	内 裏	●	上京区淨福寺通下立売下る西入中務町 487 出水小学校	1990/6/4	1990/6/4	90BBHQ023	文 269	6	
1147	東雅院	▲	上京区日暮通下立売下る櫛箭町 695	1990/6/4	1990/6/4	90BBHQ024	文 269	6	
1148	朝堂院	●	上京区丸太町通土屋町西入中務町 491-44 他	1990/6/11	1990/6/11	90BBHQ025	文 269-1	5	1172 と重複
1149	豊楽院	▲	中京区聚楽廻中町 44-6・7	1990/6/12	1990/6/12	90BBHQ026	文 269	5	
1150	東雅院	▲	上京区日暮通下立売下る櫛箭町 707	1990/6/18	1990/6/18	90BBHQ027	文 269	6	
1151	右近衛	■	上京区御前通上長者町上る西上之町 251	1990/6/18	1990/7/31	90HKDM	文 270-1	1	西方調査 2
1152	豊楽院	▲	中京区聚樂廻西町 84	1990/6/19	1990/6/19	90BBHQ028	文 269	5	
1153	内藏寮	▲	上京区千本通上長者町下る革堂前之町 102	1990/6/20	1990/6/20	90BBHQ029	文 269	2	
1154	大 蔵	▲	上京区淨福寺通一条下る東西俵屋町 668-4・5	1990/6/20	1990/6/20	90BBHQ030	文 269	2	
1155	西雅院	▲	上京区日暮通丸太町上る西入西院町 746-61	1990/6/21	1990/6/21	90BBHQ031	文 269	6	
1156	梨 本	▲	上京区下長者町通日暮西入西辰巳町 116	1990/6/25	1990/6/25	90BBHQ032	文 269	3	
1157	豊楽院	▲	中京区聚樂廻西町 79	1990/6/25	1990/6/25	90BBHQ033	文 269	5	
1158	大宿直	▲	上京区上長者町通裏門東入須浜町 571-2・ 4・6・12	1990/6/27	1990/6/27	90BBHQ034	文 269	3	1056 と重複
1159	朝堂院	▲	上京区丸太町通千本東入中務町 491-71	1990/7/4	1990/7/4	90BBHQ035	文 269	5	
1160	茶 園	▲	上京区大宮通中立売上る糸屋町 202-17	1990/7/6	1990/7/6	90BBHQ036	文 269	3	
1161	大 蔵	●	上京区仁和寺街道六軒町西入上る四番町 114、 117-5	1990/7/9	1990/7/9	90BBHQ037	文 269	2	
1162	宴松原	▲	中京区聚樂廻西町 182-10	1990/7/11	1990/7/11	90BBHQ038	文 269	4	
1163	右近衛	●	上京区御前通下立売上る三丁目西上之町 255	1990/7/13	1990/7/13	90BBHQ039	文 269	1	1176 と重複
1164	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 18-17	1990/7/17	1990/7/17	90BBHQ040	文 269	4	
1165	造酒司	▲	中京区聚樂廻松下町 11	1990/7/20	1990/7/20	90BBHQ041	文 269	4	
1166	朝堂院	○	中京区聚樂廻南町 JR 西日本山陰本線	1990/7/23	1990/8/4	89HKIT002-3	文 306-5	5	朝堂院調査 15
1167	宴松原	●	中京区聚樂廻西町 182-2・11	1990/7/24	1990/7/24	90BBHQ042	文 269	4	
1168	内膳司	▲	上京区下長者町通千本東入二本松町 9	1990/7/30	1990/7/30	90BBHQ043	文 269	2	
1169	右馬寮	▲	上京区西ノ京右馬寮町 8-13	1990/7/30	1990/7/30	90BBHQ044	文 269	4	
1170	侍従厨	●	中京区二条城町 541	1990/7/31	1990/7/31	90BBHQ045	文 269	6	
1171	東雅院	▲	上京区下立売通日暮東入浮田町 603	1990/7/31	1990/7/31	90BBHQ046	文 269	3	
1172	朝堂院	■	上京区丸太町通千本東入下る中務町 491-44 他	1990/8/6	1990/9/14	90HKDP	文 269-1	5	朝堂院調査 1
1173	宴松原	▲	上京区七本松通仁和寺街道下る二番町 211-12	1990/8/8	1990/8/8	90BBHQ047	文 269	1	
1174	太政官	▲	上京区千本通丸太町下る東入主税町 826-28	1990/8/10	1990/8/10	90BBHQ048	文 269	5	
1175	宴松原	▲	中京区聚樂廻西町 64	1990/8/13	1990/8/13	90BBHQ049	文 269	5	
1176	右近衛	■	上京区御前通下立売上る三丁目西上之町 255	1990/8/17	1990/8/31	90HKDQ	文 270-2	1	西方調査 3
1177	中務省	●	上京区下立売通千本東入下る中務町 931 他	1990/8/22	1990/9/12	90BBHQ050	文 269	6	中務省調査 21
1178	左馬寮	●	中京区西ノ京左馬寮町 11-13	1990/8/27	1990/8/27	90BBHQ051	文 269	4	
1179	豊楽院	▲	中京区聚樂廻西町 142-5	1990/8/27	1990/8/27	90BBHQ052	文 269	4	
1180	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 8-12	1990/8/27	1990/8/27	90BBHQ053	文 269	4	
1181	一 条	●	上京区一条通御前東入西町 21	1990/8/30	1990/8/30	90BBHR047	文 269	1	
1182	右近衛	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 231-4	1990/8/31	1990/8/31	90BBHQ054	文 269	1	
1183	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 1-17	1990/9/3	1990/9/3	90BBHQ055	文 269	5	
1184	内 裏	▲	上京区淨福寺通下立売上る田中町 472	1990/9/5	1990/9/5	90BBHQ056	文 269	3	
1185	内 裏	▲	上京区下立売通千本東入下る中務町 486-62・78	1990/9/7	1990/9/7	90BBHQ057	文 269	6	
1186	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 10-15	1990/9/7	1990/9/7	90BBHQ058	文 269	4	
1187	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 10-15 の一部	1990/9/7	1990/9/7	90BBHQ059	文 269	4	
1188	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 237-5	1990/9/10	1990/9/10	90BBHQ060	文 269	1	
1189	朝堂院	▲	中京区聚樂廻東町 23-5	1990/9/10	1990/9/10	90BBHQ061	文 269	5	
1190	豊楽院	▲	中京区聚樂廻西町 188-63	1990/9/20	1990/9/25	90BBHQ062	文 269	4	
1191	一 条	▲	上京区七本松通一条下る三軒町 48、48-10・12	1990/9/27	1990/9/27	90BBHR057	文 269	1	
1192	太政官	●	上京区淨福寺通丸太町下る主税町 1044	1990/10/5	1990/10/5	90BBHQ063	文 269	6	
1193	大 蔵	▲	上京区一条通七本松三軒町 68 の一部、70-1 の一部	1990/10/16	1990/10/16	90BBHQ064	文 269	1	
1194	宴松原	▲	中京区聚樂廻西町 166-13	1990/10/18	1990/10/18	90BBHQ065	文 269	5	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1195	真言院	▲	中京区聚楽廻西町 163-10	1990/10/19	1990/10/19	90BBHQ066	文 269	2	
1196	宴松原	▲	上京区下立売通七本松東入長門町 435	1990/10/20	1990/10/20	90BBHQ067	文 269	2	
1197	太政官	▲	上京区土屋町通丸太町下る東入主税町 1072	1990/10/22	1990/10/22	90BBHQ068	文 269	5	
1198	内 裏	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 240-18	1990/10/22	1990/10/22	90BBHQ069	文 269	3	
1199	大 蔵	▲	上京区淨福寺通中立売下る菱丸町 180	1990/10/23	1990/10/23	90BBHQ070	文 269	3	
1200	大 蔵	▲	上京区淨福寺通一条下る東西俵屋町 653-3	1990/10/30	1990/10/30	90BBHQ071	文 269	2	
1201	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町地先	1990/11/1	1990/11/1	90BBHQ072	文 269	4	
1202	大膳職	▲	上京区松屋町通丸太町上る三町目 659-2	1990/11/1	1990/11/1	90BBHQ073	文 269	6	
1203	右近衛	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 249-18	1990/11/9	1990/11/9	90BBHQ074	文 269	1	
1204	右近衛	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 249-20	1990/11/9	1990/11/9	90BBHQ075	文 269	1	
1205	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 2	1990/11/13	1990/11/13	90BBHQ076	文 269	4	
1206	主殿寮	●	上京区智恵光院通一条下る新白水丸町 462-17、18	1990/11/14	1990/11/14	90BBHQ077	文 269	3	
1207	内 裏	▲	上京区出水通土屋町東入東神明町 282	1990/11/15	1990/11/15	90BBHQ078	文 269	2	
1208	縫殿寮	▲	上京区淨福寺通上長者町下る長谷町 195	1990/11/19	1990/11/19	90BBHQ079	文 269	3	
1209	朝堂院	▲	上京区千本通下立売下る小山町 889-16	1990/11/19	1990/11/19	90BBHQ080	文 269	5	
1210	茶 園	▲	上京区智恵光院通一条下る東入新白水丸町 462	1990/12/1	1990/12/1	90BBHQ081	文 269	3	
1211	兵庫寮	▲	上京区中立売通七本松西入三軒町 69-11	1990/12/1	1990/12/1	90BBHQ082	文 269	1	
1212	縫殿寮	●	上京区土屋町通上長者町下る山王町 503-6	1990/12/3	1990/12/3	90BBHQ083	文 269	2	
1213	豊樂院	○	中京区聚楽廻西町 JR 西日本山陰本線	1990/12/5	1990/12/14	89HKIT002-6	文 306-5	4	豊樂院調査 5
1214	大 蔵	▲	上京区中立売通六軒町下る四番町 106-4	1990/12/6	1990/12/6	90BBHQ084	文 269	2	
1215	中務省	●	上京区下立売通千本東入下る中務町 490-37	1990/12/7	1990/12/7	90BBHQ085	文 269	5	1223 と重複
1216	西大宮	▲	上京区御前通一条下る東堅町 131-1	1990/12/14	1990/12/14	90BBHR084	文 269	1	
1217	職御曹	●	上京区智恵光院通出水上る天秤丸町 194 他	1990/12/17	1990/12/17	90BBHQ086	文 269	3	
1218	真言院	▲	中京区聚楽廻西町 163-14	1990/12/21	1990/12/21	90BBHQ087	文 269	2	
1219	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 11-17	1991/1/7	1991/1/7	90BBHQ088	文 281	4	
1220	真言院	▲	中京区聚楽廻西町 165	1991/1/10	1991/1/16	90BBHQ089	文 281	2	内裏調査 42
1221	大炊寮	●	上京区竹屋町通猪熊西入藁屋町 536	1991/1/28	1991/1/28	90BBHQ090	文 280	6	
1222	右近衛	▲	上京区御前通下長者町下る東入三助町 281	1991/1/29	1991/1/29	90BBHQ091	文 281	1	
1223	中務省	■	上京区下立売通千本東入中務町 490-37	1991/1/29	1991/2/18	90HKDR	文 282-2	5	中務省調査 13
1224	大膳職	●	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町 751 他	1991/1/30	1991/1/30	90BBHQ092	文 280	6	
1225	大 蔵	▲	上京区中立売通六軒町東入四番町 122-15	1991/2/4	1991/2/4	90BBHQ093	文 281	2	
1226	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 15	1991/2/4	1991/2/4	90BBHQ094	文 281	5	
1227	左 近衛	▲	上京区出水通松屋町西入西天秤町 147-2	1991/2/5	1991/2/5	90BBHQ095	文 281	3	
1228	右 近衛	▲	上京区御前通下立売上る三丁目西上之町 245-30	1991/2/8	1991/2/8	90BBHQ096	文 281	1	
1229	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 31-28	1991/2/12	1991/2/12	90BBHQ097	文 281	5	
1230	西 雅院	●	上京区日暮通丸太町上る西入西院町 747-11	1991/3/12	1991/3/12	90BBHQ098	文 280	6	
1231	左 近衛	▲	上京区上長者町通松屋町西入須浜東町 449	1991/3/12	1991/3/12	90BBHQ099	文 281	3	
1232	二 条	▲	中京区西ノ京小堀町 2-10	1991/3/25	1991/3/25	90BBHL173	文 281	5	
1233	内 裏	▲	上京区土屋町通下立売下る田中町 441	1991/4/5	1991/4/5	91BBHQ014	文 281	2	
1234	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 115-1	1991/5/1	1991/5/1	91BBHQ040	文 281	2	
1235	大蔵庁	▲	上京区七本松通仁和寺街道上る一番町 107	1991/5/7	1991/5/7	91BBHQ046	文 281	1	
1236	主水司	▲	上京区丸太町通千本東入中務町 486-20	1991/5/8	1991/5/8	91BBHQ052	文 281	6	
1237	太政官	▲	上京区千本通竹屋町東入下る主税町 827-18	1991/6/4	1991/6/4	91BBHQ077	文 281	6	太政官調査 18
1238	内 裏	▲	上京区下立売通淨福寺東入下丸屋町 493	1991/6/4	1991/6/4	91BBHQ082	文 281	3	
1239	宴松原	▲	上京区七本松通下立売上る七番町 351-39	1991/6/11	1991/6/11	91BBHQ086	文 281	1	
1240	朝堂院 豊樂院 左馬寮	■	中京区西ノ京梅尾町地内 JR 二条駅構内	1991/6/11	1992/3/31	91HKIT003	文 307-4	4・5	朝堂院調査 16・ 豊樂院調査 5・ 西方調査 14
1241	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 107-3	1991/7/4	1991/7/4	91BBHQ117	文 281	2	
1242	左 近衛	▲	上京区松屋町通出水上る南清水町 131-1	1991/7/8	1991/7/8	91BBHQ121	文 281	3	
1243	内 教坊	▲	上京区松屋町通中立売下る神明町 443-7	1991/7/12	1991/7/12	91BBHQ125	文 281	3	
1244	左 近衛	▲	上京区出水通智恵光院東入金馬場町 178	1991/7/12	1991/7/12	91BBHQ126	文 281	3	
1245	朝堂院	▲	上京区千本通二条下る東入主税町 819	1991/7/22	1991/7/22	91BBHQ135	文 281	5	
1246	朝堂院	▲	上京区下立売通千本東入下る中務町 491-64	1991/7/25	1991/7/25	91BBHQ144	文 281	5	
1247	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 14	1991/7/26	1991/7/26	91BBHQ145	文 281	4	1250 と重複
1248	豊樂院	▲	中京区聚楽廻南町 19-44	1991/7/29	1991/7/29	91BBHQ147	文 281	5	
1249	内 裏	▲	上京区淨福寺通出水上る白銀町 264	1991/7/31	1991/7/31	91BBHQ150	文 281	3	
1250	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 14	1991/8/5	1991/8/5	91BBHQ157	文 281	4	
1251	縫殿寮	▲	上京区下長者町通土屋町東入新御幸町 40	1991/8/19	1991/8/20	91BBHQ164	文 281	3	
1252	宮内省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 115-1	1991/8/20	1991/8/20	91BBHQ172	文 281	6	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1253	朝堂院	▲	中京区聚楽廻南町 38	1991/8/23	1991/8/26	91BBHQ178	文 281	5	
1254	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 19-8	1991/8/26	1991/8/26	91BBHQ180	文 281	5	
1255	宴松原	▲	中京区聚楽廻西町 163-46	1991/8/26	1991/8/26	91BBHQ181	文 281	2	
1256	朝堂院	▲	上京区千本通竹屋町東入聚楽町 865	1991/8/31	1991/9/17	91BBHQ192	文 281	5	
1257	中務省	■	上京区楳木町通淨福寺西入中務町 490-90	1991/9/2	1991/9/21	91HKDT001	文 282-3	6	中務省調査 14
1258	右兵衛	▲	上京区御前通下立売東入西東町 364	1991/9/11	1991/9/11	91BBHQ203	文 281	1	
1259	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 99	1991/9/14	1991/10/3	91BBHQ187	文 281	5	
1260	中和院	▲	上京区千本通下立売下る小山町 908	1991/9/21	1991/9/24	91BBHQ208	文 281	5	
1261	左近衛	▲	上京区下長者町通松屋町西入西辰巳町 115	1991/9/26	1991/9/30	91BBHQ214	文 281	3	
1262	大 藏	▲	上京区千本通中立売上る西入西中筋町 19-47	1991/10/4	1991/10/7	91BBHQ223	文 281	2	
1263	左近衛	▲	上京区松屋町通下長者町下る南清水町 133-2	1991/10/11	1991/10/11	91BBHQ226	文 281	3	
1264	内 裏	▲	上京区淨福寺通下立売上る田中町 477	1991/10/15	1991/10/15	91BBHQ232	文 281	3	
1265	縫殿寮	▲	上京区土屋町通上長者町下る山王町 503	1991/10/18	1991/10/18	91BBHQ238	文 281	2	
1266	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 26	1991/10/18	1991/10/18	91BBHQ239	文 281	4	
1267	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 26	1991/10/18	1991/10/18	91BBHQ240	文 281	4	
1268	中務省	■	上京区土屋町通丸太町上る中務町 491-10	1991/10/21	1991/11/9	91HKU	文 282-4	5	中務省調査 15
1269	大 藏	▲	上京区七本松通中立売下る三軒町 71-12	1991/10/22	1991/10/24	91BBHQ245	文 281	1	
1270	内蔵寮	▲	上京区上長者町通千本東入愛染寺町 482-3・4	1991/10/24	1991/10/24	91BBHQ246	文 281	2	
1271	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る二丁目仲之町 290	1991/10/28	1991/10/28	91BBHQ247	文 281	1	
1272	大膳職	▲	上京区楳木町通大宮西入中書町 691-2	1991/10/28	1991/10/28	91BBHQ248	文 281	6	
1273	左近衛	▲	上京区松屋町通出水上る南清水町 134	1991/10/29	1991/10/29	91BBHQ252	文 281	3	
1274	左近衛	▲	上京区松屋町通出水上る西天秤町 148	1991/10/31	1991/11/1	91BBHQ256	文 281	3	
1275	中務省	■	上京区下立売通千本東入中務町 490-43	1991/11/6	1991/11/16	91HKD	文 282-1	5	中務省調査 16
1276	宴松原	▲	上京区七本松通下立売上る七番町 329-4	1991/11/11	1991/11/12	91BBHQ280	文 281	2	
1277	大膳職	▲	上京区松屋町通丸太町上る三丁目 663	1991/11/14	1991/11/15	91BBHQ274	文 281	6	
1278	内 裏	▲	上京区淨福寺通下立売下る中務町 487 出水小学校	1991/11/27	1991/11/27	91BBHQ278	文 281	6	
1279	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 15-21	1991/11/30	1991/11/30	91BBHQ281	文 281	4	
1280	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る二丁目仲之町 289-15	1991/12/3	1991/12/3	91BBHQ289	文 281	1	
1281	朝堂南	▲	中京区西ノ京梅尾町	1991/12/6	1991/12/6	91BBHR292	文 281	5	
1282	大 藏	▲	上京区一条通千本西入烏丸町 376-1 他	1991/12/10	1991/12/10	91BBHQ296	文 281	2	
1283	一 条	◆	上京区七本松通今出川下る元觀音町地先他	1991/12/11	1991/12/11	91BBHQ299	文 281	1	
1284	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る三丁目西上之町 278-33	1991/12/19	1991/12/19	91BBHQ309	文 281	1	
1285	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 29	1991/12/26	1991/12/26	91BBHQ312	文 281	4	
1286	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 234-2	1992/1/16	1992/1/16	91BBHQ317	文 284	1	
1287	宴松原	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 295-1	1992/1/16	1992/1/20	91BBHQ316	文 284	1	
1288	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 4-3 の一部	1992/1/17	1992/1/20	91BBHQ319	文 284	4	
1289	豊楽院	▲	中京区聚樂廻西町 184	1992/1/20	1992/1/21	91BBHQ328	文 284	4	
1290	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 24	1992/1/21	1992/1/22	91BBHQ333	文 284	4	
1291	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 4-3 の一部	1992/1/28	1992/1/28	91BBHQ346	文 284	4	
1292	廩 院	▲	上京区竹屋町通日暮西入四丁目 802-29	1992/2/12	1992/2/13	91BBHQ359	文 284	6	
1293	中和院	▲	上京区下立売通千本西入稻葉町 451-5	1992/2/18	1992/2/18	91BBHQ374	文 284	2	
1294	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 21-1	1992/2/24	1992/2/24	91BBHQ382	文 284	4	
1295	大 藏	◆	上京区七本松通中立売下る三軒町地先他	1992/2/26	1992/3/19	91BBHQ387	文 284	1	
1296	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 8-14	1992/2/28	1992/3/7	91BBHQ390	文 284	4	
1297	縫殿寮	▲	上京区淨福寺通下長者町上る坤高町 59	1992/3/4	1992/3/4	91BBHQ395	文 284	3	
1298	大 藏	▲	上京区仁和寺街道七本松東入一番町 93-6	1992/3/4	1992/3/4	91BBHQ396	文 284	1	
1299	大 藏	▲	上京区淨福寺通中立売下る菱丸町 184	1992/3/9	1992/3/13	91BBHQ401	文 284	3	
1300	一 条	▲	上京区一条通土屋町東入伊勢殿構町 269-1	1992/3/10	1992/3/10	91BBHL405	文 284	2	
1301	中務省	▲	上京区千本通丸太町下る東入主税町 985	1992/3/11	1992/3/11	91BBHQ409	文 284	6	
1302	左近衛	▲	上京区出水通松屋町西入西天秤町 155	1992/3/23	1992/3/23	91BBHQ418	文 284	3	
1303	一 条	▲	上京区一条通七本松西入東町 32	1992/3/30	1992/4/3	91BBHR429	文 284	1	
1304	大炊寮	▲	上京区大宮通丸太町下る藁屋町 536-8・68	1992/4/3	1992/4/3	92BBHQ005	文 284	6	
1305	大膳職	▲	上京区丸太町通日暮西入北伊勢屋町 742	1992/4/8	1992/4/9	92BBHQ011	文 284	6	
1306	典蔵寮	▲	中京区聚樂廻松下町 1-18・19	1992/4/9	1992/4/9	92BBHQ012	文 284	4	
1307	縫殿寮	▲	上京区下長者町通裏門西入坤高町 86-3	1992/4/13	1992/4/14	92BBHQ019	文 284	3	
1308	西雅院	▲	上京区日暮通丸太町上る西入西院町 747-75	1992/4/14	1992/4/14	92BBHQ023	文 284	6	
1309	大 藏	▲	上京区仁和寺街道千本東入西富仲町 465	1992/4/15	1992/4/16	92BBHQ024	文 284	2	
1310	内教坊	▲	上京区中立売通日暮東入新白水丸町 454-1	1992/4/16	1992/4/20	92BBHQ025	文 284	3	
1311	宴松原	◆	上京区七本松通下長者町下る三番町地先他	1992/4/23	1992/6/8	92BBHQ036	文 284	1	中央調査 18

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1312	大 蔵	▲	上京区中立壳通淨福寺東入新辯屋町 421	1992/5/1	1992/5/1	92BBHQ050	文 284	3	
1313	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 239-9	1992/5/8	1992/5/11	92BBHQ054	文 284	1	
1314	西 雅院	▲	上京区智恵光院通丸太町上る西院町 746-70	1992/5/12	1992/5/12	92BBHQ060	文 284	6	
1315	内 裏	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 241 の一部	1992/5/15	1992/5/19	92BBHQ061	文 284	3	
1316	内教坊	▲	上京区日暮通中立壳下る須浜池町 247	1992/5/19	1992/5/19	92BBHQ067	文 284	3	
1317	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 27-8	1992/5/20	1992/5/20	92BBHQ063	文 284	4	
1318	大 蔵	▲	上京区千本通一条下る西入西中筋町 19-53	1992/5/20	1992/5/21	92BBHQ070	文 284	2	
1319	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 2-19	1992/5/22	1992/5/22	92BBHQ072	文 284	4	
1320	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 2-19	1992/5/22	1992/5/25	92BBHQ073	文 284	4	1321 と重複
1321	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 2-19	1992/6/4	1992/6/4	92BBHQ084	文 284	4	
1322	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 2-19	1992/6/4	1992/6/4	92BBHQ085	文 284	4	
1323	内教坊	▲	上京区松屋町通中立壳下る神明町 440-12	1992/6/5	1992/6/5	92BBHQ091	文 284	3	
1324	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 26-8・9	1992/6/9	1992/6/10	92BBHQ096	文 284	4	
1325	縫殿寮	▲	上京区土屋町通下長者町上る山王町 511-7	1992/6/10	1992/6/11	92BBHQ098	文 284	3	
1326	大 蔵	▲	上京区中立壳通千本東入丹波屋町 366-1	1992/6/12	1992/6/19	92BBHQ101	文 284	2	
1327	宴松原	▲	上京区七本松通出水下る七番町 351	1992/6/16	1992/6/17	92BBHQ104	文 284	1	
1328	宴松原	▲	上京区七本松通出水上る西入三番町 274	1992/6/20	1992/6/20	92BBHQ110	文 284	1	
1329	大 蔵	▲	上京区千本通一条下る西入西中筋町 19-66	1992/6/29	1992/6/29	92BBHQ122	文 284	2	
1330	大膳職	▲	上京区日暮通丸太町上る北伊勢屋町 738	1992/7/3	1992/7/3	92BBHQ128	文 284	6	
1331	掃部寮	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 294-33	1992/7/6	1992/7/6	92BBHQ133	文 284	2	
1332	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 29-8	1992/7/6	1992/7/10	92BBHQ134	文 284	4	西方調査 13
1333	中和院	▲	上京区下立壳通千本西入稻葉町 465-1、466-4	1992/7/7	1992/8/25	92BBHQ135	文 284	2	
1334	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 6-10・11	1992/7/24	1992/7/27	92BBHQ153	文 284	5	
1335	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る西上之町 265	1992/7/30	1992/7/30	92BBHQ162	文 284	1	
1336	左馬寮	○	中京区西ノ京左馬寮町 3-1 朱雀第二小学校	1992/8/6	1992/8/20	92HKAH002	付章 19	4	西方調査 15
1337	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 7-10	1992/8/7	1992/8/10	92BBHQ168	文 284	4	
1338	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町	1992/8/20	1992/8/21	92BBHQ173	文 284	2	
1339	内 裏	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 240-10	1992/8/26	1992/8/27	92BBHQ178	文 284	3	
1340	大 蔵	▲	上京区七本松通中立壳下る東入一番町 92	1992/8/27	1992/8/29	92BBHQ181	文 284	2	
1341	右兵衛	▲	上京区下立壳通御前東入西東町 353	1992/8/28	1992/8/29	92BBHQ183	文 284	1	
1342	主殿寮	▲	上京区裏門通一条下る今新在家町 206-9	1992/9/4	1992/9/7	92BBHQ196	文 284	3	
1343	中務省	■	上京区丸太町通千本東入中務町 491	1992/9/7	1992/9/25	92HKDY	文 285-1	5	中務省調査 17
1344	判 事	▲	中京区西ノ京右馬寮町 15	1992/9/17	1992/9/21	92BBHQ214	文 284	4	
1345	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 2	1992/9/18	1992/9/21	92BBHQ216	文 284	5	
1346	内教坊	▲	上京区日暮通上長者町上る須浜町 571-10	1992/9/22	1992/9/22	92BBHQ220	文 284	3	
1347	豊樂院	▲	中京区聚楽廻西町 124-2	1992/10/5	1992/10/5	92BBHQ232	文 284	5	
1348	宴松原	▲	中京区聚楽廻中町 29-1	1992/10/5	1992/10/6	92BBHQ231	文 284	5	
1349	朝堂南	▲	中京区聚楽廻南町 30-3	1992/10/6	1992/10/13	92BBHQ236	文 284	5	
1350	内匠寮	▲	上京区御前通丸太町上る下之町 400	1992/10/15	1992/10/15	92BBHQ241	文 284	1	
1351	内匠寮	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 388-18	1992/10/19	1992/10/19	92BBHQ249	文 284	1	
1352	豊樂院	▲	中京区聚楽廻西町 186-24・89	1992/10/22	1992/10/22	92BBHQ252	文 284	4	
1353	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 21	1992/10/23	1992/10/23	92BBHQ256	文 284	4	
1354	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 8-52	1992/10/23	1992/10/23	92BBHQ257	文 284	4	
1355	大 蔵	▲	上京区上長者町通千本西入五番町 170	1992/10/27	1992/10/27	92BBHQ264	文 284	2	
1356	宴松原	▲	中京区聚楽廻西町 166-7	1992/11/2	1992/11/2	92BBHQ273	文 284	4	
1357	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 3-1 朱雀第二小学校	1992/11/5	1992/11/5	92BBHQ275	文 284	4	
1358	造酒司	▲	中京区聚楽廻松下町 9	1992/11/6	1992/11/6	92BBHQ278	文 284	4	
1359	左馬寮	■	中京区西ノ京左馬寮町 3-1 朱雀第二小学校	1992/11/16	1993/3/24	92HKL001	付章 19	4	西方調査 15
1360	主殿寮	▲	上京区裏門通一条下る今新在家町 206-14	1992/12/1	1992/12/1	92BBHQ299	文 284	3	
1361	内藏寮	▲	上京区上長者町通千本東入愛染町 486-3、487-2	1992/12/14	1992/12/14	92BBHQ311	文 284	2	
1362	内教坊	▲	上京区松屋町通中立壳下る神明町 440-8	1992/12/16	1992/12/16	92BBHQ316	文 284	3	
1363	内教坊	▲	上京区松屋町通中立壳下る神明町 440-9	1992/12/16	1992/12/16	92BBHQ317	文 284	3	
1364	内教坊	▲	上京区松屋町通中立壳下る神明町 440-10	1992/12/16	1992/12/16	92BBHQ318	文 284	3	
1365	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 13-6	1992/12/21	1992/12/21	92BBHQ315	文 284	4	
1366	内 裏	▲	上京区下立壳通千本東入下る中務町 490-25	1992/12/24	1992/12/24	92BBHQ321	文 284	5	
1367	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 2	1993/1/8	1993/1/12	92BBHQ326	文 300	4	
1368	式部省	▲	中京区西ノ京式部町 21	1993/1/8	1993/1/12	92BBHQ327	文 300	5	
1369	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る三丁目西上之町 278	1993/1/18	1993/1/18	92BBHQ331	文 300	1	
1370	南 所	▲	上京区日暮通下立壳西入分銅町 568	1993/1/19	1993/1/19	92BBHQ335	文 300	3	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1371	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道七本松東入 99-9	1993/1/20	1993/1/20	92BBHQ341	文 300	1	
1372	掃部寮	▲	上京区六軒町通仁和寺街道下る西入四番町 151-63	1993/2/15	1993/2/15	92BBHQ356	文 300	2	
1373	宮内省	▲	上京区智恵光院通丸太町下る主税町 1233	1993/2/16	1993/2/16	92BBHQ361	文 300	6	
1374	武徳殿	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 247-4	1993/2/18	1993/2/19	92BBHQ364	文 300	1	
1375	中務省	■	上京区丸太町通智恵光院西入中務町 933	1993/2/22	1993/3/16	92HKDW	文 298-1	6	中務省調査 18
1376	東雅院	▲	上京区松屋町通権木町上る二町目 633-5	1993/2/25	1993/2/25	92BBHQ372	文 300	6	
1377	西雅院	▲	上京区下立売通千本東入下る中務町 486-57	1993/2/26	1993/3/1	92BBHQ376	文 300	6	
1378	豊楽院	▲	中京区聚楽廻南町 19-40	1993/2/26	1993/3/1	92BBHQ378	文 300	5	
1379	内匠寮	▲	上京区御前通丸太町上る下之町 414	1993/3/8	1993/3/8	92BBHQ388	文 300	4	
1380	縫殿寮	▲	上京区上長者町通土屋町東入山王町 495	1993/3/9	1993/3/11	92BBHQ399	文 300	2	
1381	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 1-11	1993/3/9	1993/3/12	92BBHQ400	文 300	4	
1382	豊楽院	▲	中京区聚楽廻南町 8	1993/3/15	1993/3/16	92BBHQ406	文 300	4	
1383	内 裏	▲	上京区淨福寺通下立売上る田中町 477-40	1993/3/19	1993/3/19	92BBHQ412	文 300	3	
1384	内膳司	▲	上京区下長者町通千本西入六番町 375-10	1993/3/24	1993/3/25	92BBHQ419	文 300	2	
1385	内膳司	▲	上京区下長者町通千本東入二本松町 6-6	1993/3/24	1993/3/29	92BBHQ418	文 300	2	
1386	左馬寮	■	中京区西ノ京左馬寮町 3-1 朱雀第二小学校	1993/3/25	1993/6/15	92HKL002	付章 19	4	西方調査 15
1387	中和院	▲	上京区千本通下立売下る稻葉町 472	1993/3/26	1993/3/29	92BBHQ421	文 300	5	
1388	左近衛	▲	上京区日暮通上長者町上る須浜町 571	1993/4/1	1993/4/2	93BBHQ002	文 300	3	
1389	左近衛	▲	上京区出水通大宮西入東天秤町 135	1993/4/6	1993/4/7	93BBHQ004	文 300	3	
1390	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る三丁目東入三助町 281-2	1993/4/13	1993/4/13	93BBHQ014	文 300	1	
1391	右兵衛	▲	上京区御前通下立売上る天満屋町 326	1993/4/23	1993/4/23	93BBHQ026	文 300	1	
1392	大炊寮	▲	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町 766-1	1993/4/26	1993/4/27	93BBHQ031	文 300	6	
1393	茶 園	▲	上京区松屋町通中立売上る新白水丸町 462	1993/4/30	1993/5/6	93BBHQ035	文 300	3	
1394	中和院	▲	上京区千本通出水下る十四軒町 413-46	1993/5/10	1993/5/11	93BBHQ050	文 300	2	
1395	典蔵寮	▲	中京区西ノ京車坂町 2-6	1993/5/12	1993/5/12	93BBHQ055	文 300	4	
1396	豊楽院	▲	中京区聚楽廻西町 188-33	1993/5/12	1993/5/19	93BBHQ054	文 300	4	
1397	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 244-4	1993/5/19	1993/5/20	93BBHQ063	文 300	1	
1398	縫殿寮	▲	上京区上長者町通淨福寺西入新柳馬場頭町 533-2	1993/5/19	1993/5/21	93BBHQ062	文 300	3	
1399	大 蔵	▲	上京区中立売通淨福寺西入加賀屋町 396-18 他	1993/5/20	1993/5/20	93BBHQ066	文 300	3	
1400	右近衛	▲	上京区御前通下立売東入鳳瑞町 257	1993/6/2	1993/6/3	93BBHQ080	文 300	1	
1401	造酒司	▲	上京区下立売通七本松西入西東町 369-3, 372-4	1993/6/16	1993/6/16	93BBHQ094	文 300	1	
1402	大 蔵	▲	上京区上長者町通淨福寺西入山王町 499、500	1993/6/17	1993/6/18	93BBHQ099	文 300	2	
1403	南 所	▲	上京区下立売通智恵光院東入中村町地先他	1993/6/17	1993/9/24	93BBHQ100	文 300	3	656 と重複
1404	掃部寮	▲	上京区六軒町通仁和寺街道下る四番町 138	1993/6/24	1993/7/6	93BBHQ106	文 300	2	
1405	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 31-20	1993/7/5	1993/7/5	93BBHQ115	文 300	5	
1406	朝堂院	▲	上京区千本通二条下る東入主税町 803-2	1993/7/6	1993/7/6	93BBHQ117	文 300	5	
1407	職御曹	▲	上京区裏門通出水上的白銀町 251-8	1993/7/7	1993/7/7	93BBHQ120	文 300	3	
1408	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道千本東入西富仲町 683-6	1993/7/8	1993/7/8	93BBHQ122	文 300	2	
1409	大藏庁	▲	上京区下の森通仁和寺街道上る二番町 194-26	1993/7/8	1993/7/15	93BBHQ121	文 300	1	
1410	右近衛	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 388-1	1993/7/12	1993/7/12	93BBHQ127	文 300	1	
1411	東雅院	▲	上京区日暮通権木町上る櫛箭町 700、701	1993/7/16	1993/7/16	93BBHQ137	文 300	6	
1412	右近衛	▲	上京区御前通下立売上る三丁目西上之町 278-14	1993/7/21	1993/7/22	93BBHQ145	文 300	1	西方調査 4
1413	中和院	▲	上京区下立売通千本東入田中町 4-5	1993/7/27	1993/7/29	93BBHQ152	文 300	2	内裏調査 23
1414	太政官	▲	上京区千本通丸太町東入主税町 1037-2	1993/7/30	1993/8/3	93BBHQ157	文 300	6	
1415	中和院	▲	上京区下立売通千本東入田中町 433	1993/8/2	1993/8/2	93BBHQ160	文 300	2	
1416	治部省	▲	中京区西ノ京内畠町 11-12	1993/8/2	1993/8/2	93BBHQ162	文 300	4	
1417	左馬寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 10-22	1993/8/2	1993/8/5	93BBHQ161	文 300	4	
1418	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 6-41	1993/8/4	1993/8/4	93BBHQ166	文 300	4	
1419	宴松原	▲	上京区出水通千本西入七番町 323-1	1993/8/4	1993/8/9	93BBHQ165	文 300	2	
1420	大 蔵	▲	上京区中立売通千本東入加賀屋町 385	1993/8/5	1993/8/6	93BBHQ168	文 300	2	
1421	内教坊	▲	上京区松屋町通上長者町上る神明町 445-2	1993/8/6	1993/8/6	93BBHQ169	文 300	3	
1422	右近衛	▲	上京区仁和寺街道七本松西入鳳瑞町 775-26	1993/8/6	1993/8/6	93BBHQ170	文 300	1	
1423	右近衛	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 231-9	1993/8/23	1993/8/23	93BBHQ178	文 300	1	
1424	大 蔵	◆	上京区千本通上長者町上る革堂前之町地先他	1993/8/23	1993/8/23	93BBHQ179	文 300	2	
1425	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 29、48	1993/9/6	1993/9/6	93BBHQ207	文 300	4	
1426	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 111	1993/9/7	1993/9/7	93BBHQ205	文 300	2	
1427	大 蔵	▲	上京区千本通一条下る西入西中筋町 19	1993/9/10	1993/9/10	93BBHQ210	文 300	2	
1428	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 17-11・12	1993/9/10	1993/9/10	93BBHQ214	文 300	4	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1429	太政官	▲	上京区千本通丸太町下る東入主税町 1045	1993/9/20	1993/9/20	93BBHQ216	文 300	6	
1430	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 1-7	1993/9/21	1993/9/21	93BBHQ219	文 300	4	
1431	内膳司	▲	上京区出水通千本東入尼ヶ崎横町 350-4	1993/9/24	1993/9/24	93BBHQ229	文 300	2	
1432	内 裏	▲	上京区土屋町通出水上る弁天町 311-10	1993/9/24	1993/10/5	93BBHQ230	文 300	2	
1433	式部省	▲	中京区西ノ京式部町 20-2	1993/10/4	1993/10/4	93BBHQ243	文 300-1	5	中央調査 8
1434	右馬寮	◆	中京区太子道通（西大路通～御前通）地内	1993/10/4	1993/11/15	93BBHR240	文 300	4	
1435	内 裏	▲	上京区千本通下立壳下る小山町 908-84	1993/10/5	1993/10/12	93BBHQ246	文 300	5	内裏調査 41
1436	内 裏	▲	上京区裏門通出水上る白銀町 246	1993/10/20	1993/10/21	93BBHQ264	文 300	3	1442 と重複
1437	大膳職	▲	上京区松屋町通丸太町上る三丁目 655	1993/10/20	1993/10/21	93BBHQ265	文 300	6	
1438	宴松原	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 294	1993/11/2	1993/11/2	93BBHQ285	文 300	2	
1439	宴松原	▲	上京区下長者町通六軒町西入利生町 294	1993/11/2	1993/11/2	93BBHQ286	文 300	2	
1440	二 条	○	中京区西ノ京梅尾町地内（JR 二条駅構内）	1993/11/10	1994/1/28	93HKUI005	付章 39	5	
1441	内藏寮	▲	上京区千本通（今出川通～上長者町通）	1993/11/15	1994/2/7	93BBHQ297	文 300	2	
1442	内 裏	▲	上京区裏門通下長者町下る白銀町 246	1993/11/17	1993/11/19	93BBHQ302	文 300	3	
1443	朝堂院	▲	上京区千本通丸太町下る聚楽町 863-5	1993/11/22	1993/11/22	93BBHQ311	文 300	5	
1444	左近衛	▲	上京区大宮通上長者町下る東堀町 629 の一部	1993/11/24	1993/11/24	93BBHQ313	文 300	3	
1445	左近衛	▲	上京区大宮通上長者町下る東堀町 629 の一部	1993/11/24	1993/11/24	93BBHQ314	文 300	3	
1446	大 藏	▲	上京区下の森通仁和寺街道上る二番町 194-35	1993/11/30	1993/12/1	93BBHQ321	文 300	1	
1447	内 裏	▲	上京区下立壳通土屋町下る小山町 908-82	1993/12/2	1993/12/2	93BBHQ327	文 300	2	
1448	宴松原	▲	上京区仁和寺街道七本松下る二番町 211-6	1993/12/6	1993/12/6	93BBHQ323	文 300	1	
1449	大 藏	▲	上京区七本松通一条下る三軒町 65-39	1993/12/6	1993/12/10	93BBHQ322	文 300	2	
1450	大 藏	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 122、123 他	1993/12/7	1993/12/13	93BBHQ324	文 300	2	
1451	一 条	▲	上京区一条通智恵光院東入鏡石町 24	1993/12/9	1993/12/13	93BBHL331	文 300	3	
1452	宴松原	▲	中京区聚楽廻中町 30-5	1993/12/13	1993/12/13	93BBHQ339	文 300	5	
1453	縫殿寮	▲	上京区上長者町通淨福寺西入新柳馬場頭町 522-1	1993/12/24	1993/12/24	93BBHQ348	文 300	3	
1454	縫殿寮	▲	上京区上長者町通淨福寺西入新柳馬場頭町 522-1	1993/12/24	1993/12/24	93BBHQ349	文 300	3	
1455	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る三助町 281-1	1994/1/5	1994/1/5	93BBHQ350	文 310	1	
1456	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 30-1・11	1994/1/7	1994/1/10	93BBHQ351	文 310	5	
1457	大 藏	▲	上京区仁和寺街道千本西入五番町 160	1994/1/12	1994/1/12	93BBHQ360	文 310	2	
1458	漆 室	▲	上京区御前通一条下る東堅町 132-2	1994/1/13	1994/1/14	93BBHQ363	文 310	1	
1459	豊樂院	▲	中京区聚楽廻西町 188-65	1994/1/13	1994/1/14	93BBHQ364	文 310	4	
1460	職御曹	▲	上京区日暮通出水西入金馬場町 163	1994/1/26	1994/1/26	93BBHQ381	文 310	3	
1461	大 藏	▲	上京区淨福寺通一条下る東西俵屋町 153	1994/1/27	1994/1/27	93BBHQ384	文 310	3	
1462	朝堂院	■	上京区竹屋町通千本東入主税町 1202	1994/2/7	1994/3/15	93HKDZ	文 308-1	5	朝堂院調査 5
1463	朝堂院	▲	上京区千本通下立壳下る小山町 889-17 他	1994/2/8	1994/2/8	93BBHQ399	文 310	5	
1464	豊樂院	▲	中京区聚楽廻中町 57-9	1994/2/14	1994/2/14	93BBHQ404	文 310	5	
1465	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る三丁目西上之町 259-2	1994/2/17	1994/2/22	93BBHQ411	文 310	1	
1466	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 23-2	1994/2/19	1994/2/19	93BBHQ409	文 310	5	
1467	宴松原	▲	上京区六軒町通下長者町下る七番町 330-1	1994/2/22	1994/2/22	93BBHQ414	文 310	2	
1468	豊樂院	▲	中京区聚楽廻西町 188-3	1994/3/11	1994/3/14	93BBHQ439	文 310	4	
1469	豊樂院	▲	中京区聚楽廻西町 124-1	1994/3/15	1994/3/15	93BBHQ442	文 310	5	
1470	朝堂院	▲	中京区聚楽廻南町 29	1994/3/16	1994/3/17	93BBHQ444	文 310	5	
1471	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 24-5	1994/3/23	1994/3/25	93BBHQ452	文 310	4	
1472	大 藏	▲	上京区淨福寺通一条下る東西俵屋町 151	1994/3/29	1994/3/29	93BBHQ465	文 310	3	
1473	左兵衛	▲	上京区下立壳通松屋町西入浮田町 603-1	1994/3/31	1994/3/31	93BBHQ471	文 310	3	
1474	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 13-53	1994/4/4	1994/4/4	94BBHQ007	文 310	4	
1475	内教坊	▲	上京区日暮通中立壳下る須浜池町 246-9	1994/4/5	1994/4/5	94BBHQ010	文 310	3	
1476	中和院 内藏寮	◇	上京区千本通（上長者町通～下立壳通）	1994/4/11	1994/6/21	94HKGG001	付章 40	2	内裏調査 29
1477	宴松原	▲	上京区六軒町通下立壳上る長門町 435	1994/4/18	1994/4/18	94BBHQ025	文 310	2	
1478	大 藏	▲	上京区中立壳通七本松東入三軒町地先他	1994/4/21	1994/5/25	94BBHQ031	文 310	2	1528 と重複
1479	大 藏	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町 106-1	1994/4/22	1994/4/22	94BBHQ033	文 310	2	
1480	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 15-18	1994/4/25	1994/4/25	94BBHQ034	文 310	4	
1481	左兵衛	▲	上京区出水通松屋町西入西天秤町 152	1994/4/27	1994/4/27	94BBHQ042	文 310	3	
1482	内膳司	▲	上京区出水通千本西入尼ヶ崎横町 355	1994/5/9	1994/5/9	94BBHQ047	文 310	2	
1483	右近衛	■	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 252、253、253-1	1994/5/9	1994/5/31	94HKZB001	文 308-3	1	
1484	縫殿寮	▲	上京区下長者町通淨福寺西入新御幸町 28-2	1994/5/17	1994/5/17	94BBHQ061	文 310	2	
1485	大膳職	▲	上京区大宮通楳木町下る一町目 855-1・6	1994/5/18	1994/5/19	94BBHQ062	文 310	6	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1486	中和院	▲	上京区千本通丸太町上る小山町地先	1994/5/25	1994/5/27	94BBHQ079	文 310	2	
1487	朝堂院	▲	中京区聚楽廻南町 37	1994/5/31	1994/5/31	94BBHQ082	文 310	5	
1488	朝堂院	○	上京区千本通（下立壳通～丸太町通）	1994/6/1	1994/6/3	94HKNT003	付章 41	5	朝堂院調査 30
1489	大膳職	▲	上京区丸太町通松屋町東入左馬松町 782-7 他	1994/6/1	1994/6/6	94BBHQ083	文 310	6	
1490	内 裏	■	上京区下立壳通千本東入田中町 434-5	1994/6/1	1994/7/4	94HKZJ001	文 308-2	2	内裏調査 7
1491	宴松原	▲	中京区聚楽廻西町 172、175 の一部	1994/6/6	1994/6/7	94BBHQ090	文 310	4	
1492	図書寮	▲	上京区下長者町通七本町西入鳳瑞町 239-12	1994/6/7	1994/6/7	94BBHQ096	文 310	1	
1493	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 225-28	1994/6/6	1994/6/10	94BBHQ089	文 310	1	
1494	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 225-28	1994/6/7	1994/6/10	94BBHQ094	文 310	1	
1495	図書寮	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 225-28	1994/6/7	1994/6/10	94BBHQ095	文 310	1	
1496	左近衛	▲	上京区日暮通下長者町上る西辰巳町 109-1	1994/6/8	1994/6/8	94BBHQ087	文 310	3	
1497	左近衛	▲	上京区日暮通下長者町上る西辰巳町 109-3	1994/6/8	1994/6/8	94BBHQ099	文 310	3	
1498	大膳職	▲	上京区日暮通丸太町上る南伊勢屋町 752	1994/6/8	1994/6/17	94BBHQ098	文 310	6	
1499	職御曹	▲	上京区智恵光院通出水上る天秤丸町 182-1・2	1994/6/21	1994/6/21	94BBHQ116	文 310	3	
1500	大炊寮	▲	上京区日暮通丸太町下る四町目 802-22	1994/6/27	1994/6/29	94BBHQ124	文 310	6	
1501	宴松原	▲	上京区下立壳通七本松東入長門町 435-54	1994/6/30	1994/6/30	94BBHQ130	文 310	2	
1502	朝堂院	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 1202	1994/7/1	1994/7/1	94BBHQ133	文 310	5	1462 と重複
1503	宮内省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 1234-2	1994/7/4	1994/7/4	94BBHQ150	文 310	6	
1504	職御曹	▲	上京区出水通智恵光院西入田村備前町 211-1	1994/7/7	1994/7/7	94BBHQ138	文 310	3	
1505	大蔵庁	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 200-1	1994/7/11	1994/7/12	94BBHQ140	文 310	1	
1506	豊楽院	◆	中京区聚楽廻中町地先	1994/7/11	1994/7/15	94BBHQ141	文 310	5	
1507	中務省	■	上京区下立壳通千本東入中務町 491-69	1994/7/11	1994/8/3	94HKZK001	文 308-4	5	中務省調査 19
1508	宴松原	▲	上京区七本松通下立壳上る七番町 351-54、351	1994/7/12	1994/7/15	94BBHQ143	文 310	1	
1509	内匠寮	▲	中京区西ノ京左馬寮町 26	1994/7/18	1994/7/18	94BBHQ172	文 310	4	
1510	内蔵寮	▲	上京区千本通（下長者町通～下立壳通）	1994/7/18	1994/12/9	94BBHQ153	文 310	2	
1511	判 事	▲	中京区西ノ京内畠町 13	1994/7/19	1994/7/22	94BBHQ154	文 310	4	
1512	主殿寮	▲	上京区中立壳通日暮東入新白水丸町 462-90	1994/7/20	1994/7/20	94BBHQ166	文 310	3	
1513	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道六軒町西入上る四番町 115-2	1994/7/20	1994/7/22	94BBHQ167	文 310	2	
1514	左近衛	▲	上京区上長者町通松屋町西入須浜東町 450	1994/7/27	1994/7/27	94BBHQ178	文 310	3	
1515	朝堂院 内膳司	△	上京区千本通（下長者町通～丸太町通）	1994/7/27	1994/8/5	94HKKZ006	付章 42	2	内裏調査 29
1516	式部省	▲	中京区西ノ京式部町 16	1994/8/2	1994/8/2	94BBHQ195	文 310	5	
1517	右兵衛	▲	上京区御前通下立壳上る天満屋町 324	1994/8/9	1994/8/10	94BBHQ202	文 310	1	
1518	大 蔵	▲	上京区六軒町通中立壳下る四番町 126-2	1994/8/18	1994/8/18	94BBHQ204	文 310	2	
1519	宮内省	▲	上京区竹屋町通千本東入主税町 1234-2	1994/8/29	1994/8/30	94BBHQ230	文 310	6	
1520	朝堂院	▲	中京区聚楽廻東町 31-36	1994/8/30	1994/8/31	94BBHQ226	文 310	5	
1521	中務省	■	上京区下立壳通千本東入中務町 486-22	1994/9/1	1994/10/13	94HKZL001	付章 20	6	中務省調査 20
1522	左近衛	▲	上京区上長者町通松屋町西入須浜東町 450-1	1994/9/2	1994/9/2	94BBHQ236	文 310	3	
1523	太政官	▲	上京区土屋町通丸太町下る主税町 1088	1994/9/5	1994/9/5	94BBHQ238	文 310	5	
1524	内蔵寮	▲	上京区上長者町通千本西入五番町 173	1994/9/5	1994/9/6	94BBHQ241	文 310	2	
1525	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 25-15	1994/9/7	1994/9/8	94BBHQ244	文 310	4	
1526	職御曹	▲	上京区智恵光院通出水上る天秤丸町 194-1	1994/9/14	1994/9/20	94BBHQ253	文 310	3	
1527	大 蔵	▲	上京区仁和寺街道土屋町東入西富仲町 464-1	1994/9/21	1994/9/21	94BBHQ264	文 310	2	
1528	大 蔵	◇	上京区中立壳通（七本松通～千本通）	1994/9/26	1994/11/24	94HKUW008	付章 43	2	
1529	内膳司	▲	上京区出水通千本西入尼ヶ崎横町 361-1	1994/9/30	1994/9/30	94BBHQ273	文 310	2	
1530	内 裏	▲	上京区下立壳通智恵光院西入下丸屋町 497	1994/10/5	1994/10/14	94BBHQ283	文 310	3	内裏調査 14
1531	内教坊	▲	上京区松屋町通中立壳下る神明町 440-14	1994/10/7	1994/10/12	94BBHQ284	文 310	3	
1532	朝堂院	▲	上京区千本通丸太町上る小山町	1994/10/11	1994/10/11	94BBHQ271	文 310	5	
1533	豊楽院 治部省	◇	中京区旧二条通～上押小路通、七本松通～六軒町通他地内	1994/10/11	1995/2/2	94HKUW007	付章 44	4・5	
1534	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 2-85・89	1994/10/14	1994/10/14	94BBHQ295	文 310	5	
1535	大 蔵	▲	上京区中立壳通六軒町西入三軒町 65-38	1994/10/19	1994/10/24	94BBHQ306	文 310	2	
1536	右近衛	▲	上京区下長者町通御前東入三助町 281	1994/10/24	1994/10/24	94BBHQ311	文 310	1	
1537	大 蔵	▲	上京区淨福寺通中立壳下る菱丸町 189	1994/10/24	1994/10/24	94BBHQ312	文 310	3	
1538	職御曹	▲	上京区出水通智恵光院東入金馬場町 163-7	1994/10/24	1994/10/25	94BBHQ313	文 310-1	3	東方調査 3
1539	朝堂院 内蔵寮	○	上京区千本通（下長者町通～丸太町通）	1994/10/26	1995/5/26	94HKZR001	付章 45	2・5	朝堂院調査 31
1540	右近衛	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 388-16・3	1994/10/26	1994/10/26	94BBHQ319	文 310	1	
1541	大 蔵	▲	上京区七本松通一条下る三軒町 64 他	1994/10/28	1994/10/31	94BBHQ324	文 310	2	
1542	内教坊	▲	上京区松屋町通中立壳下る神明町 440-13	1994/10/31	1994/11/1	94BBHQ328	文 310	3	

番号	役所名	調査	住 所	開始日	終了日	調査記号	文 献	図版	備 考
1543	右近衛	▲	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 257-6	1994/10/31	1994/11/1	94BBHQ329	文 310	1	
1544	兵部省	▲	中京区西ノ京内畠町 25-7	1994/10/31	1994/11/1	94BBHQ330	文 310	4	
1545	右近衛	▲	上京区御前通下立壳上る三丁目西上之町 278-27	1994/11/1	1994/11/1	94BBHQ332	文 310	1	
1546	朝堂院 内蔵寮	◇	上京区千本通（下長者町通～丸太町通）	1994/11/7	1994/11/24	94HKUW010	付章 45	2・5	朝堂院調査31・内裏調査 30
1547	二 条	◆	中京区西ノ京星池町地先他	1994/11/8	1994/12/14	94BBHR339	文 310	5	
1548	一 条	▲	上京区一条通御前東入西町 24	1994/11/15	1994/11/15	94BBHR344	文 310	1	
1549	典薬寮	▲	中京区西ノ京車坂町 7-12	1994/11/15	1994/11/16	94BBHQ352	文 310	4	
1550	大蔵庁	▲	上京区仁和寺街道七本松西入二番町 194	1994/11/17	1994/11/21	94BBHQ355	文 310	1	
1551	中和院	▲	上京区千本通下立壳下る小山町 903-6	1994/11/18	1994/12/7	94BBHQ358	文 310	2	
1552	大 蔵	▲	上京区中立壳通千本西入亀屋町 693	1994/11/21	1994/11/21	94BBHQ359	文 310	2	
1553	内 謄 司	▲	上京区土屋町通出水上る弁天町 318	1994/11/21	1994/11/21	94BBHQ360	文 310	2	
1554	御 井	▲	中京区西ノ京車坂町 12、13、19	1994/11/25	1994/11/25	94BBHQ365	文 310	4	
1555	朝堂南	▲	中京区西ノ京小堀町 2-79	1994/11/28	1994/11/28	94BBHQ371	文 310	5	
1556	西大宮	▲	上京区御前通仁和寺街道下る三丁目西上之町 248	1994/11/29	1994/12/7	94BBHR373	文 310	1	
1557	宴松原	▲	上京区下立壳通七本松東入長門町 435-49	1994/12/7	1994/12/7	94BBHQ384	文 310	2	
1558	内 裏	▲	上京区下立壳通千本東入下る中務町 490-53	1994/12/12	1994/12/12	94BBHQ394	文 310	5	
1559	大炊寮	▲	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町 765	1994/12/13	1994/12/13	94BBHQ392	文 310	6	
1560	内 裏	▲	上京区下立壳通千本東入下る中務町 490-112	1994/12/13	1995/1/5	94BBHQ393	文 310	5	
1561	治部省	▲	中京区西ノ京内畠町 11-9	1994/12/14	1994/12/14	94BBHQ402	文 310	4	
1562	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 8-53	1994/12/21	1994/12/21	94BBHQ411	文 310	4	
1563	右馬寮	▲	中京区西ノ京右馬寮町 8-54	1994/12/21	1994/12/21	94BBHQ412	文 310	4	
1564	豊楽院	■	中京区聚楽廻中町 44	1995/2/27	1995/3/11	94BBHQ513	付章 21	5	豊楽院調査 7

付表II 文献一覧表

番号	著者	文献	掲載書	発行所	発行年
1	八木隆亂	宮室沿革考（一）・（二）	『學藝志林』第87・89冊		1884年
2	木子清敬	本朝大内裏の制	『建築雑誌』第42号		1890年
3	木子清敬	日本宮殿建築ノ沿革	『建築雑誌』第48号		1890年
4	湯本文彦ほか		『平安通志』	京都市参事會	1895年
5	河村松太郎	平安大内裏舊趾より採集の古瓦	『考古界』第2篇第9号		1903年
6	関野 貞	平城京及大内裏考	『東京帝国大学紀要』工科第三冊	東京帝国大学工科大学	1907年
7	喜田貞吉	上代帝都の所在に就て	『歴史地理』第10卷第1号		1907年
8	岩井武俊	平安京大極殿碧瓦の布目に就きて	『考古界』第6篇第10号		1908年
9	松本彦次郎	我国上古に於ける都府の発達	『三田学会雑誌』第6卷第2号		1912年
10	喜田貞吉	平安京大極殿址と曲尺の研究	『歴史地理』第25卷第5号		1915年
11	喜田貞吉		『帝都』歴史講座第1編	日本学術普及会	1915年
12	喜田貞吉	本邦古代の都市に就いて	『歴史地理』第27卷第5号		1916年
13	桜井 秀	平安朝の京都（一）～（四）	『歴史と地理』第8卷第1・5号、第9卷第2号、第10卷第1号		1921年
14	江馬 務		『日本歴史事』京都の部	内外出版株式会社	1922年
15	猪熊浅麿	紫宸殿と清涼殿及二条離宮	『恩賜京都博物館講演集』第1号		1925年
16	桜井 秀		『平安朝』下総合日本史大系第4巻	内外書籍	1926年
17	伊東忠太	平安京、大内裡及内裡の建築	『科学知識』第8卷第11号		1928年
18	栗野秀穂		『京者都市計画史』	京都市土木局	1928年
19	川勝政太郎	京都皇宮の変遷と出土古瓦	『京都史蹟』第1卷第1号		1929年
20	浅海正三	古代の都市について	『歴史教育』第4卷第5号		1929年
21	川上多助		『平安朝』上総合日本史大系第3巻	内外書籍	1930年
22	木村捷三郎	山城幡枝発見の瓦窯址－延喜式に見えたる栗栖野瓦屋－	『史林』第15卷第4号		1930年
23	喜田貞吉	平安京都と其造営に就いて	『恩賜京都博物館講演集』第7号		1930年
24	藤田元春		『都市研究 平安京変遷史』	スズカケ出版部	1930年
25	川勝政太郎	平安京城の古瓦	『京都史蹟』第1卷第5号		1930年
26	石田茂作ほか		『古瓦図鑑』	大塚巧芸社	1930年
27	小酒井儀三	平安時代の文化	『史迹と美術』第1号		1930年
28	川勝政太郎	新に発見されたる延喜式栗栖野瓦窯址と古瓦	『史迹と美術』第2号		1930年
29	江馬 務	中古に於ける清涼殿の舗設	『史蹟と古美術』第6卷1号		1931年
30	袖木重三	平安朝の京都	『経済史研究』第19号		1931年
31	江馬 務	清涼殿の研究上・下	『立命館学叢』4-10・5-2		1933年
32	国松久弥	日本上古の都市	『地理学』第2卷第1号		1934年
33	遠藤元男	日本に於ける「都市」の研究の成果（1）・（2）	『歴史学研究』第2卷第6号・第3卷第1号		1934年
34	佐藤虎雄	東北院の研究	『史迹と美術』第39号		1934年
35	足立 康	宮城十二門の土牛	『史迹と美術』第74号		1937年
36	桃 裕行	平安時代初期に於ける大学寮に就いて（1）～（3）	『歴史地理』第69卷第3・4・6号		1937年
37	伊福部隆彦	日本帝都史考	『都市問題』第27卷第4号		1938年
38	太田静六	宇津保物語に現れたる宮室建築に就て	『早稲田建築』15号		1938年
39	木村捷三郎	平安京に於ける綠釉瓦の一考察	『考古学』第10卷第3号		1939年
40	森 薫	平安時代前期庭園に関する研究	『建築学会論文集』第13号	日本建築学会	1939年
41	関野 克	創建当時の平安宮紫宸殿に就て	『建築史』第1卷第4号		1939年
42	松崎宗雄	平安宮十二門の門号について	『建築史』第2卷第1号		1940年
43	桃 裕行	延喜式附図に就て	『歴史地理』第75卷第2号		1940年
44	藤田元春	平安京	『歴史教育』第14卷第11号		1940年
45	国松久弥	本邦都市形態の史的展望	『都市問題』第30卷第2号		1940年
46	小野晃嗣	本邦都市発達の特質	『都市問題』第30卷第2号		1940年
47	細川龜市	本邦都市法制の沿革	『都市問題』第30卷第2号		1940年
48	関野 克	初期絵巻物に見える住宅建築	『建築学会論文集』第17号	日本建築学会	1940年
49	松崎宗雄	延暦十二年の平安宮十二門の造営	『建築史』第2卷第5号		1940年
50	太田静六	平安初期に於ける宮室建築について	『早稲田建築』17号		1940年
51	福山敏男	平安京宮城指図に就いて	『宝雲』第27冊		1941年
52	福山敏男	平城京及び平安京の一條一坊	『建築史』第3卷第4号		1941年
53	福山敏男	平安京及び宮城の指図	『建築史』第3卷第5号		1941年

番号	著者	文 献	掲 載 書	発 行 所	発行年
54	福山敏男	年中行事絵巻	『文化』第9卷第6号	東北帝国大学	1942年
55	関野 克	都城時代に見られる宅地班給について	『建築史』第4卷第4号		1942年
56	大井重二郎		『上代の帝都』	立命館出版部	1944年
57	京都市		『京都市史編年綱目』第1巻	京都市	1944年
58	川勝政太郎	平安宮十二門に関する問題	『史迹と美術』第162号		1944年
59	川勝政太郎	平安京坊門考	『日本史研究』第1号		1946年
60	京都市		『京都市史編年綱目』第2巻	京都市編	1946年
61	京都市		『京都市史地図編』	京都市	1947年
62	京都市		『京都市史編年綱目』第3巻	京都市	1948年
63	川勝政太郎	平安京の創設	『史迹と美術』第228号		1952年
64	福山敏男		『大極殿の研究－日本に於ける朝堂院の歴史－』	平安神宮	1955年
65	村山修一		『平安京』	至文堂	1957年
66	佐藤虎雄	平安宮農楽院の遺物	『古代学』第6卷第4号	(財)古代学協会	1958年
67	石村貞吉	大内裏図考証と大内裏図	『史論』第6集		1958年
68	阿部秋生	作者のみた内裏	『源氏物語研究序説』	東京大学出版会	1959年
69	安井良三	古代史ニュース平安宮大極殿址の調査	『古代文化』第3卷第10号		1959年
70	安井良三	古代史ニュース平安宮朝堂院址の発掘	『古代文化』第3卷第11号		1959年
71	安井良三	古代史ニュース平安宮朝堂院址の調査	『古代文化』第3卷第12号		1959年
72	京都府教育委員会	古代史ニュース平安宮址の発掘調査	『古代文化』第5卷第5号		1960年
73	坂東善平	平安京大内裏発見の綠釉土器	『古代学研究』第29号	古代学研究会	1961年
74	西田直二郎		『京都史蹟の研究』	吉川弘文館	1961年
75	杉山信三	古代都城跡および宮殿建築	『建築雑誌』第907号		1962年
76	坂詰秀一	宮殿跡研究の現状	『歴史教育』第10卷第3号		1962年
77	長谷章久	内野「平安内裏」考	『国文学解釈と教材の研究』第7卷第6号		1962年
78	喜田新六	桓武朝にはじまる地方人の京都貫附について	『古代学』第10卷第2・3・4号		1962年
79	大石良材	朝堂の建築	『古代学』第11卷第1号		1962年
80	鮎沢 寿	朝堂院址に関する新知見	『古代文化』第10卷第2号		1963年
81	坂東善平	小野瓦窯址出土の瓦について	『古代文化』第10卷第5号		1963年
82	鮎沢 寿	平安宮大極殿基壇の北端－喫茶店「井上」における調査豫報	『古代文化』第11卷第1号		1963年
83	坂東善平	鴨井殿址	『古代学研究』第35号		1963年
84	角田文衛		『承香殿の女御』(中公新書25)	中央公論社	1963年
85	坂東善平	平安宮宮内省址推定地出土の資料	『古代文化』第11卷第5号		1963年
86	坂東善平	平安宮式部省址推定地出土の瓦	『古代文化』第11卷第5号		1963年
87	角田文衛	平安宮跡発掘調査概要	『埋蔵文化財発掘調査概報』(1964)	京都府教育委員会	1964年
88	大石良材	平安宮内裏址の調査	『古代文化』第13卷第1号		1964年
89	村井康彦	官衙町の形成と変質	『古代日本解体過程の研究』	岩波書店	1965年
90	坂東善平	千本通竹屋町周辺出土の史料	『古代文化』第14卷第3号		1965年
91	大石良材	平安宮跡発掘調査概要	『埋蔵文化財発掘調査概報』(1965)	京都府教育委員会	1965年
92	北山茂夫		『平安京』日本の歴史4	中央公論社	1965年
93	大石良材・鮎沢 寿	古代史ニュース平安宮跡三条東殿跡の発掘調査	『古代文化』第15卷第1号		1965年
94	岸 俊男	古代宮都概観	『日本古代政治史研究』	培書房	1966年
95	坂東善平	平安宮民部省跡推定地出土の軒丸瓦の陶質円面鏡	『古代文化』第17卷第1号		1966年
96	直木孝次郎	門号氏族	『日本兵制史の研究』	吉川弘文館	1968年
97	安井良三	京都市平安宮跡	『日本考古学年報』16(昭和38年度)	日本考古学協会	1968年
98	坂東善平	平安宮内裏址推定地出土軒平瓦	『古代文化』第20卷第4号		1968年
99	坂東善平	平安宮内裏跡付近発見の鬼瓦	『古代文化』第20卷第6号		1968年
100	坂東善平	平安宮推定内膳司址出土の土器	『古代学研究』第53号	古代学研究会	1968年
101	伊藤玄三	古代史ニュース平安宮内裏跡西南部の発掘調査	『古代文化』第21卷第2号		1969年
102	近藤喬一	古代史ニュース聚楽廻中町(推定農楽院跡東部)調査概要	『古代文化』第21卷第7号		1969年
103	小寺武久	平安京の空間的変遷に関する考察(1)・(2)	『日本建築学会論文集』第165・166号	日本建築学会	1969年
104	目崎徳衛	仁寿殿と清涼殿	『宇津保物語研究会会報』第3号		1970年

番号	著者	文 献	掲 載 書	発 行 所	発行年
105	中谷雅治	平安時代の瓦当文様についての覚書	『古代文化』第22巻第12号		1970年
106	政所政二郎	平安宮大極殿址附近における古瓦の発見	『古代文化』第23巻第2号		1971年
107	角田文衛	平安内裏における常御殿と上の御局	『平安博物館研究紀要』第2輯	(財)古代学協会	1971年
108	西井芳子	裏松固禅とその業績	『平安博物館研究紀要』第2輯	(財)古代学協会	1971年
109	伊藤玄三・白石太一郎・近藤喬一ほか	平安宮内裏内郭回廊推定地の調査 - 京都市下立壳通土屋町西入 -	『平安博物館研究紀要』第3輯	(財)古代学協会	1971年
110	大石良材	平安宮内裏址の調査	『平安博物館研究紀要』第3輯	(財)古代学協会	1971年
111	近藤喬一・伊藤玄三・寺島孝一	平安宮豊楽院推定地（聚楽廻中町）の調査	『平安博物館研究紀要』第3輯	(財)古代学協会	1971年
112	寺島孝一	二条保育園敷地内出土の綠釉軒瓦	『古代文化』第24巻第7号		1972年
113	伊藤玄三	平安宮朝堂院の遺構 - 延祿堂・修式堂 -	『古代文化』第24巻第8号		1972年
114	西川幸治		『日本都市史研究』	日本放送出版協会	1972年
115	伊藤玄三	平安京の発掘と保存・活用について	『地方史研究』第125号		1973年
116	1 伊藤玄三 2 伊藤玄三 3 上野佳也 4 伊藤玄三	26-1 平安宮跡 26-2 平安宮跡 2-8 平安宮朝堂院跡 26-9 平安宮朝堂院跡	『日本考古学年報』24(1971年版) 『日本考古学年報』24(1971年版) 『日本考古学年報』24(1971年版) 『日本考古学年報』24(1971年版)	日本考古学協会 日本考古学協会 日本考古学協会 日本考古学協会	1973年 1973年 1973年 1973年
117	伊藤玄三	平安宮跡出土の奈良型式瓦	『古代文化』第25巻第2・3号		1973年
118	近藤喬一	平安時代の文字瓦について	『古代文化』第25巻第2・3号		1973年
119	山中敏史	八・九世紀における中央官衙と土師器	『考古学研究』第19巻第4号	考古学研究会	1973年
120	大石良材	平安宮の復原	『古代文化』第25巻第4号		1973年
121	角田文衛		『日本の後宮』	学燈社	1973年
122	戸田秀典	古代史ニュース民部省跡の発掘調査	『古代文化』第25巻第11号		1973年
123	浪貝毅	平安京の発掘調査 - 都市再開発地域における調査の実情 -	『日本歴史』第307号		1973年
124	山中裕		『平安人物史』	東京大学出版会	1974年
125	伊藤玄三	図版解説平安宮内裏内郭の基壇	『古代文化』第26巻第1号		1974年
126	寺島孝一・佐々木英夫・松井忠春	古代史ニュース平安宮推定蘭林坊東南隅の調査	『古代文化』第26巻第10号		1974年
127	1 上野佳也	26-5 平安京左馬寮推定遺跡	『日本考古学年報』25(1972年版)	日本考古学協会	1974年
128	戸田芳実	王朝都市論の問題点	『日本史研究』第139・140号		1974年
129	上野佳也	古代史ニュース西賀茂醍醐の森瓦窯跡の発掘調査	『古代文化』第26巻第3号		1974年
130	上野佳也・渡辺誠・片岡肇・鈴木忠司	推定平安宮内膳司地域内発掘調査報告	『平安博物館研究紀要』第5輯	(財)古代学協会	1974年
131	1 浪貝毅・玉村登志夫	大宿直跡発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1973-I	京都市文化観光局文化財保護課	1974年
	2 浪貝毅・玉村登志夫	中和院跡発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1973-I	京都市文化観光局文化財保護課	1974年
	3 梶川敏夫	付録 千本中立壳・個人所有地(平安宮長殿跡)の埋蔵文化財立合調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1973-I	京都市文化観光局文化財保護課	1974年
	4 浪貝毅・玉村登志夫	平安宮東・南限の発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1973-I	京都市文化観光局文化財保護課	1974年
	5 井上満郎	平安宮内の諸機関について	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1973-I	京都市文化観光局文化財保護課	1974年
132	近藤喬一・寺島孝一・植山茂		『平安宮推定太政官跡の調査』	平安博物館	1974年
133	寺島孝一	平安宮推定豊楽院跡の調査 - 京都市中京区聚楽廻西町旧丸太町下ル -	『古代文化』第26巻第4号		1974年
134	鈴木亘	平安初期における平安宮内裏の修造について(I)・(II)	『日本建築学全論文報告集』第218・219号	日本建築学会	1974年
135	寺島孝一・田中勝弘	平安宮神祇官町推定地の立合調査 - 京都市上京区竹屋町黒門東入ル -	『古代文化』第26巻第5号		1974年

番号	著者	文 献	掲 載 書	発 行 所	発行年
136	寺島孝一	図版解説平安宮推定内裏跡出土の古瓦	『古代文化』第26巻第6号		1974年
137	松井忠春	平安宮出土の軒丸瓦新資料	『古代文化』第26巻第8号		1974年
138	伊藤玄三	平安宮跡遺跡出土の土器	『土師式土器集成』本編4	東京堂出版	1974年
139	1 梶川敏夫	造酒司跡推定地発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1974-I	京都市文化観光局文化財保護課	1975年
	2 梶川敏夫	中和院跡推定地発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1974-I	京都市文化観光局文化財保護課	1975年
3	臘谷 寿・ 谷口俊治	朝堂院跡推定地発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1974-I	京都市文化観光局文化財保護課	1975年
4	梶川敏夫	内裏跡推定地発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1974-I	京都市文化観光局文化財保護課	1975年
5	津田菊太郎	平安京・大内裏跡内調査研究概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1974-I	京都市文化観光局文化財保護課	1975年
6	玉村登志夫	聚楽第跡立合調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1974-I	京都市文化観光局文化財保護課	1975年
140	1 上野佳也	26-2 平安宮朝堂院東廻廊付近推定地	『日本考古学年報』26(1973年版)	日本考古学協会	1975年
	2 戸田秀典	26-3 平安宮推定民部省跡	『日本考古学年報』26(1973年版)	日本考古学協会	1975年
	3 上野佳也	26-7 平安宮朝堂院白虎樓付近推定地	『日本考古学年報』26(1973年版)	日本考古学協会	1975年
	4 上野佳也	26-8 平安宮朝堂院白虎樓付近推定地	『日本考古学年報』26(1973年版)	日本考古学協会	1975年
141	寺島孝一・佐々木英夫・松井忠春	平安宮推定内裏蘭林坊跡発掘調査の概要	『古代文化』第27巻第11号		1975年
142	大阪府教育委員会	岸部瓦窯跡発掘調査概報	『大阪府文化財調査概要』1967年度	(財) 大阪文化財センター	1975年
143	佐々木英夫・植山茂	平安宮推定内裏蘭林坊跡立会調査	『古代文化』第27巻第12号	(財) 古代学協会	1975年
144	木村捷三郎	平安中期の瓦についての私見補論	『古代文化』第27巻第12号	(財) 古代学協会	1975年
145	京都市		『京都の歴史』第10巻年表・事典	学芸書林	1976年
146	玉腰芳夫	清涼殿について - 祭祀儀式より見たるその建築的場所の研究 - (上)・(下)	『日本建築学会論文報告集』第240・242号	日本建築学会	1976年
147	1 梶川敏夫・浪貝毅	平安宮会昌門跡発掘調査概要	『京都市埋蔵文化財年次報告』1975	京都市文化観光局文化財保護課	1976年
	2 梶川敏夫・浪貝毅	平安宮小安殿推定地第II次発掘調査概要	『京都市埋蔵文化財年次報告』1975	京都市文化観光局文化財保護課	1976年
	3 甲元真之・佐々木英夫・松井忠春	平安宮小安殿跡推定地発掘調査報告	『京都市埋蔵文化財年次報告』1975	京都市文化観光局文化財保護課	1976年
	4 梶川敏夫・浪貝毅	平安宮真言院跡推定地発掘調査概要	『京都市埋蔵文化財年次報告』1975	京都市文化観光局文化財保護課	1976年
	5 梶川敏夫・浪貝毅	平安宮太政官跡推定地発掘調査概要	『京都市埋蔵文化財年次報告』1975	京都市文化観光局文化財保護課	1976年
	6 梶川敏夫・浪貝毅	平安宮朝堂院跡発掘調査概要	『京都市埋蔵文化財年次報告』1975	京都市文化観光局文化財保護課	1976年
148	甲元真之・伊藤玄三	平安宮内裏内郭廻廊跡第2次調査	『平安博物館研究紀要』第6輯	(財) 古代学協会	1976年
149	戸田秀典・松井忠春	平安宮推定民部省跡の発掘調査	『平安博物館研究紀要』第6輯	(財) 古代学協会	1976年
150	1 梶川敏夫	26-1 平安宮・内裏跡推定地	『日本考古学年報』27(1974年版)	日本考古学協会	1976年
	2 梶川敏夫	26-2 平安宮・中和院跡	『日本考古学年報』27(1974年版)	日本考古学協会	1976年
	3 江谷 寛	26-3 平安宮・大宿直遺跡	『日本考古学年報』27(1974年版)	日本考古学協会	1976年
	4 江谷 寛	26-4 平安宮・内裏内郭回廊跡	『日本考古学年報』27(1974年版)	日本考古学協会	1976年
	5 梶川敏夫	26-6 平安宮・造酒司跡推定地	『日本考古学年報』27(1974年版)	日本考古学協会	1976年
151	上田正昭		『都城』	社会思想社	1976年
152	浪貝毅	埋蔵文化財行政の実情と展望	『京都市政調査会報』6	京都市政調査会	1976年
153	松井忠春	平安宮推定期朝堂院東廻廊跡発掘調査概要 - 附朝堂院承光堂跡の立合調査 -	『古代文化』第28巻第11号		1976年
154	片岡肇・加納重文・谷口俊治		『平安宮大極殿跡の発掘調査』平安京跡発掘調査報告書第1輯	(財) 古代学協会	1976年
155	近藤喬一	平安京・平安宮跡	『仏教芸術』第115号	毎日新聞社	1977年
156	杉山信三	平安京を発掘する(一)～(八)	『史迹と美術』第472～479号		1977年
157	1 浪貝毅	西院跡推定地発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1976-I	京都市文化観光局文化財保護課	1977年

番号	著者	文 献	掲 載 書	発 行 所	発行年
2	甲元真之・佐々木英夫・松井忠春	朝堂院永寧堂跡推定地発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1976-I	京都市文化観光局文化財保護課	1977年
3	梶川敏夫	朝堂院暉章堂跡推定地発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1976-I	京都市文化観光局文化財保護課	1977年
4	浪貝 肇	内藏寮跡推定地発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1976-I	京都市文化観光局文化財保護課	1977年
5	梶川敏夫	附録1 平安宮豊楽殿跡緊急発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1976-I	京都市文化観光局文化財保護課	1977年
6	梶川敏夫	附録2 史跡栗栖野瓦窯跡表面採集瓦	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1976-I	京都市文化観光局文化財保護課	1977年
7	浪貝 肇	平安宮東限推定地発掘調査概要	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1976-I	京都市文化観光局文化財保護課	1977年
8	井上満郎・西山恵子	平安京年表集成II	『平安宮跡 京都市埋蔵文化財年次報告』1976-I	京都市文化観光局文化財保護課	1977年
158	1 鈴木忠司	26-2 平安宮大極殿跡遺跡(1)	『日本考古学年報』28(1975年版)	日本考古学協会	1977年
	2 片岡 肇	26-3 平安宮大極殿跡遺跡(2)	『日本考古学年報』28(1975年版)	日本考古学協会	1977年
	3 梶川敏夫	26-4 平安宮小安殿跡遺跡	『日本考古学年報』28(1975年版)	日本考古学協会	1977年
	4 梶川敏夫	26-5 平安宮朝堂院跡遺跡	『日本考古学年報』28(1975年版)	日本考古学協会	1977年
	5 梶川敏夫	26-6 平安宮会昌門跡遺跡	『日本考古学年報』28(1975年版)	日本考古学協会	1977年
	6 梶川敏夫	26-7 平安宮太政官跡遺跡	『日本考古学年報』28(1975年版)	日本考古学協会	1977年
	7 梶川敏夫	26-8 平安宮真言院跡遺跡	『日本考古学年報』28(1975年版)	日本考古学協会	1977年
	8 江谷 寛	26-11 平安宮遺跡	『日本考古学年報』28(1975年版)	日本考古学協会	1977年
159	佐々木英夫		『平安宮朝堂院永寧堂跡の発掘調査』(財)古代学協会	(財)古代学協会	1977年
160	鈴木 直	平安宮仁寿殿の建築について その1 平安時代中期および後期の仁寿殿	『日本建築学会論文報告集』第257号	日本建築学会	1977年
161	平安博物館		『平安京古瓦図録』	雄山閣出版	1977年
162	鈴木 直	平安宮仁寿殿の建築について その2 平安時代初期の仁寿殿と里内裏における仁寿殿	『日本建築学会論文報告集』第258号	日本建築学会	1977年
163	本弥八郎	平安宮造酒司跡	『京都市埋蔵文化財研究所概報集』1977-I	(財)京都市埋蔵文化財研究所	1977年
164	鈴木 直	平安宮常寧殿の建築について -仁寿殿と常寧殿の平面形態-	『日本建築学会論文報告集』第259号	日本建築学会	1977年
165	植山 茂	図版解説平安宮豊楽院跡出土の軒丸瓦	『古代文化』第29卷第11号		1977年
166	小林敏男	中務省に関する諸問題(上)・(下)	『古代文化』第29卷第11・12号		1977年
167	1 平尾政幸	平安宮 左兵衛府跡	『平安京跡発掘調査概報』京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-II	(財)京都市埋蔵文化財研究所	1978年
	2 本弥八郎・和泉田毅・辻 裕司	平安宮 主水司跡	『平安京跡発掘調査概報』京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-II	(財)京都市埋蔵文化財研究所	1978年
	3 百瀬正恒	平安宮 西雅院跡	『平安京跡発掘調査概報』京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-II	(財)京都市埋蔵文化財研究所	1978年
	4 木下保明	平安宮 太政官跡	『平安京跡発掘調査概報』京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-II	(財)京都市埋蔵文化財研究所	1978年
	5 平田 泰	平安宮 大極殿跡	『平安京跡発掘調査概報』京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-II	(財)京都市埋蔵文化財研究所	1978年
	6 堀内明博	平安宮 朝堂院康楽堂跡	『平安京跡発掘調査概報』京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-II	(財)京都市埋蔵文化財研究所	1978年
	7 平田 泰	平安宮 内裏跡	『平安京跡発掘調査概報』京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-II	(財)京都市埋蔵文化財研究所	1978年
	8 平田 泰	平安宮 八省院跡	『平安京跡発掘調査概報』京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-II	(財)京都市埋蔵文化財研究所	1978年
168	1 浪貝 肇	26-10 平安宮・内藏寮跡(2)	『日本考古学年報』29(1976年版)	日本考古学協会	1978年
	2 本弥八郎	26-23 平安宮・造酒司跡	『日本考古学年報』29(1976年版)	日本考古学協会	1978年
	3 松井忠春	26-24 平安宮・豊楽院西築垣跡	『日本考古学年報』29(1976年版)	日本考古学協会	1978年
	4 浪貝 肇	26-6 平安宮跡(1)	『日本考古学年報』29(1976年版)	日本考古学協会	1978年
	5 浪貝 肇	26-7 平安宮跡(2)	『日本考古学年報』29(1976年版)	日本考古学協会	1978年
	6 浪貝 肇	26-8 平安宮跡(3)	『日本考古学年報』29(1976年版)	日本考古学協会	1978年
	7 木下保明	26-9 平安宮・内藏寮跡(1)	『日本考古学年報』29(1976年版)	日本考古学協会	1978年
169	甲元真之・松井忠春	平安宮中和院の立会調査	『古代文化』第30卷第5号		1978年
170	梶川敏夫・渡辺和子	京都市内遺跡試掘・立合調査	『京都市埋蔵文化財研究所概報集』1978-I	(財)京都市埋蔵文化財研究所	1978年

番号	著者	文 献	掲 載 書	発行所	発行年
171	木下保明	平安宮・内藏寮跡	『京都市埋蔵文化財研究所概報集』1978-I	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1978年
172	井上満郎		『研究史平安京』	吉川弘文館	1978年
173	村井康彦		『日本の宮都 - 古代都市の原像 -』	角川書店	1978年
174	京都市		『史料京都の歴史』第3巻政治・行政	平凡社	1979年
175	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978	京都市文化観光局	1979年
1	本弥八郎	平安宮 陰陽寮跡	『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978	京都市文化観光局	1979年
2	平尾政幸	平安宮 小安殿跡	『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978	京都市文化観光局	1979年
3	百瀬正恒	平安宮 太政官跡	『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978	京都市文化観光局	1979年
4	長宗繁一	平安宮 太政官跡	『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978	京都市文化観光局	1979年
5	平尾政幸	平安宮 中務省跡	『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978	京都市文化観光局	1979年
6	平田 泰	平安宮 中和院跡	『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978	京都市文化観光局	1979年
7	平尾政幸	平安宮 朝堂院跡	『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978	京都市文化観光局	1979年
8	本弥八郎	平安宮 朝堂院跡	『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978	京都市文化観光局	1979年
9	平田 泰	平安宮 豊楽院跡	『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978	京都市文化観光局	1979年
176	甲元真之	平安京内裏の罹災記事と考古学的遺物について	『日本古代学論集』	(財) 古代学協会	1979年
177	1 鈴木廣司	26-26 平安宮跡	『日本考古学年報』30(1977年度版)	日本考古学協会	1979年
	2 木下保明	26-29 平安宮西雅院跡	『日本考古学年報』30(1977年度版)	日本考古学協会	1979年
	3 木下保明	26-31 平安宮太政官跡	『日本考古学年報』30(1977年度版)	日本考古学協会	1979年
178	植山 茂	図版解説平安宮内裏内郭回廊跡の史跡指定	『古代文化』第32巻1号		1980年
179	国文学集部	後宮のすべて	『国文学解釈と教材の研究』第25巻第13号臨時増刊号	学燈社	1980年
180	古瀬奈津子	初期の平安宮	『続日本紀研究』211号		1980年
181	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘資料選』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1980年
182	木村捷三郎・渡辺和子・吉川義彦		『坂東善平収蔵品目録』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1980年
183	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概要 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要』1979年度	京都市文化観光局	1980年
1	上村和直	平安宮 太政官跡	『平安京跡発掘調査概要 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要』1979年度	京都市文化観光局	1980年
2	木下保明	平安宮 大炊寮跡	『平安京跡発掘調査概要 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要』1979年度	京都市文化観光局	1980年
3	鈴木廣司	平安宮 大藏省跡	『平安京跡発掘調査概要 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要』1979年度	京都市文化観光局	1980年
4	平田 泰	平安宮 中務省跡	『平安京跡発掘調査概要 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要』1979年度	京都市文化観光局	1980年
5	木下保明	平安宮 中和院跡	『平安京跡発掘調査概要 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要』1979年度	京都市文化観光局	1980年
6	上村和直	平安宮 内裏内郭回廊跡	『平安京跡発掘調査概要 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要』1979年度	京都市文化観光局	1980年
184	京都市		『史料京都の歴史』第7巻上京区	平凡社	1980年
185	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 国庫補助による試掘・立会調査報告』昭和54年度	京都市文化観光局文化財保護課	1980年
1	鈴木久男	平安京右馬寮跡立会調査(No.107)	『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 国庫補助による試掘・立会調査報告』昭和54年度	京都市文化観光局文化財保護課	1980年
2	木下保明	平安京内裏跡立会調査(No.31)	『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 国庫補助による試掘・立会調査報告』昭和54年度	京都市文化観光局文化財保護課	1980年
3	鈴木久男	平安京兵部省跡立会調査(No.149)	『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 国庫補助による試掘・立会調査報告』昭和54年度	京都市文化観光局文化財保護課	1980年
186	1 日本考古学協会	26-17 平安宮太政官	『日本考古学年報』31(1978年度版)	日本考古学協会	1980年
2	日本考古学協会	26-18 平安宮造酒司	『日本考古学年報』31(1978年度版)	日本考古学協会	1980年
3	日本考古学協会	26-19 平安宮豊楽院	『日本考古学年報』31(1978年度版)	日本考古学協会	1980年
4	日本考古学協会	26-20 平安宮采女司	『日本考古学年報』31(1978年度版)	日本考古学協会	1980年

番号	著者	文献	掲載書	発行所	発行年
187	上原真人	十一・十二世紀の瓦当文様の源流（上）・（下）	『古代文化』第32巻第5・6号		1980年
188	福田 敏	平安内裏の綾綺殿について	『昭和55年度秋季大会（近畿）学術講演梗概集<計画系>』	日本建築学会	1980年
189	瀧浪貞子	上皇別宮の出現 - 後院の研究 その1-	『史窓』第38号		1980年
190	岸 俊男		『NHK大学講座日本の古代宮都』	日本放送出版協会	1981年
191	福田敏朗	裏松固禅自筆の“大内裏図考証”について	『日本建築学会東海支部研究報告』	日本建築学会	1981年
192	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘、立会調査概報』昭和55年度	京都市文化観光局	1981年
193	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度	京都市埋蔵文化財調査センター	1981年
1	堀内明博	平安宮西雅院跡	『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度	京都市埋蔵文化財調査センター	1981年
2	磯部 勝	平安宮太政官跡	『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度	京都市埋蔵文化財調査センター	1981年
3	辻 裕司	平安宮中務省跡	『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度	京都市埋蔵文化財調査センター	1981年
4	丸川義広	平安宮朝堂院跡	『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度	京都市埋蔵文化財調査センター	1981年
5	前田義明	平安宮朝堂院跡	『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度	京都市埋蔵文化財調査センター	1981年
6	前田義明	平安宮縫殿寮跡	『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度	京都市埋蔵文化財調査センター	1981年
7	平田 泰	平安宮豊楽院跡	『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度	京都市埋蔵文化財調査センター	1981年
8	吉崎 伸	平安宮豊楽院跡	『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度	京都市埋蔵文化財調査センター	1981年
9	磯部 勝	平安宮梨本院跡	『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度	京都市埋蔵文化財調査センター	1981年
194	田辺昭三	古代宮都住民の生活文化	『謎の古代京・近江・京滋文化の源流を探る-』	河出書房新社	1981年
195	植山 茂	古代瓦私見（一）- 飛雲文軒平瓦について -	『古代文化』第33巻第6号		1981年
196	植山 茂	古代瓦私見（二）- 飛雲文軒平瓦の対応軒丸瓦 -	『古代文化』第33巻第7号		1981年
197	植山 茂	古代瓦私見（三）- 平安宮豊楽院の古瓦（1）-	『古代文化』第33巻第8号		1981年
198	植山 茂	古代瓦私見（四）- 平安京に運び込まれた瓦（1）-	『古代文化』第33巻第9号		1981年
199	植山 茂	古代瓦私見（五）- 平安宮豊楽院の古瓦（2）-	『古代文化』第33巻第11号		1981年
200	山下克明	平安時代初期における「東宮」とその所在地について	『古代文化』第33巻第12号		1981年
201	堀内明博	平安京	『中国の都城遺跡 - 日本都城制の源流を探る-』	同朋社	1982年
202	東野治之	平安宮の園池	『古代研究』24		1982年
203	石尾政信	平安宮跡（推定式部厨）発掘調査概要	『京都府遺跡調査概報』第4冊	(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター	1982年
204	石尾政信	平安宮跡式部省推定地	『京都府埋蔵文化財情報』第3号	(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター	1982年
205	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』昭和56年度	京都市文化観光局	1982年
1	吉崎 伸	豊楽院跡	『平安京跡発掘調査概報』昭和56年度	京都市文化観光局	1982年
206	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和56年度	京都市文化観光局	1982年
207	鈴木 宜	平安時代後期の平安宮紫宸殿について	『昭和57年度秋季大会（東北）学術講演梗概集<計画系>』	日本建築学会	1982年
208	大石良材・ 臚谷 寿・ 鈴木忠司・ 谷口俊治		『平安宮推定大極殿跡発掘調査報告書 - 京都市上京区小山町所在 -』	(財) 古代学協会	1983年
209	今泉隆雄	8世紀造宮官司考	『文化財論叢』奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集	同朋舎出版	1983年
210	鬼頭清明	初期平安京についての一試論	『国立歴史民俗博物館研究報告』第2集	国立歴史民俗博物館	1983年
211	飯淵康一	平安内裏の空間秩序について - 大内裏宮門と内裏門の用法からみた	『東北大大学建築学報』22号		1983年
212	京都市		『史料京都の歴史』第2巻考古	平凡社	1983年
213	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（試掘・立会調査編）』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1983年
214	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1983年
1	辻 純一	太政官跡	『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1983年
2	本弥八郎・ 長宗繁一	朝堂院跡	『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1983年

番号	著者	文 献	掲 載 書	発 行 所	発行年
	3 吉崎 伸	豊楽院跡	『昭和 56 年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1983 年
	4 辻 裕司	民部省跡	『昭和 56 年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1983 年
215	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和 57 年度	京都市文化観光局	1983 年
216	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』昭和 57 年度	京都市文化観光局	1983 年
1	大矢義明・吉川義彦	中務省跡	『平安京跡発掘調査概報』昭和 57 年度	京都市文化観光局	1983 年
2	大矢義明・吉川義彦	内裏外郭跡	『平安京跡発掘調査概報』昭和 57 年度	京都市文化観光局	1983 年
217	植山 茂	平安宮所用瓦の様相	『角田文衛博士古稀記念古代学叢論』	角田文衛先生古稀記念事業会	1983 年
218	植山 茂		『平安宮朝堂院跡 - 京都市上京区主税町所在 -』 平安京跡研究調査報告第 9 輯	(財) 古代学協会	1983 年
219	橋本義則	平安宮草創期の豊楽院	『日本政治社会史研究』中	壇書房	1984 年
220	京都市		『史料京都の歴史』第 5 卷社会・文化	平凡社	1984 年
221	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『昭和 57 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1984 年
1	吉川義彦	中務省跡	『昭和 57 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1984 年
2	家崎孝治	朝堂院・豊楽院跡	『昭和 57 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1984 年
3	吉川義彦	内裏外郭跡	『昭和 57 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1984 年
4	平尾政幸	内裏内郭回廊跡	『昭和 57 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1984 年
222	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』昭和 58 年度	京都市文化観光局	1984 年
223	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和 58 年度	京都市文化観光局	1984 年
224	鈴木 巨	古代宮殿建築における前殿と朝堂 - その(6) 長岡宮および平安宮	『日本建築学会論文報告集』第 337 号	日本建築学会	1984 年
225	瀧浪貞子	初期平安京の構造 - 第一次平安京と第二次平安京 -	『京都市歴史資料館紀要』創刊号		1984 年
226	辻 裕司	都城発掘史 11 平安京跡	『月刊文化財』249 号		1984 年
227	辻 裕司	平安京	『仏教芸術』第 154 号		1984 年
228	古瀬奈津子	宮の構造と政務運営法	『史学雑誌』第 93 編第 7 号		1984 年
229	藤田勝也	宮中内侍所の成立について	『昭和 59 年度大会(関東) 学術講演梗概集<計画系>』	日本建築学会	1984 年
230	溝口正人	馬場殿について	『昭和 59 年度大会(関東) 学術講演梗概集<計画系>』	日本建築学会	1984 年
231	鈴木 巨	平安宮内裏における築地回廊の規模について	『昭和 59 年度大会(関東) 学術講演梗概集<計画系>』	日本建築学会	1984 年
232	京都市		『史料京都の歴史』第 9 卷中京区	平凡社	1985 年
233	近藤喬一		『瓦からみた平安京』教育社歴史新書<日本史>40	教育社	1985 年
234	西村彰朗	平安京	『日本の遺跡発掘物語』9 歴史時代(近畿)	社会思想社	1985 年
235	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『昭和 58 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1985 年
1	木下保明	大極殿院	『昭和 58 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1985 年
2	木下保明・辻 純一	民部省	『昭和 58 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1985 年
3	鈴木廣司・堀内明博	率分藏	『昭和 58 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1985 年
236	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』昭和 59 年度	京都市文化観光局	1985 年
1	木下保明	平安宮大極殿院	『平安京跡発掘調査概報』昭和 59 年度	京都市文化観光局	1985 年
2	家崎孝治・吉村正親	平安宮中和院	『平安京跡発掘調査概報』昭和 59 年度	京都市文化観光局	1985 年
237	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和 59 年度	京都市文化観光局	1985 年
1	吉村正親	平安宮朱雀門(HQ65)	『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和 59 年度	京都市文化観光局	1985 年
238	藤田勝也	宮中内侍所の成立について(その2)	『昭和 60 年度大会(東海) 学術講演梗概集』F 分冊	日本建築学会	1985 年
239	川本重雄	正月大饗と臨時客	『昭和 60 年度大会(東海) 学術講演梗概集』F 分冊	日本建築学会	1985 年
240	足利健亮		『日本古代地理研究』	大明堂	1985 年
241	柴垣勇夫	平安京に運ばれた瓦	『古代の瓦を考える - 年代・生産・流通』	帝塚山考古学研究所	1986 年

番号	著者	文 献	掲 載 書	発 行 所	発行年
242	梶川敏夫	平安京の瓦	『古代の瓦を考える－年代・生産・流通』	帝塚山考古学研究所	1986年
243	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和60年度	京都市文化観光局	1986年
244	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度	京都市文化観光局	1986年
1	梅川光隆	平安宮西限	『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度	京都市文化観光局	1986年
2	辻 純一	平安宮大極殿院(1)	『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度	京都市文化観光局	1986年
3	梅川光隆	平安宮大極殿院(2)	『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度	京都市文化観光局	1986年
4	梅川光隆	平安宮長殿	『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度	京都市文化観光局	1986年
5	梅川光隆	平安宮内裏	『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度	京都市文化観光局	1986年
245	藤田勝也	角殿について	『昭和61年度大会(北海道)学術講演梗概集』F分冊	日本建築学会	1986年
246	伊藤善良	四角四堀祭の場に生きた人々	『歴史』第66輯		1986年
247	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘資料選』(二)	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1986年
248	五島邦治	平安京の祭礼と住民	『尋源』第37号		1987年
249	福田敏朗	「大内裏図考証」の成立について -裏松固禪の製作と内藤広前の補正	『京都府埋蔵文化財論集』第1集	(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター	1987年
250	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1987年
1	梅川光隆	平安宮西限跡	『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1987年
2	家崎孝治	平安宮中和院跡	『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1987年
3	梅川光隆	平安宮内裏跡	『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1987年
251	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度	京都市文化観光局	1987年
252	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』昭和61年度	京都市文化観光局	1987年
1	前田義明	平安宮中務省	『平安京跡発掘調査概報』昭和61年度	京都市文化観光局	1987年
253	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1988年
1	百瀬正恒	平安宮主殿寮・大宿直	『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1988年
2	辻 純一	平安宮大極殿院1	『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1988年
3	梅川光隆	平安宮大極殿院2	『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1988年
4	梅川光隆	平安宮長殿	『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1988年
254	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和62年度	京都市文化観光局	1988年
1	久世康博	平安宮太政官跡(HQ53)	『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和62年度	京都市文化観光局	1988年
2	家崎孝治	平安宮大極殿跡(HQ49)	『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和62年度	京都市文化観光局	1988年
3	本弥八郎	平安宮内裏院跡(HQ89)	『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和62年度	京都市文化観光局	1988年
255	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』昭和62年度	京都市文化観光局	1988年
1	梅川光隆	平安宮中和院南	『平安京跡発掘調査概報』昭和62年度	京都市文化観光局	1988年
2	梅川光隆	平安宮朝堂院	『平安京跡発掘調査概報』昭和62年度	京都市文化観光局	1988年
3	丸川義広・鈴木久男	平安宮内裏(1)	『平安京跡発掘調査概報』昭和62年度	京都市文化観光局	1988年
4	梅川光隆	平安宮内裏(2)	『平安京跡発掘調査概報』昭和62年度	京都市文化観光局	1988年
256	京都市考古資料館		『平安宮豊楽殿 -特別展図録-』	京都市考古資料館	1988年
257	岡田茂弘		『復元日本大觀』3都城と国府	世界文化社	1988年
258	永田信一	図版解説平安宮豊楽院正殿跡の発掘	『古代文化』第40巻第5号		1988年
259	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1989年
1	辻 裕司	平安宮鼓吹司跡	『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1989年
2	前田義明・吉崎 伸	平安宮中務省跡	『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1989年
3	小森俊寛	平安宮梨本	『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1989年
260	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和63年度	京都市文化観光局	1989年
1	家崎孝治	平安宮大極殿院跡(HQ12)	『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和63年度	京都市文化観光局	1989年
2	家崎孝治	平安宮豊楽院跡(HQ65)	『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和63年度	京都市文化観光局	1989年
261	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』昭和63年度	京都市文化観光局	1989年
1	本弥八郎	平安宮太政官(1)	『平安京跡発掘調査概報』昭和63年度	京都市文化観光局	1989年
2	本弥八郎	平安宮太政官(2)	『平安京跡発掘調査概報』昭和63年度	京都市文化観光局	1989年
3	堀内明博	平安宮内匠寮	『平安京跡発掘調査概報』昭和63年度	京都市文化観光局	1989年

番号	著者	文 献	掲 載 書	発行所	発行年
4	網 伸也・鈴木久男	平安宮内裏	『平安京跡発掘調査概報』昭和 63 年度	京都市文化観光局	1989 年
5	鈴木久男	平安宮豊楽院(1)	『平安京跡発掘調査概報』昭和 63 年度	京都市文化観光局	1989 年
6	鈴木久男	平安宮豊楽院(2)	『平安京跡発掘調査概報』昭和 63 年度	京都市文化観光局	1989 年
262	鈴木久男	京都府京都市平安宮豊楽殿	『日本考古学年報』40 (1987 年度版)	日本考古学協会	1989 年
263	梶川敏夫	京都洛北における造瓦窯	『古瓦図考』	ミネルヴア書房	1989 年
264	植山 茂	平安宮豊楽院の瓦	『古瓦図考』	ミネルヴア書房	1989 年
265	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘立会調査概報』平成元年度	京都市文化観光局	1990 年
266	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』平成元年度	京都市文化観光局	1990 年
1	辻 裕司	平安宮図書寮	『平安京跡発掘調査概報』平成元年度	京都市文化観光局	1990 年
2	網 伸也	平安宮中務省(1)	『平安京跡発掘調査概報』平成元年度	京都市文化観光局	1990 年
3	辻 裕司	平安宮中務省(2)	『平安京跡発掘調査概報』平成元年度	京都市文化観光局	1990 年
4	山本雅和	平安宮中和院	『平安京跡発掘調査概報』平成元年度	京都市文化観光局	1990 年
267	鈴木 豈		『平安宮内裏の研究』	中央公論美術出版	1990 年
268	瀧浪貞子		『平安建都』日本の歴史 5	集英社	1991 年
269	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡試掘立会調査概報』平成 2 年度	京都市文化観光局	1991 年
1	百瀬正恒	平安京朝堂院跡 (HQ25)	『京都市内遺跡試掘立会調査概報』平成 2 年度	京都市文化観光局	1991 年
2	家崎孝治・吉村正親・吉本健吾	平安京内裏跡 (元年度 HQ73)	『京都市内遺跡試掘立会調査概報』平成 2 年度	京都市文化観光局	1991 年
270	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』平成 2 年度	京都市文化観光局	1991 年
1	辻 裕司	平安宮西限(1)	『平安京跡発掘調査概報』平成 2 年度	京都市文化観光局	1991 年
2	辻 裕司	平安宮西限(2)	『平安京跡発掘調査概報』平成 2 年度	京都市文化観光局	1991 年
3	網 伸也	平安宮中務省	『平安京跡発掘調査概報』平成 2 年度	京都市文化観光局	1991 年
271	京都市		『史料京都の歴史』第 1 卷概説	平凡社	1991 年
272	井上満郎	秦氏と宮都造営	『古代の日本と東アジア』	小学館	1991 年
273	橋本義則ほか	「平安宮内裏の研究」を読む	『建築史学』第 19 号		1991 年
274	引原茂治	平安宮大極殿院跡	『京都府埋蔵文化財情報』第 41 号	(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター	1991 年
275	瀧浪貞子	「皇居年表」「京職表」解題	『日本古代宫廷社会の研究』	思文閣出版	1991 年
276	瀧浪貞子	造宮官と造宮夫	『日本古代宫廷社会の研究』	思文閣出版	1991 年
277	臚谷 寿		『王朝と貴族』日本の歴史 6	集英社	1991 年
278	引原茂治	平安宮大極殿院跡発掘調査概要	『京都府遺跡調査概報』第 46 冊	(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター	1991 年
279	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『昭和 62 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1991 年
1	梅川光隆	平安宮朝堂院	『昭和 62 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1991 年
2	家崎孝治・本弥八郎	平安宮朝堂院	『昭和 62 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1991 年
3	梅川光隆	平安宮内裏 1	『昭和 62 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1991 年
4	丸川義広	平安宮内裏 2	『昭和 62 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1991 年
5	梅川光隆	平安宮内裏 3	『昭和 62 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1991 年
6	本弥八郎	平安宮兵庫寮	『昭和 62 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1991 年
7	鈴木久男	平安宮豊楽殿	『昭和 62 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1991 年
280	京都市埋蔵文化財調査センター		『京都市内遺跡試掘調査概報』平成 3 年度	京都市文化観光局	1992 年
281	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡立会調査概報』平成 3 年度	京都市文化観光局	1992 年
282	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』平成 3 年度	京都市文化観光局	1992 年
1	鈴木久男・南 孝雄	平安宮大極殿東	『平安京跡発掘調査概報』平成 3 年度	京都市文化観光局	1992 年
2	前田義明	平安宮中務省(1)	『平安京跡発掘調査概報』平成 3 年度	京都市文化観光局	1992 年
3	吉村正親	平安宮中務省(2)	『平安京跡発掘調査概報』平成 3 年度	京都市文化観光局	1992 年
4	鈴木久男・南 孝雄	平安宮中務省(3)	『平安京跡発掘調査概報』平成 3 年度	京都市文化観光局	1992 年
283	京都市埋蔵文化財調査センター		『京都市内遺跡試掘調査概報』平成 4 年度	京都市文化観光局	1993 年
284	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡立会調査概報』平成 4 年度	京都市文化観光局	1993 年
285	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』平成 4 年度	京都市文化観光局	1993 年
1	木下保明・上村 和直・長宗繁一	平安宮中務省	『平安京跡発掘調査概報』平成 4 年度	京都市文化観光局	1993 年

番号	著者	文 献	掲 載 書	発 行 所	発行年
286	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『昭和 63 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1993 年
1	鈴木久男	平安宮清暑堂跡	『昭和 63 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1993 年
2	本弥八郎	平安宮太政官跡 1	『昭和 63 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1993 年
3	本弥八郎	平安宮太政官跡 2	『昭和 63 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1993 年
4	堀内明博	平安宮内匠寮跡	『昭和 63 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1993 年
5	鈴木久男	平安宮内裏跡	『昭和 63 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1993 年
6	本弥八郎・小松武彦	平安宮豊楽院跡	『昭和 63 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1993 年
287	杉山信三		『よみがえった平安京』	人文書院	1993 年
288	寺升初代	院政期における播磨の瓦	『角田文衛先生傘寿記念 古代世界の諸相』	晃洋書房	1993 年
289	山中 裕	延喜式と年中行事	『角田文衛先生傘寿記念 古代世界の諸相』	晃洋書房	1993 年
290	堅田 修	御斎会の成立	『角田文衛先生傘寿記念 古代世界の諸相』	晃洋書房	1993 年
291	永田信一	平安京跡発掘調査の歩み	『杉山信三先生米寿記念論集 平安京歴史研究』	杉山信三先生米寿記念論集刊行会	1993 年
292	辻 純一	発掘資料を中心とした平安宮復原の現状	『杉山信三先生米寿記念論集 平安京歴史研究』	杉山信三先生米寿記念論集刊行会	1993 年
293	家崎孝治	平安宮大極殿の復原	『杉山信三先生米寿記念論集 平安京歴史研究』	杉山信三先生米寿記念論集刊行会	1993 年
294	辻 裕司	平安宮中務省跡	『杉山信三先生米寿記念論集 平安京歴史研究』	杉山信三先生米寿記念論集刊行会	1993 年
295	前田義明	平安宮内裏の焼亡と搬入瓦	『杉山信三先生米寿記念論集 平安京歴史研究』	杉山信三先生米寿記念論集刊行会	1993 年
296	村井康彦	古代都市としての平安京研究	『古代文化』第 46 卷第 1 号		1994 年
297	山中 章	初期平安京の造営と構造	『古代文化』第 46 卷第 1 号		1994 年
298	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平安京跡発掘調査概報』平成 5 年度	京都市文化観光局	1994 年
1	高橋 潔	平安宮中務省	『平安京跡発掘調査概報』平成 5 年度	京都市文化観光局	1994 年
299	京都市埋蔵文化財調査センター		『京都市内遺跡試掘調査概報』平成 5 年度	京都市文化観光局	1994 年
1	梶川敏夫	平安宮朝堂院修式堂推定地	『京都市内遺跡試掘調査概報』平成 5 年度	京都市文化観光局	1994 年
300	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡立会調査概報』平成 5 年度	京都市文化観光局	1994 年
1	吉本健吾	平安宮式部省跡 (93HQ243)	『京都市内遺跡立会調査概報』平成 5 年度	京都市文化観光局	1994 年
301	瀧浪貞子	第二章 平安宮 1、大内裏の構造	『平安京提要』	角川書店	1994 年
302	寺升初代	第二章 平安宮 2、平安宮の復元	『平安京提要』	角川書店	1994 年
303	藤本孝一	都城拡大論と「山槐記」	『古代文化』第 46 卷第 9 号	(財) 古代学協会	1994 年
304	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
1	辻 裕司	平安宮図書寮跡	『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
2	北田栄造	平安宮中務省跡 1	『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
3	辻 裕司	平安宮中務省跡 2	『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
4	網 伸也	平安宮中務省跡 3	『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
5	山本雅和	平安宮中院跡	『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
6	吉本健吾	平安宮朝堂院・太政官・宮内省・主水司跡	『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
7	川村雅章	平安宮内裏・縫殿寮・長殿・率分藏跡	『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
305	辻 裕司	平安宮の建物	『季刊考古学』第 49 号 特集平安京跡発掘	雄山閣出版	1994 年
306	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平成 2 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
1	辻 裕司	平安宮西限跡 1	『平成 2 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
2	辻 裕司	平安宮西限跡 2	『平成 2 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
3	前田義明	平安宮中務省跡 1	『平成 2 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
4	網 伸也	平安宮中務省跡 2	『平成 2 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
5	平田 泰	平安宮朝堂院・豊樂院跡	『平成 2 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
6	百瀬正恒	平安宮朝堂院跡	『平成 2 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1994 年
307	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『平成 3 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1995 年
1	鈴木久男	平安宮大極殿院跡東部	『平成 3 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1995 年
2	吉村正親	平安宮中務省跡 1	『平成 3 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1995 年
3	鈴木久男	平安宮中務省跡 2	『平成 3 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1995 年
4	平田 泰・小檜山一良	平安宮・平安京右京一条三・四坊、二条二・三坊、三条一坊	『平成 3 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	(財) 京都市埋蔵文化財研究所	1995 年
308	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡発掘調査概報』平成 6 年度	京都市文化観光局	1995 年

番号	著者	文 献	掲 載 書	発 行 所	発行年
	1 長戸満男	平安宮朝堂院宣政門	『京都市内遺跡発掘調査概報』平成6年度	京都市文化観光局	1995年
	2 山本雅和	平安宮内裏内郭回廊	『京都市内遺跡発掘調査概報』平成6年度	京都市文化観光局	1995年
	3 平田 泰	平安宮武徳殿隣接地	『京都市内遺跡発掘調査概報』平成6年度	京都市文化観光局	1995年
	4 近藤知子	平安宮中務省	『京都市内遺跡発掘調査概報』平成6年度	京都市文化観光局	1995年
309	京都市埋蔵文化財調査センター		『京都市内遺跡試掘調査概報』平成6年度	京都市文化観光局	1995年
	1 梶川敏夫	平安宮内藏寮跡	『京都市内遺跡試掘調査概報』平成6年度	京都市文化観光局	1995年
310	(財) 京都市埋蔵文化財研究所		『京都市内遺跡立会調査概報』平成6年度	京都市文化観光局	1995年
	1 吉本健吾	平安宮職御曹司跡(94HQ313)	『京都市内遺跡立会調査概報』平成6年度	京都市文化観光局	1995年

付表III省庁の名称と職掌（番号はFig. 195に対応する）

名 称	読み	別 の 読み	内 容	番号
朝堂院	チョウドウイン	ハッショウイン（八省院）	宫廷儀礼や政務を行うところ。	2
豊楽院	ブラクイン		国家的な饗宴を行う施設。	3
内裏	ダイリ		天皇の平常の居住場所。	1
中和院	チュウカイン		新嘗祭など天皇みずから祭の式を執り行うところ。	30
真言院	シンゴンイン		真言密教の修法を行うところ。	27
内膳司	ナイゼンシ ウチノカシワデノツカサ		天皇の食事の調理・試食をつかさどる。	28
采女町	ウネメマチ		采女や女官の詰所。	29
太政官	ダイジョウカン オオイマツリゴトツカサ		八省諸司および諸国を統轄・管理し、国政の総括をつかさどる。	43
朝所	アイタンドコロ アイタドコロ		六位以下の宮人の勤務成績によって昇進や器量を見定める儀式のとき、宴座に移る前に公卿以下が酒食をしたためる場所。内裏焼亡や方違時の一時仮の御所にもなった。	
勘解由使	カゲユシ トクルヨシカンガウルツカサ		官人や役僧の交替を監査するところ。	
文殿	フドノ、フミドノ		文書・典籍などを保管し文事をつかさどる。	
中務省	ナカツカサショウ ナカノマツリゴトツカサ		天皇の秘書官ならびに宫廷内関係の諸雑務をつかさどる。	41
陰陽寮	オンミョウリョウ オンヨウリョウ オンヨウノツカサ		天文・暦・時刻・占いに関することをつかさどる。	42
監物	ケンモツ オロシモノノツカサ		大蔵・内蔵などの出納を監督・視察し、宮中に保管されている鍵の受領・返納することをつかさどる。	39
鈴鑰		シュレイ（主鈴） テンヤク（典鑰）	鈴・印・伝符・飛駆の函館を出納することをつかさどる。 監物のもとで鑰の出納と諸司の倉庫の開閉をつかさどる。	40 40
内舎人	ウドネリ ウチトネリ		宮中に宿直し護衛や雜使を務め、行幸の前後を警備・護衛をつかさどる。	38
民部省	ミンブショウ タミノツカサ		諸国の戸籍、賦役、田、山川、道路など民政全般と財政をつかさどる。	59
主計寮	シユケイリョウ カゾフルツカサ カズヘノツカサ		調・庸納入後の会計監査をつかさどる。	61
主税寮	シユゼイリョウ チカラノツカサ		地方財政を監査するところ。	60
造酒司	ゾウシュシ ミキノツカサ サケノツカサ		酒、酢などを醸造することをつかさどる。	25
縫殿寮	ヌイドノリョウ ヌイドノツカサ		五位以上の女官・官人の妻の名簿や勤務評定、衣服の裁縫などをつかさどる。	18
内藏寮	クラリョウ ウチノクラノツカサ		天皇の宝物や日常用品の調達・保管などをつかさどる。	17
掃部寮	カモンリョウ カモンリノツカサ		宮中の諸行事の設営や清掃をつかさどる。	16
漆室	ウルシムロ	ウルシヤ（漆屋）	漆芸品を制作する工房。	4
正親司	オオキミノツカサ オオキンタチノツカサ		天皇の親族の名簿を作成・管理するところ。	6
兵庫寮	ヒヨウゴリョウ ツワモノノクラノツカサ		武器の管理・製造・修理、軍用の音楽の教習などをつかさどる。	5
大藏庁	オオクラチョウ		大蔵省と同じか。	7
大藏省	オオクラショウ		諸国から納める調・庸などの出納、度量衡・市場価格、器物・衣服の製作などをつかさどる。大蔵は、特に調・庸・雜物などの収蔵庫。	8・9
		リツブンショ（率分所）	大蔵省に納入される調・庸・雜物の2割を別納する倉および率分をつかさどる。	9
		ナガドノ（長殿）	諸国からの貢納物を収めた倉庫。	9
主殿寮	トノモリョウ トノモリノツカサ		天皇の乗物などの管理や殿上の帷帳などの設営、宮廷内の掃除などをつかさどる。	10
大宿直	オオトノイ	オオトノイドコロ（大宿直所）	宮城内を警備する官人の詰所。	12
茶園	チャエン		大内裏に用いる茶を栽培。	11
内教坊	ナイキヨウボウ	内教房	女樂や踏歌の教習をつかさどる。	13
左兵衛府	サヒヨウエフ		内裏の警備と行幸時の警備などをつかさどる。	32
右兵衛府	ウヒヨウエフ		左兵衛府に同じ。	22
左近衛府	サコノエフ		内裏内郭諸門内の警備、行幸時の警備、京中の巡檢などを掌る。	20
右近衛府	ウコノエフ		左近衛府に同じ。	14

名 称	読 み	別 の 読 み	内 容	番号
梨本	ナシモト	ナシモトノイン（梨下院）	内裏の別宮として使用されるところ。	19
職御曹司	シキノミゾウシ		皇后・中宮に関する事務などを執るところ。内裏焼亡のさいには天皇の避難所としても用いられた。	21
侍従所	ジジュウドコロ		侍従の詰所。	31
釜所	カナエドコロ	カナエドノ、カマドノ、カナイドノ（釜殿）	釜殿の官人の詰所。	
外記	ゲキ		少納言の下で詔書の検討、奏文の作成、公事・儀式への奉仕などをつかさどる。	
南所	ナンショ ミナミドコロ	カタナシドコロ（結政所）	弁官・少納言・外記などが集まって政務を行ったところ。	
御書所	ゴショドコロ		宮中の書物を管理するところ。	
東前房		トウガイン（東雅院）	西前坊と同じ。	34
西前房		サイガイン（西雅院）	皇太子の御座所。	33
大膳職	ダイゼンシキ オオカシワデノツカサ		神仏事や節会などの食料供給、親王以下官人の1箇月分づつ支給する食料をつかさどる。	47
大炊寮	オオイリョウ オオイノツカサ		諸国からの春米・雑穀を収納し、諸司に分給する食料の事をつかさどる。	50
主水司	シュスイシ モンドノツカサ モヒ（イ）トリノツカサ		宫廷の飲料水や氷室、粥をつくることをつかさどる。	45
醤司	ショウシ	ショウイン（醤院）	味噌の一種の醤などを保管するところ。	46
西院	サイイン			44
宮内省	クナイショウ ミヤノウチノツカサ		天皇や皇族の衣食住に関するこのほとんどをつかさどる。	49
園韓神	ソノカラカミ	ソノカラカミシャ（園韓神社）	宮中の宮内省にある園韓と韓神の祀られた神社。	48
神祇官	ジンギカン カミ（カム）ツカサ		神祇の祭祀関係をつかさどる。	64
廩院	リンイン		民部省に付属する倉庫。諸国から貢進された庸米を収納。	63
雅楽寮	ガガクリョウ ウタマイノツカサ		在来や外來の歌舞・演奏・演舞と後継者育成の教習をつかさどる。	66
侍従厨	ジジュウノクリヤ		侍従所で行われる饗膳の準備を行うところ。	65
式部省	シキブショウ ノリノツカサ		文官全般の人事関係をつかさどる。	62
主税厨	シュゼイノクリヤ		主税寮に付属する厨。	
民部厨	ミンブノクリヤ		民部省に付属する厨。	
主計厨	シュケイノクリヤ		主計寮に付属する厨。	
式町	シキマチ	シキブノクリヤ（式部厨）	式部省に付属する厨か？	
兵部省	ヒョウブショウ ツワモノノツカサ		内外武官の人事、軍事一般をつかさどる。	58
彈正台	ダンジョウダイ タダスノツカサ		京内の犯罪取り締まりや官人の網紀肅正をつかさどる。	57
図書寮	ズショリョウ フミノツカサ		図書の管理、国史の編纂、仏像・経典の保管、紙・筆・墨の製造・供給をつかさどる。	15
武徳殿	ブトクデン ムマキトノ		宮の馬場の正殿。騎射や競馬、駒牽を行うところ。	23
内匠寮	タクミリョウ ウチノタクミノツカサ		宫廷の調度の製作、殿舎の装飾をつかさどる。	24
典薬寮	テンヤクリョウ クスリノツカサ		医学教育、医療行政、官人を対象とした医療などをつかさどる。	36
治部省	ジブショウ オサムルツカサ		主に仏事に関する事をつかさどる。	52
玄蕃寮	ゲンバリヨウ ホウシマラヒトノツカサ		寺院、僧尼、外国使節の接待などのことをつかさどる。	53
刑部省	ギョウブショウ ツタエノツカサ ウタエタダスツカサ		司法行政事務をつかさどる。	54
判事	ハシジ		法の適用をつかさどる。	56
諸陵寮	ショリヨウリヨウ ミササギノツカサ		陵墓関係をつかさどる。	55
御井	ミイ、オイ		天皇に供される水を汲む井戸があつたところ。	37
左馬寮	サマリヨウ サメリヨウ		馬の飼育・調教、儀礼や兵事に用いる馬をつかさどる。	35
右馬寮	ウメリヨウ		左馬寮に同じ。	51

参考：井上満郎「平安宮諸機関の索引」『京都市埋蔵文化財年次報告』1973-I 京都市文化観光局文化財保護課 1974年

『平安時代史事典』角川書店 1994年 『広辞苑』第四版 岩波書店 1991年 『国史大辞典』吉川弘文館 1979～1993年

『日本史大事典』平凡社 1992～1994年



図 93 平安京図

KYOTO CITY ARCHAEOLOGICAL RESEARCH INSTITUTE RESEARCH REPORTS Vol.13
(Volume commemorating the 1200th anniversary of the Heian Capital)

HEIAN IMPERIAL PALACE SITE
EXCAVATION REPORT I

English Table of Contents and Summary

Kyoto City Archaeological Research Institute
[Kyōtoshi Maizōbunkazai Kenkyūsho]
1995

Table of Contents

Chapter 1 History of Research into the Heian Imperial Palace	
I Preparation of this report	1
II Investigations prior to the foundation of Kyoto City Archaeological Research Institute	2
III Investigations subsequent to the foundation of Kyoto City Archaeological Research Institute	5
Chapter 2 Location and Sites Prior to the Heian Imperial Palace	
I Location of the Heian Imperial Palace Site	7
II Sites prior to the Heian Imperial Palace	11
Chapter 3 Compilation of Archaeological Investigations	
I Site of State Halls Compound	26
II Site of Emperor's Banquet Halls Compound	36
III Site of Imperial Residence	48
IV Site of Other Government Offices	64
1. Supreme Council of Administration	64
2. Ministry of Imperial Affairs	76
3. Ministry of Financial Affairs	93
4. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars	97
5. Central part of Government Offices	113
6. Northern part of Government Offices	117
7. Eastern part of Government Offices	120
8. Western part of Government Offices	125
Chapter 4 Discussion	
I Reconstruction of the Heian Imperial Palace	129
II Changing configurations of the Heian Imperial Palace	133
III Location of Government Offices from a stratigraphic standpoint	138
Appendix Outlines of Unpublished Investigation of Excavation and Trial Trenching	
I Excavation Reports	141
1. Bureau of Palace Sewers	141
2. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars	141
3. Western Building	142
4. Workshop for Lacquer Ware	143
5. Imperial Registry Office	143
6. Bureau of Palace Maintenance	145
7. Bureau of Sutra Scripts and Books	145
8. Tea Plantation	146
9. Emperor's Well	147
10. Emperor's Banquet Halls Compound	148
11. Palace Storehouse Bureau	148

12. State Halls Compound	149
13. Ministry of Imperial Treasury	151
14. State Halls Compound	151
15. Ministry of Imperial Affairs	152
16. Supreme Council of Administration	153
17. State Halls Compound	155
18. From Ministry of Imperial Affairs through Bureau of Grain Stores and the Management of Food-stuffs for all the Officers	156
19. Imperial Stable Bureau	159
20. Ministry of Imperial Affairs	160
21. Emperor's Banquet Halls Compound	161
II Trial Trenching Reports	162
22. Southeast part of Palace	162
23. Bureau of Medicine	162
24. Bureau of Palace Sewers	163
25. Ministry of Imperial Treasury	163
26. Southeast part of Palace	164
27. Emperor's Well	164
28. Imperial Residence	165
29. <i>En'no matsubara</i> and Office in Charge of Rice Wines and Vinegars	166
30. Emperor's Banquet Halls Compound	166
31. From Ministry of Imperial Household through Office in Charge of Water, Rice, Gruel and Ice	167
32. State Halls Compound, Supreme Council of Administration and Ministry of Imperial Affairs	167
33. Prince's Residence (east) and Imperial Food Service	169
34. Ministry of Imperial Affairs	169
35. From Ministry of Ceremonial and Foreign Affairs through Judge	170
36. Bureau of Skilled Artisans and Office in Charge of Rice Wines and Vinegars	170
37. Imperial Residence	171
38. From State Halls Compound through Ministry of Personnel Affairs	172
39. Site of <i>Nijō-ōji</i> Street	172
40. From Emperor's Ritual Halls through Palace Storehouse Bureau	173
41. State Halls Compound	176
42. From State Halls Compound through Imperial Table Office	176
43. Ministry of Imperial Treasure	177
44. From Emperor's Banquet Halls Compound through Ministry of Ceremonial and Foreign Affairs	177
45. From State Halls Compound through Palace Storehouse Bureau	178
Tables	180
English Summary	223

Frontispiece (Color Plates)

1. Historical Literature: Map of the Heian Imperial Palace (*Kyūjōzu*) curate in the *Yōmeibunko* (Manuscript in 1319A.D.)
2. Aerial view toward east of Heian Imperial Palace (Photographed in 1987)
3. Northwest part of the foundation platform of Main Hall (*Burakuden*), from northwest [Emperor's Banquet Halls Compound Investigation #1]
- 4-1. Foundation platform of north side corridor of Imperial Audience Halls Compound (*Daigokuden'in*), from northeast [State Halls Compound Investigation #23]
- 4-2. Foundation platform and rain gutter of the west side corridor of Imperial Residence (*Dairi*), from northeast [Imperial Residence Investigation #7]

Plates

1. Location of the Excavation sites 1
2. Location of the Excavation sites 2
3. Location of the Excavation sites 3
4. Location of the Excavation sites 4
5. Location of the Excavation sites 5
6. Location of the Excavation sites 6
7. Placements of structural remains of State Halls Compound 1
8. Placements of structural remains of State Halls Compound 2
9. Placements of structural remains of State Halls Compound 3
10. Placements of structural remains of Emperor's Banquet Halls Compound
11. Placements of structural remains of Imperial Residence 1
12. Placements of structural remains of Imperial Residence 2
13. Placements of structural remains of Imperial Residence 3
14. Placements of structural remains of Supreme Council of Administration
15. Placements of structural remains of Ministry of Imperial Affairs
16. Vertical view of the Heian Imperial Palace (Photographed in 1990)
17. Aerial view toward south of the Heian Imperial Palace (Photographed in 1978)
18. State Halls Compound 1
 - 1 Investigation #1 General view, from northwest
 - 2 Investigation #1 Northeast corner of corridor, from south
19. State Halls Compound 2
 - 1 Investigation #5 General view, from east
 - 2 Investigation #5 East stairs of Senseimon, from east
 - 3 Investigation #5 West edge of *Senseimon*, from northeast
20. State Halls Compound 3
 - 1 Investigation #17 General view, from east
 - 2 Investigation #17 Feature covered with pebbles, close-up, from east
21. State Halls Compound 4
 - 1 Investigation #24 North edge of the foundation platform of north side corridor of Imperial Audience Hall Compound, *Danjōzumi Kidan*, from northwest
 - 2 Investigation #24 General view, from west

22. State Halls Compound 5
- 1 Investigation #25 General view, from west
 - 2 Investigation #25 South edge of the foundation platform of north side corridor of Imperial Audience Hall Compound, close-up, from south
23. State Halls Compound 6
- 1 Investigation #27 General view, from north
 - 2 Investigation #27 North edge of the foundation platform of eastern roofed passage between Main Hall and corridor, close-up, from north
24. State Halls Compound 7
- 1 Investigation #31 North edge of the foundation platform of north side corridor of Imperial Audience Hall Compound, from north
 - 2 Investigation #31 South edge of the foundation platform of Main Hall, from east
25. Emperor's Banquet Halls Compound 1
- 1 Investigation #1 General view, from northwest
 - 2 Investigation #1 North side of Main Hall *in situ*, from northwest
26. Emperor's Banquet Halls Compound 2
- 1 Investigation #1 Roofed passage leading to Rear Hall, from west
 - 2 Investigation #1 Buried pit (SK3) of materials used for purification of building site and feature covered tiles, from northwest
27. Emperor's Banquet Halls Compound 3
- 1 Investigation #1 West stairs on north side of Main Hall, from north
 - 2 Investigation #1 Central stairs on north side of Main Hall, from north
28. Emperor's Banquet Halls Compound 4
- 1 Investigation #1 Hewn stones faced for foundation platform of north edge of Main Hall, from northeast
 - 2 Investigation #1 Hewn stones faced for foundation platform of north edge of Main Hall, from west
29. Emperor's Banquet Halls Compound 5
- 1 Investigation #1 Main Hall base stone installation (ハ), from north
 - 2 Investigation #1 Rammed earth for the installation of base stone of Main Hall (口), from north
 - 3 Investigation #1 Main Hall base stone installation (イ), from southeast
30. Emperor's Banquet Halls Compound 6
- 1 Investigation #1 North side of Main Hall, west stairs rammed earth, from west
 - 2 Investigation #1 Rammed earth of foundation platform of Main Hall, from northeast
 - 3 Investigation #1 Rammed earth of foundation platform of roofed passage leading to Rear Hall, from southwest
31. Emperor's Banquet Halls Compound 7
- 1 Investigation #1 Narrow portion of removal of hewn stones on the central stairs of the north side of Main Hall, from northwest
 - 2 Investigation #1 Land readjustments after demolition of the central stairs, from northwest
32. Emperor's Banquet Halls Compound 8
- 1 Green-glazed curved ornamental ridge-end tile (*Ryokuyū Sibi*)
 - 2 Terminal ridge-end tile (*Onigawara*)
33. Emperor's Banquet Halls Compound 9

- 1 Investigation #2 General view, from north
- 2 Investigation #3 Inside gutter of east side earthen wall of Emperor's Banquet Halls Compound, from southwest
34. Emperor's Banquet Halls Compound 10
 - 1 Investigation #7 General view, from northeast
 - 2 Investigation #7 *Nobeishi* *in situ*, from northeast
 - 3 Investigation #9 Snapshot, from east
 - 4 Investigation #9 Slabs of tuff in row *in situ*, from north
35. Imperial Residence 1
 - 1 Investigation #1 General view, from north
 - 2 Investigation #3 General view, from north
36. Imperial Residence 2
 - 1 Investigation #4 Rain gutter on east side of *Tokaden* and pit, from north
 - 2 Investigation #5 General view, from south
 - 3 Investigation #5 Pottery *in situ* in pit SK01, from west
37. Imperial Residence 3
 - Investigation #7 *Jifukuishi* and the rain gutter on east side of west side corridor, from north
38. Imperial Residence 4
 - 1 Investigation #7 Cross section of the rain gutter on east side, from south
 - 2 Investigation #7 *Jifukuishi* and the rain gutter on east side of west side corridor, from southeast
 - 3 Investigation #10 General view, from north
39. Imperial Residence 5
 - 1 Investigation #8 General view, from east
 - 2 Investigation #8 Culvert under south side of the corridor, from southeast
40. Imperial Residence 6
 - Investigation #9 Excavated features of Bureau of Archivists and rain gutter on south side, from south
41. Imperial Residence 7
 - 1 Investigation #9 Rain gutter on south side, from northwest
 - 2 Investigation #9 Foundation platform of building and rain gutter on south side, from north
 - 3 Investigation #9 Narrow portion of the crossing between south and east rain gutter, from west
42. Imperial Residence 8
 - 1 Investigation #11 General view, from north
 - 2 Investigation #11 Rain gutter on north side of *Jomeimon*, from northwest
43. Imperial Residence 9
 - 1 Investigation #9 Buried remains (76) of materials used for purification of building site, from north
 - 2 Investigation #9 Buried remains (78) of materials used for purification of building site, from east
 - 3 Investigation #9 Buried remains (83) of materials used for purification of building site, from northwest
 - 4 Investigation #9 Buried remains (87) of materials used for purification of building site, from east
44. Imperial Residence 10

- 1 Investigation #17 General view, from north
 - 2 Investigation #18 General view, from east
45. Imperial Residence 11
 - 1 Investigation #19 General view, from west
 - 2 Investigation #20 General view, from east
 46. Imperial Residence 12
 - 1 Investigation #22 General view, from north
 - 2 Investigation #27 General view, from south
 47. Imperial Residence 13
 - 1 Investigation #27 Pounding in an earthen foundation on a depression made for that purpose, from southeast
 - 2 Investigation #6 Snapshot, from east
 - 3 Investigation #6-2 Narrow portion of the stone covered feature, from east
 - 4 Investigation #6-3 Narrow portion of the tuff, from south
 - 5 Investigation #6-11 Narrow portion of the stone covered feature, from east
 48. Imperial Residence 14
 - 1 Investigation #12 Snapshot, from east
 - 2 Investigation #12-4 Narrow portion of the tuff, from northwest
 - 3 Investigation #12-6 Narrow portion of the feature faced with stones, from southeast
 - 4 Investigation #12-7 Narrow portion of the feature faced with stones, from southeast
 - 5 Investigation #13 Snapshot, from southeast
 - 6 Investigation #13-1 Narrow portion of the tuff, from north
 - 7 Investigation #28 Snapshot, from west
 - 8 Investigation #28-1 Narrow portion of the tuff, from north
 49. Supreme Council of Administration 1
 - 1 Investigation #1 General view, from west
 - 2 Investigation #2 General view, from southeast
 50. Supreme Council of Administration 2
 - 1 Investigation #3 Eastern half of the excavation area, general view, from south
 - 2 Investigation #3 Western half of the excavation area, general view, from east
 51. Supreme Council of Administration 3
 - 1 Investigation #4 General view, from east
 - 2 Investigation #4 Ditch (SD05), close-up, from east
 52. Supreme Council of Administration 4
 - 1 Investigation #5 General view, from north
 - 2 Investigation #5 Roof-tile *in situ* in hollow SX2, from northeast
 53. Supreme Council of Administration 5
 - 1 Investigation #8 General view, from north
 - 2 Investigation #8 Ditch (SD14) *in situ*, from northeast
 - 3 Investigation #8 Excavated road surface, from northeast
 54. Supreme Council of Administration 6
 - 1 Investigation #9 General view, from north
 - 2 Investigation #9 Earthen wall1, close-up, from west

55. Supreme Council of Administration 7
 - 1 Investigation #11 General view, from north
 - 2 Investigation #11 Artifacts *in situ* in ditch (SD69), from northeast
56. Ministry of Imperial Affairs 1
 - 1 Investigation #1 General view, from south
 - 2 Investigation #2 General view, from south
57. Ministry of Imperial Affairs 2
 - Investigation #3 General view, from south
58. Ministry of Imperial Affairs 3
 - 1 Investigation #5 General view, from south
 - 2 Investigation #7 General view, from north
59. Ministry of Imperial Affairs 4
 - 1 Investigation #8 General view, from north
 - 2 Investigation #8 Roof-tile *in situ*, from north
60. Ministry of Imperial Affairs 5
 - 1 Investigation #9 General view, from north
 - 2 Investigation #9 Western half of excavation area, close-up, from northeast
 - 3 Investigation #9 Pit SK4 into which roof tiles were discarded, from northwest
61. Ministry of Imperial Affairs 6
 - 1 Investigation #10 Earthen wall divided between *Kenmotsu* and *Reiyaku*, general view, from north
 - 2 Investigation #10 Earthen wall and its gutters SD2, 3, from southeast
62. Ministry of Imperial Affairs 7
 - 1 Investigation #11 General view, from north
 - 2 Investigation #11 Roof-tiles *in situ*, from northeast
 - 3 Investigation #11 Pottery *in situ* in pit SK12, from south
63. Ministry of Imperial Affairs 8
 - 1 Investigation #12 West side earthen wall in *Kenmotsu*, from north
 - 2 Investigation #12 Sub-stratum of west side earthen wall, from north
64. Ministry of Imperial Affairs 9
 - 1 Investigation #12 Upper stratum of culvert SX6, from northeast
 - 2 Investigation #12 Lower stratum of culvert SX6, from south
65. Ministry of Imperial Affairs 10
 - 1 Investigation #13 General view, from north
 - 2 Investigation #14 General view, from north
66. Ministry of Imperial Affairs 11
 - 1 Investigation #15 The first surface of features, general view, from west
 - 2 Investigation #15 Gutter SD4 and post-holes, from northeast
 - 3 Investigation #15 Narrow portion of gutters SD1, 2, from southeast
67. Ministry of Imperial Affairs 12
 - 1 Investigation #16 General view, from west
 - 2 Investigation #17 The second surface of features, general view, from south
68. Ministry of Imperial Affairs 13
 - 1 Investigation #18 General view, from north

- 2 Investigation #19 General view, from north
69. Ministry of Financial Affairs 1
Investigation #2 General view, from east
70. Ministry of Financial Affairs 2
1 Investigation #2 Southwest corner of building, from northwest
2 Investigation #2 West edge of south side earthen wall and its culvert, from east
71. Ministry of Financial Affairs 3
1 Investigation #2 South side earthen wall, general view, from west
2 Investigation #2 Roof-tiles *in situ* outside of south side earthen wall, from east
3 Investigation #2 Stratigraphic cross-section, outside of west side earthen wall, from south
72. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 1
1 Investigation #1 Southwest part of the excavation area, general view, from north
2 Investigation #2 Western half of the excavation area, general view, from north
73. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 2
1 Investigation #3 General view, from northwest
2 Investigation #3 Western half of the excavation area, from east
74. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 3
1 Investigation #3 Road surface SF1 *in situ*, from northeast
2 Investigation #3 Ditch SD2 *in situ*, from northeast
75. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 4
1 Investigation #4 Excavation area 1, general view, from northeast
2 Investigation #4 Eastern half of the excavation area 2, general view, from south
76. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 5
1 Investigation #4 Northeast part of the excavation area 2, general view, from south
2 Investigation #4 North part of the excavation area 2, general view, from east
77. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 6
1 Investigation #4 Western part of the excavation area 1, general view, from north
2 Investigation #4 Central part of the excavation area 1, general view, from west
78. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 7
1 Investigation #4 Remains of building SB1, general view, from north
2 Investigation #4 Post-hole of building SB1, close-up, from east □
3 Investigation #4 Post-hole of building SB1, close-up, from north ▲
79. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 8
1 Investigation #4 Eastern half of road surface SF1, from east
2 Investigation #4 Western half of road surface SF1, from east
80. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 9
1 Investigation #4 Stake-halls in row, from east
2 Investigation #4 Gutter SD2, from northeast
81. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 10
1 Investigation #5 General view, from east
2 Investigation #5 Remains of building SB3, from east
82. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 11
1 Investigation #5 Remains of building SB4, 5, from east

- 2 Investigation #5 Gutter SD4, from south
83. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 12
- 1 Investigation #5 Artifacts *in situ* in pit SK22, from north
- 2 Investigation #5 Pit SK23, from south
84. Office in Charge of Rice Wines and Vinegars 13
- 1 Investigation #6 Gutter SD4 in excavation area 1, from south
- 2 Investigation #6 Gutter SD2 in excavation area 2, from north
85. Eastern part of Government Offices 1
- 1 Investigation #4 General view, from north
- 2 Investigation #11 General view, from east
86. Western part of Government Offices 1
- 1 Investigation #1 General view, from east
- 2 Investigation #2 General view, from east
87. Western part of Government Offices 2
- 1 Investigation #3 General view, from east
- 2 Investigation #11 General view, from west
88. Appendix 1
- 1 Imperial Registry Office, general view, from west (Appendix 5)
- 2 Bureau of Sutra Scripts and Books, general view, from northwest (Appendix 7)
89. Appendix 2
- 1 Emperor's Well, general view, from north (Appendix 9)
- 2 Emperor's Banquet Halls Compound, general view, from northeast (Appendix 10)
90. Appendix 3
- 1 Ministry of Imperial Affairs, general view, from south (Appendix 15)
- 2 Ministry of Imperial Affairs, pit (SK12), from southeast (Appendix 15)
- 3 Ministry of Imperial Affairs, south extended excavation area, from east (Appendix 15)
91. Appendix 4
- 1 Supreme Council of Administration, general view, from east (Appendix 16)
- 2 Supreme Council of Administration, roof-tiles *in situ* in pit (SK47), from northeast (Appendix 16)
92. Appendix 5
- Supreme Council of Administration, eaves tiles excavated into pit (SK47) (Appendix 16)
93. Appendix 6
- 1 From Ministry of Imperial Affairs through Bureau of Grain Stores and the Management of Foodstuffs for all the Officers, excavation area 1, general view, from east (Appendix 18)
- 2 From Ministry of Imperial Affairs through Bureau of Grain Stores and the Management of Foodstuffs for all the Officers, pit into which roof-tiles were discarded, from northeast (Appendix 18)
94. Appendix 7
- 1 From Ministry of Imperial Affairs through Bureau of Grain Stores and the Management of Foodstuffs for all the Officers, excavation area 7, general view, from east (Appendix 18)
- 2 From Ministry of Imperial Affairs through Bureau of Grain Stores and the Management of Foodstuffs for all the Officers, excavation area 2, general view, from west (Appendix 18)
- 3 From Ministry of Imperial Affairs through Bureau of Grain Stores and the Management of Foodstuffs for all the Officers, excavation area 4, general view, from east (Appendix 18)

95. Appendix 8

- 1 Ministry of Imperial Affairs, east side earthen wall, general view, from north (Appendix 20)
- 2 Palace Storehouse Bureau, south side earthen wall, general view, from north (Appendix 45 Trench No. 18, 19)
- 3 State Halls Compound, gutter of south edge of north side corridor, from north (Appendix 45 Trench No. 6)
- 96. Historical Literature: Map of the Heian Imperial Palace (*Kyūjūzu*) 1
Hasshōin-zu (The map of State Halls Compound) curate in the *Yōmeibunko*
- 97. Historical Literature: Map of the Heian Imperial Palace (*Kyūjōzu*) 2
Burakuin-zu (The map of Emperor's Banquet Halls Compound) curate in the *Yōmeibunko*
- 98. Historical Literature: Map of the Heian Imperial Palace (*Kyūjōzu*) 3
Dairi-zu (The map of Imperial Residence) curate in the *Yōmeibunko*
- 99. Historical Literature: Map of the Heian Imperial Palace (*Kyūjōzu*) 4
Chōkain-zu (The map of Emperor's Rituals Hall) curate in the *Yōmeibunko*

List of Figures

1. General Idea of division of the Heian Imperial Palace	1
2. Present topography of Heian Capital	7
3. Present topography of Heian Imperial Palace	8
4. Topography of Pre-Heian Imperial Palace	9
5. Pre-Heian excavation sites locations in the Heian Imperial Palace area	11
6. Investigation #2, Plan and cross section of excavation area	12
7. Investigation #2, Pottery discovered in ditch ; measured drawings	12
8. Investigation #3, Plan of excavation area	13
9. Investigation #4, Plan of excavation area	13
10. Investigation #4, Pottery discovered in SK29; measured drawings	14
11. Investigation #5, Discovered <i>Sue</i> ware wine server	14
12. Investigation #6, Plan and cross section of excavation area 2, No.4	14
13. Investigation #7, Stratigraphic profile SX1	15
14. Investigation #7, Pottery discovered in SX1; measured drawings	15
15. Investigation #8, Stratigraphic profile of ditch of Kofun Period (<i>ca.</i> 300 ~ 700 A.D.)	15
16. Investigation #9, Pottery discovered in SK60; measured drawings	15
17. Investigation #10, Plan of excavation area	15
18. Investigation #10, Pottery discovered in pit house 88 of Nara Period (<i>ca.</i> 710 ~ 794 A.D.); measured drawings	16
19. Investigation #11, Plan of excavation area	16
20. Investigation #13, Plan and cross section of excavation area	16
21. Investigation #14, Plan of excavated pit house 37	17
22. Investigation #14, Pottery discovered in pit house 37; measured drawings	17
23. Investigation #17, Plan of pit house of Late Kofun Period (<i>ca.</i> 500 ~ 700 A.D.)	17
24. Investigation #19, Plan of excavation area	18
25. Investigation #20, Plan and cross section of ditch (SD36)	18
26. Investigation #21, Plan of excavation area	18

27. Investigation #23, Plan of excavation area	19
28. Investigation #25, Plan of excavation area	19
29. Investigation #26, Stratigraphic profile of hollow	20
30. Investigation #27, Plan of excavation area	20
31. Spatial distribution of Pre-Heian Period archaeological remains and artifacts discovered in the Heian Imperial Palace area	22
32. Investigation #1, Plan and cross section of excavation area	27
33. Investigation #5, Plan and cross section of excavation area	29
34. Investigation #24, Plan and cross section of excavation area	30
35. Investigation #24, Plan and cross section of foundation platform	30
36. Investigation #25, Plan and cross section of excavation area	31
37. Investigation #27, Plan and cross section of excavation area	32
38. Investigation #31-7, Plan of excavation area	32
39. Investigation #31-1, Plan of excavation area	32
40. Investigation #24, Pottery discovered in leveled stratum of foundation platform; measured drawings	33
41. Placements of structural remains of north side corridor	35
42. Reconstruction of the Main Hall of Emperor's Banquet Halls Compound and placements of excavation area	37
43. Investigation #1, Plan and cross section of <i>Danj/-zumi Kidan</i> (foundation platform faced with hewn stones)	38
44. Investigation #1, Materials for foundation platform faced with hewn stones; wet rubbings	38
45. Investigation #1, Plan and cross section of feature covered tiles at west side of roofed passage	39
46. Investigation #1, Plan and cross section of excavation area	40
47. Investigation #1, Cross section of foundation platform of Main Hall	41
48. Investigation #1, Cross section of roofed passage and Main Hall	42
49. Investigation #1, Pottery discovered in Pit SK3; measured drawings	43
50. Investigation #2, Plan of excavation area	43
51. Investigation #3, Plan of excavation area	43
52. Investigation #9, Placements of tuff; sketch	44
53. Investigation #1, Pottery discovered in Emperor's Banquet Halls Compound; measured drawings	45
54. Investigation #1, Discovered terminal ridge-end tile (<i>Onigawara</i>)	46
55. Investigation #1, Discovered curved ornamental ridge-end tile (<i>Shibi</i>)	46
56. Metal gilt bronze cover ornament for rafter-end discovered in point A	47
57. Collection, plan and cross section of Imperial Residence 1	49
58. Collection, plan and cross section of Imperial Residence 2	51
59. Collection, plan and cross section of Emperor's Ritual Halls Compound 1	53
60. Collection, plan and cross section of Emperor's Ritual Halls Compound 2	54
61. Condition of Remaining Features from Heian Period	58
62. Reconstruction of southwest part of Imperial Residence	59
63. Collection, plan and cross section of rain gutter of Imperial Residence	60
64. Investigation #1, Plan and cross section of excavation area	65
65. Investigation #2, Plan and cross section of excavation area	65

66. Investigation #3, Plan of excavation area	65
67. Investigation #4, Plan and cross section of excavation area	66
68. Investigation #5, Plan and cross section of excavation area	66
69. Investigation #8, Plan and cross section of excavation area	67
70. Investigation #9, Plan and cross section of excavation area	68
71. Investigation #11, Plan and cross section of excavation area	68
72. Investigation #3, Pottery discovered in Supreme Council of Administration; measured drawings	71
73. Reconstruction of Supreme Council of Administration	74
74. Investigation #1, Plan and cross section of excavation area	77
75. Investigation #2, Plan of excavation area	77
76. Investigation #3, Plan and cross section of excavation area	78
77. Investigation #5, Plan and cross section of excavation area	78
78. Investigation #7, Plan and cross section of excavation area	79
79. Investigation #8, Plan and cross section of excavation area	79
80. Investigation #9, Plan and cross section of excavation area	80
81. Investigation #10, Plan of excavation area	80
82. Investigation #11, Plan and cross section of excavation area	81
83. Investigation #12, Plan and cross section of excavation area	82
84. Investigation #13, Plan and cross section of excavation area	83
85. Investigation #14, Plan and cross section of excavation area	83
86. Investigation #15, Plan and cross section of excavation area	83
87. Investigation #16, Plan and cross section of excavation area	84
88. Investigation #17, Plan and cross section of excavation area	84
89. Investigation #18, Plan and cross section of excavation area	85
90. Investigation #19, Plan and cross section of excavation area	85
91. Investigation #21, Plan of excavation area	86
92. Reconstruction of Ministry of Imperial Affairs	90
93. Remains of building No.1	91
94. Remains of building No.8	91
95. Remains of building No.7	91
96. Remains of building No.2	91
97. Remains of building No.5, No.6	91
98. Investigation #1, Plan and cross section of excavation area	93
99. Investigation #2, Plan and cross section of excavation area	94
100. Investigation #2, Pottery discovered in gutter (SD11); measured drawings	95
101. Placements of structural remains of Ministry of Financial Affairs	96
102. Investigation #1, Plan of excavation area	98
103. Investigation #2, Plan of excavation area	98
104. Investigation #3, Plan of excavation area	99
105. Investigation #4, Plan of excavation area	100
106. Investigation #5, Plan of excavation area	101
107. Investigation #6, Plan of excavation area	101
108. Plan and cross section of remains of building SB1	102

109. Plan and cross section of remains of building SB3	102
110. Plan and cross section of remains of building SB4, 5	103
111. Plan and cross section of remains of palisade SA2	103
112. Plan of gutter SD2 and remains of palisade in row	104
113. Cross section of gutter SD2	104
114. Cross section of gutter SD4	105
115. Investigation #5, Plan and cross section of pits and gutter	106
116. Eaves tiles, wet rubbings	106
117. Pottery discovered in pit SK5; measured drawings	107
118. Pottery discovered in gutter SD2; measured drawings	108
119. Pottery discovered in pit (SK12, 22, 23); measured drawings	109
120. Placements of structural remains of Office in Charge of Rice Wines and Vinegars	111
121. Investigation #1, Plan and cross section of excavation area	113
122. Investigation #2, Plan and cross section of excavation area	113
123. Investigation #3, Plan and cross section of excavation area	114
124. Placements of structural remains of Palace Storehouse Bureau	116
125. Investigation #8, Plan of excavation area	119
126. Investigation #9, Plan of excavation area	119
127. Investigation #4, Plan and cross section of excavation area	121
128. Investigation #7, Placements of structural remains	122
129. Investigation #11, Plan of excavation area	122
130. Placements of structural remains of east part of eastern part of Government Offices	124
131. Investigation #1, Plan of excavation area	125
132. Investigation #2, Plan of excavation area	125
133. Investigation #3, Plan of excavation area	126
134. Investigation #11, Plan of excavation area	127
135. Reconstruction of State Halls Compound	130
136. Spatial distribution of structural remains discovered in the Heian Palace Site	134
137. Spatial distribution of structural remains of Early Heian Period (<i>ca.</i> 794 ~ 850 A.D.)	135
138. Spatial distribution of structural remains of Middle Heian Period (<i>ca.</i> 850 ~ 1050 A.D.)	136
139. Spatial distribution of structural remains of Late Heian Period (<i>ca.</i> 1050 ~ 1192 A.D.)	137
140. Topographical cross section of the Heian Palace Site	139
141. Appendix 2 Location of excavation sites	142
142. Appendix 3 Plan of excavation area	143
143. Appendix 4 Plan of excavation area	143
144. Appendix 5 Plan of excavation area	144
145. Appendix 6 Plan of excavation area	145
146. Appendix 7 Plan of excavation area	145
147. Appendix 8 Plan of excavation area	146
148. Appendix 9 Plan of excavation area 1	147
149. Appendix 10 Plan of excavation area	148
150. Appendix 11 Plan and cross section of excavation area	148
151. Appendix 12 Plan and cross section of excavation area	149

152. Appendix 12 Plan and cross section of pit (SK06)	150
153. Appendix 14 Plan of excavation area	151
154. Appendix 15 Plan and cross section of excavation area	152
155. Appendix 15 Plan of pit SK12	152
156. Appendix 16 Plan of excavation area	153
157. Appendix 16 Eaves tiles discovered in pit (SK47); wet rubbings	154
158. Appendix 17 Plan of excavation area	155
159. Appendix 18 Plan of excavation area 1	156
160. Appendix 18 Plan of excavation area 2	156
161. Appendix 18 Plan of excavation area 3	157
162. Appendix 18 Plan of excavation area 5	157
163. Appendix 18 Plan of excavation area 4	157
164. Appendix 18 Plan of excavation area 6	158
165. Appendix 18 Plan of excavation area 7	158
166. Appendix 18 Pottery discovered in gutter; measured drawings	158
167. Appendix 19 Placements of structural remains of Imperial Stable Bureau	159
168. Appendix 20 Plan and cross section of excavation area	160
169. Appendix 21 Plan of excavation area	161
170. Appendix 22 Location of the Trial Trenching	162
171. Appendix 26 Location of the Trial Trenching	164
172. Appendix 27 Placements of excavation area	165
173. Appendix 28 Location of the Trial Trenching	165
174. Appendix 29 Location of the Trial Trenching	166
175. Appendix 30 Location of the Trial Trenching	166
176. Appendix 31 Location of the Trial Trenching	167
177. Appendix 32 Location of the Trial Trenching	168
178. Appendix 33 Location of the Trial Trenching	169
179. Appendix 34 Location of the Trial Trenching	169
180. Appendix 35 Location of the Trial Trenching	170
181. Appendix 36 Location of the Trial Trenching	170
182. Appendix 37 Location of the Trial Trenching	171
183. Appendix 38 Location of the Trial Trenching	172
184. Appendix 39 Location of the Trial Trenching	172
185. Appendix 40 Location of the Trial Trenching	173
186. Appendix 40 Cross section of south side of the trench	174
187. Appendix 41 Location of the Trial Trenching	176
188. Appendix 42 Location of the Trial Trenching	176
189. Appendix 43 Location of the Trial Trenching	177
190. Appendix 44 Location of the Trial Trenching	177
191. Appendix 45 Location of the Trial Trenching	179
192. Appendix 45 Placements of structural remains of Imperial Audience Hall Compound	179
193. Map of the Heian Imperial Palace	222
194. Location of the Heian Capital (English)	239

195. Map of the Heian Imperial Palace (English)	242
196. <i>Kidan</i> (Foundation Platform); Illustration (English)	244

List of Photographs

1. Narrow portion of the foot of the stairs of <i>Myōraido</i> , from west [State Halls Compound Investigation #3] 28	
2. Snapshot, from west [Emperor's Banquet Halls Compound Investigation #1] 37	
3. Buried pit SK3 of the materials used for purification of building site in situ, from southwest [Emperor's Banquet Halls Compound Investigation #1] 43	
4. Narrow portion of the tuff, from west [Imperial Residence Investigation #2] 49	
5. General view, from northeast [Imperial Residence Investigation #14] 52	
6. General view, from east [Imperial Residence Investigation #21] 54	
7. Snapshot, from north [Imperial Residence Investigation #26] 55	
8. Notation on northeast corner of State Halls Compound (<i>Yōmeibunko</i>) 131	

List of Tables

1. Table of numbers about trial trenching every fiscal year	6
2. Table of structural remains and artifacts discovered in Heian Palace Site	23
3. Table of structural remains into State Halls Compound	34
4. Table of structural remains [Supreme Council of Administration Investigation #12]	70
5. Table of structural remains [Ministry of Imperial Affairs Investigation #22]	86
I Table of Investigations	180
II Table of Literature	208
III Table of Name and Function of Government Offices	219

HEIAN IMPERIAL PALACE SITE EXCAVATION REPORT I

Summary

This report summarizes the results of excavations at the Heian Imperial Palace sites (also referred to as the "Heiankyō 平安宮" established 794 A.D.), located in Kyoto, Japan (See Fig.194 for the location). This report contains all of the data on the archaeological investigations and trial trenching at the Heian Imperial Palace sites carried out by the Kyoto City Archaeological Research Institute (hereafter KARI) from 1976 subsequent to the foundation of KARI. Due to the destructive nature of modern construction methods it is a precondition to any construction done in known archaeologically significant sites that an archaeological impact study be carried out prior to construction. This archaeological fieldwork uncovered parts of the remains of the Heian Period buildings and corridors, such as the State Halls Compound (*Chōdōin* 朝堂院), the Emperor's Banquet Halls Compound (*Burakuin* 豊楽院), the Imperial Residence (*Dairi* 内裏) and other government office sites. The results of these excavations clarified the location and placement of buildings in the palace and added practical information to the historical literature.

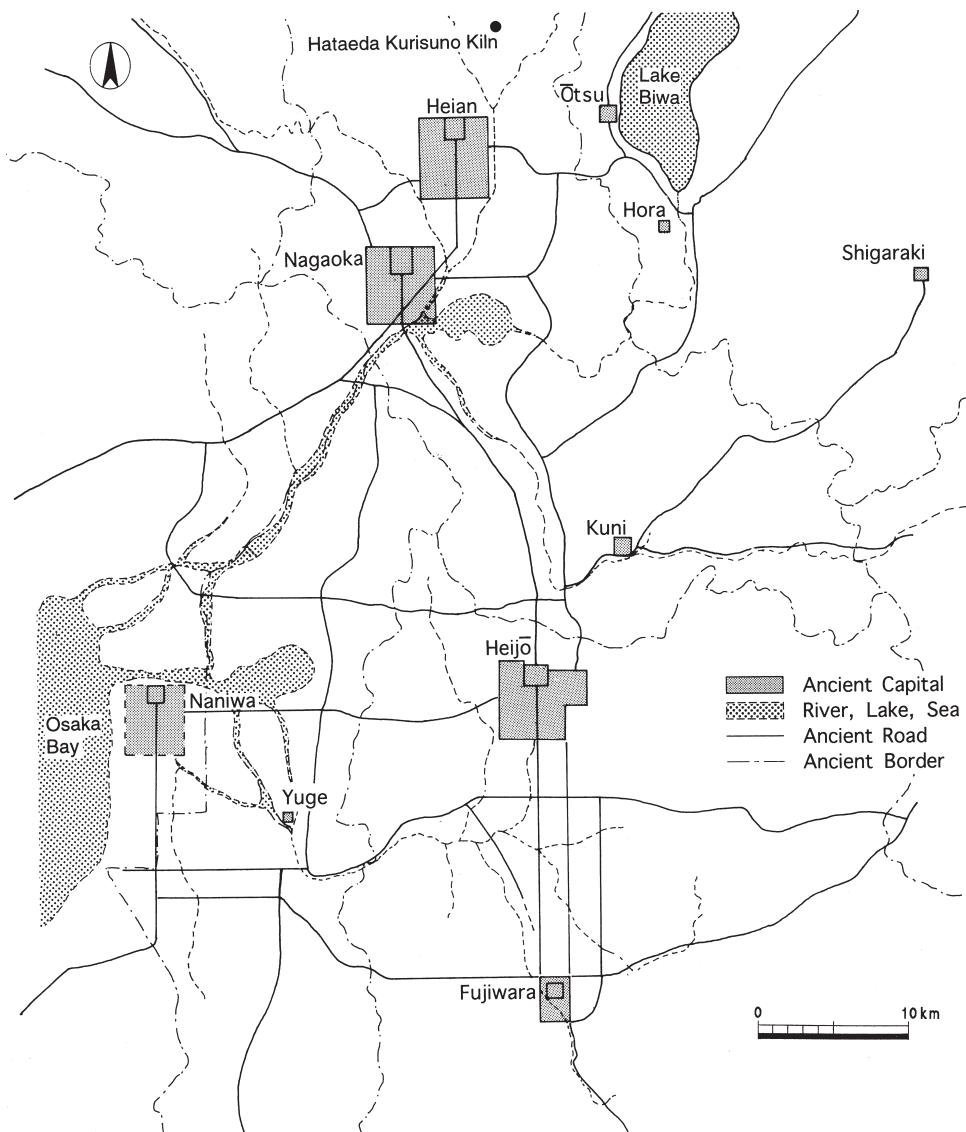


Fig. 194 Location of Heian Capital (1:500,000)

History of Research

Although there was awareness that archaeological sites and artifacts were indispensable to the study of the ancient Heian Imperial Palace, truly significant archaeological excavation at the Heian Imperial Palace began only after 1957.

In the later decades of the eighteenth century, *Uramatsu Kozen* 裏松固禪, an aristocrat-priest, wrote the book "Daidairizu Kōshō 大内裏圖考證¹". In that publication he drew a map of the Heian Imperial Palace based on his study of imperial protocol and ceremony. His contribution became the basis for later research into the Heian Imperial Palace site.

In the Meiji era, the book "*Heian Tsūshi* 平安通志²" was published commemorating the 1100th anniversary of the Heian capital. In this publication the ancient Heian Imperial Palace map, one based on historical literature, not on archaeological excavation, was superimposed on the Meiji era survey map.

In 1928, a foundation platform and some roof-tiles thought to be part of the Emperor's Banquet Halls Compound were discovered. In those days, the collection of artifacts, in particular roof-tiles, was taken very seriously. At that time, *Kimura Shōzaburō* 木村捷三郎, a university student studying historical literature "*Engishiki* 延喜式", demonstrated that roof-tiles discovered at the Heian Imperial Palace site had been made at "*Hataeda Kurisuno Kiln* 幡枝栗栖野瓦窯³" (See Fig.194 for the location). In his work, he conclusively proved that the *Hataeda Kurisuno* Kiln for firing roof-tiles was the official state-sponsored kiln.

In 1931, an English aristocrat, Ponsonby Fane, LL.D. wrote a book entitled "KYOTO. Its History and Vicissitudes"⁴. In that publication, he gave a very detailed explanation of Kyoto's history in English.

In 1957, the Paleological Association of Japan began archaeological excavations at the Heian Imperial Palace site investigating areas such as the Imperial Audience Hall, the State Halls and the Imperial Residence. These investigations, in 1969, discovered part of a corridor belonging to the Imperial Residence. This corridor became the center point for reconstruction of the Heian Imperial Palace.

Then *Sugiyama Nobuzō* 杉山信三, a university professor, made calculated measurements of the Heian capital, based on data from archaeological excavation⁵. After his study, reconstruction of the Heian capital could be accomplished with more accuracy than was previously possible.

Archaeological excavations continued on an unscheduled and infrequent basis by the Paleological Association and Kyoto City Cultural Property Protection. Out of this situation, in 1976, KARI was founded for organized research and systematic archaeological study.

In 1994, the book "*Heiankyō Teiyō* 平安京提要⁶" was published as one of the projects to celebrate the 1200th anniversary of the Heian capital.

-
1. URAMATSU's work has been reprinted and published in: 1952, 1993, *Kojitsusōsho* 26 ~ 28, Meijitosho Co., Tokyo.
 2. YUMOTO Fumihiko. 1895. *Heian Tsūshi* has been reprinted and published in: 1977, Shinjinbutsuōraisha Co., Tokyo.
 3. KIMURA Shōzaburō. 1930. "Yamashiro Hataeda Hakken no Gayōshi, Engishiki ni Mietaru Kurisunokawaraya." *Shirin*, Vol. 15-4, Shigaku Kenkyūkai, Kyoto.
 4. R. A. B. PONSONBY FANE, LL. D. 1931. *KYOTO. Its History and Vicissitudes since its Foundation in 792 to 1868*. Rumford Printing Press, Hong Kong.
 5. SUGIYAMA Nobuzō. 1964. "Heiankyō no Zōeishaku ni Tsuite." *Shiseki to Bijutsu*, Vol. 34-2, Shisekibijutsu Dōkōkai, Kyoto.
 6. The Japan Institute of Paleological Studies. 1994. *Heiankyō Teiyō* [Companion to the Capital-City Heian Urbs Aeterna Japonica]. Kadokawa Co., Tokyo.

Outlines of the Heian Imperial Palace

According to the "*Engishiki*", the width of the Palace was 384jō ⁷ (1.146km) from east to west, and 460jō (1.373km) from north to south. The site was enclosed by a roofed earthen wall with 14 gates.

As we have shown on the Map of the Heian Imperial Palace in Fig. 195, the Imperial Residence was located northeast from the center of the Palace. The Imperial Household Offices were placed around the Imperial Residence. The Headquarters of the Imperial Guards (*Konoefu* 近衛府) and the Headquarters of the Military Guards (*Hyōefu* 兵衛府) were arranged at the east and west side of the Palace. The storehouses under the jurisdiction of the Ministry of the Imperial Treasury (*Ōkurashō* 大藏省) were located at the north part of the palace. Southwest from the center of the Palace, the State Halls Compound and the Emperor's Banquet Halls Compound were located. Southeast of the Palace, administrative organs such as the Supreme Council of Administration (*Daijōkan* 太政官), the Ministry of Imperial Affairs (*Nakatsukasashō* 中務省) and the Ministry of Financial Affairs (*Minbushō* 民部省), were concentrated ; this was the political operation center. The government offices concerned with the rule of law were placed at the southwest part of the Palace, including the Ministry of War (*Hyōbushō* 兵部省), the Board of Censors (*Danjōdai* 弹正台) and the Ministry of Punishments (*Gyōbushō* 刑部省).

As above, the placement of Government Offices was arranged by design to suit each function.

Outlines of Investigations

1. State Halls Compound (*Chōdōin* 朝堂院)

We divided the area, from north to south, into the Imperial Audience Halls Compound (*Daigokuden'in* 大極殿院), the State Halls Compound (*Chōdōiki* 朝堂域) and the Imperial Assembly Halls Compound (*Chōshūdōiki* 朝集堂域).

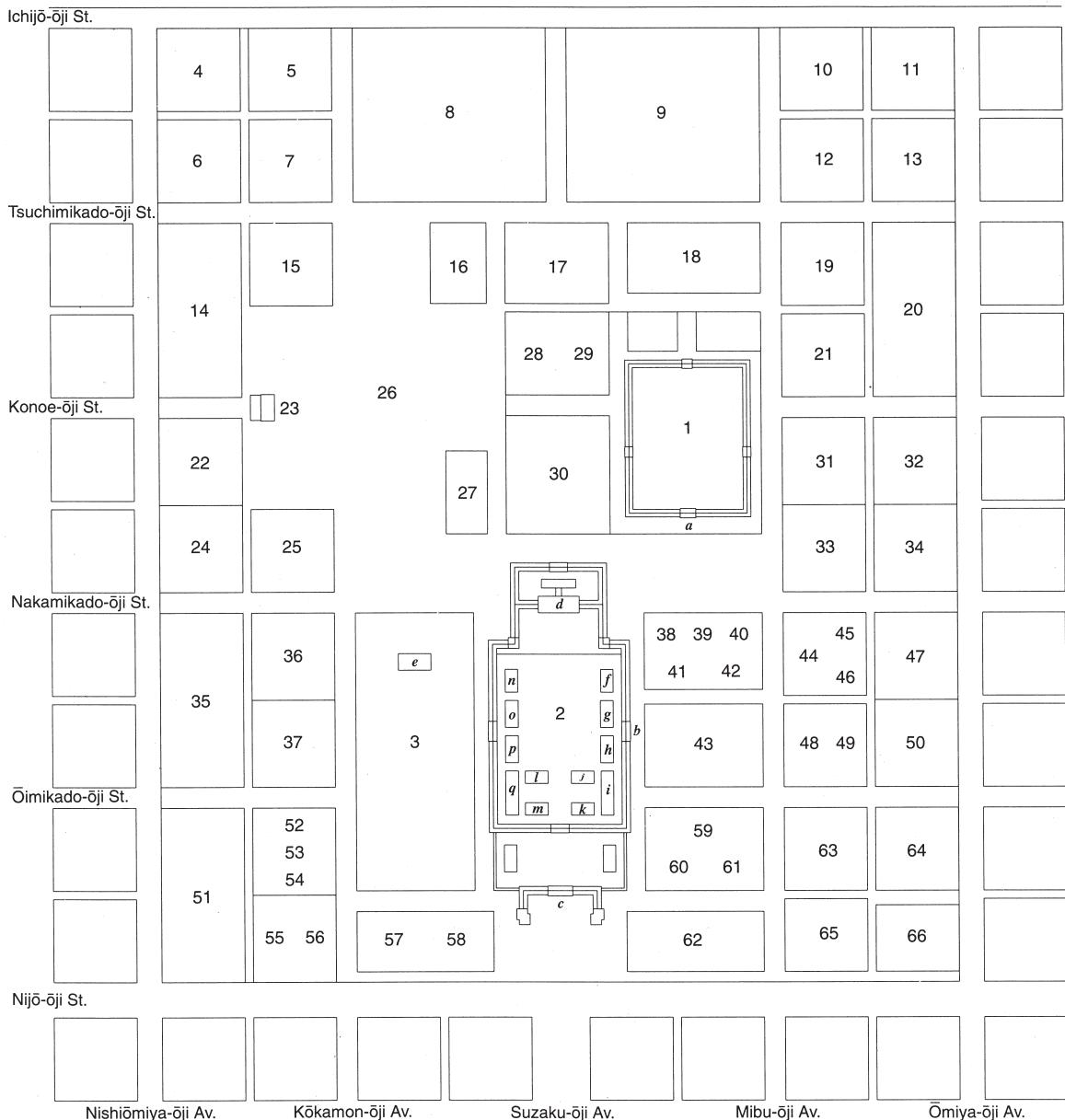
In the Imperial Audience Halls Compound, we discovered the south edge of the Main Hall (*Daigokuden* 大極殿), the north side corridor of the compound and the eastern roofed passage between the Main Hall and corridor. We believe that the remains of the edge of the foundation platform are part of the central stairs. In the north side corridor, we discovered the north and south edges of the foundation platform. Especially in the north edge, hewn stones such as *nobeishi*, *jifukuishi*, *hameishi*, and *tsukaishi* remain. Its structural formula was that of *Danjōzumi Kidan* (a foundation platform faced with hewn stones made of tuff). The width of this corridor was determined to be 12m (4jō). In the eastern roofed passage between the Main Hall and corridor we discovered the remains of hewn stones made of tuff. The width of this passage was also seen to be 12m (4jō). Based on our determinations regarding this passage, we located the north-south center point of the Main Hall.

In the State Halls Compound, we discovered the rain gutter around the northeast corner of the corridor and the *Senseimon* (East Gate). There were 12 buildings, and we discovered the foundation platforms of some of them, such as the *Shōkōdo*, *Myōraidō*, *Kishōdō* and *Shushikidō*. Their remains are not in good condition, just traces of foundation stones. But these give a good indication of how to arrange reconstruction of the 12 buildings.

In the Imperial Assembly Halls Compound, we discovered a feature covered with pebbles. We supposed that it is part of the *Otemon* (Main Gate) and its west corridor.

We didn't find any artifacts belonging to the early and middle Heian Period (*ca. 794 ~ 1050 A.D.*). Therefore we suppose that the buildings were repaired in the late Heian Period.

7. A unit of length in premodern Japan. During the Heian Period, one *jō* (丈) equaled 2.985m.



- | | | |
|---|--------------|-------------|
| a. Jōmeimon | b. Senseimon | c. Ōtenmon |
| d. Daigokuden Main Hall of Imperial Audience Halls Compound | | |
| e. Burakuden Main Hall of Emperor's Banquet Halls Compound | | |
| f. Shōfukudo | g. Ganshōdō | h. Shōkōdō |
| i. Myōraidō | j. Kishōdō | k. Kōrakudō |
| l. Shushikidō | m. Enēdō | n. Enkyūdō |
| o. Gankadō | p. Kenshōdō | q. Enrokudō |

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1. Dairi | Imperial Residence |
| 2. Chōdōin | State Halls Compound |
| 3. Burakuin | Emperor's Banquet Halls Compound |
| 4. Urushimuro / Urushiya | Workshop for Lacquer Ware |
| 5. Hyōgoryō / Tsuwamononokuranotsukasa | Bureau of Weaponry |
| 6. Ōkiminotsukasa / Ōkintachinotsukasa | Imperial Registry Office |
| 7. Ōkurachō | Agency of Imperial Treasury |
| 8. Ōkurashō | Ministry of Imperial Treasury |
| 9. Ōkurashō | Ministry of Imperial Treasury |

Fig. 195 Map of the Heian imperial Palace

10. <i>Tonomoryō / Tonomorinotsukasa</i>	Bureau of Palace Maintenance
11. <i>Cha'en</i>	Tea Plantation
12. <i>Ōtonoi</i>	Office of Palace Guards
13. <i>Naikyōbō</i>	Instruction in Music and Dance
14. <i>Ukonoefu</i>	Headquarters of the Imperial Guards
15. <i>Zushoryō / Fuminotsukasa</i>	Bureau of Sutra Scripts and Books
16. <i>Kamonyō / Kanmorinotsukasa</i>	Bureau of Housekeeping
17. <i>Kuraryō / Uchinokuranotsukasa</i>	Palace Storehouse Bureau
18. <i>Nuidonoryō / Nuidononotsukasa</i>	Bureau of Palace Sewers
19. <i>Nashimoto</i>	Extra Imperial Residence
20. <i>Sakonoefu</i>	Headquarters of the Imperial Guards
21. <i>Shikinomizōshi</i>	Office of the Empress's Household
22. <i>Uhyōefu</i>	Headquarters of the Military Guards
23. <i>Butokuden / Mumakidono</i>	Main Hall of Imperial Riding Grounds
24. <i>Takumiryō / Uchinotakuminotsukasa</i>	Bureau of Skilled Artisans
25. <i>Mikinotsukasa / Zōshushi / Sakenotsukasa</i>	Office in Charge of Rice Wines and Vinegars
26. <i>En'nomatsubara</i>	Vacant Lot
27. <i>Shingon'in</i>	Esoteric Buddhism Ceremony Hall
28. <i>Naizenshi</i>	Imperial Table Office
29. <i>Unememachi</i>	Office of the Palace Ladies-in-Waiting
30. <i>Chūkain</i>	Emperor's Ritual Halls Compound
31. <i>Jijūdokoro</i>	Office of the Court Chamberlain
32. <i>Sahyōefu</i>	Headquarters of the Military Guards
33. <i>Saigain</i>	Prince's Residence (west)
34. <i>Tōgain</i>	Prince's Residence (east)
35. <i>Sameryō / Samaryō</i>	Imperial Stable Bureau
36. <i>Ten'yakuryō / Kusurinotsukasa</i>	Bureau of Medicine
37. <i>Oi / Mi'i</i>	Emperor's Well
38. <i>Udoneri / Uchitoneri</i>	Court Attendants
39. <i>Kenmotsu / Oroshimononotsukasa</i>	Overseer of the Keeper of the Keys and Seals
40. <i>Reiyaku</i>	Keeper of the Keys and Seals
41. <i>Nakatsukashō / Nakanomatsurigotonotsukasa</i>	Ministry of Imperial Affairs
42. <i>Onmyōryō / Onyōnotsukasa</i>	Bureau of Astronomy, Calendars and Divination
43. <i>Daijōkan / Ōimatsurigotonotsukasa</i>	Supreme Council of Administration
44. <i>Sai'in</i>	Western Building
45. <i>Shusuishi / Mondonotsukasa / Mohitorinotsukasa</i>	Office in Charge of Water, Rice, Gruel and Ice
46. <i>Shōshi</i>	Office in Charge of Soy Sauce and Miso
47. <i>Daizenshiki / Ōkashiwadenotsukasa</i>	Imperial Food Service
48. <i>Sonokarakami</i>	Sonokarakami Jinja Shrine
49. <i>Kunaishō / Miyanouchinotsukasa</i>	Ministry of Imperial Household
50. <i>Ōiryō / Ōinotsukasa</i>	Bureau of Grain Stores and the Management of Foodstuffs for all the Officers
51. <i>Umeryō</i>	Imperial Stable Bureau
52. <i>Jibushō / Osamurutsukasa</i>	Ministry of Ceremonial and Foreign Affairs
53. <i>Genbaryō / Höshimarahitonotsukasa</i>	Bureau in Charge of All Foreign Affairs, especially Concerning Buddhism
54. <i>Gyōbushō / Uttaenotsukasa</i>	Ministry of Punishments
55. <i>Shoryōryō / Misasaginotsukasa</i>	Bureau of Imperial Tombs
56. <i>Hanji</i>	Judge
57. <i>Danjōdai / Tadasunotsukasa</i>	Board of Censors
58. <i>Hyōbushō / Tsuwamononotsukasa</i>	Ministry of War
59. <i>Minbushō / Taminotsukasa</i>	Ministry of Financial Affairs
60. <i>Shuzeiryō / Chikaranotsukasa</i>	Tax Bureau
61. <i>Shukeiryō / Kazofurutsukasa</i>	Bureau of Computation
62. <i>Shikibushō / Norinotsukasa</i>	Ministry of Personnel Affairs
63. <i>Rin'in</i>	Storehouse of Rice under Tribute
64. <i>Jingikan / Kamitsukasa</i>	Commissioner of Religion
65. <i>Jijūnokuriya</i>	Food Service for Office of Court Chamberlain
66. <i>Gagakuryō / Utamainotsukasa</i>	Bureau of Court Music

2. Emperor's Banquet Halls Compound (*Burakuin* 豊楽院)

We discovered the foundation platform of the Main Hall, roofed passage leading to Rear Hall, the *Seishodō* (Rear Hall), *Seikarō* and the east side earthen wall.

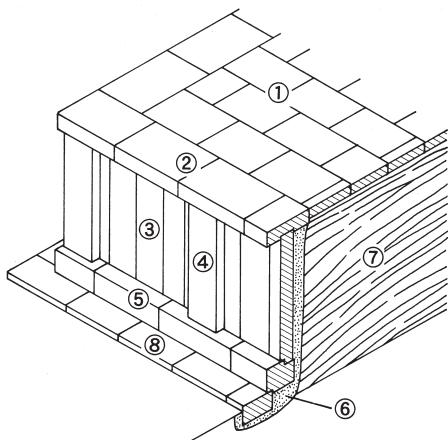
The foundation platform of the Main Hall (*Burakuden* 豊楽殿) has survived in very good condition as we had expected. Its structural formula was that of the *Danjōzumi Kidan* (See Fig. 196 left) with tuff. Also we discovered the remains of pillar base stones. Deciding the size of the foundation platform enabled us to fix the center line of the Emperor's Banquet Halls Compound: we clarified that the width of the compound was 57 $jō$, with its center line located 69 $jō$ west of the center line of the Heian Palace. Also we clarified that at the north side of the Main Hall there were first stairs, but later this was changed to a passage leading to the *Seishodō* (Rear Hall). Judging from the pottery discovered here, this occurred in the middle of the Heian Period.

The remains of the northwest part of the Main Hall are very well-preserved, so our fieldwork led the government to purchase the excavated areas and register them as a "Historical Site". It is very significant that the remains of typical buildings of the Heian Imperial Palace were thus protected.

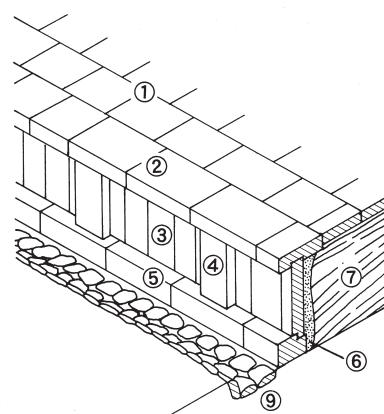
3. Imperial Residence (Dairi 内裏)

We discovered the remains of part of the *Naikaku Kairō* (Auxilliary Corridor with earthen wall on the center), the *Jōmeimon* (Main Gate), the *Tōkaden* (Empress's Residence), and the *Kurōdomachiya* (Bureau of Archivists).

We clarified the platform foundation stones and rain gutter on the west side of the corridor. The construction of the platforms, such as *hameishi*, *tsukaishi*, *jifukuishi* made of tuff, was revealed (See Fig. 196 right). Alongside and below the platform foundation stone, rain gutters made of river beach stones have been found in very good condition. On the east side of the corridor, we also found platform foundation stones. According to those results, we determined that the width of the inside of the Imperial Residence was less than 57 $jō$.



Emperor's Banquet Hall



Corridor of Imperial Residence

- ① *Sen*
- ② *Katsuraishi*
- ③ *Hameishi*
- ④ *Tsukaishi*
- ⑤ *Jifukuishi*
- ⑥ *Uragometsuchi*
- ⑦ *Hanchiku*
- ⑧ *Nobeishi*
- ⑨ *Amaochimizo*

- Tile
- Capstones for the hewn stones facing on a foundation platform
- Large hewn flagstones used in facing a foundation platform
- Main uprights in the stone facing of a foundation platform
- Platform foundation stone
- Earthen lining
- Rammed earth
- Foundation stones for the hewn stone facing on a foundation platform
- Rain gutter

Fig. 196 Kidan (Foundation Platform); Illustration

The discovery of the *Jōmeimon* (Main Gate) is very important for the reconstruction of the Imperial Residence. On north side of that gate, we found the buried remains of materials which were used for the purification of building sites, in different periods. These materials had been buried in a line running south to north, out of concern, we suppose, for the center of the gate. In one spot we found some materials called *Rinpō* and *Ketsu*, tools used in the practice of esoteric Buddhism. We recognize that they were buried in 1071 A.D. We also found some parts of a rain gutter in good condition inside the Imperial Residence. These plans were corrected in Fig. 63. East of the *Tōkaden*, we found a large pit with a lot of pottery, roof-tiles, tuff and earthen wall which had all been burned. We supposed that these artifacts were the result of the big fire on the 23rd day of the seventh month of 960 A.D. (lunar calendar).

The west side of the Imperial Residence had a Ritual Hall (*Chūkain* 中和院). In the center of that area, we found the pounding of an earthen foundation running east to west more than 40m. We believe that it was made for the Main Hall (*Shinkaden* 神嘉殿) of the *Chūkain*.

4. Other Government Offices (その他諸官衙)

The placement and scale of the Supreme Council of Administration, the Ministry of Imperial Affairs, the Ministry of Financial Affairs and the Office in Charge of Rice Wines and Vinegars (*Mikinotsukasa* 造酒司) are becoming clear.

Regarding the Supreme Council of Administration and the Ministry of Imperial Affairs, we have assembled the results of our research, which has been conducted on a small scale over a long period of time. We discovered an earthen wall which enclosed the site, gutters, a road, and another earthen wall which divided the interior, as well as some ditches⁸ and ruins of buildings. We have shown proposed reconstructions of each site. The width of each site from east to west was about 57 *jō*. On the "Kyūjōzu 宮城図" (Map of the Heian Imperial Palace curate in the "Yōmeibunko 陽明文庫" manuscript, 1319 A.D.) we can find one notation where "over 56 *jō*" was written. This numerical value is extremely close to our practical number.

In the Ministry of Financial Affairs we discovered the southwestern corner and clarified the earthen wall which divided the southern and western sides of the site. Since this is the only investigative research to have discovered the corner of the earthen wall of this government office site, it is a very significant find.

In the Office in Charge of Rice Wines and Vinegars we have investigated one of the most spacious areas in one government office site. We discovered both inside and outside gutters of an earthen wall which enclosed the site except for the north side. Within the site we have determined the placement of buildings which we supposed to be storehouses, *hottatebashira tatemono* (buildings with pillars embedded directly into the ground), palisades, ditches, and pits. Most of these features indicate Early Heian Period (ca. 794~850 A.D.).

Regarding the other government offices, we have divided them into four parts: the Central, Northern, Eastern, and Western government offices.

It is worthy of special mention that, in the Central part, we have discovered the south side of the earthen wall of the Palace Storehouse Bureau (*Kuraryō* 内藏寮).

By contrast, in the Northern part, where we conducted few investigations, we have not achieved any remarkable results.

In the Eastern part, as expected, between the Headquarters of the Military Guards (*Sahyōefu* 左兵衛府) and the Office of the Court Chamberlain (*Jijūdokoro* 侍従所) we discovered features which suggested a road; also as

8. The translator has distinguished between the terms "gutter" and "ditch" as follows.

"Gutter" refers to water drainage for walls which are used to divide up the site.

"Ditch" refers to all other water drainage features.

anticipated, between the Imperial Food Service (*Daizenshiki* 大膳職) and the Bureau of Grain Stores Management of Foodstuffs for all the Officers (*Oiryō* 大炊寮) we discovered gutters on the south side of the earthen wall. These remains match up with what one finds on the "*Kyūjōzu*" map.

In the Western part, we discovered the gutter which corresponds to the outside gutter of the western boundary of the Heian Imperial Palace, and we clarified its transition.

In Conclusion

Most of the research reported on above was carried out in an urban setting crowded with houses. Moreover, since many portions of the Heian Imperial Palace site excavation were damaged or destroyed during historically unstable periods, these research results necessarily derive from a very limited physical area with respect to the whole of the Heian Imperial Palace. As we have described, there are also places where the site is well-preserved. We have categorized these and mapped them out in Fig. 136 and, at the same time, have shown the changes which occurred in each period in Fig. 137 through 139.

We have determined the placement of the State Halls Compound, Emperor's Banquet Halls Compound, and Imperial Residence and have also deeply considered which locations would be used for main facilities and other government offices, judging these by geographic character. As mentioned above in chapter 2, the palace and government offices utilized the topography of the land very effectively.

Knowledge about the Heian Imperial Palace site has been conveyed through illustrations in the "*Yōmeibunko*" and, in the Edo Period, through the publication of the "*Daidairizu Kōshō*", which contains numerous relevant materials. As a result of the availability of these sources, archaeological research about the site has been neglected until the present study. Nevertheless, an accurate depiction of the palace requires that archaeological expertise be used to solve problems and reveal facts. The results of this research should be widely disseminated in society. This report has been published with these considerations in mind.